博士論文
（国際開発学）

世帯内意思決定への女性の関わり方
～ナイジェリア北部ハウサ社会を事例として～

Women's Participation in Intra-household decision making:
The case of Hausa in Northern Nigeria

甲斐田　きよみ
（501001018）

名古屋大学大学院
国際開発研究科

審査委員会

山田肖子　准教授

藤川清史　教授

伊東早苗　教授

西川芳昭　教授（龍谷大学経済学部）

研究科教授会合格決定
2013 年 10 月 16 日

謝辞

本論文は名古屋大学大学院国際開発研究科の博士論文として提出するものです。本研究においては、多くの方にご指導・ご助言を頂き、また調査にご協力頂いて論文を完成することが出来ました。

まず、博士後期課程入学以来、終始ご指導頂きました、指導教官である西川芳昭教授（現・龍谷大学経済学部教授）には、論文指導から開発に対する姿勢等、多くのことを学ばせて頂き心より感謝いたします。山田肖子准教授には、副査として、また2013年4月以降は主査としてご指導頂き、本論文をご精読頂き有益なご指摘を頂きました。深く感謝申し上げます。副査としてご指導頂いた同研究科の伊東早苗教授からも、3年半にわたり多くの有益なご指摘を頂き深く感謝申し上げます。また、同研究科の藤川清史教授には、2013年4月から副査をお引き受け下さり、本論文へのコメントを頂き深謝いたします。

ナイジェリアでの現地調査に関しては、多くの方々にお世話になりました。まず、調査に協力して頂いた34世帯の夫妻に感謝いたします。世帯内の問題や収入について等、プライベートに立ち入る質問が多いにも関わらず、調査に協力して頂きました。また、調査対象地のカノ州クンボッソ行政区パンシェカラ女性センター校長の Ms. Hadiza Ja'afar、副校長の Ms. Lubabatu Mohammad、また同センターの講師の方々は、忙しい中で調査対象者へのアポイントメントや調査票の回収、戸別訪問への同行など便宜を図って頂き、コミュニティとの摩擦もなく調査を実施することが出来ました。カノ州女性課題社会開発省女性局の Ms. Maimuna Sani,および Ms.Unma Mohammad は、カノ州での現地調査の安全と各関係機関への連絡調整に尽力頂き、調査票の翻訳、調査結果に対して有益なコメントを頂きました。彼女たちとの議論から貴重なヒントを得ることが出来ました。この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

ジェンダーと開発の課題に関して、国際協力機構の田中由美子国際協力専門員をはじめ、GAD研究会の皆様には学会発表準備に際し貴重なコメントを頂き感謝申し上げます。また国際基督教大学の高松香奈准教授には本論文の一部である投稿論文を精読頂き有益なご指摘を頂き感謝申し上げます。ハウサの研究に関しては、関西外国語大学の近藤英俊准教授からは本論文の一部である投稿論文に有益なご指摘を頂き深謝いたします。また名古屋大学大学院文学研究科の梅津綾子さんからはハウサの文献をご教示頂き感謝いたします。

本論文の現地調査には名古屋大学学術奨励賞の資金を活用させて頂きました。深く感謝いたします。また、名古屋大学大学院国際開発研究科農村開発プログラムのゼミの皆さまにも感謝いたします。

最後に、博士課程での学生生活を応援してくれた家族と友人達に感謝の意を表します。

2013年9月
甲斐田きよみ

目次

謝辞
目次
略語一覧
図表一覧

第 1 部　序論と先行研究

第 1 章　序論 1
1-1　研究の背景 1
1-2　研究の目的 9
1-3　研究の意義 12
1-4　研究の方法 12
1-5　事例の選定理由 14
1-6　本論文の構成 15

第 2 章　開発における世帯とジェンダー格差 18
2-1　世帯は開発の単位か 18
  2-1-1　世帯の概念 18
  2-1-2　アフリカの世帯 19
  2-1-3　開発における世帯の捉え方 20
  2-1-4　開発援助機関の世帯内ジェンダー格差への視点 22
2-2　ジェンダーと開発アプローチ 24
  2-2-1　ジェンダー役割と力関係 24
  2-2-2　WID と GAD アプローチの変遷 26
2-3　女性の経済力向上への取り組み 31
  2-3-1　女性の所得創出プロジェクトの背景と変遷 31
  2-3-2　女性の所得創出プロジェクトの課題 31
  2-3-3　世帯内の所得管理と意思決定 33

第 3 章　世帯内資源分配をめぐる意思決定 37
3-1　資源とは何か 37
  3-1-1　資源の捉え方 37
  3-1-2　資源の分配と配分 39
3-2　世帯内の資源分配 40
  3-2-1　単一家計モデル 40

3-2-2　集合的モデル.. 42
3-2-3　協力的対立モデル... 43
3-3　世帯内意思決定の交渉力の要素 45
3-3-1　決別点の高さ 45
3-3-2　世帯への貢献認識の高さ 46
3-3-3　自己利益への認識の高さ 46
3-4　ジェンダー役割の認識 47
3-5　世帯内意思決定プロセス... 50
3-6　世帯内意思決定の分析枠組み.. 53

第 2 部：事例研究

第 4 章　調査手法と対象地の概要 55
4-1　調査手法 55
4-1-1　調査手法の概要 55
4-1-2　調査概要.. 56
4-1-3　データ収集 58
4-1-4　データ分析 63
4-2　対象地の概要 66
4-2-1　ナイジェリア北部の概要 66
4-2-2　ハウサ社会の概要... 72
4-3　調査対象地・調査対象者の特徴 83
4-3-1　調査対象地の特徴... 83
4-3-2　調査対象者の特徴... 85
4-4　本研究の分析項目 92
第 5 章　女性の収入獲得と世帯内意思決定 99
5-1　女性の経済活動の状況 100
5-1-1　女性に相応しい経済活動の種類と形態 100
5-1-2　女性の経済活動の実態... 100
5-1-3　女性の経済活動拡大を阻む要因.. 103
5-2　女性の収入用途.. 105
5-2-1　女性が収入を得たい理由 105
5-2-2　女性の収入用途 105
5-3　夫と妻の収入額と世帯ニーズ支出額 106
5-3-1　食料・日用品の価格と 1 世帯の購入量...................................... 107
5-3-2　収入額と世帯ニーズ額の傾向 108
5-3-3　夫の収入額・世帯ニーズ支出額と妻の経済活動参加 109

5-4　世帯内役割をめぐる認識 110
　5-4-1　世帯ニーズ供給役割の担い手 110
　5-4-2　妻の経済力が夫を上回ることへの反応 111
　5-4-3　良き妻・良き夫 112
5-5　世帯ニーズ充足と女性が望む状況 113
　5-5-1　妻の世帯ニーズ肩代わりと夫の返金 113
　5-5-2　世帯ニーズの充足 114
　5-5-3　女性が望む状況 116
5-6　本章のまとめ 117

第 6 章　話し合いの様態と世帯内意思決定 119
6-1　世帯の構成と資源のやりとり 119
　6-1-1　世帯構成と世帯の生産・消費活動 119
　6-1-2　資源のやり取り 121
　6-1-3　世帯内の資源 124
6-2　世帯内意思決定 125
　6-2-1　話し合いの話題と分配・獲得する資源 125
　6-2-2　資源獲得のための妻のアプローチ 136
　6-2-3　夫妻の話し合う環境に影響する夫の対応 143
6-3　夫妻間の話し合いと背景の特徴 147
6-4　本章のまとめ 152
　6-4-1　結果のまとめ 152
　6-4-2　考察 154

第 7 章　女性の特徴と世帯内意思決定 157
7-1　世帯内の交渉力の要因 157
　7-1-1　妻の決別点の高さ 160
　7-1-2　妻の世帯への貢献認識の高さ 167
　7-1-3　妻の自己利益への認識の高さ 168
　7-1-4　夫の交渉力の高さ 170
　7-1-5　ジェンダー規範の変化の受容度 173
7-2　夫妻ごとの交渉力向上の要素 180
7-3　本章のまとめ 192
　7-3-1　結果のまとめ 192
　7-3-2　考察 192

第 3 部　結論

第 8 章　結論 194
8-1　結果のまとめ 195
8-2　本研究の総括 201
8-3　政策的含意 204

参考文献 207

調査対象地地図

添付資料

１．妻の調査記録 .... 添付 1
２．夫の調査記録 .... 添付 67
３．キーインフォーマントの調査記録 .... 添付 102

略語一覧

略語	正式名称	日本語訳
BLP	Better Life for Rural Women Programme	ベターライフプログラム
CIDA	Canadian International Development Agency	カナダ国際開発庁
DFID	Department for International Development	英国国際開発省
DHS	Demographic Health Survey	人口保健調査
FCT	Federal Capital Territory	連邦首都領域
FGD	Focus Group Discussion	フォーカスグループディスカッション
FSP	Family Support Programme	ファミリーサポートプログラム
GAD	Gender and Development	ジェンダーと開発
GDI	Gender Development Index	ジェンダー開発指数
GEM	Gender Empowerment Measure	ジェンダーエンパワーメント測定
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
NCWD	National Centre for Women Development	国立女性開発センター
NDHS	Nigeria Demographic Health Survey	ナイジェリア人口保健調査
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNICEF	United Nations Children’s Fund	国連児童基金
WDC	Women Development Centre	女性センター
WID	Women in Development	開発と女性

図表一覧

第 1 章
表 1-1 ....既婚女性が認識する世帯内の意思決定者
表 1-2 ....世帯内資源分配の先行研究
表 1-3 ....世帯内の女性の交渉力向上の要素と資源分配の結果に関する先行研究
表 1-4 ....本論文の構成
図 1-1 ....研究課題と 3 つの副課題

第 2 章
表 2-1 ....開発と女性アプローチの変遷
表 2-2 ....妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者
表 2-3 ....妻が認識する世帯内の意思決定者
表 2-4 ....妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者（西アフリカ）
表 2-5 ....妻が認識する世帯内の意思決定者（西アフリカ）

第 3 章
図 3-1 ....ヘルスケアを夫から獲得するための妻の行動
図 3-2 ....世帯内意思決定の分析枠組み

第 4 章
表 4-1 ....調査対象者と調査方法
表 4-2 ....女性に対する主な質問項目
表 4-3 ....男性に対する主な質問項目
表 4-4 ....キーインフォーマント（K1-K2）への主な質問項目
表 4-5 ....キーインフォーマント（K3-K9）への主な質問項目
表 4-6 ....事例―コード・マトリックスの例（類似したコード間の比較）
表 4-7 ....事例―コード・マトリックスの例（夫妻の回答の比較）
表 4-8 ....ナイジェリア 6 政治的地理区分ごとのジェンダー格差
表 4-9 ....ナイジェリア北西部のハウサが多い州のジェンダー格差
表 4-10........ナイジェリア北西部のハウサが多い州の GEM の構成要素
表 4-11........ナイジェリア北西部のハウサが多い州の GDI の構成要素
表 4-12........ナイジェリア・北部カノ州における女性の地位向上に関わる取り組みの変遷
表 4-13........ナイジェリア北部の世帯の状況
表 4-14........ナイジェリア北部の夫婦の年齢差
表 4-15........ナイジェリア北部の女性の状況の変遷

表 4-16........ナイジェリア北部の女性の教育の状況
表 4-17........カノ州の女性・男性の教育の状況
表 4-18........ナイジェリア北部の女性のヘルスケアに関する状況の変遷
表 4-19........妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者
表 4-20........妻が認識する妻の世帯内意思決定への参加
表 4-21........夫が認識する妻の世帯内意思決定への参加
表 4-22........本研究の調査対象者の特徴
表 4-23........調査対象者のプロフィール
表 4-24........キーインフォーマントのプロフィール
表 4-25........調査対象者（妻）のプロフィール
表 4-26........協力的対立モデルによる分析項目
表 4-27........世帯内意思決定への妻の参加と妻の特性（ナイジェリア）
表 4-28........夫が認識する妻の世帯内意思決定への参加（ナイジェリア）
表 4-29........世帯内の意思決定と妻の経済的特性（ナイジェリア）
表 4-30........夫の認識する妻の世帯内意思決定と夫の経済的特性（ナイジェリア）
図 4-1 ....ナイジェリア地図
図 4-2 ....夫妻の年齢
図 4-3 ....夫妻の年齢差
図 4-4 ....結婚時の妻の年齢
図 4-5 ....妻の年齢と子どもの数
図 4-6 ....夫妻の教育レベル
図 4-7 ....夫の職業
図 4-8 ....世帯内意思決定の分析枠組み

第 5 章

表 5-1 ....女性に相応しいとされる経済活動の種類と形態
表 5-2 ....P 地区の既婚女性の 1 日の活動例
表 5-3 ....カノ州での食料品・日用品の価格
表 5-4 ....世帯が 1 か月分購入する食材
表 5-5 ....夫の収入・世帯ニーズ支出額と妻の収入
表 5-6 ....世帯共有物の管理の方法
図 5-1 ....1 カ月の夫の世帯ニーズ支出額と妻の収入
図 5-2 ....世帯ニーズは誰が担うべきか？
図 5-3 ....妻の収入が夫の収入を上回ることをどう思うか？
図 5-4 ....世帯ニーズ充足の 3 パターン

第 6 章

表 6-1 ....世帯内でやりとりされる資源

表 6-2 ....分配される資源と妻が獲得しうる資源

表 6-3 ....夫妻の日常の話し合い

表 6-4 ....妻と話し合う夫への対応

表 6-5 ....他者に相談する夫への対応

表 6-6 ....妻と話し合わない夫への対応

表 6-7 ....話し合いアプローチ別の夫妻の対応事例

図 6-1 ....夫妻間の資源のやりとり

図 6-2 ....親子間の資源のやりとり

図 6-3 ....両親・親戚との資源のやりとり

図 6-4 ....夫と意見の相違がある際の妻の対応

図 6-5 ....夫との話し合う内容による妻の対応の相違

図 6-6 ....話し合う内容によるアプローチ

図 6-7 ....妻の夫へのアプローチ

第 7 章

表 7-1 ....交渉力向上の具体的要素

表 7-2 ....世帯内での地位に関する項目の各アプローチの状況

表 7-3 ....妻の教育レベル

表 7-4 ....妻の経済力

表 7-5 ....夫の交渉力向上の要素

表 7-6 ....変容したジェンダー役割規範の受容度

表 7-7 ....反論アプローチの夫妻の事例

表 7-8 ....懇願アプローチの夫妻の事例

表 7-9 ....回避アプローチの夫妻の事例

表 7-10........従順アプローチの夫妻の事例

図 7-1 ....世帯内意思決定の分析枠組み

図 7-2 ....妻の教育年数

図 7-3 ....WDC 卒業と話し合いアプローチ

図 7-4 ....妻の 1 カ月の収入

図 7-5 ....妻の世帯への貢献認識

図 7-6 ....夫の教育年数

図 7-7 ....夫の 1 カ月の収入

図 7-8 ....夫の家事手伝いへの認識と行動

図 7-9 ....夫が世帯ニーズを担うべき

図 7-10........夫の収入が妻の収入を上回るべき
図 7-11........変容したジェンダー役割の変容（妻）
図 7-12........変容したジェンダー役割の変容（夫）

第 8 章

図 8-1 ....夫妻が話し合う環境に貢献する要因
図 8-2 ....妻が夫に意見を述べる要因
図 8-3 ....妻の意見が夫に反映される可能性

第一部　序論と先行研究

第一章　序論

本研究は、「世帯内の資源分配をめぐる意思決定において、女性が望む資源を獲得する要因を明らかにする」事を研究目的とする。世帯内の資源分配をめぐって世帯の構成員は生活に関わる意思決定を個別に又は一緒に行う。資源の分配に関わる意思決定が、男女間の不平等を促進する場合もあれば格差を縮める場合もある（世界銀行 2002）。一般的に女性は経済機会へのアクセスが限られている事、社会規範が女性に不利に働く事、結婚・離婚に関わる法律や財産権等法律の枠組が女性に不利である事、これらが組み合わさって影響し、世帯においても社会においても発言権が小さい（世界銀行 2012）。又、日常の食料の調達、女性自身の健康や、友人・親戚を訪問するための外出等、女性の生活に関わる事項に関しても女性の発言権は小さい（UNICEF 2007）。

尚、本研究における「資源」とは経済的資源だけでなく、人的資源、知識や情報等文化的資源、信頼や権力という社会関係資源も含め、現在の状況だけでなく潜在性に関わるものを含めて「可能性の束（佐藤 2007,92）」と捉える。何故なら本研究で扱う世帯内には、非対称な力関係を内包するジェンダー関係があり、そのジェンダー関係に影響される信頼や権力という社会関係資源、知識や情報等が、世帯内で分配される資源になると考えられるからである（Agarwal 1997）。又、世帯内意思決定により女性が獲得しうる資源は、「選択する能力（Kabeer 1999,437）」に必要な要素で、潜在力を持ち、その資源によって女性が従来の活動を実施したり、新たな活動を始めたりという可能性に繋がると想定されるからである。

本研究は前述の目的を達成するため研究課題を次のように設定する。「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」である。

本章では、上記の研究目的に至った背景を説明し、研究目的、研究の意義、研究の方法、事例対象地の選定理由を述べ、章末に本論文の構成を示す。

1-1　研究の背景

ナイジェリア北部ハウサ社会では、女性には世帯に経済的貢献をする義務がないにもかかわらず、筆者が出会ったハウサ女性の多くは「夫･家族を助けたい」と、自分で収入を得ていた。あるハウサ女性は自分が抱えている問題として、「夫は夕食のスープに肉がはいっていないと、いつも私を殴ります。でも、夫は肉を買うお金を渡しません」という話をした。ハウサ社会では、夫が妻を扶養し衣食住等全ての必要を賄う事、妻は夫に従い家事・育児をし、婚姻関係の維持に努める事が当然視されている。従ってスープを作るのは妻の役割だが肉を買うのは夫の役割で、この役割を遂行していないのは夫のほうである。しかし妻は夫を非難する事も出来ず、自分で自由に使える現金収入を自分で得たいと望んでいた。一方、多くの女性達は経済活動に携わる時間を増やしたり、顧客を拡大する努力をしたり等、経済活動の拡大を目指してはおらず、むしろ小額の現金を得られる現状に満足し

ているように見えた。経済活動に従事している女性達は、夫に従い家事・育児を従来通りにしつつ、更に収入を得て、夫の義務である世帯の衣食住を賄う事にも貢献している。しかし、世帯内での女性の発言力が高まっているようには見えなかった。

多くの開発援助は、世帯を対象に物資を配布したり、世帯の収入向上を目標とする貧困削減プロジェクトを実施したり、「世帯」を単位として扱っている。開発を計画する側は、世帯は自然な社会経済単位で、世帯では資源が平等に分配され、成人の構成員は平等に意思決定権を持っていると前提にした（モーザ 1996,39）。しかし世帯に配布された物資や世帯で使用可能な収入は、世帯構成員が合意したルールに基づいて分配されるのだろうか。

UNICEFの「世界子供白書 2007」は世帯内の不平等の問題を取り上げ、人口保健調査[1]（DHS: Demographic and Health Survey）のデータから世帯内での、1) 日常の買い物、2) 土地や家屋等大きな買い物、3) 女性自身の健康、4) 友人や親戚を訪問する事の 4 種類の意思決定[2]の全てに携わる女性が 50%以上となる国は、調査対象の発展途上国 30 カ国中 10 カ国であったと報告している。特にサブサハラ・アフリカ諸国では女性自身の健康、友人や親戚を訪問するという意思決定は、夫が単独で決定する割合が高い[3]（UNICEF 2007）。

表 1-1 はアフリカ、アジア、中近東 10 カ国の DHS データから、既婚女性が認識する世帯内の意思決定者が誰であるかを示したものである。「主要な世帯の買い物」は土地や家屋、家畜等の購入、「日常の世帯の買い物」は日々の食料品や日用品の購入を意味する。それぞれ異なる分野における意思決定を、1) 妻が主に決定する、2) 夫妻が共同で決定する、3) 夫が主に決定する、という 3 パターンに分けている。

表 1-1 から、意思決定の対象となる話題によって意思決定者が異なっている事が分かる。多くの国で「日常の世帯の買い物」は妻が主な意思決定者であり、「主要な世帯の買い物」や「妻の家族・親戚訪問」は夫妻で決めたり夫が決めたりしている。しかしナイジェリア、ヨルダン、エジプト、バングラデシュにおいては、この 2 項目は妻が主な決定者である割合が低い。本研究の対象地であるナイジェリアでは、4 つの意思決定のいずれも夫が単独で決めている割合が他の国と比べて高く、妻が単独で決めている割合が低い。同じ西アフリカでもガーナでは女性が単独で意思決定を行う割合が 20%台、日常の世帯の買い物では 44%に上る。世帯内の意思決定への女性の関わりは国によって、意思決定の内容によって異なるが、どの国でも女性は男性に比べて世帯内の意思決定に参加していない事は明らかである。

---

[1] 人口保健調査（DHS）は USAID（米国国際開発庁）の支援で 1984 年以来実施している世界的規模の保健に関する調査。2012 年までに 90 以上の国で 260 超の調査を実施している。

[2] DHS は 4 つの意思決定を妻だけ又は夫と一緒に決定する既婚女性がどの程度いるか調査している。

表 1-1　既婚女性が認識する世帯内の意思決定者

	妻自身のヘルスケア			**主要な世帯の買い物**			**日常の世帯の買い物**			**妻の家族・親戚訪問**		
国名	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ナイジェリア	**9.8**	33.8	55.7	**5.7**	31.9	61.6	**16.7**	32.9	49.7	**11.2**	43.6	44.4
ガーナ	25.0	43.8	30.3	20.3	42.0	36.6	44.4	35.2	19.3	22.9	60.4	15.7
エチオピア	**13.4**	61.0	24.9	**5.8**	60.4	32.8	-	-	-	**17.2**	60.6	21.3
ケニア	27.9	45.4	26.4	**13.9**	52.9	32.8	50.4	31.7	17.5	21.7	51.4	26.3
ナミビア	44.8	39.2	15.2	22.8	52.2	23.8	40.6	40.5	17.8	24.7	53.6	20.4
レソト	44.1	38.4	14.9	**15.1**	63.1	17.4	73.8	17.9	4.3	31.9	34.3	28.7
エジプト	25.6	61.2	11.8	**4.7**	49.8	40.0	43.9	34.0	15.5	**9.4**	72.6	16.5
ヨルダン	46.2	44.4	9.0	**11.0**	59.6	28.4	31.4	43.0	24.0	**11.4**	73.6	14.4
バングラデシュ	**13.8**	42.0	32.3	**8.5**	47.7	25.3	32.6	31.0	18.8	**12.6**	46.1	25.8
フィリピン	49.6	44.0	6.1	20.7	64.8	13.6	59.1	33.3	6.5	22.5	70.3	6.8

（DHS より抜粋。2006 年から 2012 年までに実施され、且つ、上記の質問を実施した国を、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカから 2 カ国ずつ、中近東 2 カ国、南アジア、東南アジアを各 1 カ国抜粋した。尚、英語圏以外は対象から外した。太字・下線は筆者。妻が決定者である割合が 20%以下のもの。）

前述の「世界子供白書 2007」は、世帯内の男女の意思決定力の要因として、教育レベルと教育へのアクセス、所得や資産の所有権、年齢差と初婚年齢を挙げ、又、家庭内での暴力の脅威も影響し、女性を従属的な立場に留めていると指摘する。更に女性が世帯内の意思決定から排除される事が、子どもの栄養や健康状態、教育にマイナスの影響を与えるという研究例を示し、女性の意思決定力の向上が必要と指摘している（UNICEF 2007）。

UNDP の「アフリカ人間開発報告書 2012」では、女性が世帯の意思決定に影響力を持つようになると、子どもの栄養状態は良くなると指摘する。現状ではサブサハラ・アフリカの農業労働力の約半分を女性が占めており、食料の安定確保には女性の関わりが欠かせない。しかし男性に比べて女性は財、土地、融資等の資源に対する管理権が男性よりも弱く、市場を介さないインフォーマルな活動や家事・育児等の無償労働に時間を費やしているため、男性よりも経済活動において不利な立場にある（UNDP 2012）。同報告書は、女性が教育を受け、資源を管理し、意思決定の場で発言をする事によって能力を拡大する事が、食料の安定確保に繋がると指摘している。しかし何故女性が資源を管理したり意思決定で発言したりという事に難しさがあるのか、その要因について、又どのように女性が資源を管理し意思決定をする能力を向上させるのかという方策には触れていない。

世帯内の資源分配は、1960 年代頃から「新しい家計の経済学」を提唱した Becker によって、利他主義の家長が世帯全体の利益になるように資源分配を決定するという単一家計モデル（unitary model）によって説明されてきた（Becker 1965）。Becker は、世帯の行動を企業行動に結びつけ、世帯は生産者であると同時に消費者であり、企業のようにコスト

---

[3] 例えばサブサハラ・アフリカ全体で、女性自身の健康に関して夫が単独で決める割合は 65.7%である。

最小化ルールに従って物と時間を組み合わせて商品を生産すると説明した（Becker 1965）。そして世帯員は世帯全体の厚生を最大化する事を目的として行動し、利他主義の家長が世帯全体の利益になるように世帯内資源の配分を決定するという。又、世帯の効率や厚生を最大化するために「比較優位」による世帯内の分業が機能的とし、ジェンダーによる分業を説明した（Becker 1981）。

Manser と Brown（1980）や McElroy と Horney（1981）は、Nash（1953）のゲーム理論を応用し、世帯内の意思決定は世帯員の交渉の結果であるとする集合的モデル（collective model）を展開した。集合的モデルは、世帯内の資源と権力の分配はほぼ常に男性に有利であり、その資源分配における不平等は経済的な要因と社会的な要因があると指摘する（Quisumbing 2003）。集合的モデルは単一家計モデルが前提とする、世帯内での所得のプール化、世帯内の生産資源や労働力の効率的な投入やリスクの分配について適応しない事例を挙げ、世帯構成員の選好は異なる事、利害が衝突するため世帯構成員間で交渉が行われる事を示した（Haddad,Hoddinott and Alderman 1997）。表 1-2 はこれらの集合的モデルの主要な研究である。単一家計モデルは世帯構成員の選好は同じという前提であるため、世帯内の資源管理者が誰であっても、その分配の結果に影響しないはずである。これらの研究は、この前提が適さない例を示す事で構成員の選好が異なる事を示唆した（Thomas 1990,1997 Hoddinott and Haddad 1994,1995, Quisumbing and Maluccio 2003）。又、単一家計モデルでは世帯を生産の一つの単位とみなすという前提に立つため、生産資源や労働力の投入は世帯で効率的に投入されるはずであるが、この前提も適さない例が挙げられている（Jones 1983, Udry 1996, Goldstein 1999）。

表 1-2　世帯内資源分配の先行研究

1.資源の管理者が誰かによって資源分配の結果に影響するか?	
著者	内容
Thomas（1990）	ブラジルで母親が不労所得を得ると、父親が得るよりも、子どもの健康の改善、子どもの生存率と栄養状態の向上に繋がった。
Hoddinott and Haddad　（1994）	コートジボワールでは世帯所得に対する妻の収入割合が高いほど、子どもの栄養状態が良くなる。この結果は、子どもに関連した食料の支出が増えた事を意味する。
Hoddinott and Haddad　（1995）	コートジボワールでは、世帯所得に対する妻の収入割合は、食料予算割合に顕著にプラスの影響があり、外食、子ども・大人の衣料、アルコール、煙草予算割合に顕著にマイナス効果があった。
Thomas（1997）	ブラジルで生活必需品向け支出の予算を男性・女性が管理する場合でインパクトの差を調べたと頃、女性の可処分資源が増すと、健康や教育、レクリエーション、冠婚葬祭、栄養に対する支出が増え、子どもの栄養状態にプラスの効果が確認された。
Quisumbing/Maluccio（2003）	バングラデシュ、エチオピア、インドネシア、南アフリカでは、各国で程度は異なるが、女性が資産を管理すると子どもの教育や衣料等の次世代向け支出にプラスの影響があった。
2.世帯内で生産資源・労働力・リスクを共有するか?	
Jones（1983）	カメルーンの稲作プロジェクトでは、世帯内で夫と妻が労働力を効率的に配分するのではなく、夫妻それぞれが管理する農地へ労働を配分するため非効率になっていた。
Udry（1996）	ブルキナファソでは妻が管理する農地に投入する肥料と男性・子ども・雇用労働による労働力は小さく、夫が管理する農地への投入は多すぎ、世帯内で同じ年に同じ作物を植えても女性が管理する農地では、収穫量が少なかった。
Goldstein（1999）	ガーナでは病気や農業生産の落ち込み等のショックに対して、単一の単位では対応しない。世帯はリスクを共同管理しない。女性は村落内の他の女性とリスクを共有し、男性はより広く村落内外の仲間とリスクの共同管理を行っていた。

（「男女平等と経済発展」（世界銀行 2002）、”Introduction: The scope of intrahousehold resource allocation issues” （Haddad, and Hoddinott,1997）, ”What have we learned from research on intrahousehold allocation？“（Quisumbing 2003）, 各論文を参考に筆者作成）

世帯内の交渉力向上に影響する要因について多くの研究が行われ、要因として、相手と比較した年齢、教育レベル、結婚時の財産、自分で管理出来る収入や財（Quisumbing 2003, Mabsout and van Staveren 2010）、本人の技能、情報へのアクセスがある事、社会ネットワークや拡大家族からの支援、社会規範（Agarwal 1997, Quisumbing 2003）、婚姻関係に関する法的権利、土地や財を所有する権利、離婚時の財産分割に関する権利等の制度的環境、家庭内暴力に対する地域社会の態度や法律的制度的環境（世界銀行 2002）等が挙げられている。表 1-3 は世帯内の交渉力向上の要因、収入の影響に関する主な研究である。

表 1-3　世帯内の女性の交渉力向上の要素と資源分配の結果に関する先行研究

女性の交渉力向上の要素と資源分配の結果	
著者/交渉力向上の要素	内容
Thomas（1994） 妻の教育レベル	夫の教育レベルと比較した妻の教育レベルを交渉力向上の代替とする。米国、ブラジル、ガーナのデータを基に、母親の教育レベルが高いと、女子の栄養状態に大きなプラスの影響があった。父親の教育レベルは、男子の栄養状態に大きなプラスの影響を与えた。
Quisumbing（2003） 妻の教育レベル 妻の財産の所有	バングラデシュ、エチオピア、インドネシア、南アフリカのデータから、交渉力向上が世帯支出の割合にどう影響するかを検証。バングラデシュと南アフリカでは、女性が財を所有している事は教育費への支出を増加させ、エチオピアでは男性の財が同じ影響を与えた。同様に、女性の財は南アフリカで食費にネガティブに影響し、他の国では女性の財所有は女子よりも男子の学校へ行く機会を増やした。
Doss（2006） 女性の財の所有	ガーナの生活基準調査（LSS）を用いて、女性が土地、貯蓄、経済活動の財等の大きな財を所有している場合は、食料や教育への支出が大きいが、アルコールへの支出が小さくなる。しかし医療費は、女性の財の所有によって低下する。Doss は女性が財を持っていると家族がより健康的になり、医療費がかからないのではと推測している。
Atkin（2009） 母親の世帯外での雇用	メキシコの例で、母親が製造業に雇用されると子どもの身長にプラスの影響がある。新しく工場が開設されて、新たに雇用された母親を調査対象とした。工場に雇用されなかった母親の子どもに比べ、工場で働く母親の子どもは身長が高い。この研究では世帯内で男性と女性の収入が占める割合は観察されていない。
Duflo（2000） 女性の不労所得受け取り	女性が老後の年金を受け取っている世帯では、女子の年齢に対する体重と身長が、誰も年金を受け取っていない世帯の女子よりもよい。夫の母親が受け取る場合や男性が受け取る場合には、何の影響もない。
Khandker（2005） 女性のクレジットへのアクセス	バングラデシュの例で、女性だけのクレジットグループで女性がクレジットを利用した場合と男性だけのグループで男性がクレジットを利用した場合を比較。女性が借りている場合は、世帯で食費やその他の世帯に必要な費用への支出が大きくなる。又、女子がより学校へ行くようになる。一方で、女性が借りても男性が借りても男子の学校教育へはプラスに働いた。
Rubalcava, Terual , and Thomas（2009） 女性が現金の移転プログラムの受益者	メキシコにおける、条件付き現金の移転プログラム。子どもが予防接種や学校に行く等の基準を満たしている限り、母親に現金を移転するというプログラム。（PROGRESA）。女性の収入が増えるとアルコールの消費量が減る。子どもの医療費が増える。
Stevenson, Wolfers（2006） 離婚に関する法律改正	アメリカで離婚法が改正され、配偶者の片方だけで離婚出来るような改正法となる事で、家庭内暴力や配偶者の暴力による死、自殺の件数が劇的に減少した。法律の改正により暴力の被害者側の交渉力が増した事が暴力の減少に繋がった。

（”Does Female Empowerment Promote Economic Development?” （Doepke, Tertilt 2011,2-14）、”What have we learned from research on intrahousehold allocation? “ （Quisumbing 2003）、各論文を参考に筆者作成）

このように、世帯内資源分配に関わる先行研究の多くは、ミクロ経済学のアプローチで世帯構成員の交渉力向上の要素を特定したり、ある要素と資源分配の結果として子どもの健康状況や教育への支出等の関係性を明らかにしたりという研究であった（Haddad,and Hoddinott 1997, Haddad, Hoddinott, and Alderman 1997, Quisumbing 2003 他）。又、メキシコにおいて、子どもの教育や保健・栄養状態の改善のために母親に現金を移転するプログラム（PROGRESA）に関する研究では、母親が現金を手にした事で世帯の食費への支出が増えたが、母親は「お金が必要な時に夫に頼まなくても PROGRESA で得たお金を使える」「自分が必要だと思う物を買うと決める事が出来る」「食費に使えるお金が増えた」と、PROGRESA に参加した利点を挙げた事が分かった。このプログラム開始前は男性が多くの意思決定をしていたが、女性が現金を手にした事で、女性が得た移転金の用途は女性が決めている（Adato, Briere, Mindek and Quisumbing 2003）。しかし、この例では世帯の必要な物を購入したり、貯蓄したり、投資したりという資源の分配を、男性や他の世帯構成員と話し合いで決めているか明らかではない。

これらの研究によれば、女性の教育レベルが高い・財を所有している・現金を手にしている等のインプットがあると、子どもの栄養状態が良くなる・学校に行く・食費への支出が増える、といった結果がある。しかし、収入を食費に支出したり教育費に支出したりといった意思決定は、どのようなプロセスで行われたのか不明である。又、誰の収入を使用したのかも不明である。女性が自分の収入を自分で決定した用途に使用しているだけで、夫の収入は使用されず、夫の収入の用途を夫と交渉していない可能性もあるのではないだろうか。

Sen（1990）は世帯内の資源分配をめぐる意思決定を、「協力的対立（Cooperative Conflict Model）」モデルによって説明している。世帯構成員は交渉による「対立」だけではなく、一緒に住み関心や体験を共有し協働するという「一体（togetherness）」という面があるため、資本家と労働者の争いとは違い、「対立」と「協力」に同時に向き合う関係である。Sen のモデルによれば、世帯内の交渉力を上げる要素は 3 点ある。第一に、世帯構成員が他の構成員からの協力がなくても生きていけると判断する「決別点（Breakdown position）」における福祉のレベルが交渉力の重要な決定要因だという。決別点が低ければ相手との協力なしに良く生きていける程度が低くなり、不利な結果を招くと分かっていても相手の要求を受け入れ、不満があっても相手に従い協力せざるを得ない（Sen 1990）。第二に、自分が世帯の福祉に対して貢献していると認識し、又、他の構成員から自分が貢献していると認識されるという「世帯への貢献認識（Perceived contribution to household）」の高さが交渉を有利にすると指摘している。第三に、自分が自分自身の価値を認識し、自己の利益に関心を持つほど、より交渉を有利にしようと働きかけるという、「自己利益への認識（Perceived self-interest）」の高さが必要である。従来の集合的モデルでは、女性の交渉力向上に関わる要素として、決別点の位置の強化に関わる要素を特定する研究が多かった。

しかしSenの議論では、決別点の位置の強化に加えて、世帯構成員の「認識」の重要性を加えている。世帯に実際にどの程度貢献しているかではなく、どの程度貢献していると「認識」されているか、又、本人が「認識」しているか、という事が交渉力に影響し、その認識には「正当性」の概念が影響する。つまり、社会において何が価値を与えられるにふさわしく、何がそうではないかという「正当性（Legitimacy）」の概念が、何を自分自身の価値と認識し、何を世帯への貢献と認識するかを決めている（Sen 1990,131）。これらの認識には「正当性」の概念が影響するので、当該社会の規範、特にジェンダー役割規範が影響するのではないだろうか。

ジェンダー役割とは男性と女性がある社会の中で規範と伝統に従って、どのように行動し、考え、感じるべきかに関わり、当該社会の中で作られる。相応しくない行動は社会において承認されず、例えば母親が子どもの世話を怠ったり、父親が家族に必要な物を供給しなかったりすれば、コミュニティから蔑視される。ジェンダー役割はコミュニティ内部でも多様であり、又、時代を超えて変化するものである（Parker,Lozano,et.al. 1995,4-5）。アフリカの多くの地域では、経済状況の悪化の中で男性が主な稼ぎ手の役割を果たせず、「男性が主な稼ぎ手で女性は主に家事をする」というジェンダー役割を維持していては世帯のニーズを充足させる事が難しい状況にあり、女性が小規模な経済活動で稼ぎ手の役割を補完するようになってきた（Pottier 1994, Silberschmidt 2001）。このようなジェンダー役割の変化がどのように人々に受容されているかは特に夫の態度に影響し、世帯内での話し合う環境に繋がる（世界銀行 2012）。

妻の意思決定力に関して、「意思決定に参加するか」「妻が決定するか」「最終決定を誰がするか」という問いでは、家父長制の強い社会では「家長である夫が決定する」という回答になり、意思決定プロセスにおける夫と妻の駆け引きや、夫の妻への譲歩、妻の経済力の向上や世帯への経済的貢献等によって、意思決定プロセスに変化が表れている可能性を見過ごしてしまう。Nikiema, Haddad and Potvin（2008）はブルキナファソを事例に、既婚女性が世帯の資源を女性自身のヘルスケアのために分配させるよう、どのように夫にアプローチしているか分析している。質的データの分析から、妻が夫からヘルスケアのための資源を引き出そうと交渉するプロセスを記述し、「待機」「貢献提案」「懇願」「仲介者の介入」「対抗」「反乱」というパターンに分類している[4]。この事例からは妻も夫も、相手や周囲の人々から「どう思われるか」が自身の行動に影響を与えている事が分かる。妻のヘルスケア費用を支出しない悪い夫と思われたくないが、妻が怠けているだけかもしれないという疑いをもつ夫と、自分の所得でもヘルスケアを利用出来るが夫に支出させ、且つ「良き妻」が病気になっていると思われるために振る舞う妻の間で、夫の所得を分配す

---

[4] 詳細は第3章で説明する。

る決定が夫により行われる（Nikiema, Haddad and Potvin 2008,608-610)。妻が望む資源を獲得するために、妻自身が意思決定する事を目指すとは限らず、夫に譲歩したり懇願したり、意思決定力がある事と望む資源の獲得は必ずしも一致していない。

世帯内資源分配に関する先行研究では、世帯内の構成員は異なる選好を持つため利害が対立し、資源分配は構成員の交渉力の強さによって決められる、つまり交渉力の強い構成員が自身の選好に沿った分配を得る事が出来ると説明されている（Haddad and Hoddinott 1997, Quisumbing 2003）。以上の議論を踏まえて、本研究では「交渉力の強さ」を、「自身が望む資源を獲得する事」と捉える。そして女性が交渉力を向上させる要因として、夫妻の年齢差が少ない事、女性の教育レベルの高さ、女性が財を所有する事、女性の法的権利を確保する法律の施行等が挙げられてきた。Sen（1990）は、夫妻は協力を志向する対立関係という協力せざるを得ない関係であり、ジェンダー役割規範から女性が相手に合わせるため、不利でも受け入れる事が多いと指摘した。交渉力の向上には、単に教育レベル、所得レベルの向上といった事実の面だけではなく、世帯への貢献認識や自己利益への認識のように、周囲からどう思われるか、という認識が影響する事も指摘した。

これらの先行研究はミクロ経済学での研究が多く、夫妻間の意思決定プロセスがどのように行われるかに関する質的な研究は少ない。ミクロ経済学の研究では、例えば、女性が所得を得て管理すると、子どもの栄養や保健の状況が良くなる、というように、インプットとアウトプットの関係を分析している研究が多い。これでは、女性が自身の所得を子どもに使うだけで、夫と話し合って決めていない可能性もあり夫妻間の意思決定プロセスの中身は分からない。又、夫と話し合っていても、妻が夫に譲歩したり懇願したり、夫が妻に譲歩したりという意思決定プロセスでの両者のやり取りが、意思決定に影響する可能性は分からない。

1-2　研究の目的

本研究の目的は、世帯内の夫妻間の力関係に着目し、「世帯内の資源分配をめぐる意思決定において、女性が望む資源を獲得する要因を明らかにする」である。前節で述べた問題意識に基づいて、世帯内で夫妻が財や所得を別々に管理し、夫に世帯に必要な支出を担う事が期待される地域において、世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスがどのように構築されているのか明らかにし、世帯内資源をどう活用していくか検討する。世帯内の意思決定は、世帯に共通に必要となる衣食住や教育費、医療費等の世帯ニーズは誰の収入をどう分配するのか、子どもの進学は誰がどう決めるのか、妻が親戚を訪問したり外出したりするかどうかを誰がどう決めるのか、妻や子どもが病気になった際の対応を誰がどう決めるのか等を決定する事である。対象地のナイジェリア北部のハウサ社会では、夫が世帯ニーズを全て担う義務があるとされ、妻は夫の決定に従う事が妻の義務とされている（Callaway 1987, Sada, Adamu et al 2005）。又、世帯内の決定事項は夫が最終決定をする

事が当然とみなされている。このような状況で、世帯ニーズの供給や外出の許可等、女性の生活に関わる決定事項も夫によって決められているが、その決定に妻が関わっていく事は可能だろうか。これを明らかにする事で、女性が自身に関わる意思決定に、より関わるためにどのような環境が必要か、外部者が介入する場合は何をする事が効果的であるか提示する事が出来る。

研究目的に次の研究課題で答えていく。研究課題は「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」である。この研究課題に答えるために、次の3つの副課題を立てる。第一に「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」、第二に「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とは、どのようなものか」、第三に「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」、である。

研究課題に対し3つの副課題を立てた理由は次のとおりである。副課題1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」は、これまで開発援助において、女性が収入を得る事が世帯内の交渉力を上げる事に繋がるとみなされ、女性の所得創出への支援が数多く実施されてきた。しかし女性が望む状況に繋がった事例とそうでない事例があり、女性が収入を得る事が世帯内の交渉力の向上に繋がるかは統一の見解が見られない。「収入を得る事は必要だが十分ではない（Deere 1976,15）」という先行研究もある。そこで、女性は収入を得て、何に何のために支出しているのか、女性が収入を得る事が世帯内のジェンダー役割に対して、どのような影響を与えるのか明らかにしていく。又、夫の収入を世帯ニーズにどのように分配するか世帯内で交渉・決定する事に対して、妻が収入を獲得する事は、どのような影響があるか検討する。副課題2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とは、どのようなものか」は、夫妻の意思決定プロセスを夫妻の語りから分析し、妻はどのような場合にどのような方法で自分の意見を夫に伝えるか、どのような資源の分配をめぐる話し合いで、その結果どのような資源の獲得が予想されるのか検討する。副課題3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」は、妻がより自分の意見を夫に伝えている場合には、その夫妻に、どのような交渉力の要素と背景があるか、夫妻それぞれの決別点、世帯への貢献認識、自己利益への認識、ジェンダー役割の影響を検討する（図1-1）。

図 1-1　研究課題と 3 つの副課題

研究目的

世帯内の資源分配をめぐる意思決定において、
女性が望む資源を獲得する要因を明らかにする

研究課題

世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、
女性がより関わるのはどのような場合か

副課題 1

女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか

副課題 2

世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか

副課題 3

世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか

本研究の目的の中で、研究課題で取り扱う世帯内資源分配をめぐる意思決定は、女性の生活に関わる事に限定する。それは、世帯に共通に関わる世帯ニーズの充足と子どもの教育に関する事、親戚訪問やセレモニー出席等の外出、妻の病気の際の対応、妻自身の家畜の購入・売却等である。何故ならハウサの先行研究から、これらの世帯に共通に関わる世帯ニーズの充足や子どもの教育に関する事だけでなく、女性が何か活動をする事、親戚を訪問する等外出を伴う事といった女性の生活に関わる事も夫の許可が必要となるため、世帯内で意思決定が行われている事項だからである（Callaway 1987, Sada,Adamu,et al. 2005）。又、人口保健調査でも世帯内意思決定の項目として扱っているため、統計資料と比較する事が出来るからである。その他の世帯内意思決定として、夫の経済活動、夫の親戚・拡大家族・他妻の活動、コミュニティ政治に関して世帯内資源が分配される事も考えられるが、本研究では含めない。

又、3つの副課題で研究課題をカバー出来ない点は次の3点である。1つは、夫妻の拡大家族がコミュニティで影響力を持つ場合や、拡大家族、特に父親が裕福な場合に、夫妻間の力関係に影響する可能性はあるが、個別に聞き取り調査をする事は難しいため本研究では扱わない。2つ目は、経済力に関して相続や購入で取得した土地や家屋等の財の所有を考慮していない点である。ハウサ社会の女性の経済活動に関する先行研究から、女性にとって現金が手元にある事によって様々な用途に対応出来、他人に現金を借りる事なく女性自身の尊厳を保つ事が出来るため、女性は自身が自由に出来る現金の保持を重視する（Renne 2004,280-285）。そのため、財の所有ではなく所得を獲得する力で経済力を捉える事とする。3点目は長期間における調査対象者の認識や行動の変化に十分に対処出来ない点である。1回目の調査と最後の3回目の調査は1年間のタイムスパンでしかなく、異なる時期に同じ質問をしているものの、夫妻の意思決定プロセスがどのように行われているかは、調査時の回答を基にした分析となるため、例えば同じ課題に対する意思決定を繰り返す事で、その課題に対する認識や対応の仕方が変わる可能性があるが、そのような経年の変化は本研究の対象としない。

1-3　研究の意義

本研究の意義は3点ある。第一に、数多くの開発プロジェクトは世帯を単位としており、世帯内のジェンダー不平等な力関係に対処しているプロジェクトは少ない現状がある。そこで世帯内の不平等に着目し、世帯内の資源分配をめぐる意思決定は、どのようなプロセスで決まるか、その意思決定プロセスに影響する要因は何か明らかにする事である。

第二に、妻・夫双方の質的データに基づき世帯内の交渉プロセスを明らかにしていく点である。世帯内の資源分配において女性が所得を得て管理する事が家族の福祉や子どもの健康・教育の向上に繋がるという多くの先行研究があるが、家計調査等ミクロデータを用いた量的研究が多い。世帯内の誰が管理する資源をどのように分配するのか、世帯内の交渉プロセスがどのように構築されているのか明らかにした質的研究は少ない。又、妻・夫の双方の質的データを基にした研究は途上国を対象にした事例ではあまりない[5]。本研究は世帯内資源分配をめぐる世帯内意思決定のプロセスを妻・夫双方から得た質的データの分析により明らかにしていく。

第三に、女性が世帯内の意思決定に対して関わりを持ち、自身の意見を夫に伝えるようになる要因が何かを明らかに出来れば、世帯内のジェンダー不平等な力関係を是正していくための、外部からの適切な介入を提示出来る点である。

1-4　研究の方法

本研究では、世帯内資源分配をめぐる意思決定プロセスを、質問票調査、半構造型個別

---

[5] パール（1994）はイギリスにおいて夫妻がどのように家計管理をしているか、妻・夫双方へのインタビューに基づき説明している。

インタビュー、直接観察によって得た当事者（妻・夫）の行動や認識といった質的データから明らかにする事例研究の方法をとる。具体的には、女性の収入の役割やジェンダー役割規範の変容の影響、世帯内意思決定プロセスを明らかにしていく。本研究は、世帯内資源分配をめぐる意思決定プロセスの影響要因を分析するにあたって、3つの副課題を考えながら、次のような分析のアプローチを取る事とする。

第一に、文献調査を通して世帯内資源分配に関する先行研究を整理する。世帯内関係を捉える必要性が認識され、世帯内資源分配を世帯構成員の交渉の結果と捉える背景と考え方を整理する。又、世帯、資源、ジェンダー役割等本研究で扱う概念を定義する。

第二に、副課題1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」を明らかにするために、女性の所得創出・向上が世帯内の意思決定力の向上に結び付くという考えの下にこれまで数多く行われてきた女性を対象にした所得創出活動の概念を用いて（Buvinic 1986, Deere 1976）、女性が何故収入を自分で得ようとするのか、女性の経済活動の状況や収入の用途をジェンダー役割[6]の視点から分析し､女性が得る収入が世帯のニーズ充足に対してどのような意味があるのか、妻が収入を得る事は、世帯内での女性の意思決定力の向上に対して、どのように影響するのか明らかにする。

第三に、副課題 2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか」を明らかにするために、世帯内でやり取りされている資源を整理し、それらの資源をめぐる世帯内の話し合いについて、夫妻がどのような話題をめぐって異なる意見をもつか、どのような資源が分配され、話し合いの結果、どのような資源を獲得しうるのか、どのようなプロセスを経て夫妻が同意する、或いは同意しないのか、妻側の視点でみた夫へのアプローチを妻の語りから分析する。又夫の語りも照らし合わせて検討する。そして妻の世帯内意思決定への関わり方を明らかにする。

第四に、副課題3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」を明らかにするために、妻がより世帯内の意思決定へ関わる場合は、その妻には、どのような特徴があるのか分析する。夫妻の語りから得られた質的データを、Sen（1990）の協力的対立モデルを適用して分析する。まず、協力的対立モデルが提案する、妻の交渉力向上の3要素である、1) 妻の決別点の高さ、2) 妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への認識の高さについて分析する。又、協力的対立モデルでは夫の決別点の要素や妻と夫との組み合わせがどのように意思決定に影響するか述べられていない。そこで、夫の交渉力についても検討する。更に、世帯外の要因も世帯内の意思決定に影響を及ぼすが（Agarwal 1997, Mabsout and Staveren 2010）、協力的対立モデルではジェンダー役割規範の受容について夫妻の考え方は分からない。妻･夫のジェンダー役割規範の変化の受容、そして夫の交渉力、これらの要素を加えて修正した協力的対立モデルを枠組として事例を

---

[6] ジェンダー役割とは社会の中で規範や伝統に従い、どのように行動し、考え、感じるべきか、男性・女性として期待される務めや責任である （March, Smyth et al. 1999,18)。

分析する。協力的対立モデルを適用する理由は、このモデルは世帯内の交渉を「対立」だけではなく、経験や関心を共有する世帯構成員の関係性の中で「協力」せざるをえない状況で交渉すると捉え、現実の世帯構成員の置かれている状況に近いためである。

1-5　事例の選定理由

事例としてナイジェリア北部を取り上げる理由は次のとおりである。本研究は世帯内の資源分配をめぐる意思決定に関わるが、世界の中には夫妻で資源を共有する地域と共有しない地域がある。サブサハラ・アフリカ、特に西アフリカでは夫妻で資源を共有せず、生産も支出も双方が責任を持つ領域を持ち（Whitehead 1981）、世帯内の労働力も共有せず、世帯として効率よく労働力を分配する事はない（Jones 1983）。又、イスラームでは結婚後も妻の財産は妻自身が管理し、夫が関わる事は出来ないとされる（Sada,Adamu,et al. 2005）。

本研究では、夫妻で資源を共有せず、本来、夫に世帯共有のニーズ（食料、住居、医療、教育費等）供給の義務があるとされる地域において、その分配に対して妻が意見を反映させる事が出来るかに着目している。世帯内資源分配に関する先行研究では、世帯内で資源をプールしない事例や、夫妻それぞれが異なる資源の供給に責任がある事例が挙げられている。これらの事例の場合、世帯共有のニーズを妻が自身の収入や農作物で充足させ、夫の所得用途を夫と話し合う事がない事例もある。これでは世帯内資源分配が世帯構成員の交渉によって決まるというモデルはあてはまらない。本研究は夫が意思決定を行う事が当然とみなされる事項に対して、妻がどのように自身の意見を反映させる事が出来るか、その意思決定プロセスに影響する要因を明らかにする事を通して、研究の目的を明らかにしていく。以上の目的を考慮すると、夫妻で資源を共有しない地域の多い西アフリカの中でも、その傾向が強いナイジェリアのイスラーム圏である北部が、事例研究の対象として適切であると考えられる。

又、ナイジェリア北部のイスラーム圏ではシャリーア（イスラーム法）が施行され既婚女性は厳格に隔離を実践している。そのため屋外での経済活動に従事する事はほとんどなく、外出の際には夫の許可が必要となり社会経済活動への参加が制限される（Callaway 1987, Adamu 1999）。この既婚女性の隔離の実践は、夫の供給義務と妻の夫への従順という関係を維持している。ナイジェリア北部の多数を占めるハウサ人は伝統的に夫妻で財産を共有しないため（Hill 1972）、ハウサ人ムスリムが人口の大多数を占めるカノ州、又女性が収入を得る事の役割を検討するため、女性が経済活動に携わる機会がある程度あるカノ州の中心地カノ市の郊外、クンボッソ地方行政区[7]P地区を選定した。

---

[7] ナイジェリアの行政単位は、連邦政府の下に36の州政府、各州には複数の地方行政区がある。

1-6　本論文の構成

本論文は、次の3部8章から構成されている。

まず、第1部は本研究の目的と方法、先行研究のレビューを示す。第1章は本論文の序論であり、研究の背景、研究の目的、研究、研究の意義を示し、事例対象地の選定理由を述べた。第2章では、「世帯」の捉え方を整理し、開発援助において世帯がどのように扱われているか検討する。次に本研究で扱う「ジェンダー役割」の概念について述べる。そして開発におけるジェンダー課題への取り組みにおいて世帯が扱われてきた変遷をレビューする。次に、ジェンダー格差改善のために数多く実施されてきた、女性を対象とした所得創出活動の変遷と課題をレビューし、最後に統計資料から女性の所得管理と世帯内意思決定への参加状況を検討する。第3章は世帯内資源分配と意思決定に関する先行研究を整理する。まず本研究で扱う「資源」の概念を定義する。次に世帯内資源分配を、利他主義の家長が決定するという単一家計モデル、世帯構成員の交渉力の強さによって決まるという集合的モデルの主張と問題点を整理する。次に、本研究の分析枠組みの基となるSen（1990）の協力的対立モデルを検討し、同モデルの概念に対する批判や同モデルを検証した先行研究をレビューする。最後に世帯内意思決定について質的データを基にしている先行研究をレビューする。

次に第2部は事例研究の結果を述べる。まず第4章で本研究の調査手法について概要、データ収集、分析、調査の限界について述べる。そして調査対象であるナイジェリア北部の社会経済状況、ジェンダー格差の状況について述べ、次にハウサ社会の世帯・婚姻関係とジェンダー役割規範について先行研究と統計資料から述べる。そして第3章で検討したSen(1990)の協力的対立モデルをハウサ社会のジェンダー役割に基づいて、本研究の分析項目を提示する。最後に、調査対象者のプロフィールについて述べる。第5章、第6章、第7章は、本研究課題である「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」を、ナイジェリア北部ハウサ社会を事例として検討する。事例対象地であるナイジェリア北部カノ州のP地区34世帯の夫妻双方とキーインフォーマントであるカノ州女性省職員、P地区の女性センター講師への個別インタビュー及び質問紙調査、又P地区の伝統的リーダーとのフォーカス・グループ・ディスカッション、直接観察で得た質的データを用いて、定性的分析を行う。

まず第5章では、研究副課題1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」を、女性の収入用途やジェンダー役割への認識から、女性の獲得した収入が夫の義務である世帯ニーズ充足に対してどのような影響を与えるか検討する。次に第6章では、研究副課題2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか」について、世帯内の資源のやり取りを整理し、それらの資源をめぐる世帯内意思決定のプロセスを、夫妻の語りの分析を通して明らかにする。第7章では、研究副課題3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」について、妻が、より夫に自身の意見を伝えている場合

は、その妻は、どのような交渉力の要素と背景があるのか、夫の特徴を含めて検討していく。第3部は本研究の結論で、第5章、6章、7章で提示した事例分析の結果を研究課題に沿ってまとめたうえで、本研究の総括を行う。本研究で明らかになった点を、第3章で提示した先行研究に照らし合わせ、本研究がどのような点で先行研究の議論に貢献出来たのかをまとめていく。又、第2章で提示した開発援助の場における「世帯」の扱いとジェンダー格差への取り組みに立ち返り、本研究から導き出される政策的含意を述べる。

表 1-4　本論文の構成

タイトル：世帯内意思決定への女性の関わり方 ～ナイジェリア北部ハウサ社会を事例として～	
第 1 部　序論と先行研究	
第 1 章　序論	研究の背景、研究の目的、研究の方法、事例対象地の選定理由、対象地の概要
第 2 章　開発における世帯とジェンダー格差	「ジェンダー役割」の概念の定義、開発における世帯の捉え方、世帯内ジェンダー格差への取り組み、ジェンダー課題への取り組みの変遷、女性の所得創出への取り組み、女性の所得管理と世帯内意思決定
第 3 章　世帯内資源分配をめぐる意思決定	「資源」の概念の定義、世帯内資源分配に関する先行研究の整理（単一家計モデル・集合的モデル）、協力的対立モデルの考え方と批判の整理、世帯内意思決定の交渉力の要素
第 2 部　事例研究	
第 4 章　調査手法と対象地の概要	事例対象地の概要、調査方法、及び調査対象者のプロフィールを説明。分析枠組みの提示 DHS データによるナイジェリア北部の特徴
第 5 章　女性の収入獲得と世帯内意思決定	研究副課題 1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」
第 6 章　話し合いの様態と世帯内意思決定	研究副課題 2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか」
第 7 章　女性の特徴と世帯内意思決定	研究副課題 3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」
第 3 部　結論	
第 8 章　結論	本研究の総括、先行研究の議論への貢献、政策的含意

第 2 章 開発における世帯とジェンダー格差

開発援助は世帯を対象に物資を配布したり、世帯の収入向上を目的としたり、「世帯」を単位として扱う開発を数多く実施してきた。開発を計画する側は、世帯は自然な社会経済単位で、世帯では資源が平等に分配され、成人の構成員は平等に意思決定権を持っていると前提にする（モーザ 1996,39）。開発援助が世帯を単位とする事で、世帯内のジェンダー不平等な関係が見えなくなってしまう。そして不平等な力関係を見過ごしていては格差の改善に取り組まれる事もない。

本章では世帯の捉え方を整理し、本研究における世帯の範囲を定義する。そして開発において世帯がどのように扱われているか検討する。次に、開発援助がジェンダー格差の問題にどのように言及しているか、世帯内のジェンダー格差に取り組んでいるか示し、ジェンダー格差改善のために数多く実施されてきた、女性を対象とした所得創出活動の変遷と課題を説明する。最後に統計資料から女性の所得管理と世帯内意思決定への参加状況を検討する。

2-1　世帯は開発の単位か

2-1-1　世帯の概念

世帯は、人が幼い頃から男女別の役割を形成し、他の世帯員との相互関係の中で男女別の役割を更に修得し次世代に伝える場となる。子どもを産む、育てる、仕事をする、将来への投資等人生の基本的な決定の多くを世帯内で行っている（世界銀行 2002,109）。世帯（Household）とは「住居と家計を共にする人々の集団」（新社会学辞典 1993）と一般に定義される。新しい家計の経済学[8]を代表するBeckerは、「世帯とは生産と消費の単位」と定義し（久場 2002,34-35）、「世帯とは、生産、再生産、消費と社会性を獲得する過程を含む社会の基本的な単位で、世帯の性質や機能は文化により時代により異なる」（Moore 1988,54-55）と説明した。一方、Young（1992）は世帯内の分配により着目し、「世帯とは、共同生活を恒久に継続するかどうか確実でない個人の集まりで、そのような個人間で行われる資源の分配システムである。世帯は、ある程度の目標・利益・資源を共有するが、自立する事もあれば、対立する事もある個人の集まり」と定義した（Young 1992,138）。

又、世帯は家族とは異なる概念である。「世帯は『仕事に方向付けられている居住単位』であるのに対し、家族は親族集団である」と示され、世帯内の 5 大活動として、①生産、②分配（生産者から消費者へ）、③譲渡、④再生産（出産）、⑤居住、を提示している（金井 1988,14-15）[9]。家族（family）とは、夫婦関係を基礎にして、そこから親子関係や兄

---

[8] 村松（2005）の訳に従う。他にも「新家庭経済学」（久場 2002）、「家族の経済学」（神山 2004）という訳がある。

[9] 金井（1988）は「世帯：変化しつつある形態と機能」をテーマとしたシンポジウムから「Household: Comparative and Historical Studies of the Domestic Group」Netting, Robert McC, Richard R. Wilk & Eric J. Arnold (eds.) 1981、を引用しているが、原著を参照出来なかった。

弟姉妹の関係を派生させる形で成立してくる親族関係者の小集団(新社会学辞典)である。家族員であっても世帯員でない事もあれば、世帯員であっても家族員ではない事もある。例えば同居する使用人は家族員ではなく、都市部に季節労働者として働く子どもは世帯員ではないが家族員である。

本研究の研究対象地であるナイジェリア北部カノ州のハウサ社会においては、複数の妻や夫の両親・兄弟姉妹が同じコンパウンドに居住している場合もある。複数の妻同士で家計を共有する事はないが、夫が供給する世帯ニーズは妻達に分配される。夫の両親・兄弟姉妹の場合は家計を共有していない事が多く見られる（Hill 1972, Callaway 1987, Sada, Adamu et al 2005）。本研究では、同じコンパウンドに居住せずに家計を共にする拡大家族や、同じコンパウンドに居住しつつも家計を共にしていない人員は世帯員に含めないが、同じコンパウンドに居住する他の妻とその子どもは含める事とする。つまり本研究では、世帯員は既婚女性と、その夫、子ども、他の妻が同居する場合は、その妻とその子どもとする。

本研究の対象地を含むサブサハラ・アフリカの多くの地域では、夫と妻が資源をプールせず、家計を維持し育児をする共有の予算を持たない事が共通して見られる（Whitehead 1981）。例えばガーナの農村地帯では 1 つの世帯がまとまって生産・消費・資金管理をする事は例外的で、通常は個々の世帯構成員が独立した傾向が強い（高根 1999）。次項ではアフリカの世帯について、その特徴を述べる。

2-1-2　アフリカの世帯

アフリカの多くの地域で、世帯内では男性と女性の生産活動と所得は分離している。通常、女性は家族の食料用の作物と個人の収入を得るための販売用の作物を育てる（Boserup 1970, Whitehead 1981, Koopman 1992）。Koopman（1992）はアフリカの食料生産には 3 つの異なるシステムがあると観察から述べた。第一に、女性が主要な作物や他の食料の全て、又はほとんどの生産に責任を持つパターンである。畑は女性のものとみなされ、男性は畑の耕起等の作業を手伝う。女性が収穫物の分配をコントロールし作物の販売による利益は女性自身が得る。第二に、男性と女性は主要な作物を共同で耕すが、畑は男性の家長がコントロールし、女性は他の基本的な作物を別の畑で育てるパターンである。主要な作物は世帯、又はコンパウンドの畑で育てられ、女性も男性も植え付けや草むしり、収穫に協力する。女性は食料の生産に責任を持つが、男性や家長が収穫物を管理する。第三に、男性が全ての食料生産に責任があり、女性は食品加工や販売に携わるパターンである。

これはイスラームを実践している地域で、女性が隔離を実践しフィールドでの作業に取り組めない地域に見られるパターンである。女性は食品の加工や商売に従事している事が多い（Koopman 1992）。本研究の対象地であるナイジェリア北部は女性が隔離を実践し農業に携わらず、男性が食料供給の責任を負うため、第 3 のパターンに類似する（Callaway

1987, Tipilda 2008）。

タンザニアの海岸沿いのイスラームを実践する村では、夫妻は世帯内で資源をプールする事がない。女性は結婚後もココヤシの木等自分の財産を所有する事が出来、世帯に現金がない時に貢献する事もあるが、妻にはその義務はない。そして妻が育てた作物は妻のものである。もし妻が裕福で夫がそうでない場合に、夫は妻から借りる事もあるが、返金しなければならない。世帯は生産活動に従事し、その労働の成果を保持する個人の集まりである。世帯内の関係は資源のプールというより交換で成り立っている（Caplan 1984,33）。

ナイジェリア中央部のティブ人の世帯では、女性は男性のミレット畑での労働に対して対価をもらう。そのミレットは女性達が加工して売る。男性は女性の畑での労働に対してヤム芋をもらう。世帯内では食料も売られ、女性はミレットやソルガムを夫から買ってビールを作る。又、夫妻の間で利子をつけてお金の貸し借りもする。ナイジェリア北部の女性が隔離を実践する地域では、夫の作物の販売しない部分を加工して女性が利益を得ている。夫は妻の利益を請求する事は出来ない。女性は夫にお金や種をローンで貸して利子をつけたり、夫から穀物を買い取り、後で値段が高くなってから売ったりするが、夫はそのお金で世帯の食事のための食料を購入する。世帯内でのやり取りは経済活動と変わらない（Kabeer 1994,120）。

このような特徴をもつ地域で実施される開発は、どのように世帯を扱っているのだろうか。次節では開発における世帯の捉え方を検討する。

2-1-3　開発おける世帯の捉え方

途上国の経済を概観する白書において、世帯は「生活を共にし、資金をプールし、1日1回は一緒に食事をする人の集まり」と定義されるが、実際には住居を共にしても食事を別にとる場合、配偶者でも同居しない場合、消費や生産のための資源を共有しない場合もある（世界銀行 2002,111）。一般に、西欧の開発計画は、1) 世帯は夫と妻、2、3人の子どもの核家族で構成される、2) 世帯は社会、経済の基本単位で、世帯内の大人は世帯内の資源管理や意思決定に平等に参加出来る、3) 世帯内ではジェンダーに基づいて仕事の分担があり、男性が生計の担い手、女性が家事・育児を担う、という3点を前提としており、このような見方は多くの発展途上国の状況に当てはまらない（モーザ 1996,35）。開発を計画する側が、開発の便益を世帯の構成員全員に行き渡らせたいのであれば、対象地域において資源が世帯内でどのように管理され分配されているのか、計画段階から検討し考慮すべきである（Young 1992,135）。それでは実際の開発において、世帯はどのように捉えられているだろうか。

アフリカの多くの農村世帯では、男性と女性は農業にも農業以外の経済活動にも別々に携わり、予算を別々に維持する。このような状況で、国や外部の機関から資源が世帯レベルをターゲットとして与えられると、男性が管理するようになり、女性が食料生産を向上

させるために必要な生産資源にアクセスする機会が限られてしまう（Koopman 1992）。

アフリカの農業では明白な性別役割分業があり、男性と女性は異なる畑で活動するか、異なる作物に責任を持つかのどちらかである事が多くの研究で示された（Boserup 1970, Whitehead 1981, Koopman 1992）。しかし、開発は農村住民の全ての活動が「世帯」のために行われ、男性の家長が土地、労働、作物と財政をコントロールしているという前提で介入する。開発を計画する側は、「世帯主」が開発に参加する事は、自動的に他の世帯構成員も開発に参加すると推定し、開発によって収入が向上すれば、その成果も他の世帯構成員に行き渡ると推定する（Dey 1981,109-122）。

ガンビアにおける稲作振興プロジェクトでは、この前提に基づいて介入したため失敗に終わっている。ガンビアでは女性は伝統的に湿地や内陸のくぼ地で稲作に従事し、土地の使用権も持ち、一方で男性は高地の排水の良い場所で主にメイズやグランドナッツを栽培していた。男性も女性も世帯用の自給作物と個人の経済活動としての作物を育てていた。そこへ1960年代後半から1970年代後半に、台湾の技術支援により灌漑による稲作プロジェクトが実施された。プロジェクトを計画した側は、台湾の稲作は世帯構成員の共同作業であるため、その考えが持ち込まれた。そのため開発プロジェクトは世帯主である男性に対して灌漑による稲作を導入し、灌漑による稲作田は男性が所有し、供与された機材や種も世帯主の男性が管理した。こうして従来は女性の作物であった稲作に男性が携わるようになった。稲作での移植や草取りに慣れている女性の労働力はプロジェクトに必要であったが、既存の性別役割分業では妻は夫の畑で無償労働の義務はなく、夫は妻の労働力を得るには何らかの報酬を必要とした。妻は夫の畑で有償労働をするよりも自分の畑での作業を優先したが、プロジェクト地の近隣農村の女性を安く雇えたため、女性への労働対価が低くなった。従来、女性がコメを自給用に作っていたが、「世帯」を対象にした灌漑プロジェクトの結果、夫自身の灌漑によるコメは換金作物となり、夫個人の貯蓄や消費に回るようになった。女性を巻き込む事に失敗した事で、女性と男性の経済的格差は大きくなった（Dey 1981,109-122）。

ケニアで1980年代中頃から実施されている稲作プロジェクトにおいても同様の結果が生じている。ケニア政府とIMFが輸出用換金作物の振興のために「世帯」を対象に灌漑による稲作プロジェクトを開始した。ケニアにおいても男性と女性は異なる作物を栽培していた。プロジェクトが進むにつれて、プロジェクトの裨益者である「世帯主」の妻達はプロジェクトの稲作田で労働する事を拒否するようになった。女性は労働の対価を与えられず、又、従来通り薪を集める事が女性の活動の一つであったが、プロジェクトのために移住したため、薪を集める事が困難になり購入するようになっていた（Young 1992,135）。

物資を配布する形態のプロジェクトにおいても、「世帯」を単位とする事が多い（モーザ 1996,102）。例えば妊産婦のマラリア罹患率を下げる目的で、蚊帳を無償配布する支援が行われている。妊産婦のいる「世帯」に蚊帳を配布しているが、この蚊帳が世帯内の誰によって使用されているかは分からない。日本の援助においては、緊急食料援助や医療援

助が、分配において当該地域のジェンダー不平等な関係から等しく分配されない恐れがあるという認識が援助機関に十分に浸透していない（村松 2005,85）。

近年では世帯内のジェンダー関係を考慮した介入も行われている。中南米の数カ国で実施されている現金給付プログラムでは、世帯内の不平等なジェンダー関係を考慮して、妻・母親に対して現金を給付してきた。女性が現金を手にした事で世帯内での女性の経済力は向上したが、短期的に家庭内暴力の増加に繋がる例があった。これを教訓にその後の現金給付プログラムでは、家庭内暴力への啓発と訓練やソーシャルワーカーの育成が加えられた（世界銀行 2012）。又、給付対象を母親にする事で女性が現金を管理出来るように、という配慮があったものの、給付の条件である子どもをクリニックに連れて行ったり、ワークショップに参加したりという事が母親の負担となっていた。母親・女性は家にいるものという既存のジェンダー役割規範を維持する事に繋がり、女性の就労機会を狭めたという批判もある（牧野 2012）。又、母親に給付され、母親がその給付金で世帯に必要な物を購入したり教育費に使用したりする事で、夫が従来支出してきた費目を女性が支払うようになった。これでは世帯内で夫妻が収入用途を話し合い、女性が意見を言って決めているという事には繋がっていない。

2-1-4 開発援助機関の世帯内ジェンダー格差への視点

近年の開発援助機関による報告書類では、世帯内におけるジェンダー格差や世帯内での女性の意思決定力の重要性が度々報告されている。

UNICEFの「世界子供白書 2007」は世帯内の不平等の問題を取り上げ、人口保健調査のデータから世帯内での、1) 日常の買い物、2) 土地や家屋等大きな買い物、3) 女性自身の健康、4) 友人や親戚を訪問する事の 4 種類の意思決定[10]の全てに携わる女性が 50%以上いる国は、調査対象の発展途上国 30 カ国中 10 カ国であったと報告している。そして世帯内での男女の交渉力を決定する要因として、教育のレベルと教育へのアクセス、所得や資産の所有権、年齢差と初婚年齢を挙げる。又、家庭内暴力の脅威も影響し、女性を従属的な立場に留めている。そして女性が世帯内の意思決定から排除される事が子どもの栄養や健康状態、教育にマイナスの影響を与えるため、女性の意思決定力の向上が必要である（UNICEF 2007）。

UNDPの「アフリカ人間開発報告書 2012」では、食料の安定確保と栄養の充実を取り上げている。食料の安定確保に最も効果的な事は、「資源、能力、決定権を農民、貧しいコミュニティ、女性に移転させる事」であり女性や脆弱なグループが自分達の生命や暮らしに影響する決定について発言出来るようになれば、人々が食料を生産、取引、消費する能力が大幅に強化される。又、女性が世帯の意思決定に影響力を持つようになると、子どもの栄養状態は良くなる（UNDP 2012,8）。サブサハラ・アフリカの農業労働力の約半分を女

---

[10] 人口保健調査ではこの 4 つの意思決定ごとに、妻だけ、もしくは夫と一緒に決定すると回答した既婚女性がどの程度いるか調査している。

性が占めるので、食料の安定確保には女性の関わりが欠かせない。しかし女性は財、土地、融資等の資源に対する管理権が男性よりも弱く、市場を介さないインフォーマルな経済活動や家事・育児等の無償労働に時間を費やされ、裁判や市場等の重要な制度へのアクセスが限られている（UNDP 2012）。

UNICEF、UNDPの両報告書は、女性が教育を受け、資源を管理し、意思決定する事によって、子どもの健康・教育にプラスの影響があったり、食料の安定確保に繋がったりと指摘しているが、何故女性が資源を管理したり意思決定で発言したりという事に難しさがあるのか、その要因について、又、どのように女性が資源を管理し意思決定をする能力を向上させるのかという対策については触れていない。

世界銀行の「世界開発報告 2012」はジェンダーの平等と開発をテーマとしている。この報告書では教育、保健、労働市場の参入においてジェンダー格差は縮小しているが、途上国において女性・女児の死亡率が男性に比べ高く、障がいのある女児の就学率が低い事、経済的機会や収入へのアクセスが女性にとって依然として不利であり、又世帯内や社会における女性の発言権は依然として男性より著しく低いと指摘している（World Bank 2011）。このようにジェンダー格差が依然として存在する状況で、女性が発言力を高める事による格差の改善が必要とされ、例えば農村社会の男女格差の解消に取り組む事によって、女性農民が男性農民と同等に扱いを受ければ収量が増大する、肥料や労働等のインプットの配分を男性から女性に移せば、世帯当たりの生産高を向上出来る、女性の農民が男性農民と同等に資源にアクセス出来れば生産高は増大する等の効果が見込まれる。このように女性農民が男性農民と機会を均等に与えられ、その機会を活用出来るためには女性の世帯内での発言力が欠かせない（World Bank 2011）。女性の世帯内での発言力を高めるための取り組みとして、政策は社会規範や信仰の影響、女性の経済機会や法律、教育へのアクセスを重視すべきであり、更に世帯内資源を女性がよりコントロール出来るように女性の所有権を強化し、財を蓄える事を強化する法律を整備する事が重要である（World Bank 2011）。

以上、本節では世帯の概念と、本研究の対象地であるアフリカの世帯の特徴を検討した。本研究は世帯内の資源分配をめぐる夫妻間の意思決定プロセスを対象としているため、まずアフリカの世帯の特徴として挙げられる、食料の生産や加工・販売等生産活動に明確に性別役割分業がある事、収入を世帯内でプールしない事、労働力や所得、生産物の世帯内でのやり取りに対価を払う事例を検討した。そして、このような世帯の特徴があるにもかかわらず、開発援助が世帯を一つの単位と捉え、世帯を対象とした技術移転や物資配布のプロジェクトが当初の目的を果たせていない事例を示し、世帯を支援の対象として扱う援助機関のアプローチの問題を示した。本研究では世帯内意思決定から、女性が望む資源を獲得する要因を明らかにする事を目的としているため、開発援助が世帯内のジェンダー格差をどのように捉え、どのように取り組みを行っているか検討した。近年は開発援助機関が世帯内のジェンダー不平等な関係に着目し、女性が資源をコントロールする事で子ども

の福祉や教育にプラスの影響がある事を示し、世帯の意思決定において女性の発言力を増す事が、健康や教育、食料の確保に必要という考えに基づいて取り組んでいる事が分かった。

2-2　ジェンダーと開発アプローチ

本節では、まず本研究で扱うジェンダーに関する概念を説明する。次に世帯内の不平等な力関係の存在が、ジェンダーと開発アプローチの変遷の中で、どう認識され、どのように是正に向けた取り組みが行われてきたのか検討する。

2-2-1　ジェンダー役割と力関係

ジェンダー役割

「ジェンダー」とは生物学的性差を指す「セックス」と区別して、社会的・文化的な性差を指す。ジェンダーは非対称な力関係を内包しており、「差異化という日々の言説実践が権力関係を生んでいく」事によって「差異」は解消されないが、「固定的な実体でも運命でもない」（上野 2002,3-31）。大沢（2002,23-24）は上野（2002）のジェンダー論を整理し、「ジェンダーとは、男/女らしさについての通念、男/女とはこういうものという通念であり、社会を階層的に組織するうえで、いちばんもっともらしくつかわれる区別である」「ジェンダーは異なっているが対等だという類の区分ではなく、タテ型の階層制そのものであって、いうまでもなく男が標準、普遍、主であり、女は差異をもつ者、特殊、従である」とする（大沢 2002,23-24）。

ジェンダー役割とは、ある社会の中で規範と伝統に従って、男性と女性がどのように行動すべきか、どのように考えるべきか、どのように感じるべきかに関わる事である。継続して変化するもので、文化により異なる（Groverman 2001,9-12）。ジェンダー役割は社会的アイデンティティと帰属を統合したものであり、母親である事、父親である事という役割は、権利と義務の合わさったものである。どちらの役割もある行動と社会的価値に結び付けられており、相応しい行動が観察されない場合は、社会において承認されない。例えば母親が子どもの世話を怠ったり、父親が家族に必要な物を供給しなければ、コミュニティによって罰せられたり追放される事もある。このようなジェンダー役割はコミュニティ内部でも多様であり、又、時代によって変化するものである。（Parker,Lozano,et.al. 1995,4-5）。

一方、性別役割分業とは、ある社会が女性と男性に対して、女性に相応しい、或るいは男性に相応しい異なる役割、責任、活動を割り当てる事である。ジェンダー役割は性別役割分業に影響を与えている（Parker,Lozano,et.al. 1995,4-5）。ジェンダー役割（Gender Roles）と性別役割分業（Gender Division of Labour）を同義に扱う文献も見られるが、本研究では、ジェンダー役割が性別役割分業に影響し性別役割分業の内容を規定するものと捉えるため両者を区別する。性別役割分業は役割、責任、活動に関するが、ジェンダー役

割はより広義に、男性又は女性に対して社会の中で相応しいとされる考え方や感じ方も含まれ、そのような認識が性別役割分業という具体的なタスクを規定する。モーザ（1996）は、女性が農業やインフォーマル部門での活動等何らかの生産活動に携わりながら、家事や育児という世帯員の労働力を維持して子どもを産み育てるという再生産の役割を持ち、更にコミュニティの共同で消費する資源の管理のような無償で余暇に自発的に行うとみなされる役割、という三重の役割に従事しているという。一方で男性は生産活動とコミュニティの政治的な活動に携わり、コミュニティ活動は報酬や社会的地位等が与えられ、女性の無償のコミュニティ活動とは異なると指摘している（モーザ 1996,50-61）。社会の中では生産的活動だけが労働として評価されるため、女性が従事する再生産活動やコミュニティ管理の活動は「行うべき当たり前の労働」であり、生産的でないため価値のないものとして評価されない（モーザ 1996,129）。

ジェンダー役割が性別役割分業に影響し性別役割分業の内容を規定し、労働は誰が行うかによって異なる価値を与えられる。男性の労働と女性の労働は異なる価値が与えられ、男性の労働の方が、より所得の多い仕事である事が多い（Parker,Lozano,et.al.1995,6）。より価値があるとみなされる労働や役割は、意思決定や便益、サービスへのアクセスを容易にし、アクセスが容易である事はパワーの蓄積に繋がる。従来のジェンダー役割規範が持続すると、既存の力関係をサポートし、既存のジェンダー役割を強化する。このようにジェンダー役割と力関係は循環するサークルの中で生みだされ、維持・強化されていく。ある社会におけるジェンダー役割は固定的でなく変化するものであるが、ジェンダー役割が変わる事によって、ジェンダー役割を受容し、どのような役割が正当とみなされるかも変わる（Groverman 2001,10-11）。

ジェンダー関係

ジェンダー関係（Gender Relations）とは、男性と女性の間の社会的関係である。ジェンダー関係は協力、つながり、相互扶助、対立、別離、競争、相違、不平等という関係を同時に含み、男性と女性の間でどのように力が分配されているかに関係する。ジェンダー関係は時代や場所、異なる集団間によって様々に変化する。又、階級、人種、民族、障がい等のジェンダー以外の社会関係によっても変化する（March, Smyth et al. 1999,18）。ジェンダー関係は「非対称の力関係」を内包した関係であり（上野 2002,16-19）、どんな行動が価値づけられ、誰が資源へのアクセスとコントロールを得るかは、このような力関係を通じて決められる（Groverman 2001, 10-11）。本研究で扱う世帯内の関係はジェンダー関係であり、世帯内の資源の分配は、このジェンダー関係に内包された「非対称の力関係」という社会的関係を持つ世帯員の間で行われる。

ジェンダーに基づく社会関係を表す概念に「家父長制」がある。家父長制とは「非対称的な性と世代の変数の中で、男性・年長者に権威が配分されるようなシステム」である（上野 1990）。「家父長制」という概念は社会学においてはウェーバーの示した伝統的支配の

典型例としての家父長制（Patriarchalism）があるが、これは血縁関係に限らず、伝統に拘束される絶対的権力を持つ君主と服従する臣民という政治的支配の形態を表すものとして使われ、又、文化人類学においては、家父長制（Patriarchy）は母権制（Matriarchy）の対語であって、「父が権力を持つ」という家族形態を表している（瀬地山 1990, 51-57）。フェミニズムでは様々な解釈があるものの共通する事としては、Patriarchy を、権力を握る主体の性別を示すものと考え、この権力の性別、権力のありよう、行使のありかたを問題にしている（瀬地山 1990）。瀬地山（1994）は上野（1990）の定義に「役割」を加え、「性に基づいて権力や役割が不均等に配分された規範と関係の総体」と定義している（瀬地山 1994,298）。このように、ジェンダー関係は「非対称」で「不均等」に力が分配されている社会関係である。

2-2-2 WID と GAD アプローチの変遷

経済開発が進むにつれ、開発の恩恵は女性と男性に違うように影響し、女性には負の影響を与える場合があると指摘され始めた。そして 1970 年代には、開発課題に「開発と女性（WID:Women in Development）」が登場した。この女性への負の影響の原因を Boserup（1970）は、女性が生産活動に従事しているにもかかわらず、主に自家消費用作物の生産活動であるため市場での価値を受けず、その貢献が不可視であり統計にも開発プロジェクトの計画にも認知されないためと考えた（Boserup 1970）。そのため女性は開発プロジェクトにおいて、例えば新技術の導入や技術訓練の対象とならず、開発の過程から除外されていた。女性は「まだ使われていない資源」であり「開発過程に統合する」事で開発の効率性を高められるとみなされた（村松 2005,50-55）。WID アプローチは女性の状況を改善するために女性対象の活動に焦点が当てられた。このような WID アプローチは、男女の不平等な関係や固定的な性別役割分業を是正するものではない、という限界が次第に明らかになった。これらの限界を踏まえて、1980 年代には「ジェンダーと開発（GAD:Gender and Development）」アプローチが登場し、女性が男性に従属する社会的関係が作られる過程に注目するようになった（モーザ 1996,21-32; 村松 2005,50-55）。

モーザは WID と GAD の様々なアプローチを、1) 福祉アプローチ、2) 公正アプローチ、3) 貧困アプローチ、4) 効率アプローチ、5) エンパワーメントアプローチの 5 つに類型化した。又、田中（2002）は世界銀行の報告を基にジェンダー主流化・ジェンダー平等アプローチを加えている。それぞれのアプローチの概要を簡単に述べ、これらのアプローチが、本研究で扱う世帯内の格差にどのように取り組んだか検討する。尚、アプローチの変遷や分類そのものは分析の対象とはせず、世帯の捉え方、世帯内格差への対応に注目する。

福祉アプローチ

福祉アプローチは 1950 年代から 1960 年代にかけて実施され、女性を「良き妻」「良き母」と捉え、家族の福祉を担う役割を持つ対象と位置付けた。女性は開発過程に主体的に

関わる存在ではなく、受動的な受益者と捉えられ、女性の役割は育児等再生産的役割にあるとみなした。第二次世界大戦後の救援活動から始まり、無償で物資やサービスをトップダウンで直接供給し、女性は孤児や障がい者と共に「弱者」グループに分類された。このような食料援助や栄養改善プログラム、家族計画プログラムは女性の自立を促す事なく依存心を生ませた（モーザ 1996,90-95）。又、難民キャンプにおける福祉アプローチでは女性が大多数で、女性が世帯主として子どもや高齢者を扶養している場合もあるが、世帯主の妻という地位しか認められなかった（村松 2005,59）。このように福祉アプローチにおいては女性の再生産役割だけに焦点が当てられたが、これは開発を実施する側が女性の生産者としての役割に気付けなかったためである（萩原 2005,258）。1970年代までには福祉アプローチが女性にマイナスの影響を与えるという批判が起こり、次の「公正アプローチ」が生まれた。しかし、福祉アプローチは政治的な反発がなく、現在でも広く受け入れられている（モーザ 1996,90-95）。

福祉アプローチにおける「世帯」は、前述の難民キャンプの例や女性を「良き妻」「良き母」とみなす事から、男性を世帯主とする夫妻と子どもという単位とし、食料援助等の受け皿という扱いである。世帯内の不平等な力関係は認識されず、女性は「弱者」として認識される。そのため世帯内の不平等を改善しようという取り組みは見られない。

公正アプローチ

公正アプローチは、1976年から1985年の「国連女性の10年」の間に導入されたWIDアプローチの最初のものである。女性は生産活動と再生産活動の両方に携わり、開発に積極的に参加する主体として捉えられた。公正アプローチは性別役割分業における男女の不平等の是正に特に焦点を当て、開発と平等の理念を結び付け、男性よりも不利な立場にある女性の状況を変えようとした（モーザ 1996,95-100）。しかし男女の不平等な関係を是正する事は当該社会の伝統への干渉を意味し、援助機関からは「文化への非干渉」を理由に、途上国側からは「西欧フェミニズムの押しつけ」という反発を受け、公正アプローチは広まらなかった（村松 2005,60-61）。

公正アプローチは世帯内外における男女の不平等と女性の従属的地位を問題の中心に据え、その是正のために離婚や子どもの保護に関する権利、財産権、選挙権等女性の法的平等がトップダウンで目指された（モーザ 1996,95-100）。このアプローチでは女性を男性と対等に位置付ける事を目指しており、世帯内の不平等な力関係は認識されていた。しかし実際に改善に向けた取り組みは前述のように反発があったため後退した。

貧困アプローチ

貧困アプローチは1970年代以降に導入され、女性の貧困の原因を女性の従属的地位ではなく、十分に開発されていない為とみなし、貧困層女性の生産性向上を目的とした。このアプローチは第一次国連開発の10年が失敗に終わり、近代化論に基づいた経済成長の

利潤のトリクル・ダウン効果が貧困層に及ばなかった事から、開発援助機関が衣食住、燃料、教育、人権、雇用等「人間の基本的ニーズ」を充足する戦略に政策を転換した事に関連する。男女の経済的不平等は貧困のためと考えられ、収入の不平等を削減しようという考えから、女性を対象にした小規模の所得創出プロジェクトへと繋がった（モーザ 1996,100-104）。このような小規模の所得創出プログラムの根拠となったのは、「女性の貧困と男女間の不平等は、土地や資本の所有とアクセス（保有・利用）、労働市場での性による差別から生まれる」という仮定である（村松　2005,62）。このような小規模な所得創出プロジェクトは、女性が生産活動に携わる事を認めているが、再生産的役割を見落としてしまい女性が家事労働と所得創出の活動で労働の負担が増してしまった。又、既存の性別役割分業を維持し、不平等な力関係を変革するものでもなかった（モーザ 1996,100-104）。

貧困アプローチでは男女の不平等でなく収入の不平等が着目され（モーザ 1996, 100-104）、開発援助の対象として「貧困層」の中に男性も女性も括られ、何らかの資源が配給される際は世帯や家族を単位として実施していた（モーザ 1996,100-104）。

効率アプローチ

効率アプローチは1980年代の債務危機以降に導入され、女性の経済貢献によって開発を効率的効果的に行う事を目指すもので、女性が経済活動に参加すれば女性の平等に繋がるという前提である（モーザ 1996,104-108）。債務危機の救済策として発展途上国に課せられた構造調整政策の実施により教育や保健等の社会サービスの低下を招いたが、それを女性の無償労働による参加で満たそうとするものであった（村松 2005,62-64）。効率アプローチは構造調整政策の目的であった効率と生産性の向上に合致し、援助機関も途上国政府も女性政策として支持した（モーザ 1996,104-108）。女性は活用出来る資源であり、健康の改善、家族計画の推進、教育の向上により「役に立つ資源」になると捉えられ、これらの開発プロジェクトが計画・実施された（田中 2002,28-41）。

Elson（1991）は構造調整政策には3つのバイアスが見られると指摘する。1つは女性が従事する再生産活動を見落としており、女性の無償労働が無限に利用可能かのように捉える事である。2つ目は輸出を指向する政策の中で女性の時間のバランスが考慮されていない点である。例えば輸出指向産業に女性が労働力として携わる一方で、失業した男性は家事労働に携わらず、女性の労働時間は長くなった。3つ目は、世帯は世帯全員の厚生の最大化を目的とし、世帯内では資源は平等に分配されるという考えである（Elson 1991）。

効率アプローチは、Elson（1991）が指摘したように「世帯」を、厚生最大化を目的とする組織と捉え、世帯内部の不平等な力関係を認識していない政策に適合するものである（Elson 1991）。又、女性が従事する再生産活動を無限の無償労働とみなす事からも、世帯内の不平等な力関係を見落としている。

エンパワーメントアプローチ

エンパワーメントアプローチは1980年代中頃に発展途上国の女性運動の中から生まれてきたもので、男女の不平等や世帯内での女性の従属的な地位を認識し、社会の中での力の再分配による女性のエンパワーメントを指向する（モーザ 1996,109-115)。女性の従属的な地位を男性との社会における関係性だけでなく、植民地化の影響もあるとする。女性は「変化の担い手」であり、公正アプローチのようにトップダウンの法制度変革で女性の従属状況を変えていくのではなく、女性達自身が組織化したり継続的に運動したりという活動を通じて、ボトムアップの参加型で変革していくものである（村松 2005, 64-67)。

エンパワーメントアプローチはGADアプローチに分類され、ジェンダー間の不平等を是正する事が開発の促進に繋がるという基本的な考えに立ち、不利な立場にある男性・女性双方が力をつける事を目的とする。又、女性を均質と捉える事なく階級や階層、貧富の差にも注目して対象社会を分析する事を重視している（荻原 2005,261)。

ジェンダー主流化・ジェンダー平等[11]アプローチ

1995年に開催された第4回世界女性会議を機に、援助機関・政府の中でジェンダー主流化アプローチが促進されてきた。ジェンダー主流化とは「ジェンダー平等の視点に立って、組織の全ての政策、開発プログラム、組織の運営に関連した総務（例えば雇用者の男女比率、福利厚生や労働条件等)、財政面における手続き等を重要課題と認識し、組織自体の体制及び意識変革を促進する」事である（田中 2002,39)。このアプローチでは「持続的で人間中心の開発」には「男女間のより平等な機会と便益の共有、及び協調」が前提である（田中 2002,39)。

表2-1は、これらのアプローチの変遷をまとめたものである。

---

[11]「ジェンダー平等とは、男性と女性が同じになることを目指してはいない。人生や生活において、様々な機会が男女均等である事を目指すものである。また、ジェンダー平等といっても、すべての社会や文化に画一的なジェンダー平等モデルを強制するものでもない。ジェンダー平等の意味するところを男性と女性が共に考えて選択する機会を均等に有し、そのジェンダー平等を達成するために男女が協同で取り組むという考えである。現在は明らかにジェンダー格差が存在しているので、男女を平等に扱うのみでは不十分である」(OECD “DAC Guidelines on Gender Equality” JICA課題別指針「ジェンダーと開発」より 2009)。

表 2-1　開発と女性アプローチの変遷

主な国連会議	年代	段階	アプローチ	女性の位置付け	主な目的	世帯の扱い
女性差別撤廃条約	1950~1970	初期	福祉アプローチ	弱者として母・妻 開発の受益者	母子保健・婦人対策	1つの単位 援助受け皿
	1970～	WID	公正アプローチ	開発の受益者/担い手	開発への統合 男女平等	世帯内の不平等を認識
第 1 回世界女性会議/国連女性の 10 年	1975~1985	WID	貧困アプローチ	貧困女性	基本的ニーズの充足・収入向上・小規模融資	「貧困層」の世帯として 1 単位
第 2 回世界女性会議/第 3 回世界女性会議	1980~	WID	効率アプローチ	開発の人的資源、開発を効率的に行う手段・道具	女子教育、健康改善、家族計画	世帯全体の厚生最大化を目的とする 1 単位
地球サミット/国連人口開発会議	1990~	GAD	エンパワーメントアプローチ	開発の主体（発展途上国の女性、NGO からの提言）	男女のエンパワーメント 参加型開発	世帯内の不平等を認識
第 4 回世界女性会議	1995~	GAD	ジェンダー主流化・平等アプローチ	男性と対等な立場で開発過程に参加する	男女のパートナーシップ	世帯内の不平等を認識

（荻原（2005）“開発は女性を解放したか”「ジェンダーで学ぶ文化人類学」田中・中谷編　P257 を、田中（2002）”「開発と女性（WID）と「ジェンダーと開発」（GAD）”　「開発とジェンダー」田中、大沢、伊藤編　を参考に一部筆者修正（効率アプローチを原文では WID/GAD だが、田中（2002）、村松（2005）に従い WID に修正した）

以上、世帯内の不平等な力関係はジェンダーと開発アプローチの変遷の中で、どう認識され、どのような取り組みが行われてきたのか、WID アプローチ・GAD アプローチの変遷のレビューを通して検討してきた。初期の福祉アプローチでは世帯は一つの単位であり援助の受け皿という扱いであった。その後、WID アプローチ初期の公正アプローチでは世帯内の不平等な力関係を認識しトップダウンの法改正で是正に取り組んだが、伝統文化への干渉とみなされ反発を受けた。その後の貧困アプローチ、効率アプローチでは世帯は一つの単位と扱われ、男女の経済的不平等を女性が収入を得る事で対応しようと、女性対象の所得創出プロジェクトに繋がった。WID アプローチは男女の不平等な関係を是正しないという限界から、不平等な力関係が作られる過程に着目した GAD アプローチでは、世帯内の不平等を認識し、女性自身の組織化や活動を通じた変革に取り組んでいた。

次節では、女性の経済力向上への取り組みとして実施されてきた所得創出プロジェクトについて背景と変遷をレビューし、開発プロジェクトが、世帯内のジェンダー関係と女性の所得創出をどのように扱っているのか検討する。

2-3 女性の経済力向上への取り組み

2-3-1　女性の所得創出プロジェクトの背景と変遷

1972年に当時の世界銀行総裁R.マクナマラが貧困撲滅を掲げた事で、国際機関のなかで「所得創出計画（Income generating projects）」と呼ばれる施策が登場する。特に貧困層の女性がターゲットとなり、女性の所得創出プロジェクトが奨励された（伊藤 1995,64-65）。女性を対象とした所得創出プロジェクトは政府機関、各国援助機関、NGO等により各地で実施されてきた。低収入の女性を対象とした直接的な介入は、国連女性の10年（1975年から1985年）が定められた1975年以降はずみがつき、女性の経済参加の増加を目標に国連システムの中で特別な予算が組まれ、数多くの女性の所得創出プロジェクトが計画された（Buvinic 1986）。

しかしこれらの「所得創出計画」は女性が携わると考えられていた洋裁や編み物等の生産活動によるものが多く、従来の性別役割分業を維持するような活動となった（伊藤 1995,64-65）。又、貧困層の女性向け所得創出プロジェクトはNGOによって実施される小規模なプロジェクトや、開発援助機関によるプロジェクトの場合は贈与によって実施される傾向があった。男性向けの小規模事業プロジェクトと女性向けの所得創出プロジェクトを区別する事も多く、女性の所得は補助的な収入、「お小遣い稼ぎ」程度と考えられていた（モーザ 1996,102-103）。更に女性の生産活動を強調したため、家事や育児等女性が従事している再生産活動やコミュニティでの無償の活動の負担が見落とされ、女性の労働負担が増大した（伊藤 1995,64-65; モーザ 1996,102-104; 村松 2005,60-64）。

このように女性を対象とした所得創出プロジェクトは、女性が経済活動に携わる事を目的としていたはずが、3つの原因から実施の段階で福祉を目的とする活動に替わり期待外れのものとなった。第一に女性を対象とする介入のあり方が生産活動よりも社会的な活動の達成となっていた事、第二に、女性対象プロジェクトを実施する福祉分野の女性組織に担われた事、第三に福祉を志向する団体の多くは、女性組織で財政的な力が弱い事、これらの原因により女性の所得創出プロジェクトは福祉志向のプロジェクトへ変わってしまった（Buvinic 1986,665-661）。

2-3-2　女性の所得創出プロジェクトの課題

多くの所得創出や信用貸付のプロジェクトは、女性がグループを形成する事を奨励してきた（Kabeer 1994,30-33; モーザ 1996,109-115; ヌスバウム 2005,336-343）。しかし、グループを形成して所得創出に携わる事は、個人で携わるよりも生産的だろうか。

ウガンダ南西部の農村社会において、9人から20人のメンバーから成る8つの女性の所得創出グループと、個人で経済活動に関わる12人の女性を比較したところ、個人で活動する女性の方がグループよりも経済的に成功していた。グループは官僚的な手続きや社会関係を維持する必要から、生産性が妨げられていた。開発援助機関はグループ活動の利点を収入以外の点、例えばメンバー同士の相互扶助やスキル研修、リーダーシップの養成に

見出し、女性のエンパワーメントのプロセスとして重要だと捉える。グループのメンバーは真面目に記録付けをしたり、グループミーティングに出席したり、多くの時間をこれらの活動に費やしていた。又、グループメンバー間の良い関係を維持しなければいけないという思いから、決定を避けたり遅らせたりする事があり、所得創出活動の販売の好機を逃していた（Pickering, Kajura et al 1996）。

所得創出や信用貸付のプロジェクトは男性と女性の力関係を変えるかもしれない。しかし所得にアクセスがある事が、資源のコントロール力を持つ事や社会経済政治的意思決定に参加する事を意味しない（Longwe 1991; Endeley 2001,39）。カメルーンのモハモ社会では、女性は結婚前に所得や他の資源をコントロール出来ていたが、結婚後は地位やコントロール力よりも婚姻関係を重視している。モハモ女性は経済に関する自己決定力よりも既婚女性であるという地位に価値を置いている。そのため大多数のモハモ女性は伝統的な権力関係に挑戦しようとはしない。又、男性も女性も、女性の所得創出活動への参加を歓迎するが、一方で女性が伝統的な活動と既存のジェンダー役割に従い続ける事を当然視している（Endeley 2001,39-40）。

アフリカの一夫多妻制の多くの社会では、女性は自分と自分の子どもの食料・養育に責任を持ち、夫は程度の差はあるが妻に手当てを渡す程度である。このような不確実さのために女性は自分の自立性を最大化しようと努力する（Kandiyoti 1988）。しかし女性は収入の程度を考えなければならない。ナイジェリア南部のヨルバ人の女性は自身の所得を管理出来るが、世帯内の意思決定力は低い。西洋では女性の経済力の向上・経済的自立が良いものとされるが、ヨルバの世帯では、家族の規範にネガティブな影響を与えられるものとされ、良いものとは取られない。妻も夫も相手の収入や財について知らず、お互いに隠している。妻は自分に収入があっても、世帯に必要な物を夫が支出するように自分の収入についての情報を隠す（Staveren and Odebode 2007,920）。ヨルバ人の女性が自分の収入から世帯のために費やす収入の割合は男性よりも高く、男性の収入は男性の個人的な消費に費やされる。理想的な男性性は、家長として家族を存続させ、男性の地位を保つシンボルとして機能する事である。女性の多くは、夫は妻が世帯への貢献額を増やしている事を知れば、夫自身の貢献額を減らすと思っている。又、多くの女性は本来夫が支出する事になっている費目も女性自身が出費する。父親に子どもを養育する権利があるため、男性が世帯ニーズを減らす事に対して女性が仕返しをしたり、夫を捨てて出ていったりという選択が難しい。子どもと離れなくてすむように女性は夫と良い関係を保とうとする（Staveren and Odebode 2007,924）。

所得創出プロジェクトの目的は女性の所得創出・所得向上である。しかし女性の経済的役割が増大する事は、女性の地位の向上の必要条件となっても、十分条件ではない（Deere 1976,15）。開発援助においてジェンダー格差改善が課題となり、女性の生活向上・地位向上のために女性を対象とした所得創出プロジェクトが行われてきたが、実際に所得を得ている女性は、どの程度、世帯内の意思決定に関わっているだろうか。

2-3-3　世帯内の所得管理と意思決定

本項では、所得のある既婚女性が、どの程度世帯内の意思決定に参加しているか、統計資料から検討する。DHS[12]では各国の女性の世帯内意思決定への参加を測定している。国により質問項目に多少の相違があるが、多くの国の場合は次の項目が質問されている。1) 妻自身のヘルスケアについて、2) 世帯内の食料や日用品等の買い物、3) 世帯内の主要な買い物（土地や家屋、家畜等）、4) 妻自身が病院やセレモニーに出席する等外出の許可、5) 子どもの教育、である（NDHS 2008 及びDHS のウェブサイト[13]）。Kabeer（1999）が取り上げた世帯内意思決定の範囲とDHSが測定している項目の共通点として、どちらも世帯の日常生活に起こりうる出来事に対応するための資源の分配に関連している。本研究が取り上げているのは資源分配をめぐる世帯内意思決定であり、これらの項目を適用する。

下記の表 2-2、2-3 は DHS の 10 カ国の結果を抜粋したもので、回答者は 15 歳から 49 歳の既婚女性である。表 2-2 は、妻自身が得た所得及び夫が得た所得の用途を誰が決定していると妻が認識しているかを示している。1) 妻が主に決める、2) 夫妻が共同で決める、3) 夫が主に決める、という 3 パターンで分類している。西アフリカの 2 カ国（ナイジェリア、ガーナ）は、妻が妻自身の所得の用途の主な決定者であり、夫の所得用途は夫が主に決めていると妻は認識しており、夫妻で所得を共有して管理しない事が伺える。エジプトでは妻の所得も夫の所得も夫妻でその用途を決定する割合が多い。その他の国では妻の所得の用途は妻自身が決めるという回答と、夫妻が共同で決めるという回答に分かれている。又、妻の所得の用途よりも夫の所得の用途の方が、夫妻で話し合って決めている場合が多い。

表 2-2　妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者

	妻所得の用途決定者(%)			夫所得の用途決定者(%)		
国名	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ナイジェリア	**66.4**	19.3	13.2	5.8	24.1	**69.6**
ガーナ	**57.9**	35.5	6.1	7.3	37.3	**55.2**
エチオピア	35.9	**55.0**	8.4	2.2	**74.6**	22.5
ケニア	42.3	**48.8**	8.8	6.9	**53.4**	39.4
ナミビア	39.4	**49.5**	9.9	15.7	**57.4**	26.3
レソト	36.5	**57.9**	5.1	20.2	**62.8**	15.8
エジプト	19.9	**72.9**	2.2	2.7	**70.9**	21.9
ヨルダン	37.6	**58.9**	3.5	-	-	-
バングラデシュ	30.5	**56.2**	11.8	-	-	-
フィリピン	41.4	**54.0**	4.1	27.0	**63.3**	9.5

（2006 年から 2012 年までに実施された人口保健調査から西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカから

---

[12] 人口保健調査（Demographic and Health Survey）は USAID(米国国際開発庁)の支援で 1984 年以来実施している世界的規模の保健に関する調査。2012 年までに 90 以上の国で 260 を超える調査を実施した。

[13] 人口保健調査(DHS)のウェブサイトは http://www.measuredhs.com/ （2012 年 12 月 4 日アクセス）。DHS ではジェンダーに関する調査項目があるが、1999 年以降の調査では世帯内の意思決定に関する質問として上記の質問項目が加えられている。

2 カ国ずつ、中近東 2 カ国、南アジア、東南アジアを各 1 カ国選び抜粋した。尚、中南米各国の調査報告書はスペイン語のため、又アフリカのポルトガル語圏もポルトガル語の報告書で筆者には読解出来ないため対象から外した。太字筆者）

表 2-3 は既婚女性が認識する世帯内の意思決定者である。「主要な世帯の買い物」は土地や家屋、家畜等の購入、「日常の世帯の買い物」は日々の食料品や日用品の購入を意味する。それぞれ異なる分野における意思決定を、1) 妻が主に決定する、2) 夫妻が共同で決定する、3) 夫が主に決定する、という 3 パターンに分けている。意思決定の対象となる話題によって、意思決定者が異なっている。多くの国で「日常の世帯の買い物」は妻が主な意思決定者であり、「主要な世帯の買い物」や「妻の家族・親戚訪問」は夫妻で決めたり夫が決めたりしている。ナイジェリア、ヨルダン、エジプト、バングラデシュにおいては、後者の 2 項目の意思決定は特に妻が主な決定者である割合が低い。表 2-2 からはナイジェリアとガーナにおいて妻は妻自身の所得の管理をする割合が高かったが、表 2-3 からは世帯内の意思決定への妻の関わりは他の国に比べて低い事が分かる。本研究の対象地であるナイジェリアでは、妻が意思決定者の割合が低いだけでなく、夫妻で決定するという回答よりも夫が意思決定者であるという割合が、どの項目においても他の国と比べて高い。一方、妻自身の所得の用途を妻自身が決定するより夫妻で決定する割合の高いエチオピア、エジプト、バングラデシュでは、妻自身が意思決定をする割合はナイジェリア同様に低いものの、夫が意思決定者であるという割合よりも夫妻で決定するという割合の方が高い。この事から、女性が自身で所得を得て管理する事が、必ずしも世帯内の意思決定を女性がする事には繋がらない事が分かる。

表 2-3　妻が認識する世帯内の意思決定者

	妻自身の ヘルスケア			**主要な世帯の 買い物**			**日常の世帯の 買い物**			**妻の家族・親戚訪問**		
国名	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ナイジェリア	9.8	33.8	55.7	5.7	31.9	61.6	16.7	32.9	49.7	11.2	43.6	44.4
ガーナ	25.0	43.8	30.3	20.3	42.0	36.6	44.4	35.2	19.3	22.9	60.4	15.7
エチオピア	13.4	61.0	24.9	5.8	60.4	32.8	-	-	-	17.2	60.6	21.3
ケニア	27.9	45.4	26.4	13.9	52.9	32.8	50.4	31.7	17.5	21.7	51.4	26.3
ナミビア	44.8	39.2	15.2	22.8	52.2	23.8	40.6	40.5	17.8	24.7	53.6	20.4
レソト	44.1	38.4	14.9	15.1	63.1	17.4	73.8	17.9	4.3	31.9	34.3	28.7
エジプト	25.6	61.2	11.8	4.7	49.8	40.0	43.9	34.0	15.5	9.4	72.6	16.5
ヨルダン	46.2	44.4	9.0	11.0	59.6	28.4	31.4	43.0	24.0	11.4	73.6	14.4
バングラデシュ	13.8	42.0	32.3	8.5	47.7	25.3	32.6	31.0	18.8	12.6	46.1	25.8
フィリピン	49.6	44.0	6.1	20.7	64.8	13.6	59.1	33.3	6.5	22.5	70.3	6.8

（各国の DHS より抜粋。対象の 10 カ国の選抜理由は表 2-2 と同様。単位は％）

下記の表 2-4、2-5 は西アフリカ 8 カ国の DHS から前述の表 2-2，2-3 と同じ項目を抜粋したものである。表 2-4 は妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者を示しているが、シェラレオネ、リベリア以外は、妻は妻の所得をコントロールし、夫は夫の所得をコントロールすると認識している妻の割合がかなり高い事が分かる。特にセネガル、マリ、ニジェール、ベナンでは妻が妻所得をコントロールしていると認識する妻が 80%を超え、夫妻が共同で決定する、配偶者が決定すると認識する。

表 2-4　妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者(西アフリカ)

	妻所得の用途決定者（%）			夫所得の用途決定者（%）		
国名	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ナイジェリア	66.4	19.3	13.2	5.8	24.1	69.6
ガーナ	57.9	35.5	6.1	7.3	37.3	55.2
セネガル	81.7	8.7	8.5	5.1	10.7	83.1
マリ	86.9	6.0	5.4	-	-	-
ニジェール	85.4	9.2	5.0	-	-	-
シェラレオネ	34.2	37.1	26.5	5.3	40.4	52.3
リベリア	21.8	54.0	22.8	7.7	59.7	30.7
ベナン	86.6	9.8	3.2	-	-	-

（各国の DHS より抜粋。対象の 10 カ国の選抜理由は表 2-2 と同様。単位は%）

表 2-5 は、表 2-3 と同様に女性が認識する世帯内の意思決定者である。表 2-4 では、シェラレオネ、リベリア以外の国では半数以上の女性が、女性自身の所得のコントロールをしている。しかし表 2-5 から明らかなように、既婚女性は自分自身のヘルスケアに対しても意思決定を自分で行わないだけでなく、夫と共同の意思決定をしない女性も多く、夫が主な意思決定者という回答がナイジェリア、セネガル、マリ、ニジェールでは半数を超えている。「主要な世帯の買い物」「日常の世帯の買い物」「妻の親戚訪問」に関しても、この 4 カ国は夫が主な意思決定者という回答が特に多く、妻は夫と共同の意思決定にも携わらない割合が多い。そしてこの 4 カ国はいずれも女性が自身の所得をコントロールしている割合が高い。このように西アフリカの国々でも、女性が所得を得て管理出来ても、世帯内で意思決定に繋がらない事が分かる。

表 2-5　妻が認識する世帯内の意思決定者（西アフリカ）

	妻のヘルスケア			主要な世帯の買物			日常の世帯の買物			妻の親戚訪問		
国名	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ナイジェリア	9.8	33.8	**55.7**	5.7	31.9	**61.6**	16.7	32.9	49.7	11.2	43.6	44.4
ガーナ	25.0	**43.8**	30.3	20.3	**42.0**	36.6	**44.4**	35.2	19.3	22.9	**60.4**	15.7
セネガル	12.7	17.9	**66.2**	7.5	18.6	**61.6**	-	-	-	14.2	26.7	**52.9**
マリ	12.0	6.0	**71.8**	12.0	7.6	**68.0**	19.1	8.4	**60.5**	23.6	8.6	**57.3**
ニジェール	17.1	7.0	**71.5**	7.6	5.8	**81.0**	11.3	7.4	**76.5**	14.7	8.2	**72.2**
シェラレオネ	11.8	39.7	**46.7**	9.6	39.4	**49.4**	25.3	38.0	34.8	13.1	**48.1**	37.4
リベリア	-	-	-	34.8	40.0	24.2	**64.4**	26.3	7.9	23.3	**55.6**	20.4
ベナン	21.2	**44.6**	31.3	13.3	**52.2**	30.3	29.4	34.1	32.2	26.3	30.1	40.2

（対象 8 カ国の選定は表 2-4 と同様。単位は%。太字筆者）

本節では、女性の生活向上・地位向上を目的として盛んに行われてきた女性の所得創出プロジェクトの背景と課題を検討した。その結果、女性が所得を得て経済力を向上させるが、既存のジェンダー役割や力関係に従う事例もあり、女性の経済力向上が女性の地位向上に繋がるとは限らない事が示唆されていた。又、女性の所得獲得と世帯内での女性の意思決定の状況を統計資料から検討し、女性が所得を得て管理している割合が高い国でも、女性が世帯内で意思決定をする割合が高いとは限らない事が明らかになった。しかし、本節でレビューした例からは、女性の所得獲得がジェンダー役割や力関係、意思決定プロセスにどのような影響を与えたのかは明らかではない。Whitehead（1981）は「婚姻契約（conjugal contract)」という用語で、世帯内で夫と妻が物資（goods)、所得、労働力を含むサービス等を交換する事を表した。夫妻双方によって生産された生産物や所得は、夫妻の個人的又は世帯のニーズを満たすために分配される。しかし夫妻の間には不平等な力関係があり、この不平等な力関係は生産物、所得、サービス等が世帯内で分配される事により更に明白になるため、夫妻間には利益の葛藤が伴う。このような世帯内の個々人の関係は、世帯外の構造的地位を反映し、男女の経済的・社会的地位の違い、ジェンダーによるイデオロギーによって形成されている（Whitehead 1981,93-116)。

このように夫妻間には不平等な力関係があり、世帯外のジェンダー格差に影響されている。このジェンダー格差の改善のために女性を対象とした所得創出活動が盛んに実施されたが、女性が従来の主要な役割にない世帯外からの所得の獲得に携わる事で、女性/男性の認識や行動は、どのように影響されてきたかを検討する事は、本研究の課題である「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」を検討するために必要である。何故なら、女性が所得を得て管理する事で、世帯内での女性の意思決定力が高くなるとみなされて多くの所得創出活動が実施されたからである。

次章では、世帯内でどのような資源が分配されているか、どのような場合に、女性が資源分配をめぐる意思決定により関わるか、世帯内資源分配に関する先行研究を検討する。

第3章　世帯内資源分配をめぐる意思決定

本章では、世帯内の資源分配をめぐる意思決定に関する先行研究を整理する。世帯を単位として捉える事が世帯内の不平等を見逃している事に注目し、世帯内の力関係が資源分配を決定する事、世帯内意思決定の交渉における交渉力を決めている要素について説明する。尚、世帯内での意思決定は資源分配に関するものに限定する。

3-1　資源とは何か

3-1-1　資源の捉え方

資源を狭義に捉えると、土地・資本・労働力等生産過程に投入される経済的要素である。Guyer（1981）は、人は物質的な資源を獲得するためには、社会ネットワークのような社会的資源や、権力のような政治的資源が必要であるため、従来の土地、資本、労働力を資源とする概念に、政治的資源や社会的資源を含め、資源の概念を広げるべきと捉えた（Guyer 1981,102）。より広義に資源を捉えると、「資源は分析の対象となるシステムの一切の構成要素」で「一般には有用な行為の客体、価値物」であり、「より限定的には、目標達成のための集団的価値を持ち、外部から行為過程に投入される要素」を資源とみなしている。「物的資源には施設や設備をはじめとする有形の生産財や消費財一般が、人的資源には人員、労働力等が、関係的資源には権力や威信、権利、諸制度等が、文化的資源には情報や知識等が含まれる」（新社会学辞典 1993）。「人間が、社会生活を維持向上させる源泉として働きかけの対象となりうる事物」であり、「潜在的可能性を持ち、働きかけの方法によっては増大するし、減少もする流動的な内容を持っている。欲望や目的によって変化するものである」（経済学大辞典 1 1979）。

これらの辞典による定義からは、「有用」で「価値」を持つ「対象」で、「潜在的可能性」があり、働きかけの方法によって流動するという特徴を持つものといえる。

Kabeer（1999,437）は、女性のエンパワーメントを「選択する能力（ability to exercise choice）」と捉えているが、この「選択する能力」の要素を、資源（resources）、行為主体（agency）、成果（achievements）とし、資源は経済学における物質的資源だけでなく、人が選択する能力を強化するために必要な人的社会的資源と定義している。資源は家族、市場、コミュニティという社会を作り上げる様々な制度における社会関係の多様性を通して取得され、現在の配分（allocations）や、将来の請求（claims）・期待（expectations）という形態をとる（Kabeer 1999, 437）。資源へのアクセスは、異なる制度的領域において分配と交換を決める規則や規範を反映する。それらの規則や規範は、ある人々に分配と交換の原則を決める権威を与える。そして「配分可能な（allocative）」資源の分配（distribution）は、「権限を持った（authoritative）」資源の分配（distribution）として内包されている傾向がある（Kabeer 1999,437）。「資源へのアクセス」が女性のエンパワーメントにおいて必要と語られ、あたかも女性が資源にアクセス出来れば、自動的に女性が選択出来るかのように示される事がある。しかし実際には、資源は実現した選択というより潜在力に過ぎな

い。女性が所有する資源の変化が、女性が可能な選択の変化にどのように変換されていくかは、他の側面次第である（Kabeer 1999,443）。又、資源は、行為主体（agency）と共に、Sen が提唱する「人間が、自分が望むような人生を生きる事が出来、機能（functionings）を実現出来る潜在能力」である「ケーパビリティ」を構成する（Kabeer 1999,438）。このように「資源」は「選択する能力」に必要な要素の 1 つとして捉えられ、潜在力を持つものの、実現するかどうかは他の要因に影響されるという見方もある。

佐藤（2007）は「資源」を、「資源の支配権を持つ事が他の資源や財へのアクセスを拡張していくような『可能性の束』」とし（佐藤 2007,92）、「権力や情報・知識、社会関係資本と呼ばれる非物質的な要素も含む」と定義している（佐藤 2008,9）。資源には「手段としての側面と、素材（モノ）としての側面の両方が含まれ、それらがいずれも『潜在力』としてとらえられている（佐藤 2011,16）」。佐藤（2008）は「財」と「資源」を区別し、前者は「人間に直接的な効用をもたらすような有形・無形のもの」、後者は「人々に効用や自由をもたらす可能性を持った、いわば潜在的な価値」を持つものであるとしている（佐藤 2008,12-13）。資源生産物である財は資源が変換されたもので、「資源の持つ様々な可能性から特定の用途を想定して加工（佐藤 2008,12-13）」され、「獲得の対象」と見られる（佐藤　2007,92）。そして「資源」の基盤には「アイデンティティ」があるとする。「アイデンティティ」は「使用する言語や宗教、民族性や居住地への愛着、生業に対する自負と誇り等の、人々の生活に個性とハリを与えている様々な文化的装置」で、「特定の資源に価値をもたせる」（佐藤 2007,92）。佐藤（2007）によれば、「財」の一層下に「資源」があり、その一層下に「アイデンティティ」がある。そして人々の生活の基盤をなすアイデンティティは「守る」対象である（佐藤 2007,92）。佐藤（2010）は 1927 年に内閣資源局を創設した松井春生の資源の分類を紹介している。それによれば、当時の資源の定義には、精神や道徳、体力という質的な要素が人的資源として含まれていたという。佐藤（2010）は、人間を資源の定義に含める考えは戦前・戦中に動員に利用されたため、戦後は資源の定義に含まれなくなり、1961 年の「第 2 回資源白書」に「潜在資源として人間的条件（人口分布と活力等）、顕在資源として人的資源（労働力・志気等）」として復活した事を紹介している（佐藤 2010,312-313）。

佐藤（2008）は、「何に資源を見るかは私達の『見る眼』に依存」し、資源の価値は「人々の工夫によって初めて捉える事が出来」、「人々に効用や自由をもたらす可能性を持つ潜在的な価値」という（佐藤 2008,12-13）。そして特定の資源に価値をもたせるのはアイデンティティである（佐藤 2007,92）。つまり、「資源を見る眼」は、見る主体が有するアイデンティティによって対象を捉える事になる。

以上の資源に関する考え方から、本研究では資源を経済学で言う狭義の資本、労働力、土地という 3 要素だけではなく、経済的資源、人的資源、知識や情報等文化的資源、信頼や権力という社会関係資源も含め、働きかけの対象として広義に捉え、現在の状況だけでなく潜在性に関わるものを含めて「可能性の束」とする。そして研究対象の社会において、

対象者が何を資源と見るかによって資源は異なり、対象者の「見る眼」は、対象者の有するアイデンティティに影響を受けているものと捉える。

3-1-2　資源の分配と配分

配分は allocation の訳であり、分配は distribution の訳である。資源配分の場合には、「生産に必要な投入物が各経済主体に割り当てられていく事」を指し、資源分配では、「所得や富といった産出物が各経済主体の間に分けられる事、或いは、分けられた結果を指す」。そして「配分では効率が問題になり、分配では公平性が問題になり」、配分は「誰かの計画に基づく意図の反映」で、分配は「より広く『意図せざる分配』も含む」（佐藤 2007,84）。

配分対象が「稀少」な時に、「ある資源に配分すれば、別のものには配分出来なくなる」という問題が生じる（佐藤 2008,5）。そのため「効率性」が問われる。一方で、「分配」は分配のルール作りが問題となるため、「公平性」が問われる（佐藤 2008）。

佐藤（2008,23-24）は、分配問題の解決策として経済成長によるパイの拡大が目指されたが、「成長の分け前」がどのように分配されるかという問題への取り組みは不足している事、経済発展が財やサービスの量を豊かにしたが、それを活用する能力や機会において人々の間で格差が生じ、格差を再生産していると指摘している（2008,23-24）。本研究で扱う世帯内の資源分配は、世帯の資源が増加しても、世帯員の間でそれを活用する能力を得る機会や、得た能力を活用する機会へのアクセスに格差があり、資源をコントロールする力関係に不平等がある状況で、どのような資源のやり取りがあるかに注目している。つまり世帯全体の資源というパイが拡大しても、その恩恵が世帯員に公平に分配されているわけではないという問題に取り組む。

世帯内資源分配は Intra-household resource allocation/ distribution of resources に充てた訳であるが、「世帯内資源配分」と訳されている例や（黒崎,上山 2004,119-137, 村松 2005,108-111）、「家計内の分配」と訳す例もある（山森 2004, 176-192）。又、「Intra-household resource allocation/distribution」に関する主要な文献において、「allocation」と「distribution」の相違に触れず、両方の用語を使用している（Bruce 1988, Haddad,Hoddinott and Alderman 1997, Quisumbing 2003）。これらの文献の中では、意思決定力（decision-making power）は「distribution」を、時間は「allocation」を使用しているが、income や resources に関しては「allocation」も「distribution」も同様に使用されている。

本研究では、前述の佐藤（2007）の「配分」「分配」の定義における「分配」の概念で世帯内資源を扱うため、「世帯内資源分配」の訳を充てる事とする。ただし紹介する先行研究が明らかに「配分」を扱っている場合は「配分」と訳す。

3-2 世帯内の資源分配

本節は、世帯内の資源が、世帯構成員の間でどのように分配されるかを説明してきた先行研究のレビューを行う。世帯内の資源分配は、利他主義の家長が世帯全体の利益になるように資源分配を決定するという単一家計モデル（unitary household model）（Becker 1965）と、世帯構成員の各自の交渉力の強さによって資源分配が行われるという集合的モデル（collective model）によって説明されている（Manser and Brown 1980, McElroy and Horney 1981, Hoddinott and Haddad 1995, Quisumbing 2003）。この単一家計モデルと集合的モデルの考え方をレビューする。そして世帯内資源の先行研究の中で、実際に世帯内でどのようなプロセスで分配されているのか、質的な調査が行われている家計管理に関する研究から検討する。最後に世帯構成員の交渉により分配が行われるものの、世帯は体験を共有する特殊な関係で、対立しながらも協力する関係にあると説明した「協力的対立モデル」（Sen 1990）を検討する。

3-2-1　単一家計モデル

単一家計モデルの概要

1960 年代以降の「新しい家計の経済学（New Home Economics）」は、家族や世帯の内部の行動、家事労働や世帯内分業について、従来の主流派の経済学が「ブラック・ボックス」として取り扱わなかった世帯内の労働や生産的役割を明らかにしようと分析を展開してきた。世帯内の家事労働の経済的評価を試みたり、ジェンダーによる分業を世帯外の問題と関連付けた把握を試みたり、新古典派経済学から新しく展開してきた（久場 2002,17-49)。まず、Samuelson は、世帯構成員はあたかも各自が効用を最大化する一つの機能を持つ単位として機能し、世帯構成員は最初に資源分配について同意し、その同意が世帯の選好となるというコンセンサスモデルを提唱した。このモデルでは、個人の収入は共同の予算としてプールされる（Samuelson 1956)。

新しい家計の経済学の代表的な論者である Becker は、世帯の行動を企業行動に結びつけ、世帯は生産者であると同時に消費者であり、企業のようにコスト最小化ルールに従って物と時間を組み合わせて商品を生産すると説明した（Becker 1965)。そして世帯員は世帯全体の厚生を最大化する事を目的として行動し、利他主義の家長が世帯全体の利益になるように世帯内資源の配分を決定する。又、世帯の効率や厚生を最大化するために「比較優位」による世帯内の分業が機能的とし、ジェンダーによる分業を次のように説明した。労働市場では男性の生産性が、家事労働では女性の生産性の方が高いため、夫が雇用等の有償労働、妻が家事・育児等の無償労働に就く事が、世帯の厚生最大化に効率的である（Becker, 1981)。

村松（2005）は新しい家計の経済学に対するフェミニスト経済学者達の批判として、新しい家計の経済学が前提としている 3 点の仮定を指摘している。第一に、世帯が夫、妻、二人の子どもから成る核家族という仮定、第二に世帯内で決定権は夫妻に平等にあり、世

帯が一つの単位という仮定、第三に男性が家の外で生産的な仕事をし、女性が家事をするという仮定である。世帯を一つの単位とみなす世帯モデルは単一家計モデルと呼ばれる（Quisumbing 2003）。

単一家計モデルへの批判

単一家計モデルでは世帯構成員の所得が共有されている事、世帯内の労働力が効率的に生産活動に配分されている事が前提とされている。しかし近年は単一家計モデルを検証する多くの研究により、単一家計モデルの前提が否定されている（世界銀行 2002）。

所得が共有されていると仮定すれば、家計に資源が追加された場合の影響は、それを誰が管理するかとは無関係に生じるはずである（世界銀行 2002）。しかし Quisumbing と Maluccio（1999）が実施した、バングラデシュ、エチオピア、インドネシア、南アフリカの家計調査データ分析に基づく研究では、女性が資産を管理している場合には子どもの教育や衣料の支出配分にプラスの影響があり、世帯内資源分配は誰が資源を管理しているかに影響される事を示している。又、Thomas（1997）はブラジルで生活必需品向け支出の予算を男性が管理する場合と女性が管理する場合でインパクトの差を調べたと頃、女性の可処分資源が増すと、健康や教育、レクリエーション、冠婚葬祭、栄養物に対する支出が増え、子どもの栄養状態にプラスの効果が確認された。この例も、誰が世帯内資源を管理しているかが世帯内の資源分配に影響する事を示している。

次に、世帯内の労働力が効率的に生産活動に配分されていると仮定すれば、世帯構成員は世帯の生産活動による利益を最大化するように労働力や他の資源を配分するはずである（世界銀行 2002）。しかしカメルーンの稲作プロジェクトでは、夫が管理する稲作田に妻が労働提供する場合の報酬に関して、夫がいくら良い条件を提示しても、妻は妻自身が管理し収穫出来る妻自身のソルガム畑に自分の労働力を費やす事を好むため、夫の稲作田には労働力が足りず、妻のソルガム畑には労働力が多すぎる状態となっていた。世帯内で夫と妻が労働力を効率的に配分するのではなく、各人が管理する農地へ労働を配分し非効率になっている（Jones 1983）。又、ブルキナファソでは妻が管理する農地に投入する肥料と男性・子ども・雇用労働による労働力は小さく、夫が管理する農地への投入は多すぎ、世帯内で同じ年に同じ作物を植えても女性が管理する農地では収穫量が少ないという結果となった（Udry 1995）。このように、世帯内で世帯構成員が世帯の利益最大化のために世帯内資源を効率的に配分するわけではない事が明らかとなった。

単一家計モデルは世帯を単一の単位とみなし、世帯内資源は世帯の利益最大化のために利他主義の家長が配分すると説明していたが、その前提とされた世帯構成員が世帯内資源を共有する事、世帯内資源は効率的に分配される事が当てはまらない事が多くの研究で検証された。では、これらの単一モデルを否定した研究は、世帯内資源の分配をどのように説明するのだろうか。

3-2-2　集合的モデル

集合的モデルの概要

前述のように単一家計モデルを検証する多くの研究の中で、世帯員が異なる選好を持つため世帯内の資源をめぐる争いが生じる事、世帯員の力関係により意思決定過程への参加度合いが異なる事等、単一家計モデルが適応出来ない事例が報告されるようになり、単一家計モデルが世帯内の不均衡な関係を捉えていない事が示されるようになった（Quisumbing 2003）。

集合的モデル（Collective model）は「バーゲニングモデル」とも呼ばれるが、集合的モデルの方が総称的である。集合的モデルは、協力的アプローチ（Cooperative approach）と、非協力的アプローチ（Non-Cooperative approach）に分類される。協力的アプローチは個人が一人でいるよりも多くの利得を得られるために世帯を形成すると捉える。そして世帯が生産する余剰物を構成員の間で分配するが、この分配がどのようなルールで行われるかに注目する。非協力的アプローチは、世帯内構成員は選好が異なるだけでなく、自立した存在として行動し、世帯は個人の収入や土地、モノ、労働力に対して互恵的に請求出来る関係で、ジェンダーによって分離した家計であると捉える（Haddad, Hoddinott, and Alderman 1997,1-16）。

Manser と Brown（1980）や McElroy と Horney（1981）は、Nash（1953）のゲーム理論を応用し、世帯内の資源分配は世帯員の交渉の結果であるとする集合的モデルを展開した（Quisumbing 2003）。集合的モデルの協力的アプローチでは、世帯構成員の「決別点」が特定のパレート最適な資源分配を決める（Haddad, and Hoddinott 1997）。決別点は資源分配において世帯内で合意が成立しなくなる境界で個人が達成出来る効用であり、決別点が高いほど個人の効用は高い。 Manser と Brown（1980）や McElroy と Horney（1981）は離婚の場合において、夫と妻の効用によってそれぞれの決別点が決定される事を指摘した。女性は実家に帰るという可能性が外的環境のパラメーターであるが、そのためには、日常から実家の両親に現在と将来の福祉のために投資しなければならない。長い間の投資の結果が、相互の助け合う関係となる（McElroy 1990,556）。

集合的モデルは、世帯内の資源をどのように分配するかは構成員の交渉力の強さによって決まるとし、交渉力向上に影響する要因を特定する多くの研究が行われてきた（Quisumbing 2003）。女性が所得創出に関わる事、初婚年齢、夫との年齢差、夫との教育レベルの差（Quisumbing 2003,42）、夫・妻それぞれの交渉力は、本人の資質、本人の認識、世帯外の状況に影響を受ける。本人の資質は相手と比較した年齢、教育レベル、結婚時の財産、自分で管理出来る収入や財（Mabsout and van Staveren 2010）、本人の技能、情報へのアクセスがある事、社会ネットワークや拡大家族からの支援（Agarwal 1997） 等が要因として挙げられる。又、本人の認識は、自分が世帯にどの程度貢献しているかという認識、自信、自己の利害への関心に対する認識の強さが交渉力に影響を与える（Sen 1990）。その他、不労所得、移転的支払い（Transfer payments）や、社会福祉の受け取り

（Welfare receipt）といった経済的資源に対する支配権、婚姻関係に関する法的権利、土地や財を所有する権利、離婚時の財産分割に関する権利等の制度的環境、ジェンダー規範が経済活動を許容又は禁止する程度、各種団体への加盟、親類との繋がり、肉体的な強さ、家庭内暴力に対する地域社会の態度や法律的制度的環境が、これまでの研究で示されている（世界銀行 2002）。

集合的モデルへの批判

集合的モデルでは女性の交渉力における地位を向上させるために、女性の所得、貯蓄、財を増やそうとするが、それは男性が世帯への貢献から退却する事にも繋がる。交渉力はジェンダー不平等な制度では、対称的な経済的規範において男性のタダ乗りに繋がる（Staveren and Odebode 2007,923）。集合的モデルはジェンダー関係を分析する有効なアプローチであるが、ジェンダーの非対称性に十分には注目していない。又、世帯内のジェンダーによる相互関係の複雑性を扱っていても、世帯外の要因が世帯内資源分配に与える影響についてはあまり研究されていない。集合的モデルは「交渉」を通じたダイナミックスを特徴としたモデルであるが、社会規範や認識が交渉のプロセスに与える影響に注目していない（Agarwal 1997,2）。

集合的モデルでは妻と夫に焦点を当てているが、子どもの問題も重要である。ナイジェリア南部のヨルバ人の例では､男性にとって男性性を確保するために子どもが必要である。女性が子どもをおいて夫と離婚すると、子どもは母親か次の妻に育てられる。妻は世帯内での自分の低い地位を分かっていても、子どもを取られたくないために婚姻関係に留まるため、妻の交渉力は弱くなる（Staveren and Odebode 2007,923）。又、本研究の調査地であるナイジェリア北部のハウサ社会では、既婚女性が隔離を実践しているため、女性の経済活動において材料の購入や製品の販売には子どもが媒介となるため、子どもが必要である（Callaway 1987, Schildkrout 2002）。

世帯内のやりとりは「交渉」による対立の面だけでなく､「協力」せざるをえない関係性にあり、世帯の構成員各自がどのくらい世帯に貢献していると認識されるか、個人の利害をどの程度　自己評価し認識しているかという点による影響は､「交渉力の強さ」だけでは明らかにならない（Sen 1990）。

3-2-3　協力的対立モデル

Sen（1990）は､世帯構成員は｢協力｣と｢対立｣に同時に向き合うものという｢Cooperative Conflict （協力的対立）[14]」モデルによって世帯内資源分配を説明している。世帯内の個人の認識は世帯内資源分配に影響を与え､｢Perceived interest response（個人的利害認識）」と「Perceived contribution response（世帯への貢献認識）」の強さが交渉を有利にすると

---

[14] 室住眞麻子（2006）の訳による。

指摘している。更に、世帯構成員が他の構成員からの協力なしにどの程度良く生きていけるかという位置を表す決別点の高さも影響するという（Sen 1990）。本項では、協力的対立モデルを説明する。

協力的対立モデルの概要

Sen は、世帯構成員は交渉による「対立」だけではなく、一緒に住み関心や体験を共有し協働するという「一体感（Togetherness）」という面があるため、資本家と労働者の争いとは違い、世帯構成員は「対立」と「協力」に同時に向き合うというものという「協力的対立（Cooperative Conflict Model）」モデルによって世帯内資源分配を説明している。協力（Cooperation）は世帯全体の可能性を足す事で、対立（Conflict）は世帯全体の可能性をメンバー間で分ける事である。世帯内には女性と男性の役割の違いによって、それぞれ異なる関心事がある。それらの関心事が互いに矛盾する時、優先をつける必要がある時に交渉が行われる。交渉からより大きな利益を得るために、そして将来の交渉でより有利な立場を得るために、より強い交渉力が必要である。この世帯内対立は一般に「暗黙の合意」によって解決される事が期待され、対立が強調される事はほとんどない。集合的モデルがゲーム理論を基に指摘している、世帯構成員のそれぞれの決別点での福祉レベルの高さが交渉を左右し、その決別点を強化する要素として教育や経済力等が影響するという考え方に加えて、Sen は認識が世帯内の意思決定に大きく影響する事を指摘した。

Sen は、集合的モデルの限界として、異なる構成員の関心事の認識と、個別の well-being という客観的な概念を、明確に区別出来ていない点を挙げている。厳しい経済状況下では、栄養、健康、教育といった客観的な要素に対して資源を分配する事に大きな利点があり、喜びや満足、望みを達成するといった主観的な効用を目指す事ではない。又もう一つの限界は、集合的モデルでは、個人の自己利益への関心に限った情報を基に交渉するとみなされているが、社会の中で何が正当性を持つのかという正当性の概念によって、個人の自己利益への関心は影響を受ける事を見過ごしている点である。

協力的対立モデルでは、世帯内の交渉力を上げる要素は 3 点ある。第一に、自分が自分自身の価値を認識し、自己の利益に関心を持つほど、より交渉を有利にしようと働きかけるという、「自己利益への認識（Perceived self-interest）」の強さが必要である。第二に、自分が世帯の福祉に対して貢献していると認識し、又他の構成員から自分が貢献していると認識されるという、「世帯への貢献認識（Perceived contribution to household）」の強さが交渉を有利にすると指摘している。第三に、世帯構成員が他の構成員からの協力なしにどの程度良く生きていけるかという「決別点（Breakdown position）」の位置が交渉力の重要な決定要因だという。決別点が低ければ相手との協力なしに良く生きていける程度が低くなり、不利な結果を招くと分かっていても相手の要求を受け入れ、不満があっても相手に従い協力せざるを得ない（Sen 1990）。従来の集合的モデルでは、女性の交渉力向上に関わる要素として、決別点の位置の強化に関わる要素を特定する研究が多かった。しかし

Sen の議論では、決別点の位置の強化に加えて、世帯構成員の「認識」の重要性を加えている。世帯に実際にどの程度貢献しているかではなく、どの程度貢献していると「認識」されているか、又本人が「認識」しているか、という事が交渉力を上げているという。
そして社会における「正当性」の概念が、何を自分自身の価値と認識し、何を世帯への貢献と認識するかに影響を与えるという。

以上、世帯内の資源分配に関する先行研究をレビューしてきた。単一家計モデルは世帯を一つの単位とし、世帯構成員は世帯全体の厚生最大化のために行動し利他主義の家長が資源分配を決定すると説明し、単一家計モデルが当てはまらない事例を示した集合的モデルは、世帯構成員の選好は異なり利害が衝突する際に交渉が行われ、世帯内の資源分配はその交渉の結果であると説明した。協力的対立モデルでは、世帯構成員は交渉による対立だけでなく、関心や体験を共有し協力せざるをえない関係であると説明した。交渉力向上の要素として集合的モデルでは、相手と比較した年齢、教育レベル、結婚時の財産、自分で管理出来る収入・財、情報へのアクセス、社会ネットワーク、拡大家族からの支援等が挙げられた。協力的対立モデルでは集合的モデルが挙げた交渉力向上の要素を、世帯構成員が他の構成員からの協力なしにどの程度良く生きていけるかという「決別点」の位置を高める要素とし、これに加えて世帯構成員の「認識」を要素として挙げた。次節では、協力的対立モデルが挙げた交渉力の要素を検討する。

3-3　世帯内意思決定の交渉力の要素

3-3-1　決別点の高さ

前述のように、「決別点」とは、世帯構成員が他の構成員からの協力なしにどの程度良く生きていけるか、交渉における個人の脆弱性又は強さを示し、交渉力の重要な決定要因である。ある人が交渉を以前よりも、より悪い状態で終わってしまうと、それはその人が良い結果を確保する能力を弱めてしまう（Sen 1990,135）。個々人の交渉力を決める要因の 1 つは、ある人が協力に参加した時に得られる福祉と、協力しなかった時に得られる福祉の差である。協力しなかった場合の福祉が協力した時の福祉よりも大きいと、協力は成立しにくくなる（Sen 1990）。ある時期と次の時期の協力的対立における関係も重要である。ある時の勝者は満足な結果を受け取り直近の利益を受け取るが、それだけでなく将来のより強い交渉力を得る事が出来る。例えば、よりよい教育を得る、家の外で自由に仕事をする、より生産的な仕事を見つける等は、全て直近の福祉に貢献するだけでなく、スキルを獲得し、将来のよりよい決別点を獲得出来る（Sen 1990,137）。一般に女性は男性に比べて不利な決別点に置かれている。不利益のひとつは頻繁な妊娠や子育て等のジェンダーに特有の問題である。女性は頻繁な妊娠・子育てのために生産活動に携わる時間が制限され、世帯への経済的貢献を認知される程度が低くなる。もうひとつの不利益は、文化や社会に特有のもので、高等教育や雇用、所得創出活動へのアクセスの機会がより少ない事や、財

産所有権の制限や不利な法律上の権利である。又、社会規範は女性の移動を制限し、離婚した女性を軽蔑する事で、女性の決別点を低くしている（Sen 1990）。

ある世帯構成員が、もし交渉が決裂したら他の構成員に不利になる事を実行すると他の構成員を脅す事で、脅された方の構成員は交渉が不利になってしまう事もある。「脅し（threat）」は交渉過程を左右する傾向があり、その結果に強く影響を与える。交渉過程の中で、何が「脅し」として機能するのかは、その社会の「正当性（Legitimacy）」によって影響を受ける。又「繰り返しのゲーム（Repeated games）」という性質は脅しが実行されるという信ぴょう性を与えている（Sen 1990）。前述の集合的モデルが取り上げてきた年齢差や教育レベル等の交渉力の要因は、この決別点での福祉レベルを強化する要素と同様である。

3-3-2　世帯への貢献認識の強さ

「世帯への貢献認識」は、世帯の富に対する世帯構成員の「生産的貢献」の認識、つまり誰が「生産的な」仕事をしているのか、誰がどのくらい家族の繁栄のために貢献しているのかを、どう認識しているかである。夫と妻の間で、世帯に対してより大きく貢献していると認識している側がより大きな交渉力を持つ。女性も男性も、女性の再生産労働は世帯に経済的な貢献をしていないとみなすと、女性の世帯への貢献認識は低くなってしまう。貢献認識は、仕事をするために費やした時間の量とは区別されなければならない。認識のバイアスは費やした時間や労力の総量よりも直接得た現金の大きさに関係する。女性はたいてい家事をするのに長時間を費やしているにもかかわらず、その貢献は夫の貢献よりも低いものと認識している（Sen 1990,139）。ある人の貢献はジェンダーや民族によって低く価値づけられる可能性がある。女性がする仕事はスキルがなく、男性がする仕事はスキルがあるとラベル付けされ、貢献認識も、どのようにその仕事が見えるかに影響される。（Agarwal 1997,15）。

3-3-3　自己利益への認識の強さ

「自己利益への認識」は、個人が自身の福祉にどの程度の価値を認めているかという事で、もし女性が自分の価値を低く見ていたら、交渉の場における女性の立場は弱くなり、条件が悪いものでも受け入れる事になる可能性がある（Sen 1990）。自分自身が何か重要なものに値するとは考えなかったり、他者は自分よりももっと価値のある目標を持っていると思ったりする人の交渉力は弱くなる（ヌスバウム 2005,341）。

女性が再生産労働の価値を低く見ると、彼女達は自分の自己利益に価値を見出さなくなる傾向があり、その結果、交渉力は低くなってしまう。又、たとえ女性が男性優位の社会的規範を受け入れているように見えても、それは彼女が喜んでそうしているわけではない。女性が、自分が何をしたいのか表現しない事が、彼女達が自分の自己利益を持たないわけではない。女性が慣習の正当性に従った行動をとるように強く抑圧されている社会では、

女性にとって、どう振る舞うべきかという期待に沿った行動を受け入れる事が、生き延びる戦略である。女性は自分の選択に気づく事なく自己利益を家族のメンバーのために犠牲にする。しかし、「家族」は子どもを指している（Agarwal 1994）。女性に女性の権利を教えたり、周囲の人々が女性を価値ある人として扱ったりする事、技能をもたらす教育を得る事、やり遂げる自信や向上心を女性が持つ事、グループの連帯を持つ事等が、「女性に価値がない」という意識を取り除くために重要である（ヌスバウム 2005,342）。

交渉力向上の要素の一つである「自己利益」について、Sen と異なる解釈がある。

Agarwal は Sen の自己利益の捉え方を批判し、女性には自己利益を明白に見せる事に外部の障害があるという（Agarwal 1997,38）。女性が世帯の財を請求する際に、息子や兄弟や拡大家族に有利にしたり、ギフトを親戚にあげる事で親戚からの好意を確実にしたりするのは女性が弱いポジションであるためである。そして家族の繋がりを強化して、経済的社会的なサポートを確実にし、自分が必要な時に頼るため、直近の福祉を将来の安全保障のために犠牲にしている（Agarwal 1997,40）。

Osmani （1998）は Sen の協力的対立モデルを用いてバングラデシュの女性の経済活動参加と世帯内での意思決定力の向上の関係について検討し、女性の経済活動参加が女性の決別点における福祉レベルを強化させ、又、世帯への貢献認識も向上させている事が明らかになったが、女性の個人的利害認識に影響はなかった（Osmani 1998）。Jackson（2011）らはウガンダで夫妻がどのように世帯内資源の分配を行うかという実験ゲームを実施し、Sen の協力的対立モデルが女性の個人的利害認識は男性の個人的利害認識よりも世帯の関心により同一化しているという仮定を検証した。その結果、たとえ女性が資源をコントロール出来る場合でも女性は男性よりも世帯への貢献が少ない事が明らかになった。これは男性が世帯へ供給する事が期待され、女性の世帯への貢献は任意であるためと考えられる（Jackson et al. 2011）。

このように対象社会のジェンダー役割への認識は、女性・男性の行動や認識に影響するため、世帯内の意思決定にも影響すると考えられる。次節ではジェンダー役割の認識が世帯内意思決定に与える影響を検討する。

3-4　ジェンダー役割の認識

世帯内の交渉力は対象社会でのジェンダー役割の認識にも影響されている。例えば未婚女性が土地の所有権を世帯内で主張しようとすれば、その未婚女性の教育レベルや法律の理解力、未婚女性に兄弟等からのサポートがあり、生き残れる経済社会的資源がある事、法的な機関に経済的物理的にアクセス出来る事といった、その未婚女性自身の要因だけでなく、その社会の相続に関する法律、未婚女性が権利を主張する事への社会的正当性（そのコミュニティでどう思われるか）、未婚女性が政府の役人にアクセス出来土地を登録出来る事等、世帯外におけるジェンダー役割が影響する（Agarwal 1997,21）。女性が財を所有する程度や何らかのグループからのサポートの有無は女性の世帯外での交渉力に影響し、そ

の逆にコミュニティ、市場、国家等世帯外での交渉力が世帯内の女性の交渉力に影響を与える（Agarwal 1997,53-54）。

Mabsout と Staveren（2010）はエチオピアの DHS（2005）を基に、24 の異なるエスニックグループの世帯内意思決定への女性の参加や、夫が妻を殴る事の受容度、妻の権利に対する夫の認識等について調査し、世帯外の要因が世帯内のジェンダー関係に影響する事を、個人レベル、世帯レベル、制度レベルと 3 層に分けて分析した（Mabsout and Staveren 2010）。女性の交渉力向上の要因といわれる妻の年齢、夫との年齢差、妻の教育レベル、世帯への妻の経済的貢献について、いくつかのエスニックグループでは、個人・世帯レベルの女性の交渉力に対してネガティブな影響を与えていた。制度レベルの女性の交渉力では、「夫が妻を殴る正当な理由」の受容に関して、受容しない妻は交渉力が強いが、その夫が妻を殴る事を強く支持している場合は、妻の交渉力は弱くなった。つまり夫の対応に反対の態度を示す妻の交渉力は、夫と見解を同じくする妻の交渉力よりも弱い事が分かった（Mabsout and Staveren 2010,793）。女性の個人レベルの交渉力は、文化的な影響や当該社会のジェンダー不平等な慣習、女性の行動を制限するようなジェンダー不平等な構造によって影響を受けている（Mabsout and Staveren 2010）。

ある社会におけるジェンダー役割は固定的でなく変化するものであるが、ジェンダー役割が変わる事によって、ジェンダー役割を受容し、どのような役割が正当とみなされるかも変わる（Parker,Lozano,et.al. 1995,4-5, Groverman 2001,9-12）。ジェンダー役割規範は社会規範であるが、社会規範は不変でなく、それ自体が交渉の対象となり、例えばジェンダー不平等が生物学的なものでなく、社会的に構築されたものという考えが受容される事も、そのひとつである（Agarwal 1997,31）。このような社会におけるジェンダー役割への認識が変化する事で、世帯内の力関係は変わってくるだろうか。

チュニジアの農村では、夫が国内外に出稼ぎし世帯を不在にする事で、妻が担うジェンダー役割が変化し、妻は役割の変化に伴い世帯内の権力関係も変わり本人の地位が高まったと認識するようになった。しかし、夫は妻の新たなジェンダー役割を認識するが、世帯内の権力関係は変化したと認識しない（岩崎 2005,180-182）。バングラデシュの農村では、女性が自助グループに参加しグループとしての連帯を強めると共に経済的に世帯に貢献するようになり、夫が以前よりグループ活動に反対しなくなり、暴力的でなくなり、妻の移動の自由を認めるようになり、女性が職場で他の男性と一緒に働く事に寛容になった（Agarwal 1997,31）。これはジェンダー役割の変化を女性も男性も受容し、女性がより自身の望む状況を得られるようになった例である。

一方、Silberschmidt（2001）は、ケニア西部の農村と農村男性の出稼ぎ先であるタンザニアの都市部を対象にした研究で、男性のディスエンパワーメントを指摘している。農村部でも都市部でも社会経済状況が変化し経済状況が悪化する中で、夫が家長として稼ぎ手としてのジェンダー役割を果たせなくなり、男性の役割は不明瞭で矛盾するものとなった。

稼ぎ手の役割と責任を果たせない事から、多くの男性が自信を失い女性から軽蔑されると認識するようになった。その一方で妻は従来の家事の役割に加えて、小規模な経済活動に従事し生産者としての新たな役割が加わった。こうして夫妻の間に既存のジェンダー役割規範とのズレが生じた。男性も女性も、女性が経済活動に携わらなければ生活出来ないと認識しており、女性の収入が男性の収入を上回る事は珍しくない。この役割の変化は男性の社会的価値に影響し、男性としてのプライドを脅かすため、男性の中には女性に暴力を振るう事で女性をコントロールしようという変容が見られるようになった（Silberschmidt 2001,668）。これはジェンダー役割の変化を女性も男性も認識しているが、女性が望まない状況が新たに生じた例である。

モザンビークでは、男性と女性は異なる領域に携わり、女性は食料の確保に、男性は住居や教育費、医療費等に責任を持つ。女性は自身で現金を得る機会が限られるので、夫の現金へのアクセスを得ようとする。経済状況の悪化により、男性は所得を得る機会が減り生存のために現金の必要性が増したため、妻が所得を得る事に同意するようになった。だが多くの男性は女性が所得を得て独立性を増すと、男性の権威が低下し世帯の中で相互の理解が低下する可能性を恐れている（Pfeiffer 2003）。ザンビアやウガンダを対象とした研究では、多くの男性が経済状況の悪化で雇用を失い経済力が低くなったが、女性は教会の活動や貯蓄グループ等の世帯外のネットワークのサポートを得て所得創出活動に携わり、経済力を高めていると指摘している。そして、女性が経済力を得た事で世帯内のジェンダー関係は不平等な関係からよりバランスの取れた関係になったが、より衝突しやすくなり、相互に満足のいく形で解決する事が難しくなっている。（Pottier 1994,156-174）。

このように、経済状況の悪化や出稼ぎによる男性不在のため、従来のジェンダー役割に変化が生じ、男性が唯一の稼ぎ手という役割では世帯の食料等世帯ニーズの確保が難しくなっている（Pottier 1994, Silberschmidt 2001）。このジェンダー役割の変化は女性も男性も認識し、女性が望む状況へと変化している例もあれば、望まない状況が生じている例もある。女性が経済力を得ても従来のジェンダー役割規範は維持されている（Mabsout and Staveren 2010）。それは、女性も男性も日々の生活の中で、その社会において正当性を与えられているジェンダー役割を実践する事により、ジェンダー役割を維持・強化しているためである。「ジェンダーを演じる（Doing Gender）」（Zimmerman and West 1987）事は強力に不平等な構造を強化し、正当性を与える事になる（Zimmerman and West 1987,146）。高収入で教育のある女性が世帯内意思決定では男性の権威を受容し、経済活動に従事しながら家事を一切引き受け、家庭内暴力すら受け入れている事は、「ジェンダーを演じる」事で説明出来る。経済力のある女性は「ジェンダーを演じる」事で男性に従順な態度を取り、男性が稼ぎ手で家長であるという社会規範からの逸脱のバランスを保つ。一方で男性は「ジェンダーを演じる」事によって、経済活動以外の領域で女性に対して支配的な力を行使する事で、男性性（masculinity）の損失を相殺している（Mabsout and Staveren 2010）。

「世界開発報告 2012　ジェンダーと経済的選択に関する定性的研究」は 19 カ国で実施

されたが、その調査によれば、収入の多い妻を持つ夫は、稼ぎ手としての役割を果たす能力の有無を問われると感じるストレスから、家庭内暴力を振るう事が多いという（世界銀行 2012)。「男性は家族を扶養するもの」という社会規範は、その役割を果たせない場合に強いストレスや精神衛生上の問題を引き起こす可能性がある。又、教育水準の高い男性ほど家事・育児にも従事する傾向があるが、これは教育が規範の固定観念を弱くしたためである（世界銀行 2012,158)。

以上、ジェンダー役割の認識は世帯内意思決定に影響する。経済状況の変化により、夫が稼ぎ手として世帯員を扶養するという役割を果たす事が難しくなったり、女性が経済力を高め世帯に経済的に貢献するようになったり、既存のジェンダー役割が変化している。このような変化を、どう受容しているかが世帯内の意思決定に影響を与えている。

3-5 世帯内意思決定プロセス

世帯内意思決定について、Kabeer は各国からの事例に基づき、各国での女性の世帯内意思決定力を測る指標を設けている（Kabeer 1999)。例えばエジプトでは家計、食事、外出訪問、子どもの教育・健康、家族計画の方法を指標とする。インドでは食料を購入する事、世帯の主要な買い物をする事、世帯の小さな買い物をする事、子どもが病気になった際の対応、子どもの教育を指標とする。ナイジェリアでは食料の調達方法、妻が経済活動に従事するかどうか、夫の所得をどのように使うか、土地の売買、家族計画、子どもの教育、子どもが病気になった際の対応、子どもの結婚相手を指標とする。各国により指標となる項目は異なり、男性には家長としての役割が期待される意思決定項目、女性は妻として母親としての役割が期待される項目が挙げられた。例えば、南アジアでは日常の食料等の買い物や子どもの病気の際の対応は女性が決定する領域とされる事が多い（Kabeer 1999)。

第 2 章で検討した人口保険調査（DHS）は、妻自身のヘルスケア、世帯内の食料や日用品等の買い物、土地や家畜等の買い物、妻自身が外出する事、子どもの教育の 5 点について、女性が意思決定に参加しているか調査していた。その他、DHS では男女別の健康状況や健康への認識、経済、教育、家庭内暴力等ミクロデータを提供しているため、世帯内資源分配に関する研究に活用されている（Smith, Ramakrishnan ,Haddad et al. 2003, 上山・黒崎 2004, Mabsout and Staveren 2010)。しかし、夫妻間の力関係に関する研究では、個々の具体的な事項を誰が決定しているのかについて調査しているが、これでは意思決定に至るまでのプロセスを見ておらず、夫妻間の非対称な力関係も見ていない（パール 1994,182)。又、妻の意思決定力を「意思決定に参加するか」「妻が決定するか」という yes-no 質問への回答や「最終決定を誰がするか」という問いは、家父長制の強い社会では「夫が決定する」という回答になり、意思決定プロセスにおける夫と妻の駆け引きや、夫の妻への譲歩、女性が収入を得て世帯ニーズに貢献する事等によって意思決定プロセスに変化が表れている可能性を見過ごしてしまう。その結果、女性の意思決定の主体としての行動は見過ごされてしまう（Kabeer 1997,447)。

世帯内の資源の分配をめぐる交渉と決定がどのように行われ、誰がそのプロセスのどこに介入するのか、社会規範や他の要因によってそれらのプロセスはどのように影響を受けるのか、先行研究から十分に明らかでない（Nikiema et al 2008）。

Nikiema et al（2008）はブルキナファソを事例に、既婚女性が世帯の資源を女性自身の現代的なヘルスケアのために分配させるよう、どのように夫と交渉しているか検討している。この研究はブルキナファソで24人の既婚女性との綿密なインタビュー、キーインフォーマントの既婚男性・既婚女性とのフォーカス・グループ・ディスカッションで収集された質的データの分析を基に、夫妻間の交渉プロセスを明らかにしている。ブルキナファソでは夫が衣食住や医療等世帯の生活に必要な全てを供給する義務があり、妻のヘルスケアにかかる費用は夫の責任となる。しかし貧困のために夫がヘルスケアを供給出来なければ仕方のない事とみなされ、拡大家族やコミュニティが夫の義務を助ける。ただ、夫にお金があるのに妻にヘルスケアを供給しない場合は、妻が夫に反抗的であったり貞淑でなかったりと妻に非があると説明出来ない限り、夫は非難される。一方、妻は具合が悪いと言いだす事で、「怠けたいだけ」と夫や周囲の人々に思われないようにする事が必要で、日頃から「良き妻」として振る舞わなければ、病気の際に真剣に取り合ってもらえないリスクがある。

このような状況下で妻はヘルスケアを獲得するための行動をとるが、その行動は、妻がヘルスケアを得るために夫に対して取るアプローチから、1) 待機、2) 貢献提案、3)懇願、4) 仲介者の介入、5) 対抗、6) 反乱の6種類に分類されている（Nikiema et al 2008,615）。

1) 待機

妻は夫に病気である事を告げて夫がどう反応するか様子を見る。妻が先に夫に対して「私は具合が悪い」という情報を伝え、それに対して夫がどのような行動をとるか見守り、夫の対応に応じて妻は次の自分の行動を決めている。

2) 貢献提案

妻は自分の貯蓄から自分も費用の一部を負担すると夫に伝え、夫の決定に影響を与えようとする。このアプローチをとるためには、妻は自分で自由に使える現金を持っている必要がある。妻は、本来は夫が支出すべき費用の一部を妻が支払う事で、残額を夫に支出させる。妻はヘルスケアの獲得と同時に、夫の義務を肩代わりした事を夫に認識させる。

3) 懇願

妻はある程度の期間、夫を「待機」して夫の反応を伺うが、夫から応答がなく、且つ、妻自身が自由に使える収入がなく、妻は自分に何らかの非があるために夫がヘルスケアの費用を出さないと思っている場合、妻は夫に懇願する。

4) 仲介者の介入

夫に懇願しても反応がない場合、妻は義両親や知人等夫に影響を与えられそうな仲介者を巻き込み、夫がヘルスケアの費用を出すよう介入を依頼する。

5) 対抗

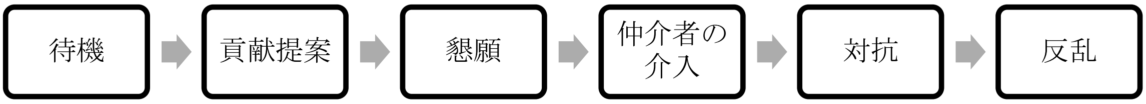
更に夫からの反応がない場合、妻は、妻に対する夫の責任を思い出させるために、実家に帰ると脅したり、家事を放棄したり、近所に分かるように不満を告げたりする事で、妻自身の不満を夫に分からせようとする。

6) 反乱

夫が妻のヘルスケア費用に対して何の反応もしない場合、妻は実家に帰り、義両親との交渉をやめ、自分の実家の保護下に入る。

1 番目から 4 番目の戦略は良く使用され、「対抗」も時々使われるが、「反乱」はめったに行われない。このように妻がヘルスケアを求めて夫と交渉する際には、妻は夫の反応を見ながら様々なアプローチをとっている（Nikiema et al 2008,615-617）。

図 3-1　ヘルスケアを夫から獲得するための妻の行動



（Nikiema et al 2008, 615-617 より筆者作成）

妻はヘルスケアにかかる費用を夫から貰わなくとも妻自身の収入を使う事も出来る。妻も夫も、相手や周囲の人々から「どう思われるか」によって、自身の行動を規制している。夫は、妻のヘルスケア費用を支出しない「悪い夫」と周囲から思われたくないが、「妻が怠けているだけかもしれない」、という疑いをもっている。一方、妻は、自分の所得でもヘルスケアを利用出来るが、夫に支出させ、且つ「良き妻」が病気になっている、と思われるために振る舞おうとする。このような状況で、夫の収入を分配する決定が夫により行われる（Nikiema et al 2008,615-617）。この研究では、ヘルスケアの費用を獲得するために、どんな戦略をとるかという妻の判断の視点から、妻のアプローチを分類している。

情報とコミュニケーションも世帯内意思決定に影響する。Ashraf（2009）はフィリピンを事例として夫と妻に 1 日の収入分の現金を渡し、夫妻で情報を共有する場合としない場合に何に使うか実験を行った。この研究では夫妻の双方に対して、1) 夫妻別々に相手が何をするかを告げずに自分の決定をする、2) 夫妻同じ部屋でお互いに相手が何をする事になるか分かる状態で、別々に自分の決定をし、相手の決定を知る事は出来ない状態、3) 夫妻で一緒に話し合って決定する、この 3 種類で夫妻がどのような決定をするか実験が行われた。その結果、1) の状態では、夫はより収入を個人の口座に貯蓄し、妻は世帯の口座に貯蓄した。2) の状態では、夫は世帯の消費に収入を使用し、妻は 1)と同様に世帯の貯蓄に収入を回していた。3) の状態では、夫は妻の口座にお金を入れる決定を、妻と一緒にした。

フィリピンでは夫は収入を妻に渡し、妻が予算を決めて必要な物へ分配する。しかし女性達は夫がいつも収入の全てを渡していないと不満があった。この実験で明らかになった事は、情報を公にする事で夫は収入を世帯の消費に使うようになる事である。これは情報共有がモニタリングの役割を持ち、夫の意思決定を世帯の必要に貢献するよう影響を与えているためであるが、逆に情報が不均等であれば、隠しごとをする事に対してインセンティブが働く。このように相互の交渉過程におけるコミュニケーションが資源分配の決定に影響する事が分かった（Ashraf 2009）。

以上、世帯内資源分配をめぐる意思決定について先行研究をレビューしてきた。世帯内の資源分配をめぐる意思決定は、世帯構成員の交渉によって決まり、交渉からより望ましい資源を獲得するには交渉力がより強い事が必要である事が明らかになってきた。そして、交渉力を向上させる要素を特定する研究が行われ、年齢、教育レベル、結婚時の財産、自分で管理出来る収入や財（Mabsout and van Staveren 2012）、技能、情報へのアクセス、社会ネットワーク、拡大家族からの支援、法的権利等（Agarwal 1997）が挙げられてきた。世帯構成員は交渉による対立だけでなく、協力にも同時に向き合う関係である事、交渉力の向上には、認識も影響する事も明らかになった（Sen 1990）。又、世帯外の要因である、対象社会のジェンダー役割の認識も世帯構成員の認識や行動に影響し、世帯内意思決定に影響する事も明らかになった。これらが世帯構成員の交渉力の要素となる。

世帯内意思決定に関する研究では、世帯構成員の交渉力の要素と交渉の結果の関連性についての研究が多い。しかし世帯内意思決定にプロセスを分析する研究は十分ではない。本節で検討したブルキナファソの妻がヘルスケアを獲得するために夫とどのように交渉しているかという事例からは、同じ妻が夫の対応によって妻自身の対応を変えている事、それは駆け引きしたり譲歩したり対抗したりと様々なアプローチであった。

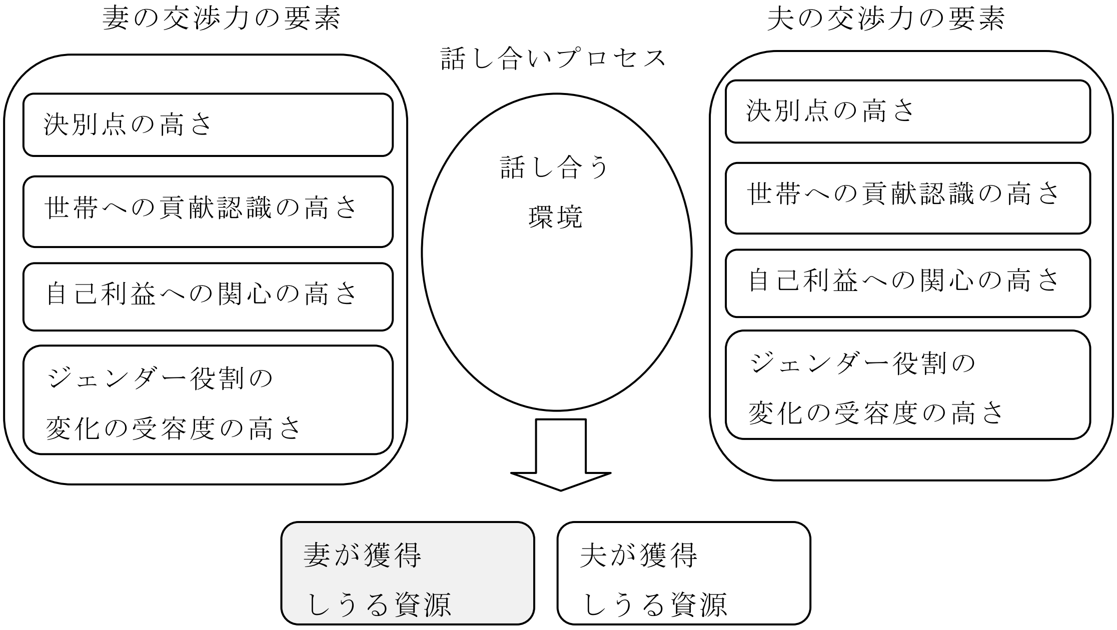
3-6　世帯内意思決定の分析枠組み

本章で検討した協力的対立モデルは、妻の交渉力向上の 3 要素として、1) 妻の決別点の高さ、2) 妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への認識の高さを挙げていた。しかしながら協力的対立モデルでは夫の交渉力の要素について十分に述べられていない。又、世帯外の要因も世帯内の意思決定に影響を及ぼすが（Agarwal 1997, Mabsout and Staveren 2010）、協力的対立モデルでは十分に触れていない。そこで、本論文では協力的対立モデルに左記の 2 点を加え、図 3-2 の世帯内意思決定の分析枠組みとする。夫の決別点の高さについても検討する。世帯外の要因の中で、夫妻間の認識・行動に影響すると考えられるジェンダー役割規範の受容について、5 つ目の分析項目に加える。妻・夫のジェンダー役割規範の変容の受容、そして夫の決別点の強化、これらの要素を加えて、妻・夫それぞれの交渉力の要素とする。夫妻が話し合いの場を持ち、話し合いのプロセスを経て、資源を獲得すると捉える。交渉力の要素が同じであっても、話し合いプロセスが異なれば、

獲得出来る資源が異なる可能性がある事を示している。

先行研究では、意思決定のプロセスを明らかにした研究は少ないが、妻がどのように夫と交渉するのか、帰納的アプローチにより質的データを分析した研究はあった（Nikiema, Haddad and Potvin 2008）。これを参考に、夫妻の意思決定プロセスを夫妻の語りから分析する。そして意思決定プロセスに女性がより関わるのはどのような場合か、図 3-2 の修正した協力的対立モデルを本研究の分析枠組みとする。

図 3-2　世帯内意思決定の分析枠組み


妻の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
話し合いプロセス
話し合う環境
夫の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
妻が獲得しうる資源
夫が獲得しうる資源

（「Gender and Cooperative Conflict (Sen 1990, 123-149)を参考に筆者作成」）

第 2 部　事例研究

第 4 章　調査手法と対象地の概要

本章では本研究の調査手法、対象地の概要と調査対象者のプロフィールについて述べる。まず本研究の調査手法を、概要とデータ収集、分析について示す。次にナイジェリア北部の社会経済状況、ジェンダー格差の状況と改善への取り組みについて概要を示し、ナイジェリア北部の主要民族であるハウサの世帯・婚姻関係とジェンダー役割規範について、先行研究と統計資料から説明する。そして調査対象地の概要と調査対象者のプロフィールを示す。

4-1　調査手法

4-1-1　調査手法の概要

本研究は世帯内のジェンダー規範や力関係の視点から、世帯内の意志決定プロセスを検討する事を目的とする。夫妻間の力の配分のような問題は、構造化されたアンケート調査方法では普通の生活における様々な複雑性を見失うリスクがあり、調査者と調査対象世帯との継続的な接触で行うインタビューによる定性分析に利点がある（ジャン・パール 1994)。そのため量的調査により因果関係や相関関係の傾向を調べるという方法ではなく、質的データに基づく事例研究により、意思決定プロセスの特徴や世帯員の言動の意味を概念化する事で、世帯内の資源分配という複雑な行為の理解を試みる。又、結婚と家族生活に関する研究の多くが妻のみを対象に調査しているが、夫と妻の意見の相違を見る必要がある（ジャン・パール 1994)。

事例研究という方法では個別現象から導かれた体系的なシステム・モデルの妥当性が問われるのであって、取り上げる個別現象の「数」ではない。個別現象ごとに異なるストーリーを、ストーリーの「変異のあり方」やストーリーの流れを大きく変えるような分岐点に着目して、いくつかの「あり得る」ストーリーに集約化していく事で、体系的なシステム・モデルを確立していく（永田 2002)。事例研究が一般化可能性を生み出すためには、ある事例を記述するより概念化に焦点を当てて分析する事で、調査者が研究してきた事の側面を説明する多くの新しい概念を展開する事、又、調査者が事例において概念や要素に結びつく、より多くの命題を示す事が必要である。事例研究調査の視点では、命題や仮説は調査に組み込むのではなく調査から生み出されるものである（パンチ　2005)。

本調査では、調査対象となる夫妻に対して継続的に個別インタビュー及び質問票による記述式回答を得て、それらの質的データをコーディングと概念化により意志決定プロセスの特徴やパターン、各パターンになる要因について分析する。個別インタビュー・質問票による調査以外にも、政府文書、プログラム報告書・パンフレット、新聞、援助機関や NGO の報告書、統計資料等の二次資料からも関連するデータを活用する。

4-1-2　調査概要

調査概要

調査は2010年9月から10月及び2011年1月から2月、6月から7月にカノ州クンボッソ地方行政区P地区で実施した。調査対象者と方法を表4-1に示す。フォーカス・グループ・ディスカッション（以下、FGD）及び個別インタビューは通訳を介して実施、質問票はハウサ語で行い回答を通訳が英語に訳した。1回目のフィールド調査では、未婚、既婚、寡婦等様々な属性の女性とその夫にFGDを実施し、調査対象のP地区の他にカノ州内2カ所（都市中心部G地区、農村部B地区）でも同様にFGDを実施し、カノ州のジェンダー規範、女性の生活状況、経済活動について住民の意見を収集した。2回目のフィールド調査では既婚女性34人に個別インタビューをした。これは調査を実施したP地区の女性センター（Women Development Centre, 以下WDC）まで、徒歩30分程度で来られる範囲に居住しているハウサ人である。その内訳は、1) 経済活動をしている既婚女性 17人、2) 経済活動をしていない既婚女性17人である。又、この34人の女性の夫に関しては、多くの夫が日中は不在でインタビュー不可能であったため、ハウサ語の質問票を配布して回収した。個別のインタビューは6人の夫のみ実施した。3回目のフィールド調査では、2回目の調査と同じ34人に対して、まずハウサ語の質問票を配布し、回収した質問票の回答を基に、個別インタビューで質問票と同様の内容を調査した。3回目の調査での個別インタビューは、女性の家を一軒ずつ訪問して家の中で実施した。夫に対しても同様に質問票を配布し回収（31人回収）、個別インタビューは可能であった6人のみ実施した。キーインフォーマント・インタビューも同様にハウサ語の質問票の配布・回収の後に個別インタビューを実施した。第3回目の調査ではP地区の伝統的・宗教的リーダー8人に対してFGDを行った。

調査対象者と調査地の選定理由

本研究は世帯内の話し合いに関するため調査対象者は既婚者とし、女性の収入が世帯ニーズ充足や世帯内役割の認識に影響するか検討するために、経済活動有と経済活動無の既婚女性及びその夫を調査対象者とした。実際に選んだサンプルは、この基準を満たす中からキーインフォーマントであるWDC講師が、各家を訪問して調査協力に合意してくれた34世帯の夫と妻である。調査対象者のうち夫が不在であったり特定の質問に回答しなかったりしたため質問によっては全員からの回答を得られていない。

キーインフォーマントに関してはカノ州全体の社会経済状況、特に女性の置かれている状況について現状を把握するためにカノ州女性課題・社会開発省（以下、女性省）の職員（女性）から2名、又調査対象のP地区のハウサ人女性達の状況やP地区の社会経済状況の変化、ジェンダー役割規範について理解し、調査対象者の回答を解釈したり、調査対象者に質問出来ない項目について尋ねたりするために、P地区の住民であるWDCの常勤講師（女性）7名全員を対象とした。

FGD に関しては、第一回目の事前調査時に P 地区の女性の状況を把握するために既婚女性だけでなく、未婚・寡婦の女性も対象とした。又、同地区の男性に対する FGD も実施した。第 3 回目の調査時には宗教的・伝統的リーダー（男性）8 人に対して、P 地区の社会経済状況、特に男性の経済状況について理解するために実施した。

次に調査対象地としてカノ州クンボッソ地方行政区 P 地区を選択した理由は次のとおりである。まず、カノ州は古くからハウサ社会の中心地であり、現在もナイジェリア北部の中心地であるため援助機関の活動も多く、カノ州の社会経済的状況やジェンダー課題に関する報告書の入手が容易だった。ハウサ社会についての先行研究の中で、特にハウサ社会の女性の状況を扱った先行研究でカノ州を対象にした研究の蓄積もあった。又、クンボッソ地方行政区 P 地区はカノ市郊外で、近年開発が進み社会経済状況が変化している地域であり、ジェンダー役割規範の変容が見られる可能性があった。更に P 地区は商業が盛んであり女性が経済活動に携わる機会が比較的多い事である。最後に P 地区の WDC は、P 地区在住の女性達が自発的に作り上げた場であり、設立に携わった WDC 講師達から内発的に地域のジェンダー役割規範を変えようとする姿勢が見られた事である。

1 回目の事前調査時には P 地区以外の調査対象候補地として、カノ州北西部の農村部である B 地区、カノ市中心部の G 地区においても既婚・未婚・寡婦の女性を対象に FGD を実施した。その結果、B 地区は女性の経済活動が農産物の加工や農産物を使った調理食品の製作販売に偏っていた事、G 地区は集まった女性の年齢層が 10 代後半の未婚女性が多かった事から、既婚者を対象とするため適切ではなかった。

下記の表 4-1 は調査対象者と調査方法をまとめたものである。

表 4-1　調査対象者と調査方法

調査時期	調査対象者	調査方法
1 回目（準備調査） （2010 年 9 月-10 月）	既婚・未婚・寡婦の女性 20 人 （FGD1）	FGD
	既婚男性 6 人（FGD2）	
	経済活動有の既婚・未婚女性 14 人	個別インタビュー
	カノ州女性省職員 2 人（KI1,2）	
2 回目 （2011 年 1 月-2 月）	経済活動有の既婚女性 17 人	個別インタビュー
	経済活動無の既婚女性 17 人	
	上記の夫 34 人	質問票配布（回答 24 人）、 個別インタビュー（6 人）
	WDC 講師 7 人（KI3-9）	個別インタビュー
3 回目 （2011 年 6 月-7 月）	2 回目と同じ対象者（妻）34 人	質問票配布・個別インタビュー
	2 回目と同じ対象者（夫）34 人	質問票配布（回答 31 人） 個別インタビュー（上記中 6 人）
	WDC 講師（2 回目と同じ対象者）7 人	質問票配布・個別インタビュー
	伝統的･宗教的リーダー[15]8 人（FGD3）	FGD

（KI はキーインフォーマント、KI1,2 はカノ州女性省職員、KI3-9 は P 地区の WDC 講師。筆者作成）

---

[15] 行政機関である地方行政区（Local Government Area:LGA）に相当する範囲を管轄するハキミ（*Hakimi*）、その下に地区を管轄するダガチ（*Dagachi*）、その下にコミュニティを管轄するメイウングア（*Maiunguwa*）がいる。P 地区では、クンボッソ LGA を管轄するハキミ 1 人、P 地区のダカチ 1 人、メイウングア 10 数人が、人々の日常の揉め事の仲裁をする。宗教的リーダーとしてイマーム（Imam）が各モスクにいる。

調査バイアスへの対応

筆者は2004年3月から2010年1月まで、断続的にナイジェリアでJICA派遣専門家等としてカノ州を対象とした女性の生活向上支援に携わった。P地区WDCは2007年1月から2010年1月まで実施されたJICA技術協力プロジェクト「ナイジェリア国　女性の生活向上のための女性センター活性化支援　フェーズ1」の支援対象であった。筆者は同プロジェクトJICA派遣長期専門家としてP地区WDCと関わりWDC講師と面識があったため、本調査では一般住民と接触する媒介としてWDC講師に調査協力を依頼した。

回答のバイアスを減らすためには複数の調査方法で同様の質問を繰り返し、回答を確認する必要があるため（Mikkelsen 1995）、個別インタビュー、質問票、観察により同様の質問を同じ調査対象者に異なる時期に複数回実施した。又、センシティブな内容に関わる際は調査対象者との信頼関係の構築が不可欠であり（Mikkelsen 1995）、本調査は世帯内での収入用途や収入額、世帯内役割の認識等プライベートな事項が含まれるため、筆者と信頼関係が構築されていたWDC講師の媒介は必要であった。

調査の限界

本調査は調査期間の一時期の状況を切り取っているため調査対象者の経年での変化は把握出来ない。調査対象者が変化をどのように認識しているかは調査しているが、実際にどのように変化したかは分からない。例えば本研究の研究対象である夫妻の話し合いについても、話し合いプロセスについて「繰り返しゲーム[16]」としての実際の効果は分からない。「昔はこうだったが、今ではこうなった」という調査対象者の認識は把握出来ても、実際に世帯内で夫妻という長期の関係の中で、話し合いを繰り返す事で、過去の話し合い結果がその後の話し合いプロセスにどう影響するかを、長期間の変化としては確認出来ない。

又、筆者はハウサ語を詳細に理解する事は出来ないため、英語とハウサ語の分かるハウサ人に通訳を依頼した。通訳は事前調査時にはカノ州女性省職員2名、2回目の調査時は事前調査時と同じカノ州女性省職員2名及び大学を卒業したばかりのハウサ人男性、3回目の調査時はカノ州女性省職員2名及び大学生のハウサ人女性がアシスタントとして通訳及び翻訳を実施した。アシスタントとの英語でのコミュニケーションに問題はなかったが、ハウサ語からの翻訳に際し英語の語彙に限界があった。

4-1-3　データ収集

質問事項の確認

質問事項は個別インタビュー、質問票共に筆者が英語で作成し、複数のカノ州女性省職員（KI1,2を含む）に質問内容がP地区の社会文化的に相応しいか確認してもらった。又

---

[16] ゲーム理論では長期の関係を分析する際に、同じゲームが無限に繰り返される状況を考える。ゲームのプレイヤー（交渉を行う個人）は長期的な利得の最大化を目的とするため、1回のゲームで利得が少なくても、将来のゲームで利得を多く得ればいいと考える（神戸　2004,116-128）

質問票については、カノ州女性省職員及び通訳がハウサ語に翻訳した。尚、この時点で、家庭内暴力及び家族計画に関する質問事項は、調査対象者に対する質問としては不適切であるという女性省職員の判断により削除した。理由として、質問票を配布した場合、文字を読めない調査対象者の場合は夫や親族に聞く可能性が高く、又、文字を読める場合でも質問票を夫に見せる可能性が高いため、この 2 つの質問事項は夫や親族の反感を買うという理由であった。キーインフォーマントである WDC 講師に対しては、これらの質問も実施している。又、個別インタビュー時にも派生した質問は、その都度、通訳に適切かどうかを確認した。

質問内容の概略

質問事項は世帯内資源分配と意思決定に関する先行研究、ハウサ社会に関する先行研究、ナイジェリア北部のジェンダー課題に関する統計資料・政府機関・援助機関等の報告書を基に作成した。調査対象者の既婚女性、その夫、女性省職員及び WDC 職員に対する主な調査項目は、次の表 4-2、表 4-3、表 4-4、表 4-5 のとおりである。第 1 回目の事前調査で確認した点を基に、第 2 回目、第 3 回目では 34 世帯の夫妻に対して本調査を実施している。両調査で同じ質問をしている点、更に詳しく聞いている点がある。

表 4-2　女性に対する主な質問項目

	1回目（事前調査） FGD 個別インタビュー	**2回目（本調査）** 調査対象者の確定 個別インタビュー	**3回目（本調査）** 2回目と同じ調査対象者 個別インタビュー・質問票
性別役割分業	● 1日の女性・男性の活動 ● コミュニティでの女性・男性の活動・役割 ● 良き妻・良き夫の条件	●1日の女性の活動 ●妻の収入が夫を上回る ●夫が家事を手伝う事 ●良き妻・良き夫の条件	●娘のダウリ準備
女性の経済活動	● 女性が従事する経済活動の種類 ● 女性に相応しいとされる経済活動 ● 協同組合・講への参加 ● 女性の収入用途・理由	●経済活動の有無・内容 ●経済活動を始めた理由 ●収入額・収入用途・管理 ●材料入手・製品販売 ●協同組合・講への参加 ●WDC通学の理由/感想	●経済活動の有無・内容 ●経済活動を始めない理由 ●収入額・収入用途・管理 ●材料入手・製品販売 ●協同組合・講への参加 ●WDCに通わない理由
世帯ニーズの充足	● 世帯ニーズとは何か ● 誰が何に責任をもつか	●世帯ニーズとは何か ●誰が世帯ニーズを担うか ●夫の世帯ニーズ充足程度 ●夫にお金を貸与・贈与する経験・頻度・金額	●夫の世帯ニーズ充足程度 ●夫にお金を貸与・贈与する経験・頻度・金額 ●世帯ニーズ充足への妻の役割
社会 ネットワーク		●外出の頻度・行き先 ●親戚・友人・近所付合い ●夫妻の親戚の相互支援	●夫妻の親戚の相互支援 ●結婚式等の出席の意味 ●困った際に頼る相手
夫妻の話し合い		●夫と日常に話す内容 ●夫意見に相違の際の対処 ●日常的話題の対処の実態（食料・日用品・健康・女性の外出・親戚支援・土地・家屋の購入・子どもの教育）	●夫と日常に話す内容 ●夫意見に相違の際の対処 ●日常的話題の対処の実態（食料・日用品・健康・女性の外出・親戚支援・土地・家屋の購入・子どもの教育）
ジェンダー役割への認識		●経済活動有の女性の認識 ●経済活動無の女性の認識	●世帯内の夫妻の役割
将来像・変化の認識		●経済活動開始からの変化 ●望ましい状況・将来像	●夫の変化 ●望ましい状況・将来像
プロフィール		●年齢・子ども数・教育 ●夫の親戚・他妻の有無 ●妻の親戚の居住地 ●夫の属性・教育・職業	●親からの相続の有無 ●土地・家屋・家畜所有 ●貯蓄の有無

（筆者作成）

表 4-3　男性に対する主な質問項目

	1 回目（事前調査） FGD 個別インタビュー	**2 回目（本調査）** 調査対象者の確定 個別インタビュー・質問票	**3 回目（本調査）** 2 回目と同じ調査対象者 個別インタビュー・質問票
性別役割分業	●1日の女性・男性の活動 ●良き妻・良き夫の条件	●良き妻・良き夫の条件 ●妻の収入が夫を上回る ●夫が家事を手伝う事	
女性の経済活動	●女性の経済活動の種類 ●女性に相応しい経済活動	●妻をWDCへ通わせた理由/WDCの効果について感想	
男性の経済活動		●1カ月の収入額 ●1カ月の世帯ニーズ支出額 ●夫の収入の管理	●1カ月の収入額 ●1カ月の世帯ニーズ支出額 ●夫の収入の管理
世帯ニーズの充足	●世帯ニーズとは何か ●誰が何に責任をもつか	●世帯ニーズとは何か ●誰が世帯ニーズを担うか ●夫の世帯ニーズ充足程度 ●妻からお金を借りる・もらう経験・頻度・金額	●夫の世帯ニーズ充足程度 ●妻からお金を借りる・もらう経験・頻度・金額
社会ネットワーク		●夫妻の親戚の相互支援	●夫妻の親戚の相互支援
夫妻の話し合い		●妻と日常に話す内容 ●妻の意見に相違の際の対処 ●日常的話題の対処の実態（食料・日用品・健康・女性の外出・親戚支援・土地・家屋の購入・子どもの教育）	●妻と日常に話す内容 ●妻の意見に相違の際の対処 ●日常的話題の対処の実態（食料・日用品・健康・女性の外出・親戚支援・土地・家屋の購入・子どもの教育）
ジェンダー役割への認識		●経済活動有の女性の認識 ●経済活動無の女性の認識	●世帯内の夫妻の役割
将来像・変化の認識		●経済活動開始から妻の変化 ●望ましい状況・将来像	●妻が経済活動開始から夫自身の変化 ●望ましい状況・将来像
プロフィール		●年齢・教育経験 ●夫の親戚・他妻の有無 ●夫の属性・教育・職業	

（筆者作成）

表 4-4　キーインフォーマント（K1-2）への主な質問項目

	1 回目（準備調査）　個別インタビュー
カノ州の社会経済状況	● 男性の経済活動状況、給与水準 ● 女性の経済活動の状況 ● 教育費、医療費、食費、日用品の値段、交通費等
カノ州の女性の状況	● 女性の課題 ● 女子教育の状況 ● 離婚・再婚 ● 既婚女性の隔離の状況
カノ州政府による女性の課題への取り組み	● カノ州内のWDC、協同組合、マイクロ・クレジット

（筆者作成）

表 4-5　キーインフォーマント（K3-9）への主な質問項目

	2 回目（本調査） 個別インタビュー	**3 回目（本調査）** 質問票/個別インタビュー
P 地区について	● P地区の歴史、現在の社会経済状況 ● P地区の女性の状況 ● 女子教育の状況	● P地区でこれまで実施された女性に関するプロジェクト ● P地区WDCの設立経緯
世帯・婚姻関係	● P地区での居住形態（夫の両親・親戚、他妻との同居について） ● 離婚・再婚・独身でいる事 ● 離婚の理由 ● 既婚女性の隔離の実践	● 結婚相手に望まれる事、結婚までのアレンジ ● 複数の妻がいる男性への評判 ● 他妻を持つ事への女性の対応 ● 婚資について
ジェンダーに関わる問題	● 女性が抱えている問題 ● 家族に関する問題	● 家庭内暴力
女性の経済活動	● 女性が携わる経済活動・理由 ● 経済活動における問題 ● 女性の収入用途・収入が必要な理由	● 男性の経済活動 ● 男性の収入用途
社会ネットワーク	● 親戚・知人とのギフト交換 ● 親戚との相互支援	
ジェンダー役割規範への認識	● 世帯ニーズを充足しない男性 ● 経済力のある女性 ● 経済活動に従事する女性の夫	● Matsai Mace（尊厳・体面）とは
女性の望む状況	● 女性が望む生活とは何か ● 女性に必要な能力とは何か	● 夫に同意出来ない際の妻の対処 ● 妻に賛同する夫の特徴

（筆者作成）

データ収集の方法

本調査のデータ収集には、1) 質問票、2) 個別インタビュー、3) FGD の 3 種類の方法、又直接観察や文書から質的データを収集した。2 回目の調査時は、調査対象者の夫が日中

は不在であり個別インタビューが可能な対象者が限られたため、質問票を配布し回収した。質問票はハウサ語に訳したものを WDC 講師が調査対象者の自宅に届け、3 日から 5 日後に回収してもらった。回収した質問票の回答をハウサ語から英語にカノ州女性省職員及び通訳が翻訳した。3 回目調査時には、まずハウサ語に訳した妻に対する質問票と夫に対する質問票を WDC 講師に対象の 34 世帯に配布してもらい、3 日から 5 日後に回収してもらった。通訳により回答を英語に翻訳してもらい、その後、妻 34 人全員、及び夫 6 人に対しては、回収した質問票の回答を基にインタビューを実施し、追加の質問や不明な点の確認をした。

個別インタビューは P 地区 WDC と（1，2 回目調査時）、調査対象者の自宅を訪問（2、3 回目調査時）し、1 人当たり 1 時間半から 2 時間程度のインタビューを実施した。WDC においては個室で筆者と通訳、調査対象者のみで実施したが、調査対象者の自宅では調査時は筆者と通訳、調査対象者のみの場を確保していたものの、同行した WDC 講師や調査対象者の親族（義母、子ども）が周囲にいたため、調査対象者の回答に影響を与えた可能性は排除出来ない。尚、調査対象者にプレッシャーを与えてしまう事を避けるためインタビューを録音する事は避けた。WDC 講師に対するインタビューは WDC で実施した。

FGD は WDC の部屋で既婚・未婚・寡婦の女性 20 人（1 回目調査時)、既婚男性 6 人（1 回目調査時）に通訳を介して実施した。又、宗教的・伝統的リーダー8 人に対して、宗教的リーダーの自宅において実施した（3 回目調査時)。男性に対する FGD は調査対象者同士で誇張して話す傾向が見られ、「集団の相互作用により表面化しないような状況を表に出せる（パンチ 2005,241)」という FGD の利点が得られなかった。女性に対する FGD は女性の経済活動や様々な制約といった、女性が不満を感じている事柄に対して個別インタビューよりも様々なデータを得られた。しかし世帯内の話し合いに関しては他の女性の前で話しにくい様子であり、このテーマに関しては、FGD は適切なデータ収集法ではなかった。

4-1-4　データ分析

データ分析の方法

質的データの分析方法は多様であり、調査の目的によって方法は決まる。再現可能性の基準が妥当である事が必要である（パンチ 2004,269-273)。質的研究において研究者は翻訳者のような役割を持ち、対象社会の人々自身の語りや行為から読み取れる「現場の言葉」を、研究者コミュニティで理解される一般的で抽象的な「理論の言葉」へと移し換えていく作業を行う。研究者は「現場の言葉」と「理論の言葉」を何度も往復し、質的データの意味を解読していく（佐藤 2008,17-32)。佐藤は、質的データ分析は「単にコーディングによってデータの縮約を行うだけでなく、その一方で、何度となくオリジナルの文脈に立ち帰って、それを参照しながら行為や語りの意味を明らかにしていこうとする（佐藤 2008,57)」と、基のデータとコーディング・概念化したデータとの往復を繰り返す作業の中から対象者の言動の意味を解明していく必要を述べている。又、物事を単に記述するだ

けでなく、何故そうなるのか、どう影響するのか等、説明する事が必要であるという（佐藤 2008,59-73）。

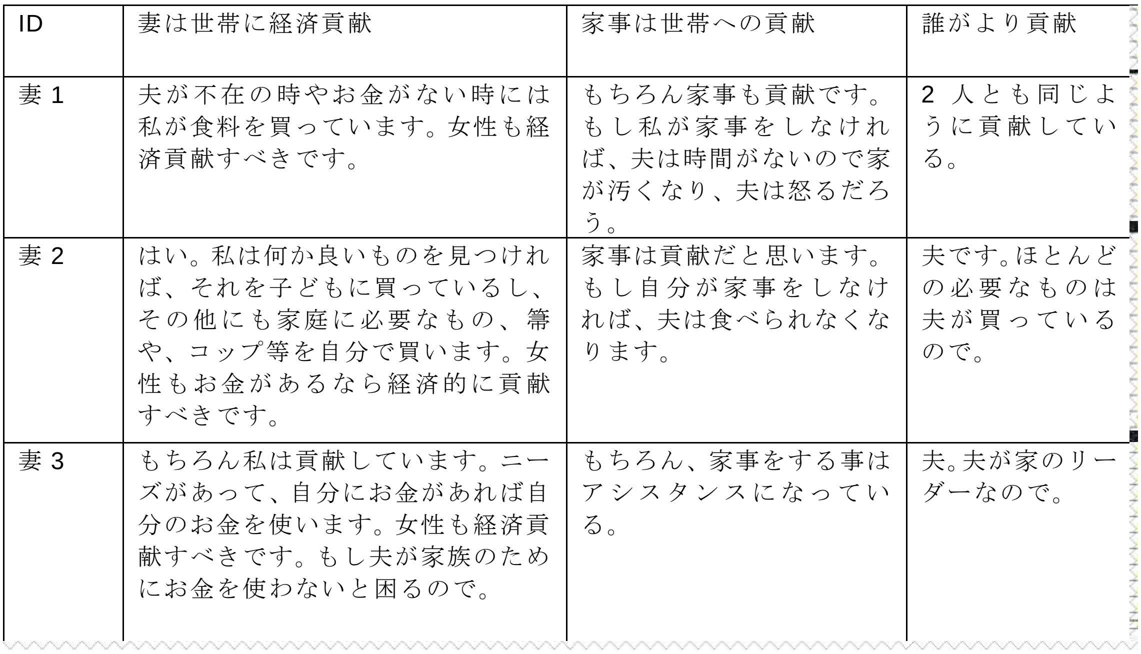
本研究は、世帯内意思決定プロセスを、主に夫妻のやり取りに関わる質的データの分析により明らかにするため、「現場の言葉」である夫妻から得たデータと「理論の言葉」である先行研究に基づく分析枠組みに関わる言葉の間を行き来しながら夫妻の認識や行動を理解する必要がある。そのため本研究は、佐藤（2008）の質的データ分析法を参考に質的データの分析を行う。まず定性的コーディングを行い、類似したコードを分類し、調査対象者ごとにデータベース化した。そしてコードごとに類似のコードの文字テキストデータを読み込みながら、「理論の言葉」に近づくよう概念化し、ストーリーを組み立てていった。

次に事例の個別性と全体的像を見るために、「事例―コード・マトリックス」を作成した。「事例―コード・マトリックス」は事例を横方向、複数のコードを縦方向にし、関連する文字テキストデータを整理したものである。横方向に見れば、特定の調査対象者がおかれている状況を見る事が出来、縦方向にみれば、ある行為や認識について調査対象者の特殊性を超えた一般的パターンや規則性を見出す事に有効である（佐藤 2008,59-73）。

又「事例―コード・マトリックス」は「継続的比較法」と呼ばれる、複数のデータ同士を、比較を繰り返して分析する方法に有効である（佐藤 2008,111-127）。

表 4-6、表 4-7　は事例―コード・マトリックスの一部を例として示したものである。

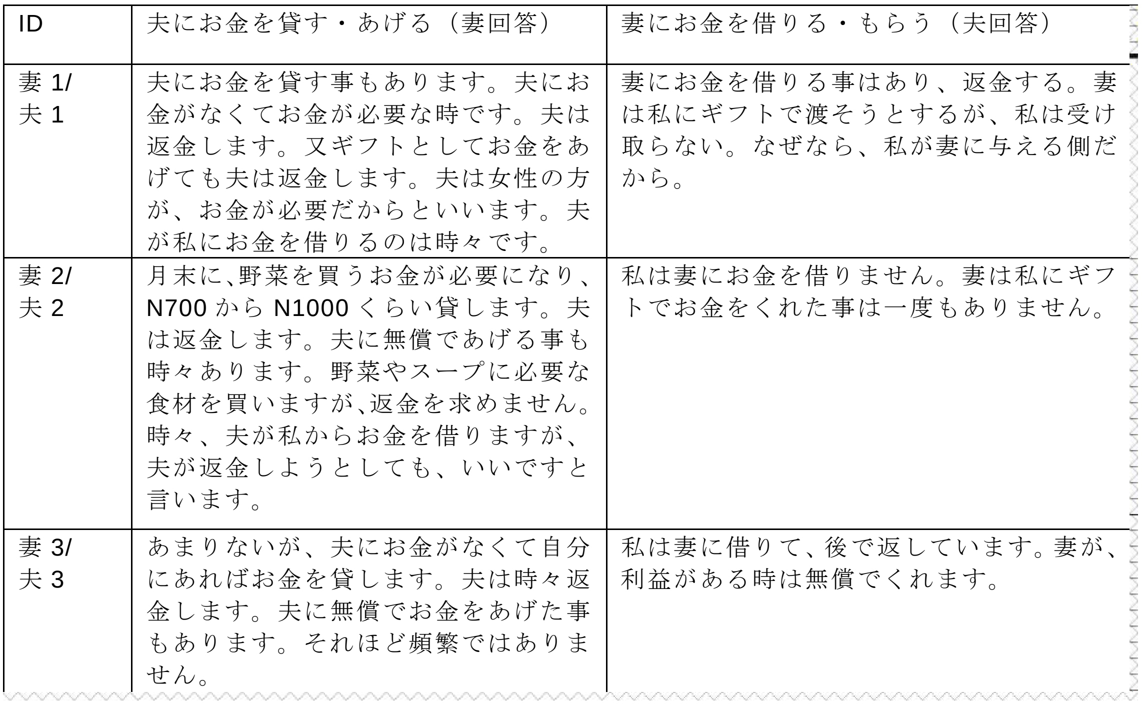
表 4-6　　事例―コード・マトリックスの例（類似したコード間の比較）



ID	妻は世帯に経済貢献	家事は世帯への貢献	誰がより貢献
妻 1	夫が不在の時やお金がない時には私が食料を買っています。女性も経済貢献すべきです。	もちろん家事も貢献です。もし私が家事をしなければ、夫は時間がないので家が汚くなり、夫は怒るだろう。	2 人とも同じように貢献している。
妻 2	はい。私は何か良いものを見つければ、それを子どもに買っているし、その他にも家庭に必要なもの、箒や、コップ等を自分で買います。女性もお金があるなら経済的に貢献すべきです。	家事は貢献だと思います。もし自分が家事をしなければ、夫は食べられなくなります。	夫です。ほとんどの必要なものは夫が買っているので。
妻 3	もちろん私は貢献しています。ニーズがあって、自分にお金があれば自分のお金を使います。女性も経済貢献すべきです。もし夫が家族のためにお金を使わないと困るので。	もちろん、家事をする事はアシスタンスになっている。	夫。夫が家のリーダーなので。

（筆者作成）

表 4-7 事例—コード・マトリックスの例（夫妻の回答の比較）



ID	夫にお金を貸す・あげる（妻回答）	妻にお金を借りる・もらう（夫回答）
妻 1/ 夫 1	夫にお金を貸す事もあります。夫にお金がなくてお金が必要な時です。夫は返金します。又ギフトとしてお金をあげても夫は返金します。夫は女性の方が、お金が必要だからといいます。夫が私にお金を借りるのは時々です。	妻にお金を借りる事はあり、返金する。妻は私にギフトで渡そうとするが、私は受け取らない。なぜなら、私が妻に与える側だから。
妻 2/ 夫 2	月末に､野菜を買うお金が必要になり、N700 から N1000 くらい貸します。夫は返金します。夫に無償であげる事も時々あります。野菜やスープに必要な食材を買いますが､返金を求めません。時々、夫が私からお金を借りますが、夫が返金しようとしても、いいですと言います。	私は妻にお金を借りません。妻は私にギフトでお金をくれた事は一度もありません。
妻 3/ 夫 3	あまりないが、夫にお金がなくて自分にあればお金を貸します。夫は時々返金します。夫に無償でお金をあげた事もあります。それほど頻繁ではありません。	私は妻に借りて、後で返しています。妻が、利益がある時は無償でくれます。

（筆者作成）

本研究の質的データ分析は、このような事例－コード・マトリックスを用いてデータ同士の継続比較を行った、又欠損データの確認をしたり、新たな質問事項を創出したり次の調査に活用した。

分析結果の確認

調査の分析結果はキーインフォーマントである P 地区 WDC の講師 7 人及びカノ州女性省職員に内容を確認してもらった。前述のように調査は 3 度に分けて実施している。1 回目の事前調査（2010 年 9-10 月）の調査結果は 2 回目の調査（2011 年 1-2 月）の開始時に、P 地区 WDC において筆者が英語で行い通訳がハウサ語に訳した。又、カノ州女性省女性局職員 6 人（KI1,2 を含む）に対しても同じ内容を英語で実施した。同様に 2 回目の調査結果は 3 回目の調査（2011 年 6-7 月）開始時に、3 回目の調査結果は 3 回目の調査終了時に、P 地区 WDC 職員及びカノ州女性省職員に対する筆者の口頭及び文書によるプレゼンテーションの形で実施した。

調査結果に対して筆者の解釈に大きな誤解はなく概ね同意された。又 WDC 講師及び女性省職員より、調査結果のより深い解釈に繋がるコメントを得た。P 地区 WDC 職員 7 人（KI3 から KI9）は調査対象者と同じ P 地区の住民でもあり、彼女達から調査結果の筆者解釈に同意を得た事は、調査対象者の認識と行動の可能な限りの把握に近づいていると考える。

4-2　対象地の概要

本節では本研究の対象地であるナイジェリア北部について、社会経済状況、ジェンダー格差の状況と、ジェンダー格差への取り組みについて示す。

4-2-1　ナイジェリア北部の概要

ナイジェリア北部社会経済状況

ナイジェリアは西アフリカに位置し、人口約1億4800万人（NBS 2008）、350以上の民族で構成され、主要3民族であるハウサ22.3%、ヨルバ17.7%、イボ15.9%を合わせても55%に過ぎない。宗教はイスラーム44.5%、キリスト教42%、カトリック11.5%であり、ナイジェリア北部はイスラームが大多数を占める（NDHS 2008）。1960年に英国より独立し、数度のクーデターや軍事独裁政権を経て1999年より民主政権となった。大統領を元首とする連邦制をとり、36の州は強い自治権を持つ。サブサハラ・アフリカで2番目の経済力を持ち、アフリカ最大の原油輸出国で、外貨収入の95%は石油関連、又政府歳入の80%を占めている（World Bank 2010）。しかしながら貧困国の1つでもあり、2013年の人間開発指標では187カ国中153位（UNDP 2013）、7200万人の人々が1日1ドル以下の生活をしている（DFID 2010）。1人当たりGDPは1,156.82USD（UNDP 2010）である。

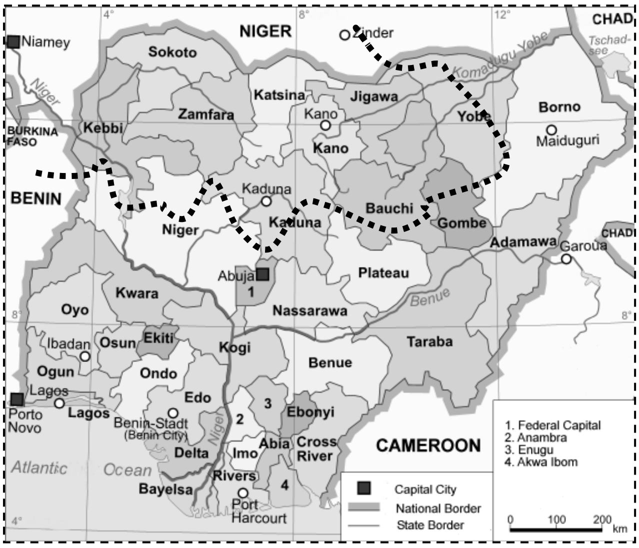
ナイジェリア北部の19州のうち12州では2000年から2002年の間にシャリーア（イスラーム法）が導入された。本研究の対象地であるカノ州では、2002年にシャリーアが州法に適用され、2003年にはHisbaという行政組織がシャリーアの実施を監視し強化するために導入された。これにより女性の活動や移動性、可視性が更に制限されるようになった（Adamu 2008,136-139）。カノ州は人口が約940万人（2006年国勢調査）で大多数をハウサが占める。カノは交通の要所で古くから商業の中心地として繁栄した。現在でもナイジェリア北部の中心地である。カノ州の1人あたりGDPは683.76USD（UNDP 2010）、現地語の成人識字率は男性で71.2%、女性が50.2%である（NBS, 2006）。カノ州には地方行政区[17]が44あり、対象地のクンボッソ地方行政区はカノ市の郊外で、人口は約29万6千人（NBS 2008）で11の地区に分かれている。P地区はカノ市への幹線道路沿いに発達した地区で、市場、学校、モスク、病院等人々の生活に必要な施設がある。1999年に軍事政権が終わり民政に移管されると、外国資本の工場が相次いで建設された事に伴い労働者が流入し街が拡大している。工場建設のために住民は農地を売り、農業に専従する人は減った。男性の多くは工場労働者や公務員、自営業である[18]。P地区には2004年に女性センター（詳しくは後述）が設立され、この地区の女性達が識字、洋裁、編み物等を学ぶ場となっている。

---

[17] ナイジェリアの行政機構は連邦政府の下に36の州政府があり、州政府の下には地方行政区がある。

[18] 筆者の2011年6月-7月の現地調査でのP地区伝統的・宗教的リーダーとのフォーカス・グループ・ディスカッションより。

図 4-1 ナイジェリア地図


4°
8°
12°
CHAD
NIGER
Zinder
Niamey
Tschad-see
Sokoto
Komadugu Yobe
Niger
Katsina
Jigawa
Zamfara
Kano
Kano
Yobe
Borno
Maiduguri
BURKINA FASO
Kebbi
BENIN
Kaduna
Kaduna
Bauchi
Gombe
Niger
Adamawa
Garoua
CHAD
Abuja
1
Plateau
Kwara
Nassarawa
Benue
Oyo
Taraba
Ibadan
Osun
Ekiti
Kogi
Benue
Ogun
Ondo
Lagos
Edo
3
Ebonyi
Porto Novo
Lagos
Benin-Stadt (Benin City)
2
Niger
Abia
Cross River
Delta
Imo
CAMEROON
Atlantic Ocean
Rivers
4
Bayelsa
Port Harcourt
Capital City
National Border
State Border
1. Federal Capital
2. Anambra
3. Enugu
4. Akwa Ibom
0 100 200 km

http://en.wikipedia.org/wiki/States_of_Nigeria　2012 年 10 月 9 日アクセス
黒点線は筆者。黒点で囲まれた地域は人口の多くをハウサ-フラニが占める地域。
（「Nigeria Social Studies Atlas」Macmillan, 2007 P30 を参照）

ナイジェリア北部のジェンダー課題

UNDP（国連開発計画）の人間開発報告書ナイジェリア版から、ハウサが大多数を占めるナイジェリア北部のジェンダー格差について述べる。表 4-8　はナイジェリアの 6 政治的地理区分[19]ごとのHDI（人間開発指数）、GDI（ジェンダー開発指数）、GEM（ジェンダーエンパワーメント指数）を示している[20]。UNDPの分類ではHDI値が 0.5 を下回ると「人間開発低位国」となる。2009 年の人間開発報告書ではナイジェリアのHDI値は 0.511 で、人間開発中位国の一番下、全体のHDIによる順位では 158 番目（182 カ国中）であった。ナイジェリアのジェンダー格差を 6 政治的地理区分ごとに見てみると、北部と南部に大きな格差がある事が分かる。北部はHDI値、GDI値、GEM値がいずれも低く、南部では北部よりも高い。尚、北部中央には首都が含まれるため北部中央全体の数値が北東・北西部より高くなっている（UNDP 2010,92-93）。本研究の対象地であるカノ州は北西部に含まれる。北西部はハウサが大多数を占めている。北東部はハウサ以外の複数の民族が混在する州も含まれる。北東部は 2009 年の人間開発報告書のHDIが世界最下位であり、ハウサが人

---

[19] ナイジェリアでは全国を政治的地理的まとまりで 6 地区に分類している。北東部、北西部、北部中央、南西部、南東部、南南部に分けられる。調査対象のカノ州は北西部に含まれる。又、北西部の多くはハウサ人が居住している。「ナイジェリア北部」とは、この 6 政治的地理区分で分ける際の北東部、北西部、北部中央の 3 区分を合わせた地域を指す。

[20] UNDP はジェンダー格差を表す指標として「ジェンダー開発指数（GDI）」と「ジェンダーエンパワーメント指数（GEM）」を導入した。GDI は人間の基本的な能力の達成度のジェンダー格差を表すもので、「人間開発報告書 1990」から使用されている「人間開発指数（HDI）」と同様に、健康や教育の面における達成度を示す。ある国のジェンダー格差が大きいほど、HDI に比べて GDI が低くなる。一方、GEM は経済、政治、専門職の機会均等に関する男女の平等の度合いを測定するものである。GDI は能力の拡大に焦点を当てているが、GEM は獲得した能力を活用する機会がどの程度あるかを問題にしている（UNDP 1995）。

口の約60%を占めるニジェールよりもHDI値が低く開発が遅れている事が分かる。

表4-8　ナイジェリア6政治的地理区分ごとのジェンダー格差

	HDI値	GDI値	GEM値
北部中央	0.490	0.478	0.244
北東	0.332	0.250	0.118
北西	0.420	0.376	0.117
南東	0.471	0.455	0.315
南南	0.573	0.575	0.251
南西	0.523	0.507	0.285
ナイジェリア全体	0.511	0.499	-
ニジェール全体	0.340	0.308	-

（6政治的地理区分ごとの値は「Human Development Report Nigeria 2008-2009」UNDP, 2010年のP93より抜粋。ナイジェリア全体及びニジェール全体の値は「Human Development Report 2009」より抜粋。ナイジェリア全体の数値が「Human Development Report Nigeria 2008-2009」に記載されていないため、同年のHDRから抜粋）

表4-9はナイジェリア北西部6州のうち､ハウサが圧倒的多数を占める5州のHDI値、GDI値、GEM値をHDI値の高い順に示している。又、首都のあるFCT（首都領域）と旧首都で現在の経済の中心地である南西部のラゴス州の結果も比較のため抜粋している。ソ事州とカノ州は北西部のHDI値（0.420）よりも高い。又、カノ州ではGDI値は北西部の値（0.376）よりも低く、5州の中でも最も低い。HDIは健康や教育の面の達成度を示しているが、GDIがHDIに比べて低い事はジェンダー格差が大きい事を示している。GEM値は経済、政治、専門職の機会均等に関する男女の平等の度合いを測定しているが（UNDP 1995)、カティナ州を除いては 0.1を下回り、GEM値は著しく低い。

表4-9　ナイジェリア北西部のハウサが多い州のジェンダー格差

	HDI値	GDI値	GEM値
ソコト州	0.475	0.385	0.099
カノ州	0.436	0.333	0.092
ザンファラ州	0.434	0.422	0.056
カティナ州	0.410	0.383	0.129
ジガワ州	0.362	0.303	0.055
FCT(首都）	0.717	0.680	0.062
ラゴス州（旧首都）	0.607	0.548	0.357

（「Human Development Report Nigeria 2008-2009」UNDP, 2010年のP92より北西部6州からハウサが大多数を占める5州の結果と、首都があるFCT、旧首都のラゴス州（南西部）の結果を抜粋）

表4-10は北西部4つの州のGEM（ジェンダーエンパワーメント指数）の構成要素を示している。ハウサ社会では女性の政治参加は賛否両論あり、議員は良いが区長や知事等組織の長は認められない、子どもを育てる責任を終えた年齢でなければならない等の議論が

ある（Sada, L.Adamu et al. 2005)。州人口に占めるハウサの割合が圧倒的に多い北西部の 4 州において女性の国会議員はいない。又、1999 年の民主化の際の統一選挙、2003 年、2007 年と統一選挙は 4 年ごとに実施されているが、この 4 州では女性国会議員は全く輩出されていない（UNDP 2010,154)。これは 1967 年までナイジェリア北部では女性の政治参加が禁止されていた事、父系の親戚関係とパトロン―クライアントの絆が強く、女性はこのネットワークから除外されている事が、女性の政治参加が進まない要因として指摘される（BritishCouncil 2012,56)。表 4-9 の GEM 値が北西部の州で著しく低い事は、国会議員の数が 0 人である事が影響している。女性専門職・技術職の女性の割合は最も多いカティナ州で 25%であるが、旧首都のラゴス州の 46.2%の半分程度に過ぎない。ナイジェリア全体では女性の推定勤労所得は男性の 45%程度だが、カティナ州以外のハウサが多い 3 州では 10%程度である。

表 4-10　ナイジェリア北西部のハウサが多い州の GEM の構成要素

	女性国会議員の割合(%)	女性専門･技術職割合(%)	女性の推定勤労所得(USD)	男性の推定勤労所得（USD)
ソコト州	0.0	17.6	299	2,685
カノ州	0.0	16.0	157	1,188
カティナ州	0.0	25.0	442	1,553
ジガワ州	0.0	8.8	150	1,816
ナイジェリア全体	7.5	22.2	715	1,596

（「Human Development Report Nigeria 2008-2009」UNDP, 2010 年の P152 より北西部 6 州からハウサが大多数を占める 4 州とナイジェリア全体の結果を抜粋。尚、ザンファラ州はデータが未記載のため省略）

表 4-11 は北西部の 4 州の GDI（ジェンダー開発指数）の構成要素を示している。出生時平均余命はナイジェリア国全体の数値とあまり変わらないが、成人識字率、初・中・高等教育総就学率は男女共にナイジェリア国全体の数値よりも低く、男女の格差も大きい事が分かる。推定勤労所得は男女の格差が非常に大きい。

表 4-11　ナイジェリア北西部のハウサが多い州の GDI の構成要素

	出生時平均余命（歳）		成人識字率（%）		初・中・高等教育総就学率（%）		推定勤労所得（USD）	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
ソコト州	53	48	39.7	62.6	28.8	51.5	299	2,685
カノ州	53	49	26.7	46.5	46.5	75.4	157	1,188
カティナ州	54	51	39.5	57.6	34.5	64.7	442	1,553
ジガワ州	50	45	50.5	73.9	23.6	41.6	150	1,816
ナイジェリア全体	52	48	55.1	73.2	76.0	94.4	715	1,596

（「Human Development Report Nigeria 2008-2009」UNDP, 2010 年の P153 より北西部 6 州からハウサが大多数を占める 4 州とナイジェリア全体の結果を抜粋。尚、ザンファラ州はデータ未記載のため省略）

人間開発報告書ナイジェリア版（UNDP 2010）から、ハウサが多く住むナイジェリア北部の GDI と GEM からジェンダー格差の状況を見てきた。ナイジェリア全体の数値に比べて、ナイジェリア北部は人 HDI、GDI、GEM の全てが低く、その数値は人間開発指数が 2009 年に最も低かった隣国ニジェールの数値に匹敵した。GDI 及び GEM を構成する要素は教育、経済力、政治力に関するものであるが、いずれもナイジェリア北部の女性にとっては、十分に保持しているものではなく、ジェンダー格差が著しい事が統計資料から分かる。

女性を対象とした所得創出活動

第 2 章でレビューしたように、ジェンダー格差改善のために女性を対象とした所得創出活動が 1970 年代中頃から盛んになった。ナイジェリアでも同様に、ジェンダー格差改善のために様々な取り組みが行われ、まず、ナイジェリア連邦政府は 1976 年に始まる国連女性の 10 年の取り組みの影響を受け、社会開発・青年スポーツ省に女性開発部を設置し、1980 年代には女性の所得創出を目的とした活動が盛んになり、以後、女性の地位向上のための制度が整えられてきた（チュクマ 1994,33）。

表 4-12　ナイジェリア・北部カノ州における女性の地位向上に関わる取り組みの変遷

国レベルの女性に関わる活動	カノ州レベルの女性に関わる活動
1976　連邦社会開発・青年・スポーツ省内に女性開発部設置	
1982　開発と女性全国委員会設立 1986　連邦教育省が全国に 88 の女性教育センターを設立（WDC の前身となる） 1987　ベターライフプログラム(BLP) 開始 全国に WDC（女性センター）設立開始 1989　女性審議会設立	1988　ベターライフプログラム（BLP）開始 州女性課題理事会の設立
1992　BLP 本部として国立女性開発センター（NDWD）が首都に設立 1994　ファミリーサポートプログラム（FSP）開始（1998 年まで） 1995　女性審議会が格上げされ、連邦女性課題・社会開発省が設立 1999　民政移管。新憲法の発布 NCWD が連邦女性省付属機関となる UBE (初等中等教育義務化・無償化)	1991　州女性課題理事会が女性委員会へ 1988 年以降、州内に WDC28 か所開設 1994　ファミリーサポートプログラム（FSP）開始（1988 年まで） 1995　州女性課題・社会開発省の設立 1997　州に登録した女性協同組合が 400 超す
2000　国家女性政策の制定 女性対象マイクロ・クレジット開始 2001-2005　NCWD が全国 WDC の現況調査 2006　全国女性評議会が「全国 WDC 活性化に向けたガイドライン作成」を決議 国家ジェンダー政策の制定	2000　以降、国際援助機関による女子教育支援、子どもの予防接種、母子保健への支援が増える（国際機関、国際 NGO） →女子教育・母子保健の重要性が認識される 2002　カノ州にシャリーア導入 2003　シャリーア実施監視の行政組織設立

（ BLP 1991, BLP Kano, 1994, FSP Kano 1997 ,FMWASD 2000,20006, 2009 より筆者作成）

1987 年にババンギダ大統領夫人が開始した「ベターライフプログラム（BLP）」は村落部の女性の生活向上を目的とし、農業、保健衛生、識字教育、手工芸品製作、協同組合設

立等多様な活動が全国で実施された。特に収入向上スキルと識字教育の場として女性センター（以下 WDC）が全国に設立された（Faoloa 1991,196）。連邦レベルで大統領夫人、州レベルは州知事夫人、地方行政区レベルは区長夫人がそれぞれ BLP 委員長となり村落部の女性達を動員した。1992 年には BLP の本部として NCWD（国立女性開発センター）が首都に開設された（BLP 1994,1-3）。1994 年には次のアバチャ大統領夫人が「ファミリーサポートプログラム（FSP）」を開始し、家族の福祉向上を目標に BLP と同様にトップダウンで推進し、以後 1998 年まで続けられた。BLP と FSP は 1987 年から 1998 年まで約 10 年間にわたり草の根レベルの女性を対象に教育や収入向上の機会を作り、人々の意識を変え、その後の女性関連の活動をする人材を育てた（UNICEF 2001,181、The Guardian 2010）。

表 4-12 が示すように、BLP は開始の翌年にカノ州でも正式に始まり、1991 年までの間に州内に 28 カ所の WDC が開設され、成人女性が識字教育と洋裁や食品加工等のスキルを学ぶ場となった。WDC の授業は無料で提供され、ミシンや製粉機等の機材、材料、クレジットが卒業生に与えられる例もあった（BLP Kano State 1991）。又、BLP では経済活動を既にしている女性、WDC でスキルを学んだ女性達に協同組合の結成を推奨した。協同組合として州に登録すると、機材や材料、クレジットを受ける対象となったため、カノ州においても調理食品の製造販売、農産物加工、グランドナッツ油の搾油、手工芸、洋裁、石鹸作り等の様々な女性協同組合が結成された（BLP Kano State 1991）。1980 年代後半のカノ州では「BLP 以前は、人々は西欧の教育を恐れていて、娘を西欧教育の学校へ通わせなかった。BLP でコミュニティの啓発活動を行った結果、女子教育に関心を持つ親が増えた（BLP Kano State 1991）」と、女子教育が好まれていなかった事が分かる。

1999 年の民主化以降、WDC は国家プログラムとしての位置付けを失い、多くは各地方行政区の管轄となり州女性省が関与出来なくなった。国家プログラムでは潤沢な予算が WDC に充てられていたが、地方行政区の予算では WDC に十分に配分出来ず、多くの WDC は次第に荒廃した。2001 年から 2005 年にかけて実施された全国 WDC の現況調査によれば、多くの WDC で施設は老朽化し、機材や材料が不足し、WDC に学びに来る女性も減った（NCWD 2003）。この WDC 全国調査によれば、カノ州 44 の地方行政区に 51 の WDC が存在しているが、不十分な予算措置と管理のため、多くの WDC は本来の目的である女性の生活向上スキル修得に貢献していない（NCWD 2003）。更に 2004 年に NCWD はカノ州 10 か所の WDC の現況調査を実施したが、WDC の設備の老朽化や不十分な予算といった問題以外にも、「コミュニティの人々が WDC を有益な場と認識していない」、「夫が WDC へ毎日通学する事を良く思わない」等、WDC のアイデアがコミュニティから受容されていない事が伺える（NCWD 2004,22-24）。

NCWD は調査の結果を 2004 年の全国女性評議会[21]に報告し、その結果、WDC の活用

---

[21] 全国の女性省、女性関連組織から成るジェンダー課題に関する最高意思決定機関

の必要性が認識され始めた。2006 年の全国女性評議会で「WDC の活性化に向けたガイドライン作成」をNCWDが主体に実施する事が決議され、WDCがコミュニティの女性のスキル習得の場として活用されるよう取り組みが行われている（FMWASD 2009,14）。

4-2-2　ハウサ社会の概要

世帯と婚姻関係

ハウサ社会は父系で、年長の男性を家長とするコンパウンドを基本的な単位とし、壁に囲まれたコンパウンドの中には家がいくつかあり、家長、第 1 夫人、第 2 夫人それぞれの家、台所、倉庫等がある（Hill 1972）。家長は *Mai gida* と呼ばれ、家庭内の調和を保ち、農業や他の経済活動に対する権威を保ち世帯をコントロールする事が期待される。成人した息子は父親の農地で働き、報酬の全てか一部を父親に渡す。協働の労働による生産物は家長の采配によって再配分され、例えば女性には料理のための食料や他の必要な物を買うためのお金が渡される（Pierce 2007, 553）。一方、ハウサ女性は農作業に携わらない。既婚女性には隔離の慣習があるため農作業は適切な活動とはみなされず、又、ハウサで広く行われていた奴隷制により奴隷の女性が農業に携わっていた事から、男性は妻を農業に従事させたがらない（Callaway 1987,60）。

表 4-13 はナイジェリア北部でハウサが大多数を占める 5 州の世帯の状況と、首都である FCT、旧首都である南西部のラゴス州の結果を比較のために提示している。ハウサの多い州では世帯主はほぼ男性であり、世帯主が独身である割合は低く、又世帯主に複数の配偶者がいる割合が最も低いソ事州で 21.9%、最も高いザンファラ州で 39.5%になる。FCT やラゴス州では女性世帯主も 10%程度存在し、世帯主が独身である割合も 4 分の 1 程度はあるが、ハウサの多い州では女性世帯主世帯と独身の世帯は非常に少ない。

表 4-13　ナイジェリア北部の世帯の状況

	世帯主の性別		世帯主の婚姻関係		
	男性	女性	単婚制	複婚制	独身
ソコト州	97.5	2.2	73.1	21.9	5.0
カノ州	97.7	2.3	62.1	31.1	6.8
ザンファラ州	98.0	2.0	56.5	39.5	4.0
カティナ州	97.1	2.9	58.8	36.0	5.2
ジガワ州	97.5	2.5	60.3	34.8	4.9
FCT（首都）	90.6	9.4	61.5	8.6	30.0
ラゴス州（旧首都）	86.5	13.5	69.3	6.6	24.0

（「Nigeria Core Welfare Indicator」（NBS 2006）の各州結果より抜粋）

表 4-14 はナイジェリア北部カノ州における夫妻の年齢差を示している。調査対象の 335 人の既婚女性の回答から、夫との年齢差は 10 歳から 14 歳差が最も多く 43.6%、次に 15 歳から 19 歳の年齢差が 23.3%と続く。夫と同い年、又夫よりも年齢が高い婚姻関係は 1

例もない（NCWD/JICA 2010）。夫と妻の間には 20 歳以上の年齢差がある事はよくあり、少女の最初の結婚は普通､既に 1 人以上の妻を持つ年配の男性である（Callaway 1987,36）。

表 4-14　ナイジェリア北部の夫妻の年齢差

夫妻の年齢差	回答者数（妻）	割合
0 歳 - 4 歳	6	1.8%
5 歳 - 9 歳	47	14.0%
10 歳 - 14 歳	146	43.6%
15 歳 - 19 歳	78	23.3%
20 歳 - 24 歳	37	11.0%
25 歳 - 29 歳	15	4.5%
30 歳以上	6	1.8%
合計	335	100.0%

（NCWD/JICA（2010）.「Monitoring Framework of the Women Development Centres Activation Project in Kano State.」P45 より集計。カノ州 6 か所の地方行政区で 2007 年から 2009 年にかけて 4 回実施した調査）

表 4-15 はナイジェリア北部の女性の婚姻状況を示している。1990 年の第 1 回目の人口保健調査から 2008 年の調査まで 4 回の調査結果を見ると、女性の初婚年齢は 15 歳頃、初産年齢は 18 歳頃、合計特殊出生率は 7 人程度、出産間隔は 30 カ月程度と、ほとんど変化がない。夫に自分以外の妻がいない既婚女性の割合は 57～58%程度と変化がないが、夫に複数の妻がいる場合、自分以外に 2 人以上の妻がいる割合は減少しており、自分以外に 1 人の妻がいる割合が 1990 年の 26%から 2008 年の 35%まで増加している。一夫多妻が実践されているが、妻の人数は減少している事が分かる。

表 4-15　ナイジェリア北部の女性の状況の変遷

	1990 年	1999 年	2003 年	2008 年
初婚年齢	15.2 歳	15.1 歳	14.8 歳	15.3 歳
初産年齢	18.3 歳	18.2 歳	17.9 歳	18.3 歳
合計特殊出生率	6.53 人	6.79 人	6.7 人	7.3 人
出産間隔	31.1 月	29.4 月	31.3 月	30.8 月
夫に複数の妻なし割合(%)	56.4	59.0	58.7	57.4
夫に他 1 人の妻(%)	26.0	24.0	32.5	35.0
夫に他 2 人以上の妻(%)	17.6	14.3	7.7	6.9

（人口保健調査ナイジェリア 1990 年、1999 年、2003 年、2008 年版から抜粋。1990 年版では州ごとの数値はでていなく、全国を 4 ゾーン（北東、北西、南東、南西）に分けた数値のみ掲載されている。カノ州は北東部に含められている。1999 年の調査では全国を 5 ゾーン（北東、北西、北中央、南東、南西）に分け、カノ州は北東部に属している。2003 年、2008 年の調査では、全国を 6 ゾーン（北東、北西、北中央、南東、南西、南南）に分け、カノ州は北西部に属している。初婚年齢、初産年齢、出生率は 20 歳から 49 歳の女性を対象、初婚年齢、初産年齢は中央値。）

離婚はハウサ社会では頻繁にある。離婚後は実家に戻るが、父親や兄弟、男性の親戚に女性を養う責任が移るため、再婚へのプレッシャーは強い（Callaway 1987, Cooper 1997, 62-63）。女性の親戚は、もし彼女が逃げれば、夫側からの婚資を返還しなければならない

ので、親戚達は離婚を留まらせようと仲介に出る（Pierce 2007,544）。再婚は普通の事であるため、女性は子どもがいない場合や他の妻とうまくやっていけない場合は婚姻関係に留まろうとしない （Callaway 1987）。男性にとっても女性にとっても結婚しないという選択肢は非常に珍しく、婚姻関係にある事は重要である。しかし離婚への心理的抵抗や負の印象は双方にとってほとんどなく、女性は不満のある婚姻関係を維持するインセンティブはなく、簡単に結婚し、些細な理由で離婚の申し立てをする（Adamu 2004, 80）。

一方、子どもがいる場合は子どもを維持したいために不満があっても女性は婚姻関係に留まろうとする。子どもが乳幼児の間は妻が子どもを維持出来るが、乳離れ後は夫や夫側の親戚に引き渡される（Callaway 1987）。 離婚や死別した女性で、子どもを産める年齢の場合はすぐに再婚する事が求められ、再婚しなければ売春婦とみなされる（Izugbara 2010a, 195）。

このようにハウサ社会の世帯は婚姻関係を基本とし、父系で一夫多妻制が実践されている。初婚年齢、初産年齢、出生率は、1990年以来25年近くの間に大きな変化は見られない。

ジェンダーによる特性の差

1) 教育

植民地時代に存在した学校に通った女性はほとんどいなかった。1960年の独立後、1976年に連邦政府による 6 年間の初等教育無償化を打ち出した UPE （Universal Primary Education） によって、政治的にも社会文化的にも女性の教育に正当性が与えられた。しかしナイジェリア北部では多くの親は娘を学校に送らなかった。1980年代後半であっても、西欧教育を受けた女性が15歳前後で結婚により学校を辞めていた（Mack and Coles 1991, 14）。

人口保健調査（NDHS 1990; NDHS 1999; NDHS 2003; NDHS 2008）によれば、カノ州を含む北部で学校教育を未経験の女性は1990年に83.7%、1999年に76.9%、2003年に75%、2008年に74.2%と、ほとんど変わらない。最近では既婚女性がイスラーム教室[22]に出席するようになり、少数ではあるが高学歴の女性が教師や看護師として家の外で働くようになった（Renne 2004, 281）。又、女の子に教育を与える事がダウリ（結婚持参金）の一部として受容されるようになってきた。雇用され職業をもつ男性は少なくとも1人は教育を受けた女性で、現代的な衛生が理解出来る女性を妻に望むようになった。そのような女性を妻にする事に社会的な価値が付されるようになった（Callaway 1987,74）。

ナイジェリア連邦政府は1999年の民主化後にUBE計画（Universal Basic Education）を打ち出し、初等及び前期中等教育の9年間を無償化する計画を発表した。多くの女性は教

---

[22] コーランやハディースを読み、コーランの解釈を学ぶ場で、コミュニティにあると頃が多い。男性用、子ども用、女性用と場所が異なったり開講する時間が異なったりする。女性の場合、立ち居振る舞いや正しい服装、水の飲み方等正しいムスリムとしての生活の仕方も教えている。

育を「大きな資源」とみなしている。それは女性の働く可能性を強化するだけでなく、女性にイスラームの教えで正しい行動や権利に関する知識を教えるものだからである（Renne 2004, 284）。

表 4-16 は 1990 年から 2008 年の人口保健調査によるナイジェリア北部の女性の教育の状況である。1990 年に学校教育を全く受けていない女性が 83.7%であったが 2008 年には 74.2%に減少している。しかし多くの女性が学校教育を受けていない状況は続いている。

表 4-16　ナイジェリア北部の女性の教育の状況

	1990 年	1999 年	2003 年	2008 年
学校教育を全く受けていない	83.7	76.9	75.0	74.2
初等教育修了	7.1	-	6.1	8.1
高等教育修了	2.0	-	4.8	5.3
成人識字率	-	-	20.9	21.1

（人口保健調査ナイジェリアの 1990 年、1999 年、2003 年、2008 年の報告書より抜粋。単位は%。初等教育修了は 15 歳から 49 歳の女性で初等教育 6 年間を修了した人の割合、高等教育修了は同じく 15 歳から 49 歳の女性で高等教育 6 年間を修了した人の割合、学校教育を全く受けていないは、同年齢で学校教育を全く受けていない人の割合、成人識字率も同年齢）

表 4-17 は、ナイジェリア北部カノ州の女性及び男性の教育の状況を示している。カノ州の女性は、上記表 4-16 に示したナイジェリア北部全体の女性よりは、若干教育を受けている女性の割合が高い事が分かる。しかし学校教育を全く受けていない女性は 65.7%に上り、男性の 30.6%の倍以上の女性が教育へのアクセスがない事が分かる。

表 4-17　カノ州の女性・男性の教育の状況

	女性		男性	
	%	総数	%	総数
学校教育を全く受けていない	65.7	2,070	30.6	853
初等教育修了	12.5		22.2	
高等教育修了	8.4		17.5	
高等教育修了以上	2.9		11.9	
成人識字率	30.5	2,070	71.5	853

（人口保健調査ナイジェリア、2008 年　P334-P337 より抜粋）

2)　社会ネットワーク

ハウサ社会では女性が第一に忠実であるのは実家と親戚である。女性同士の連帯や同じ階層への帰属意識はほとんど見られない（Mack and Coles 1991, 15）。女性が公共の場から除外される事によって、女性同士の連帯や自立を発展させる事が制限され、女性が連帯して男性の支配に対抗する事は難しくなっている（Adamu 2004, 78）。

女性が実家の近くに住んでいれば、実家からの支援を受けやすい。婚姻関係に問題が生じれば拡大家族が介入し、夫から離婚された女性を拡大家族が支える事もある。近くに住んでいれば拡大家族間で頻繁に訪問する事も出来る（Salamone 2010, 135）。血縁関係以

外のネットワークもある。*Zumunci* は親戚と友情の意味であるが、血縁関係だけではなく、近しさや相互サポートの感情を意味する。相互の訪問やギフト交換を通して育まれ、又緊急のサポートを通じても *Zumunci* が作られていく（Adamu 2004, 80）。このように女性は友人・親戚同士の関係を保つために、頻繁にある結婚式、命名式、葬式等の *Biki* と呼ばれるセレモニーや相互に訪問する際に、友人・親戚の女性の間でギフト交換をする（Cooper 1997, 90-109, Schildkrout 2002）。 セレモニーに出席しギフト交換をする事で女性は社会関係や地位を保つため、セレモニーに出席する事や相互を訪問する事は女性にとって重要な活動である(Callaway 1987)。女性同士のギフト交換による物質的な相互サポート、セレモニーに出席し祝福し近況を話す事により女性同士は感情的な結び付きを持ち、*Zumunci* は構築されていく（Cooper 1997, 111-157）。

Cooper（1997） は、ある女性が都市部に住む父方の親戚を村落部に住む母方の親戚とは異なる扱いをしている例を挙げ、この女性が父方の親戚にはギフトを上げたり訪問したりという投資をしても見返りが得られない事から関わりを減らしている事を示し、*Zumunci* の構築には血縁関係がある事が重要なわけではない事を説明している （Cooper 1997, 151-157）。その女性は父方の親戚にはギフトを上げたり訪問したりせず、父方の親戚は彼女の事を遠方の知人として扱っていた。一方で、村落部に住む母方の親戚とは強い結び付きを維持し、例えば病気の時はお見舞いに行き、子どもを都市部の学校に送る時は子どもの面倒を見たり、不作の年には食料を与えたりという交流を続け、物質面だけでなく感情的な結び付きを保っていた（Cooper 1997,151-157）。しかしながら投資しても見返りを回収出来ない場合もある。女性も男性も社会ネットワークの保持はお金がかかりリスクもあると認識しているが、女性にとっては社会ネットワークがもたらす安全保障を代替するものは他にはない。男性はクレジットや政府のサポート、パトロン関係といった他の安全保障の機会があるため、親戚・知人のネットワークに大きな投資はしない（Cooper 1997,151-157）。

3） 健康

ナイジェリア北部の合計特殊出生率の高さには、女性の夫の行動に対する社会的な意味合いが関係している。高い出生率は夫の責任を増やす。「家の中が子どもでいっぱいになる事で、夫は次の妻を得ようとしない」と言われる（Izugbara, Ibisomi et al. 2010,198）。

表 4-11 はナイジェリア北部の女性のヘルスケアに関する状況の変遷である。ナイジェリアの妊産婦死亡率は 2003 年に 10 万件に対して 800 件、2008 年には 545 件に減少した（NPC 2010, 5）。しかし地域ごとにみると 1999 年には南西部が 10 万件に対して 165 件だが、北西部は 1,025 件、北東部では 1,549 件と、ナイジェリア北部で非常に高い（UNICEF 2001, 39）。2005 年に発表されたカノ州の経済開発戦略では、2005 年から 2007 年の政策として同州における妊産婦死亡率を 10 万件に対して 1700 件から 1500 件に削減させる事を挙げている （Kano State 2005）。妊産婦死亡の要因として出産前検診の未受診、出産時

に医療従事者の介護なしに出産する事、医療施設以外の場所で出産する事が挙げられている（NPC 2010)。表 4-18 からはナイジェリア北部の女性が出産前に検診を受けていない割合が 1990 年の 54.7％から 2008 年には 67.1％と増えている事、介護者無しに出産する女性も 2008 年で 43.8％と半数弱いる事が分かる。

表 4-18　ナイジェリア北部の女性のヘルスケアに関する状況の変遷

	1990 年	1999 年	2003 年	2008 年
介護者なしの出産割合（%）	56.1	23.3	30.5	43.8
出産前検診の未受診率（%）	54.7	54.1	59.0	67.1

（人口保健調査ナイジェリア 1990 年、1999 年、2003 年、2008 年版から抜粋。介護者無しの出産割合は、過去 5 年間の出産で、誰の介護もなく出産した人の割合、出産前検診の未受診率は過去 5 年間の妊娠期間中に、出産前検診を全く受けなかった人の割合である）

ナイジェリア北部の女性にとって自身のヘルスケアを確保する事は容易ではない。子どもを多く産む事が望まれるが、安全に出産出来る保健サービスの利用が十分でなく、女性の医師がいる保健サービスへのアクセスが限られている。又、病院へ行く事が難しい理由に交通費の確保や夫からの外出の許可を得る事が挙げられるように、ヘルスケアという資源を確保するためには他の資源も必要となってくる。

4）経済力

女性は隔離を実践している限り、経済活動に携わる事に対して夫からの反対はない（Callaway 1987)。既婚女性の経済活動は隔離の慣習のため家の中で出来るものに限られ、調理食品の販売や、洗剤、コーラナッツ、塩や砂糖等の日常に必要な物の小規模商売である。これらの製品を外で販売し、材料を外から買ってくるためには子どもの媒介が必要となる。手伝える年齢の子どもがいるかどうかが女性の経済活動の幅を決める。自分の子どもでなくとも養子を取る場合や、近所の子どもを雇う場合もある（Schildkrout 2002)。多くの子どもが学校に通うようになり、隔離を実践する既婚女性が、経済活動を実施する事に制限が出てきている。女性は子どもを媒介して経済活動や情報交換をとっていたが、子どもがいなくては女性の活動は限られる（Schildkrout 2002)。最もよく見られる女性の経済活動は、調理した食品やお菓子を女性が家で作り、女の子が売る事である。女性は 1 日の多くの時間を料理に費やしているが、販売のためであり、家族のために 3 食を料理する女性はほとんどいない。女性は夫が家族の食事用に購入する食材の一部を使って料理したものを販売し、自分の収入にする（Callaway 1987)。女性が得た収入は女性自身のもので夫と共有せず（Hill 1972)、実際に既婚女性の 94.2%は自分の収入用途を自分で決めている（NDHS 2008)。

世帯内で夫は女性の収入を管理出来ない。又妻に世帯に貢献するよう言う事も出来ない。食料や必要な物等の世帯ニーズを供給するのは夫の義務だからである。又、毎日の小さな必要物資を買うために、妻にお金を渡す事も求められる。妻が夫に利子をつけてお金を貸

したり、穀物を夫に売ったりする事も多い（Tipilda 2008,553）。既婚女性の経済活動には夫が開始資金を出す事も多いが、利益は女性自身のものである。又妻が夫にお金を貸す事があるが、返金しなければならない　（Pierce 2007:546）。

女性が得た収入は離婚の際に困らないように備えるため、夫の収入を補助するため、基本的ニーズを満たすため、自分と子どもの服のために、娘のダウリに備えるために使われる（DFID/CIDA 2009,18）。夫がほとんど支出しないものに、女性同士のギフト交換の費用がある。女性は友人同士の関係を保つためにギフト交換をし、頻繁にある結婚式、命名式、お葬式で友人・親戚の女性の間でギフト交換をする（Schildkrout 2002）。

所得創出と意思決定

ハウサ社会では女性は世帯内、コミュニティ、政治の場での意思決定から排除されている。子どもに関する事は拡大家族の男性によって決定され、コミュニティに関する事は夫が世帯を代表するとみなされ女性の意見は聞かれない（Callaway 1987, Sada, Adamu et al. 2005, DFID/CIDA 2009）。

本項では人口保健調査のナイジェリアの結果から、本研究の対象地であるカノ州、及び他のナイジェリア北部ハウサの人口が多い州の結果を取り上げ、ハウサにおける女性の世帯内意思決定への参加の傾向を統計資料から述べる。

1) 所得の用途決定・管理

3 章で述べたように、ナイジェリアは、マリやニジェール等周辺の西アフリカと同様に、妻の所得は妻が用途を決定し、夫の所得は夫が用途を決定すると認識する妻が多かった。表 4-19 は、ハウサが大多数を占めるナイジェリア北部の 5 州における状況を示している。妻所得の用途決定者が妻と認識する割合はザンファラ州で 82.3%であるが、他は 95%程度に上る。夫所得の用途決定者が夫と認識する妻の割合も 79%程度から 97%程度と高く、妻の所得用途は妻が、夫の所得用途は夫が決めるという傾向が顕著である。

表 4-19　妻が認識する妻所得・夫所得の用途決定者

	妻所得の用途決定者			夫所得の用途決定者		
	妻	夫妻	夫	妻	夫妻	夫
ソコト州	95.4	2.9	1.3	1.4	2.4	96.2
カノ州	94.2	0.1	5.7	0.6	1.8	97.3
ザンファラ州	82.3	8.0	9.4	2.2	18.5	78.8
カティナ州	94.1	3.0	2.7	2.1	17.5	79.0
ジガワ州	55.0	2.5	41.8	4.1	2.6	93.3
FCT(首都）	65.8	28.8	5.4	1.9	26.9	70.7
ラゴス州（旧首都）	70.1	18.7	10.8	12.8	28.3	58.5
ナイジェリア全体	66.4	19.3	13.2	5.8	24.1	69.6

（人口保健調査ナイジェリア版　2008 年より、P429－P430 の表 A-15.2.1 及び A-15-2-2 より抜粋）

2）世帯の意思決定への参加

世帯の意思決定への参加に関しては、西アフリカ諸国の例では、妻が妻所得の用途を決定していても世帯の意思決定への妻の参加の程度は低かった。表 4-20 はナイジェリア北部ハウサが多くを占める州の結果であるが、ナイジェリア全体、FCT、ラゴス州の数値と比べて、北部の州では世帯内意思決定への妻の参加が非常に低い事が分かる。特にカノ州では4つ全ての項目に対して不参加という妻の割合が87.4%と高い。同じハウサ社会でも、ザンファラ州とカティナ州では比較的女性が意思決定に参加している事が伺えるが、FCTやラゴス州の状況と比べれば参加度は著しく低い。

表 4-20　妻が認識する妻の世帯内意思決定への参加

	妻のヘルスケア	主要な世帯の買い物	日常の世帯の買い物	妻の親戚訪問	全決定参加	全決定に不参加
ソコト州	4.6	1.6	2.6	24.4	1.1	74.4
カノ州	6.2	6.3	11.1	4.6	3.0	87.4
ザンファラ州	26.4	25.0	28.7	32.7	19.9	60.9
カティナ州	23.8	23.8	34.2	59.2	19.6	39.9
ジガワ州	13.7	15.0	17.3	18.2	10.7	78.6
FCT(首都)	49.3	49.5	55.5	54.4	46.3	41.0
ラゴス州（旧首都）	68.9	58.0	72.9	74.7	53.6	19.9
ナイジェリア全体	43.6	37.6	49.6	54.9	31.4	38.4

（人口保健調査ナイジェリア版　2008年より P431の表 A15-5-1 より抜粋）

表 4-21 は世帯内意思決定への妻の参加の程度を夫がどのように認識しているかを示している。表 4-20 の妻への質問項目と異なる項目があり、特に妻の所得の用途決定という項目が含まれるため、「全決定に不参加」の割合が低くなっていると思われる。妻所得の用途決定に関しては、妻自身の認識と同様に、「妻所得の用途決定は妻」と認識しているが、表 4-21 の妻の認識と同様に、ザンファラ州とジガワ州では「妻が用途決定」という認識が低い。夫は妻が「主要な世帯の買い物」「日常の世帯の買い物」に関する意思決定にはほとんど関わっていないと認識しているが、「妻の親戚訪問」に関しては、妻が意思決定に参加していると認識する夫の割合が、妻自身よりも高い。外出を伴う親戚訪問には夫の許可が必要とされるため（Callaway 1987, Adamu 2004）、妻にとっては夫が決定する事項であるが、夫から見れば、「誰をいつ訪問したい」と妻が決めて夫に許可を求めに来るため、妻が決定していると捉えている可能性もある。

表 4-21　夫が認識する妻の世帯内意思決定への参加

	主要な世帯の買い物	日常の世帯の買い物	妻の親戚訪問	妻所得の用途決定	子どもの数	全決定に参加	全決定に不参加
ソコト州	3.3	3.3	58.9	68.7	65.9	1.9	15.0
カノ州	1.1	1.1	38.7	77.2	49.5	0.4	15.0
ザンファラ州	1.5	5.0	57.0	50.1	16.9	0.5	32.6
カティナ州	4.0	18.0	59.3	63.7	37.7	1.7	30.0
ジガワ州	1.3	3.7	22.5	12.4	33.7	0.8	47.7
FCT(首都)	2.0	35.9	54.9	60.3	46.3	0.5	36.7
ラゴス州（旧首都）	16.7	61.7	53.7	87.2	62.8	8.0	5.6
ナイジェリア全体	16.6	46.0	47.5	69.0	48.7	9.5	16.4

（人口保健調査ナイジェリア版　2008 年より P432 の表 A15-5-2 より抜粋）

ジェンダー役割規範

1) 婚姻関係に関わる夫妻の役割

ハウサ社会においてジェンダー役割規範は家父長制システムの中に形づけられ、世帯内の力関係を決定し、様々なメカニズムを通して世帯員の交渉力を決める（Tipilda 2008, 552）。又、イスラームの影響はハウサに深く広がり、ハウサ文化とイスラーム文化を分ける事は難しい（Adamu 1999）。イスラーム法では、女性は明確に相続、婚姻、支援に関する権利と保護を与えられている。女性は男性に従属するが、妻と夫の役割は不平等というより補完的とみなされている（Callaway 1987）。ハウサ社会での婚姻関係は、夫が妻を衣食住等必要な物全てを供給し、妻は夫の指示に従うという関係である（Callaway 1987, Adamu 2004, Renne 2004, Sada, Adamu et al.2005）。妻にとって隔離の実践と家事・育児という活動は、夫に扶養されるために支払う価格であり、そのために妻は夫の権威に従う。婚姻関係はこのような相互交換であって、共同の行動ではない（Adamu 2004,78）。夫はもし自分の農地から食料を供給出来なければ、市場で購入しなければならない。その際に、妻からお金を借りる事も多い。女性の隔離は、性別役割分業を決定づけ、両性の間の経済力の差を作っている。男性は世帯の利益になるように世帯を維持し、女性は隔離を実践し家事・育児を遂行する事が期待される（Tipilda 2008, 552, Salamone 2010）。

育児は女性のジェンダー役割の 1 つである。ハウサの一夫多妻の女性達は、子どもの数に応じた富や財を夫から受け取る。そのため多くの子どもを持つ妻が、夫の富を日常に受け、又夫の死亡時にも財産を受け取る事が出来る。女性が家族計画について夫に持ち出せば、夫はその事を理由に他の妻を迎えると女性は思っている（Izugbara, Ibisomi et al. 2010, 222）。女性は男性から離婚されたり、他の妻を迎えたりする事を防ぐために多くの子どもを産もうとする。女性達は婚姻関係の安定、保護を求めており、それは子どもを多く産む事で達成出来ると認識されている（Izugbara, Ibisomi et al. 2010,202）。

女性が外で働かず家の中にいる事は、男性が扶養の義務を果たしている事を意味し、ステータスにもなる。男性は世帯のニーズを満たす義務があるが、この義務を怠る事は女性

にとっては離婚を申し出る社会的正当性があるとみなされる（Adamu 1999）。妻が夫の指示に従うのは夫の扶養が十分だと感じている限りにおいてである。夫妻間で揉め事が生じた際に、男性はその問題を公共の場に持ち込もうとしない。夫が妻を管理出来ていない事を意味するからである。しかし女性は夫婦間の揉め事状況を公にし、公共の注意を引き揉め事に勝とうとする。こうする事で妻は公共の支持を得て、夫は尊厳を失い妥協を迫られる（Adamu 2004, 90-93）。

2）隔離の実践

ハウサ社会の隔離の慣習は奴隷制の解放と関係しており、農業や薪集めは奴隷女性が従事する仕事であったため､奴隷解放後の象徴として自由な女性は農業や薪集めに携わらず､男性は女性を隔離するようになった。このため他の西アフリカ諸国と異なりナイジェリアのハウサ女性は農業や水汲み・薪集めに従事しない（Callaway 1987, Tipilda 2008）。

隔離（*Kulle*）には 3 種類あり、*Kullen dinga* は完全な隔離で伝統的首長と宗教指導者の妻が実践する。*Kullen tsari* は夫の許可があり同行者があればセレモニーや病院に外出出来、*Kullen zuci* は適切な振る舞い・装いをすれば自由に外出する事が出来る。隔離は元々裕福な世帯の慣習で、貧困層には妻を労働力に参加させない余裕はなかったが、妻の隔離が夫の社会的地位とみなされ浸透してきた。村落部・貧困層では女性が労働力として参加する経済的利益よりも、社会的地位として隔離を実施する事に価値を置いている（Callaway 1987）。

既婚女性は夫の許可を得て出かける際は、出かけると告げた場所に直接行かなければならず､「その辺をただ歩きまわる」と見られてはならない。女性は親戚友人を訪ねたり、学校に行ったり、少数だが外で働く女性もいる（Renne 2004, 281）。女性の隔離の実践は、女性自身の教育レベルよりも男性の教育レベルに関係している。しかしジェンダー役割に対する女性の態度変容に関しては、女性の教育レベルに関係している（Callaway 1987, 65-66）。

3）尊厳の確保

ハウサには *Matsayi mace* という女性の地位を意味する言葉があり、女性がコントロール出来る大切な資源であり、女性の適切なジェンダー役割という観点から女性達が重視している（Renne 2004, 280）。*Matsyai mace* は肯定的なジェンダー関係を築き、女性の尊敬（*Mutunci*）と尊厳（*Daraja）*を維持するために重要なものである。*Matsyai mace* は、①世帯内での地位：女性が家の中で外出を伴わずに実施する経済活動に従事する事を通じて得るもの、②世帯外での地位：拡大家族への貢献と参加を通して得るもの、③女性の適切な場所：家の中にいて外出しない事、外出の際は適切な服装・振る舞いにより男性の目から隠れている事、を意味する（Tipilda 2008, 560）。*Mutunci* という言葉は、①尊厳、②人間性、③他人を尊敬する事及び自己尊厳、と訳される。外出するよりも家に留まる方が

尊敬され（Renne 2004, 281）、女性自身が所得を得る事は「尊厳」を獲得する事に繋がる（DFID/CIDA 2009）。

家の中で出来る経済活動 を通して世帯に貢献する事によって、女性は *Matsayi mace* に結びつく尊敬を得る事が出来るとみなされる。一方、夫が妻を十分に扶養出来ず、女性が隔離をせずに外で働き、コミュニティの恥にさらされると、世帯の中で争い事が起き、女性が尊敬を得られなくなる（Tipilda 2008, 561）。近年、女性が学校に行くようになり教育を受けた女性の移動性が増してきた。外出する際はヒジャブと呼ばれる頭部を覆い隠す長いヴェールを着用し、男性から見られないようにする事で女性は尊厳を守ろうとする（Renne 2004, 282）。

現実には、夫が十分に妻と子ども達を扶養しない・出来ないという問題があり、女性にとって一番の問題になっている。女性は自分の尊厳を守りつつ、隔離の実践の中で所得を得て自分と子ども達のニーズを充足させなければならない、という矛盾する問題を抱えている。又夫の中には女性が経済活動をする事を許可しない人もいる。女性は自分の所得を子どもや世帯のために使うが、それを「夫が世帯ニーズを支出していない」と思わせないようにする事で夫への敬意を示し、女性は自分の尊厳を守る（Renne 2004, 283）。夫に対する敬いは、「夫に我慢する」「夫や他の妻と平和に暮らす」「夫を助けるために収入を得る」「家族の世話をする」、等の様々な方法で行われる（Renne 2004, 283）。

女性が自分で経済活動をし、自分の所得で自分と子どものニーズを満たす事は否定されない。経済活動をして世帯のニーズに貢献する事は、女性の *Matsayi mace* であると価値づけられている。他人に支援を頼む事は女性の自己尊厳を傷つけるとみなされるため、自身で所得を得れば他人にお金を借りる必要がなくなり、尊厳を保てる（Renne 2004, 281）。

4-3　調査対象地・調査対象者の特徴

本節では、調査対象地であるP地区の状況をキーインフォーマントと調査対象者から得た情報を基に示し、調査対象者の妻34人、夫34人の特徴をまとめる。

4-3-1　調査対象地の特徴

P地区の特徴

調査対象のP地区は、ナイジェリア北部カノ州のクンボッソ地方行政区の11ある地区の1つである。カノ州の州都カノ市の中心部からは乗り合いのバスで40分程度であり、幹線道路沿いに発達したアクセスの良い地区である。数10年前まではP地区は農地が広がっていたが、政府により水資源公社と電力公社の施設が建設され、労働者の男性が移住してきた。1999年に軍事政権が終わり民政に移管されると外国資本の工場が次々に建設され労働者とその家族が移住してきたため人口が増えてきた（KI4)。2000年頃は、まだP地区には病院が1つしかなく､病気の際はカノ市内まで診察に行かなければならなかった。そのため女性にとって病気や出産に際し、診察を受けに行く事は容易ではなかった。小学校は1つだけで、中高等教育は他の地区やカノ市内まで通学しなければならず、親は女子を他の地区の学校に送る事を嫌がり、女子は小学校に通えれば良い方だった（KI5,6)。

1980年代後半に、国家プログラムである「ベターライフプログラム（BLP)」により、クンボッソ地方行政区の中心地区に女性センター（WDC）が建設されたが、P地区にはWDCも女性がスキルを学ぶ場もなかった。「10年前頃（2000年頃）は女性が通えるイスラーム教室も、WDCもなかった（KI4,5)」「女性は、10年前は経済活動がなくスキルも学べず、夫に頼っていた（KI7,8)」と、P地区では2000年頃まで、女性が何かを学ぶ場がなかった事が分かる。

この10年間でP地区は大きく変化した。P地区の住民は工場用地や住宅地として農地を売るようになり、農業に従事しない男性が増えた。病院は3つあり、女性はP地区の病院で出産前に検診を受けたり、病院で出産したりするようになった。学校は私立の小学校も複数あり、中高等学校もあるため、親は女子を学校に送りやすくなった。成人女性が通えるイスラーム教室も複数出来､女性が学ぶ場が広がった。又､小さなマーケットが増え、布地や毛糸等経済活動の材料をカノ市内まで買いに出かけずに済むようになった（KI3-9)。このようにP地区の生活環境は整ってきたが、近年は経済状況が悪く物価も高くなった。子どもをカノ市の私立学校に送りたい親も多く、教育費の負担が増したが（KI3-9)、男性に充分な仕事がなく、又、農地を工場用に売却したため農業も出来ず、多くの男性が世帯ニーズを十分に供給出来なくなっている（FGD3)。

このように近年、社会の状況が大きく変化したと住民が認識するP地区に、2004年にWDCが設立された。WDC講師は生徒・卒業生の家庭訪問を行い相談相手になったり、コミュニティ内のWDCに関わっていない家庭も訪問してWDCへの入学を勧めたりしている（KI3-9)。又WDC講師が中心となり、WDCの生徒・卒業生同士で洋裁、編み物、グラ

ンドナッツ油等異なる組合を作るようにもなった。資金が不十分で材料や機材を買えないメンバーに対して資金を貸し付けたり、材料を共同で買ったりしている。又製品を月に 1 度集め、WDC 講師がカノ市内に持って行き問屋へ販売している（KI3-9）。既婚女性が隔離を実践する状況で、WDC 生徒・卒業生の夫は「WDC への外出は問題ない」とみなす場合も多く、他の男性へも影響を与えている（KI3）。

P 地区の女性が抱える問題

WDC 講師は P 地区の女性が直面している大きな問題を、「夫の世帯ニーズ供給が不十分」と捉えている。ハウサのジェンダー役割に従えば世帯ニーズ供給は夫の義務であるが、厳しい経済状況の中で義務を果たせない夫も多い。このような男性は、「男性からも女性からも尊敬されない（KI5,6）」「夫が家をコントロールする力を失う事を意味する（KI8）」と、コミュニティから低く見られる。「イスラームでは夫が世帯ニーズを供給する事になっている。十分な世帯ニーズを供給出来ない男性は結婚すべきでない（夫 28）」。しかし、男性が独身でいる事は「1 人の妻も養えない男性（KP6）」として「社会の中で男性としての尊厳が減らされる（KI8）」。現実には十分な収入がなくても結婚し、更に一夫多妻婚を実践する男性も多い。「夫が新しい妻を迎えようとする事が問題です。多くの女性はこれが嫌です。妻が複数いると夫から得られるものが減ります（KI5）」と、複婚が夫の世帯ニーズ供給に支障をきたす事を恐れており、「新しい妻にお金があると自分と比べられるので、その事態に備えて女性はお金を蓄えようと経済活動をします（KI6）」「夫に 3-4 人の妻がいると夫の収入は足らなくなるので、自分で収入を蓄えようとする（KI7）」と、自分で収入を得る動機の 1 つになっている。一方で複数の妻を持つ男性に対しては「人々は彼らを敬い尊厳を持って扱う（KI4,5,7）」と認識する。「このような男性は心に平和を持つ事はない（KI6）」という見方もある。

このような現状で女性が望む状況は、「自分で収入を得る事」である（KI3-9）。「時々夫のお金が足りなくて、誰か近所の人や親戚から借りる事が嫌なので、自分で収入を得たい（妻 28）」。ハウサ社会では女性の経済活動従事をジェンダー役割に反する事とはみなさないが、夫の許可が必要である。又、隔離を実践し、家の中で出来る経済活動に限定される。「夫の中には妻の経済活動を許可しない人もいるので、その場合は、妻は家でじっとしているしかありません（KI4,5）」と、経済活動を実施する許可を得る必要がある。更に、夫から外出の許可を得る事、イスラーム教室や WDC 等学びの場への通学を夫に許可してもらう等、隔離の実践や夫の決定に従うという既存のジェンダー役割に挑戦する行動が必要となる。

10 年くらい前は（1990 年代後半）12 歳前後で結婚していたが、今では 18 歳から 20 歳頃が多い（KI3）。結婚年齢が上がったのは多くの親は娘を高等学校前半（15 歳）まで終わらせようとし、大学まで望む親もいるほど教育への関心が高まったためである（KI4）。離婚は珍しくないが最近は減ってきた。離婚の原因は、夫が十分に世帯ニーズを供給出来ず、

妻も経済活動がない場合に、妻が頻繁に夫に世帯ニーズの不足を告げる事である（KI5-8）。離婚の原因が夫の供給不足や、妻が義両親と合わない場合には、コミュニティの噂になるため再婚が難しくなる（KI6）。イスラームでは離婚の際に子どもは夫が引き取るが、3 歳以下までは妻が一時的に育て後に夫に返還する（KI4）。男女共に再婚する事は一般的である（KI3-9）。

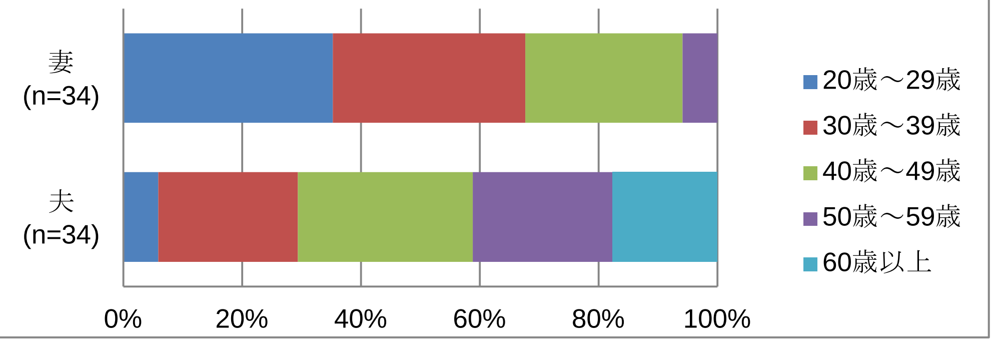
WDC 講師が認識する既婚女性の問題に、「義両親との同居や夫が他の妻を得る事」がある。義両親との同居については「うまく暮らすのは難しく、離婚の原因になる例もある（KI3）」「義母と同居するのは多くの女性にとって難しい。義母の家事を手伝う事が期待されたり、夫が妻にギフトを上げると義母が同じものを欲しがったりします（KI5）」と、義母との同居の難しさを挙げている。ハウサ社会では結婚後は夫の両親のコンパウンドに新たに家を建てて同居するが、近年では余裕があれば別の場所に家を借りたり、新しく家を建てたりする夫妻もいる（KI3）。

4-3-2　調査対象者の特徴

1)　年齢

調査対象者の年齢は、妻は 20 代が 12 人、30 代が 11 人、40 代が 9 人、50 代が 2 人、夫は 20 代が 2 人、30 代が 8 人、40 代が 10 人、50 代が 8 人、60 歳以上が 6 人である（図 4-2）。妻の平均年齢が 32.9 歳、夫の平均年齢は 45.7 歳である。

図4-2　夫妻の年齢



（筆者作成）

2)　夫妻の年齢差

図 4-3 は調査対象者 34 夫妻の年齢差を表している。最も多いのは 10 歳から 14 歳差で 35%、次いで 5 歳から 9 歳差が 29%である。20 歳以上の年齢差も 27%になり、年齢差のある婚姻形態である事が分かる。妻の方が年上である例は 1 例もなかった。ナイジェリア北部の状況では（表 4-14）、夫妻の年齢差は 10 歳から 14 歳差が 43.6%と最も多く、次いで 15 歳から 19 歳差が 23.3%であった。20 歳以上の年齢差は 17.3%、9 歳差以下は 15.8%であった。

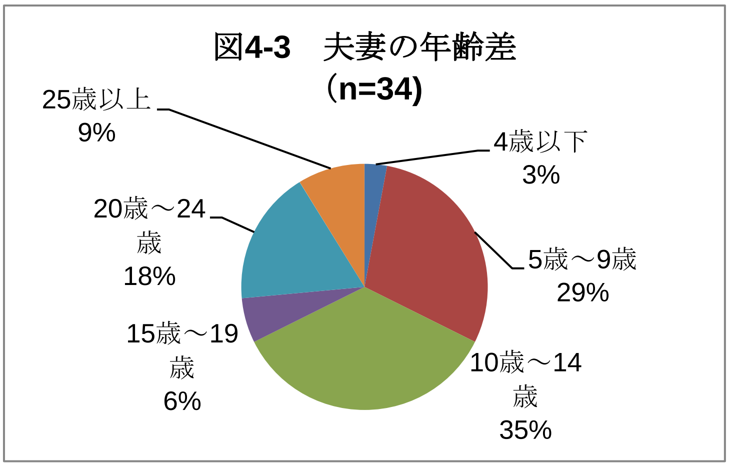


図4-3　夫妻の年齢差
(n=34)

（筆者作成）

3)　妻の結婚時の年齢

34 人の妻のうち 38%は 15 歳以下で結婚している。12 歳（妻 12、14、18）、13 歳（妻 6、22）という例もある。最多は 16 歳から 20 歳で 56%になる。20 歳までに 94%が結婚している（図 4-4）。調査対象者 34 人の平均初婚年齢は 16.7 歳となる。ナイジェリア北部の女性の初婚年齢は 15.3 歳（2008 年）であり（表 4-15）、調査対象者の初婚年齢はナイジェリア北部の平均よりも少し高い。

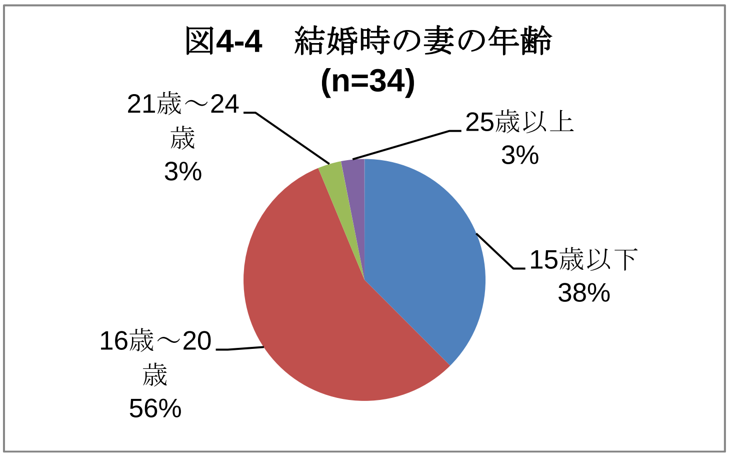


図4-4　結婚時の妻の年齢
(n=34)

（筆者作成）

4)　夫の家族・夫の他の妻との同居

夫の両親や兄弟姉妹･親戚と同居している例は 34 人の妻のうち 12 人で 3 分の 1 になる。メイトと呼ばれる夫の他の妻と同居している例は 34 人の妻のうち 7 人で 20.1%である。ナイジェリア北部で夫に複数の妻がいる割合は 41.9%（2008 年）であり（表 4-15）、調査対象者は夫に複数の妻がいる割合がナイジェリア北部の数値の半分程度であるが、調査対象者の夫の平均年齢は 45.7 歳であり、調査対象地では 2 人目の妻と結婚する年齢が 50 歳

頃であるため、調査対象者が今後、夫の妻と同居する可能性はある。

5) 子どもの数

妻の年齢に幅があり、子どもの数は 0 人から 11 人までばらつきがあるが、中央値は 5 人、最頻値は 6 人、平均は 4.62 人である（図 4-5）。ナイジェリア北部の合計特殊出生率は 7.3 人（2008 年）である（表 4-15）。調査対象者の平均年齢は 32.9 歳であり、ナイジェリア北部の女性の平均出産間隔は 30.8 月（2008 年）である事から（表 4-15）、調査対象者が 40 代半ば頃までには 2～3 人子どもを増やすと仮定すると、ナイジェリア北部の合計と子どもの数は変わらなくなる。

図 4-5　妻の年齢と子どもの数

妻の年齢 子どもの数（人）	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人
20 歳 - 24 歳	1	4		2								
25 歳 - 29 歳			1	2	1	1						
30 歳 - 34 歳			1			3	2					
35 歳 - 39 歳						1	1	2		1		
40 歳 - 44 歳					1		1	1			1	1
45 歳 - 49 歳					1		1	1			1	
50 歳 - 54 歳							1		1			
合計	1	4	2	4	3	5	6	4	1	1	2	1

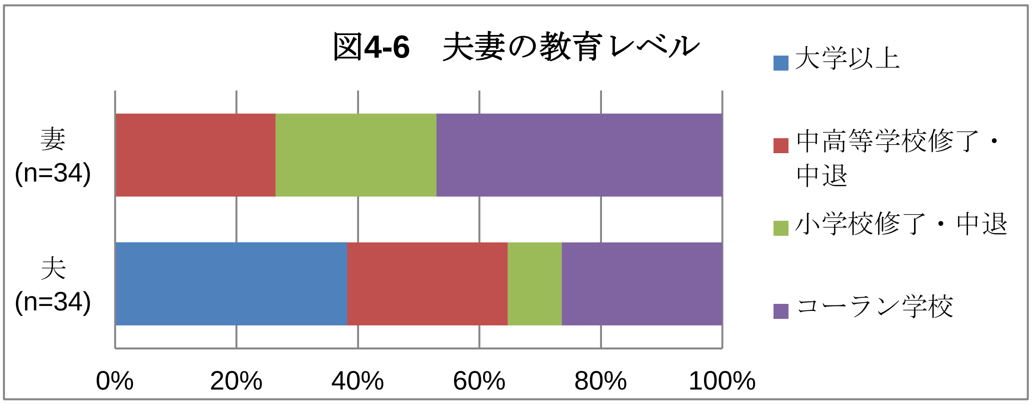
（子どもの数は、調査対象者である女性自身が産み現在の夫と同居して育てている子どもの数である。夫の他の妻の子どもや女性自身が産んで実家や元夫が育てている子どもは含まない。筆者作成）

6) 夫妻の教育レベル

夫の教育レベルを見て見入ると、ディプロマ以上の高学歴を持つ夫が 38%と最も多く、次いでコーラン学校のみ（27%）、中高等教育修了（26%）、初等教育修了（9%）の順である。一方で妻の教育レベルは中高等教育修了（27%）、初等教育修了（26%）で、約半数はコーランン学校のみ（47%）である（図 4-6）。ナイジェリア北部及びカノ州の女性の状況と比較すると（2008 年：表 4-16、表 4-17）、学校教育を受けていない女性はナイジェリア北部で 74.2%、カノ州で 65.7%であり、初等教育修了は前者で 8.1%、後者で 12.5%、中高等教育修了が前者で 5.3%、後者で 8.4%[23]である。調査対象者の妻の教育レベルは、ナイジェリア北部及びカノ州の数値よりも高い。一方、カノ州の男性の教育レベルは、学校教育を全く受けていない男性が 30.6%、初等教育修了が 22.2%、中高等教育修了が 17.5%、ディプロマ以上が 11.9%である（2008 年：表 4-17）。調査対象者の夫の教育レベルと比べると、学校教育を全く受けていない割合はあまり変わらないが、調査対象者ではディプロマ以上の割合が 38%と高く、中高等教育修了も 26%で、教育レベルが高い事が分かる。

---

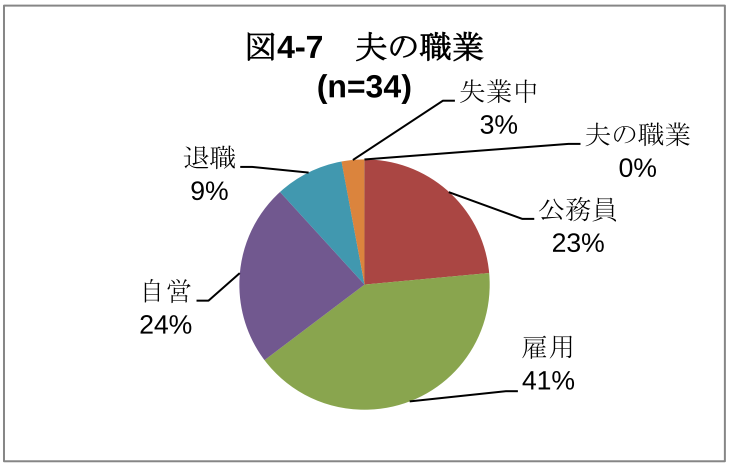
[23] 高等教育修了以上は 2.9%（カノ州：DHS 2008 年）



（筆者作成）

7) 夫の職業

夫の職業は23%が公務員、雇用が41%、自営業が24%である。公務員・雇用者合わせて64%は定期的に給与を得る職業に就いている（図4-7）。DHS（2008年）のカノ州の結果によれば、カノ州の男性で家族以外から雇用されている男性は18.8%、家族から雇用されている男性は14.2%、自営が67%であった。調査対象地では農業を専業にする男性は少なく、近辺に公的機関、民間の工場が多いため、公務員、雇用の男性が多いと考えられる。



（筆者作成）

以上、調査対象者34世帯の夫妻それぞれの特徴である。本章でナイジェリア北部の世帯・婚姻関係の状況、女性・男性の教育、経済力等の状況を既存の統計資料から示した。これらの点について、本研究の調査対象者は統計資料と比較すると下記の表4-22のような状況である。

表 4-22　本研究の調査対象者の特徴

妻・夫の特徴	調査対象者	ナイジェリア北部
女性の初婚年齢	16.7 歳	15.3 歳
夫妻の年齢差が大きい（20 歳以上）	27%	17.3%
夫妻の年齢差が小さい（9 歳以下）	34%	15.8%
女性の教育レベルが低い（学校教育の経験なし）	47%	65.7%（カノ州のみ）
男性の教育レベルが低い（学校教育の経験なし）	27%	30.6%（カノ州のみ）
女性の教育レベルが高い（中高等教育修了以上）	27%	11.3%（カノ州のみ）
男性の教育レベルが高い（ディプロマ以上）	38%	11.9%（カノ州のみ）
男性の雇用労働者	64%	33%（カノ州のみ）

（ナイジェリア北部の数値は表 4-14、4-15、4-17 から抜粋。筆者作成）

次の表 4-23 は、調査対象者 34 世帯の夫妻プロフィールを一覧にまとめたものである。又表 4-24 はキーインフォーマントのプロフィール、表 4-25 は調査対象者（妻）のプロフィールである。夫妻の学歴の項目にある「コーラン」はコーラン学校への通学経験を意味する。

表4－23　調査対象者のプロフィール

	ID	妻の年齢	年齢差	子ども数	妻の学歴	夫の年齢	夫の学歴	夫の職業
妻が経済活動有	妻1	20代前半	3	0	高校卒	20代前半	大学卒	雇用
	妻2	20代前半	11	3	小学校卒	30代後半	高校卒	雇用
	妻3	20代後半	11	2	高校卒	30代後半	高校卒	自営
	妻4	20代後半	9	4	中学校卒	30代後半	大学卒	雇用
	妻5	30代前半	8	6	小学校卒	40代前半	大学卒	公務員
	妻6	30代後半	17	9	高校卒	50代後半	高校卒	雇用
	妻7	40代前半	25	0	コーラン	60代後半	大学卒	公務員
	妻8	40代後半	5	4	コーラン	50代前半	コーラン	公務員
	妻9	20代後半	8	N.A.	小学校卒	30代前半	大学中退	自営
	妻10	40代後半	12	7	コーラン	50代後半	コーラン	退職
	妻11	30代後半	10	6	コーラン	40代後半	コーラン	雇用
	妻12	50代前半	30	8	コーラン	80代前半	小学校卒	退職
	妻13	50代前半	20	6	コーラン	70代前半	コーラン	自営
	妻14	30代後半	5	7	コーラン	40代前半	大学卒	自営
	妻15	20代前半	20	1	コーラン	40代前半	高校卒	雇用
	妻16	40代前半	20	7	高校中退	60代前半	コーラン	自営
	妻17	40代後半	10	10	小学校中退	50代後半	大学卒	退職
妻が経済活動無	妻18	30代前半	20	5	コーラン	50代前半	コーラン	自営
	妻19	30代前半	10	5	小学校卒	40代前半	高校卒	雇用
	妻20	30代前半	15	2	小学校卒	40代後半	大学卒	公務員
	妻21	20代前半	9	3	高校卒	30代前半	コーラン	雇用
	妻22	30代後半	9	7	小学校卒	40代後半	高校卒	雇用
	妻23	40代前半	14	11	コーラン	50代前半	大学卒	公務員
	妻24	30代前半	10	5	コーラン	40代前半	高校卒	雇用
	妻25	40代後半	5	6	コーラン	50代前半	小学校卒	雇用
	妻26	30代前半	20	6	コーラン	50代前半	小学校卒	自営
	妻27	20代前半	6	1	高校卒	20代後半	大学卒	公務員
	妻28	20代後半	12	5	高校中退	40代前半	大学卒	雇用
	妻29	20代後半	10	3	小学校中退	30代後半	高校中退	失業中
	妻30	20代前半	12	1	高校卒	30代前半	大学卒	自営
	妻31	20代前半	10	1	小学校卒	30代前半	コーラン	雇用
	妻32	40代前半	20	10	コーラン	60代前半	大学卒	公務員
	妻33	30代後半	5	5	コーラン	40代前半	高校卒	公務員
	妻34	40代前半	25	4	コーラン	60代後半	コーラン	雇用

（筆者作成）

表 4-24 キーインフォーマントのプロフィール

ID	年齢	性別	所属
KI1	30 歳代後半	女性	カノ州女性課題・社会開発省職員
KI2	20 歳代後半	女性	カノ州女性課題・社会開発省職員
KI3	40 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 24 年）
KI4	50 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 20 年）
KI5	40 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 17 年）
KI6	40 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 30 年）
KI7	30 歳代後半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 27 年）
KI8	50 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 21 年）
KI9	40 歳代前半	女性	P 地区 WDC 講師（P 地区在住 11 年）

（筆者作成）

表 4-25　調査対象者（妻）のプロフィール

	ID	初婚年齢（歳）	夫親戚と同居	夫の妻と同居	妻親戚が同じ町に居住	経済活動の種類	講・協同組合
妻が経済活動有	妻 1	18	無し	無し	有	洋裁	無し
	妻 2	18	無し	無し	有	洋裁・サンダル製作	有
	妻 3	23	無し	有	無し	洋裁・編み物・水売り	無し
	妻 4	18	無し	無し	有	洋裁・VCD 貸し・水売り	有
	妻 5	20	無し	無し	無し	編み物・小規模商業	有
	妻 6	13	有	無し	無し	編み物・メイズ製粉	有
	妻 7	16	有	無し	無し	編み物・飲料/ポマード売り	有
	妻 8	15	無し	無し	有	洋裁・飲料作り	有
	妻 9	n.a.	有	有	有	洋裁・編み物	無し
	妻 10	14	無し	無し	無し	調理食品	有
	妻 11	16	無し	無し	無し	調理食品	有
	妻 12	12	無し	無し	無し	調理食品	無し
	妻 13	14	有	無し	無し	調理食品	有
	妻 14	12	無し	無し	無し	飲料作り	有
	妻 15	18	有	無し	無し	調理食品	有
	妻 16	17	有	無し	無し	小規模商業	無し
	妻 17	15	有	有	無し	小規模商業	無し
妻が経済活動無	妻 18	12	無し	無し	無し	無し	有
	妻 19	22	無し	無し	無し		無し
	妻 20	25	無し	無し	無し		無し
	妻 21	18	無し	無し	無し		無し
	妻 22	13	無し	無し	無し		無し
	妻 23	15	無し	無し	無し		無し
	妻 24	20	無し	有	有		無し
	妻 25	15	無し	無し	無し		無し
	妻 26	17	無し	無し	無し		有
	妻 27	20	無し	無し	無し		無し
	妻 28	18	有	有	無し		無し
	妻 29	16	有	無し	有		無し
	妻 30	18	有	無し	無し		無し
	妻 31	17	有	無し	無し		無し
	妻 32	15	有	有	有		無し
	妻 33	17	無し	無し	無し		無し
	妻 34	16	有	有	有		無し

（筆者作成）

4-4 本研究の分析項目

本節では、第3章で提示した本研究の分析枠組みである、修正した協力的対立モデルの各要素について、本章で検討したナイジェリア北部ハウサ社会の文脈に基づき、表 4-26 に挙げる分析項目を説明する。

表 4-26　協力的対立モデルによる分析項目

協力的対立モデルの要素	交渉力向上の具体的要素	
妻の決別点を向上させる要素	年齢	夫妻の年齢差が小さい 妻の年齢が高い・初婚年齢が高い
	子ども	子どもの数が多い
	拡大家族	夫の義両親・兄弟と同居無し 夫の他妻と同居無し
	社会ネットワーク	夫の親戚への支援あり 妻自身の両親・兄弟・親戚が同じコミュニティに在住 妻の頼母子講・協同組合等のメンバーシップ有
	教育	妻の教育年数が長い 妻の学校教育の経験有
	経済力	妻の1カ月当たりの収入が多い 夫に定期的に現金を貸与・贈与 土地・家屋の所有・貯蓄等の財所有
夫の決別点を向上させる要素	年齢	夫妻の年齢差が大きい 夫の年齢が高い
	拡大家族	夫自身の両親と同居 一夫多妻の実践（他妻と同居）
	社会ネットワーク	妻の親戚への支援あり
	教育	夫の教育年数が長い 夫の学校教育の経験有
	経済力	夫の1カ月当たりの収入が多い 夫の1カ月世帯ニーズ支出額多い 雇用労働者として勤務 妻の経済活動への支援
世帯への貢献認識（妻）	自身による世帯への貢献認識 夫からの世帯への貢献認識	
自己利益への認識（妻）	経済的自立への自信 自分が他の人の役に立っているという認識 家事労働の自己評価 自分自身の目標や夢の具体化	
ジェンダー役割の変化の受容（夫妻）	妻の世帯への経済的貢献／夫の家事労働手伝いの受容 妻も世帯ニーズ担い手／妻の収入が上回る事の受容	

（「Gender and Cooperative Conflict　（Sen 1990, 123-149）」を参考に筆者作成）

決別点を向上させる要素

夫妻それぞれの決別点における福祉レベルを向上させる要素に関して、本章で見てきたナイジェリア北部ハウサ社会の特性から、年齢、子どもの数、拡大家族、社会ネットワーク、教育レベル、経済力を以下のように挙げる。

1) 年齢

夫妻の年齢差

ハウサ社会では年長者を敬うため、夫妻間の年齢差が大きいほど、妻は夫に自身の要求を伝えづらい。表4-14に示したように、ナイジェリア北部の夫妻の年齢差は10歳から14歳差が43.6％、15歳から19歳差が23.3％と年齢差が大きい。夫にとっては夫妻間の年齢差が大きい事が、妻にとっては年齢差が小さい事が、自身の意見を言いやすい環境にあると捉える。

夫妻の年齢

ナイジェリア全体の統計ではあるが、表 4-27 から年齢が高くなるほど妻は世帯内の意思決定に関わっている事が分かる。又、前述のようにハウサ社会は年長者を敬う。従って、夫妻とも年齢が高いほど拡大家族やコミュニティでの発言力が増し、世帯内でも同様と捉える。

妻の初婚年齢

表4-15に示したように、ナイジェリア北部の女性の初婚年齢は平均15.3歳（2008年）である。初婚年齢が低いほど夫との年齢差が大きい可能性が高いため、妻が意見を言いやすい環境ではない。又、初婚年齢が低い事は、学校教育を受けた期間が短い可能性が高く、表 4-27 が示すように妻の教育レベルが低いほど、世帯内意思決定への関わりも低い。従って、妻の初婚年齢が高いほど妻の決別点での福祉レベルの強化に繋がると捉える。

2) 子どもの数

前節でレビューしたように、ハウサ社会では子どもの数に応じた財を妻は夫から受け取るため、多く子どもを持つ妻が、より多くの資源を夫から得る（Izugbara, Ibisomi et al. 2010,222）。表 4-15 に示したようにナイジェリア北部の合計特殊出生率は 7.3 人（2008年）で、子どもを多く産む事が妻に期待される。そのため、子どもがいる事、子どもの数が多い事が妻の世帯内・拡大家族内で敬われる事に繋がり、より妻の意見が受け入れられやすいと考えられる。又表 4-27 が示すように、ナイジェリア全体の統計ではあるが、子どもの有無によって妻の世帯内意思決定への関わりが異なり、子どもがいない妻は意思決定への関わりが低い。従って、子どもの数が妻の年齢に照らし合わせて多い方が、妻の決別点における福祉レベルを上げていると捉える。

3) 拡大家族

夫の義両親・兄弟との同居

ハウサ社会では年長の男性を家長とし、コンパウンドの中に家長の第1夫人、第2夫人と妻ごとに住居又は部屋がある。長男が結婚する際には父親のコンパウンド内に住居を構え、妻は義母の家事を手伝う事が期待される。しかし夫の義両親や未婚の兄弟との同居、特に義母と同居する事が難しい面もあり、経済的に余裕があれば結婚時に父親のコンパウンドを出る事もある。夫の義両親・兄弟と同居する場合は、家長である夫の父親を頂点とした力関係があり、妻が意思決定に関わる機会は少なく、夫に対しても自身の意見を伝えやすい環境ではない。従って、妻にとっては夫の義両親・兄弟との同居しない事が決別点の向上に影響し、夫にとっては自身の両親・兄弟との同居する事が決別点の向上に影響すると捉える。

夫の他妻との同居

ハウサ社会では一夫多妻制が実践され、ナイジェリア北部の州で夫に自分以外の妻がいる割合は41.9%であった（表4-15）。前節で見たように、妻が他の妻と上手くやっていけない場合は婚姻関係が破綻する事もあり（Callaway 1987）、「他の妻と平和に暮らす事」は夫に対する敬いとも取られている（Renne 2004）。妻にとって夫の他の妻と暮らす事は容易ではなく、他の妻と同居していない場合の方が夫と話し合える環境を確保出来る。そのため夫の他の妻と同居していない事が、妻の決別点のレベルを上げると捉える。一方、夫にとっては複数の妻がいる事は社会で尊敬される事であり、複数の妻子を養える財力を示せる事を意味する。従って、夫にとっては複数の妻がいる事が、夫の決別点の向上に影響すると捉える。

4) 社会ネットワーク

親戚への支援の有無

両親・親戚に対して現金や物を上げたり、同居や近くに住む場合は家事を手伝ったりという支援をする事は頻繁に行われる。結婚式等セレモニーや訪問時のギフト交換、緊急時の支援が行われ、相互サポートの関係が築かれる。妻も夫も自身の両親・親戚への支援は当然とみなされ、更に妻が夫の親戚へ、夫が妻の親戚へ支援を行う事も期待される。従って、夫妻共に相手の親戚へ支援をする事が、緊急時のサポートや良い評判を作り、決別点の向上に繋がると捉える。

同じコミュニティに妻両親・親戚が居住

ハウサ社会では既婚女性の外出には夫の許可がいるため、妻が両親や親戚を訪問する際にも夫の許可が必要となる。同じコミュニティであっても外出には許可が必要ではあるが、交通機関を利用して遠くへ出かける必要や宿泊の必要がなく訪問出来、又、両親・親戚が訪問する事が容易となるため、同じコミュニティに両親・親戚が居住している事は、妻にとって両親・親戚からの支援を受けやすくする。従って、妻の決別点の向上に影響すると

捉える。

妻の協同組合等メンバーシップの有無

既婚女性は隔離の慣習やハウサ社会で血縁以外の帰属意識が希薄であるため、女性同士の協同組合のような活動は盛んではなく、協同組合に加入していても頻繁に協同で何か活動をするわけではない。しかし協同組合のメンバーシップがあると、緊急時に他のメンバーから支援を受ける可能性がある。更に、頼母子講への加入も同様の支援を受けられる。従って、協同組合等のメンバーシップの保持は、妻の決別点の向上に繋がると捉える。

5) 教育

表 4-27 が示すように、妻の教育レベルが高くなる事で、世帯内意思決定への妻の関わり方は大きくなる。特に、学校教育のない妻が意思決定に関わる割合は意思決定の内容に関わらず低く、小学校を終了した妻が意思決定に関わる割合の半分程度である。又、表 4-28 が示すように、夫の教育レベルが高くなる事が、世帯内意思決定への妻の関わる割合を高めている。従って夫妻共に、教育レベルが高くなる事が決別点の向上に影響すると捉える。

表 4-27 世帯内意思決定への妻の参加と妻の特性（ナイジェリア）

妻の特性		妻のヘルスケア	主要な世帯の買い物	日常の世帯の買い物	妻の親戚訪問	全決定に参加	全決定不参加
教育レベル	学校教育なし	26.5	23.2	30.2	38.9	18.5	55.8
	小学校修了	52.8	45.9	61.4	64.4	38.3	27.7
	高等学校修了	61.1	51.7	68.9	70.7	44.1	20.9
	大学以上	69.9	60.2	76.7	78.4	52.9	14.5
年齢	15 歳-19 歳	23.7	19.9	26.1	35.0	15.6	58.9
	20 歳-29 歳	39.8	33.7	45.7	51.8	27.7	41.3
	30 歳-39 歳	47.9	42.2	54.7	59.0	35.4	34.2
	40 歳-49 歳	49.6	42.8	55.7	60.3	36.3	33.3
子どもの数	なし	36.4	31.5	40.8	47.0	25.6	45.7
	1 人-2 人	42.6	36.0	47.9	53.7	30.1	39.4
	3 人-4 人	46.1	40.0	52.6	57.8	33.5	35.7
	5 人以上	44.6	39.1	51.3	55.8	32.6	37.4

（「NDHS 2008」の p245 の表 15-5-1 より抜粋。対象は 15 歳から 49 歳の既婚女性。単位%）

表 4-28　夫が認識する妻の世帯内意思決定への参加（ナイジェリア）

夫の特性		主要な世帯の買物	日常の世帯の買物	妻の親戚訪問	妻所得の用途決定	子どもの数	全決定に参加	全決定不参加
教育レベル	学校教育なし	7.4	20.2	41.2	56.4	35.2	4.2	29.3
	小学校修了	16.6	47.9	46.1	68.1	48.8	8.9	15.6
	高等学校修了	19.8	58.8	48.8	74.4	54.8	10.2	9.6
	大学以上	24.2	60.0	58.7	80.3	63.4	16.4	8.1
年齢	20 歳−29 歳	14.2	39.7	42.5	62.6	45.0	7.2	20.4
	30 歳−39 歳	16.5	45.4	47.3	68.8	49.5	8.9	16.2
	40 歳−49 歳	17.2	49.3	50.2	71.8	51.1	10.4	14.4
子どもの数	なし	17.4	44.0	49.5	63.4	49.9	9.5	18.9
	1 人−2 人	16.6	48.1	46.4	69.5	49.3	9.2	16.2
	3 人−4 人	16.4	47.9	49.7	71.3	53.2	9.9	14.3
	5 人以上	15.0	41.1	45.4	67.1	44.3	8.0	17.6

（「NDHS 2008」の p246 の表 15-5-2 より抜粋。対象は 15 歳から 49 歳の既婚男性。単位%）

6)　経済力

ハウサの既婚女性は隔離を実践しているが、家の中で出来る経済活動は夫の許可があれば可能で、妻が得た収入は妻が管理し用途を決定出来る。両親・親戚への支援やギフト交換、夫が必要な時にお金を貸す、自身や子どもの必要なものを購入するために、女性は収入を得ようとする。表 4-29、表 4-30 はナイジェリア全体の数値ではあるが、夫妻それぞれの経済力と世帯内意思決定への妻の関わりを示している。夫妻とも、所得階層が上位になるほど、妻の意思決定への関わりの割合が高く、「主要な世帯の買い物」「日常の世帯の買い物」「妻の親戚訪問」は、妻の方が同じ質問への夫の回答よりも、「妻の意思決定への関わりがある」と認識する割合が高くなっている（NDHS 2008,239-247）。

ハウサ社会では夫が世帯に必要なニーズを供給する義務があるため、夫の経済力の項目として、「1 カ月当たりの収入が多い」だけでなく、「1 カ月当たりの世帯ニーズ支出額が多い」を取り上げる。収入の全額を世帯ニーズに支出するとは限らないためである。そして安定して収入があるかの目安となる「雇用労働者としての勤務の有無」を取り上げる。又、「妻への経済活動への支援」を取り上げる。これは夫の義務ではないとみなされるが、それでも妻に支援出来る事は経済力の余力と夫の寛容さとして敬われるためである。一方、妻の経済力の項目として、「1 カ月当たりの収入が多い」だけでなく、「夫に定期的に現金を貸与・贈与する」を取り上げる。夫が世帯ニーズを供給する事が難しい状況の中で、親戚や近所からお金を借りる事は恥ずかしい事とみなされるため、夫にとって妻から借りられる状況は大切である。夫は妻に返金する事が期待されるが、妻が返金を断る場合もある。妻が定期的に夫に現金を貸与出来る事は妻の経済力の余力を示すものとなる。このように、夫妻共に経済力がある事は、それぞれの決別点の向上に繋がると捉える。

表 4-29　世帯内の意思決定と妻の経済的特性（ナイジェリア）

妻の特性		妻のヘルスケア	主要な世帯の買い物	日常の世帯の買い物	妻の親戚訪問	全決定に参加	全決定不参加
所得階層 五分位[24]	最低五分位	25.7	23.3	30.2	37.4	18.3	57.1
	第 2 五分位	33.8	30.1	38.6	46.5	24.3	47.3
	第 3 五分位	45.1	40.4	52.2	58.2	33.4	35.1
	第 4 五分位	55.8	46.3	62.2	66.3	39.2	26.3
	最高五分位	62.8	52.2	70.3	71.1	45.5	20.6

（「NDHS 2008」の p245 の表 15-5-1 より抜粋。対象は 15 歳から 49 歳の既婚女性。単位%）

表 4-30　夫の認識する妻の世帯内意思決定と夫の経済的特性（ナイジェリア）

夫の特性		主要な世帯の買物	日常の世帯の買物	妻の親戚訪問	妻の所得用途決定	子どもの数	全決定に参加	全決定不参加
所得階層	最低五分位	8.2	21.4	39.6	53.1	37.1	4.8	29.3
五分位	第 2 五分位	12.2	31.5	43.5	62.7	42.0	5.2	20.9
	第 3 五分位	18.8	47.6	47.8	69.0	47.7	10.3	15.5
	第 4 五分位	20.9	61.5	49.8	75.2	52.7	13.5	10.1
	最高五分位	21.3	66.5	55.8	83.0	64.7	12.1	5.7

（「NDHS 2008」の p246 の表 15-5-2 より抜粋。対象は 15 歳から 49 歳の既婚男性。単位%）

世帯への貢献認識

世帯への貢献認識は、世帯の富に対する世帯構成員の「生産的貢献」の認識で、誰がどのくらい世帯の繁栄のために貢献しているのかを、どう認識しているか、という事である。貢献認識は、実際に仕事に費やした時間や労力ではなく、貢献していると認識される事である（Sen 1990）。妻の世帯への貢献認識について、1) 妻自身が、自分が世帯に貢献していると認識しているか、2) 夫が妻の世帯への貢献を認識しているか、の 2 点を検討する。尚、世帯への貢献は経済的貢献に限らない。

自己利益への認識

自己利益への認識は、「自分自身の価値や仕事の価値を女性自身が認識する事（ヌスバウム 2005 ）」である。自己利益への認識が弱いと、「自分自身が重要な存在と考えなかったり、他者の方が自分より価値がある目標を持っていたりと思っている人は交渉力が低くなる（Sen 1990）」と、交渉において不利な立場となる。この事から、自己利益への認識を細分化して、1) 女性がジェンダー役割として携わる家事労働を自分がどう評価している

---

[24] 「wealth quintiles」の訳。総務省統計局 HP 参照（http://www.stat.go.jp/data/kakei/kaisetsu.htm#p9）2012 年 12 月 7 日アクセス。

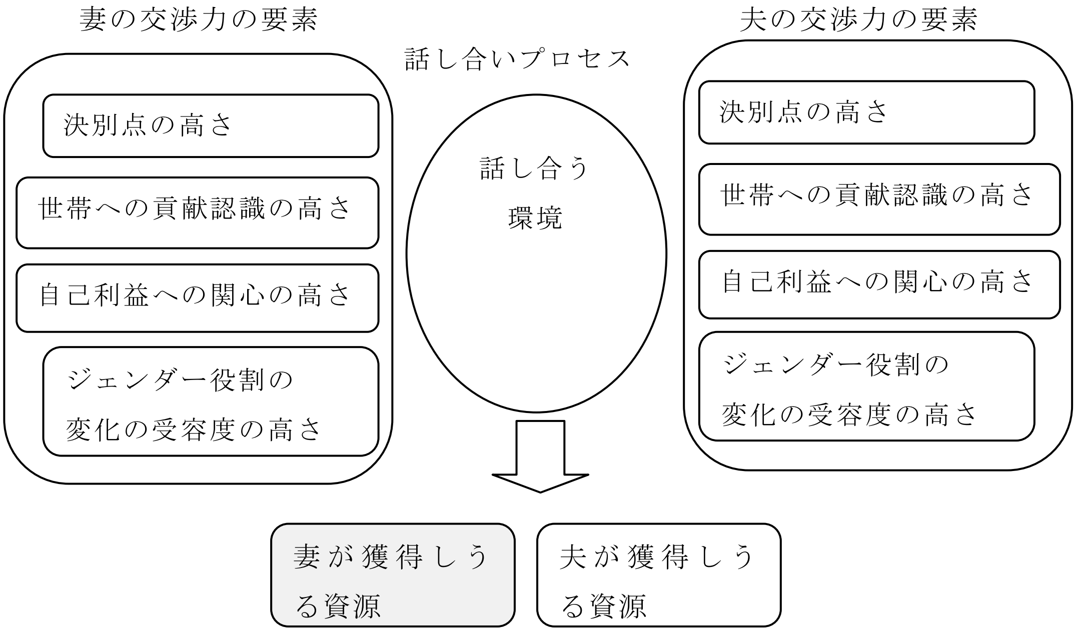
か、2) 経済的に自立している自己評価があるか、3) 自分が他の人の役に立っていると認識しているか、4) 自分の目標が明確か、という 4 点について検討する。

ジェンダー役割の変化の受容

ジェンダー役割の変化の受容に関しては、ハウサ社会の夫妻の関係で基本となっている「夫が衣食住等世帯ニーズ全てを供給し、妻は夫の指示に従い家事・育児を担う」という従来のジェンダー役割規範は、近年の社会経済状況の変化の中で、夫が十分に遂行出来ず役割そのものが変容しているが、その変容したジェンダー役割をどの程度受容しているかを検討する。具体的には、「夫が世帯ニーズを担うべき」「夫の収入が妻の収入を上回るべき」という既存のジェンダー役割を肯定するか否定するかで、夫妻のジェンダー役割の変化の受容度を検討する。

以上が、夫妻それぞれの交渉力の要素として分析する項目である。このような交渉力の要素を持つ夫妻が、生活に関わる意思決定を行うが、夫が単独で意思決定を行う場合が多く、妻と話し合いの場を持たずに夫が決めている可能性もある。そこで、「妻と意見の相違がある場合に、夫がどのような対処をしているのか」に対する夫の回答を、「話し合いの場の確保のしやすさ」として下記の枠組みに加えていく（図 4-8)。話し合いの場を夫妻が持つ事によって、初めて話し合いのプロセスが生じる。どのような交渉力の要素を持つ夫が、より話し合いの場を持ちやすいのか検討していく。

図 4-8　世帯内意思決定の分析枠組み


妻の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
話し合いプロセス
話し合う環境
夫の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
妻が獲得しうる資源
夫が獲得しうる資源

（図 3-2（p54）　の再掲。「Gender and Cooperative Conflict (Sen 1990:123-149)」を参考に筆者作成）

第5章　女性の収入獲得と世帯内意思決定

本章は、「副課題1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」を検討する。先行研究から、世帯内意思決定の交渉力の要素の1つである「決別点」を向上させる要素として、年齢、年齢差、教育レベル、経済力、社会ネットワーク等が挙げられている。その中でも「女性の収入獲得」は、女性の決別点の高さを上げ、更に交渉力の他の要素である「世帯への貢献認識」を上げる事にも影響する（Osmani 1998）。第2章で述べたように、これまで開発援助において、女性を対象とした所得創出活動が女性の貧困の解消・生活の向上を目的として数多く実施されてきた。これらの所得創出活動には、女性が経済力を得る事が交渉力や発言力を向上させるという仮定があった。しかし所得創出活動により女性が収入を得ると、男性が世帯に支出しなくなったり女性に暴力を振るうようになったりという負の側面も生じていた。又第3章及び第4章で示したように、女性が自身の所得を管理する場合でも世帯内の女性の生活に関わる意思決定を女性自身が行うとは限らず、人口保健調査の結果からナイジェリア北部ハウサ社会においては、90%近い既婚女性が自身の所得の用途を自分で決定するが、女性自身の外出や日常の買い物の決定等、世帯内の意思決定にあまり参加していない事が分かった。一方、世帯内資源分配に関する先行研究では、経済力は交渉力向上の要素の1つである事、経済力を得る事で世帯への貢献認識や自己利益への認識の増大し、それらも交渉力向上の要素となる事が言われている。このように先行研究と統計資料や実際の開発援助の現場で生じている事には統一見解がなく、女性が経済力を得る事が交渉力・発言力の向上に繋がるのか繋がらないのか分からない。

本章では、食料や日用品等世帯員が共有する世帯ニーズ[25]の供給に夫が責任を持つハウサ社会の事例から、女性の収入獲得と世帯内意思決定の関係を検討していく。ハウサ社会では女性の得た収入は女性が管理出来る事から、女性の収入獲得を女性が自由に使える資源として捉える。そして女性が何故収入を自分で得ようとするのか、女性の経済活動の状況や収入の用途をジェンダー役割[26]の視点から分析し、女性が得る収入が世帯のニーズ充足に対してどのような意味があるのか、妻が収入を得る事は、世帯内での女性の意思決定力の向上に対して、どのように影響するのか明らかにする。まず第一節で女性の経済活動の状況について、携わる活動の種類と形態、又、経済活動拡大を阻む要因を示す。第2節では女性の収入の用途、第3節では対象地の世帯ニーズに関係する物の価格、夫と妻の収入額と世帯ニーズ支出額について示す。第4節では世帯内役割をめぐるジェンダー認識、第5節では世帯ニーズ充足と女性の望む状況について述べる。最後に第6節では本章のまとめを行う。

---

[25] 世帯ニーズは食料、日用品、衣料、医療、子どもの教育費、交通費と調査対象地域では理解される。

[26] ジェンダー役割とは社会の中で規範や伝統に従い、どのように行動し、考え、感じるべきか、男性・女性として期待される務めや責任である　（March, Smyth et al. 1999,18）。

5-1 女性の経済活動の状況

本節では既婚女性の経済活動の状況を述べる。既婚女性は隔離を実践しているため、経済活動は主に家の中で出来るものとなる。結婚式、命名式等のセレモニーは、女性が親戚や近所の人達と会い、経済活動の宣伝の場や情報交換の機会になっている（妻 1,2 他）。しかし外出には夫の許可を必要とし、夫が重要と認めたセレモニーや親戚訪問、病院、学校等以外の外出先は許可されない事が多い（KI4-9）。このような状況で、女性はどのような経済活動に従事しているのか検討していく。

5-1-1　女性に相応しい経済活動の種類と形態

女性に相応しいとされる経済活動は、隔離を実践し男性と接触しない等ジェンダー役割規範に影響されている（表 5-1）。男性は「物品の販売は利益がない時期もあり、人に騙される事もあり、問題が生じる可能性がある。教師はそのような問題もなく、人に教える事は尊敬される」という理由で、小学校やコーラン学校の教師を最も支持した。一方、女性グループは洋裁を挙げた。「最も利益が上がる、子どもが頭の上に乗せて売り歩かなくていい、家の中で出来る、人に教えられる技術である」という理由であった。周囲からどのように認識されるかが、女性に相応しい経済活動とみなされるかに影響する事が伺える。

表 5-1　女性に相応しい経済活動の種類と形態（下線は最も支持された種類と形態）

	男性から見た女性に相応しい経済活動	女性から見た女性に相応しい経済活動
種類	●教師（小学校・コーラン学校） ●洋裁・編み物の製作・販売 ●調理食品の製作・販売 ●小規模商業 ●髪結い	●洋裁・編み物・刺繍製品製作・販売 ●調理食品・グランドナッツ油の販売 ●製粉（メイズ、豆、トマト） ●小規模商業 ●髪結い ●ヘンナ染色による手足装飾 ●サンダル・ビーズ製作・販売
形態	●自宅で作業出来る事 ●他の男性と一緒に作業しない ●小額の資金で始められる	●自宅で作業出来る事 ●客が自宅に買いに来る事 ●子どもや他の女性に教えられる事

（出所：P 地区 WDC で既婚女性・男性に対する FGD より筆者作成：2010 年 9 月）

5-1-2　女性の経済活動の実態

女性が携わる経済活動は大別すると次の 3 種類になる。1) 小規模商業（Petty Trading）, 2) 調理食品の販売、3) 洋裁・編み物・サンダル製作等スキルを活用した製品の製作・販売、である。1) の小規模商業は日用品や調味料、服生地、水等をまとめて購入し小売にするもので、商品をまとめ買いするため、まとまった資金が必要となる。 2) の調理食品の販売は、豆のパンケーキ（*kosai*）や大豆の揚げもの（*awara*）を朝食やお菓子用に自宅で作って売ったり、食用ハイビスカスの飲物（*zobo*）を自宅で作って小さなビニール袋に詰めて

冷やして売ったりする。3) の洋裁・編み物・サンダル製作等は、ある程度のスキルと器材を必要とする。WDC の経験がない女性は誰も 3) の活動には従事していない。WDC 卒業生は WDC で得たスキルを活かして 3) の活動に従事しているが、 1)、2) を組み合わせた活動もしている。次に経済活動に従事する 5 人の例を示す。

事例 1　洋裁とサンダル製作（妻 2）妻 24 歳、夫 35 歳、子ども 3 人

妻 2 は 20 代前半で子どもが 3 人いる。WDC で洋裁とサンダル製作を学んだ。洋裁は客が布地を持ち込み、自分は裏地や糸を用意する。ミシンは WDC からローンで受け取り毎月 N3,000 ずつ夫が返済した。セレモニーの際に自分の活動を宣伝したり、顧客からの口コミがあったりしたので客が次第に出来た。サンダルは 1 日に 5-10 足製作出来、大人用は 1 足 N350-N400、子ども用は N200-N250 で売る。5 足あたり N500-N700 の利益が出る。材料費は N300-N500 で、頻度は数えていなくて分からないが、月に 2 回くらい夫の許可を得て自分で買いに行く。サンダル製作は 1 カ月に N4,000 ほどの利益になる。

事例 2　編み物とメイズ製粉 （妻 6）　妻 38 歳、夫 55 歳、子ども 9 人、夫の両親と同居

妻 6 は 30 代後半で子どもが 9 人いる。WDC で編み物を学び近所や親戚から注文をもらい赤ちゃんの編み物服セットを販売している。編み機は WDC からローンで得て夫が返済した。編み物は 11 月から 2 月の寒い時期であれば 1 カ月に 4 セット、他の月は 1～2 セットくらい売れる。1 セット N800 で売る。又近所の女性達とグループを作って、10 人のメンバーでメイズの粉を売るビジネスをしている。メイズ 1 バッグを N4,000 で購入し、製粉機を持つ人のと頃へ人を送り、粉にする。これに N1,000 の費用がかかる。この粉をマーケットで売ってもらう。1 バッグあたり N3,500-N4,000 の利益がある。10 人で 1 カ月に 2 バッグ買い、利益は 10 人で分ける。

事例 3　編み物と飲物の販売 （妻 7）　妻 40 歳、夫 65 歳、子ども 6 人

妻 7 は 40 代前半で子どもは 6 人。WDC で機械編みを学んだ。卒業後に WDC から編み機をローンの形で得て毎月 N3,000 ずつ夫が返済した。編み機で赤ちゃん服のセットを製作している。注文は 12 月から 2 月の寒い時期に集中し、この時期にはダース単位での注文が小売店からある。1 セットあたり N500 から N800 で販売する。1 年間に大体 6 ダース、72 セットくらいの注文がある。又冷たい水やジュースを販売している。ボトルのジュースをまとめて購入し、小さなビニール袋に詰め替え冷蔵庫で冷やして販売する。1 日に N500-N1,000 の利益が出る。

事例 4　調理食品の販売（妻 13）妻 50 歳、夫 70 歳、子ども 6 人、夫の兄弟と同居

妻 13 は 50 代前半で子どもが 6 人いる。経済活動は 20 年前に開始した。豆のケーキと大

豆の揚げものを作る。豆のケーキは3個でN5、大豆の揚げ物は1個N5で販売する。これらは人々が朝食用に食べる。1日にN500の利益がある。1日の材料費は大豆と油でN940になる。近所の人から注文をもらったり、子どもが近所やマーケットで売り歩いたりする。

事例5　小規模商業（妻16）妻40歳、夫60歳、子ども7人、夫の両親と同居
妻16は40代前半で子どもが7人いる。経済活動は8年前に開始した。調味料、野菜、グランドナッツ油の小規模商業をしている。1日にN500の利益を得ている。グランドナッツ油は村から買う。他の商品はカノ市内の大きなマーケットへ[27]子どもを送って買う。商品を売る時に貸付の方法をとり、お客は商品を持って行き、支払いは月末にもらう。この売り方はお客の夫に気に入られ、多くの客がいる。

これらの5つの事例のうち、事例1から3は、女性は洋裁や編み物のようなスキルをWDCで学び、そのスキルを活かした経済活動をしている。又ミシンや編み機をWDCの支援と夫からの支援で得ている。洋裁は毎日注文があるわけではなく、編み物は寒い時期（11月から2月）以外は売れないが、調理食品や飲料は人々が毎日必要とするので、利益は小さくとも毎日確実に売れる（妻7,10）、という見方もあり、事例2と3はスキルを活かした経済活動と同時に1年を通して少額でも利益の出る製粉・飲料の販売にも従事している。

多くの女性は家族のために3度の食事を料理する事はなく、女性は自分の経済活動として調理をする（KI4,5他）。WDC経験のない経済活動をしている女性8人のうち6人は調理食品の販売、2人は小規模商業をしており、洋裁や編み物のようなスキルを活用する経済活動に従事する人はいない。事例4と5はWDCに通っていない女性の例で、調理食品の販売と小規模商業に従事している。事例4と5は材料の仕入れや製品の販売を自分の子どもを通して行っている。既婚女性が隔離を実践する中で経済活動をするためには、製品を外で販売し材料を外から買ってくる子どもの役割は大きい。経済活動無しの既婚女性が経済活動を始められない理由の中にも子どもの存在が認められる。「調理食品を売る活動を始めたいが食品を売り歩く大きな子どもがまだいない（妻20,24等）」。材料の購入に関しても「子どもをマーケットに送る（妻3,4等）」と、女性の経済活動に子どもが必要である例が多い。洋裁や編み物といった経済活動の場合は客が家を訪問して注文し製作するので、子どもが製品を売り歩いて顧客を確保するものではない。

WDC卒業生の中には調理食品の販売や小規模商業を好まないため、スキルを活用した経済活動を選んでいる例もある。「調理食品の販売は朝早くから準備が必要、煙が家に充満するので健康に悪い、小さい子どもがいると危ない、外で歩きながら販売する子どもがいない（妻20,23,24他）」という調理食品販売や小規模商業のマイナス面からの理由と、「年に1度のお祭りの際には人々が服を新調するため、洋裁の需要は2倍になり大きな利益に

---

[27] 調査対象のP地区からカノ市内までは乗り合いタクシーで30分から40分程度。片道N60の交通費がかかる。

なる（妻 1,2,4）」「編み物は赤ちゃん用のセットは贈り物への需要があり、寒い時期は大きな利益になる（妻 3,5,6,7,9）」という洋裁・編み物のプラスの面からの理由が挙げられた。

ここ 10 年くらいの間に、政府機関や援助機関により協同組合を推進する活動があり、機材や資金の受益者となるためにグループが結成され、多くの協同組合が地方行政区や州政府に登録している（KI1,2）。しかし女性達にとって協同組合は何かを協同で作業する場ではなく、定期的な会合を持ってアイデアを共有したり協同で材料を仕入れたりする程度である。多くの女性は 1 人で活動をする事を好み、協同組合に加入しない。経済活動有の 17 人のうち協同組合に加入しているのは 4 人だけである。「1 人で働く方が好きです。子どもが小さいので他の人と一緒にいる時間がありません（妻 5）」。又「問題を他の人と持つのが嫌です。1 人であれば自分の好きに出来ます（妻 10）」「夫が許可するなら協同組合に入りたいが、夫は良く思っていない（妻 2）」という理由のために加入しない人もいる。

5-1-3 女性の経済活動拡大を阻む要因

女性の経済活動拡大を阻む要因は、1) 家事・育児、2) 隔離の実践、3) 資金アクセスの 3 つが考えられる。1) は既婚女性が家事・育児を優先し経済活動に多くの時間を費やさない理由による。経済活動有の既婚女性 17 人中 7 人は 2 時間から 3 時間、6 人は 4 時間から 5 時間を 1 日の経済活動に費やしていた。「朝 8 時頃に子どもを学校に送り出し、8 時から 9 時頃まで洋裁をする。9 時以降は家事をする。午後は子どもが戻ってきて食事をし、コーラン学校へ送り出す。その後 3 時から 4 時くらいまで洋裁を続ける。4 時以降は夕食の準備がある。夜に疲れていなければ洋裁をする（妻 4）」「メイト（夫の他の妻）がいるので家事を 1 日交代でしている。自分が家事の番の時は、経済活動は朝 8 時から 12 時のみ。家事をしない日は朝 9 時から午後 2 時、夕食後に又続ける（妻 9）」と、家事や育児の空き時間に経済活動をしている。表 5-2 は 1 日の活動の例である。女性が様々な家事・育児に時間を割いている事が分かる。

表 5-2　P 地区の既婚女性の 1 日の活動例

時間	活動
5:00-5:30	起床／お祈りの水を用意し、お祈り
6:00-7:00	家の掃除、皿洗い
	朝食を作る／買う／朝食を食べる（夫と子どもと一緒に）
	子どもを入浴させる／子どもを学校へ送り出す（大きい子は自分で、小さい子は夫や大きな子どもが連れて行く。7 時までに送り出す）
7:00-8:00	朝食で使ったお皿を洗う
9:00-12:00	自分のビジネスを開始（家で小規模商業、WDC へ行く、家で洋裁）
12:00-13:30	昼食を作る／買う／子どもと一緒に昼食を食べる（学校から 13 時半頃に戻る）
14:00	子どもを入浴させる。自分も入浴する
	子どもをコーラン学校へ送る
16:00	昼食で使ったお皿を洗う・家の掃除
17:00-17:30	夕食の準備を始める。夕食はスープを作るので、仕込みに時間がかかる。
18:30-19:00	お祈り
	夫が仕事から戻ってくる
20:00	夕食を食べる（夫と子どもと一緒に／夫は別に友人と食べる）
21:00-22:00	休憩（テレビを見る、くつろぐ）
22:00-	お祈り／子どもの宿題を見る
	自分がコーラン学校へ／夫と 1 日の出来事を話し合う事もある
	就寝

（P 地区 WDC において、既婚の生徒・卒業生 20 人による FGD（FGD#1　2010 年 9 月）より筆者作成）

2) は既婚女性が隔離を実践するため外出に制限があり、自身で材料の購入や製品の売買を市場でしたり、市場に出回る新しい製品に接し価格を知ったり、自分の製品を宣伝したりする機会も限られるという理由による。洋裁では新しいデザインを夫に調べてもらったり、新聞にファッション記事が載る際に夫からもらったり（KI5）、夫の仲介が必要となる。経済活動を宣伝する場となる結婚式・命名式への出席や、近所を訪問する事も夫の許可を必要とするが、多くの夫は頻繁な外出を許可しない。

3) は経済活動を開始するためには、機材や材料を買うまとまった資金が必要となるが、女性は資金へのアクセスが限られているという理由による。女性が資金を得る方法には *Adashi* と呼ばれる伝統的な講と夫からの支援の 2 がある。*Adashi* は 10 人から 20 人くらいのメンバーで各人が定期的に定額を持ち寄り毎回 1 人のメンバーが全額を受け取る。これを順番に実施する事で、まとまった資金を得る方法で、1 カ月あたり N1,000 程度を集める講が多い。毎週・毎月と定期的に現金を必要とするため収入がないと *Adashi* への参加は難しく、経済活動無しの女性 17 人は 1 人を除き誰も講へ参加していない。夫からの経済的支援が得られるかは夫次第であり、経済活動有の女性 17 人中 13 人は夫から資金を得ているが、経済活動無の女性 17 人中 14 人は経済活動を開始出来ない理由に「開始資金がない」を挙げ、うち 6 人は明確に「夫が支援してくれない」と回答している。

既婚女性が経済活動を開始･継続･拡大するための資金の獲得は、夫の支援か *Adashi* を利用する事になる。しかし夫の収入額や *Adashi* の参加人数･金額から、どちらの方法も高額の資金にはならない。従って、女性が経済活動を大幅に拡大する可能性は少ない。

5-2　女性の収入用途

本節では女性が何故収入を得ようとするのか、その理由を示し、女性は得た収入を何に使用しているのか、それは何故なのか検討する。

5-2-1　女性が収入を得たい理由

女性が収入を得たい理由は「家族、夫を助けたい」「夫を煩わせたくない」「子どもの教育のため」「自分で必要な時にお金を確保したい」というものである。夫は生活費を妻にまとめて渡す事はなく、食材や日用品を現物で購入して渡す、又は小額を毎日妻に渡し子どもが買い物に行く。交通費や医療費等は、妻が夫にお金が必要である事を話し夫がお金を渡す。前述のように、お金が必要な度に夫に頼む事を「いつも夫を煩わせる」と捉える妻が多く、夫に頼む事なく自分の収入で解決したいという。「経済活動無の妻はいつも夫にお金を要求し、夫は疲れてしまい穏やかに暮らせない（KI2）」「いつも妻が夫にニーズを要求する事が離婚の原因になる（KI5）」と、妻が頻繁に夫にお金が必要と伝える事が夫との関係悪化に繋がる可能性が指摘されている。夫自身も「妻が世帯に経済貢献すれば夫の負担が減り、婚姻関係を良く保てる（夫 26）」、「夫妻間により理解をもたらす。全ての責任を夫 1 人で負えない（夫 18）」と、妻の経済貢献が夫婦間の関係を良くすると捉えている。

5-2-2　女性の収入用途

女性の収入の用途は 1) 世帯ニーズの肩代わり（12 人）、2) 人間関係の維持（7 人）、3) 子どものニーズを含む女性自身のニーズ充足（8 人）、4) 経済活動の維持（7 人）（以上、経済活動有の 17 人から複数回答）、調査対象者 34 人のうち 16 人は収入の一部を貯蓄にしており、女性の収入用途はこれら 5 つが主と考えられる。

1) は毎日必要な野菜や調味料、子どものお菓子や文具代、日用品等夫が支出すべき世帯ニーズの一部を自分の収入から支出するものである。N100 以下の小額であっても夫が月末に給料を受け取る前にお金が足りない場合や夫が不在である場合に、夫に代わって世帯ニーズに支出し、後に返金を受け取る。食材・日用品や子どものニーズが充足されないと女性は料理・洗濯・掃除・育児といったジェンダー役割を遂行出来なくなるため、これらの費用の確保は女性にとって重要で、夫の支出義務だが自分の収入で肩代わりしている。

2)は両親・親戚や近所・友人との人間関係の維持に関わる用途で、両親・親戚への支援やセレモニー等でのギフト交換の費用である。経済活動の有無に関わらず女性は自分の両親・親戚、夫の両親・親戚を金銭・物品で支援する。頻度や金額は女性がどれくらいお金を持っているか、親戚との関係性によって異なる。「夫は私の両親・親戚に、断食月の際に食料、お祭りの際に服を上げます。私は夫の両親・親戚を訪問する時に石鹸や洗剤をギフ

トに持っていきます（妻 21）」 と、夫と妻は相互に両親･親戚を支援している。しかし「夫は私の両親・親戚にギフトを上げます。私はお金がないので夫の親戚を支援出来ません。（妻 28）」と、妻に収入がないと妻は相手を支援出来ない。「自分が親戚の中で最も貧しいので、私の親戚が私を助ける。しかし自分に少しでもお金がある時は、たとえ小さなギフトでも送る（妻 13）」と、小額でも支出し、相互関係を維持している。ギフトは金銭や、石鹸、日用品、生地等物品である。「私は自分で収入を得たいです。親戚・友人・近所の人にギフトが必要で、そのお金が必要です（妻 24）」と、ギフト交換の費用は夫に支出する義務はなく、女性が収入を必要とする理由となる。「命名式が週に 2 回、結婚式は月に 1 回くらい出席しています。命名式では赤ちゃんへの贈り物に編み物のセット（N600 で販売）をあげます。結婚式の時はお金を N1,000 くらいあげます（妻 6）」と、頻繁にセレモニーに出席し、何らかのギフトを贈答し合う事が期待される。

3) は女性自身のニーズである服や化粧品への支出や貯蓄への支出である。経済活動有の女性は収入が出来た利点を「自分の欲しいものが買える。自分の服や化粧品が買える」と述べ、経済活動無しの女性は収入を得たい理由に「自分の欲しいもの、服や化粧品を買いたい」を挙げている。又自分の子どもの服や靴等も女性にとっては自身のニーズと捉えていた。

4) は経済活動の維持に必要な支出である。洋裁は客が生地を持ち込むので、糸や針、裏地やミシン油、飲物売りの場合原料の飲物や袋詰めにする袋、小規模商業の場合は仕入れる商品の代金が必要となる。

5) は貯蓄である。子どもが病気の際に夫にお金がない場合、夫の収入が減った場合、夫と死別する場合、両親や親戚に問題が生じた場合に備える等が貯蓄をする理由に挙げられた。又娘の結婚式に備える必要もあるが、日々の世帯ニーズや学費、親戚への支援が優先される。教育がダウリ（結婚持参金）の代替とみなされ、多くの親は娘を中高等学校までは卒業させようとし、学費を確保する方が優先される。経済活動をする女性の多くは近所や友人との講に参加している。この参加費用が毎週、毎月と定期的に必要となる。

以上の 5 つが女性の収入用途である。女性は自分の収入で世帯ニーズの全てを担う意図はなく、夫が支出出来ない部分に貢献したり一時立て替えをしたりする事が分かる。又収入の全てを世帯ニーズの補完に費やすわけではなく、人間関係の維持や自己ニーズにも支出している。

5-3　夫と妻の収入額と世帯ニーズ支出額

本節では対象地における食料・日用品の価格と、1 世帯がどの程度の食料を 1 カ月に購入しているか述べ、世帯ニーズ供給の義務がある夫は 1 カ月にどの程度の収入があり、1 カ月に世帯ニーズにどの程度支出しているか検討する。又妻の収入も示し、夫の収入額の高低と妻の経済活動への参加に関係があるか検討する。

5-3-1　食料・日用品の価格と 1 世帯の購入量

食料や日用品は世帯ニーズの大きな部分を占め、夫が供給する事を期待されている。

表 5-3 は、主食となるメイズ、米、ミレットや、豆類、イモ類、調味料、文具等、調査対象者が日常に購入している物品のカノ州における価格である。又表 5-4 は 1 世帯が 1 カ月当たり、どの程度の食料品を購入しているのか、具体的な回答があった中から家族構成及び夫の世帯ニーズ支出額が類似している 3 例を示す。妻が 20 代後半から 30 代前半で子どもが 4 人~6 人の 3 世帯を例に示しているが、いずれも夫が 1 カ月に支出する世帯ニーズはN20,000 である。これは食費以外の交通費や教育費[28]を含めてあり、1 カ月の食費は妻の発言と市場での価格からN12,000 からN13,000 程度であると推測される。

表 5-3　カノ州での食料品・日用品の価格[29]

食料品・日用品	価格		食料品・日用品	価格
米	N7500-N9000/50kg		唐辛子	N400/1 バスケット
ヤム芋	N200-N1000/1 個		調味料（マギー）	N250/1 パック
豆	N300/1 ボール		砂糖	N600/1 ボール
ミレット	N100/1 ボール		塩	N10/ 1 週間分
ソルガム	N100/1 ボール		お菓子	N5-N20/1 個
メイズ	N100/1 ボール		石鹸	N25-N40/1 個
サツマイモ	N200/1 バスケット		洗剤	N15-N20/1 袋
鶏肉	N400-N500/1 羽		ノート	N20/1 個
牛肉	N700/1kg		鉛筆	N5/1 本
ヤギ肉	N5000/1 頭		服の生地	N700-N2000/1 着分
グランドナッツ油	N250/1 ボトル		靴（サンダル）	N300
卵	N600/24 個		化粧品	N100-N250/1 個

（2010 年 10 月 KI1,2 から聞き取り、筆者が市場で価格を確認した。筆者作成）

---

[28] 教育費はカノ州の公立小学校は男女共に学費は無料、中高等学校は女子が無料、男子は 1 期（3 カ月）で N600 の学費である（KI1,2）。しかし P 地区には複数の学校があり、多くの親はより質の高い学校を求めて私立の学校に通わせるため学費がかかる（KI4-9）。又書籍、文房具、毎日の休み時間に食べるお菓子の費用、更に PTAs（Parent and Teachers Association）が各学校にあり、1 人の子どもにつき 1 期 N600 が必要。

[29] 食材の単位は調査地の市場で使用されているもの。ボールは市場で穀物等を買う際に使用されている容器で 500ml 程度の容量。バスケットは野菜類を買う際に使用されるカゴで、直径 30cm、高さ 30cm 程度の容量。油類は 1 ボトルが 1L 程度の容量。マギーは固形調味料の商品名で対象地では広く使用されている。

表 5-4　世帯が 1 か月分購入する食材

事例	家族構成	世帯ニーズ額[30]（上） 夫の収入額　（下）	1 か月分購入する食材の内訳[31]
夫妻 4	妻 26 歳、夫 35 歳、子ども 4 人（娘 1 人：2 歳、息子 3 人：就学年齢 2 人、乳児 1 人）	N20,000 N25,000	米が 1 バッグ 50 キロ（2 か月分）で N7,500、ヤム芋・メイズ・スパゲティが N7,000 分、油・マギー・唐辛子が N3,000 分は必要
夫妻 26	妻 30 歳、夫 50 歳、子ども 6 人（娘 1 人：7 歳、息子 5 人：乳幼児 2 人、3 人は就学）	N20,000 N 6,000	米は 1 バッグ、スパゲティ 1 カートン、グランドナッツ油 1 ガロン、パーム油 1 ガロン、マギー1 パック、砂糖 4 ボール
夫妻 33	妻 35 歳、夫 40 歳、子ども 5 人（娘 3 人：19 歳、8 歳、10 か月、息子 2 人：15 歳、4 歳）	N20,000 N10,000	米は半バッグ、スパゲティ 5 個、豆 2 ボール、マギー1 パック、グランドナッツ油 3 ボトル、メイズ 10 ボール、ミレット 2 ボール、砂糖 1 ボール

（調査対象者の妻の回答に基づき、筆者作成）

5-3-2　収入額と世帯ニーズ額の傾向

男性の収入は職業により幅があり、カノ州の公務員の場合、勤務 2,3 年目の職員で中高等学校卒業の場合 1 カ月にN8,000、大学卒業の場合は 1 カ月にN20,000、民間会社では 12 時間勤務の工場労働者で 1 カ月にN17,000 程度である（KI1）。勤務時間外に自営や他の契約労働に従事する男性が多い（FGD#3）ナイジェリア政府が定める最低賃金は月額N7,500 である[32]。

女性の現金獲得方法は、1) 贈与、2) 自分の経済活動による収入、という 2 つが考えられる。1)の贈与は自分の結婚式や命名式で親戚や友人・近所から贈られるお祝いや、訪問の際に親や親戚が与える小遣いがあり、女性達はこれらのお金を貯めている。女性自身も同様の機会に親戚や知人・近所にお金や物を贈る事が期待される。2)の自分の経済活動は、女性が個人で小規模商業や洋裁・編み物、調理食品の販売等を自営で行うものである。

図 5-1 は 1 カ月の夫の世帯ニーズ支出額[33]と妻の収入を示す。経済活動有の妻 17 人中 12 人は 1 カ月の収入がN10,000 以下であり、夫の世帯ニーズ支出額（回答 26 人）の多くがN10,000 からN20,000 の間である事から、妻の収入のみで世帯ニーズを満たす事は難しい事が分かる。

---

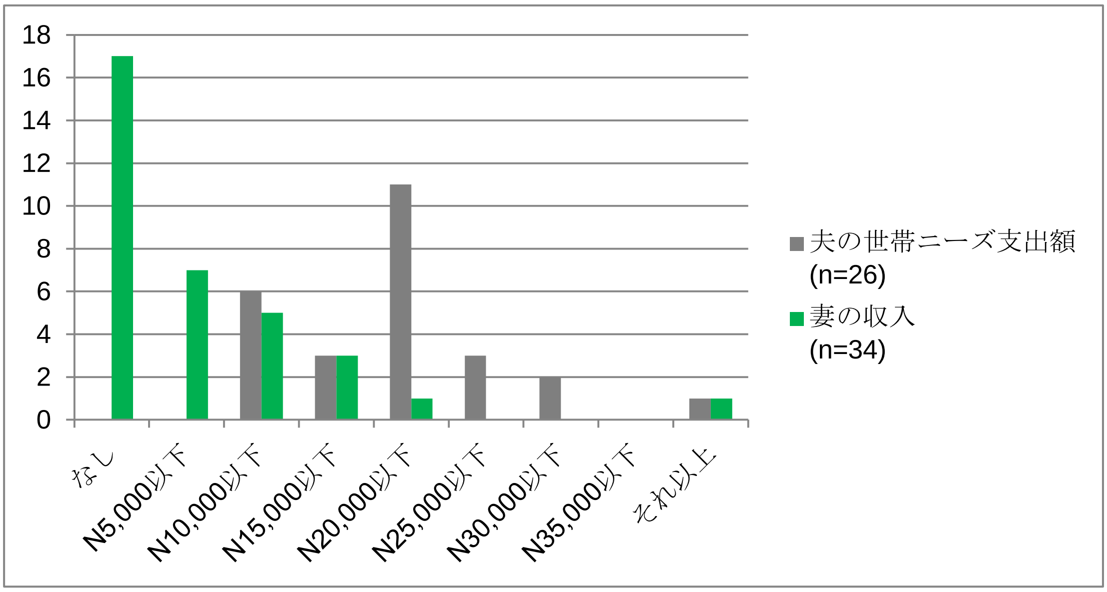
[30] 食材の費用だけでなく、日用品、教育費、医療費、交通費も含む。

[31] 食材の単位は調査対象者の妻の回答のまま掲載。

[32] 2011 年 2 月に最低賃金を倍増し、月額 N18,000 と定める法案が国会を通過したが、2011 年 6 月現在実施されていない。

[33] 世帯ニーズは食料、日用品、衣料、医療、子どもの教育費、交通費等と調査対象地域では理解されている。妻が一時立替える場合もあるが夫は返金しているので、夫の世帯ニーズ額は、これらの必要な世帯ニーズ全てに支出する金額である。

図 5-1　1 カ月の夫の世帯ニーズ支出額と妻の収入 [34]



（筆者作成　P 地区で 34 世帯の夫妻への質問票から回答票のみ集計。2011 年 1 月、6 月実施）

5-3-3　夫の収入額・世帯ニーズ支出額と妻の経済活動参加

下記の表 5-5 は夫の収入･世帯ニーズ支出額に共に回答があった 18 世帯を、夫の収入が高い順に並べたものである。夫の収入額が N30,000 から N35,000 であれば世帯ニーズ額は N20,000 から N25,000 である例が多く、夫の収入が N20,000 以下であれば世帯ニーズ額は N10,000 から N15,000 の例が多い。又夫の収入を上回る世帯ニーズ額を回答する例もあり、夫が親戚･友人から支援をもらう（夫 23）という対処をしている。夫の収入が多い場合に妻が経済活動をしている例（妻 2）もあれば、していない例（妻 27）もある。夫の世帯ニーズ支出額や世帯構成が似ていて妻が経済活動をしている例（妻 8）もあれば、していない例（妻 19）もある。つまり夫の収入額や世帯ニーズ支出額が妻の経済活動への参加を動機づけているとは言えない。実際に多くの妻は夫の収入額や世帯ニーズへの支出額を把握していない。「夫の収入は知りませんが夫が持ってくるもので十分です（妻 16,23 他）」と、妻は毎月夫から渡される食料や日用品の現物で毎月やりくりし、「足りなくなったら夫に伝えます（妻 5,15 他）」。しかし多くの妻が、食料が足りなくなったり、医療費や交通費が必要になったりという問題を伝える事を「夫を煩わせる」と捉えている。

---

[34] 女性達は収入を把握していない。商品の単価や材料費、販売数から推計して 1 カ月の収入とした。

表 5-5　夫の収入・世帯ニーズ支出額と妻の収入

ID	夫の収入（ナイラ）	夫の世帯ニーズ額（ナイラ）	妻の収入（ナイラ）	世帯構成（妻から見て）
夫妻 20	47,000	18,000	3,000	夫、子ども 2 人、
夫妻 27	40,000	16,000	収入なし	夫、子ども 1 人
夫妻 2	35,000	25,000	3,000	夫、子ども 3 人
夫妻 17	35,000	20,000	推定　50,000	夫、子ども 10 人、義兄、他妻
夫妻 32	35,000	25,000	1,000	夫、他妻 2 人、子ども 22 人
夫妻 5	30,000	20,000	3,000	夫、子ども 6 人
夫妻 7	30,000	25,000	18,000	夫、子ども 6 人、義父、義兄
夫妻 10	30,000	15,000	5,000	夫、子ども 7 人
夫妻 23	30,000	45,000	収入なし	夫、子ども 11 人
夫妻 4	25,000	20,000	3,200	夫、子ども 4 人
夫妻 29	20,000	15,000	収入なし	夫、子ども 3 人、義母
夫妻 8	15,000	10,000	6,300	夫、子ども 4 人
夫妻 12	15,000	10,000	9,000	夫、子ども 8 人
夫妻 19	12,000	10,000	収入なし	夫、子ども 5 人
夫妻 22	12,000	10,000	1,500	夫、他妻 1 人、子ども 10 人
夫妻 30	10,000	7,000	収入なし	夫、子ども 1 人、義母
夫妻 33	10,000	20,000	収入なし	夫、子供 5 人
夫妻 15	8,000	15,000	6,000	夫、子供 1 人
夫妻 26	6,000	20,000	収入なし	夫、子ども 6 人

（筆者作成　P 地区で 34 世帯の夫妻への質問票から回答票のみ集計。2011 年 1 月、6 月実施）

5-4　世帯内役割をめぐる認識

これまで女性が収入を自分で得ようとする理由、女性の経済活動の状況や収入用途をジェンダー役割の視点から検討してきた。女性の収入は小規模ながら夫の責任である世帯ニーズの不足を補い、両親・親戚・近所の人間関係の維持に貢献している事が明らかになった。本節では「夫が稼ぎ手」というジェンダー役割が浸透する中で、女性の経済活動従事について、世帯ニーズの担い手について等、世帯内役割をめぐる認識を示す。

5-4-1　世帯ニーズ供給役割の担い手

女性が経済活動に携わる事は夫も妻も全員が肯定的に捉えている。「妻が経済活動をすれば夫の負担が減り、妻は夫や両親を助けられる。経済活動をしていなければ何か欲しくても夫に頼むしかない。夫にお金がなければ親戚に何かあっても助けられない（夫 28）」「経済活動をしていない女性は夫から尊敬されないし、アドバイスをしても『お前は何もしていないのだから何も言うな』と受け入れてもらえない。経済活動をしていればお金を家族に上げているので、夫に尊敬されアドバイスも受け入れられる（妻 19）」。世帯外から収入

を得る事が世帯内の関係に影響する事が伺える。

これまで見てきたように「世帯ニーズ」を供給するのは夫の役割である。男性は女性よりも「世帯ニーズは夫の責任」と認識しているが、経済活動有の妻の半数は「夫の責任」ではなく「妻も貢献すべき」と回答している。一方で経済活動無の妻は「夫の責任」であるが「妻に収入があるならば貢献すべき」という意見が多い。

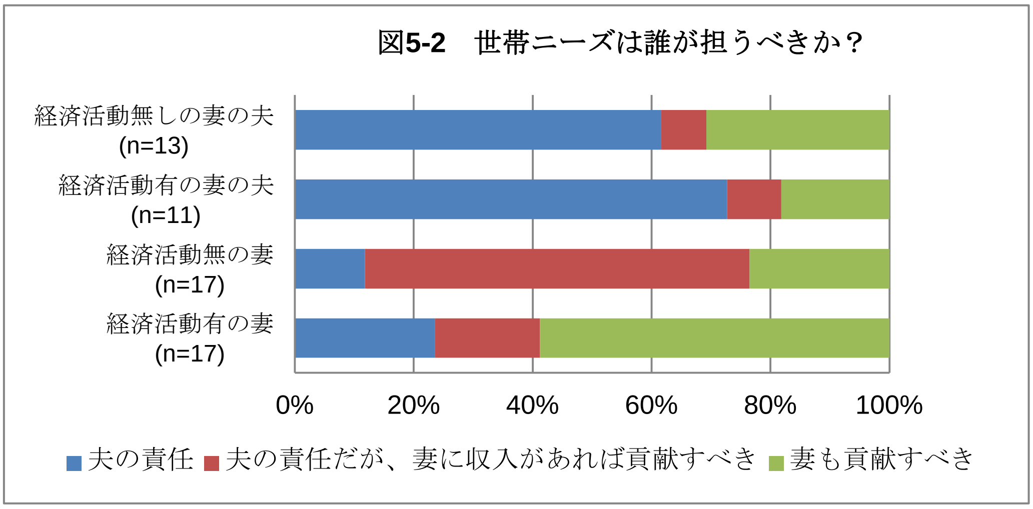


図5-2　世帯ニーズは誰が担うべきか？

（筆者作成　P 地区で 34 世帯の夫妻への質問票から回答票のみ集計。2011 年 1 月実施）

男性は「世帯ニーズは夫の責任」と認識しつつも、妻の経済的貢献を歓迎している。「私は妻に経済活動をして世帯に貢献して欲しい。N500 くらい貢献してくれればいい。女性が世帯に貢献するのは良い事で、そうすれば夫が負担から開放される。婚姻関係を良く保ち、平和に暮らすために女性が助けた方がいい（夫 26）」「女性も世帯に貢献すべき。特に夫にお金がない時に夫が誰か他の人からお金を借りる代わりに、妻からお金を借りる事が出来る（夫 2）」という理由が挙げられた。

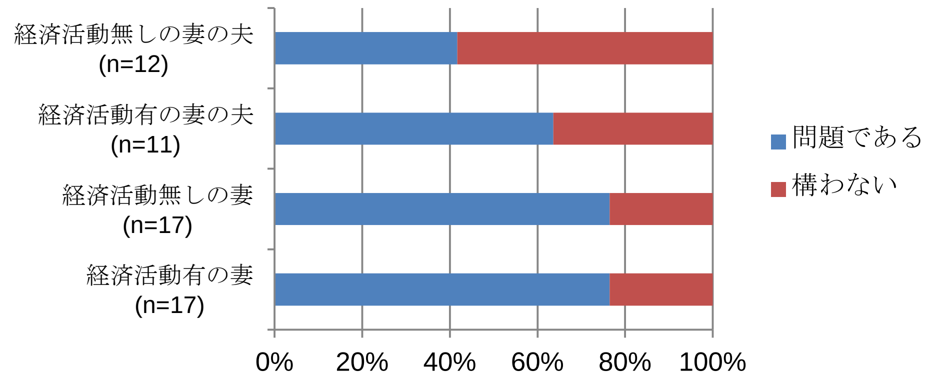
5-4-2　妻の経済力が夫を上回る事への反応

妻の収入が夫の収入を上回る事は妻の 70%以上、経済活動有の妻の夫の 64%が問題であると捉え、一方、経済活動無の妻の夫は 58%が問題ないと回答している。妻は「夫の方が多く稼ぐべきです。衣食住や医療や必要な事を担うのは夫の責任です（妻 1）」と、世帯ニーズは夫の役割であるという理由や、「もし妻が多く稼いでいたら、妻が家をコントロールする事になるので、夫が多く稼いだ方が良い（妻 3）」と、経済力を持つ事が世帯内での権限に繋がる事を示唆する意見、「もし妻が多く稼ぐなら夫を助けてお金を世帯ニーズに使うべきです。そうであれば平和でいられます（妻 17）」と、妻の収入の用途次第であるという意見が挙げられた。

夫は「問題ないが、妻は収入を世帯に使うべき（夫 22）」「妻にお金があれば子どものニ

ーズが満たされる（夫 26)」と妻の収入が多い事を歓迎する意見は経済活動無の妻の夫に多い。一方「もし妻が良い妻なら、夫より多くは稼がないだろう（夫 3)」と、夫より多く稼ぐ事自体を問題視する意見、「妻が夫を敬わなくなる事があれば問題だ（夫 25)」と、妻が経済力を持つ事で世帯内の力関係が逆転する事を問題視する意見、「イスラームでは妻は夫よりも稼ぐべきではない。夫が家をコントロールすべき。妻が教育を受けていれば、たとえお金を多く得ても夫に従わなければいけないと理解しているので問題ない（夫 28)」と、宗教による規範や教育レベルを問題にしつつも、女性の経済力向上が世帯内の力関係に関わる事への恐れが伺える。

図 5-3　妻の収入が夫の収入を上回る事をどう思う



（筆者作成　P 地区で 34 世帯の夫妻への質問票から回答票のみ集計。2011 年 1 月実施）

5-4-3　良き妻・良き夫

ジェンダー役割は「良き妻･良き夫」と見なされる夫･妻の特徴にも反映されている。「良い妻とは夫を敬い子どもの世話をする事。何か経済活動をして夫を助けている人。悪い妻とは何もせずに誰かの助けを待っている人（妻 8 等)」等、夫･妻共に「良き妻」の特徴として「夫を敬う・従う」が挙げられた。妻は「夫を経済的に助ける」も良き妻の特徴に挙げているが、夫は重視していない。

一方「良き夫」の特徴は「良い夫とは家族の必要を与える人。悪い夫は家族が何を必要としているか分かっていなく、何を食べているか、ちゃんと着ているか考えていない男性（妻 10)」「良い夫は全ての責任を取り衣食住･医療費なんでも妻が必要なものを揃える人。悪い夫は家族の必要なものを与えず、朝起きてどこかへ行ってしまう。お金を置いていかずに自分は外食する人（妻 33)」「良い夫とは家族にニーズを与え、悪い夫は家族の世話をしない（夫 34)」等、「家族の必要を与える」に、ほぼ全員の回答が集中した。

「良い夫婦・悪い夫婦」の特徴としては、「良い夫婦とは幸せに生活しお互いに何でもする事。問題があったら 2 人で話し合って解決する事。悪い夫婦はいつもケンカしていて、

人を呼んできてケンカを収める（妻 16）」「良い夫婦とはお互いを理解し平和に暮らしている。悪い夫婦はお互いを理解せず、いつもケンカしている（妻 33）」「良い夫婦はお互いに尊敬し、親戚や宗教を敬う（夫 25）」「良い夫婦とはお互いに助け合い世話をする事（夫 18）」等、「お互いの理解」「助け合う・話し合う」というように相互のコミュニケーションがある状態を「良い夫婦」とみなしている。この「良い夫婦」の特徴からは相互の関係性が非対称な力関係にある事を示唆しないが、「良い妻」は夫に従い、「良い夫」は家族のニーズを与える、と明確に異なる役割があると認識されている事が分かる。

5-5 世帯ニーズ充足と女性が望む状況

本節では、世帯ニーズがどのように充足されるのか、妻の世帯ニーズ肩代わりと夫の妻への返金の状況、妻は肩代わりする事によって何を得ているのか検討する。

妻は世帯ニーズが不足すると自分のジェンダー役割である料理、掃除、洗濯、育児を遂行出来ないので、自分の収入で一時立て替えをする。この費用は夫に供給する義務があると夫も妻も認識し、妻は「夫を助けている」と捉え、夫は「妻にお金を借りる」「妻に助けてもらう」と捉えている。

5-5-1 妻の世帯ニーズ肩代わりと夫の返金

調査対象者の夫 34 人中 22 人が雇用労働者である。給料は月末に支払われるが、月末になると夫は手持ちの現金が不足する。その際の対処法として妻にお金を借りる。「お金がない時は妻に借り、後で返金します。子どものニーズを妻が出して返金を求めない事があります(夫 10)」「月末に夫にお金がなくなると N700 から N1,000 程貸します。このお金で野菜や必要なものを買います。夫は後に返金しますが、私が『返金はいらない』と言う事もあります（妻 2）」。

夫が不在の時も妻のお金で対処する。「夫の不在時に世帯のニーズを私が出します。夫は後で返金します。夫に無償でお金を渡す事はないが、家族に必要なものを自分で買い夫に返金を求めない事はあります（妻 16）」。経済活動無の女性も、「両親からもらったお金をとってあり、夫にお金がない時に貸します。夫は返金します（妻 26）」と、女性は夫にお金が不足する時、夫が不在の時に備えている。

事例 1：妻 8/夫 8

妻 8 の夫は 50 代前半の公務員で 1 カ月の収入が N15,000、世帯ニーズに N10,000 を支出する。妻は 40 代前半で洋裁とハイビスカスジュースを作って売り、1 カ月に N6,300 ほどを得ている。子どもは 4 人で教育にお金がかかる。「夫にお金がない時期に子どもの病気、食料不足でお金が足りなくなると私が出します。夫はお金が入ったら返金します。1 カ月に 1 回、N500 程度です。一緒に食べているので返金を要求しない事もあります（妻 8）」。夫は「妻は食材を買う事で私を助けている。私に何か問題があればお金を借ります。もち

ろん返金しますが、妻はギフトでお金をくれる事もあります（夫8)」。

事例2：妻10/夫10

妻10の夫は50代後半で､1カ月の収入はN30,000､世帯ニーズにN15,000を支出する。妻は40代後半で調理食品の販売で1カ月にN5,000ほど収入がある｡子どもは7人で教育費がかかる｡「夫がN1,000貸して欲しいと私に頼みます。月に2回くらいです。夫はこのお金で食料を買い、後で返金します。夫が不在で調味料や野菜が足りなくなれば自分で買って夫に伝えます（妻10)」夫は「私にお金がない時は妻に借り、返金する。子どものニーズや学費を妻が出して妻が返金を求めない事もある｡妻は世帯のために1カ月にN2,000くらい使っている（夫10)」と妻の貢献を認識している。

これらの事例から、夫が世帯ニーズを充足出来ない際には、妻にお金を借りて世帯ニーズの不足を補い、後に返金する行動が常態化している事が分かる。夫が借りる金額は世帯ニーズ支出額の10分の1以下と小額であるが、夫は妻がお金を貸してくれたり返金を求めなかったりという行動を、「夫を助ける事」と認識している事が分かる。月に1回か2回、N1,000程度（妻4)、月に1回N2,000（妻10,13)、を夫に貸し、夫にお金が入れば返金される。経済活動有の妻は17人中16人が毎月夫にお金を貸している。一方、経済活動無しの妻は17人中9人が毎月夫にお金を貸しており、自分で収入を得ていないと自由に使える現金は少なく「夫を助ける」事が経済活動有の妻よりも容易ではない。

夫の中には返金しない人もいるが､世帯ニーズを十分供給出来ない男性として「無責任」「良くない」「宗教に反する」男性とみなされコミュニティで尊敬されない（KP4-8)。夫が世帯ニーズを十分に供給出来ない、返金をしない状況が続けば夫婦間での争いの原因となり、妻の親戚側から問題視される。夫は返金をまぬがれようとする事が重なればコミュニティからの評判が悪くなる。

5-5-2 世帯ニーズの充足

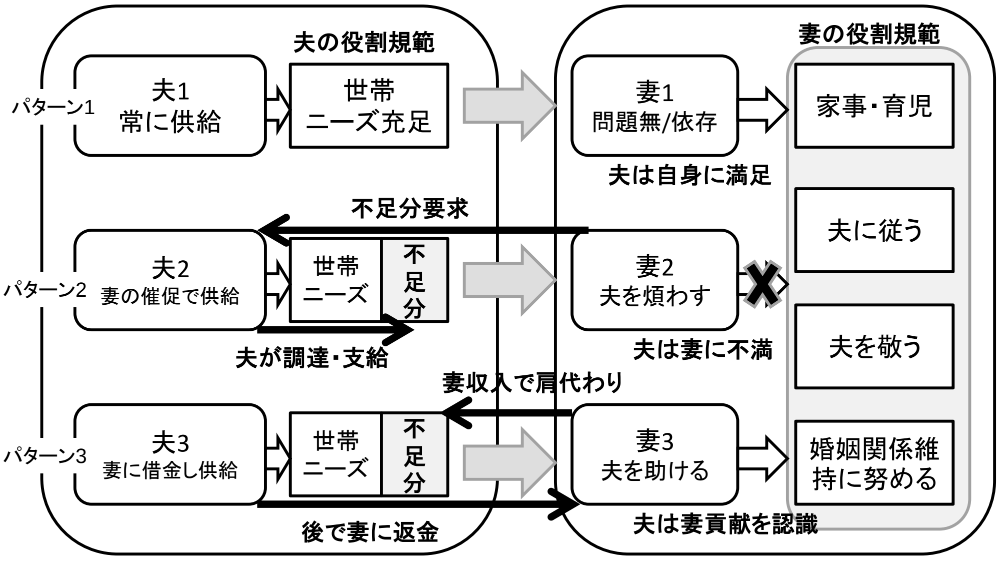
世帯ニーズの主要なものである食料に関しては､前述のように多くの世帯では毎月1回、夫が給料を得た直後にその月の食料として主食である雑穀・米・豆類を夫がまとめて購入して現物を妻に渡す。自営業の場合はまとまったお金ができた際に毎月1回又は2回、必要な物資を夫が購入してくる。保存出来ない野菜や調味料は必要ごとに夫が購入してくるか、必要ごとに少額を妻に渡し子どもが買いに行く。子どもが必要な文具やお菓子代も必要ごとに夫が少額を妻に渡す。その他、石鹸洗剤等日用品や交通費、医療費も必要ごとに妻が夫に申告し夫が少額を妻に渡す。しかし夫の手持ちの現金が不足すると妻は自分で立て替えて世帯ニーズを充足させる。

女性にとって望ましい生活は「夫と平和に暮らしケンカや誤解がなく、何でも夫が十分に与えてくれる事（妻20)」「夫が十分にお金を得て家族に必要なものを買える事（妻6)」と､夫の収入により世帯ニーズが充足される状況である｡女性が一時立て替えをする事で、

この世帯ニーズ充足の目的は達成され、夫が返金義務を履行するなら女性にとっては「助けた」事は残り、更にお金は返ってくる。夫が返金しなくとも夫を助ける「妻の美徳」は得られ、世帯ニーズも充足される。つまり夫が返金してもしなくても世帯ニーズ充足という目的は達成され「夫を助ける妻」として認識される。妻にお金を借りて後で返金する事が常態化すると夫の妻への依存度は増していく。

以上の事から世帯ニーズ充足をめぐる夫妻の行動を分類したものが図5-4である。パターン1は夫が常に世帯ニーズを供給し、妻は夫に依存するものの妻の役割規範遂行には支障がない。パターン2と3は、夫の世帯ニーズ供給に不足があるため妻は家事・育児の遂行に支障が出る。そこでパターン2では妻が不足分を夫に要求し、夫は自分の手持ち現金か知人からの借金で補うが、このように不足分を告げる事を、妻は「夫を煩わす」と考える。パターン3では妻が自分の収入で不足分の世帯ニーズを肩代わりした後で夫に伝え、夫は給料の支給後等手元に現金が入った後に妻に返金する。従って夫は世帯ニーズが不足している時点で現金を調達する必要はなく、夫が世帯ニーズ供給義務を果たせない事実に向き合わずに済む。又妻は夫の役割遂行を「助けて」いる事になる。一方、パターン2の妻は妻の役割である「家事・育児」「夫に従う」は果たしているが、夫が「世帯ニーズを供給する」役割を果たせていない事実を明確にしてしまい、「夫を敬う」を実践出来ず、不足分要求が繰り返されると夫妻間の関係が悪化し「婚姻関係維持に努める」も遂行出来なくなる可能性がある。

図5-4　世帯ニーズ充足の3パターン


夫の役割規範
妻の役割規範
パターン1
夫1
常に供給
世帯
ニーズ充足
妻1
問題無/依存
家事・育児
夫は自身に満足
不足分要求
夫に従う
パターン2
夫2
妻の催促で供給
世帯
ニーズ
不
足
分
妻2
夫を煩わす
夫が調達・支給
夫は妻に不満
夫を敬う
妻収入で肩代わり
パターン3
夫3
妻に借金し供給
世帯
ニーズ
不
足
分
妻3
夫を助ける
婚姻関係維
持に努める
後で妻に返金
夫は妻貢献を認識

（筆者作成）

5-5-3　女性が望む状況

「良き妻」の特徴は「夫を敬う・従う」事であった。既婚女性はセレモニー出席や親戚宅への訪問、経済活動への参加等何をするにも夫の許可を必要とする。夫が許可しないために行動を制限された経験を多くの女性が持つ。経済的に世帯に貢献する女性は、夫に尊敬され妻のアドバイスを夫が受け入れやすい事、世帯ニーズ充足をめぐり夫と言い争う事が少なく平和に暮らせる事も認識している。妻が世帯ニーズを肩代わりする事が積み重なる事で、夫の妻への経済的依存は増し、妻が外出や何らかの行動の許可を求める際に拒否しづらくなる。

調査対象34人の女性が望む状況は「家族と平和に暮らす事（14人）」「世帯ニーズが満たされる事（13人）」であり、それを可能にする「自分の収入を得る事（25人）」であった（複数回答）。女性が自分で収入を得ようとする理由として次の2つが考えられる。1つは夫の義務である世帯ニーズ充足を助ける事で世帯ニーズ充足を確実にする事、2つ目は「夫を助ける良き妻」と認識される事で夫と良い関係を保ち女性自身の行動に反対されないようにするためである。

5-6　本章のまとめ

本章は、副課題 1「女性が収入を獲得する事によって、世帯内の資源分配をめぐる意思決定への女性の関わり方は異なるか」を明らかにするため、女性の経済力に関わる事項を検討してきた。本章では、女性の経済活動に着目し、世帯ニーズの供給責任は夫にあるにもかかわらず、既婚女性が何故自分で収入を得ようとするのか、女性の収入の用途や経済活動の状況をジェンダー役割の視点から検討し、世帯ニーズの充足において女性自身の収入にどのような意味があるのか分析した。

その結果、女性は自分の収入で世帯ニーズ充足を目指してはおらず、夫が夫の義務である世帯ニーズの充足を達成出来るよう「助ける」事で、夫の収入が世帯ニーズに確実に支出される事を目指している事が明らかになった。収入を得ている女性の多くが、その収入は1カ月にN10,000以下であり、夫が世帯ニーズに支出している額（N15,000からN20,000）には及ばない（図 5-1）。この理由として、1)女性は多くの収入を得られる状況ではなく、2) 多く得る必要もなく、3) 多く得る事を良しとしない認識がある事が、女性が自分の収入のみで世帯ニーズの充足を目指さない背景にある。

まず、女性に相応しいとされる経済活動は既婚女性への隔離の実践とジェンダー役割規範に影響される。家の中で従事出来、材料の購入や商品の販売は主に子どもを仲介して行われ、自分自身で市場の流行や値段を見て製品を考えたり、顧客を拡大したりする機会は限定される。又、家事･育児は女性の責任とみなされ、自分の経済活動より優先している。更に経済活動を開始･維持･拡大するために必要な規模の資金を女性が公的機関から借りる機会は限られ、近所の女性達との講を利用するか夫の支援に頼るしかない。このように隔離の慣習やジェンダー役割規範がある状況では女性の経済活動の大幅な拡大は難しい。

次に、女性の収入の用途から女性が多額の収入を必要としていない事も伺える。「世帯ニーズの肩代わり」は、日々必要となる食材や子どものお菓子を夫の代わりに支出し後に返金を受けたり、夫が世帯ニーズを買うためのお金を貸したりという用途であるが、いずれも1カ月にN1,000からN2,000程度であった。「人間関係の維持」は、両親･親戚への支援や、セレモニーでのギフト交換の用途だが、額の大きさでなく小額でも支援する・ギフトを上げるという行動自体が､円滑な人間関係の維持に必要と人々の間で認識されている。

最後に、ジェンダー役割認識からも女性が多額の収入を得ようとしない事が明らかになった。世帯ニーズを満たす事は夫の責任と男性も女性も認識し、妻が夫より多く稼ぐのは良くないと認識している。女性が経済力を高める事で世帯内での力関係が変化する事を危惧する夫や、夫が世帯ニーズに責任を持たなくなる事を危惧する妻の意見から、女性が多く得る事を留まらせる認識がある事が分かる。

このように妻の収入は夫の役割遂行を「助ける」意味がある。夫の義務を肩代わりして夫に返金させ、世帯ニーズを充足させる事は女性の生計戦略ではないだろうか。「世帯ニーズを担うのは夫」という強いジェンダー役割規範や、夫が妻に返金する事を女性は活用している。夫が許可しなければ、妻は経済活動への従事、セレモニー出席、親戚訪問も出来

ない。妻は夫に拒否させない、不満をもたれないよう行動する事が、自分の望む事を遂行するために必要である。ジェンダー役割規範に従い、夫や両親･親戚を敬い、家事･育児の役割を果たす事は「良き妻」の評判に繋がる。良き評判を得る事、そして良い人間関係を夫や両親･親戚と保つ事が、夫から許可されない事態を防いでいる。女性のより望ましい状況を保障するのは女性の経済的・非経済的活動への参加自体ではなく、女性の貢献が家族や社会から認識され価値を付される事とのバランスである（Hoodfar 1998,121）。収入の有無だけでなく、得た収入をどう使用するか、妻のジェンダー役割をどう遂行するか、夫や両親・親戚に対してどう振る舞うか等が女性の望む状況の獲得に影響する。女性はジェンダー役割規範に受動的に従っているというより、主体的に役割を遂行する事で自分が望む状況を獲得している。

本章では、第2章で検討したように、開発援助において女性が経済力を得る事が女性の世帯内での発言力を向上させるという仮定に基づいて、女性を対象とした所得創出活動が数多く実施されてきたが、女性の望まない状況に繋がる事例もあるという事から、女性が自身の収入を管理出来るハウサ社会において、女性の収入獲得が世帯内意思決定に与える影響について検討した。その結果、女性が収入を獲得する事が、女性自身が自由に使える資源として現金収入が手元にある状態にし、女性が夫の役割を肩代わりしたり、両親・親戚との人間関係を良好に保ったり、「良き妻」のジェンダー役割規範を主体的に遂行したりする事を可能にする事が明らかになった。又、女性は収入を得ようとするものの、より多く得る事を目指すのでなく周囲との良好な人間関係の維持を優先している事も明らかになった。女性が収入を獲得する事は、決別点の向上に寄与するだけでなく、世帯への貢献認識の向上にも影響を与えている。しかし、女性は人間関係の維持や自分の評判という他の資源も重視しているため、収入という資源を獲得する事だけが世帯内意思決定への女性の参加に影響を与えているわけではない。次章では、世帯内でどのような資源がやり取りされ、話し合いの結果、どのような資源を妻が獲得しうるのか検討する。

第6章　話し合いの様態と世帯内意思決定

本章では、副課題 2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか」を明らかにしていく。前章では、女性の世帯内意思決定における交渉力を向上させると言われ、多くの開発援助が取り組んできた女性の収入獲得について、ハウサ社会における女性の収入獲得と世帯内意思決定への影響を検討した。その結果、収入獲得は女性の世帯内意思決定への関わりに影響するが、それ以外の資源も影響する事が明らかになった。本章では、妻が夫に自身の意見を伝えやすい話し合いの環境とはどのようなものか検討する。まず、世帯内でどのような資源が、誰と誰の間でやり取りされているのか検討し、調査対象地域における世帯内でやり取りされる資源を整理する。次に、世帯内での話し合いについて、夫妻が日常にどのような話し合いをするのか、どのような資源が分配され、話し合いの結果、妻が獲得しうる資源はどのようなものか検討する。そして夫妻間で意思決定が必要な話題は何か､話し合う話題によって妻の夫への対応は異なるか､夫妻間で意見が異なる際の夫妻の対応は異なるか、夫妻の関係性により話し合う環境は異なるかを検討していく。これらの検討を通して、妻の要望や意見を夫が自身の決定に反映する事はあるか明らかにする。

6-1　世帯の構成と資源のやり取り

第3章で資源について概念の整理を行った。資源とは、有用で、価値を持つ対象で、潜在的可能性があり、働きかけの方法によって流動するという特徴を持ち（経済学大辞典、新社会学辞典)、潜在力を持つが、実現するかは他の要因に影響される（Kabeer 1999）という見解があった。具体的には物的資源、労働力・人員としての人的資源、信頼や権力、威信、権利、諸制度といった社会関係資源、情報や知識等の文化的資源があった（新社会学辞典 1993)。このような「資源を支配する権利」を持つ事で､「他の資源や財へのアクセスを拡張していくような『可能性の束』」と資源を捉える（佐藤 2007)。世帯内での資源のやり取りは世帯内の力関係を反映する。世帯内の個々人の関係は、世帯外における男女の経済的・社会的地位の違い、ジェンダーによるイデオロギーによって形成されている（Whitehead 1981, 93-116)。

本節では、調査対象地では世帯はどのように構成され、世帯内の資源には何があり、どのようにやり取りが行われているのか明らかにする。調査対象のP地区における事例を挙げながらハウサ社会の世帯の構成と資源のやり取りを述べる。

6-1-1　世帯構成と世帯の生産・消費活動

P地区における居住形態は、結婚後に夫の両親のコンパウンド内に新しく住居を建て夫妻で住む形態が従来は多く、夫の両親や兄弟の家族、未婚の兄弟姉妹と同じコンパウンドに居住する拡大家族である。しかし妻が夫の母親と1日中同じコンパウンドに暮らす事で相互の所有物をめぐり嫉妬や争いが生じやすい事から、近年、結婚後に新たなコンパウン

ドを持ち夫の両親と同居しない例も増えている（KI3-9）。実際に調査対象の 34 人中、夫の両親や兄弟と同居している例は 12 人で、3 分の 1 程度である。

P 地区では農業が主な生計手段である人は少なく、男性は雇用されているか自営業である。農地を所有している場合でも人を雇って農作業をさせているため、日常に拡大家族が共同で農作業に従事する事もない。実際に、調査対象者の中には職業を農家と回答した例はない。既婚女性は隔離の慣習があるため住居の外で経済活動に従事する事は、一部の公務員や教師を除いては P 地区では見られない。そのため、夫や拡大家族が妻の労働力を戸外での経済活動に利用する事もない。妻が経済活動や相続で得た経済的資源は妻自身の所有とみなされるため、妻が住居内で行う経済活動に夫や拡大家族が参入する事もなく、妻が夫や拡大家族と生産活動を共にする事は見られない。ただ、妻の製作した製品の販売や、材料の購入を夫が代行する例はある（妻 9 他）。ハウサ社会では夫妻で財を共有しない事が一般的である。妻が婚資として結婚時に持ち込む家具類は結婚後も妻の財産である。夫は婚資の内容は把握しているが、結婚後に妻が土地を購入していても把握出来ない。「土地を買っている女性達は夫に知らせていないし、夫も分からない。土地は政府から買う場合は書類を記入し登録する。地元で買う場合はディストリクトヘッドのと頃へ行く。大体兄や息子が手続きを代行する。夫ではない（KI8）」と、夫や拡大家族ではなく実家や自分の息子を媒介する。

家事や育児といった無償の再生産活動は妻が従事している。拡大家族の場合、料理や掃除といった家事は夫の両親や兄弟とは別々に行われるが、妻は夫の母親の家事を手伝う事が期待されている。消費に関しては、拡大家族と家計を同じにする場合も別にする場合もある。家計を別にする場合や拡大家族と同居しない場合は、夫妻で家計の用途を話し合う例が多いが、「石鹸や化粧品等、自分が使うものは夫に話す。食料については、夫が両親、兄と話し自分は加わらない（妻 28）」と、拡大家族で家計を共にする場合は、その用途に関する話し合いに妻は参加していない例もある。

夫に複数の妻がいる場合は、同じコンパウンドに別の部屋を持つ。「食料の事、子どもの教育、ユニフォームや学費や文具をどうするか、自分達の事について、夫のもう 1 人の妻と一緒に 3 人で話し合います（妻 9）」「食料や日用品の購入の話し合いは夫と妻 3 人で一緒にします。食材は倉庫に入れてあり、鍵は夫が持っています。自分が料理の番の時に夫に鍵をもらい、必要な分をとるようにしています（妻 32）」と、家計は夫の収入を複数の妻子と共有するが、家事は妻の間で順番に行い協同作業ではない。住居内での経済活動を妻同士が共同で行う事もない。調査対象者では 34 人中 7 人が、自分以外の夫の妻と同居している。

夫の両親・兄弟姉妹や、夫の他の妻と同居する拡大家族であっても、妻は生産活動・再生産活動を共同で行う事はなく、消費は、夫妻だけの場合は妻が用途の話し合いに参加しやすい。財や収入に関しては、夫や拡大家族、他の妻と共有する事はない。

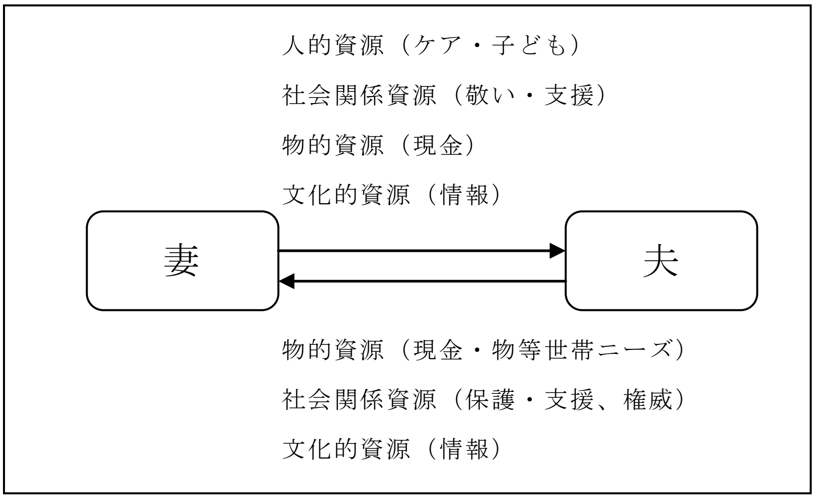
6-1-2　資源のやり取り

夫妻間の資源のやり取り

夫は衣食住、医療、交通費等妻が必要な物を全て供給し、妻は夫に従い家事・育児をし、婚姻関係の維持に努める事とされる。この役割を遂行出来ない場合は、離婚の申し立てに繋がる事もある。夫妻間の資源のやり取りは、このような婚姻関係に基づく。

図 6-1 は夫妻間の資源のやり取りを示している。夫妻・子どもに必要な食料や日用品は夫が 1 カ月ごと、又は 2 週間ごとにまとめて購入し、現物を妻に渡す。調味料や保存の効かない食品は必要ごとに夫が購入して現物を妻に渡す場合も、現金を渡す場合もある。食料や日用品が不足した場合や医療費、交通費、子どもに必要な費用は、必要ごとに妻が夫に伝え、夫が現物や現金を渡している。しかし夫に手持ちの現金がない場合、妻が夫に代わって支出し、後に返金を受けている。又妻が返金を断り夫に現金をギフトとして上げる例もある。妻に定期的に現金を借りたり、妻に世帯ニーズの不足分を補充してもらったりする例は、妻が経済活動をしている場合に多く見られた。

図 6-1 夫妻間の資源のやり取り



（34 世帯の回答を基に筆者作成）

子どもの教育や経済活動に関する情報（文化的資源）も夫妻間でやり取りされている。妻は日常に子どもと接し、学校教育を受けた妻の場合は子どもの勉強の進捗を確認する事も夫から期待されている。又、「自分の年上の兄弟や、誰か教育について詳しい人にアドバイスを求め、夫と話し合います（妻 6）」「妻と一緒に、学校を訪問、学校のシステムを評価し話しあう（夫 32）」と、教育に関する情報を夫妻それぞれが収集し、お互いに子どもの教育について話し合っている。子どもへの教育熱はここ 10 年ほどの間に急激に高まっている。P 地区では 10 年前は公立の小学校が 1 つしかなかったが、今では中高等学校もあり、小学校は私立も含めて複数ある（KI6,7 他）。まだ教育に関する確かな情報が不十分なため夫妻の間にも情報の格差が少なく、お互いに情報を交換し、より良い教育を子どもに与えようと協力している。経済活動に関しては、夫がマーケットで新しい製品や材料を

見つけて妻に伝えたり、夫が同僚や知人から得た情報を妻に伝えたりしており、隔離の慣習のある妻にとっては貴重な情報となっている。

妻は日常の家事・育児等の無償労働によって、ケアという資源（人的資源）を夫に与えているが、これらは妻の義務とみなされている。又、人の再生産である出産を繰り返し、夫の資源とみなされる子どもを夫に与えている。夫は妻の保護者であり必要な世帯ニーズ全てを供給すると同時に、妻の行動を規制する権威を行使する。この権威は妻が外出の許可を得たい時や何か新たな活動を始めたい時の妻からの依頼に対して行使される（社会関係資源）。以上が、夫妻間で日常にやり取りされている資源である（図6-1）。

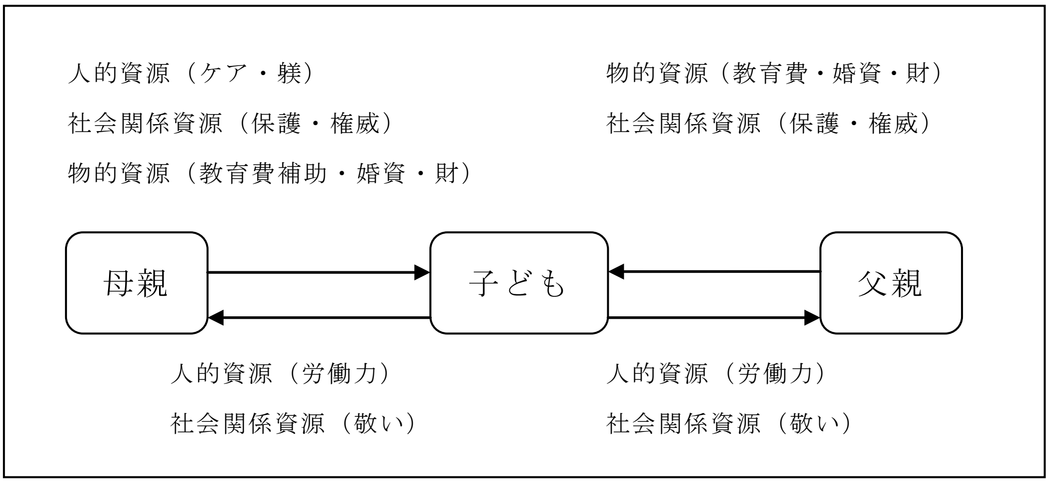
夫の仕事により夫妻が通常一緒に生活していない場合がある。調査対象の中では2例あり、いずれも毎週末に夫は帰宅する。世帯ニーズをまとめて夫が購入する事は他の例と同じであり、外出の許可についても電話で許可を得ている（妻6,妻13）。「夫はアブジャ（首都）にいて週末に戻ってきた時に、何が足りていないか聞いてくれる。不在の時には例えば石鹸等は自分のお金で買い、夫が後で返金してくれる（妻13）」と、普段は不在であっても資源のやり取りは、通常一緒に暮らしている夫妻と変わりはない。

親子間の資源のやり取り

親子間の資源のやり取りは、妻から子どもへ渡る資源と夫から子どもへ与えられる資源と、社会におけるジェンダー役割規範を反映して異なっている。

図6-2は親子間の資源のやり取りを示している。妻は子どもにとって母親であり、母親役割として子どもに対するケアや躾が与えられる。夫から子どもへは学費や文具費等教育にかかる費用が与えられる。子どもの学校選択や進路選択に際しては父親・母親が決めており、保護者としての保護と同時に権威も行使される。子どもが成長して結婚する際は、息子にも娘にも婚資が必要となる。娘の婚資は主に母親が用意し、これは結婚後の娘の財産となる。近年は教育レベルが高い事が婚資を代替するとみなされ、婚資にかかる費用は減っている。又新郎の実家に対しても婚資を送る。子どもが息子の場合は新婦の実家に送るための婚資を必要とする（KI9）。一方、子どもから親への資源としては労働力の提供がある。特に母親が従事する家の中での経済活動を、製品の販売や材料の購入といった活動で子どもの労働力が支えている。

図 6-2　親子間の資源のやり取り



（34 世帯の回答を基に筆者作成）

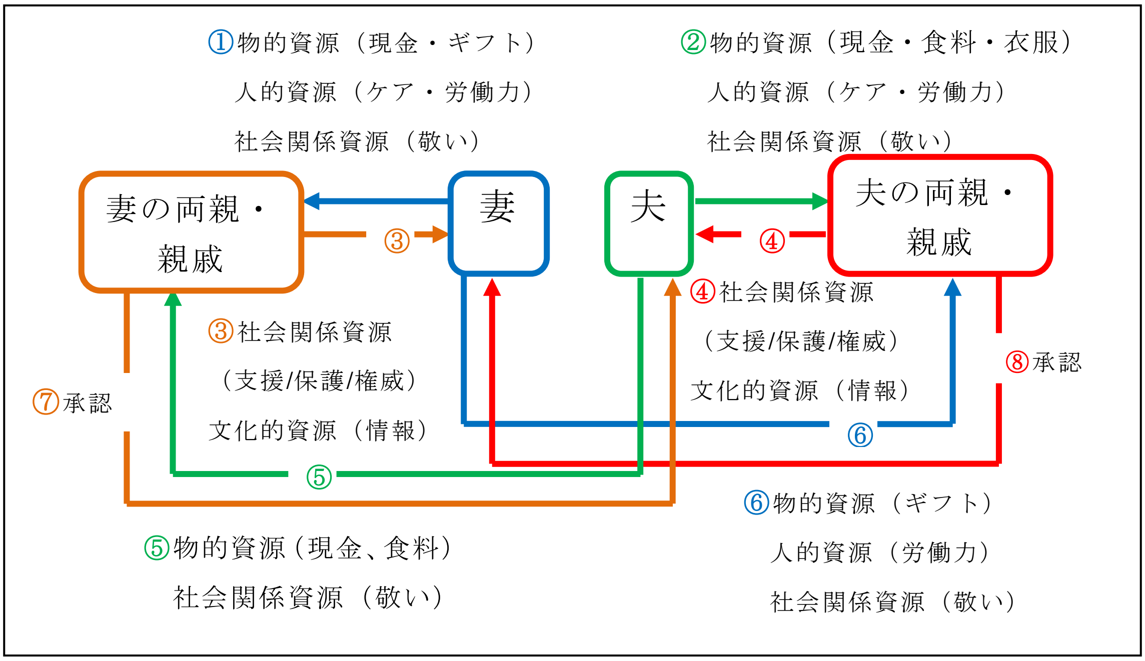
夫妻双方の両親・親戚との資源のやり取り

図 6-3 は夫妻双方の両親・親戚と夫妻の間の資源のやり取りを示している。

妻が自分の両親・親戚を金銭や物品で支援する事は頻繁に行われている（図 6-3 の①)。同様に妻から夫の両親・親戚への金銭・物品による支援も実践されている（図 6-3 の⑥)。金銭や物品で支援出来なくとも同居する義母の家事を引き受ける例（妻 16、31)、無料で服を仕立てる例（妻 2）もある。経済活動をしていない妻の中には、夫の両親・親戚を、十分なお金がないという理由で支援していない例もある（妻 20,28,34)。夫が妻にお金を渡し、妻から夫の両親を支援するよう夫が言う例（妻 26）もある。夫も自分の両親・親戚と妻の両親・親戚に金銭や物品で支援している（図 6-3 の②、⑤)。このような経済的資源のやり取り以外には、労働力やケアを提供している。夫の両親と同居する妻が夫の母親に代わって家事をする等である。又、「私の親戚が家に来て何か頼みごとをする。例えば親戚が結婚する時に、相手の事を調べるよう依頼されます（妻 6)」というように、コミュニティでの人的ネットワークを活用して人の評判を調べる事もある。実家の両親・親戚へ尊敬の気持ちを示す事は親戚関係を重視するハウサ社会では当然とされているが、妻が夫の両親・親戚へ尊敬の気持ちを示す事も期待される。「夫の両親を敬わない事は、夫を敬わないも同然である」「夫の両親を嫌うようでは、そのうち夫を敬わなくなる」と、夫を敬う事と夫の両親を敬う事は同一視される。

一方、両親・親戚の側は、夫妻が何か困った事や問題が生じた際には、それぞれの両親や親戚が助言や後ろ盾等支援や保護を与えたり、権威を以て人間関係の調整をしたり、又必要な情報を与えたりしている（図 6-3 の③、④)。夫の両親は妻に承認を与え、妻の両親・親戚も同様に夫に承認を与える等、双方の両親・親戚からの評価が下される（図 6-3 の⑦、⑧)。特に夫妻の婚姻関係に問題が生じた際は、双方の両親・親戚が話し合う。

図 6-3　両親・親戚との資源のやり取り


①物的資源（現金・ギフト）
人的資源（ケア・労働力）
社会関係資源（敬い）
②物的資源（現金・食料・衣服）
人的資源（ケア・労働力）
社会関係資源（敬い）
妻の両親・親戚
妻
夫
夫の両親・親戚
③
④
④社会関係資源
（支援/保護/権威）
文化的資源（情報）
③社会関係資源
（支援/保護/権威）
文化的資源（情報）
⑦承認
⑧承認
⑥
⑤
⑥物的資源（ギフト）
人的資源（労働力）
社会関係資源（敬い）
⑤物的資源（現金、食料）
社会関係資源（敬い）

（34 世帯の回答を基に筆者作成）

6-1-3　世帯内の資源

前項では世帯内で夫妻の間、親子の間でどのような資源のやり取りがあるか、又世帯外の拡大家族と世帯内の夫妻の間で、どのような資源のやり取りがあるか、34 世帯の事例から検討した。本項では、前項で明らかになった事をまとめ、世帯内で利用可能な資源を整理する。

これまでで見てきたように、調査対象地の夫妻間、父子・母子間、夫妻とそれぞれの両親・親戚間で日常にやり取りされている資源を前述の資源の定義に照らし合わせ、経済的資源として所得、所得で購入した物、人的資源として労働力とケア、社会関係資源としてサポート、保護、権威、敬い、文化的資源として情報と知識、これらを世帯内でやり取りされる資源と見る（表 6-1）。尚、夫妻それぞれが所有していても事例からやり取りがなされていない土地や家屋、家畜等の財は含めない。

表 6-1　世帯内でやり取りされる資源

所有者	夫	妻	子ども	拡大家族
経済的資源	夫の所得、夫の所得で購入した物	妻の所得、妻の所得で購入した物		所得
人的資源	労働力	労働力、ケア	労働力	
社会関係資源	支援・保護 権威・敬い	支援・保護 権威・敬い	敬い	支援・保護・ 権威・承認
文化的資源	情報、知識	情報、知識	情報、知識	情報、知識

（筆者作成）

表 6-1 に示したように、夫妻、子ども、拡大家族は経済的資源、人的資源、社会関係資源、文化的資源を所有している。そして、何か人間関係に問題が生じた時、経済的な問題がある時、コミュニティの情報が必要な時等、ある条件下で特定の対象者と資源のやり取りをしていた。既にある力関係によって資源のやり取りは影響されているが、資源のやり取りの結果、獲得した資源により既存の力関係が変わっていく可能性もある。例えば、夫の両親・親戚から承認された妻は、承認されていない場合よりも世帯内外で敬われ、より権威を持つようになる。そして新しく獲得した敬いや権威という資源を活用するようになる。

6-2　世帯内意思決定

本節では夫妻間の話し合いの話題と相手への対応について、夫妻の語りから明らかにする。妻に「誰が世帯ニーズの内訳を決めますか？」「誰が親戚への支援の内容を決めますか？」という質問をすると、「夫が決めます」と多くが答える。夫に同じ質問をしても「家長である私が決める」という答えになる。「一緒に決める」という答えもあるが、「最終決定は夫がする」となる。しかし、実際にどのように話し合うのかを詳しく聞いていくと、話し合いのプロセスには夫と妻の間で様々なやり取りがある事が分かる。

6-2-1　話し合いの話題と分配・獲得する資源

妻と夫が日常に話す話題として「子どもの教育（妻 21 人、夫 12 人）」「家庭内の出来ごと（妻 11 人、夫 16 人）」「世帯ニーズの充足（妻 10 人、夫 10 人）」、が挙げられた（回答のあった妻 31 人、夫 30 人の複数回答による）。「家庭内の出来ごと」は更に質問していくと、「子どもの教育」「世帯ニーズの充足」等であった。本項では夫妻が日常に話す話題について、どのような資源の分配をめぐる話し合いで、その結果、どのような資源を獲得しうるのか検討する。又、夫妻が相互にどのようなアプローチをしているか検討する。

「子どもの教育」「世帯ニーズの充足」に関しては調査協力者から挙げられた話題である。これに加えて人口保健調査（NHDS 2008）が世帯内意思決定の話題として前述の話題以外に取り上げている、「妻が病院へ行く事」「世帯の主要な買い物」「妻が親戚を訪問・外出する事」に関して、夫妻間で話し合うか、どのように話し合うか質問した。

子どもの教育

子どもの教育に関して、学校での子どもの状況について夫妻で話題にしている。

> 「学校が休みで家にいる時に、夫が夜戻ってきて息子に学校の本を持ってこさせて理解しているかチェックします。どうして間違えるのか、どんな問題があるか夫と話し合います（妻 4）」
>
> 「夫が仕事から戻ってきて週末に話します。例えば夫が『息子のノートをチェック

> したか？何か宿題はないのか？』と聞きます。そして息子に持ってくるように言います。もし学校で配られた本のリストがあれば、持ってこさせます。リストにある本を夫がマーケットで買います。（妻 20）」
>
> 「子どもが学校から戻って、夜に夫が私に子どもの学校のかばんを持ってくるように言うので、夫に渡します。そして一緒にエクササイズブックをチェックします。夫は私に本を子どもに読んであげるように、そうすれば試験に合格するからといいます。（妻 34）」
>
> 「子どもの教育について、いつも妻と話しています。どうすれば他の人と良いコミュニケーション・関係作りが出来るか、このために教育を受けなければいけないと思います。（夫 26）」

妻 4、妻 20、妻 34 の事例から、子どもが学校で学んだ内容や理解度という情報を夫は知ろうとして、妻に状況を確認している事が分かる。学校での進捗状況を確認したり本を読んであげたりするためには夫妻も字が読めて内容を理解出来なければ子どもの学習状況を確認出来ない。妻 34 の夫は「子どもに読んであげるように」と妻に言っているが、夫妻 34 は共に学校教育の経験がない。夫 26 のように学校へ通う効果を授業の理解度のチェックでなく子どもの社会性を見ようとする例は他にもあった。

ナイジェリア北部では小学校、中高等学校という学校教育と別に、イスラミーヤと呼ばれるコーラン学校がある。午前中に学校教育を受け、午後や夕方にコーラン学校に通う場合もあれば、どちらかを選ぶ場合もある。又学校教育も公立の学校、私立の学校と選択肢がある。高等教育に進めば何を専攻するかという選択がある。これらの選択についても夫妻は話し合っている。

> 「子どもをどの学校に送るか夫と相談します。この子はイスラミーヤ（コーラン学校）、この子は西欧学校（通常の学校）がいいかという事を話します。西欧学校に行けばエンジニア、医療、会計等を勉強出来るし、イスラミーヤに行けば伝道師になれるでしょう。夫と、親戚にエンジニアや医療、会計等に詳しい人はいないか話します。それぞれの親戚から詳しい人のアドバイスを聞いてきて、そのアドバイスを夫と話します。それから夫が子どもに何をしたいか聞きます。子ども達当人が何に興味を持っているか確認して、夫と 2 人で、イスラミーヤがいいか西欧学校がいいか話し合います。それから夫が判断します。（妻 5）」
>
> 「教育のどの分野に子どもを勉強させるかについて、私が子どもの希望を聞きます。それから夫に子どもの希望を伝えます。例えば、1 人目は医療を勉強したがり、2 人目は税を勉強したいといい、最後の子は兵士になりたいといいました。夫と子どもの能力に適しているか話します。親戚にアドバイスを求める事もあります。最終的には

> 夫が決めて子どもに伝えます（妻10）」
>
> 「娘のセカンダリーが終わった時に私が娘にどうしたいか聞きました。娘は『勉強を続けたい』と言いました。私は娘の勉強を続けさせる事を夫に提案しました。夫は『娘が勉強を続けたいなら構わない』と同意しました。教育については夫と同じ意見です。（妻13）」
>
> 「子どもにとってどの学校に行けばよい教育を受けられるか、友人、近所の人、親戚に子どもの教育についてアドバイスを聞きます。それから夫と、どの学校がいいか話し合います。大体、夫と同じ意見になります。（妻2）」
>
> 「どうすれば子ども達が質の良い教育を得られるか、どんな教育が子どもの利益になるか妻と話し合います。（夫19）」

妻5、妻10のように子どもの進路を夫と話し合う例がある。どちらも子どもの意見を聞いた上で、夫妻で話し合っている。妻13は娘の高等教育への進学について夫に進言している。妻2のように、複数ある学校の中でどの学校がいいか情報収集する例は多く見られた。どの例も子どもの希望を聞いたり、親戚のアドバイスを聞いたりと情報を収集し、夫妻で話し合っている。夫19のように、夫の意見は具体的ではなく、「子どもに質の良い教育を与える」という言葉を使う例が多く、そのための具体的な話は夫から聞けなかった。これらの進路に関する話し合いでは、夫妻がそれぞれ得た情報を交換している。

又、教育費についても夫妻の話し合いの対象となっている。

> 「何かお金に余裕がある時に、子どもの教育にお金をくれるように夫に言います。夫にお金がなければ私が少し出します、と話します。普段は夫が学費やユニフォーム、PTA、文具等全て払っています。子どもには文具や学校からリストが渡される本が必要です。（妻14）」
>
> 「夫が学費を払うので、私がイスラミーヤの方を、ペンや鉛筆を買いましょうという話をします。イスラミーヤや文具の費用は学費より安いです。でも月末になると、いつも夫にお金がありません。（妻17）」
>
> 「私はいつも夫にアドバイスして、学校の費用を期限内に支払うように、本を買うように、文房具を買って取っておくように伝えています。文房具は私が買いますと提案します。（妻32）」
>
> 「妻と一緒に、どうやって学費を払うか、どの本を子どもに買うか話す。妻と学費の払い方を話すと、妻は、親しい友人のと頃でお金を借りるようアドバイスします。他人にお金を借りるのは恥ずかしい事ですが、妻は学費までは助けられません。友人にお金を借りて学費を払った事もあります。（夫32）」

妻14、妻17、妻32は教育にかかる費用について夫と話し合っている。3例とも妻が夫

に対して、妻自身も負担する用意がある事を妻が夫に提案している。夫妻 32 は教育費の捻出について話し、妻が夫に提案し夫が妻のアイデアを受け入れている。

このように子どもの教育に関しては夫妻とも親戚や知人から情報を収集し、それをお互いに交換して話し合っている状況である。近年、学校教育が盛んになり学校の選択肢も増え、夫妻自身の学校教育の経験とは異なる状況にあるため、夫妻とも現在の教育の情報を熱心に収集している。又教育にかかる費用についても話し合っている。子どもの教育費は世帯ニーズ同様に夫が供給する事となっているが、教育費用を妻が分担する事を妻から申し出る事例もある。しかし夫からの返金については触れた例はなかった。教育に関して夫妻の間で意見が異なる事や、どちらかが相手の意見に不満を抱くような例は見られなかった。子どもの教育に関する話し合いにおいては、分配される資源としては教育に関する情報と教育費であり、この話し合いから獲得しうる資源としては、教育を得た子どもが将来の労働力となる事、又、子どもからの敬いを得る事が考えられる。

世帯ニーズの充足

ハウサ社会では夫に世帯ニーズ全てを供給する責任があるとみなされている。多くの夫は月に 1 回、翌月の食料や日用品をまとめて購入し妻に渡している。世帯ニーズについて妻と話し合う夫もいれば、妻に何が必要か聞かずに食料や日用品を買ってくる夫もいる。

> 「私が夫に、このお金を教育に、これくらいを食費に、これを医療にと提案します。夫の収入をこの 3 つに分けます。夫が毎月マーケットで食品を買ってきます。食費にいくらかかるか私は分かりません（妻 7）」
> 「家計簿をつけています。毎月夫が給料をもらってくると、2 人でこの家計簿を見て、いくら他の人から借りているからいくら返さなければいけないとか、いくらを日用品、ポマードや歯磨き粉とか、食料や毎日の食材にどれくらいとっておこうとか話します（妻 28）」

これらの夫妻は、翌月にどのような世帯ニーズを購入する必要があるか夫妻で話し合っている。妻はマーケットに自身で行く機会は限られるため、食料や日用品の価格を知らない事も珍しくない。この 2 つの例では、夫収入の分配を夫妻で話し合っており、教育費や食費等の細かな金額を知らないとしても、妻は夫収入が何に使われるかという話し合いに加わっている事になる。一方、夫妻で話し合わない事例もある。

> 「私の夫はどんな食料が必要か私に聞いた事がありません。夫はただ 1 カ月に 1 度、食料を持ってくるだけです。私は彼がいくらくらい食料に費やしているか知りません。私は彼が持ってくるもので十分です（妻 34）」
> 「私は食料について夫と話しません。私は夫が私にくれる食料だけで何の問題も

> ありません（妻 10）」

これらの夫は「夫は妻に食料を持ってくる」という夫の責任を果たしている。夫妻の間には世帯ニーズに関する話し合いはなく、妻は世帯ニーズの購入に関する意思決定から除外され、食費に必要な価格も知らない。しかしこれらの妻は夫の行動を受け入れており、世帯ニーズが満たされている限り、妻はこの状況に不満はない。

> 「夫とは話しません。食料が足らない時、私はコメと豆だけで料理をします。夫が食料を持ってこないから料理出来ないのです（妻 26）」
> 「私の夫はどのくらいの食料が実際に必要なのか私に聞きません。夫が持ってくる食料では不十分で、その食料でやりくりする事がどんなに大変か、分かっていません。夫はお金を自分の事に使ってしまい、世帯ニーズや食料に使いません。でも、私は夫に何も言えません。それは夫のお金なのです。どのくらい食料を買うかは夫の決定次第です（妻 3）」

これらの事例では、夫は「食料を十分に供給する」という供給者としての期待される義務を十分に果たしていない。妻は夫に食料が足りないと知らせる事も、買い足すよう頼む事もしていない。その代わり妻 26 は不十分な食事を出す事で不満を示しているが、妻 3 は行動を起こす事自体諦めている。妻は食料が不十分であっても「食料を良く管理する」、つまり 1 カ月等予定の期間を、夫が与えた食料でやりくりする事が期待されている。

> 「私はいつも夫と話します。夫は私にどんな食料や日用品が必要か、どのくらいの量が必要か聞いてきます。それから私は必要な物をリスト化して彼に渡します。そして彼は必要な物を買います。又夫は私に 1 日 N1,000 を渡します。私は毎日の料理に必要な野菜や香辛料をこのお金で買い、残りは他の用事に取っておきます（妻 2）」
> 「家に食料が足りなくなってきたら夫に伝えます。もし夫がお金が足りないと言えば、私のお金で買います。夫はお金が入ったら返金してくれます（妻 13）」
> 「食料や日用品が不足すれば、私は自分のお金で買います。それを夫には伝えません。でも夫は私が貢献している事を知っていると思います（妻 4）」

これらの夫妻の間には、「妻は夫に聞く」「妻は夫に知らせる」のように会話がある。「家にある食料が不足している」という事実は、妻からも夫からも認識されている。妻 13 と妻 14 は「夫にお金がない時は妻が食料を買う」のように世帯の食料を供給するという夫の役割を代替している。夫はお金を得た後に妻に返金しているが、妻への夫の依存が出来、妻からも夫からも妻は世帯に貢献しているという認識が蓄積されていく。

> 「夫は家を塗り直したいと言いますが、私は反対しました。私達には他にしなければならない事があります。私は夫に世帯ニーズにお金を使おうと言いました（妻1）」
> 「私は夫にお金が入ればすぐに食料を買った方がいいとアドバイスします。そうすれば、夫に十分にお金がない時でも、家に食べるものがあります（妻32）」
> 「夫が教育費を払っていなかったので、私はすぐに払うようにアドバイスしました（妻22）」

これらの事例では、妻は自分の意見を夫に伝えているが、「夫の意見に反対」や「他の考えをアドバイス」と夫と異なる意見を表明している。ハウサ社会では、妻は夫がする事に従う事を良しとされるので、このように夫の行動や考えに対して「同意出来ない」と表す事はハウサの社会規範に反するとみなされる。これらの事例では夫妻の間に緊密なコミュニケーションがある事が他の質問への回答から推測出来た。そのようなコミュニケーションをとる関係があれば、ハウサの伝統・規範に関わらず妻は夫に自分の意見を提案しやすい。

このように世帯ニーズの充足に関する話し合いでは、毎月の世帯ニーズ、特に食料が足りなくなってきた際に、夫に伝える・伝えないと妻の対応が異なる。又夫に伝える場合に夫の考えに同意出来ない事を表す事例もある。夫に伝えない場合は夫に不満だが言えない、言っても何も変わらないと諦める例もある。

一方、夫は世帯ニーズ充足に関して、「妻と話し合う」という意見が多い。

> 「世帯に何が必要か妻と話し合います。特に食料については妻の方が良く知っているので妻に聞きます（夫1,2他）」
> 「通常、妻と一緒に、どのようにお金を使うか計画を立てます。食料については月末までどのくらい食料がいるか計画を立てます（夫7）」
> 「私達は収入をどう割り振るか、毎日の活動に対してどう計画を立てるか話します。食料については、月末まで足りるようにするため、何を買えば良いか話します（夫19）」

妻が「夫とは話し合わない（妻 26）」「夫は食料以外の物にお金を使う（妻 3）」と語っている例があるが、その夫は「妻と収入用途について話します。生活に関する事は話し合わなければいけません。食料について、どうやってやりくりするか話します（夫26）」「妻とは話し合います。食料については何をどう買おうか話します（夫3）」と語っている。妻と夫の言い分が食い違う事も、世帯ニーズ充足が夫妻の間の争点となる事を示している。

このような世帯ニーズに関する話し合いにおいては、分配される資源は夫の収入と妻の

収入であり、この話し合いから獲得しうる資源としては、世帯ニーズが満たされた状態が考えられる。

土地・家・家畜等大きな買い物

次に世帯ニーズのような日常に必要な物品ではなく、土地や家、家畜という金額の大きな買い物について、夫妻がどのように話し合うか見てみる。

> 「羊、山羊、鶏を飼っていて、それを買う時に夫と話し合いました。夫がコンパウンドの中の敷地を家畜用にくれました[35]（妻 6）」
> 「夫が私に、家畜を買うように、そして必要な時に売れるようにとアドバイスしてくれたので、お金がある時に羊を買いました。私のお金で買いました。羊の市場に夫が行き、良い羊を選んでくれました（妻 8）」
> 「以前、鶏を買いました。夫に相談してから買いました。夫もお金を足してくれました（妻 9）」
> 「以前、家畜を飼っていて、これを売る時に夫に相談しました（妻 3）」
> 「私が家畜を買いたい時に、夫が代わりに市場で買ってきてくれた。今は 2 匹の山羊と、2 匹の羊を飼っています（妻 11）」
> 「私が家畜を買う時に夫がお金を足してくれ、餌代も出してくれました。売る時は客を探してくれました（妻 16）」

これらの事例では妻が羊、山羊、鶏等家畜を購入する場合、又は売却する場合には夫に相談している事が分かる。ハウサ社会では夫妻はそれぞれの財を別々に管理し、妻が購入した家畜は妻の財産である。しかしながら上記の例からは、夫が不足する金額を足したり、家畜を飼う場所を確保したり、餌代を出したりという援助を夫が妻に与えている。

> 「土地を買う計画を立てていて夫とその話をします。今の家は貸家なので土地を買って家を建てようと話しています。私のお金ではありません（妻 18）」
> 「今は家を間借りしているので、土地を買おうと夫と話し合っています（妻 26）」
> 「今は夫が相続した家に住んでいる。将来は土地を買おうと話している（妻 22）」
> 「今はお金がない。土地も家も所有していないが、将来土地を買う計画を話し合っている（妻 33）」

土地や家屋に関しては妻の発言からは「夫が購入する計画」があり、その事について話し合うというものであった。これは「夫の資金」で夫が購入する事を意味する。ハウサ社会では婚姻に際して、夫が住居を用意する事になっている。そのため土地や家屋に関する

---

[35] 筆者が回答者の自宅を観察したところ、羊と鶏を飼う用途で屋根と壁で囲まれた小屋があり、7 匹の羊が飼われていた。

話し合いでは妻は「夫の財産」としての土地・家屋について語っている。

「兄や息子が代弁して、女性達はお金が溜まると土地を買う事が流行っている。夫ではない。夫は妻にお金があると思って供給するのを減らしてしまう可能性がある。土地を買っている女性達は夫に知らせていないし、夫も分からない（KI9）」と、妻も土地を購入する事はあるようだが、世帯の財産とは捉えておらず、妻自身の財産として妻の実家や息子と相談している。一方、夫は土地・家屋・家畜の購入について次のように語っている。

「もし私が家や土地･家畜を買うなら、買う前に妻と子どもと話しあう（夫 12）」「両親と妻に相談する（夫 1,2,6 他）」と、夫自身の両親とも話し合うが、妻も話し合いの相手に含めている事例が最も多く見られた。「私の両親と親戚と話し合う（夫 27）」「私の両親と話し合う（夫 20）」と、夫自身の両親や親戚と話し合うものの、妻を話し合いに含めない例も見られ、「家も土地も家畜も所有していない。もし今後、買うのであれば、その時は誰からのアドバイスも受けずに、自分で決めて買う（夫 30）」「誰にも相談しないで自分で決める（夫 23）」と、夫は誰にも相談しないで自分で決定するという例もあった。

食料や日用品の買い物と異なり、土地・家屋・家畜は「誰の財産か」が明確であり、夫妻で財産は別々というハウサ社会の慣習の中で、土地・家屋・家畜に関する話し合いは「相談する」「情報共有する」事であり、夫妻が異なる意見となり争点となるような事柄ではない。このような大きな買い物に関する話し合いでは、分配の対象となる資源は夫妻それぞれの収入や情報である。又、妻が家畜を購入する場合は飼育場所が必要になるため夫の許可を得る必要があり、夫の権威という資源が関わってくる。これらの大きな買い物の話し合いから獲得しうる資源は、夫妻それぞれの財である。

妻が病院に行く事

妻が病院に行く事は外出を伴うため夫の許可が必要となる。

> 「夫に具合が悪いと話せば、夫が病院に行くように言います。夫は私を病院に連れて行ってくれる事もあります（妻 8）」「いつでも具合が悪い時は夫に病院に言っていいか聞きます。夫が病院へ連れて行ってくれます（妻 9）」と、具合が悪い事を妻は夫に話している。

> 「夫は交通費をくれます。病院で処方箋をもらえば、夫が薬を買ってきてくれます（妻 18、21 他）」
> 「夫は交通費と薬代をくれます。子どもが急に病気になった時は、夫に電話して、自分で子どもを病院に連れて行きます（妻 24）」
> 「夫は交通費と薬代をくれます。夫にお金がなければ自分で出し、夫は後で返金します（妻 26）」
> 「夫は他の町に勤務しているので、病院へは 1 人で行きます。夫が家にいる時は一緒

> に病院に行ってくれます。夫の許可は電話で聞きます。交通費として緊急時のお金を分けて夫が持っています。子どもが病気の時も同様です（妻 27）」と、病院への交通費や薬代は夫が出している事が分かる。又夫にお金がなければ妻が妻の収入を出し、夫が後で返金している。病院への外出許可は緊急時には携帯電話で行っている。妻が携帯電話で夫の許可を得るため、夫が家に戻るまで待たずに病院に行っている[36]。

妻が病気の際の夫への対応については、「夫に具合が悪い事を伝えられない」という例はなく、具合が悪い事を告げて夫に病院への外出を断られた例もない。夫は交通費も薬代も出費しており、この話題では夫妻で意見が異なる事も意思決定の争点になる事もない。第 4 章では、ナイジェリア北部の女性にとって保健サービスへのアクセスが限られ、病院へ行く許可を夫から得る事や交通費の確保が容易でない事が統計資料から明らかだった。調査対象者の中では、クリニックや病院がコミュニティ内にあり（KI3）、ヘルスケアの確保が難しい例は見られなかった。このような妻が病院に行く事に関する話し合いでは、分配の対象となる資源は、交通費や医療費を夫が支出しているので夫の収入であり、病院へ行く事を許可する夫の権威である。そして話し合いから獲得しうる資源は病院に行く事で確保出来る妻の健康と考えられる。

妻の親戚訪問やセレモニー出席のための外出

ハウサの既婚女性は隔離を実践する。そのため妻は外出する際には夫から許可を得なければならない。妻が外出出来るかどうかは妻の移動を制限する権限を持つ夫の決定による。

> 「私は結婚式に出席したい時、夫に許可を求めます。夫はいつも許可しないのですが、時々は許可してくれます。私は膝を曲げて体を低くして夫に懇願したり、おいしい料理や冷たいジュースを出したりして夫に頼みます。私は夫の許可を得るために頑張ります。でも全ては夫の決断次第です（妻 34）」
> 「夫に懇願して結婚式に出席したいとか、村に住む両親を訪問したいと言います。でも、もし夫がそれはあまり重要ではないとか、頻繁すぎると思えば、夫は許可しません。私は夫がリラックスしている時に話すようにし、丁寧に話すようにしています（妻 4）」

これらの妻は夫から外出許可を得ようとして「懇願」したり「膝をついて体を低く」したりという遜った態度を示している。又妻は「おいしい料理」や「冷たい飲み物」というハウサ社会において「尊敬を示す」意味を持つ行為で夫に接している。妻はセレモニーへの出席や親戚を訪問するという要望に対して夫が却下する事もあるという事を分かってい

---

[36] 携帯電話を持たない頃は夫が家に戻るまで外出の許可を得られず、急な病気の際に困っていたという（KI4 他）。

る。そのため妻は自分の要望を夫に強く押し通すのではなく、丁寧に夫に懇願している。

> 「夫の機嫌が悪そうな時には、私は夫に許可を求めません。夫が同意しない事が明らかだからです。私はセレモニーに出席したり親戚を尋ねたりする事を諦め、次の機会を待ちます。子ども達が周りにいる時も私は夫に許可を求めません。夕食の支度が終わっていない時もそうです。夫が許可しない事は分かっているので（妻 28）」
>
> 「夜に夫と一緒に座っておしゃべりをしている時に、外出してもいいか聞きます。それから夫は私にどこに行くのか、何故出かけるのか聞いてきます。私は少しずつ説明し、例えば、病気になっている知人を訪ねたい、結婚式に出席したいと言います。夫が私の外出する理由が妥当だと思えば、彼は許可をくれます。私は夫が機嫌よく、仕事から帰ってリラックスしている機会を見つけるようにしています。時々夫は許可しません。その時は私は家にいなければいけません（妻 10）」

これらの事例では妻は夫の機嫌を気にしており、夫の機嫌次第で「夫に頼まない」「次の機会を待つ」等自分の行動を決めている。又妻は「子どもが周りにいない」「夕食の支度を終えている」等夫に話しかける適切な状況を選んでいる。又これらの事例では妻は夫の態度を確認するだけでなく、外出の理由を詳細に順序立てて説明している。妻は適切な状況で論理的に自分の要望を夫に伝える事が良い方法だと理解している。

> 「村に住む祖父母を訪ねたい時に、私は夫に外出してもいいか尋ねます。夫は時間があれば村に一緒に行ってくれます。又はお金をくれます。夫は私が外出したいという要望をダメと言う事はほとんどありません（妻 2）」
>
> 「夫が私に外出の許可をくれない時は、私は 2、3 日待ちます。それからもう一度聞きます。私は何故外出するのか丁寧に説明します。そうすれば最後には夫は同意してくれ外出の許可をくれます（妻 15）」
>
> 「私は夫に村にいる両親に会いに行きたいと話します。夫は大抵同意してくれます。時々、夫はお金やギフトを両親に持って行くようにと渡してくれます（妻 20）」

これらの妻は夫の機嫌を考慮せずに夫に外出したいと要望を伝えている。妻はほとんどの場合に夫が自分の要望に賛成する事を分かって行動している。たとえ妻の要望が却下されても、妻 15 のように「もう一度聞く」と諦めない。これらの夫は妻が親戚を訪問する際には「お金やギフトをもたせる」「一緒に行く」というサポートをしている。夫の方の対応を夫の語りから見てみる。

> 「私は妻に許可を与えるが、時間通りに戻ってくるように言う（夫 9）」「妻に許可を与えるが、毎回ではない（夫 19）」「私はどれくらい重要かを見て、訪問が重要であれ

> ば、許可するし、それほど重要でなければ、他の日にするように言います（夫3）」「もし重要な場所、例えば妻が両親の家に行くのであれば妻に許可する。だが、妻が重要でないところに行く事は許可しない（夫25）」「明日も妻がザリア（カノの隣町）に1人で親戚を訪ねに行く。時々は一緒に行く。訪問が本当であるなら、いつでも許可する（夫32）」

このように夫は妻に許可を与えているといい、条件として「帰宅時間」「外出の頻度」「外出理由の重要性」を挙げている。又金銭的な理由により外出を許可しない例も次のようにある。

> 「私に十分にお金がない時は、妻に親戚を訪問するのは私がお金を得るまで待つようにアドバイスします（夫11）」
>
> 「妻が結婚式で他の女性から話を聞いてきて、新しいアクセサリーが欲しいと言いだすので、頻繁には出席させない（夫29）」

このように妻の外出をめぐっては、夫は許可しない権限を持ち、「既婚女性は隔離を実践する」という慣習から妻の外出を許可しない正当な理由がある。一方で妻は外出をしたい要望があり、妻の外出をめぐる決定は夫妻の意見が異なり争点となる。この妻の外出をめぐる話し合いでは、分配される資源は妻の外出を許可する夫の権威で、この話し合いから妻が獲得しうる資源は、親戚の訪問やセレモニーの出席で確立される社会ネットワークや、親戚・知人からの情報や交換されるギフトである。

以上、話し合う話題ごとに分配される資源、獲得しうる資源を下記にまとめる（表6-2）。

表6-2　分配される資源と妻が獲得しうる資源

夫妻が話し合う話題	分配される資源	妻が獲得しうる資源
子どもの教育	情報 教育費（夫妻の収入）	将来の子どもの労働力 子どもからの敬い
世帯ニーズ充足	夫妻の収入	世帯ニーズが充足された状態
妻の外出	夫の権威	社会ネットワーク、情報、ギフト
妻の病院行き	夫の権威、夫の収入	健康
土地・家屋・家畜の買い物	夫の権威、夫妻の収入	財

（筆者作成）

6-2-2　資源獲得のための妻のアプローチ

前項で見たように、夫妻間の日常の話し合いの議題は子どもの教育や世帯ニーズ充足等いくつかあった。それらの中で夫妻の意見が異なり争点になりやすい話題は、1) 世帯ニーズの充足、2) 妻の外出許可、の 2 点である（表 6-3)。妻は話し合う話題によって夫に対するアプローチを変えている。妻が世帯ニーズの不足を満たすように夫に頼む時は、妻は自分の要望を強く主張している。ハウサでは夫は世帯ニーズの全てを供給する事と考えられており、妻は世帯ニーズの充足について夫に強く訴える正当性がある。夫が世帯ニーズを満たさない事は正当な行動とはみなされない。実際には、夫の中には世帯ニーズを十分に供給出来ず、食料や他の日用品の不足を補充するために定期的に妻から現金を借りるものもいる。このような夫は現金を得れば妻に返金しているが、夫の妻に対する依存は次第に蓄積されている。妻にとっては食料や日用品が十分にある事は、女性のホームメーカーとしてのジェンダー役割を遂行するために必要である。それは「*Matsayi mace*」と呼ばれる女性の地位と、家事をきちんとする良い妻としての評判を保つためにも必要である。

一方で、ハウサの既婚女性は隔離を実践するため、外出の際に夫から許可を得なければならない。そのため夫が妻の外出への要望を拒否する事には正当性がある。女性にとって結婚式や命名式のようなセレモニーへの出席は､親戚や友人､近所の人達が一堂に集まり、情報を交換し、経済活動の宣伝をする等重要な場となっている。両親や親戚、友人を時々訪問する事も、困った時に助け合える相互の関係を築くために必要である。妻は外出許可を得られるかは夫の寛容さに左右される。そこで多くの妻は夫に対してあらゆる手段で自分の要望を通してもらえるよう懇願するアプローチを取っている。

表 6－3　夫妻の日常の話し合い

話題	話し合う内容	話し合う方法・契機	夫妻で異なる意見の例
子どもの教育	学校の選択、進学の有無、勉強の進捗、教育費の捻出、必要な文具の購入	互いの親戚・知人から情報収集し、情報交換、相互に相談	相互にほぼ同意
世帯ニーズ充足	1 カ月の食料・日用品の購入 食料・日用品不足の際の対応	夫が妻に相談・尋ねる 妻が夫に不足を報告、対応を提案	夫が妻に相談しない、妻の不足要求に夫が対応しない例
妻が病院に行く	妻・子どもが病気の際の対応 夫の同伴、交通費・薬代捻出	妻が夫に具合が悪い事を報告	夫は妻の病院行きを承諾・支援/　ほぼ同意
土地・家屋・家畜の購入	家畜の購入・売却の相談 土地・家の購入計画を相談	相互に購入・売却を相談	相互にほぼ同意 別財産で争点無し
妻の外出許可	結婚式等セレモニー出席・親戚訪問のため、妻が外出許可を夫に求める	妻が夫に依頼・懇願	不必要な外出・頻繁すぎると夫が判断し許可しない例

（34 人の夫妻の回答を基に筆者作成）

これまで見てきたように、夫妻間で何の話題をめぐって意思決定するかによって、妻が取るアプローチは異なっていた。又妻のアプローチは、妻によっても異なる。夫に対して説得したり懇願したりして自分の意見を夫に伝える妻もいるが、一方で、黙って自分の意見は言わず夫に従う妻もいる。ハウサ社会では妻が夫と議論する事は妻に期待される行動ではない。ハウサの婚姻関係では妻は夫に従う事とされ、夫に同意する事を当然視されている。つまり「夫に同意しない」という妻の行動には正当性がない。しかし「夫に従う」というジェンダー規範に挑戦する妻もいる。「世帯内で話し合い、決定が必要とされる時に夫と異なる考えを持っていた場合」、妻によって異なる対応をしていた。

夫と継続的に話し合う

夫妻で話し合って対応を決めている事例がある。

> 「夫と意見が異なる際は、夫に対して平和に、私の意見を説明して説得します。『これが私の意見で、これを提案します』、と説明します。夫にお金がある事が分かるまで待ち、お金がある時に提案します。大抵は同意してくれます（妻 2）」
>
> 「私達はお互いに理解出来るように話し合います。私は冗談を言って笑わせたり、おいしい料理を作ったりして彼に良い決定をしてもらう（妻 7）」
>
> 「夫と意見が違う時は、どちらの意見が重要であるか 2 人で話して、どっちがよいか考えます。夫の意見がよければ従います。夫に理解してもらうためには、夫が同意しない時、少しずつ話して、どうして重要なのか説明し、提案する理由をいいます（妻 20）」
>
> 「夫にアドバイスします。夫が仕事から戻り食事が終わり何もかもちゃんと終わってから、『あなたの意見は、こういう理由でよくないので、変えた方がいいと思う』という。夫は大体同意してくれます（妻 5）」

これらの事例の妻は夫と異なる意見の際に夫に自分の考えを説明している。ハウサの既婚女性は夫と議論しない事が期待された行動ではあるが、実際にはこれらの妻は夫と継続的に議論し、コンセンサスを得るまで議論している。夫妻で議論した末に夫が妻に同意しない場合であっても、妻は夫を説得しようと試みている。夫に賛同されやすいよう、まず話しやすい時間や夫の機嫌がいい時を見計らい、料理や飲み物を差し出して、夫が話を聞いてくれるような場作りをしている。そして反対の理由を示したり、丁寧に話したり、自分の考えを夫に理解してもらうよう対応している。このように妻は夫に対して、自分の考えを納得してもらうよう様々な戦略を取っている。

夫の反応によって妻は対応を変える

妻は夫と話し合おうと試みるが、話し合えるかは夫の態度次第である事例もある。

> 「夫に理解してもらうためには夫に懇願し、丁寧な言い方で、何々が必要、何々

したいと説得します。夫と意見が違えば自分の意見を諦め夫に従います（妻 21）」

「夫に分かってもらうには、自分のベストを尽くして、夫に提案の重要性を話します。おいしい料理を作ったり、ジュースを持ってきたりします。それでも夫と意見が違う時は、自分の意見を諦めて夫に従う。そして夫に謝ります（妻 31）」

「丁寧に、親切に愛情を示しながら説得します。時々意見が違いますが、その際は夫に従って同意します（妻 13）」

「自分が過去にした過ちをまず夫に謝ります。それから膝を曲げて体を低くし、私の考えを説明させてくれるよう懇願します。全ては夫の寛容さ次第です（妻 18）」

これらの事例では、妻は夫の意見に賛成出来ない事や自分の提案を夫に告げると決心している。しかし夫が妻の態度に不満そうに見えるとすぐに、自分の考えを伝える事を諦めている。夫は妻の要望を拒否する事もあるので、妻は夫に拒否されないように懇願したり、出来るだけ妻自身の望む状況が得られるように遜ったりする。

又、これらの事例では、妻は夫の機嫌や態度に応じて行動している。妻は夫に賛同されやすいように話しやすい機会を伺い、食べ物や飲み物で夫の機嫌を良くしようと努める。「夫に過去の望ましくなかった行動をまず謝る」「夫に跪いて願いを聞いてくれるよう頼む」と、夫との力関係が明らかに上下関係であり、「妻の要望が聞き入れられるかどうかは夫の寛容さ・慈悲に依存する（KI5）」。

妻は不満だが夫に従う

妻は夫の考えや決定に対して不満であるが、その不満を夫に伝えていない事例がある。

「もし私が夫の決定に不満があっても、私はただ黙っています。何も出来ません。何とかしたいと思いますが、出来ないと分かっています。夫の意見に同意するしかありません（妻 3）」

「自分の意見は諦めて夫に従います。家の事、夫と自分の個人的な事で過去に同意出来ない事がありました。私は自分の意見は諦めて夫に同意するようにしています（妻 15）」

「夫と意見が違えば、自分の意見を諦めるしかありません（妻 4、11、29 他）」

これらの事例では妻は夫に自分の不満を告げる事を諦め、夫とコミュニケーションをとり話す事もないように見えた。これらの妻は自分達の経験の例を話す事も少なかった。彼女達は現状に不満を持ちながらも、自分達の不利な地位を諦めて受け入れている。自分の要望を何とか叶えようという姿勢は感じられず、「無駄な行動はしない」「どうせ夫は聞いてくれない」と、不満を持つ現状を変えようという考えは妻達の語りの中にはなかった。それよりも、不満であっても夫との争いを回避し、夫に抗議する事もなく夫に同意している。

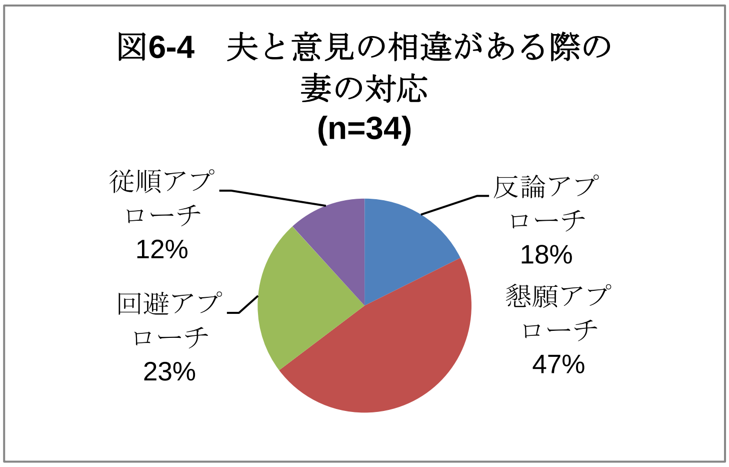
妻は不満なく夫に従う

妻は常に夫の決定に従い、夫に不満も持たないという例もある。

> 「妻とは常に夫に従わなければならない。妻は同意しなければならない。私達の結婚の規則として、夫に従う。従わないのは、社会や宗教に反する事になる。私は夫と異なる考えを持つ事はありません（妻 6）」
>
> 「私は夫の決定で何の問題もありません。夫が決めた事が何であれ、それに従います。お互いに何の問題もありません（妻 12）」
>
> 「いつも夫の意見に同意します。それはコーランに従った事です。同意出来ない事はありません（妻 33）」

これらの事例では、妻は例外なく夫に同意し何の不満もなく夫に従うと語っている。妻は自分が同意するしないを考えるより、夫に従うものという社会通念を優先している。そのため妻にとっては夫の決定に同意し従う事は自然な事であり、妻は自分の状況に満足していると語る。

前述の妻の語りは、「夫と異なる意見の際の対応」という状況において、妻によって夫への対応が異なる事を示している。夫に反論する事、夫に同意しない事は対象社会のジェンダー規範では妻の行動として受容されるものではない。しかしながら、夫に自分の不満を説明し自分の意見を言う妻や、夫の機嫌が良ければ説明するという妻もいた。又、ジェンダー規範に従い、不満であっても沈黙を守る妻や、常に夫に同意するという妻もいる。世帯内の意思決定に際して妻が夫の意見に賛成出来ない場合の対応として、前節で見てきたように 4 種類のアプローチが観察出来た。これらを次のように名付ける事とする。1) 継続的に夫と議論をするアプローチを「反論アプローチ」、2) 夫の態度を見ながら対応するアプローチを「懇願アプローチ」、3) 夫に不満を持ちながらも夫に従うアプローチを「回避アプローチ」、4) 夫に不満を持たず従うアプローチを「従順アプローチ」とした。図 6-4 は調査した 34 人の語りを分類した結果である。半数近くが「懇願アプローチ」を取っており、夫の機嫌や態度を観察して自分の対応を決めている。



（筆者作成）

既に述べたように、「世帯ニーズの充足」「外出の許可を求める」以外の話題に対して、ハウサ社会のジェンダー規範において「妻の正当な行動」と認識されるかにより、妻は異なるアプローチをとり夫に対応していた。「夫と異なる意見を持つ」という、ハウサ社会のジェンダー規範に反しており、妻に正当性があるとみなされない状況における対応でも、妻によってアプローチが異なる事も明らかになった。「夫と異なる意見の際の対応」により 4 種類のアプローチに分類した 34 人の妻が、「世帯ニーズ不足を伝える際の対応」「外出許可を求める際の対応」について、どのアプローチを選択するか検討する。

図 6-5 は、「妻が夫に外出許可を求める時の対応」、「妻が夫に世帯ニーズ不足を伝える時の対応」について、それぞれ妻がどの対応アプローチを選択するかを示している。世帯ニーズの不足を伝える際は、44%の妻が反論アプローチをとっている[37]。「夫が学費を一度に払おうとしないので、私が一度に払うようアドバイスした（妻 22）」「お金がなくても家に食べ物がある状態にするため、お金が入ると食料を買うように提案する（妻 32）」。「食料が足りない事を夫に伝える。夫が支出出来ないと言うので、自分で出している。夫は返金する（妻 13）」。又、47%の妻は「懇願アプローチ」をとり[38]、例えば「医療費や交通費等が必要な時はその都度夫に支出してくれるように頼みます（妻 33）」「食料や石鹸が足りなくなれば夫に伝える。（妻 15）」というように、世帯ニーズの不足の度に妻は夫に伝えている。

親戚の訪問や結婚式等のセレモニーへの出席は女性にとって、親戚や友人・近所の女性達と交流しギフトを交換して社会ネットワークを構築するための重要で楽しみなイベントである。しかしほとんどの妻が夫に許可されなかった経験を持つ。妻の 71%は夫に話を切り出すために、イベントよりも前もって話す、夫の機嫌のいい時を見計らう等「懇願アプ

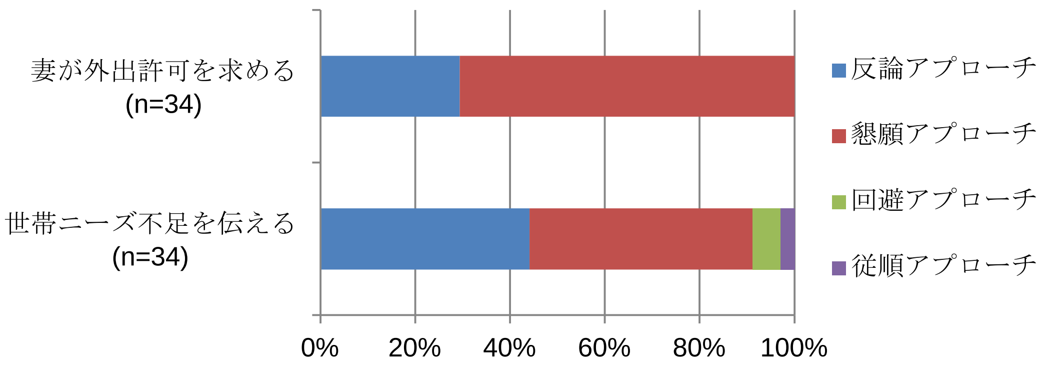
---

[37] 世帯ニーズ不足を伝える時の対応については、不足分を夫が支出出来ない際に、「妻が立て替える」という例が見られるが、夫が「支出しない」とする場合に、妻が「夫にお金がないなら立て替える」と伝えているため、「反論アプローチ」とした。

[38] 世帯ニーズ不足の際の「懇願アプローチ」は、不足を夫に「伝える」「頼む」だけで、夫と異なる意見を提案したり、不足分を支出するように強く迫ったりという場合は「反論アプローチ」に分類した。

ローチ」を選択している。夫に反対されても、時間をおいて再度夫に許可を求めて反論する妻も 29%になる。この親戚訪問・セレモニー出席への外出許可に関しては、「回避アプローチ」も「従順アプローチ」も見られない。

図6-5　夫との話し合う内容による妻の対応の相違
(n=34)



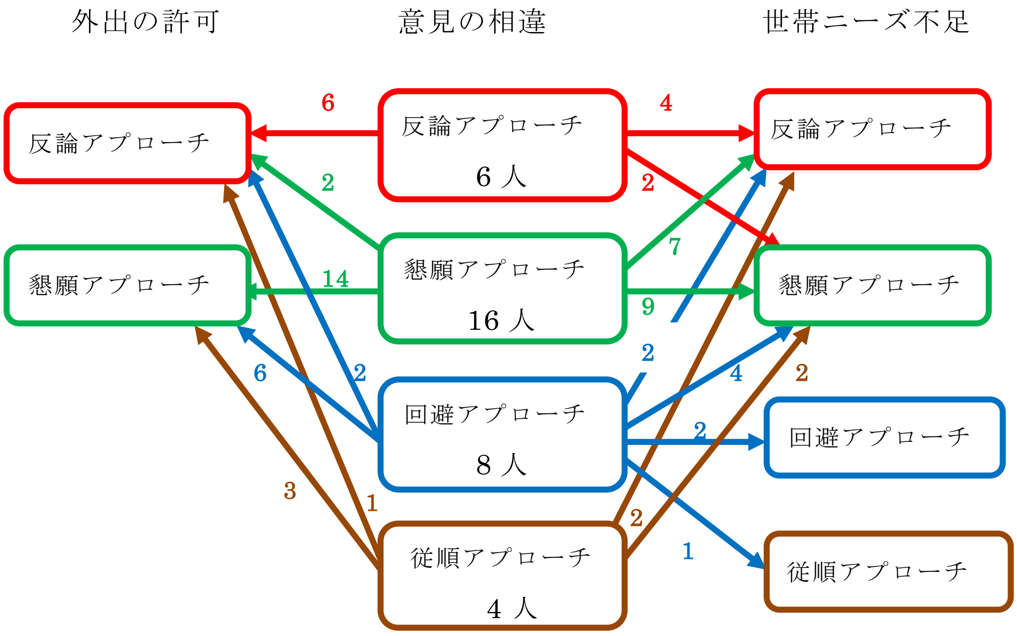
（34 人の妻の回答を基に筆者作成）

次に各人が話し合う内容により、どのようにアプローチ選択を変えているのか検討する。「夫に従う」を最も基本的なジェンダー規範とするハウサ社会において、妻にとって正当性のない状態である「夫と意見の相違がある（図 6-4）」を起点とし、妻に正当性のない「外出する」事を夫の判断で認められる可能性がある「外出の許可を得る」事、「世帯ニーズの供給」という夫として最も基本的なジェンダー規範を満たしていない場合に、妻に正当性があるとみなされる「世帯ニーズ不足を伝える」について、どのアプローチへ移動しているか示す（図 6-6）。反論アプローチの 6 人のうち 4 人は、どの質問でも反論アプローチを選択し（妻 1,2,7,22）、他の 2 人も世帯ニーズ不足の要求のみ懇願アプローチである（妻 5,20）。懇願アプローチの 16 人は、外出の許可を得る際も、世帯ニーズ不足を伝える際も、懇願アプローチを選択するか、反論アプローチを選択するかのいずれかで、夫に意見を言わない回避アプローチや、異なる意見を持たない従順アプローチを選択する例はない。回避アプローチの妻 3 は、外出の許可を得る際は懇願アプローチを選択するが、世帯ニーズ不足を伝える際は回避アプローチを選択し、夫に対してほとんど自分の要求を伝えられていない。回避アプローチと従順アプローチは話し合う内容により異なるアプローチを選択している例が多い。従順アプローチは、「夫と意見の相違がある際の対応」に対して、宗教や文化を根拠に、「夫と異なる意見を持つ事を考えない」「夫の意見に従うだけ」と回答していたが、具体的な話し合いの内容になると、「1 回目に夫が外出を許可してくれなければ、夫が穏やかになるまで待って、機嫌がいい時に少しずつ説明します。早めに話し、外出の重要さを話し外出の目的を丁寧に説明して説得します（妻 33）」と反論アプローチを選択する例もある。「夫と異なる意見を持たない」とハウサの妻として正当とみなされる回答をするものの、実際に「外出の許可」「世帯ニーズの要求」においては従順アプローチを選択

していない。

34 人の妻のアプローチの移動を見ると、16 種類のアプローチの移動がある。例えば、「夫との意見の相違—外出許可—世帯ニーズ要求」の順番で見ていくと、「反論—反論—反論」というアプローチを取る例、「反論—反論—懇願」「懇願—懇願—反論」等である。このように同じ女性が、話し合う内容によって異なるアプローチを使って夫と話し合っている。回避アプローチ、従順アプローチには回答にばらつきがあるものの、反論アプローチと懇願アプローチという、方法は異なるが「夫に自分の意見を伝える」というアプローチを選択する妻達は、話し合う内容が異なる時でも、反論か懇願という「夫に自分の意見を話す」というアプローチを選択する事が分かった。

図 6-6　話し合う内容によるアプローチ


外出の許可
意見の相違
世帯ニーズ不足
反論アプローチ
反論アプローチ
6 人
反論アプローチ
懇願アプローチ
懇願アプローチ
16 人
懇願アプローチ
回避アプローチ
8 人
回避アプローチ
従順アプローチ
4 人
従順アプローチ
6
4
2
2
14
7
9
6
2
2
4
2
2
3
1
2
1

（数字は人数を表す。筆者作成）

懇願アプローチは夫の機嫌や反応を見て自身の次の行動を考えているが、「外出の許可を得る」という話題に対しては、懇願アプローチを選択する妻が、「世帯ニーズ充足の要求」よりも多い。「既婚女性は外出しない」という伝統的なジェンダー規範があるものの、結婚式等セレモニーに出席したり、親戚・知人を訪問したりする事で、女性は社会ネットワークを築き、自身の経済活動の宣伝や情報交換をするため、「外出の許可を得る」事は女性にとって重要である。「外出すべきでない」という規範と、一方で女性も世帯に経済貢献する方が望ましいという新たなジェンダー役割、及び、婚姻関係の破綻や夫の経済力を頼れない事態に備えて親戚・知人と相互扶助関係を築く必要がある状況という両者の間で、女性の態度が定まらない。女性は夫の機嫌や対応を見て、外出の許可を求めたり、外出の機会

を見送ったりという「懇願アプローチ」の選択に繋がっている。

6-2-3　夫妻の話し合う環境に影響する夫の対応

夫は妻の要望や意見に同意出来ない時、どのように対応しているか、夫の語りから分析する。回答のあった 21 人のうち 18 人が、同意出来ない事が日常生活であると述べている。同意出来ない事として、「自分にお金がない時の妻からの金銭的要望」「妻の不要な外出願い」「妻の述べる意見が適切でない」が挙げられた。

妻と話し合う

妻と意見が異なる際、「妻と話し合う」という事例がある。

> 「私は妻が私の意見を理解しているかどうか見ようとします。そうすれば同じ意見を持つ事が出来ます。妻と意見が違えば、まず話し合います。私が妻に同意する事もあります。誰か他の人に問題を知らせず、私達の問題を解決しています（夫 18）」
>
> 「妻が身勝手な意見を持ってきた時には同意せず、妻にアドバイスし、忍耐をもって話し、しばらく後になって話し合い、解決する方法を見つけていきます（夫 23）」
>
> 「妻が何か提案したり私と異なる考えを持ってきたりしたら、まず私はその意見が自分にとって良いかどうか考えます。良い意見であれば同意し、良くなければ同意しません。まず 2 人で良く話し合います。2 人で解決出来ない問題はありません（夫 24）」

これらの夫は、「他の人に問題を知らせない」「2 人で解決出来ない問題はない」と、夫妻間での意見の相違に対して、妻と 2 人で解決しようとしている。その方法として「妻が理解しているか見る」「忍耐をもって話す」「しばらく後に話す」「良く話し合う」と、妻と時間をかけて話し合う姿勢がある。又、「私が妻に同意する」「良い意見であれば同意する」と、必ずしも夫自身の意見を押し通す事はなく、妻の意見も良いかどうか検討している。

下記の表 6-4 は夫が妻と意見が異なる際に「話し合う」という選択をしている事例において、妻は意見が異なる際にどのような対応をしているか、又「世帯ニーズ充足」「外出許可」についてどのアプローチを取っているか妻の語りからまとめたものである。妻が夫と意見が異なる際の対応では、「反論アプローチ」と「懇願アプローチ」だけである。「世帯ニーズの充足」に対しては、どの妻も要望を夫に伝え、「外出の許可」に対しては、夫の態度次第で「諦める」という対応をとる妻もいる。

表6-4　妻と話し合う夫への対応

ID	意見が異なる際の夫の対応	意見が異なる際の妻の対応	世帯ニーズ充足へのアプローチ	外出許可へのアプローチ
夫妻2	妻と話し合う	反論アプローチ	夫に反対し自分の意見を説明し説得する	外出したいと言う。夫はNOと言わない
夫妻5		反論アプローチ	食料が不足すれば夫に言う	外出したいという。夫はほぼ同意する
夫妻10		懇願アプローチ	食料・日用品が足りないと夫に言う	夫の機嫌を見て夫に外出の重要性を説明し許可を頼む
夫妻16		懇願アプローチ	夫にお金が足りなければ自分で支出する	夫が仕事から戻った時に頼む。許可しない時は放っておく
夫妻18		懇願アプローチ	不足分を夫に頼む	夫に外出許可を頼む。許可する・しない時も
夫妻23		懇願アプローチ	食料・日用品の不足を夫に言う	夫の機嫌が良い時に頼む。ダメなら諦める
夫妻24		懇願アプローチ	食料・日用品の不足を夫に言う	夫に頼む。頻繁だと夫は許可しない

（34夫妻の回答から筆者作成）

他者に相談する

妻と意見が異なり、2人で解決出来ないと判断すると、親戚や友人、年長者等の「他者に相談する」という事例もある。

> 「何か妻と意見が分かれ、2人で解決出来ない問題は年上の親戚の所へ行きアドバイスをもらいます。妻の方も、時々、親戚の所でアドバイスをもらうようです（夫32）」
>
> 「2人の意見が異なったり、妻が理解出来ない要望を持ってきたりしたら、まずは妻の両親に知らせます。そして妻の両親から妻に話してもらいます（夫19）」
>
> 「妻と意見が違い合意出来ない時は、私の両親や親友に相談します（夫1、3他）」
>
> 「妻が必要ない外出を要求したり、頻繁に親戚を訪問したいと言い出したりすれば妻に同意出来ません。イスラームに反する事を言えば同意しません。私の能力を超える要求をしてきても反対します。このような場合、イスラームの学者に相談します。又私の母親が同居しているので、母親にも相談します（夫28）」

これらの事例では「2人で解決出来ない」「妻の理解出来ない要望」「イスラームに反する」「私の能力を超える要求」と、妻の要望や意見をめぐって、夫は夫妻では話し合っても解決出来ないと判断している。そして「年上の親戚」「両親」「妻の両親」「親友」「イスラームの学者」といった他者に解決策を委ねている。これらの夫は、1)の事例と同様に、まずは夫妻で話し合っている。しかし1)の事例と異なり、夫妻で何とかしようと継続して

夫妻で話し合う事はなく、夫が「解決出来ない」と判断し他者のアドバイスを求めている。

下記の表 6-5 は夫が妻と意見が異なる際に「他者に相談する」という選択をしている事例において、妻は意見が異なる際にどのような対応をしているか、話題によるアプローチの違いをまとめた。妻が夫と意見が異なる際の対応では、4 つのアプローチ全てが見られた。「世帯ニーズの充足」に対しては不足を夫に伝えアドバイスする例もあれば、何も出来ないと諦めている例もある。「外出の許可」に対しては、夫に伝えるだけで許可を得ている例もあれば、夫に頼んでも許可されない、諦めるという例もある。

表 6-5 他者に相談する夫への対応

ID	意見が異なる際の夫の対応	意見が異なる際の妻の対応	世帯ニーズ充足へのアプローチ	外出許可へのアプローチ
夫妻 1	親戚・友人・年長者等他者に相談する	反論アプローチ	夫の収入用途に反対し世帯ニーズ不足に使うようアドバイスする	外出予定を事前に夫に知らせる。夫は許可する
夫妻 3		回避アプローチ	夫と収入用途を話し合えない。何も出来ない。諦めている	夫の機嫌が良い時に事前に頼む。夫は許可しない時もある
夫妻 19		回避アプローチ	食料・日用品の必要な事を夫に話す	夫に外出許可を頼む。夫は許可しない事もある
夫妻 28		懇願アプローチ	二人で家計簿をつける。食料や日用品の必要を夫に話す	夫の機嫌が良い時に頼む。ダメであれば諦める
夫妻 30		懇願アプローチ	夫にお金がある時に食料を買うようアドバイスする	夫に外出許可を頼む。夫は許可しない事もある
夫妻 32		従順アプローチ	夫にお金が入ったら食料を買うようアドバイスする。	夫に外出許可を頼む。夫は許可しない事もある
夫妻 34		回避アプローチ	夫はニーズを聞いてこないが、夫が買ってくるもので十分。何も言わない	夫においしい料理を出し、外出許可を頼みます。許可しない事もあります

（34 夫妻の回答から筆者作成）

妻と話し合わない

妻と意見が異なる際に、妻と話し合ったり、他者に相談したりという方策を取らず、妻と話し合わないまま妻の要求や意見を拒否するという事例もある。

> 「妻が何か意見を言ってきて、それが良いものでなければ同意しません。そのような時は妻と話しても解決にならないので、話し合いません（夫 26）」
>
> 「私に十分にお金がなくて、妻の要求や意見に対応出来ない時は、妻に同意しません。そのような状態で妻の頼みは聞き入れられません。妻と話し合わず放っておきます（夫 15、25，27）」
>
> 「妻が、あれが必要、これが必要とリクエストしてくるが、私は相手にしません。月末にお給料をもらうまで、妻の要求には同意しません（夫 22）」

これらの事例では、夫は「話しても解決出来ない」「対応出来ない」「聞き入れられない」と、妻からの要望や意見をあまり検討する事なく「同意しない」「放っておく」という決定をしている。多くの場合「経済的な理由」で妻の要望を断っている。夫の語りからは妻の要望がどのような内容なのか分からないが、妻が「世帯ニーズの充足」を要求していて、夫が妻の要求を「無理な要求」と捉えている可能性もある。

下記の表 6-6 は夫が妻と意見が異なる際に「話し合わない」という選択をしている事例において、妻は意見が異なる際にどのような対応をしているか、まとめたものである。妻が夫と意見が異なる際の対応では、「反論アプローチ」はなく、「回避」と「懇願」だけである。「世帯ニーズの充足」「外出の許可」への要望に関して、妻は「諦める」という対応をとっておらず要望を伝えている。

表 6-6　妻と話し合わない夫への対応

ID	意見が異なる際の夫の対応	意見が異なる際の妻の対応	世帯ニーズ充足へのアプローチ	外出許可へのアプローチ
夫妻 15	経済的理由で妻の要求に応じない 妻と話し合わない	回避アプローチ	食料や日用品が足りなければ夫に伝える	夫と話している際に頼む。夫が同意しなければ再度頼む
夫妻 22		懇願アプローチ	夫に教育費を一度に払うようアドバイス	夫の機嫌がいい時に許可を頼む。夫は時々許可する
夫妻 25		懇願アプローチ	子どもの学費を間に合わせて払うよう要求、本を買うよう要求	夫が機嫌のいい時に頼む。夫は時々許可する
夫妻 26		回避アプローチ	夫が買わないのでコメと豆で料理を作る	夫に頼めば、いつでも同意する
夫妻 27		懇願アプローチ	食料や日用品がなくなれば相談する	夫に外出予定を話し許可を頼む。夫は時々許可する

（34 夫妻の回答から筆者作成）

夫妻が話し合う環境を持つためには、「相互の理解があり、いつでも妻と話し合う」と

いう姿勢が夫にある場合であり、この環境が整えば妻がより意見を述べやすい。「お互いの理解が必要。夫が妻を信頼する事が必要で、妻のする事に疑いを持たない事（KI6）」「いつも妻の言う事に耳を傾け、妻と何でも話す男性（KI8）」と、夫が妻と話し合う場を持つ姿勢を見せている事が必要である。妻は夫の対応を観察して自身の対応を決めているため、夫の対応は妻のとるアプローチに影響する。

6-3　夫妻間の話し合いと背景の特徴

本節では、各アプローチから夫妻の話し合いの事例を取りだし、前節で見てきたアプローチごとに、夫妻の間にどのような特徴があるか分析する。尚、調査対象 34 世帯の中で話し合いに関する質問の回答を得ている対象は、妻は 34 人だが夫は 21 人だけである。このため、夫に回答のある世帯の中から各アプローチ 1 例ずつ事例を抽出した。又第 7 章でも事例として取り上げるため、夫の収入や世帯ニーズ支出額等の回答のある事例を優先した。

反論アプローチの例

事例 1 は夫妻双方の発言から、この夫妻が話し合う機会を日常に持ち、夫が妻の能力や世帯への経済的貢献・親戚への貢献を認めている事が分かる。又、夫が妻の外出に同行したり、結婚式出席のためにお金を与えたり、妻へサポートを与えている事も分かる。妻は「夫がNOと言う事はあまりない」「夫にお金がある時期まで待つ」等、夫の行動を推測しながら自分の行動を決めている事も伺える。夫が妻の行動を規制するような権威を示す事もなく、妻にまとまった現金を託す[39]事から、良好な関係を保っていると推測出来る。

事例 1（夫妻 2）　妻 24 歳、夫 35 歳、子ども 3 人、拡大家族の同居なし

妻：いつも夫と話します。夫は私にいくら必要か聞いてくれます。私が必要な物のリストを作り、夫が N1,000 を毎日渡してくれます。お釣りは他の用途に私が保管します。外出については、結婚式はとても価値があるので、それに出席したいと夫に伝えます。祖父母が村にいるので会いに行く時に夫に伝えます。夫は祖父母の村に一緒に行く事もあるし、結婚式出席のためにお金をくれる事もあります。夫が私に NO と言う事はあまりないです。夫と意見が異なる際は、夫に対して平和に、私の意見を説明して説得します。これが私の意見で、だから、これを提案します、と説明します。夫にお金がある事が分かるまで待ち、お金がある時に提案します。大抵は同意してくれます。

夫：私の給料をどう使うか、特に食料に関しては、妻が誰よりもよく家のニーズを知っているので、妻と話し合います。妻に、何が必要か聞きます。私の妻は世帯に貢献していま

---

[39] 夫が妻にまとまった現金を託す事は珍しく、34 世帯のうち 5 世帯のみである。

す。時々妻はマギーやお菓子等を買っています。女性も世帯に貢献すべきです。特に夫にお金が無い時に、夫が誰か他の人からお金を借りる代わりに、妻からお金を借りる事が出来ます。妻は私の親戚を助けます。掃除や洗濯を代わりにしています。

懇願アプローチの例

事例2は、妻も夫も相互に理解し合おうと努めているが、妻の行動を規制する権威を夫が示し、妻の側は夫の権威を尊重しようと遜り、妻は夫に自分の意見を伝えてはいるものの、意見しづらい状況である事が分かる。夫が妻に許可を与えたり与えなかったりするため、妻は常に夫の機嫌を損ねないように行動する。夫は食料や日用品の購入について妻と話し合うと述べているが、妻は話し合わないと言い、夫妻間で言い分が一致していない。

事例2（夫妻18）：妻30歳、夫50歳、子ども5人、拡大家族の同居なし

妻：お互いに理解するように努めます。もし何か過去にあったら、それをまず謝ります。それから丁寧に自分の意見を伝えます。「ごめんなさい、これが私の言いたい事です。だから、これを提案しています」と伝えます。例えば結婚式への出席が頻繁だと、夫がダメといいます。家にいるようにといわれます。夫は許可する事もしない事もあります。夫の収入用途は話し合いません。月末に夫が食料を買って渡してくれます。子どもが自分の所に来て、新しい本やユニフォーム等、PTAとか必要な物を言うので、私がそれを夫の所に行って頼みます。

夫：私は妻が私の意見を理解しているかどうか見ようとします。そうすれば私達は一つの意見を持つ事が出来ます。時には私は妻の意見に同意します。時々、私が世帯ニーズのための十分なお金がなくて問題を抱える事があります。私達は自分達の問題を解決出来ます。誰か他の人に問題を知らせる事なく、問題を解決する方法をとっています。

ほとんどの場合、私達は食料や子どものニーズ、服について話し合う。私達は子どもの教育について、どうすれば教育が向上するか、どう育てるか、質のよい教育を与えるにはどうすべきか話します。

回避アプローチの例

事例3では、夫妻の間に話し合う機会があまりなく、妻の立場が弱い事が分かる。妻が夫に話す事は何かを夫に依頼する時で、その際にも過去の出来事を謝る事から始めている。夫と意見が異なれば夫に従うだけである。夫は妻と収入用途を話し合う、親戚訪問の際は許可すると答えているが、妻の言い分とは一致しない。

事例3（夫妻15）妻20歳、夫40歳、子ども1人、夫の両親・兄弟と同居

妻：夫の収入の用途は話し合いません。ただ毎日、夫が仕事で外出した時に必要な物を買

ってきます。石鹸、食料、化粧品と、口頭で夫に必要な物を伝える。夫に何かを話す際には、以前に夫と理解しあえない事があったら、それについて最初に謝ります。夫と意見の相違がある時は、自分の意見は諦めて夫に従います。以前は家の事、夫と自分の個人的な事で同意出来ない事がありました。外出したい時は、夫に許可してくれるよう頼みます。両親を訪問したいと言った時に夫が同意しませんでしたが、もう一度訪問理由を説明して、結局夫は同意してくれました。

夫：私の収入をどのように使うか妻と話します。私が全ての食料を買っていて、十分なほど買っている。自分に十分にお金がなく妻に上げられない時には、妻の要求に同意出来ない。親戚を訪問する事に関しては妻に許可を与えている。

従順アプローチの例

事例4は、妻が必要な物を夫が全て与えているような状況である。妻が外出する際には夫が許可を与えない事もあり、夫の権威が示される。しかし妻は物質的に必要な物をいつも与えられているので、特に不満も抱かず、夫の決定に従うのは当然と捉えている。子どもの教育について、必要な食料について夫妻で話し合っている。夫妻双方とも、お互いに何の不満も問題も挙げられない。

事例4（夫妻6）：妻38歳、夫55歳、子ども9人、夫の両親と同居

妻：食料が足りなくなれば夫に、食料が足りないから、あれとこれが必要と話す。そうすると夫が用意する。又は、夫の方から食料は足りているか聞いてくる。自分や子どもが病気になれば、夫に話す。夫は病院に行く交通費や必要なお金をくれる。夫がいない場合は自分で出すが、夫は後で返金してくれる。羊、山羊、鶏を飼っていて、それを買う時に夫と話し合った。夫がコンパウンドの中の敷地を家畜用にくれて小屋を作ってくれた。村にいる祖父母を訪ねたり、セレモニーに出席、病気の人を訪ねたりする際には夫に相談するが、時々、夫は許可しない。夫と子どもの学校の成績をチェックし、ユニフォーム、学費について、どう払うか等話しあう。私達の結婚の規則として、夫に従う。従わないのは、社会や宗教に反する事になる。妻は同意しなければならない。いつでも夫が言う事に従い、夫と違う意見を持たない。

夫：子どもの教育についてどんな問題があるか、子どものニーズは何か、どんな本、テキスト、ノートが必要か等妻と話し合う。親戚を訪問する事に関しては、妻に許可を与え、時々は交通費をあげます。

夫妻の関係性によるアプローチの違い

前節では世帯内の話し合いにおいて、1)「世帯ニーズの充足」「外出許可」という話し合う話題によって、妻は異なるアプローチを取る、2)「夫と意見が異なる」という状況では、妻によって異なるアプローチを取る、という事が明らかになった。

本節では4つの話し合いアプローチ別に各1夫妻の事例を取り上げ、その特徴を分析した。各アプローチで1組の夫妻の事例だけではあるが、夫妻の関係性により妻は異なるアプローチを取っていた。「反論アプローチ」では夫妻間に話し合う機会が日常にあり、夫が妻の世帯への貢献を認めており、妻が夫に発言しやすい状況である。「懇願アプローチ」では、妻は常に夫に自分の意見を言える関係性ではなく、夫の機嫌や態度を観察し、自身の経験から夫が話を聞いてくれそうな場合にのみ夫に要望を伝えていた。「回避アプローチ」では夫妻間に話し合いの機会は少なく、妻が夫に発言しにくい状況である。妻も夫に自身の要求を伝える事は過去の経験から諦めている。「従順アプローチ」ではハウサの伝統的な婚姻関係である「夫が全てのニーズを供給する」事が実践され、妻は夫に不満なく従っている。妻が要求しなくとも夫の方が妻に不足がないか聞いている。

下記の表6-7は、話し合いのアプローチ別に「世帯ニーズの充足」「妻の外出への許可」をめぐる話し合いに夫妻がどう対応しているか、各アプローチの特徴をまとめたものである。

表 6-7 話し合いアプローチ別の夫妻の対応事例

	世帯ニーズの充足	妻の外出への許可	アプローチの特徴
反論アプローチ 事例 1 （夫妻 2）	• 夫が妻に必要な物を聞く • 夫は妻に毎日現金を渡す	• 親戚訪問へ夫が同行 • 結婚式出席に夫が現金をくれる	• 話し合う機会有 • 夫が妻の能力・世帯への貢献を認めている
懇願アプローチ 事例 2 （夫妻 18）	• 夫が月末に食料を買い妻に渡す。夫の収入用途は話し合わない（妻の言い分） • 妻と世帯ニーズの購入を話し合う（夫言い分）	• 夫は許可したり許可しなかったり • 妻は夫の機嫌を損ねないよう振る舞う	• 夫は妻に権威を示そうとする • 妻は意見を言いづらい • 夫妻の言い分が一致しない
回避アプローチ 事例 3 （夫妻 15）	• 夫が食料・日用品を買い妻に渡す。夫の収入用途は話し合わない（妻の言い分） • 妻と世帯ニーズ購入を話し合う（夫の言い分）	• 夫に許可を頼むが同意しない事もある • 親戚訪問の際は許可を与える（夫の言い分）	• 話し合う機会が少ない • 夫妻の言い分が一致しない
従順アプローチ 事例 4 （夫妻 6）	• 妻は食料の不足を夫に話す。夫は不足ないか聞く • 医療費・交通費等必要な物は何でも夫が供給	• 夫は外出を許可しない場合もある	• 夫は世帯ニーズ供給義務を果たし、妻は夫の決定に不満なく従う。夫妻共に何の不満もない

（夫妻 2,6,15,18 の語りを基に筆者作成）

6-4　本章のまとめ

6-4-1 結果のまとめ

本章では副課題2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とはどのようなものか」を明らかにするために、以下の点を検討してきた。

まず第一節では世帯がどのように構成され、世帯内でどのような資源があり、誰と誰の間でどのような資源がやり取りされているのか検討した。その結果、夫妻間、父子・母子間、夫妻とそれぞれの両親・親戚間で様々な資源が日常にやり取りされている事が明らかになった。夫から妻へは、ハウサ社会の婚姻関係の基本である世帯ニーズが供給され、保護や支援、情報も妻に与えられ、夫は日常生活の中で夫の権威を妻に「許可」の形で示す。妻から夫へは、同じように婚姻関係の基本であるケアと夫への敬い・支援・情報が与えられ、現金が渡される事もある。妻は夫に子どもを与える。父子間・母子間では母親から子どもへはケアや躾と共に保護・権威も示される。父親から子どもへは、父親は教育費に責任を持ち、母親同様に保護や権威を示す。子どもから父母へは敬意が示され、様々な場面で労働力が提供される。

妻とその両親・親戚の間では、妻からギフトとしての現金や物、ケアと敬い、家事を代行する等、労働力が提供される。妻の両親・親戚も支援や保護、権威を与える。夫も夫自身の両親・親戚と同様のやり取りをする。夫妻は相互に義両親・親戚へも現金や食料、労働力を提供し、敬意を示す事が重視される。一方で義両親・親戚は親族としての承認を与える。このように物質的資源だけでなく、人的資源、保護や権威・敬いという社会関係資源、情報や知識等の文化的資源が、夫妻・子ども・両親・親戚の間でやり取りされていた。このような資源のやり取りは既存の力関係が影響するが､同時に､資源のやり取りの結果、力関係が変わっていく可能性もあり、資源のやり取りは静的なものではない。

第2節では、世帯内の意思決定プロセスを明らかにするため、夫妻間でどのような話し合いを日常に行っているのか、その話し合いでどのような資源が分配され、話し合いの結果、妻が獲得しうる資源はどのようなものか検討した。夫妻は日常生活の中で､「子どもの教育」「世帯ニーズの充足」について話し合う事が多く、子どもの教育に関しては数ある選択肢の中でどの学校がよいか、子どもの成績や進捗具合、教育費をどう捻出するか等を夫妻で話し合っている。夫妻とも親戚や知人から教育に関する情報を集め、夫妻は情報を交換して子どもの進路を決定したり、教育費の払い方を決めたりしている。ここでは情報と教育費として夫妻の収入が分配されている。そして将来の子どもの労働力と子どもからの敬いという資源を得る可能性がある。子どもの教育に関しては、夫妻の意見が大きく異なる事例は無いため話し合いで争点にはならない。「妻が病院に行く事」に関する話し合いでは、分配される資源として妻の病院行きを許可する夫の権威と交通費や医療費として夫の収入がある。そして話し合いの結果、妻が獲得しうる資源は妻自身の健康である。「土地・家・家畜等大きな買い物」に関する話し合いでは、ハウサ社会では財が夫妻で別管理のため、土地・家・家畜の購入は夫妻それぞれの収入によってなされ、それぞれの財となる。

しかし妻が家畜を購入する場合は夫の許可が必要なため夫の権威という資源が分配される。「妻が病院に行く事」「土地・家・家畜等大きな買い物」に関しても、「子どもの教育」同様に夫妻の意見が異なる事例はなく、夫妻の話し合いで争点になるとは思われない。

「世帯ニーズの充足」に関しては、通常、夫は月に1回、食料や日用品を1か月分まとめて購入し、現物を妻に渡している。妻は渡された食料・日用品で1カ月間のやりくりをする事が期待されるが、どのくらいの食料・日用品が必要なのか夫が把握していない場合もあり、夫が購入した量が適切でない場合がある。食料・日用品が不足した事を夫に話す妻もいれば話せない妻もいた。夫に話す場合には、不足分を補充するように、夫が収入を世帯ニーズに使用するように夫に提言する場合もあれば、夫の機嫌や態度を見ながら遜って頼む場合もあった。妻自身が自分の収入で不足分を買い足し、後に夫が返金する例も見られた。ハウサ社会では世帯ニーズは夫が全て供給する事とされているため、「夫の意見に従う」事を期待されているものの、世帯ニーズ充足を求める妻の行動は正当とみなされる。一方で夫に話さない場合は、「夫に従うしかない」と諦めている場合や、「夫の与える物で十分」と疑問も持たない場合もある。このような「世帯ニーズの充足」に関する話し合いでは、分配される資源としては夫妻それぞれの収入、妻が獲得しうる資源は世帯ニーズが充足された状態であった。

「妻の外出許可」に関しては、結婚式等セレモニーへの出席や両親・親戚を訪問するため外出を希望する妻が多数だが、夫が許可しない場合もある。そこで妻は外出の理由を丁寧に説明したり、夫の機嫌を良くするよう振る舞ったりしている。既婚女性は隔離を実践し、外出には夫の許可を必要とするため、妻は外出許可を夫に強く求める事は正当性のある行動とみなされない。そのため多くの妻は夫に許可してもらうよう遜って頼んでいる。「妻の外出許可」についての話し合いでは、分配される資源としては妻の外出を許可する夫の権威、妻が獲得しうる資源は両親・親戚や知人等の社会ネットワーク、情報、ギフトがある。このように夫妻が話し合う話題によって、分配される資源、妻が獲得しうる資源があり、妻が選択する夫へのアプローチは異なっている。「世帯ニーズ充足」と「妻の外出許可」をめぐる話し合いは、夫妻の日常生活における決定が必要な事として争点となる。

一方「夫と意見が異なる際の対応」という同じ状況において、妻によって異なるアプローチをとる事も明らかになった。「夫に同意しない」というのは、ハウサ社会の婚姻関係において妻として正当性のある行動とみなされない。しかし、夫に自分の要求や意見を伝えたりアドバイスしたりする妻もいれば、夫に自分の意見を告げつつも、夫が不機嫌になれば即座に要求をやめる例、意見が異なり夫に不満でも、夫に従うという妻、夫にいつも従うという事例もあった。「夫と意見が異なる際の対応」の特徴に従い、妻は4つのアプローチに分類され、意見が異なっても継続的に話し合う「反論アプローチ」、夫の機嫌や態度に応じて妻が態度を変える「懇願アプローチ」、夫の意見に不満でも黙って従う「回避アプローチ」、夫の決定に疑問を持たず常に従う「従順アプローチ」と名付けられた。このように妻のアプローチを分類した理由は、妻自身の意見が、より世帯内意思決定に反映されて

いるアプローチに分類される女性の特徴はどのようなものか、他のアプローチに分類される女性と比較して検討するためである。

夫も「妻と意見が異なる際の対応」は夫により異なっていた。まず妻と話し合い「2人で解決する」事を重視する夫は、妻と継続的にお互いの意見を理解するよう話し合っていた。「2人で解決出来ない」と判断し、夫の両親や妻の両親、年長の親戚、親友等他者に相談する夫の例もあった。又、妻からの要望を「無理な要求」「身勝手な要望」と捉え、妻と話し合わないで放っておくという夫の例もあった。妻の対応は夫の対応次第で異なり、意見が異なる際に「妻と話し合う」という対応をする夫に対しては、妻は「反論」か「懇願」というアプローチを意見が異なる際にとっている。「他者に相談」という対応の夫に対しては4つのアプローチ全てが見られ、「妻と話し合わない」という対応の夫に対しては、「懇願」「回避」というアプローチを妻は取っている。

第3節では「反論アプローチ」「懇願アプローチ」「回避アプローチ」「従順アプローチ」から夫妻の話し合いの事例を取り出し、夫妻の間にどのような特徴があるのか分析した。「反論アプローチ」に属する夫妻の例では夫妻双方が話し合う機会を日常に持ち、信頼関係がある事が伺え、双方の言い分にも大きな不一致はない。「懇願アプローチ」に属する夫妻の例では、夫の対応が権威を示したり寛大さを示したりするため、妻は夫の様子を観察して行動を決めていた。「回避アプローチ」に属する夫妻の例では、夫妻の間に話し合う機会が少なく、妻の立場が弱い。「従順アプローチ」に属する夫妻の例では、妻は夫に従う事に何の疑問も感じていなく、夫が夫役割を遂行している事に何の不満もない。

6-4-2 考察

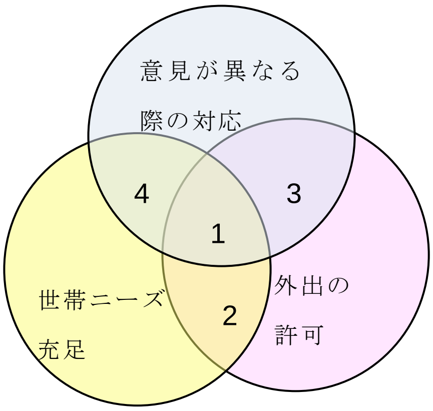
ハウサ社会では女性は意思決定の場から排除されており、世帯内でもコミュニティでも意思決定には携わらない（Callaway 1987, Sada, Adamu et al. 2005）。第4章でレビューしたように、人口保健調査の結果からも、世帯内の日常の買い物、主要な買い物、妻の外出、妻のヘルスケアに関して、夫が決定する割合が90%近く、女性が意思決定に携わっていない事が分かる（NDHS 2008）。このように「世帯内意思決定は夫がする」事になっているが、事例では夫妻が話し合い、妻の意見が世帯内の意思決定に反映される場合もあった。本章で「反論アプローチ」や「懇願アプローチ」と分類した例である。

夫と話し合う内容によっても妻が選択するアプローチは異なっていた。世帯ニーズ充足は夫の役割であると広く認識され、供給に失敗すれば離婚の正当な理由とされる（Adamu 2004）ため、妻は夫に不足を要求する事に正当性があるため反論アプローチを取りやすい。一方、外出の許可は、隔離実践の義務がある妻に対して夫の権威を示す機会であり（Callaway 1987, Sada, Adamu et al. 2005）、妻には強く要求する正当性はないため反論アプローチを取りづらく、外出したいという強い意思もあり、夫からの許可を得られるよう懇願アプローチを選択している。妻は夫の機嫌や対応をみて自身の次の行動を考えていた。これは話し合う話題に対して、妻自身が自身の行動を正当だと認識する、或いは、正

当だとみなされていると妻が認識する程度と、夫の対応が妻の要望を聞き入れると妻が認識する程度によって、妻は夫への要求を諦めるか挑戦するかを判断しているためである。

図 6-7 は「世帯ニーズ充足」「外出の許可」への妻の対応と、「夫と意見が異なる際の対応」の関係性を示している。3 つが重なる「1」の部分は、例えば意見が異なる際の対応として、「夫に自分の意見を言う」という女性が「世帯ニーズ充足」でも「外出の許可」でも自身の意見や要望を伝える場合である。「2」の部分は、例えば夫と意見が異なる際には自分の意見を言うが、「世帯ニーズ充足」は夫に不足分を購入するよう遜って依頼し、「外出の許可」も同様に夫に懇願する場合である。「3」は、例えば「世帯ニーズ充足」は妻に正当性があるので強く夫に不足分の充当を求めるが、「外出の許可」の依頼と「夫と意見が異なる際の対応」では、夫の機嫌を伺いながら夫に自身の要望を伝えようとする場合である。「4」は、例えば「世帯ニーズ充足」や「夫と意見が異なる際の対応」は自身の意見や要望を夫に強く伝えるが、「外出の許可」依頼は、妻に正当性のない行動とみなされるため遜って夫の同意を得ようとする場合である。

図 6-7　妻の夫へのアプローチ



（筆者作成）

このように、何が誰の役割と社会の中で認識されているのか、どのような行動に正当性があるとみなされるのかが、夫妻間の意思決定において妻が取る行動に影響している。しかしハウサ社会において正当性があるとみなされる妻としての行動に従いつつも、「夫に同意せず自分の考えを伝える」というハウサの既婚女性の規範から逸脱した行動をとる事例もみられた。34 人の限られたサンプルではあり、話し合う話題により「反論」したり「懇願」したりという違いはあるものの、「夫と意見に相違がある際の妻の対応」で「反論」に分類された 6 人、「懇願」に分類された 16 人は、「世帯ニーズ不足の要求」でも「外出の許可の要求」であっても「反論」か「懇願」のいずれかのアプローチを取っている（図 6-6）。つまり、これらの妻は夫に自分の要求や意見を伝えており、「夫が妻の意見に影響された決

定をする」という事例もあった。既存のジェンダー規範に従うだけでなく、少しずつ規範を崩し、自身の意見を世帯の意思決定に反映させる例は少ないが生じている。

妻は出来るだけ自身の望むような資源を夫の決定から獲得しようとしている。この資源の獲得に対して、「反論アプローチ」が最も有効である。それは「反論アプローチ」に分類される妻は、夫と話し合う環境が整っており、夫に自分の意見を提案する事で自分の要求を夫が決定する事があるためである。「懇願アプローチ」の妻は、夫の機嫌や態度に夫の決定が左右されていると判断しており、夫の様子を見ながら自身の意見を言う機会があれば、夫に依頼したり提案したりする事で自分の要求を夫が取り上げる可能性がある。「回避アプローチ」に分類される妻の置かれている状況では、「反論アプローチ」や「懇願アプローチ」に分類される妻のように自身の意見を夫に伝える事は、不満でも従っているよりも夫の決定から便益をより得られないと妻は判断し、「黙って従う」アプローチを取っている。「従順アプローチ」では既に満たされているため、「不満なく従う」アプローチを取っている。このように、世帯内意思決定では話し合う話題により、分配される資源と妻が獲得しうる資源が異なる。妻は獲得しうる資源の欲しさと、その行動を取る事の正当性によって、夫が話し合う姿勢を示すかという夫の対応によって、夫へ意見を伝えるアプローチを変えている。女性が意見を伝えやすいのは、意見を伝える行動に正当性があり、妻が強く獲得したい資源であり、夫が話し合う姿勢を見せている場合である。

次章では、本章で分類した 4 アプローチごとに、どのような特徴を持つ妻が夫により意見を伝えているのか、第 4 章で提示した協力的対立モデルを修正した分析枠組みと分析項目に沿って検討していく。

第 7 章　女性の特徴と世帯内意思決定

本章では副課題 3「世帯内意思決定で意見を言える女性は、どのような特徴があるか」を明らかにしていく。本研究の分析枠組みである協力的対立モデルを適用して、調査対象の夫妻各自に交渉力を向上させる要素がどの程度あるのか、夫妻の組み合わせごとに、同様に交渉力向上の要素を検討していく。

前章では世帯内でどのような資源がやり取りされているのか、所得や食料等物的資源、労働力やケア等人的資源、サポートや権威等社会関係資源、情報や知識等文化的資源の夫妻間、母子・父子間、夫妻とお互いの親戚間でのやり取りを整理した。女性は夫に対して自分の望む資源を獲得出来るよう説得したり、譲歩したり、諦めたりという対応をしていた。本章では、夫妻が所有する資源とその活用を分析し、世帯内意思決定で意見を言える女性の特徴を検討する。

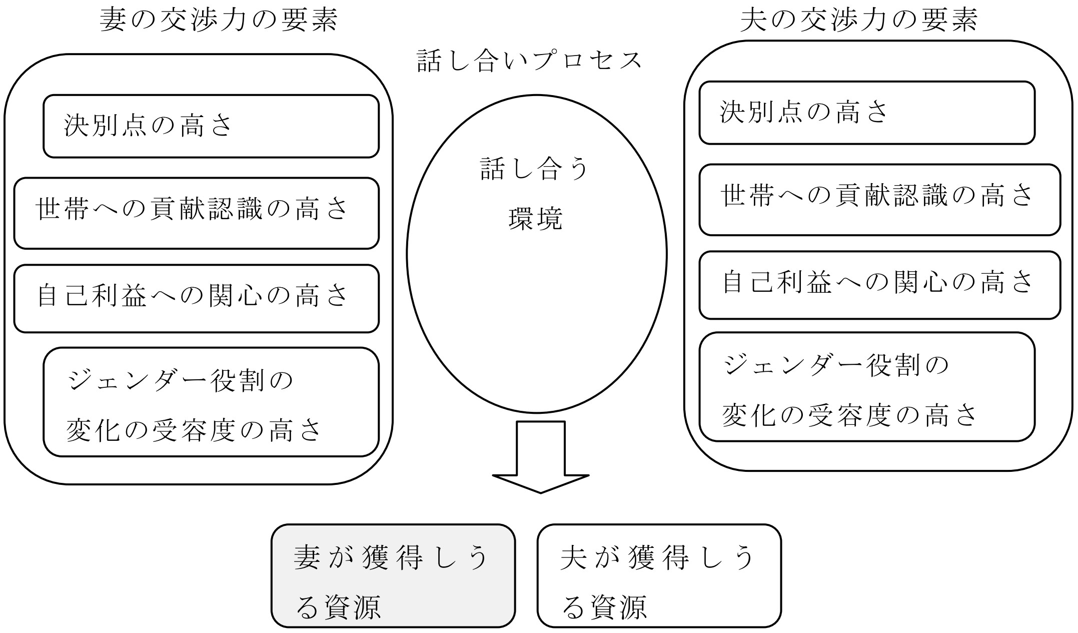
7-1　世帯内の交渉力の要因

本節では、女性の世帯内の交渉力の要因について、第 4 章で示した協力的対立モデルの修正枠組み[40]に沿って、1）妻の決別点の高さ、2）妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への認識の高さ、4) 夫の交渉力の高さ、5) 夫妻のジェンダー役割の変化の受容度、の 5 点を検討する。第 5 章で示した「妻の夫と意見が異なる際の対応」の 4 つの異なるアプローチごとに、前述の 5 点を検討し、第 4 章で示した具体的な項目に沿って分析していく（図 7-1、表 7-1）。女性がより世帯内意思決定に参加している「反論アプローチ」や「懇願アプローチ」には、他のアプローチと比べてどのような特徴があるか明らかにする。

---

[40] Sen（1990）の提示した協力的対立モデルでは、世帯内の意思決定は世帯構成員の交渉力によって決められるとし、女性が交渉力を向上させるための 3 要素として、1)決別点の高さ、2)世帯への貢献認識の強さ、3)自己利益への認識の強さ、が挙げられている。ハウサ社会の婚姻関係、ジェンダー役割規範を参考に、協力的対立モデルに、男性の交渉力と、夫妻それぞれのジェンダー役割の変化の受容の 2 つの視点を付け加えて分析の枠組みとした。

図 7-1　世帯内意思決定の分析枠組み


妻の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
話し合いプロセス
話し合う環境
夫の交渉力の要素
決別点の高さ
世帯への貢献認識の高さ
自己利益への関心の高さ
ジェンダー役割の変化の受容度の高さ
妻が獲得しうる資源
夫が獲得しうる資源

（図 3-2（p54）の再掲。「Gender and Cooperative Conflict (Sen 1990:123-149)　を参考に筆者作成」）

表 7-1 交渉力向上の具体的要素

協力的対立モデルの要素	交渉力向上の具体的要素	
妻の決別点を向上させる要素	年齢	夫妻の年齢差が小さい
		妻の年齢が高い・初婚年齢が高い
	子ども	子どもの数が多い
	拡大家族	夫の義両親・兄弟と同居なし
		夫の他妻と同居なし
	社会ネットワーク	夫の親戚への支援あり
		妻自身の両親・兄弟・親戚が同じコミュニティに在住
		妻の頼母子講・協同組合等のメンバーシップ有
	教育	妻の教育年数が長い
		妻の学校教育の経験有
	経済力	妻の 1 カ月当たりの収入が多い
		夫に定期的に現金を貸与・贈与
		土地・家屋の所有・貯蓄等の財所有
夫の決別点を向上させる要素	年齢	夫妻の年齢差が大きい
		夫の年齢が高い
	拡大家族	夫自身の両親と同居
		一夫多妻の実践（他妻と同居）
	社会ネットワーク	妻の親戚への支援あり
	教育	夫の教育年数が長い
		夫の学校教育の経験有
	経済力	夫の 1 カ月当たりの収入が多い
		夫の 1 カ月世帯ニーズ支出額多い
		雇用労働者として勤務
		妻の経済活動への支援
世帯への貢献認識（妻）	自身による世帯への貢献認識	
	夫からの世帯への貢献認識	
自己利益への認識（妻）	経済的自立への自信	
	自分が他の人の役に立っているという認識	
	家事労働の自己評価	
	自分自身の目標や夢の具体化	
ジェンダー役割の変化の受容（夫妻）	妻の世帯への経済的貢献／夫の家事労働手伝いの受容	
	妻も世帯ニーズ担い手／妻の収入が上回る事の受容	

（表 4-26（p89）の再掲。「Gender and Cooperative Conflict (Sen 1990:123-149)　を参考に筆者作成）

7-1-1 妻の決別点の高さ

世帯内の話し合う環境

1）妻の初婚年齢

P 地区では女性の初婚年齢が 10 年前に比べて上がっている。「10 年前くらいは 9 歳から 11 歳くらいで結婚していたが、今では 18 歳から 20 歳くらいで結婚している（KI3）」。初婚年齢が上がった背景には両親の教育熱がある。セカンダリースクールまで終われば 18 歳となるが、「既婚女性に隔離の慣習があるため学業を終えるまで結婚を控えようとしたり、婚姻契約で学業を終える事に同意させたりする（KI3）」。又、教育を受けている事がダウリ（婚資として妻側家族が夫側の家族に渡す）の代わりとみなされている。しかし学校教育を全く受けていない女性が圧倒的に多く、「適齢期は 15 歳から 18 歳くらいです。男性は結婚適齢の人と結婚したがるので、女性は結婚適齢期で結婚しようとします（KI8）」という見方もある。

「反論アプローチ」と「回避アプローチ」では初婚年齢の平均が 18.3 歳と、「懇願アプローチ」の 16 歳、「従順アプローチ」の 14.3 歳よりも高い。「反論アプローチ」と「回避アプローチ」では現在の年齢の平均がそれぞれ 30.3 歳、29 歳であるのに対し、「懇願アプローチ」では 33.8 歳と年齢が上がり、「従順アプローチ」では 40.8 歳となる事から、世代間の違いがある。初婚年齢と教育レベルの関係は後述する。

2) 夫妻の年齢差

夫妻の年齢差は小さい方が、よりお互いに話し合いがしやすい（KI3,6）。「若い世代は年齢差のない結婚が増えていて、昔の世代よりも外の世界にさらされていて、お互いの事をわかりやすい（KI5）」「年齢差が小さいほうが、考えを共有出来る。話し合いが自由に出来る（KI8）」しかし、「差が小さくてもうまくいくとは限らない（KI5）という意見もある。34 組の夫妻の中では、3 歳差（夫妻 1）が最も年齢差が低く、30 歳差（夫妻 12）が最も高く、前者は「反論アプローチ」、後者は「従順アプローチ」に属する。

「反論アプローチ」では夫妻の年齢差が平均 11.8 歳、個別にみると 3 歳差の夫妻と 25 歳差の夫妻がいるが、他は 10 歳差前後であった。「懇願アプローチ」は夫妻の年齢差が平均 11.1 歳と反論アプローチとほぼ変わらない。5 歳差の夫妻から 20 歳差の夫妻まで様々である。「回避アプローチ」では年齢差の平均が少し上がり、14.4 歳である。従順アプローチでは更に年齢差が上がり、平均 18 歳差である。

3）子どもの数

協力的対立モデルでは、女性の決別点での福祉のレベルを弱くしている例として、頻繁な妊娠・出産・育児によって女性が生産的活動に携われない事を挙げている。しかし、ハウサでは子どもの数の多さは男性の地位に繋がり、多くの子どもを産む女性は地位が高くなる。調査対象者からは子どもが多すぎる事を問題にする意見は聞かれなかった。

女性の側から見ても、子どもがいる事は必要である。経済活動をする女性は、「乳幼児がいると調理食品を自宅で製作する活動は、火元が危ないため難しい」と経済活動への制約と捉えている（妻 20,23 他）。一方で、女性の経済活動を媒介するのは子どもであり、材料の購入や製品の販売を行える子どもがいないと女性の経済活動に支障が出る（妻 27）。又所得を得る年齢の息子がいる事も女性の安定した生活に必要となる（KI4）。これらの理由から、子どもの数の多さは女性の決別点の向上にプラスと捉える。

「反論アプローチ」と「回避アプローチ」では子どもの数はそれぞれ 4 人、3.9 人とほとんど変わらない。「懇願アプローチ」は平均年齢がわずかに高いためか、子どもの数は 5.1 人と約 1 人多い。「従順アプローチ」は平均年齢 40.8 歳と高く、子どもの数の平均は 8 人でカノ州の合計特殊出生率と同じである。平均年齢を考慮すれば、特定のアプローチで子どもの数に多少はない。

4) 夫の拡大家族との同居

ハウサ社会では結婚後は夫の両親のコンパウンドに新しい建物を立てて居住する。そのため夫の両親や兄弟の家族、未婚の兄弟姉妹と同居する事になる。近年、独立して居住する事もあるが、妻にとっては夫の両親・親戚と同居するかどうかは生活に大きく影響する。妻が夫と話し合いやすい状況を得るには夫の両親と同居しない事が必要である（KI4,6、他）。夫が妻に何かギフトを与えると、夫の母親が嫉妬する（KI4,8,他）、夫の生活が向上しないと夫の母親が妻を非難する（KI4,9）。更に、妻は夫の母親の代わりに家事をする事が期待される（KI5）。一方で、夫の両親・親戚が妻の味方になり夫との仲裁に入る事もある（KI4）。「夫と意見が違う時は、同居している義母に言います。すると義母が味方してくれ代わりに夫に言ってくれます（妻 28）」という例もある。しかし多くの女性にとっては、夫の両親との付き合いは、面倒な問題と認識されている。夫の両親と同居しない事は、意思決定に妻が参加しやすい要因とみなされている。「夫の両親は、夫のお金が妻に使われているのではないかと疑う事がある（KI5,8）」というように、夫の両親・親戚が同じコンパウンドに居住している場合は、妻が何をしているか監視するようになり、特に義母が夫妻の生活に関わろうとするため、夫妻で話す機会が制限される。

「反論アプローチ」では夫の両親と同居している例が 6 件中 1 件と、「懇願アプローチ」の 16 件中 7 件、「回避アプローチ」の 8 件中 3 件、「従順アプローチ」の 4 件中 2 件に比べて低く、「反論アプローチ」では、妻が夫と話し合いやすい状況を確保出来る女性が多い事が分かる。

5) 夫の他の妻との同居

ハウサは伝統的に一夫多妻であり、又、イスラームでは 4 人までの妻帯を許可している。厳しい経済状況の中で 3～4 人の妻を養う事は難しく、近年、妻は 2 人で十分と認識されている。P 地区では複数の妻がいる事は、その男性の富裕さを示すだけでなく、人々から

の尊敬を得る。「複数の妻がいる事は、その妻子を養える事を意味し、責任ある人物として尊敬される（KI5 他）。しかし「もし平和に暮らしているならば立派な人物（KI5）」「そのような男性は心に平和を持てない（KI3）」と、複数の妻が同居する事で争いが生じる可能性がある事も示唆される。一方で「夫が新しい妻を取ろうとする事が問題です。多くの女性はこれが嫌です。同じコンパウンドに住み台所を共有しなければなりません。家事は交代でするので協同ではしません。妻が複数いると、夫の持ってくるものが半分になります。（KI4）」と、複数の妻がいる問題を挙げたキーインフォーマントもいた。

夫に自分以外の他の妻がいる例は、反論アプローチでは 6 件中 0 件、懇願、回避、従順アプローチでは各々16 人中 4 人、8 人中 2 人、4 人中 1 人であった。従順アプローチは夫の平均年齢が高いため、複数の妻がいる可能性は高く、反論アプローチ、懇願アプローチ、回避アプローチでは夫の平均年齢に大きな差はない。他の妻が同居する事で夫とより良く話し合う機会は制限されると考えられる。

表 7-2　世帯内での妻の地位に関する項目の各アプローチの状況

	反論アプローチ（n=6）	懇願アプローチ (n=16)	回避アプローチ (n=8)	従順アプローチ (n=4)
妻の初婚年齢（平均）	18.3 歳	16.0 歳	18.3 歳	14.3 歳
夫妻の年齢差（平均）	11.8 歳	11.1 歳	14.4 歳	18.0 歳
子どもの数（平均）	4.0 人	5.1 人	3.9 人	8.0 人
夫の両親と同居する妻	1 件/6 件	7 件/16 件	3 件/8 件	2 件/4 件
夫の他妻と同居する妻	0 件/6 件	4 件/16 件	2 件/8 件	1 件/4 件
妻の親戚が同じ町に居住	2 件/6 件	3 件/16 件	3 件/8 件	1 件/4 件
妻の年齢（平均）	30.3 歳	33.8 歳	29.0 歳	40.8 歳
夫の年齢（平均）	42.2 歳	44.9 歳	43.4 歳	58.8 歳

（34 世帯の回答を基に筆者作成）

以上の事から、「反論アプローチ」の女性は、夫の両親や他の妻と同居する割合が低く、夫との年齢差が大きく離れていないため、夫と話い合いやすい環境が比較的整っている事が分かる。子どもの数は年齢から妥当であり、「子どもの数が少ない」と夫や夫の両親から非難される状況ではない。初婚年齢は中高等学校後半を終えた頃の年齢であり、夫や夫の両親・親戚に要望を伝える事は、若年結婚の場合よりは容易と考えられる。

妻の教育レベル

ナイジェリアの教育制度は小学校 6 年、中高等学校が前半 3 年、後半 3 年、大学が 4 年である。イスラーム圏ではこれらの公的教育機関とは別にコーラン学校と呼ばれるコーラ

ンの読み書きを教える学校がある。学校教育ではなくコーラン学校に通う人々も多い。又P地区では女性が洋裁や編み物といったスキルを学ぶ女性センター（WDC）がある。WDCは6カ月間、毎日午前中に授業があり、入学の際に夫や父親等の許可を必要とする（KI3）。WDCを卒業する事は既婚女性にとって、隔離を実践する慣習の中で毎日外出する事になり、夫が入学を許可し通学を途中でやめさせなかった事を意味する。

「10年くらい前、女の子はほとんど学校に行かず、両親が出したがりませんでした（KI4）」「女子教育は、女子が自立出来る事が大事と人々の意識が変わり、公立・私立と多くの学校が出来ました（KI6）」「人々は女子を学校に出したがらず、小学校で終わるか、中高等学校も中途退学で結婚させていた。今では大学まで行かせようとする（KI8）」。P地区のキーインフォーマントのこのような認識から、ここ10年の間に女子教育が盛んになった事が分かる。しかし調査対象者の年齢からは、P地区で女子教育が盛んになる以前に就学年齢を超えているため、女子教育熱の影響は受けていないと推測される。次に話し合いアプローチ別に教育レベルを見ていく。

「反論アプローチ」では他に比べて妻が学校教育を受けた年数が高く平均7年、学校教育を受けていない女性は6人中1人だけであり、6人全員がWDCの卒業生である。「懇願アプローチ」と「回避アプローチ」の間に大きな差はなく、妻が学校教育を受けた年数はそれぞれ4.3年、3.8年で、学校教育を受けていない女性は半数、WDCの卒業生は16人中7人と8人中4人となっている。「従順アプローチでは4人中3人が学校教育を受けておらず、WDC卒業生も1人だけである。図7-2は妻が学校教育を受けた年数の分布を示している。全体の半数近くが教育年数0～1年であるが、「反論アプローチ」の妻は小学校を終えた年数である6年、高等学校を終えた年数である12年に局在している。

表7-3　妻の教育レベル

	反論アプローチ（n=6)	懇願アプローチ (n=16)	回避アプローチ (n=8)	従順アプローチ (n=4)
妻の学校教育年数	7.0年	4.3年	3.8年	1.5年
学校教育の経験無の妻	1件/6件	8件/16件	4件/8件	3件/4件
WDCを卒業した妻	6件/6件	7件/16件	4件/8件	1件/4件

（34世帯の回答を基に筆者作成）

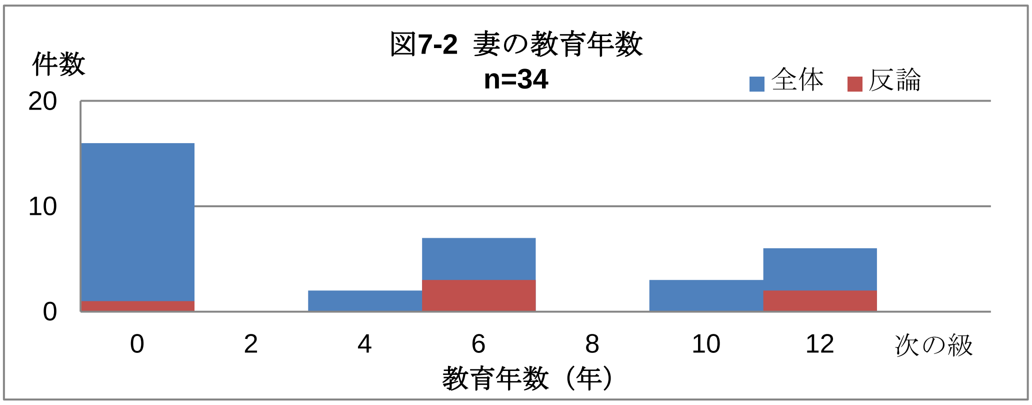


図7-2 妻の教育年数
n=34

（34 世帯の回答を基に筆者作成）

図 7-3 は、妻が WDC 卒業生と WDC 通学経験のない女性（非 WDC）に分け、どの話し合いアプローチが見られるか表している。WDC 卒業生では夫に反論するアプローチが見られるが、WDC 通学経験のない女性では 1 例もない。以上の事から、「反論アプローチ」の女性は他の 3 アプローチと比べて教育レベルが高いといえる。

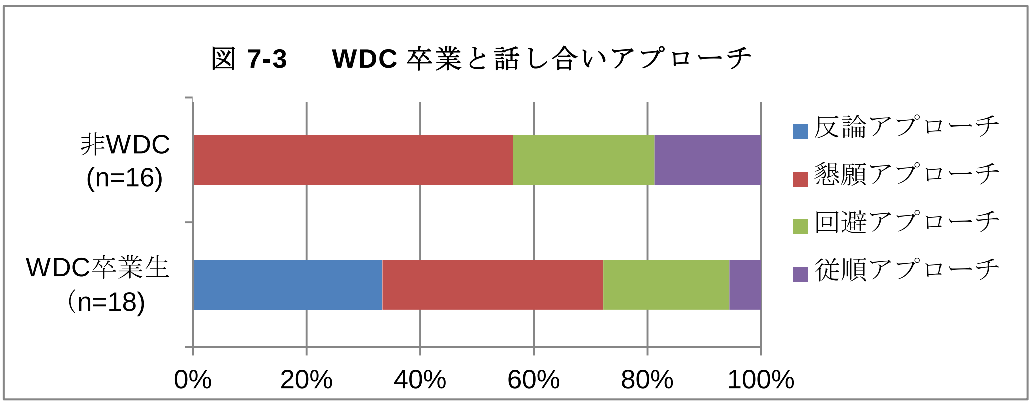


図 7-3 WDC 卒業と話し合いアプローチ

（34 世帯の回答を基に筆者作成）

妻の経済力

貯蓄のある女性の多くが、*Asusu* と呼ばれる開けられない貯金箱に入れて自室に隠している。中には銀行の口座を持つ女性もいる（妻 13）。手元に自分が使える現金を確保してある事が緊急時に備えて必要である。しかし、使用可能な現金を所持していると、他からの要求を断れない。「女性は頼母子講で貯蓄をしていますが、自分の番に現金をもらっても、結婚式のギフトや家族のニーズに使ってしまうので、自分のビジネスの資金に回せません（KI6）」「お金があるのに、親戚や知人から助けて欲しいと言われて断る事は難しい（KI3）」。頼母子講や開けられない貯金箱に入れているのは、「お金があるのに助けてくれない人」とみなされる事なく他者からの要求を避け、自己資金を蓄える意味もある（KI3）。経済活動をする女性にとっては、頼母子講はまとまった資金を貯める手段となっている。女性は自分の収入で、夫が支出する事になっている世帯ニーズの不足分を一旦支出し、後に夫から

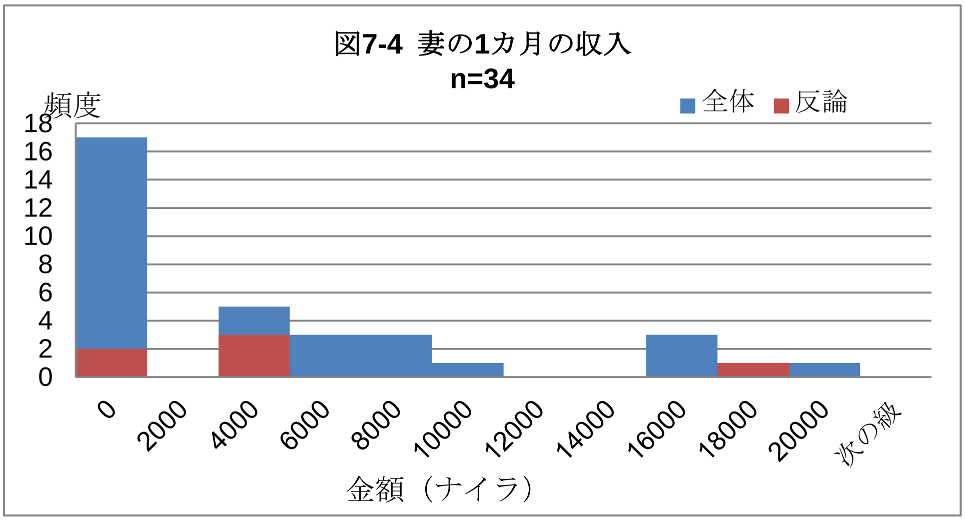
返金を受けている。月末になると夫が使用出来る現金が不足し、子どもの文具やお菓子、食材を買うための現金、急に病気になった際の医療費が必要となってくる（KI4,5 他）。女性が必要な金額は世帯の人数にもよるが、5,000 ナイラ程度から 20,000 ナイラ程度である（KI3-9）。女性に収入がある事は、夫に対して自分の意見を反映させるために必要だとみなされている。「お金があれば夫は妻を尊敬するし、妻の言う事に耳を傾ける。又親戚や近所の人も、その女性を依存していない、独立した人とみる。彼らはお金を借りにくる（KI5）」「N5,000 の利益があったら、女性は N2,000 をとっておき、これには手をつけない。残りは N2,000 を世帯のニーズ用に夫にあげる。夫が返金しなくても問題にしない。残りの N1,000 は自分で持っていて、この事は夫に言わない。子どもが何か必要な時に使う。多くの夫は女性が出かける事を嫌がるので、外出の許可に NO と言われる事を避けるために、女性は夫にお金を渡す。賄賂のようなもの（KI8）」と、収入がある事で他の人からの見られ方が異なると捉えられている。収入は、子どもの必要な物の購入のように実際に必要な消費に使われる事もあるが、人に貸す事で人間関係を維持し、人を助けられる人とみなされ尊敬を得ている。又収入がある事で、「夫が妻の言う事に耳を傾ける」と話し合う機会が作られ、「外出の許可に NO と言われないようお金を渡す」と、収入が駆け引きに使われている。

話し合いアプローチ別に妻の経済力を見ていく。「反論アプローチ」では貯蓄や土地・家屋の所有といった財の所有率は他のアプローチと比べて低い。しかし経済活動に携わる割合や収入額は他の 3 アプローチよりも若干高い。女性の主な収入用途は、夫の支出義務の肩代わりであるが、「反論アプローチ」では夫へ収入を貸与する妻の割合が高く、贈与する妻も半数に上る。貯蓄や土地・家屋といった、すぐに使用出来ない財よりも、手元に現金があり夫に貸与・贈与出来る事が、夫と話し合える関係に必要であるかもしれない。
図 7-4 は妻の 1 カ月の収入の分布を示している。「反論アプローチ」の妻の収入が多いとは言えないが、収入のない妻は 2 人のみである。

表　7-4　妻の経済力

	反論アプローチ（n=6）	懇願アプローチ（n=16）	回避アプローチ（n=8）	従順アプローチ（n=4）
経済活動に携わる妻	4 件/6 件	7 件/16 件	4 件/8 件	2 件/4 件
妻の収入額（ナイラ）	4,666.7	4,581.3	4,200.0	3,100.0
妻の貯蓄	1 件/6 件	7 件/16 件	1 件/8 件	3 件/4 件
妻の土地・家屋の所有	2 件/6 件	7 件/16 件	4 件/8 件	1 件/4 件
夫への妻収入の貸与	5 件/6 件	10 件/16 件	6 件/8 件	2 件/4 件
夫への妻収入の贈与	3 件/6 件	8 件/16 件	3 件/8 件	1 件/4 件

（34 世帯の回答を基に筆者作成）



（34 世帯の回答を基に筆者作成）

「女性の地位」を意味する *Matsayi Mace* はハウサ女性にとって適切なジェンダー役割とみなされる状況で、*Mutunci*（尊敬）と *Daraja*（尊厳）を維持するために重要である（Renne 2004）。経済活動に携わっている事が *Matsayi Mace* に繋がる（KI4-7）。何故なら、経済活動をして自分や世帯のニーズを満たす事により、夫や親戚、友人、コミュニティの人々から *Mutunci* を得られるからである（KI8-9）。そして周囲の人々からの *Daraja* を得るためには、ジェンダー役割に反しない適切な経済活動が必要である(KI9)。又他人に経済的支援を頼む事は *Daraja* を傷つけると言われる（Renne 2004）。「*Mutunci* はお金では買えないので経済力より大事である（KI6）」というように、「尊敬」を得る事に経済力よりも価値が置かれている。

しかし実際には「尊敬」を得たり「尊厳」を守ったりするためには、ある程度の経済力が必要である。「お金があるのに、親戚や知人から助けて欲しいと言われて断る事は難しい。女性は頼母子講や貯金にお金を使い手元に現金がない状態にし、『助けてくれない人』と周囲から思われないように、親戚や知人の要求を避けなければならない（KI3）」と、経済力を持ち周囲からの評判を良いものに保っている。「経済力」と「尊敬・尊厳」の両方を大事にしている事が明らかである。

社会ネットワーク

P 地区の女性達は結婚式や命名式等のセレモニーや、年に一度の犠牲祭の際に、親戚・友人・近所の人とギフト交換として生活必要品や現金を渡し合う。又、親戚を訪問し、訪問される際にもギフト交換をしている。金額は本人の経済力や相手との関係性による。「収入が多ければ、1,000 ナイラくらい使います。例えば、ディナーセット（お皿、ボール、コップ等のセット）は 1,800 ナイラしますが、こういうものを上げます。でもお金がなければ 20-30 ナイラの箒でも構いません（KI4）」「稼いでいる人は多く渡します。どれくら

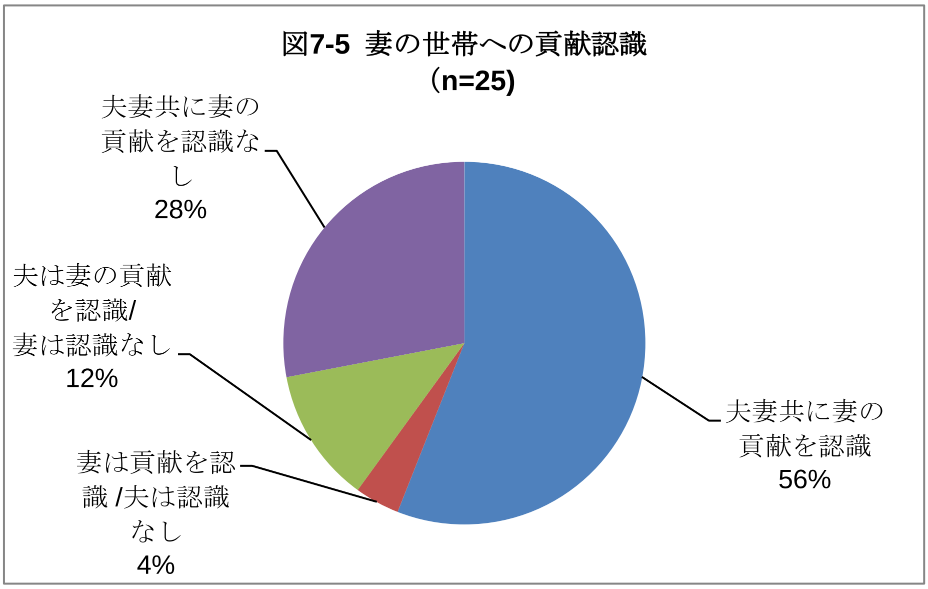
いお金があるか、相手との関係性によります。ギフト交換は必ず必要です。(KI9)」と、金額よりもギフトを交換する事自体が必要な行為とされる。ギフト交換は話し合いアプローチに関わらず全員が頻繁に行っていた。病人を見舞ったり、お葬式の際にお金を渡したりする事も女性同士で行われている。断食月の際に親戚に食料や衣料を送る事も女性同士で行われている。多くの女性は結婚後も実家への経済的支援を行い、夫の両親・親戚へも経済的な支援をする。双方の実家への妻からの経済的支援は話し合いのアプローチに関わらず同じような結果であった。前述のギフト交換と同様、金額や頻度は本人がどの程度の自由に使える現金を持っているか、又、お互いの関係性の程度にも影響される。

親戚・友人・近所以外の人間関係では経済活動に関わる協同組合がある。P地区では経済活動に関わる協同組合を結成し加入している女性もいるが、経済活動をグループで行うより個人で行いたい女性が多い。協同で集まって作業をしたり材料をまとめて買ったりといった活動をする事はほとんどなく、1カ月に1回程度集まって情報交換をしたり、頼母子講のような役割をしたりする程度である。既婚女性の隔離の慣習も、協同で集まる事を難しくしているが、ハウサ女性の経済活動が伝統的に個人で家の中で行うものである事が影響している。

このように、ハウサ社会では経済活動を通した他の女性とのネットワークの形成は活発ではなく、親戚や友人との相互支援が重要である。この相互支援を継続するためにセレモニーに出席したり相互に訪問したりという機会が欠かせない。社会ネットワークに関する意思決定に関しては、話し合いアプローチ間の大きな相違はみられない。

7-1-2　妻の世帯への貢献認識の高さ

妻の世帯への貢献認識を夫妻双方から見てみる。経済活動に従事し所得のある妻は、「食料や子どもの文具等を自分が買っている」「夫に十分にお金がない時に代わりに自分の収入を出している」と、自分は世帯に経済的な貢献をしているとみなしている。経済活動に従事し所得のある妻の夫は「妻は調味料や子どものお菓子等を買っている」「自分にお金がない時に代わりに食費や子どもの文具費を出している」と、夫も妻の貢献について具体例を挙げている。両者の認識が一致しない例は1例のみで、全般的には経済活動に従事する妻は、世帯への貢献認識が妻自身の認識も夫からの認識も強い。図7-5は妻の世帯への貢献認識を、夫妻共に認識している場合、認識していない場合、両者の見解が異なる場合を示している。夫妻共に「妻は世帯に貢献している」という見方が56%と最も多く、夫妻共に「妻は世帯に貢献していない」が28%である。妻は自身が貢献認識を持つが、夫が妻は貢献していないと捉えているのは1人だけである(妻34)。逆に妻自身の貢献認識がないが、夫は妻が貢献していると捉えている例が3人あった(妻22,27,33)。



（インタビュー回答のうち夫の回答があった 25 世帯分を基に筆者作成）

妻の家事労働に対する認識は、経済活動の有無に関わらず、「妻は料理や掃除・育児等、自分は家事で家族のために尽くしている」と認識している。一方、家事労働を世帯への貢献と捉える夫は 2 人だけで、「経済的に貢献していないが、家事で助けている（夫 27,33）」と、経済的貢献と対比させている。経済活動無の妻の夫の多くは、「妻に経済的貢献を望むが、それは妻の責任ではない」と自覚しており、「もし 1 カ月に 500 ナイラでも貸してくれれば私を助ける事になる」と、妻の経済的貢献への期待がある。経済活動無の妻の中には、両親や親戚・知人から贈与された現金を貯めていて、夫が必要な時に貸したり、食料を買ったりし、「自分は経済的に貢献している」と認識する女性もいる（妻 19,31 他）。妻の世帯への経済的貢献は夫からも妻からも支持され、「全ての責任を一人で負えないから。妻が経済貢献をする事は夫婦間によりお互いの理解をもたらす（夫 18）」「女性が世帯に貢献するのは良い事で、そうすれば夫が負担から開放される。婚姻関係をよく保ち、平和に暮らすために、女性が助けたほうがいい（夫 26）」と、夫妻の良好な関係維持のために女性の世帯への経済貢献が必要と認識されている。

話し合いのアプローチ別に妻の世帯への貢献認識の有無をみると、世帯への貢献の認識は妻の経済活動の有無に左右されており、話し合いアプローチによる大きな相違はみられない。

7-1-3　妻の自己利益への認識の高さ

自己利益への認識を、1) 経済的自立への自信、2) 他者への貢献認識、3) 家事労働の自己評価、4) 自分自身の目標や夢の具体化、という 4 点から 34 人の妻の語りを分析した。

経済的自立への自信

「私は、以前は夫に頼っていて、いつもお金を頼んでいました。今では、自分で好きな物を何でも買えます（妻 4)」「自分の足で立てるようになりました。父親や夫からお金をもらわなくても、自分で好きな物を買えます。服やシューズを自分や息子に買ったり、自分の化粧品を買ったりするようになりました。携帯電話も自分で買いました（妻 5)」「以前は、誰かが助けてくれる事を待っていた。今では自分で何でも買えるし、夫が自分にお金を頼む事もある（妻 8)」と、経済活動を始めて自分で収入を得るようになった妻は、「好きな物を買える」「夫に頼まなくて済む」事を、経済活動を始めてからの変化と捉えている。又「自分で買える」事が妻の自信になっている。

一方、経済活動のない妻は、「自分はお金がないので貢献していません（妻 27,29 他)」と、多くの妻が「世帯に貢献していない」と自身を評価している。「自分や夫の必要なものを買いたい。時々夫のお金が足りなくて、誰か近所の人や親戚からお金を借りなければいけない事がある（妻 28)」「病気の時や夫がいない時に子どもを病院に連れていけるように、学費を払う時も夫にお金がなくても自分が払えるようにしたい（妻 26)」と、「夫が支出すべき」教育費や医療費等を夫が支出しない際に、妻自身にもお金がなくて困った経験がある。経済活動に従事していない妻は、経済活動に従事する女性達の事を「夫を待たずに好きな物を買えている人達（妻 26)」「いつも夫にお金を頼まないで自分で問題を解決している（妻 33)」と、収入を得ている女性を「経済的に自立している」と捉え、自分を「お金がない」「貢献していない」と、経済的に自立していないと自己評価している。

世帯外への貢献認識

次に、「自分は他の人の役に立っている」という「他者への貢献認識」について検討する。経済活動に従事している妻は「今ではお金を得て、好きな事を夫に頼まなくても出来ます。そして友人や親戚を助ける事が出来ます（妻 2)」「お金が必要な人、親戚や困っている人等にお金をあげる事が出来るようになった（妻 6)」等、収入を親戚や困っている人の支援に支出し、「人の役に立っている」と認識している。一方で経済活動に従事していない妻は、「理想の生活は、ビッグビジネスウーマンになり、家族を助けたい。貧しい人を助けたい（妻 19)」と、収入を得て家族をサポートしたり、貧しい人への喜捨を行ったりする事で、人の役に立つ女性とみなされたいという。「他の人の役に立つ」という認識は、全て金銭的な回答ばかりであった。そのため経済活動に従事している妻は、世帯外の他の人の役に立っているという認識があり、経済活動に従事していない妻の多くは、役に立っていないと認識していた。

家事労働の自己評価

「家の中の事は自分のすべき事です。家事も世帯への貢献です。夫と子どもの世話は自分の責任です（妻 18,20 他)」「夫は外で働くので、自分が家の中、子ども達の事をきちん

とします。これも貢献です。夫が戻ってきた時にハッピーでいられるようにします（妻14,26 他）」と、調査対象の妻全員が家事労働を「自分の責任」と捉えており、又「家事は世帯への貢献」と認識している。家事労働への自己評価は経済活動の有無に関わらず高く、料理・掃除・洗濯・子どもの世話は世帯の中で重要な活動と位置付けている。

自分自身の目標や夢の具体化

「ビジネスを拡大してお金を得て、家を買いたい。そして家を人に貸す事で、お金を得たい。何でも自分で出来、お金を借りる事がなくてすむ事。5 年後には、自分は 50 歳になっているので、もうビジネスは終わりにして、小麦を売るだけのビジネスにして、ゆっくりしたい（妻 10）」と、経済活動に携わる妻の多くは、実際に自身が携わっている経済活動に関する事で、機材や人を雇用する等、具体的に経済活動の拡大を計画したり夢に描いたりしている。「自分のビジネスを拡大して、もっとたくさん稼ぎたい。女性達にトレーニングを提供し、協同組合を作りたい（妻 9）」と、他の女性の役に立つ事を職業にしたいという妻もいる。いずれも夢や目標が明確である。

「理想の生活は、ビッグビジネスウーマンになり、お店を開き、ミシンを置いて人を雇い、利益を得る事（妻 20）」と、経済活動に従事していなくとも、具体的な将来の目標を持っている例もある。しかし経済活動に従事していない妻の場合は、「ビジネスをしたい」「お金を得たい」「自分で自分の事をしたい」と、「現金収入を得たい」という事は明確だが、どうやって関わるか、どんな経済活動をするかについては曖昧な回答であった。どの女性も目標には自分の経済活動の発展を掲げているが、経済活動の目標と共に、「家族が幸せで健康に平和に暮らす」「子どもが質の高い教育を受けられる」「夫の収入が増えて必要な物が買える事」という目標にも言及している。

自己利益への認識については、話し合いアプローチでは相違が見られないが、経済活動に従事している・していないで差があった。経済活動に従事している女性は、「経済的自立への自信」があり、又「世帯外の他の人の役に立つ」は経済的な支援をする事とみなされるので、肯定的に捉え、「目標や夢」は、経済活動に従事している場合に、より具体的であった。「家事労働の自己評価」は経済活動の有無に関わらず高い評価をしていた。総じて、妻の自己利益への関心は高く、特に経済活動に従事している妻の場合、より自己利益への認識は高かった。

7-1-4　夫の交渉力の高さ

次に夫の交渉力向上の要素を検討する。表 7-1 の項目に従ってアプローチ別に各アプローチに分類された調査対象者の値の平均値を示す。まず教育レベルに関して、学校教育の経験がない男性の例を見てみると、反論アプローチ及び従順アプローチでは全員が学校教育を受けている。ここで言う学校教育とはナイジェリア北部で西洋教育（Western

Education）と呼ばれるもので、コーラン学校は含まないものとする。懇願アプローチでは16人中7人、回避アプローチでは8人中2人の夫が学校教育を経験していない。学校教育を受けた年数を見てみると、反論アプローチでは他アプローチよりも高く、平均で14.7年の学校教育の経験がある。ナイジェリアの学校教育は小学校6年、中高等学校6年（前半・後半に分かれる）、その後に大学や専門学校がある。従順アプローチは平均11.5年と反論アプローチの次に高い。懇願アプローチ及び回避アプローチでは平均約8年と低い。学校教育の未経験者が両アプローチではいるため学校教育を受けた年数の平均が低くなっている。図7-6は夫の教育年数の分布を示している。全体と比較して反論アプローチの夫の教育年数が高い事が分かる。

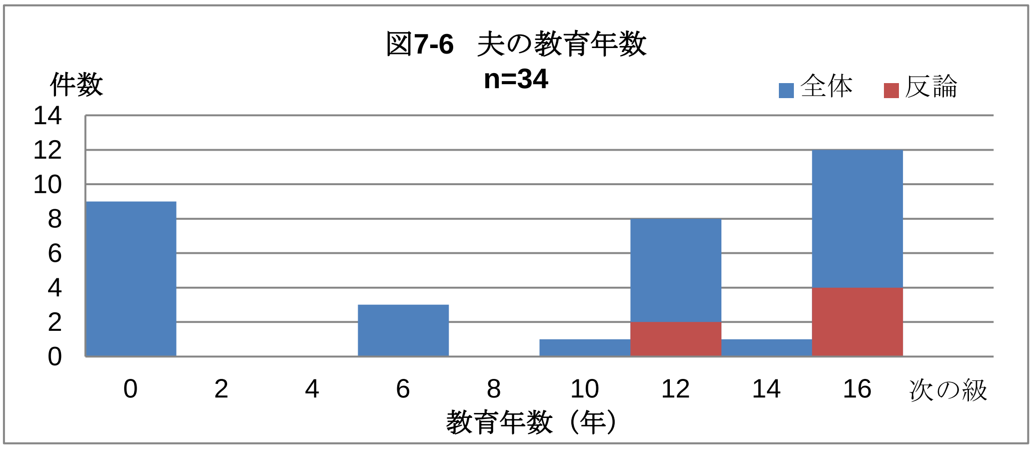


図7-6　夫の教育年数
n=34

（34世帯の回答を基に筆者作成）

男性の教育レベルに関しては、教育レベルが高いほど妻の話を聞くとキーインフォーマントは認識している。「教育のある男性は人の権利が何か分かっているので、妻の権利も知っている（KI5）」「教育のある男性の方が子どもを良い学校に送ろうとし、妻がWDCへ行く事も許可している（KI8）」等、男性が教育を受けている事の利点が挙げられた。一方、「教育のない人でも妻を理解する人もあれば、教育があってもダメな男性もいる（KI4）」と、教育レベルだけでは測れないという見方もある。

次に夫の収入レベルについて検討する。夫の1カ月の収入額は反論アプローチ及び懇願アプローチで約N26,000~N27,000と、従順アプローチのN20,000の1.4倍、回避アプローチのN14,200と比べると1.9倍を超える。一方、1カ月に夫が支出する世帯ニーズ額は、4アプローチの間に大きな相違はなく、最も高い反論アプローチでN19,600、懇願アプローチでN19,300、従順アプローチでN18,300、最も低い回避アプローチでN17,100である。回避アプローチでは収入額よりも多くなっているが、他の事例でも収入額を世帯ニーズ支出額が上回る例は複数あった。就業者のうち雇用労働者と自営業者がいるが、定期的に給料を得ている雇用労働者は反論アプローチでは6人中6人、従順アプローチで4人中3人、

回避アプローチで 8 人中 5 人、最も低い懇願アプローチでは 16 人中 8 人であった。

図 7-7 は夫の 1 カ月の収入額の分布を示している。

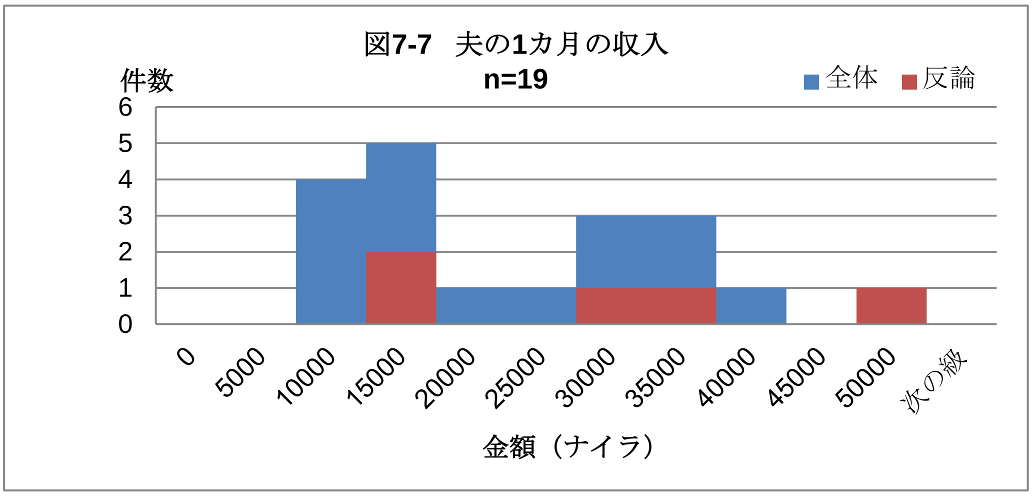


図7-7　夫の1カ月の収入
n=19

（34 人の夫の中で収入について回答のあった 19 人を基に筆者作成）

最後に夫から妻への経済的資源の流れを検討する。夫が妻の両親・親戚を支援する事は 1 年に 1 度の犠牲祭の際や結婚式等セレモニー、相互に訪問する際に現金や食料、衣料等を渡す事が広く実践されている。多くの夫が妻の親戚を経済的に支援している（反論アプローチでは 6 人中 6 人、懇願アプローチで 16 人中 13 人、回避アプローチ及び従順アプローチでは 8 人中 4 人、4 人中 2 人）。

妻が経済活動を開始する際に、夫が開始資金を支援するかしないかで、女性が経済活動を開始出来るかに影響を与えている。経済活動を始めていない女性の多くは、「夫が開始資金を支援しない」という理由を挙げていた。妻の経済活動を支援する夫の例は最も高い反論アプローチで 6 人中 4 人、次に従順アプローチの 4 人中 2 人、懇願アプローチでは 16 人中 7 人、回避アプローチは 8 人中 1 人のみである。回避アプローチを除いては、経済活動に従事している妻は全員が夫から経済的に支援されている。回避アプローチでは 8 人中 4 人の妻が経済活動に関わるが、そのうち 1 人だけが夫から支援されている。

妻又は妻の親戚を経済的に支援するためには経済力が必要であるが、夫の 1 カ月の収入額があまり変わらない反論アプローチと懇願アプローチでは、妻の経済活動を支援する夫の割合は前者の方が高い。夫が妻を経済的に支援するかは夫妻の関係性や周囲の環境等、経済力以外の要因が推測される。

本項は、夫の交渉力向上の要素、すなわち決別点の高さを、夫の教育レベル、経済力、妻との関係性から検討してきた。反論アプローチは教育レベル、経済力共に高く、妻との関係性も良い。懇願アプローチは夫の収入額は多いが教育レベルは高くない。回避アプローチはどの項目でも福祉レベルが低い事を示唆している。

表 7-5　夫の交渉力向上の要素

	反論アプローチ（n=6）	懇願アプローチ（n=16）	回避アプローチ（n=8）	従順アプローチ（n=4）
夫の学校教育年数	14.7 年	8.0 年	8.4 年	11.5 年
学校教育の経験無	0 件/6 件	7 件/16 件	2 件/8 件	0 件/4 件
夫の収入額（ナイラ）	27,512.0	26,666.7	14,200.0	20,000.0
夫の世帯ニーズ支出額（ナイラ）	19,600.0	19,333.3	17,142.9	18,333.3
雇用労働者の夫	6 件/6 件	8 件/16 件	5 件/8 件	3 件/4 件
妻の親戚を支援する夫	6 件/6 件	12 件/16 件	6 件/8 件	3 件/4 件
妻の経済活動を支援する夫	4 件/6 件	7 件/16 件	1 件/8 件	2 件/4 件

（筆者作成。収入額及び世帯ニーズ支出額については夫の回答のみに基づき、回答のない例もあるため回答数が他の項目とは異なる。学校教育や妻への支援等は夫妻双方の回答から計算している）

7-1-5　ジェンダー役割の変化の受容度

本項では、調査対象地のジェンダー役割規範が、どのように受容されているか検討する。第 4 章で調査対象地のハウサ社会の婚姻関係におけるジェンダー役割規範について検討した。ハウサ社会では夫が衣食住等世帯ニーズ全てを供給する事が期待され、妻は夫の指示に従い家事・育児を主に担う。妻は経済的に世帯に貢献する義務はない。女性が経済活動に携わる事は夫が許可すれば問題視されず、女性の経済活動の利益は女性自身の財産とされる。又、妻は隔離を実践し、外出の際は夫の許可を必要とする。

しかし社会経済状況の変化から、夫が主な稼ぎ手で妻は家事・育児を担うというジェンダー役割規範を遂行していると、世帯ニーズを充足出来ない事がある。このような状況で、調査対象地の人々のジェンダー役割への認識が変容してきている。本項では変容したジェンダー役割規範をどの程度受容しているのか、話し合いアプローチによる特徴があるか検討する。

世帯ニーズ充足への妻の経済的貢献

女性が世帯に経済的に貢献する事に対して、妻も夫も全員が肯定的であった。夫は「妻の経済的貢献は義務ではない」とみなすが、妻が世帯ニーズ充足に貢献する事に対して否定的な見方はない。又、女性が経済活動に携わる事に対しても全員が肯定的であった。

「妻が経済活動をすれば夫の負担が減り、妻は夫や両親を助けられる。経済活動をしていなければ何か欲しくても夫に頼むしかないが、夫はくれないかもしれない。もし家族に何かあってもお金がなければ助けられない。夫にお金がなければ親戚に何かあっても助けられない（夫 28)」と、妻が収入を得る事によって、本来は夫が遂行する役割を妻が担う事

を夫は認めている。「経済活動をしている女性は、夫が自分に同意してくれなくても、自分のお金で何とか出来る人達です（妻 26）」と、女性からも、女性自身に収入があれば、夫が本来のジェンダー役割を果たさなくても女性自身が役割を担えると認識している。このように、女性が経済力を得て夫のジェンダー役割である世帯ニーズの供給に関わる事は、夫妻の双方が受容している。

夫の家事労働への手伝い

次に、男性が家事に関わる事に対する認識を検討する。図 7-8 は夫の家事労働の手伝いに関する認識である。回答のあったほとんどの夫が「夫も家事を手伝うべき」と回答している。「夫が家事を手伝うのは良い事。妻と夫が平和に暮らす事が出来る（夫 11）」「妻や子ども達への愛情や、一緒にいる感じをもたらすだろう（夫 24）」と、妻や子どもとの良好な関係の維持という観点から夫の家事手伝いを肯定している。「家事は女性の関心事なので、妻が手伝わせないだろう。だがイスラームの教えで夫も家事をすべきと言われている（夫 28）」と、家事は女性の役割と固定しつつも宗教の教えに従う意見もある。又「夫が家事を手伝う事は良くない。妻がいつも家にいて家事をし、夫は外で家族に食料を与える役だから。私自身は家事を手伝った事は一度もない（夫 7）」と、既存のジェンダー役割を明確に認識し、夫の家事手伝いに否定的な見方もある。

実際に家事を手伝っているのかという質問に対しても、回答のあった多くの夫が家事手伝いを実践すると言う。具体的には「子どもの面倒をみる、子どもを入浴させる、子どもの着替えをさせる」と、「子どもの世話を手伝う」という回答が多く、他には「コンパウンドの掃除」、「料理の下ごしらえ、薪に火をつける」等の毎日必要な家事が挙げられた。夫の家事手伝いを肯定しながらも自分は実際には手伝わないという例もあり、「自分の経済活動に忙しく手伝わない（夫 16）」「手伝うべきだが、時間がなくて出来ない（夫 2）」と、現実には夫自身の用事のために家事を手伝っていない例や、「手伝えないので、ハウスキーパーを雇うお金を出している（夫 7）」と、夫自身は手伝えないが人を雇って妻の家事労働を軽減する例もある。実際に家事を手伝うかどうかを話し合いのアプローチ別に見てみると、反論アプローチでは家事労働を手伝わない夫が多く、「時間がない」「ハウスキーパーを雇う」という対処をしている。他のアプローチでは多くの夫が実際に家事労働を手伝うと発言している。

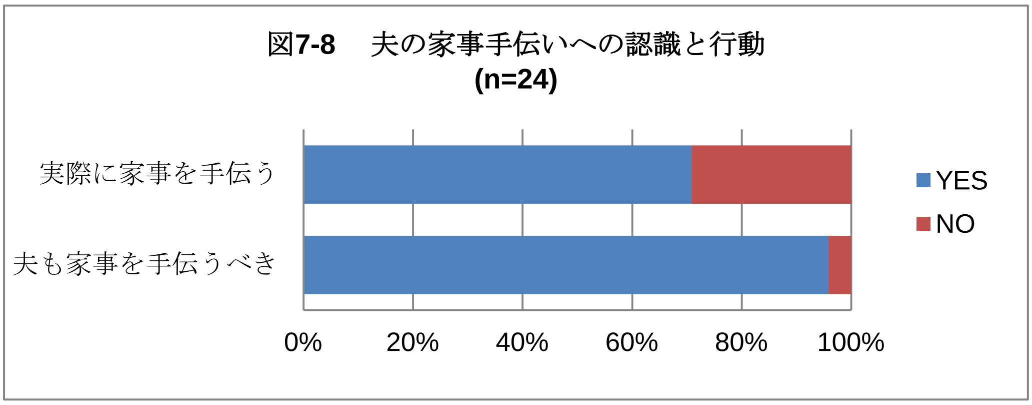


図7-8　夫の家事手伝いへの認識と行動
(n=24)

（回答のあった夫 24 人を基に筆者作成）

夫の家事労働について妻は、「自分が病気の時に洗濯や掃除をしてくれる（妻 1)」、「子どもの入浴、掃除を手伝う（妻 4)」「洗濯を手伝う（妻 5)」のように、日常の家事を夫が手伝っていると妻が認識している例もある。一方で「男性は子どもの世話を手伝う事はあっても、掃除や洗濯を手伝う事は珍しい（KI4-7)」「P 地区の男性で家事を手伝っていると周囲から『妻をコントロール出来ない』と蔑視される（KI3)」と、P 地区のキーインフォーマントは夫の家事手伝いの実践に否定的である。

世帯ニーズの担い手

話し合いのアプローチごとに、1) 誰が世帯ニーズを担うべきか、2) 妻の収入が夫の収入を上回る事は問題か、について夫妻がどのように認識しているか検討した。

まず、1) の誰が世帯ニーズを担うべきか、について、各アプローチの妻の認識は、反論、懇願、従順アプローチでは 50%が「妻も貢献すべき」と回答している。「夫の責任」という回答は、反論アプローチで 2 人であるが、この 2 人は経済活動に従事していない。この問いに対する妻の認識は話し合いアプローチ毎の相違はあまりなく、妻が経済活動に従事しているかに影響されている。同じ問いに対する夫の回答では、どの話し合いアプローチも半数以上が「夫の責任」と回答した。懇願アプローチでは 80%が「夫の責任」を選択している。一方で反論アプローチの 40%、従順アプローチでは 3 分の 1 が「妻も貢献すべき」と回答した。この問いでは、妻よりも夫の方が「世帯ニーズを担うのは夫の責任」と従来のジェンダー役割規範を支持している。しかしながら「妻も貢献すべき」という新しいジェンダー役割規範を受容する夫は、どのアプローチにも存在し、特に反論アプローチに事例が見られた。

次に夫妻の見解が一致しているか検討する。夫と意見の相違がある場合に夫に意見を伝えない妻も回避アプローチ、従順アプローチで見られ、懇願アプローチでも夫に異なる意見を伝える事自体、女性にとって簡単ではない。図 7-9 は「夫は世帯ニーズを担うべき」というジェンダー役割規範に対して、否定的な見解（妻も担うべき)、肯定的な見解（夫が 1 人で担うべき）を夫妻がどう見ているか、その見解の一致を示す。尚、「夫の責任だが、

妻に収入があれば妻も担うべき」という見解は、「夫が担うべきだ」という前提があるので、肯定的な見解（夫が 1 人で担うべき）へ含めている。

夫妻とも肯定的な見解で「夫が 1 人で担うべき」とする例は 33%である。夫妻共に否定的な見解で「妻も担うべき」とする例は 8%（2 人）と少数で、いずれも「反論アプローチ」に属する（夫妻 5,22）。妻が否定的で夫が肯定的な例は 42%と最も多く、妻が「世帯ニーズは妻も担うべき」とみなし、夫は「夫が 1 人で担うべき」とみなしている場合である[41]。反対に、妻が肯定的で夫が否定的な例は 17%で、妻が「世帯ニーズは夫が担うべき」とみなし、夫は「妻も担うべき」とみなしているという見解の不一致がある[42]。

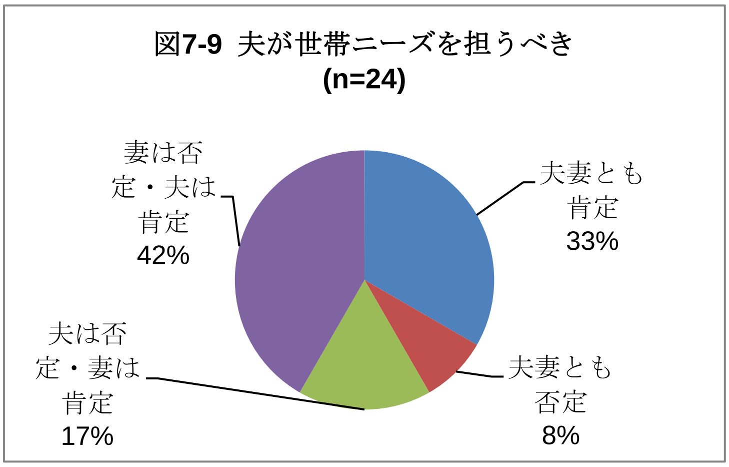


図7-9 夫が世帯ニーズを担うべき
(n=24)

（夫の回答があった 24 世帯分のみ。筆者作成）

妻の収入が夫の収入を上回る事

次に 2 つ目の問いである「妻の収入が夫の収入を上回る事をどう思うか」についても妻の認識と夫の認識を検討する。妻の多くは、妻の収入が夫の収入を上回る事を問題と回答している。懇願アプローチ（16 人）では 5 人が「構わない」を選択しているが、反論アプローチ（6 人）、回避アプローチで（8 人）はそれぞれ 1 人が「構わない」を選び、従順アプローチ（4 人）では誰も選んでいない。一方、夫の認識を見てみると、反論アプローチと懇願アプローチでは、それぞれ半数近くが「構わない」と回答している。一方で、回避アプローチ、従順アプローチでは「問題である」という回答がほとんどである。

しかし「構わない」も「問題である」にも、条件や理由が挙げられた。「構わない」という回答に対しては、夫妻共に「妻は収入を世帯のために使うべき」や、夫からは「夫を敬う事を忘れてはいけない」と条件をつける回答が多かった。「問題である」という回答に対しては、「妻は『私はあなたを必要としない』と言いだし、離婚を求めるようになる」という理由が夫から挙げられ、妻からは「夫が家族に責任を持つべきだから、夫の収入が上回るべき」という理由が挙げられた。

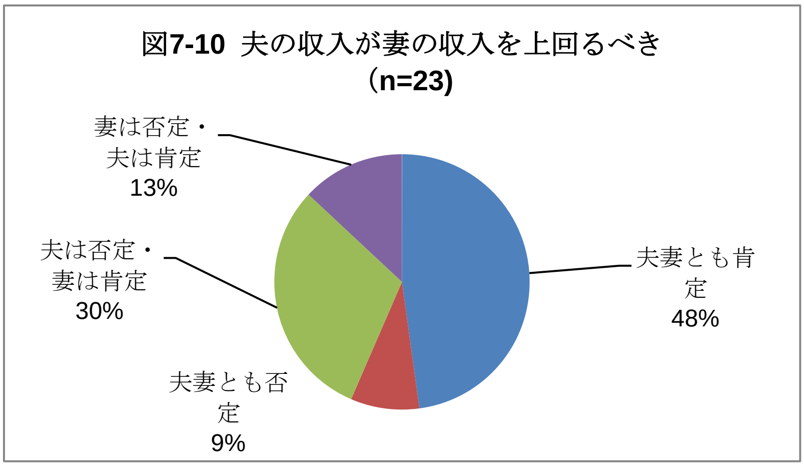
---

[41] 夫妻 2,6,8,10,11,18,24,28,30,34 の 10 世帯が、この回答であった。

[42] 夫妻 17,23,26,32 の 4 世帯が、この回答であった。

次に夫妻の見解の不一致を検討する。図 7-10 は「夫の収入が妻の収入を上回るべきか」という問いに対して、夫妻の見解が一致し、妻も夫も肯定的な見解をする例が 48%、夫妻共に否定的な見解をしている例が 9%である。一方、妻は肯定的だが夫は否定的である例が 30%、妻は否定的だが夫は肯定的である例は 13%である。前者は、妻が「夫の方が多く収入を得るべき」と考え、夫は「妻が多く得ていても問題ない」と捉えている[43]。後者は、妻が「妻が多く得ても問題ない」と考え、夫は「夫が多く得るべき」と捉えている（夫妻 17,19,27）。

夫妻共に否定的な見解で「妻が多く得ても問題ない」と捉える例もある（夫妻 2,23）。



（筆者作成）

変容したジェンダー役割の受容

社会経済状況の変化のなかで「夫が世帯ニーズ全てを供給する唯一の稼ぎ手」というジェンダー役割は、女性の世帯への経済貢献を調査対象者の夫妻全員が肯定的に見ているように、妻にも稼ぎ手の役割がある事を認めるように変化している。しかし「誰が世帯ニーズの供給を担うべきか」「妻の収入が夫の収入を上回る事をどう思うか」という問いでは女性が世帯ニーズの充足に果たす役割を受容していない例もあり、夫妻で見解が一致しない例も見られた。

次に変容したジェンダー役割の受容の度合いを検討する。ハウサ社会では夫が許可すれば女性が経済活動に従事出来、得た収入は女性が管理出来た。通常、夫妻はお互いの収入がどの程度かも知らない事が多く、妻が夫よりも収入が多くても実際には夫が把握する事は難しい。従来のジェンダー役割である「夫が世帯ニーズ全てを供給する唯一の稼ぎ手」の変容を受容する事は特に男性にとって難しく（24 人中 18 人が「夫が唯一の稼ぎ手」を肯定）、「夫の収入が上回るべき」（23 人中 14 人が肯定）よりも受容出来ない。
そこで、ジェンダー役割の受容の度合いを検討するために、この 2 つの問いを組み合わせ、次のような 4 段階で夫妻の回答を分析する。

---

[43] 夫妻 7,10,18,22,24,25,26 が、この回答であった。

表 7-6　変容したジェンダー役割規範の受容度

	夫が唯一の稼ぎ手	夫の収入が上回るべき	ジェンダー役割変容の受容度
1)	否定	否定	受容度が高い
2)	否定	肯定	受容度がやや高い
3)	肯定	否定	受容度がやや低い
4)	肯定	肯定	受容度が低い

（筆者作成）

1) が変容したジェンダー役割規範の受容度が最も高く、4) が最も低いとみなす。

図 7-11 は妻の変容したジェンダー役割受容度、図 7-12 は夫の変容したジェンダー役割受容度を 1) から 4) の段階で分類した結果である。全般に、夫の方が既存のジェンダー役割を支持している。変容したジェンダー役割の受容度が最も低い「夫が唯一の稼ぎ手で、夫の収入が上回るべき」を、夫の 48%が、妻の 32%が支持している。逆に、受容度が最も高い「夫が唯一の稼ぎ手ではなく、妻の収入が上回る事は構わない」は、夫の 13%、妻の 12%が支持している。これらの夫妻は、妻が世帯に経済的貢献をしている世帯が多く、妻の稼ぎ手としての役割が増している現状を受け入れている妻・夫が一定数いる事が分かる。2）の「夫が唯一の稼ぎ手」を否定し、「夫の収入が上回るべき」は、妻の回答の中で最も多く 44%になる。「妻自身も経済的に貢献している」事は賛同出来るが、「夫が家長なので夫がより稼ぐべき（妻 18,24,34）」と、夫より多く収入を得る事に賛同しない女性が多い事が分かる。

一方、夫の方は、女性の経済活動従事に賛同するものの、「夫が稼ぎ手」である事に賛同し、「女性が利益を経済活動に使うなら問題ない（夫 7）」「妻が夫を敬うなら問題ない（夫 24）と、妻が夫より多く得る事を問題視しない例もあった。ジェンダー役割の変容の受容度は、話し合いアプローチによる相違はあまりみられなかった。

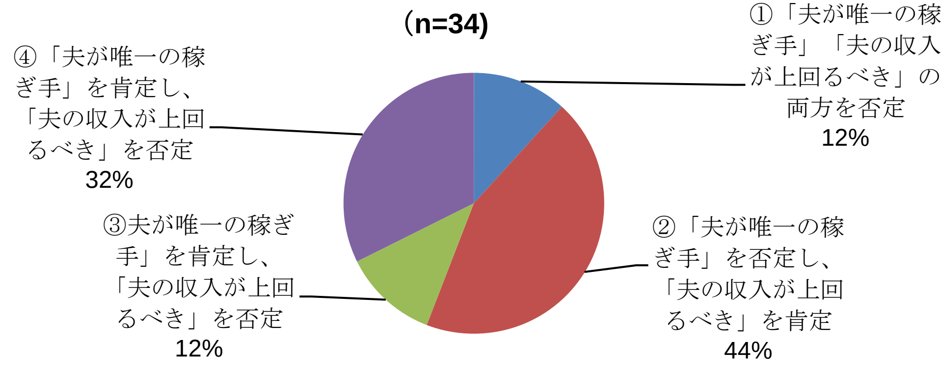


図7-11　変容したジェンダー役割の受容（妻）
（n=34）

（筆者作成）

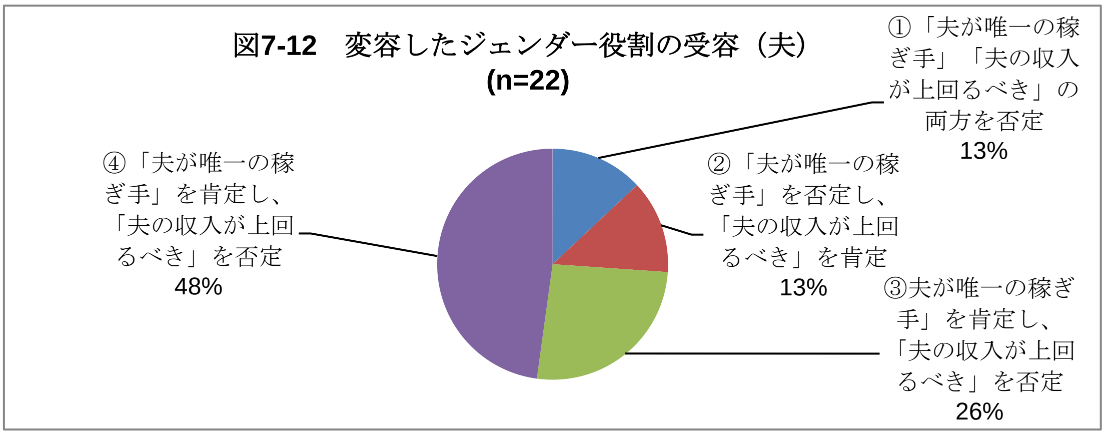


図7-12　変容したジェンダー役割の受容（夫）(n=22)

（筆者作成）

ジェンダー役割変容の影響

女性が経済活動をする事、その収入を世帯のニーズに使う事が肯定的に受け止められ、「夫が唯一の稼ぎ手」というジェンダー役割が変容してきた。このジェンダー役割変容は女性・男性にどのように影響しているか検討する。

「ビジネスをしていない女性は夫から尊敬されないし、アドバイスをしても、『お前は何もしていないのだから何も言うな』と受け入れてもらえない。ビジネスをしていればお金を家族に上げているので、夫に尊敬され、アドバイスも受け入れられる（妻 19）」「夫は、いつも私がただ座っていてビジネスをしていないのでハッピーではありません（妻 26）」。

このように経済活動をしていない女性は、「何もしていない」「役に立っていない」と夫からみなされていると認識している。経済活動をしていない妻の夫は、「私は妻にビジネスをして欲しい。そうすれば彼女は私を助けて世帯に必要なものを手に入れられる（夫 34）」「私は妻にビジネスをして世帯に貢献して欲しい。そのために妻が WDC でスキルを学ぶ事を奨励した。でも経済的に貢献する事は妻の責任ではない（夫 18）」と、妻が収入を得て世帯ニーズを補充する事を望むが、「妻の責任ではない」とも捉えている。

一方、経済活動をしている妻は、「夫の義務である家のニーズを代わりに買っているので、夫はハッピーです（妻 11）」「私がビジネスを始めてから一定の収入があるので、食料が足りなくなれば夫は私が補てんすると分かっています。私は以前よりも敬われています（妻 14）」と、「世帯ニーズは夫の義務」で、それを自分が「代わりに」し、「補てんする」と捉えている。夫は、「私の妻は貢献している。時々妻は調味料やお菓子等を買っているので。女性も世帯に貢献すべき。特に夫にお金がない時に、夫が誰か他の人からお金を借りる代わりに、妻からお金を借りる事が出来る（夫 2）」「私の妻は経済的に世帯に貢献している。何故なら、私が帰宅するといつも、妻は何かをしていて、家族に何か買うために働いている。女性が経済的に貢献するのは良い事だと思う。そうすれば、女性は夫を助けられるし、夫も幸せになる（夫 11）」と、妻の世帯への経済的貢献を認め、「夫を助ける」事と捉えている。「夫を助ける」事とは、「夫にお金を貸す」「世帯ニーズを夫の代わりに買う」

と夫はみなしている。

このように、「夫が唯一の世帯ニーズ供給者」というジェンダー役割が変容した事で妻の経済的貢献への期待が大きくなり「良い事」とみなされる。そのため経済活動をしていない妻は「役に立っていない」と認識される。経済活動をしている女性にとっては、収入を「夫を助ける」ために使う事へのプレッシャーとなり、女性自身の経済活動の拡大や自己ニーズの充足を優先しない。女性にとっては「経済的貢献」が新たな役割として加わる事になる。

一方、夫の方はジェンダー役割の変容によって、「世帯ニーズを充足出来ない」「稼ぎが足りない」「妻に頼っている」等の評判や非難は受けていない。他の役割を新たに担う事もない。更に、「夫は家長であり妻が従うべき存在」という役割は、「稼ぎが足りない」状況においても維持されている。ジェンダー役割の変容は、社会の中で異なる役割を付されている女性と男性に、異なる影響を与える。

7-2　夫妻ごとの交渉力向上の要素

前節では協力的対立モデルの分析項目に沿って、各話し合いアプローチに属する妻・夫の特徴について、夫妻の発言や年齢等の平均値を示し、どのような特徴があるか検討してきた。本節では、夫妻ごとに交渉力の要素がどの程度ある事が、夫妻が話し合う場を持つ状況に繋がるのか、各アプローチの夫妻の事例から検討する。

話し合いの各アプローチから2例ずつ抽出した。選定理由は、34世帯のうち夫の話し合いに関する回答が十分にあるものが21世帯だけであるため、この21事例の中から、更に夫の収入に関する回答のあるものを優先した。第6章で検討した「妻と意見の相違がある場合の夫の対処」によって、夫が妻と話し合いの場を持つ姿勢があるか検討する。尚、「夫の世帯への貢献認識」「夫の自己利益への関心」は全ての事例で高く、アプローチ間の相違も見られないため、個別には取り上げないものとする。

反論アプローチの夫妻

事例 1（夫妻 2）

事例 1 は、夫に妻と話し合う姿勢がみられ、妻と意見の相違があっても、まず妻と良く話し合う。夫の義両親や他妻が同居していない事も夫妻が話し合いやすい環境[44]といえる。

夫の交渉力の要素を見ると、教育レベルは高く、収入はとても多い。妻の経済活動を経済的に支援したり、妻の両親を経済的に支援したり、妻側との関係性を良く保っている。「夫は私にミシンや洋裁を始める材料を買ってくれました」「夫は私の親戚にセレモニーの時や訪問してくる時にお金を上げます」と、夫から妻・妻の親戚へ経済的資源が渡される。妻は、同じ地区に両親が住み、学校教育に加えて WDC を卒業し、経済活動をして収入を得ている事、頼母子講のネットワークがある事、夫に定期的に現金を貸与・贈与したり、夫の親戚を経済的に支援したりと良好な関係がある。妻の世帯への貢献認識は夫妻双方から高く、経済的貢献だけでなく家事労働の評価を高く見ている。「妻は収入で私や彼女自身の服を買っている。世帯のために月に N800 くらい使っている」「妻は私の親戚を助けます。掃除や洗濯を代わりにしています」と、夫は妻の貢献を認めている。自己利益への認識も自己評価が高く、自分の目標を持つ等高い。最後にジェンダー役割の変化受容だが、妻は高く、夫はやや低い。夫の方が新たなジェンダー役割を受け入れにくい。このように事例 1 の特徴として、夫妻共に交渉力が高く、夫妻が話し合う環境がある。

事例 2（夫妻 22）

事例 2 では、夫は妻と意見の相違があれば、「妻と話し合わない」。夫は「妻が親戚を訪問する際は妻に外出許可を与え、妻にお金をあげ何かギフトとして買うように言います」「私にお金がない時は、妻のどんな要求にも同意しない」「妻がスキルを得るようWDCへ通わせた」と、妻に関わる事項を夫が決め、妻に夫の権威を示す傾向がある。拡大家族の同居もなく、年齢差が大きい[45]事もなく、夫妻が話しやすい環境はある。夫の交渉力の要素を見ると、教育レベルは高く、収入はやや少ない。妻の経済活動を支援していないが、妻の両親・親戚へ経済的支援をし、関係性を保っている。妻は、自分の両親・親戚が同じ町に居住しておらず後ろ盾がいない。教育レベルは小学校を卒業し、又WDCを卒業している。経済活動には従事していないが、夫に定期的にお金を貸したり、夫の親戚を経済的に支援したり、良好な関係を保っている。妻は経済活動をしていない事から世帯への貢献認識は低いが、家事労働での貢献を認識している。夫は、妻は経済的にも貢献しているとみなしている。妻は自分の家事労働への価値を高く評価し、「WDCで学んだ刺繍ミシンのスキルを使って経済活動を始めれば経済的に自立出来る」「洋裁をする人は周囲に多いが刺繍

---

[44] 本章第 4 節第 1 項を参照。調査対象者やキーインフォーマントから、拡大家族や他妻との同居がない方が、夫妻が話し合いやすい環境と認識されている。

[45] 第 4 章の調査対象者プロフィールで見たように、夫妻の年齢差は 10 歳から 14 歳差が最も多い。15 歳以上の年齢差が 33%になるため、9 歳差は差が大きいとは言えない。

ミシンは少ないので売れるはず」と今後の目標が明確で、自己利益への関心は高い。ジェンダー役割の変化の受容度は、妻は高く、夫はやや低い。

事例２の特徴は、夫妻共に経済力が低く、妻は世帯貢献認識が低く自己利益への関心は高い。夫は妻に権威を示す傾向があるが、妻は自分の要求を夫に伝える傾向があり、「夫の意見がよければ同意するし、だめであれば、説得します。バランスを取るようにしています。夫に理解してもらうためには、夫に短く説明して、その重要性を言います」と、夫と話し合えるよう妻が夫をよく観察して行動している。

反論アプローチの特徴

事例１と２で共通している事は、夫の交渉力が高く、夫の両親・親戚や他妻と同居していなく、夫妻が話し合う環境がある。妻は程度の差はあるが夫に現金を貸与出来、夫からは「妻は世帯に貢献している」とみなされている。妻は具体的な将来目標を持っている、家事労働を高く評価する等、自己利益への関心が高い。妻はジェンダー役割の変化を受け入れている。

表 7-7　反論アプローチの夫妻の事例

反論アプローチ	事例 1（夫妻 2）	事例 2（夫妻 22）
妻と意見の相違がある際の対処	妻と話し合う	妻と話し合わない
夫妻の交渉力の構成要素		
年齢差	11 歳差（夫 35 歳、妻 24 歳）	9 歳差（夫 45 歳、妻 36 歳）
妻の初婚年齢	18 歳	13 歳
拡大家族の同居	なし	なし
子どもの数	3 人	7 人
教育レベル夫	夫は中高等学校卒	夫は中高等学校卒
妻	妻は小学校卒＋WDC 卒	妻は小学校卒＋WDC 卒
収入　夫	夫は N35,000/月	夫は N12,000/月
妻	妻は N3,000/月	妻は経済活動無
妻から夫への現金貸与・贈与	貸与も贈与も定期的にあり（N700-N1,000/月）	貸与も贈与も定期的にあり（N1,500/月）
妻へ経済活動支援	あり	なし
講・協同組合加入	講（10 人で N1,000/月を回収）	なし
夫妻の両親・親戚への支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援
親戚が同じ地区に居住	妻の両親、夫の両親共に同じ地区に居住	妻の両親は同じ地区にいない 夫両親の居住先は無回答
妻の世帯への貢献認識の強さ	夫妻双方が妻の経済的貢献を認識。妻は家事労働での貢献も認識。 妻の世帯の貢献認識は強い。	妻は世帯への経済的貢献認識はないが、夫は妻の経済的貢献を認識。 妻は家事労働での貢献は認識。
妻の自己関心への認識の強さ	1)妻は経済的自立に自信あり 2)子どもや夫を助けていると認識 3)自己の家事労働を評価 4)経済活動の拡大とアラビア語・イスラームの勉強と具体的な目標を持つ 妻の自己関心への認識は強い	1)妻は経済的自立の自信ない 2)家をきれいにしたり子どもの躾をしたりという点から他の人の役に立っていると認識 3)自己の家事労働は評価 4)WDC で学んだ刺繍のスキルを活かし、刺繍ミシンを購入して経済活動をすると具体的目標があり 自己関心への認識は強い
ジェンダー役割の変化受容度	妻は受容度高い（1） 夫は受容度やや低い（3）	妻は受容度やや高い（2） 夫は受容度高い（1）

（筆者作成）

懇願アプローチの夫妻

事例 3（夫妻 18）

事例 3 は、妻と意見が相違した時は、夫は「話し合う」を選択している。拡大家族との同居がなく、夫妻が話し合いやすい環境にある。夫妻の交渉力向上の要素を見ると、夫の教育レベルは低いが妻の教育レベルも低い。夫の収入レベルは調査対象者の平均よりやや少なく、妻は経済活動に従事せず収入はない。夫妻とも両親・親戚は同じ地区に住んでおらず、困った際に頼る親族が身近にいない。妻は頼母子講や協同組合のメンバーシップもない。妻は実家を支援はするが、夫妻共に相手の親戚への経済的支援は行っていない。「私が世帯ニーズのための十分なお金がなくて問題を抱える事があります。生活そのものが問題です。でも私達は自分達の問題を解決出来ます。誰か他の人に問題を知らせる事なく解決します」と、夫は自分が世帯ニーズを充足させるという役割を遂行出来ていない事を認めている。又、問題を他の人に知らせる事を良く思っていない。夫妻共に交渉力向上の要素がやや十分ではなく、特に妻は夫と 20 歳の年齢差もあり、頼れる人もいない事から交渉力は十分ではない。「経済活動を始めたい理由は、夫と問題を抱えているので、又、夫がサポートしないので、親戚も助けてくれない中でお金が必要だからです」と、妻は夫の経済力の低さを「夫の役割を果たしていない」と見ている。夫妻共に妻は世帯に経済的に貢献しているとは捉えておらず、妻は家事労働には貢献していると見ている。自己利益への関心も妻はあまり強く持っていない。ジェンダー役割の変化の受容は、妻はやや高く、夫はやや低い。事例 3 は、夫妻共に交渉力が低く、双方とも身近に頼る人がいないため、夫妻で何とかしなければならない状況にある。

妻は夫の対応に不満で「実家に帰る」選択をした事がある。「私は 2 カ月の間、夫と別居していた。家庭の問題で夫はすぐにイライラと怒る。私は何度も謝ったが、それでも夫は怒っていたので、私が家を出て実家へ戻った。夫に冷静になる機会を与えるためです。夫は私の実家に来て謝りました。いま 3 人の子どもは夫の所にいます。来週には夫の所へ戻ります。子どもがいるので夫の所へ戻りたかった事と、実家の親が、『夫も謝っているのだから戻るように』と言うので決めました（妻 18）」。このような「実家に帰る」という選択は妻が抗議を示す手段として行われる事がある（KI6,8）。

事例 4（夫妻 27）

事例 4 は、妻と意見の相違があれば夫は「妻と話し合わない」。拡大家族の同居がなく、夫妻の年齢差も小さい事から夫妻が話しやすい環境である。夫妻とも教育レベルが非常に高く、夫の収入は非常に高い。しかし家族構成が影響するであろうが（夫妻と子ども 1 人）、夫の世帯ニーズ支出額は平均並みである。

妻は経済活動に従事していないが、結婚時に夫にもらったお金を保管していて、そのお金を夫に定期的に貸与・贈与している。妻は実家だけでなく夫の両親・親戚を経済的に支援しているが、夫は妻の両親・親戚を支援していない。夫は妻の経済活動の開始も支援し

ていない。妻の両親・親戚は同じ地区におらず、妻は頼母子講や協同組合にも参加していない。

「この地域にまだ新しくて誰も知らないので、ビジネスを始めるのは難しい。洋裁が出来るけど、お客を見つけられない」と、妻は頼りに出来る社会ネットワークがない。「私はその外出がどれだけ重要かチェックし、許可したりしなかったりします」と、夫は権威で妻の行動を規制する[46]。「夫に分かってもらうために、夫に丁寧に頼み、何を自分がしたいのか少しずつ話します。それでも夫と意見が違うなら、自分の意見を諦めます」と、妻は夫に自分の意見を伝えるが、強くは出ない。夫妻共に、妻は経済的に世帯に貢献していないと捉えているが、家事労働で責任があると捉えている。妻の自己利益への認識は、経済的に自立していない自信の無さから自己評価が低く、自己利益への関心は低い。ジェンダー役割の変化の受容度は、夫は低く、妻もやや低い。事例 4 は夫妻の力関係が夫に大きく偏り、妻は高校まで卒業しているが、世帯内の話し合いにおいて妻が学校教育を受けたメリットは見受けられない。

懇願アプローチの特徴

事例 3 は低学歴で収入が少ない夫に低学歴で経済活動をしていない妻、事例 4 は高学歴高収入の夫に高学歴で経済活動をしていない妻という夫妻であった。事例 3 と 4 に共通しているのは、教育レベルが同等の夫妻である事、妻が経済活動をしておらず、夫妻共に妻は世帯に貢献していないと認識している事である。事例 3 は夫本人が認めるほど経済的に逼迫しており、妻と話し合って打開せざるをえない。更に妻が一度「実家に帰る」という手段を取った事もあり、夫が話し合う姿勢を見せる。一方、事例 4 は夫の交渉力が強く、「妻と話し合う」「妻の意見を取り入れる」という必要が夫にない。

---

[46] インタビュー調査を WDC で実施中に、妻 27 の携帯電話に夫から電話があり、「家にいないがどこにいるのか」という内容であった。妻 27 の家は WDC のすぐ裏にあり、妻はインタビューのために WDC まで出かける許可を前もって取っていた。妻は怯えており、WDC 講師が夫への対応を心配していた。

表7-8 懇願アプローチの夫妻の事例

懇願アプローチ	事例3（夫妻18）	事例4（27）
妻と意見の相違	妻と話し合う	妻と話し合わない
夫妻の交渉力の構成要素		
年齢差	20歳差（夫50歳、妻30歳）	6歳差（夫28歳、妻22歳）
妻の初婚年齢	12歳	20歳
拡大家族の同居	なし	なし
子どもの数	5人	1人
教育レベル夫	夫はコーラン学校卒	夫は大学卒
妻	妻はコーラン学校卒／WDC卒	妻は高校卒
収入　夫	夫は収入額は不明	夫はN40,000/月
妻	妻は経済活動無	妻は経済活動無
夫の世帯ニーズ額	N20,000/月	N16,000/月
妻から夫への現金貸与・贈与	貸与も贈与も無（夫は妻がお金を貸与・贈与すると回答）	貸与は月3回あり、贈与は時々
妻へ経済活動支援	なし	なし
講・協同組合加入	なし	なし
夫妻の両親・親戚への支援	夫妻とも相手の両親・親戚へ支援なし。妻は実家を支援	妻は実家・夫の両親・親戚とも支援、夫は妻の両親・親戚を支援しない
親戚が同じ地区に居住	夫妻とも親戚が同地区にいない	妻の両親は同じ地区にいない 夫両親の居住先は無回答
妻の世帯への貢献認識の強さ	夫妻とも、妻が世帯へ経済的貢献をしていないと認識。妻は家事労働を貢献と認識。夫は妻が努力していると認識。妻の世帯への貢献認識は強くない	妻は世帯への経済的貢献認識はない。夫は妻が家事で貢献していると認識。妻は家事労働での貢献は認識
妻の自己関心への認識の強さ	1)妻は経済的自立の自信ない 2)お金がないため人を助けられないと認識 3)家事労働は自己評価 4)経済活動で成功し両親と子どもを助けたいと具体的な目標 自己関心への認識は強くない	1)妻は経済的自立の自信ない 2)経済力がないので誰かの役に立っている認識はない 3)家事労働は自分で評価 4)経済活動をする、子どもを多く持ちたいと目標は漠然 自己関心への認識は強くない
ジェンダー役割の変化受容度	妻は受容度やや高い（2） 夫はで受容度やや低い（3）	妻は受容度やや低い（3） 夫は受容度低い（4）

（筆者作成）

回避アプローチの夫妻

事例 5（夫妻 19）

事例 5 は妻と意見の相違があれば、夫は妻の両親に知らせている。夫は、教育レベルはやや高く、収入はやや低いが、収入のほとんどを世帯ニーズに支出している。妻は小学校を卒業し、WDC も卒業している。経済活動に従事していないが、夫に定期的に現金を貸与している。「夫の収入は十分でなく、世帯ニーズを満たしていない」と、妻は夫が世帯ニーズ供給の役割を果たしていないと捉えている。夫妻とも相互に実家・相手の両親・親戚へ経済的支援をしている。妻は両親が同じ地区におらず、頼母子講・組合のメンバーシップもなく、困った時に頼る相手がいない。夫妻共に、妻の世帯への経済的貢献を認識し、妻は家事労働に自分は貢献していると認識する。妻の自己利益への関心は、経済活動をしていないので自立する自信や他の人を助けているという認識はないが、家事労働は高く評価し、将来の目標として WDC で学んだスキルを活かしてミシンを買って経済活動を始めたいと、自己利益への関心は高い。ジェンダー役割の変化の容認は、妻はやや低く、夫は低かった。「妻と私はどのように食料を買うか、子どもの教育費をどうやって払うか、子どもの本をどうやって払うかについて話し合う」と、夫妻は世帯ニーズについて、子どもの教育について話し合っているが、妻は夫と意見が異なる際は「自分の意見は諦めて夫に従います」と、夫と話し合いの場で話をするものの、夫の意見に合わせている事が分かる。

事例 6　(夫妻 15)

事例 6 は妻と意見の相違がある場合、夫は「妻と話し合わない」。夫妻には 20 歳の年齢差があり、妻は 20 歳、夫の両親・兄弟と同居しており、妻にとって発言しやすい環境ではない。妻は夫と意見が異なれば、「自分の意見は諦めて夫に従います」、と、自分の意見を伝える事はない。夫の教育レベルは高く、妻は低いが、夫の収入と妻の収入があまり変わらなく、又夫の世帯ニーズ支出額は夫の収入の倍近い。妻は夫に定期的に現金を貸与・贈与している。

妻の両親は同じ地区に住んでおり、頼母子講のメンバーで、困った際に頼る相手は身近にいる。夫は妻の経済活動を支援しないが、相互に親戚の経済的支援は行っている。夫妻共に妻の世帯への経済的貢献を認識している。妻は経済活動に従事しているが、自分が経済的に自立している認識はない。ジェンダー役割の変化の受容は夫妻とも受容度が最も低かった。

回避アプローチの特徴

事例 5 は、夫は妻と意見の相違がある場合の対処として妻の母親に問題を伝え、事例 6 では「妻と話し合わない」を選択している。夫妻で向き合って話し合うより、他の人に間に入ってもらう事で解決しようとしていたり、妻に譲歩する事なく「同意しない」であったり、妻と話し合う姿勢はない。両例ともジェンダー役割の変化受容度が低い。

表7-9　回避アプローチの夫妻の事例

回避アプローチ	事例5（夫妻19）	事例6（夫妻15）
妻と意見の相違	妻の両親に知らせる	妻と話し合わない
夫妻の交渉力の構成要素		
年齢差	10歳差（夫40歳、妻30歳）	20歳差（夫40歳、妻20歳）
妻の初婚年齢	22歳	18歳
拡大家族の同居	なし	あり（夫の両親・兄弟と同居）
子どもの数	5人	1人
教育レベル夫	夫は高等学校卒	夫は高等学校卒
妻	妻は小学校卒＋WDC卒	妻はコーラン学校卒
収入　夫	夫はN12,000/月	夫はN8,000/月
妻	妻は経済活動無	妻はN6,000/月
夫の世帯ニーズ額	世帯ニーズ額はN10,000	夫の世帯ニーズ支出はN15,000/月
妻から夫への現金貸与・贈与	貸与は定期的にあり（N1,500/月）。贈与なし	貸与も贈与も定期的にあり（N500/月）
妻へ経済活動支援	なし	なし
講・協同組合加入	なし	あり（15人でN1,000/月を収集）
夫妻の両親・親戚への支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援
親戚が同じ地区に居住	妻の両親は同じ地区にいない。夫両親の居住先は無回答	妻の両親は同じ地区に居住。夫の両親は同居
妻の世帯への貢献認識の強さ	妻は世帯への経済的貢献認識あり。少額で子どものお菓子を買う。夫は妻の貢献を認識。妻は家事労働での貢献も認識。妻の世帯への貢献認識は強い	夫妻とも妻の世帯への経済的貢献を認識。妻は家事労働での貢献も認識。妻の世帯への貢献認識はある
妻の自己関心への認識の強さ	1)経済活動をしていないので経済的に自立していない 2)経済力がないので誰かを助けられない 3)家事は世帯に貢献出来る 4)ミシンを買って経済活動を始めたい	1)妻は経済的自立への自信なし 2)夫にお金がない時に自分が支出していると認識 3)家事労働は自分で評価 4)娘の婚資の目標額、農業のビジネス拡大等目的が具体的に計画されている 妻の自己関心への認識は強い
ジェンダー役割の変化受容度	妻は受容度やや低い（3） 夫は受容度低い（4）	夫妻とも受容度低い（4）

（筆者作成）

従順アプローチの夫妻

事例 7（夫妻 6）

事例 7 は、妻と意見の相違がある場合の対処について無回答のため分からない。夫妻の年齢差は 18 歳あり、夫の両親と同居している事から、妻は夫と話し合う場を持ちづらい。夫は高校卒で、妻は小学校卒、又、WDC を卒業している。収入に関しては、夫は無回答だが雇用労働者であるため一定の収入を得ていると推測される。妻の両親は同じ地区にはいないが、妻は頼母子講と協同組合に加入しており困った際に頼る事が出来る。妻は協同組合でメイズ製粉に取り組んでおり毎月一定の収入があり、夫に現金を定期的に少額だが贈与している。夫妻双方に相互の両親・親戚を経済的に支援している。夫は妻の経済活動を支援している。妻は「幸せなのは、夫が十分にお金を得て、そのお金で家族に必要なものを十分に買える時」「理想の生活は、自立出来る事。自分のお金で好きな事が出来、他の人に頼らずに済む。困っている人を助ける事」と、お金に換算されている。夫妻共に妻の世帯への経済的貢献を認識し、妻は家事労働の自己評価も高く、世帯への貢献認識は高い。自己利益への関心の高さは、妻は経済的自立への自信を基に具体的な経済活動の計画や協同組合のメンバーとの活動の将来像を持ち、自己利益への関心は高いといえる。「WDC へ通う前は編み物を知らなかったが、今では編み物で自分のお金を稼ぎ、自分のお金で何でも買える。家族や親戚にも貢献出来る」と、WDC に通って変化があるという。ジェンダー役割の変化の受容度は、妻は低く、夫はやや高い。

事例 8（夫妻 32）

事例 8 は妻と相違がある場合は「妻と話し合わない」。夫妻の年齢差は 20 歳になり、夫の義兄弟、夫の第 2、3 夫人と同居しているため、夫妻が 2 人で話し合いの場を持つのは難しい。実際、世帯ニーズについては夫と 3 人の妻と合同で話し合う。

夫は大学卒、妻はコーラン学校卒で教育レベルに大きな格差がある。夫の収入はかなり高いが、世帯の人数から考えて世帯ニーズ支出額は足りない。妻は経済活動には携わらず、妻が夫へ現金を貸与する事もない。妻の両親は同じ地区に住むため、妻は頼母子講や協同組合に加入していないものの後ろ盾となる両親がいる。夫妻共に妻が世帯に経済的に貢献しているとは認識しておらず、妻は家事労働を高く評価している。妻の自己利益への関心の認識は、妻は経済活動に携わっていないため、自立への自信も人を助けている気持ちもなく、自己利益への関心はとても低い。ジェンダー役割の変化受容度は、妻は低く、夫はやや高い。夫は権威で妻の行動を規制する事があり、「妻が親戚を訪問する際、私は時々一緒に行く。妻の訪問が本当であるなら、いつでも外出を許可するが、不必要な訪問には、どんな場合も同意しない。昨日も妻がWDCに来るのを最初は許可しなかった。インストラクターに本当にインタビュー[47]があるのか確認して、本当である事が分かったので許可し

---

[47] インタビューは本調査の事。この例以外にも WDC で実施した調査に関して、WDC 講師へ問い合わせた夫が複数いた。「本当に調査があるなら外出を許可する」と、夫は妻の外出が「本当か」を気にする。

た」と、妻の言葉に疑いを持ち確かめている。「第2夫人は飲料を売るビジネスをしているが、彼女は私と一緒にやりたがらない」と、妻同士の関係も難しい。

事例8の特徴としては、夫の交渉力強く、妻の交渉力弱く、3人の妻同士の関係も保たなければならず、夫妻が話し合う環境を確保しづらい事である。

従順アプローチの特徴

事例7、8は夫の収入が高く、事例7は従来のジェンダー役割である「夫が1人で全て供給する」を遂行出来るレベルであり、妻は夫に従う事で世帯ニーズには困らない。事例8は世帯人数が多いため、夫の収入が十分とは言えない。ジェンダー役割の変化に対して妻は受容度が低いが、夫はやや高い。

表7-10　従順アプローチの夫妻の事例

従順アプローチ	事例7（夫妻6）	事例8（夫妻32）
妻と意見の相違	無回答	妻と話し合わない
夫妻の交渉力の構成要素		
年齢差	18歳差（夫55歳、妻38 歳）	20歳差（夫60歳、妻40歳）
妻の初婚年齢	13歳	15歳
拡大家族の同居	あり（夫の両親）	あり（夫の義兄弟、他妻2人が同居）
子どもの数	9人	10人（世帯人数は40人）
教育レベル夫	夫は高等学校卒	夫は大学卒
妻	妻は小学校卒＋WDC卒	妻はコーラン学校卒
収入　夫	夫は無回答だが雇用	夫はN35,000/月
妻	妻はN2,400/月	妻は経済活動無
夫の世帯ニーズ額		N25,000/月
妻から夫への現金貸与・贈与	貸与はなし。贈与のみ（N100/月）	なし
妻へ経済活動支援	あり	なし
講・協同組合加入	あり（メイズ粉の組合、10 人で講・N3,000/月収集）	なし
夫妻の両親・親戚への支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援	夫妻双方が、実家及び義両親・親戚へ経済的支援
親戚が同じ地区に居住	妻の両親は同じ地区にいない	妻の両親は同じ地区に居住。夫両親はなし。夫兄弟同居
妻の世帯への貢献認識の強さ	夫妻共に妻の世帯への経済的貢献を認識。妻は家事労働も世帯への貢献と認識。妻の世帯への貢献認識は強い	夫妻共に妻の世帯への経済的貢献を認識していない 妻は家事労働の貢献は認識 妻の世帯への貢献認識は弱い
妻の自己関心への認識の強さ	1)妻は経済的自立に自信 2)近所の女性グループで困っている人を支援。他人の役に立っている認識あり 3)家事労働への自己評価あり 4)編み物とメイズ粉の経済活動の拡大、人を助け、女性に編み物研修を提供したいと具体的な将来目標 自己関心への認識は強い	1)経済活動なく自立への自信なし 2)自分の所得がなく人を助けているという認識はない 3)家事労働への自己評価はある。 4) 5年後には洋裁や編み物を習って経済活動を始めたいという目標はあるが、具体的な計画はない。 自己関心への認識は弱い
ジェンダー役割の変化受容度	妻は受容度低い（4） 夫は受容度やや高い（2）	妻は受容度低い（4） 夫は受容度やや高い（2）

（筆者作成）

7-3 本章のまとめ

7-3-1　結果のまとめ

本章は、副課題3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」を明らかにするために、次の点を検討してきた。

第1節では、世帯内の交渉力の要因について、修正した協力的対立モデルの枠組みに沿って、1) 妻の決別点の高さ、2) 妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への認識の高さ、4) 夫の交渉力の高さ、5) 夫妻のジェンダー役割規範の受容、以上の5点について分析した。そして、夫と意見を異にしても妻自身の意見を言う「反論アプローチ」を取る妻には、どのような特徴があるか検討した。その結果、「反論」アプローチの特徴として；義両親・夫の他妻との同居が少ない、妻の初婚年齢が高い、教育レベルが高い、WDC 卒業生である、妻が経済活動に携わる、妻が夫に収入を貸与する、と、妻の決別点を向上させる要素が揃っている。又、経済活動に携わり夫に現金を貸与している事から、世帯への貢献認識も高く、自身の経済活動の将来像等自己利益への認識も高かった。更に、夫の教育レベルが高い、夫の収入が高い、夫が妻の経済活動を支援する、と、夫の決別点も高かった。ジェンダー役割の変化の受容に関しては、話し合いアプローチごとの特徴よりも、妻が経済活動に従事しているかにより異なっていた。妻が経済活動に従事している方が、新たなジェンダー役割をより受容していた。

第2節では、夫妻一組で見た場合に、交渉力の要素がどのように作用しているのか、各アプローチから2例ずつ抽出し検討した。反論アプローチの夫妻の特徴として、夫の交渉力が高く、夫の両親・親戚や他妻と同居していなく、夫妻が話し合う環境があった。又妻は程度の差はあるが夫に現金を貸与出来、夫からは「妻は世帯に貢献している」とみなされている。妻は具体的な将来目標を持っている、家事労働を高く評価する等、自己利益への関心が高く、交渉力を向上させる要素を持っていた。これらの特徴は、第一節で検討した点と相違すると頃はあまりない。

7-3-2　考察

女性がより世帯内の意思決定に参加している事例では、妻が経済活動に携わり自身で自由に使える所得という物的資源や、学校教育やWDCでのスキル習得という人的資源を所有していた。夫が必要な時に現金を貸与したり贈与したり、親戚や友人にギフトを送ったり、女性が持つ資源を活用する事で、夫との良好の関係や親戚・友人との社会ネットワーク、周囲からの尊厳等、新たな資源を得る事が出来る。又、実家の後ろ盾がなく教育レベルが低く、経済活動に従事していない女性でも、親戚や友人とのネットワークの中でやり取りする少額のギフトのお金を取っておき、夫が必要な時に貸与・贈与したり、義母の掃除・洗濯を手伝ったりという事を通して良好な関係を築き、夫の機嫌を見計らって自分の意見を夫に同意してもらう事も可能である事が伺えた。資源は、「潜在力を持つが実現するかは他の要因に影響される（Kabeer 1999）」「他の資源や財へのアクセスを拡張していく

ような『可能性の束』（佐藤 2007）」であり、所有している資源を世帯内外でやり取りする事で、資源の持つ潜在力が実現する可能性がある。

妻が世帯の意思決定に、より自身の意見を反映させている「反論アプローチ」にみられる妻は、他のアプローチに比べて、妻の教育レベル、収入レベルが高く、夫に現金を貸与・贈与する割合が高く、妻個人の能力が高い。又夫の両親・親戚や他の妻との同居が少なく、夫と話しやすい環境があった。更に夫の教育レベル、収入レベルも高く、夫の交渉力も高かった。協力的対立モデルや他の集合的モデルでは、世帯内の資源分配においては、構成員の交渉力がより強い方が資源分配を決めるという（Manser and Brown 1980, McElroy and Horney 1981, Hoddinott and Haddad 1995, Quisumbing 2003）。

しかし「反論アプローチ」に分類される夫妻では、妻の交渉力を向上させる要素として夫の拡大家族との同居がない事、経済力がある事、夫への現金貸与、世帯への貢献認識等複数の要素を持っており、且つ、夫の交渉力も高かった。又「反論アプローチ」では変容したジェンダー役割規範を受容する夫も多く、力関係から権威を示し単独で物事を決めるというよりは、妻の要望を聞いたり話し合ったりという対処を取る例が見られた。

従来の世帯内資源分配や意思決定の研究では妻の交渉力向上の要素を特定するような研究が多く、夫の交渉力がどのように作用しているのか検討された研究は少ない。本章で検討した事例では、世帯内の意思決定プロセスにおいて妻の交渉力が影響するだけでなく、夫の交渉力も影響する事が明らかになった。又、世帯内意思決定から望むような資源を獲得するためには、交渉力の向上だけではなく、話し合う環境が整う事が必要である事も明らかになった。妻の教育レベルや経済力、世帯への貢献認識等、交渉力を向上させる要素が揃っても、夫妻が話し合う機会が制限されたり、夫が妻の話を聞く姿勢を持たなかったりという状況では、話し合う環境とならない。「反論アプローチ」では、夫の両親・他妻との同居が少なく、夫と話し合いやすい環境が見られた事から、「反論アプローチ」の妻は、妻自身の交渉力を交渉させる要素と、夫の交渉力と、話し合いやすい環境があるという特徴を持つといえる。

第 3 部　結論

第 8 章　結論

本研究は「世帯内の資源分配をめぐる意思決定において、女性が望む資源を獲得する要因を明らかにする」事を研究目的とし、「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」を研究課題として取り組んだ。世帯内の意思決定を「世帯に共通に必要となる衣食住や教育費、医療費等の世帯ニーズは誰の収入をどう分配するのか、子どもの進学は誰がどう決めるのか、妻が親戚を訪問したり外出したりするかどうかを誰がどう決めるのか、妻や子どもが病気になった際の対応を誰がどう決めるのか」等を決定する事と捉えて検討した（NDHS 2008, Kabeer 1999 を参照）。世帯内意思決定のプロセスを分析した結果、女性は「決定する」機会は限定的だが、決定者である夫に対して自身の要求を伝える交渉をする事で、意思決定に「関わる」場合もある事が明らかになった。

本研究は、まず文献調査により、開発援助におけるジェンダー格差改善のための取り組み、女性を対象とした所得創出活動の変遷と課題を整理した。そして女性の意思決定力を向上させるために女性の経済力向上が必要と仮定され多くの所得創出活動が実施されているが、統計資料からは女性の所得管理が必ずしも世帯内意思決定への参加に繋がらない事を示す例を検討した。次に世帯内資源分配と意思決定に関する先行研究を整理し、世帯内の力関係に着目されるようになった背景、世帯内資源分配が世帯構成員の交渉の結果と考えられるようになった背景を整理した。そして事例研究の方法により世帯内意思決定のプロセスを、質問票調査・半構造型個別インタビュー・直接観察によって得た当事者（妻・夫）の行動や認識及びキーインフォーマントの質的データから分析した。具体的には、世帯内意思決定において女性がより意見を伝えている場合に、どのような意思決定プロセスを経ているか、夫と意見が異なる際の妻の夫への対応の仕方を分類し、それぞれの分類に属する夫妻にどのような特徴があるのか分析した。分析に際しては、協力的対立モデル（Sen 1990）が提案する妻の交渉力向上の 3 要素である、1) 妻の決別点の高さ、2) 妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への関心の高さ、によって分析した。更に、協力的対立モデルを含め先行研究では十分に検討されていない「夫の交渉力」、及び、世帯外要因である「ジェンダー役割の変化の受容」の 2 点を分析項目に追加して協力的対立モデルを修正し、世帯内意思決定プロセスを分析する枠組みとして提示し（図 3-2：p54）、本研究の事例分析に適用した。

本研究の対象地は、夫妻で資源を共有しない地域の多い西アフリカの中でも、その傾向が強いナイジェリアのイスラーム圏である北部が、適切であると考えられた。何故なら、本研究では、夫妻で世帯内資源を共有せず、夫が食料、住居、医療、教育等世帯に共有の世帯ニーズ供給の義務があるとされる地域において、その分配に対して妻が自身の意見を反映させる事が出来るのか、夫が世帯内意思決定を行う事が当然とされる状況で、妻がど

のように自身の意見を伝えていくのか、その意思決定プロセスを明らかにする事を目的としたからである。

前述の研究課題を解くために 3 つの副課題を設定した。

副課題 1　女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか
副課題 2　世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とは、どのようなものか
副課題 3　世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか

本章は上記の 3 つの副課題に沿って結果をまとめ、本研究の結論を提示する。最後に、本研究から導き出される政策的含意について述べる。

8-1　結果のまとめ

副課題 1「女性が収入を獲得する事は、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の関わりに、どのように影響するか」については、次の事が明らかになった。収入を得ている女性は、自分の収入で世帯ニーズを充足する事を目指してはおらず、自分の収入で夫の義務である世帯ニーズ充足を助ける事で、夫との良好な関係を維持する事、自分と子どもに必要な世帯ニーズを確保する事を目指していた。ハウサ社会では世帯ニーズの充足は夫の義務であり、妻は夫が世帯ニーズ充足の義務を果たす事、且つ、世帯ニーズが充足される事を望んでいるため、夫を「助ける」程度に妻自身の収入を充てていた。女性が 1 カ月に得ている収入額は夫が世帯ニーズに支出している額には及ばず、女性の収入だけで世帯ニーズを満たす事は出来ない。その理由として次の 3 点があった。まず、ハウサ女性は隔離の慣習やジェンダー役割の範囲内で、家事・育児を遂行しつつ出来る経済活動に従事する事、開始資金の確保が難しい事から、多くの収入を得られる状況ではなかった。次に、女性の収入用途は多額の収入を必要としていない事、最後に、女性が収入を多く得る事を良く思われなかったり、夫が世帯ニーズに責任を持たなくなる事を危惧したりという事から女性自身が経済活動の拡大を意図していなかった。

又、ハウサ女性は自分の収入で両親・親戚や知人・近所の人に常にギフトを上げる事で社会ネットワークを維持していた。夫と良い関係を築く事で、妻は自分のやりたい事、セレモニー出席や親戚訪問の許可を取りやすくし、周囲にギフトをあげる事で良い評判を保つ。夫を敬う態度を示し、ジェンダー役割である家事・育児を遂行する事も夫との良い関係や周囲からの良い評判に繋がっていた。収入の用途が世帯や近所・親類のネットワークを強化し、人を助ける・役に立てる・自立していると、周囲から尊敬される存在となる。収入を得てこのような用途に使用する事で、女性は自分への尊厳や信頼等他の資源を手にしている。女性が収入を得る事だけではなく、収入の用途を世帯のため・親戚・知人のた

めにする事が、プラスの影響を意思決定に与えていた。女性が収入を得て世帯に貢献する事は「夫を助ける」という妻の従来のジェンダー役割の一部として受け入れられている。又、夫が世帯ニーズ充足の役割を果たせない事を追求しないため、夫に受容されている。夫が変容したジェンダー役割を認め、妻の貢献を認めるようになれば、夫妻が話し合う環境が整いやすい。

このように、夫が世帯ニーズ全てを供給するという役割を十分に遂行出来ず、女性が経済活動をして補完しなければ世帯ニーズを満たせないという現実の中で、従来のジェンダー役割が変化してきている。そのような変容した新たなジェンダー役割を夫が受容し、妻が経済的に貢献している事を認める事が夫妻の話し合う環境に繋がり、世帯内意思決定への女性の関わりを促進する要因の一つとなる事が明らかになった。

次に、副課題 2「世帯内意思決定で、女性が意見を伝えやすい話し合いの様態とは、どのようなものか」については、次の事が明らかになった。世帯内では夫妻間、父子間・父母間、夫妻と相互の両親・親戚の間で様々な資源がやり取りされていた。それらは物質的資源だけでなく、人的資源、保護や権威・敬いという社会関係資源、情報や知識等の文化的資源も含まれていた。このような資源のやり取りは既存の力関係が影響するが、同時に、資源のやり取りの結果、既存の力関係が変わっていく可能性もあった。女性はこれらの資源を活用しようと、資源の分配に関して夫妻間で話し合う。話し合いは、妻が夫に依頼する事で話題になる場合、夫妻で情報交換し相談するため争点にならない話題となる場合もある。前者は「世帯ニーズの充足」と「妻が外出する事」、後者は「子どもの教育」「妻自身のヘルスケア」「土地や家畜等の大きな買い物」であった。話し合いの話題ごとに分配される資源があり、その話し合いから妻が獲得しうる資源があった。

世帯ニーズの充足に関しては、妻に必要な物を聞かないで食料や日用品を現物で渡す夫と、妻に必要な物を聞いて購入する夫がいた。ハウサ社会では「世帯ニーズ供給は夫の義務」であり夫に食料の不足を伝える事は妻の正当な行為とみなされる。夫が世帯のニーズを満たす義務を怠る事は、妻にとっては離婚を申し出る社会的正当性があるとみなされる（Adamu 1999）。一方で「妻は夫に従う」という規範もあるため、世帯ニーズの不足を夫に話せない妻もいた。「与えられた世帯ニーズでやりくりする」事も妻に期待されている家事の役割の一つである事も、世帯ニーズ不足を言い出しにくくしていた。夫に世帯ニーズ不足を伝える場合は、夫が収入を世帯ニーズに費やすよう提言したり、夫の機嫌や態度を確認しながら遜って不足分の購入を依頼したり、又、妻自身の収入で不足分を補てんし、後に夫から返金を受けたりと、世帯ニーズが充足されるように妻は対応していた。

夫妻間で争点となるもう一つの話題が「妻の外出」であった。ハウサの既婚女性は隔離を実践し、外出には夫の許可が必要となるため、妻には外出を強く要求する正当性はない。しかしながら、親戚・知人を訪問したり結婚式等セレモニーに出席する事で、女性は相互扶助のネットワークを築いたり、経済活動の宣伝や情報交換をしたりしている。そのため

夫に対して強く要求する事は出来ない話題ではあるが、外出から妻が獲得しうる資源として、両親・親戚や知人との間に構築されうる社会ネットワークや、交換出来る情報やギフトがあるため、夫からの外出許可を何とか得ようと働きかけていた。ほとんどの妻は夫に許可されなかった経験があり、夫に外出の許可を求める際は夫の許可を得やすい状況を選んで懇願したり、夫の機嫌を見て譲歩したりという戦略が見られた。又夫が妻の要望にいつも同意し、容易に外出の許可を得ている妻の例も少数だがあった。

子どもの教育については、学校の選択、子どもの成績や進捗具合、教育費をどう捻出するか等、親戚や知人から情報を収集し夫妻で相談していた。子どもの教育に関しては夫妻で大きく意見が異なる事例はなかった。「妻自身のヘルスケア」「土地や家畜等の大きな買い物」は「世帯ニーズの充足」「妻の外出」と共に各国のDHS（人口保健調査）で世帯内の意思決定事項として取り上げられているが、「妻自身のヘルスケア」と「土地や家畜等の大きな買い物」に関しては、「子どもの教育」と同様に夫妻間で意見が対立する例はなく、妻の具合が悪ければ、夫は病院までの交通費や薬代を渡し、土地や家畜を買う時は妻と相談するという例が多かった。

このように夫妻が話し合う話題によって妻は異なるアプローチをとり、自身の要望を満たそうとしていた。これは話題によって妻に正当性のあるとみなされる行動と、要望を満たそうという妻の強い意思が背景にあったためである。「夫と意見が異なる際に、どう夫に対応するか」という問いに対しては、「妻は夫と言い争わない」というジェンダー規範があり、「夫と異なる意見を持つ」事は妻にとって正当性のない行動だが、夫に反論する対応をとる妻の例もある事が明らかとなった。この状況では、妻によって異なるアプローチを取っており、4種類の特徴が見られた。これらの4つのアプローチを次のように名付けた。第一に、夫と継続的に話し合い夫に自分の意見や要望を伝える事で、自分の要求を夫が決定する可能性がある「反論アプローチ」、第二に夫の態度を見ながら対応し、自身の意見を言う機会があれば提案する「懇願アプローチ」、夫に不満を持ちながらも夫に従う「回避アプローチ」、夫に不満なく従う「従順アプローチ」である。

最後に副課題3「世帯内意思決定で、意見を言える女性は、どのような特徴があるか」では、各アプローチに分類された女性にどのような特徴があるのか分析した。まず、妻の意見が夫に伝えられる可能性があるのは「反論アプローチ」と「懇願アプローチ」である。夫妻双方が話し合う機会を日常に持つ場合は「反論アプローチ」とし、夫の対応が権威を示したり寛大さを示したりするため、妻は夫の様子を観察し夫に依頼をするか、時間をおいて依頼をするか、諦めるか等、夫の対応によって自身の行動を決めている場合は「懇願アプローチ」に分類した。次に、妻の意見が夫に伝わる事はほとんどなく、夫妻の間に話し合う機会が少なく、妻の立場が弱い「回避アプローチ」、夫が必要な物全てを妻に与え、妻は何の不満も感じていない場合は「従順アプローチ」に分類した。

そして、これら4つに分類された夫妻の特徴を協力的対立モデル（Sen 1990）によって分析した。世帯内の交渉力の要因について同モデルが提示している、1)　妻の決別点の高

さ、2) 妻の世帯への貢献認識の高さ、3) 妻の自己利益への関心の高さ、の 3 点に加えて、4) 夫の交渉力の高さ、5) 夫妻のジェンダー役割の変化の受容、を追加した。「反論アプローチ」では妻が常に自身の意見を夫に伝えているため、世帯内意思決定に最も関わると捉え、「反論アプローチ」に属する夫妻には特徴がみられるか、どのような特徴があるか検討した。まず、各アプローチに属する妻の各分析項目を比較したところ、「反論」アプローチの特徴として、「義両親・夫の他妻との同居が少ない」「妻の初婚年齢が高い」「教育レベルが高い」「WDC 卒業生である」「経済活動に携わる」「夫に自分の収入を貸与する」と、妻の決別点が高かった。又、「妻の世帯への貢献認識」「自己利益への関心」も高かった。更に夫の教育レベルと収入が高い、夫が妻の経済活動を支援する、と、夫の決別点も高い。夫は「世帯ニーズに妻も貢献すべき」「妻の収入が夫より多くて構わない」という新たなジェンダー役割を受容している、という事例があった。

次に、夫妻を一組として特徴を検討したところ、反論アプローチの夫妻には次のような特徴が見られた。「夫の交渉力が高く、夫の両親・親戚や他妻と同居していなく、夫妻が話し合う環境がある。妻は程度の差はあるが夫に現金を貸与出来、夫からは「妻は世帯に貢献している」とみなされている。妻は具体的な将来目標を持っている、家事労働を高く評価する等、自己利益への関心が高い。妻はジェンダー役割の変化を受け入れている」。これらは協力的対立モデルで分析した項目から明らかになった事と重なっていた。

副課題 1、2、3 で明らかになった、世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の参加を促進する要因を以下にまとめる。女性が自分の要望や意見を夫に伝えていたのは「反論アプローチ」で、その特徴は「継続的に夫と話し合う」であった。夫の機嫌や態度に左右されるが「懇願アプローチ」では、「夫に話しやすい状況」を選んで妻は対応していた。このように「夫妻が話し合う環境」が整って、ようやく妻は夫に自分の意見を伝える事が出来る。「妻は夫に従う」「女性は意思決定に関わらない」とされるハウサ社会においては、妻が夫に意見を述べる事は容易ではない（Callaway 1987, Sada, Adamu et al. 2005, DFID/CIDA 2009）。

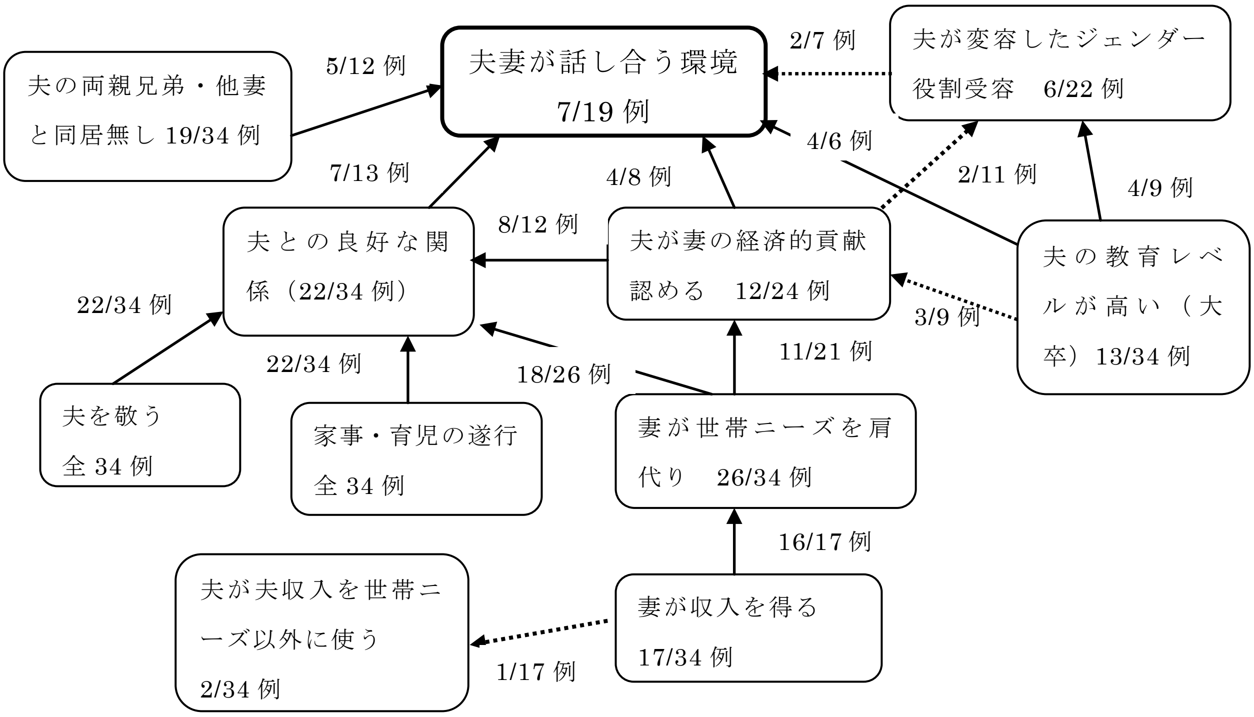
「夫妻が話し合う環境[48]」を持つ事に寄与していた要因を図 8-1 に示す。寄与していた要因は、「夫の両親・兄弟や夫の他妻と同居しない」「夫が妻の経済的貢献を認める」「夫の教育レベルの高さ（大学以上）」「夫との良好な関係[49]」であった。「夫が妻の経済的貢献を認める」に寄与している要因は、「妻が世帯ニーズを肩代わりする・お金を貸す」であり、それを可能にするのは「妻に収入がある」事であった。経済活動に従事していない妻でも、ギフトとして親戚や知人・友人から贈られた現金を貯め、夫に貸している例もあったが、継続して夫にお金を貸す事を可能にしているのは、妻自身が経済活動に携わり収入を得ている事であった。又、「妻が収入を得る」場合でも、「夫が夫収入を世帯ニーズ以外に使う」

---

[48] 夫妻の話し合いにおいて、夫が妻と意見が異なる際に「妻と話し合う」という対応をしている例。
[49] 妻が夫に自分の意見を伝える可能性のある「反論アプローチ」と「懇願アプローチ」の例。

事もあったり、「夫との良好な関係」「夫が妻の経済的貢献を認める」が「夫妻が話し合う環境」に繋がらなかったりという例もあった。「夫との良好な関係」に貢献している要因も「妻が世帯ニーズを肩代わりする・お金を貸す」であり、「夫を敬う」「家事・育児の遂行」も挙げられた。「夫の教育レベルが高い」場合に「変容したジェンダー役割を受容する」例が多かった。

図 8-1　夫妻が話し合う環境に貢献する要因

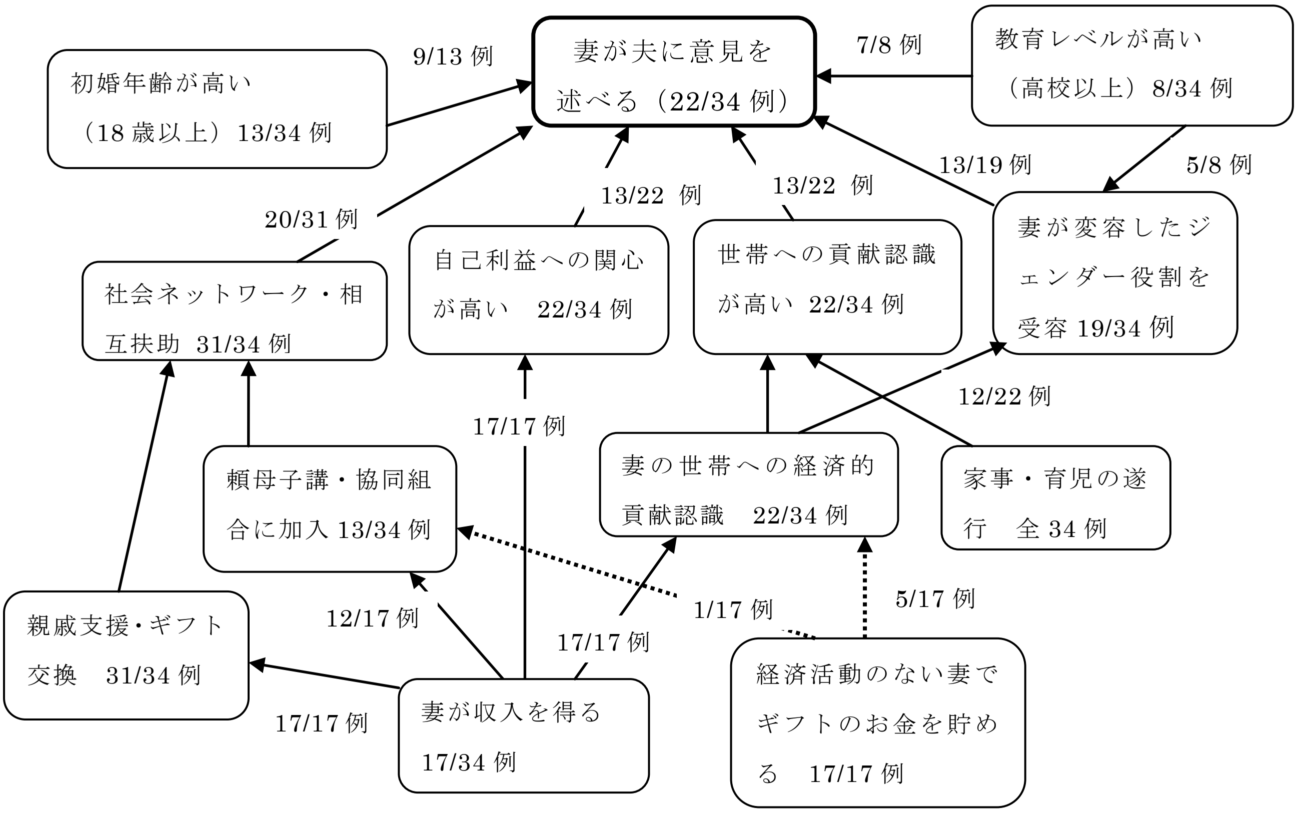

夫妻が話し合う環境
7/19 例
夫の両親兄弟・他妻と同居無し 19/34 例
5/12 例
夫が変容したジェンダー役割受容　6/22 例
2/7 例
4/6 例
7/13 例
4/8 例
2/11 例
4/9 例
夫との良好な関係（22/34 例）
8/12 例
夫が妻の経済的貢献認める　12/24 例
夫の教育レベルが高い（大卒）13/34 例
22/34 例
3/9 例
22/34 例
18/26 例
11/21 例
夫を敬う
全 34 例
家事・育児の遂行
全 34 例
妻が世帯ニーズを肩代り　26/34 例
16/17 例
夫が夫収入を世帯ニーズ以外に使う
2/34 例
妻が収入を得る
17/34 例
1/17 例

（事例研究の結果を基に筆者作成。点線矢印は数例の事例、実線矢印は多くの事例が有ったもの。妻のデータは 34 事例すべてあるが、夫のデータは質問項目により回答を得ていない）

夫妻が話し合う環境が整っても、妻が夫に意見を言わない可能性もある。「意見を述べる妻の特徴」を図 8-2 に示す。夫に意見を述べる妻の特徴は、「教育レベルが高い（高校以上）」「妻の初婚年齢が高い（18 歳以上）」「社会ネットワークがある」と、妻の決別点が高く、「世帯への貢献認識が高い」「自己利益への関心が高い」「変容したジェンダー役割を受容」と、交渉力の他の要素もあった。「世帯への経済的貢献」をしていると認識している妻、「教育レベルが高い」妻は、「変容したジェンダー役割を受容」している例が多かった。「妻が収入を得る」場合は「世帯への経済的貢献」をしやすく、「世帯への貢献認識が高い」へ繋がっていた。経済活動に従事している妻は「自己利益への関心が高い」。経済活動をしていない妻も、ギフトでもらうお金を貯めていて世帯ニーズに使用したり親戚支援に使用し

たりしている。しかし経済活動に携わり収入を得ている妻は、より定期的継続的に「世帯への経済的貢献」「頼母子講・協同組合に加入」に自身の収入を使用していた。「家事・育児」の遂行は調査対象の女性全員が「世帯への貢献」と認識していたため、「世帯への貢献認識」を向上させる要因の１つと考えられる。

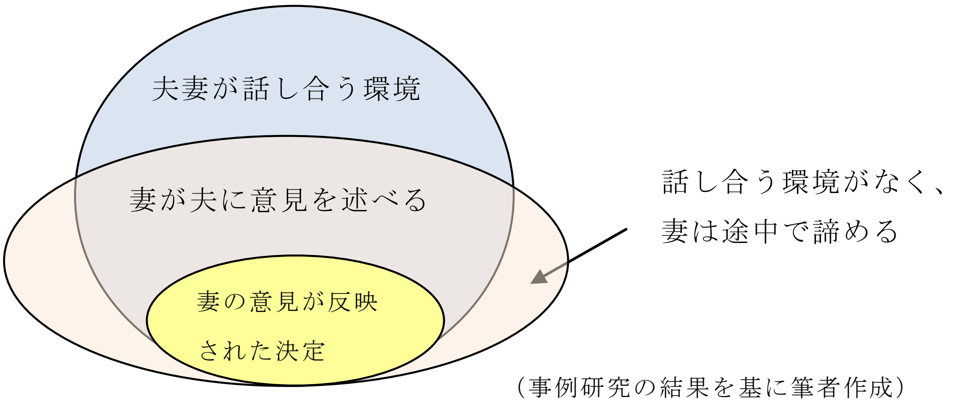
図 8-2　妻が夫に意見を述べる要因


妻が夫に意見を述べる（22/34 例）
初婚年齢が高い（18 歳以上）13/34 例
9/13 例
教育レベルが高い（高校以上）8/34 例
7/8 例
5/8 例
13/19 例
社会ネットワーク・相互扶助 31/34 例
20/31 例
自己利益への関心が高い 22/34 例
13/22 例
世帯への貢献認識が高い 22/34 例
13/22 例
妻が変容したジェンダー役割を受容 19/34 例
12/22 例
17/17 例
頼母子講・協同組合に加入 13/34 例
妻の世帯への経済的貢献認識 22/34 例
家事・育児の遂行 全 34 例
親戚支援・ギフト交換 31/34 例
12/17 例
1/17 例
5/17 例
17/17 例
17/17 例
妻が収入を得る 17/34 例
経済活動のない妻でギフトのお金を貯める 17/17 例

（事例研究の結果を基に筆者作成。点線矢印は数例の事例、実線矢印は多くの事例が有ったもの）

女性が世帯内意思決定に参加するためには、「夫妻が話し合う環境」と「妻が夫に意見を述べる」事が共に必要である。妻が夫に意見を述べても、夫妻が話し合う環境にない場合、妻は途中で意見を諦める（懇願アプローチで、夫への依頼を試みるが失敗する場合）（図 8-3）。

図 8-3　妻の意見が夫の決定に反映される可能性



（事例研究の結果を基に筆者作成）

8-2　本研究の総括

このように本論は、「世帯内の資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か」、という問いを明らかにするために、これらの 3 つの副課題に答えてきた。これら 3 つの副課題への答えから、以下を本論の結論として提示する。

女性の意見をより反映した世帯内意思決定が実現されるのは、「女性が意思決定をする」場合とは限らない。ナイジェリア北部のハウサ社会は家父長制が強く、「意思決定をするのは家長」という規範が強いため、「女性が意思決定をする」事は規範に挑戦する事となる。しかし、女性自身が実際に意思決定をしなくとも、女性が望む決定を獲得出来る場合がある。それは妻が夫と話し合う機会が多い事、夫が妻に相談する事を通して、「意思決定は夫」であっても、決定に妻の意見が反映される可能性である。ハウサ社会では *Matsayi mace* という女性の地位を意味する言葉があり、*Matsyai mace* を保つ事で女性の尊敬（*Mutunci*）と尊厳（*Daraja*）を維持出来るとみなされている（Renne 2004, 280）。「夫を敬う妻」という「良き妻」のジェンダー役割を遂行する事で、女性自身が尊敬を得て自身の尊厳を保つ事が出来る。従って、ハウサの女性達は夫に決定させる事で「意思決定をするのは家長である夫」という規範を守り、「夫を敬う妻」という立場を守り、自分に対する周囲からの尊厳を維持している。

このように、女性が自身の意見を世帯の意思決定に反映させるには、まず夫妻が話し合

う、夫が妻に相談する、妻が夫に相談する、という関係性を持つ事が、女性が意思決定に参加する条件として必要である。夫が単独で物事を決める事が当然とみなされる社会においては、妻が自身の意見を述べる・何かを依頼するという機会を持つ事は難しく、妻が夫に意見を述べる事を諦める可能性もある。

ハウサの夫妻の話し合いプロセスは、「夫と意見が異なる際の妻の対応」から、「反論アプローチ」「懇願アプローチ」「回避アプローチ」「従順アプローチ」の 4 アプローチに分類出来た。最も夫に自分の意見を述べているのは「反論アプローチ」であり、このアプローチに属する妻の特徴がいくつか明らかになった。反論アプローチの妻の特徴としては、経済活動に従事し、夫に現金を貸与・贈与する機会が多い事、教育レベルが高い事、義両親・親戚や夫の他の妻と同居していない事、妻の世帯への貢献認識が高い事、妻の自己利益への関心が高い事、夫の教育レベルが高い事が挙げられた。「夫が変容したジェンダー役割を受容する」事が、「反論アプローチ」に属する妻の特徴の 1 つとして挙げられた。

本研究で世帯内の意思決定プロセスを分析する枠組とした「協力的対立モデル（Sen 1990）」では、女性が交渉力を向上させる要素を提示していた。女性の教育や経済力といった能力が向上する事による「決別点の高さ」、女性がどう見られるか・女性が自身をどう捉えるかという「認識」がもたらす「世帯への貢献認識の高さ」と「自己利益への認識の高さ」の 3 つの要素で世帯内意思決定を分析していた。本研究では、この枠組みに「夫の交渉力」と「夫妻のジェンダー役割の受容」という、夫の要素と、ジェンダー役割という世帯外の要因に影響される要素を分析の枠組みに加えた。世帯内資源分配・意思決定に関する従来の研究では、妻の交渉力向上の要素を特定するような研究が多く、男性の交渉力を扱った研究や、夫妻がジェンダー役割をどう受容しているのか、これらに着目した研究は少なかった。

これらの要素を加えた分析枠組みでナイジェリア北部のハウサ社会の事例を分析してきたが、ハウサの世帯内意思決定では、妻自身の要素も影響するが、夫の要素も世帯内意思決定に影響する事が明らかになった。女性が教育レベルを向上させたり経済力を向上させたりする事は女性の決別点を向上させ、交渉力を高める。しかし、夫妻間の意思決定は夫側の要素も同様に影響するので、夫が話し合う姿勢を持たない場合、妻が教育レベルや経済力が高くても妻が意思決定への関わりを増す状況に繋がらない。ハウサ社会では妻は夫に従う事とされ、女性自身への尊敬と尊厳を保つ事を大切にするため、夫の機嫌を見計らって自分の意見を述べる決断をする妻も多い。従って、夫がどのような態度で妻に接するかは、妻が話し合う機会を得られるかを決めている。ハウサの夫妻の事例からは、話し合う姿勢がある夫の特徴として、妻の世帯への経済的貢献を認めている事、教育レベルが高い事が見られた。妻の世帯への経済的貢献は、夫の義務である世帯ニーズの充足を妻が自身の収入を夫に定期的に貸す事で「夫を助ける」と認識されていた。夫妻が話し合いやすい環境として、夫の両親・親戚や他の妻と同居していない事、夫妻間に良好な関係がある

事が特徴として見られた。

世帯ニーズの充足は夫の義務であっても、社会経済状況の変化の中で夫が1人でその義務を果たす事が難しく、従来のジェンダー役割に従っていては生活に支障が生じる。そのような状況で、夫妻とも従来の規範に従いつつも少しずつ規範を変えて新たな状況に適応している。夫が新たなジェンダー役割を受容するには、妻の世帯への貢献・妻の能力を認めている事が影響している。特に女性が収入を得る事で世帯に経済的に貢献し、親戚や友人を支援し社会ネットワークを構築していく事について、このような能力も夫が認めるようになる場合がある。妻が収入を得て夫の世帯ニーズ供給を助けたり、親戚や知人を支援したりという用途に使用する事で、女性は自分への尊厳や信頼等収入以外の資源を手にする。収入を得る事だけではなく、どう使用するかがプラスの影響を意思決定に与えている。

このように、世帯内資源分配をめぐる意思決定プロセスに、女性がより関わるのはどのような場合か、その意思決定プロセスを解明するためには、ハウサの事例で見てきたように、対象社会において交渉力の要素としてどのような項目が考えられるのか、世帯ニーズの充足等世帯への貢献は誰の役割と捉えられているのか、世帯内でどのような話題が争点となるのか、ジェンダー役割にはどのようなものがあるか等、夫妻両方の要素を検討する事、又、夫妻の組み合わせで検討する事が必要である。世帯内意思決定から女性が望むような資源を獲得するためには、交渉力の向上だけではなく、話し合う環境が必要であった。交渉力を向上させる要素が揃っても、夫妻が話し合う機会が制限されたり、夫が妻の話を聞く姿勢を持たなかったりという状況では、話し合う環境とならない。「反論アプローチ」の妻は、妻自身の交渉力を交渉させる要素と、夫の交渉力と、話し合いやすい環境があるという特徴を持つといえる。

以上、本研究の総括を述べてきた。「反論アプローチ」の場合が最も女性の意見が世帯内意思決定に反映され、「懇願アプローチ」の場合は男性の対応次第で女性の意見が聞き入れられ、「回避アプローチ」では、女性は異なる意見を持ちつつも、意見を伝える事がなかった。つまり「反論アプローチ」が最も女性の意見が世帯内意思決定に反映される可能性が高く、次いで「懇願アプローチ」、そして最後に「回避アプローチ」の順番となっていた。もう一つの「従順アプローチ」は少ない事例ではあるが、これら3つのアプローチと異なり女性が自身の意見を世帯内意思決定に反映させようと意図していない事が分かった。このアプローチを取る夫妻は、男性に収入があり世帯ニーズも充足し、男性は稼ぎ手という既存のジェンダー役割を満たし、女性は既存のジェンダー役割を受容している例があった。それらの例の中には、女性も経済的に世帯に貢献し、男性の教育レベルが高い例もあり、最も女性が意見を述べている「反論アプローチ」に相似した特徴を持つ夫妻もあった。しかし初婚年齢が低かったり、夫との年齢差が大きかったりという、「反論アプローチ」の夫妻には見られない特徴もあった。「従順アプローチ」は夫が一人で世帯ニーズを供給出来て

いた時代の婚姻関係に近く、十分に世帯ニーズを供給する夫に対して妻が不満を言う事は正当な行動とみなされない。そのため妻は「夫に反論しないで従うだけ」という従来のジェンダー役割を果たしている。「夫が供給する」というジェンダー役割を果たしている場合は、妻は世帯内意思決定への参加に関心を持たないのか、今後の課題としたい。

8-3　政策的含意

最後に、開発援助に対して、以下を提言する。本研究では世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の参加を促進する要因を明らかにした。まず「夫妻が話し合う環境」が必要で、この環境を得るためには、女性の世帯への経済的貢献を妻も夫も認識している事、夫の教育レベルや夫が変容したジェンダー役割を受容している事等が関わっていた。更に女性は、意思決定の話題により異なる戦略で夫に対応し、自身の目的を遂げようとしていた。

従来、女性の生活向上や女性のエンパワーメントを目標とした開発援助においては、女性を対象に女性の経済力向上や所得向上のためのスキル習得支援といった介入が行われてきた。しかし第2章で検討したように、女性対象の所得向上プロジェクトは「お小遣い稼ぎ」程度と考えられたり、女性の家事・育児役割と経済活動の二重の負担を課す事になったりという批判があった（伊藤 1995,64-65, モーザ 1996,102-103）。又、所得を女性自身が得ても、それをコントロールする事や意思決定に参加するとは限らない事も指摘されてきた（Longwe 1991, Endeley 2001,39）。これは夫妻が財を共有しないナイジェリア北部においては、統計資料からも明らかであった[50]（NDHS 2008）。更に、女性は所得を向上させる事よりも、カメルーンでは婚姻関係を維持する事を重視したり（Endeley 2001,39-40）、ウガンダではグループ内の他の女性との関係の維持を重視したり（Pickering, Kajura, et al.1996）という研究例があった。本研究の対象地であるナイジェリア北部ハウサ社会においても、*Matsayi mace*（女性の地位）を強化する尊厳と尊敬を維持する事を重視しており、経済力を持つ事は尊厳と尊敬を得る事に繋がると捉えられるが、尊厳と尊敬を維持するためには夫への敬意を示したり隔離を実践したり、適切とされるジェンダー役割の遂行も求められる（Renne 1994, 281-283）。

このように先行研究では女性が所得を得ても世帯内の意思決定に必ずしも参加出来ていない事、女性自身が所得の向上よりも周囲との関係性や夫や周囲から尊厳と尊敬を確保する事を重視している例が挙げられている。本研究でもハウサ女性は所得を得る事を重視してはいるが、夫や周囲の人々との良好な関係性の維持や女性自身の尊厳を守る事、周囲から尊敬される事も重視している事が明らかになった。又、本研究では女性が世帯内資源分配をめぐる意思決定に、より参加する要因と意思決定にどのように参加しているかを検討してきたが、女性がより参加する際の要因を詳細に明示し、要因同士の関係性を示す事が出来た。女性の世帯内意思決定への参加を促進するためには、「夫妻が話し合う環境」と

---

[50] 第4章、表4-19及び表4-20参照

「妻が夫に意見を言う」事が必要であった。具体的には、女性自身の経済力も要因の 1 つではあったが、その所得を世帯のために使用し、世帯に貢献していると妻自身が認識し、夫からも認識される事も要因であった。夫妻が話し合いやすい状況を確保している事も要因としてあり、夫の両親・兄弟や夫の他の妻との同居がない事、夫との年齢差が大きくない夫妻の場合に、妻が夫に提案したり頼みごとをしたりしやすく、夫も妻と話し合っていた。更に男性の要因もあり、男性の教育レベルが高い事、変容したジェンダー役割を受容している事があった。これらの要因を考慮した介入を行う事で、女性が自身の生活に関わる意思決定に自身の意見をより反映させる事が出来る。

このように、草の根レベルの女性達にとって、自分で所得を得て経済力を向上させる事は必要ではあるが、人間関係の維持や自身の尊厳と尊敬の維持も重視されている。このような状況において外部からの開発援助が「女性の生活向上」「女性のエンパワーメント」を目標とした介入を行う際には、本研究で明らかになった「女性の世帯内意思決定への参加を促進する要因」を活用出来る。

第 4 章で述べたように、ナイジェリアには草の根レベルの女性の生活向上を目的とした WDC（女性センター）というコミュニティレベルの小規模な施設が全国にあり、識字、所得向上のための洋裁や編み物等のスキル習得、保健衛生の講座等様々な知識とスキルを伝える場となっている。又女性達が集まり情報交換とネットワークを形成する機会ともなり、協同組合やマイクロ・クレジットの対象として政府機関や援助機関からの支援も受けやすい。1980 年代後半に国家プログラムとして全国に建設されたWDCは、1990 年代後半から廃れていた。しかし、2006 年に全国女性評議会[51]でWDC活性化に向けたガイドライン作成が決議され、2007 年から連邦女性課題・社会開発省の付属機関である国立女性開発センターと国際協力機構（JICA）によって、WDC活性化が取り組まれている[52]。

本研究のフィールド調査では、WDC が女性が集まる場である事を利用し、WDC 講師を通してコミュニティの女性達にアクセスし、WDC でインタビューを行ったり、WDC 講師と共に調査協力者の自宅を訪問したりした。WDC はコミュニティの人々に認知された一般の女性達が集まる場として機能していた。このような草の根レベルの女性を対象としたWDC のような小規模施設の活性化を通して女性の生活向上を目的とする活動に、政府機関及び援助機関が取り組む際に、本研究を次のように活用出来る。

まず活動の計画段階においては、当該施設に女性が通うかどうかは夫が決定すると推測される事から、施設の目的、提供されるサービス、運営のあり方等の情報を、女性だけでなくコミュニティの男性に対しても周知する。又、第 2 章で検討したように、「世帯」を

---

[51] 連邦女性課題・社会開発省大臣、全国の州女性課題・社会開発省、女性関連組織から成る、ジェンダー課題に関する最高意思決定機関。

[52] JICA による技術協力プロジェクト。「女性の生活向上のための WDC 活性化支援プロジェクト：フェーズ 1」は 2007 年 1 月から 2010 年 1 月まで実施。同プロジェクト：フェーズ 2 は 2011 年 2 月から実施中（2015 年 2 月まで予定）。

単位とする事なく、世帯内で財を共同管理しているか個別に管理しているか、世帯員が共同で生産活動に携わるか等、世帯内の関係を調査する。

次に、活動の実施段階においては、女性の世帯への貢献を男性が理解しやすいように、又、男性の世帯への貢献を女性が理解しやすいように、お互いの経済的・非経済的貢献を知る機会を施設で提供する。調査協力者の中には夫妻で家計簿をつけ、それを見ながら1カ月の収支を話し合う例があった（夫妻 28）。ハウサ社会では夫妻で財を共有しないが、調査協力者の多くが夫の収入用途を一緒に話し合っていた。妻がどの程度、世帯ニーズを補充したり夫に現金を貸したりしているのか、又、夫が食料や日用品にどのくらい費やしているのか可視化する事で、お互いの貢献を認識しやすくなる。夫妻を対象とした家計管理に関する研修は、夫妻の経済的貢献や労働配分、時間配分を相互に知る機会となる。

最後に活動の評価段階においては、「女性の世帯内意思決定参加」に関する評価項目として、従来は「女性が最終決定をしたか」「女性が自分で決めたか」を「意思決定力」「自律性」として評価する事が通例であるが、本研究で明らかになった女性の意思決定参加の要因に関わる項目で評価していく事が望ましい。具体的には「決定事項を女性は把握しているか」「女性は自分の意見や要望を伝えたか、どう伝えたか」「夫妻で話し合う機会があったか」「男性が女性に意見や要望を聞く事はあったか」「男性は女性の意見や要望を理解したか」「男性は女性の世帯への貢献をどう認識しているか」「男性及び女性は当該地域のジェンダー役割をどう認識しているか」等の項目で評価する事が必要である。

世帯内資源分配をめぐる意思決定への女性の参加を促進するために、夫妻が話し合うような環境を持つ事、男性が女性の世帯への貢献や女性の能力を認めるようになる事、そして女性が意見や要望を夫に伝えるよう促す介入が、女性自身の経済力を向上させるような介入と共に必要である。従来の開発援助においては「女性のエンパワーメント」支援として、主に女性の能力向上を目指す活動が多かったが、本研究で明らかになったように、話し合う環境を整えるための活動も必要である。

【参考文献】

Adamu, F.L. (1999). “A Double-edged Sword: Challenging Women's Oppression within Muslim Society in Northern Nigeria.”, *Gender and Development* 7(1): 56-61.

Adamu, F. L. (2004). “My Wife's Tongue Delivers more Punishing Blows than Muhammed Ali’s Fist: Bargaining Power in Nigerian Hausa Society.”, Boran, A.and Murphy,B.Ed. *Gender in Flux*, Chester Academic Press: 74-93.

Adamu, F.L. (2008). “Gender,Hisba and the Enforcement of Morality in Northern Nigeria.”, *Africa* 78(1): 136-152.

Adato, M., Briere,B., Mindek, D. and Quisumbing, A.R.(2003), “The Impact of PROGRESA on Women’s Status and intrahousehold Relations”, Quisumbing, A. R., Ed. *Household decisions, gender, and development : a synthesis of recent research*. Washington, D.C. Baltimore, Md., International Food Policy Research Institute, Distributed by the Johns Hopkins University Press. 213-218

Agarwal,B.(1994). *A field of one’s own: Gender and land rights in South Asia.* Cambridge University Press

Agarwal,B. (1997). “’Bargaining’ and Gender Relations: Within and Beyond the Household.”, *Feminist Economics* 3(1):1-51.

Ashraf, N. (2009). “Spousal Control and Intra-Household Decision Making: An Experimental Study in the Philippines.”, *American Economic Review* 99(4): 1245-1277.

Becker, G. S. (1965). "A Theory of the Allocation of Time.", *Economic Journal* 75(299): 493-517.

Becker, G. S. (1981). *A Treatise on the Family*., Cambridge, MA, Harvard University Press.

BLP. (1991). *Four years of the Better Life Programme for the Rural Woman.*,BLP.

BLP. Kano State. (1994). *Activities of BLP in Kano State*., BLP.Kano State.

Boserup, E. (1970). *Women's Role in Economic Development*. ,N.Y. St.Martins Press.

British Council (2012). *Gender in Nigeria Report 2012*.

Bruce,J.and Dywer, D. Ed. (1988). *A Home divided : women and income in the Third World.*, Stanford Calif, Stanford University Press.

Buvinic, M. (1986). “Projects for Women in the Third World: Explaining their Misbehavior.”, *World Development* 14(5): 653-664.

Callaway, B. J. (1987). *Muslim Hausa women in Nigeria : tradition and change Syracuse*., NY,Syracuse University Press.

Caplan, P. (1984). “Cognatic descent, Islamic Law and Women's Property on the East African Coast.”, R. Hirschon,Ed., *Women and Property, Women as Property*., London, Croom Helm**.,** 23-43.

Cooper, B. M. (1997). *Marriage in Maradi : Gender and Culture in a Hausa Society in*

Niger,*1900-1989.,* Portsmouth, NH, Oxford.

Deere, C. D. (1976). “Rural Women's Subsistence Production in the Capitalist Periphery.”, *Review of Radical Political Economics* **8**(1): 9-1

Dey, J. (1981). “Gambian Women - Unequal Partners in Rice Development-Projects.”, *Journal of Development Studies* 17(3): 109-122.

DFID/CIDA (2009). *Gender and Growth Assessment Nigeria: State Report.,*DFID/CIDA.

Doepke, M. and T. Michele, (2011). “Does Female Empowerment Promote Economic Development ?” *Policy Research Working Paper* WPS 5714.

Doss, C. (2006). “The Effects of Intrahousehold Property Ownership on Expenditure Patterns in Ghana.”, *Journal of African Economies* 15(1): 149-180.

Duflo, E. (2000). “Child Health and Household Resources in South Africa: Evidence from the Old Age Pension Program.”, *American Economic Review* 90(2): 393-398.

Elson, D.(1991). “Male Bias in Macro-economics: The Case of Structural Adjustment”, Elson, D. Ed., *Male Bias in the Development Process,* Manchester University Press, 164-190

Endeley, J. B. (2001). “Conceptualising Women's Empowerment in Societies in Cameroon: How Does Money Fit in?”, *Gender, Development and Money.* , C. Sweetman, Oxfam GB.

Falola, A. M., M. Uhomoibhi, and U. Anyanwu, (1991). *History of Nigeria 3*, Longman.

FMWASD (2000). *National Policy on Women.*,Federal Ministry of Women Affairs and Social Development.

FMWASD (2006). *National Gender Policy.,* Federal Ministry of Women Affairs and Social Development.

FMWASD (2009). *Nigeria Compendium of Good Practices in Gender Mainstreaming.,* Federal Ministry of Women Affairs and Social Development.

FSP Kano (1997). Family Support Program in Kano State, Kano State.

Goldstein, M. (1999). “Chop Time, No Friends: Intrahousehold and Individual Insurance Mechanisms in Southern Ghana.” University of California at Berkeley, Department of Agricultural and Resource Economics, and Yale University, Economic Growth Center.

Groverman,Verona, J. D. G. (2001). *Gender and Organisational Change- Training Manual-*., ICIMOD.

Guyer,J.I.(1981). “*Household and Community in African Studies*”. African Studies Review 24:87-137

Haddad, L. and J. Hoddinott, (1994). “Women's Income and Boy-Girl Anthropometric Status in the Cote d'Ivoire'.” *World Development* 22: 543-553.

Haddad, L. ,J.Hoddinott and H.Alderman Ed. (1997). *Intrahousehold Resource Allocation in Developing Countries- Models, Methods and Policy-*. The John Hopkins University

Press.

Hill, P. (1972). *Rural Hausa : a village and a setting,* Cambridge [Eng.] : University Press.

Hoddinott, J. and L. Haddad, (1995). "Does Female Income Share Influence Household Expenditures – Evidence fromCote-d'Ivoire."*Oxford Bulletin of Economics and Statistics* 57(1): 77-96.

Hoodfar, H. (1988). "Household Budgeting and Financial Management in a Lower-Income Cairo Neighborhood." Bruce,J.and Dywer, D. Ed. *A Home divided : women and income in the Third World*, Stanford University Press.

Izugbara, C., L. Ibisomi, et al. (2010). "Gendered Interests and Poor Spousal Contraceptive Communication in Islamic Northern Nigeria." *Journal of Family Planning and Reproductive Health Care* **36**(4): 219-224.

Jackson.C., Iversen, V. et al. (2011). "Do Spouses Realise Cooperative Gains? Experimental Evidence from Rural Uganda." *World Development* 39(4): 569-578.

JICA(2009) *課題別指針：ジェンダーと開発*, JICA

Jones, C. (1983). "The Mobilization of Womens Labor for Cash Crop Production- A Game Theoretic Approach." *American Journal of Agricultural Economics* 65(5): 1049-1054.

Kabeer, N. (1994). *Reversed Realities : Gender Hierarchies in Development Thought*. London, New York, Verso.

Kabeer, N. (1997). "Women, Wages and Intra-household Power Relations in Urban Bangladesh." *Development and Change* 28(2): 261-302.

Kabeer, N. (1999). "Resources, Agency, Achievements: Reflections on the Measurement of Women's Empowerment." *Development and Change* 30(3): 435-464.

Kandiyoti, D. (1988). "Bargaining with patriarchy."*Gender & Society* **2**(3): 274-290.

Kano State (2005). Kano State Economic Empowerment and Development Strategy, Kano State Government.

Khandker, S. R. (2005). "Microfinance and Poverty: Evidence Using Panel Data from Bangladesh." *World Bank Economic Review* 19(2): 263-286.

Koopman, J. (1992). "The Hidden Roots of the African Food Problem: Looking within the Rural Household." N.Folbre,Ed. *Women's work in the World Economics(Volume 4).*International Economic Association Books, NYU Press.

Longwe, S. H. (1991). "Gender Awareness: The Missing Element in the Third World Development Project." T. Wallace, and C. March,Ed. *Changing Perceptions: Writings on Gender and Development.*, Oxfam.

Mabsout, R. and I. van Staveren (2010). "Disentangling Bargaining Power from Individual and Household Level to Institutions: Evidence on Women's Position in Ethiopia." *World Development* 38(5): 783-796.

Mack,B. and Coles,C.Ed. (1991). *Hausa women in the twentieth century.* Madison, Wisconsin, University of Wisconsin Press.

Manser, M. and M. Brown, (1980). “Marriage and Household Decision-Making - A Bargaining Analysis.” *International Economic Review* 21(1): 31-44.

March, Smyth, et al., Ed. (1999). *A Guide to Gender-Analysis Frameworks*. Oxford,Oxfam.

McElroy, M. B. and M. J. Horney, (1981). “Nash-Bargained Household Decisions – Toward a Generalization of the Theory of Demand.” *International Economic Review* 22(2): 333-349.

McElroy, M.B.(1990). “The Empirical Content of Nash-bargained Household Behavior”, *Journal of Human Resources* 25 (4):559-583

Mikkelsen, B. (1995). *Methods for Development Work and Research*, SAGE.

Moore, H. L. (1988). *Feminism and Anthropology,* Polity Press in association with B. Blackwell.

Nash, J. (1953). “Two-Person Cooperative Games.” *Econometrica* 21(1): 128-140.

NBS (2006). *Core Welfare Indicators Questionnaire.*Nigeria Bureau of Statistics.

NBS (2008). *Nigeria Census 2006.* Nigeria Bureau of Statistics.

NCWD (2003). *Report on the monitoring survey of women development centres in Nigeria Part1.* National Centre for Women Development.

NCWD (2004). *The survey on the Women Development Centres in Kano State.* National Centre for Women Development.

NCWD/JICA (2009). *Women's Empowerment Survey Report 2009*. National Centre for Women Development.

NCWD/JICA (2010). *Monitoring Framework of the Women Development Centres Activation Project in Kano State.* National Centre for Women Development.

NDHS (1990). *Nigeria Demographic and Health Survey 1990.* National Population Commission.

NDHS (1999). *Nigeria Demographic and Health Survey 1999.* National Population Commission.

NDHS (2003). *Nigeria Demographic and Health Survey 2003.* National Population Commission.

NDHS (2008). *Nigeria Demographic and Health Survey 2008.* National Population Commission.

Nikiema, B., S. Haddad, et al. (2008). “Women Bargaining to Seek Healthcare: Norms, Domestic Practices, and Implications in Rural Burkina Faso.” *World Development* 36(4): 608-624.

NPC (2010) *The Nigeria MDGs Report 2010.* Nigeria Planning Commission (NPC), Government of the Federal Republic of Nigeria

Osmani, L. N. K. (1998). “The Grameen Bank Experiment:Empowerment of Women through Credit.” H. Afshar,Ed. *Women and Empowerment: Illustrations from the Third World*. St. Martin's Press.67-85.

Parker, A.R., Lozano.I, and Messner L.A. (1995). *Gender Relations Analysis: A Guide for Trainers*, Save the Children.

Pickering, H., E. Kajura, et al. (1996). “Women's Groups and Individual Entrepreneurs: A Ugandan Case Study.” *Gender and Development* 4(3): 54-60.

Pierce,S.(2007). “Identity, Performance, and Secrecy: Gendered Life and the "Modern" in Northern Nigeria.” *Feminist Studies* 33(3): 539-565.

Pottier, J. (1994). “Poor Men, Intra-household Bargaining and the Politics of Household Food Security.” P. J. Ingrid Yngstrom, Kenneth King, Camilla Toulmin,Ed. *Gender and Environment in Africa.*, Centre of African Studies, University of Edinburgh**:** 156-174.

Pfeiffer, J.(2003). “Cash income, intrahousehold cooperative conflict, and child health in central Mozambique”, *Medical anthropology* 22 (2): 87-130

Quisumbing, A. R.(2003). “What Have We Learned from Research on Intrahousehold Allocation?” Quisumbing, A. R., Ed. *Household decisions, gender, and development : a synthesis of recent research*. Washington, D.C. Baltimore, Md., International Food Policy Research Institute, Distributed by the Johns Hopkins University Press. 1-18.

Quisumbing, A. R. and J. A. Maluccio (2003). “Resources at marriage and intrahousehold allocation: Evidence from Bangladesh, Ethiopia, Indonesia, and South Africa.” *Oxford Bulletin of Economics and Statistics* 65(3): 283-327.

Renne, E. P. (2004). “Gender Roles and Women's Status: What They Mean to Hausa Muslim Women in Northern Nigeria.” H. S. Simon Szreter, A. Dharmalingam,Ed. *Categories and Contexts: Anthropological and Historical Studies in Critical Demography*.OXFORD UNIVERSITY PRESS.274-294.

Rubalcava, L., Graciela Teruel, and Duncan Thomas (2009). “Investments,Time Preferences, and Public Transfers Paid to Women.” *Economic Development and Cultural Change* 57(3): 507-538.

Sada, I. N., F. L.Adamu, et al. (2005). *Promoting Women's Right through Sharia in Northern Nigeria.* British Council.

Salamone, F. A. (2010). *The Hausa of Nigeria*. Univesity Press of America.

Samuelson, P.A. (1956). “Social indifference curves”, *Quarterly Journal of Economics* 70 (1) :1-22

Schildkrout, E. (2002). “Age and gender in Hausa society - Socio-economic Roles of Children in Urban Kano.” *Child Hood*, vol.9 (3), 342-368.

Sen, A.K (1990). Gender and Cooperative Conflicts. I. Tinker Ed. *Persistent inequalities: Women and World Development.*

Silberschmidt, M. (2001). "Disempowerment of Men in Rural and Urban East Africa: Implications for Male Identity and Sexual Behavior." *World Development* 29(4): 657-671

Smith, L.C., Ramakrishnan, U., Ndiaye, A., Haddad, L. and Martorell, R. (2003), " The Importance of Women's Status for Child Nutrition in Developing Countries", Quisumbing, A. R., Ed. *Household decisions, gender, and development : a synthesis of recent research*. Washington, D.C. Baltimore, Md., International Food Policy Research Institute, Distributed by the Johns Hopkins University Press., 41-50

Staveren,I. and O.Odebode (2007), "Gender Norms as Asymmetric Institutions: A Case Study of Yoruba Women in Nigeria", *Journal of Economic Issues* 41(4) :903-925

Stevenson and J.Wolfers (2006) . " Bargaining in the shadow of the law: Divorce laws and family distress", *Quarterly Journal of Economics* 121 (1) :267-288

The Guardian (2010). The Guardian ,December 27th 2009（ナイジェリアの新聞）

Thomas, D. (1990). "Intrahousehold Resource-Allocation - An Inferential Approach." *Journal of Human Resources* 25(4): 635-664.

Thomas, D.(1994). "Like Father, Like Son; Like Mother, Like Daughter: Parental Resources and Child Height". *Journal of Human Resources* 29 (4) : 950-988

Thomas, D.(1997). "Incomes, Expenditures, and Health Outcomes:Evidence on Intrahousehold Resource Allocation.", Haddad, L. ,J.Hoddinott and H.Alderman Ed. *Intrahousehold Resource Allocation in Developing Countries- Models, Methods and Policy-*. The John Hopkins University Press.

Tipilda, A. A., V.Manyong (2008). "Engaging with cultural practices in ways that benefit women in Northern Nigeria" *Development in Practice* volume18, Numbers 4-5, August: 551-563.

Udry, C. (1996). "Gender, Agricultural Production, and the Theory of the Household." *Journal of Political Economy* 104(5): 1010-1046.

UNDP (1995). *人間開発報告書　1995　ジェンダーと人間開発.*

UNDP (2010). *人間開発報告書 2010*

UNDP (2010). *Human Development Report Nigeria 2008-2009*

UNDP (2012). *Africa Human Development Report 2012.*

UNDP (2013). *Human Development Report 2013*

UNICEF (2001). *Children's and Women's Rights in Nigeria: A Wake-up Call*

UNICEF (2007). *The State of the World's Children 2007.*

UNICEF (2012). *Gender in Nigeria Report 2012.*

Whitehead, A. (1981). 'I'm Hungry, Mum'. C. Wolkowitz and R. McCullagh, Kate Young Ed.

Of Marriage and the Market., Routledge: 93-116.

WorldBank. (2011). *World Development Report 2012: Gender Equality and Development*

Young, K. (1992). “Household resource management.” L. Ostergaard,Ed. *Gender and Development : A Practical Guide*., Routledge: 135-164.

Zimmerman D. H.and West, C. (1987). "Doing Gender." *Gender and Society* 1 (2):125-151

伊藤るり（1995）. “〈グローバル・フェミニズム〉と途上国女性の運動　－WID と女性のエンパワーメントをめぐって.” *世界政治の構造変動　4　市民運動*. 坂本義和, 岩波書店.

岩崎えり奈　（2005）. “出稼ぎによるジェンダー関係の変化　北アフリカ・チュニジア南部の事例.”*イスラームの性と文化.* 加藤博編, 東京大学出版会: 155-183.

上野千鶴子（1990）. *家父長制と資本主義：マルクス主義フェミニズムの地平.* 岩波書店

上野千鶴子　（2002）. *差異の政治学*, 岩波書店

大沢真理　（2002）. “ジェンダー.” *開発とジェンダー　エンパワーメントの国際協力*. 田中由美子、大沢真里、伊藤るり, 国際協力出版会.

荻原なつ子（2005）“開発は女性を解放したか”.*ジェンダーで学ぶ文化人類学,* 田中・中谷編,世界思想社

金井淑子編,（1988）. *家族*, 新曜社

神戸伸輔(2004). *入門ゲーム理論と情報の経済学.* 日本評論社.

久場嬉子. (2002). “ジェンダーと「経済学批判」－フェミニスト経済学の展開と革新.” *経済学とジェンダー.* 久場嬉子編, 明石書店.

黒崎卓、上山美香 (2004). “ジェンダーと貧困.” *貧困と開発*. 絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生, 日本評論社.

熊谷尚夫・篠原三代平編 (1980) . 経済学大辞典 1, 東洋経済新聞社

佐藤郁哉 (2008). *質的データ分析法*. 新曜社.

佐藤仁 (2007). “財は人を選ぶかータイ津波被災地にみる稀少財の配分と分配.” *国際開発研究* 16(１): 83-94.

佐藤 仁 (2008). *資源を見る眼　現場からの分配論*, 東信堂

佐藤 仁 (2010). 可能性としての資源. *地球環境学事典*. 地球環境学総合研究所, 弘文堂: 312-331.

佐藤 仁 (2011). *「持たざる国」の資源論*, 東京大学出版会

世界銀行 (2002). *男女平等と経済発展*, シュプリンガー・フェアラーク東京.

世界銀行 (2012). *世界開発報告 2012　ジェンダー平等と開発.*

瀬地山角（1990). “家父長制をめぐって.” *フェミニズム論争　70 年代から 90 年代へ*. 江原由美子編, 勁草書房: 47-85.

瀬地山角. (1994). “家父長制の比較社会学　－東アジアの女性の就労パターンの比較ー.”

ジェンダー　原ひろ子、大沢真理他、新世社: 298-318.

高根務. (1999). *ガーナのココア生産農民*, アジア経済研究所.

チュクマ・エブザジュ. (1994). “ナイジェリアの女性センター：現状と課題.”, *婦人教育情報*　国立婦人教育会館 30: 33-39.

田中由美子（2002）. “「開発と女性」（WID）と「ジェンダーと開発」（GAD）”, *開発とジェンダー　エンパワーメントの国際協力*. 田中由美子、大沢真里、伊藤るり, 国際協力出版会.

永田淳嗣(2002). “個別現象限りの知見に終わらせない工夫.” *環境学の技法*. 石弘之編, 東京大学出版会.

ヌスバウム, マーサ C. (2005). *女性と人間開発　潜在能力アプローチ*. 岩波書店.

牧野久美子 (2012). “社会的保護のための現金給付　ラテンアメリカとアフリカの実例と今後の課題”. *新興諸国におけるベーシックインカムの議論*. 宇佐見編, アジア経済研究所,1-15.

村松安子(2005). *「ジェンダーと開発」論の形成と展開：経済学のジェンダー化への試み* , 未来社.

室住眞麻子 (2006). *日本の貧困　家計とジェンダーからの考察*. 法律文化社.

モーザ, キャロライン(1996). *ジェンダー･開発・NGO　私たち自身のエンパワーメント*, 久保田賢一・久保田真弓訳、新評論.

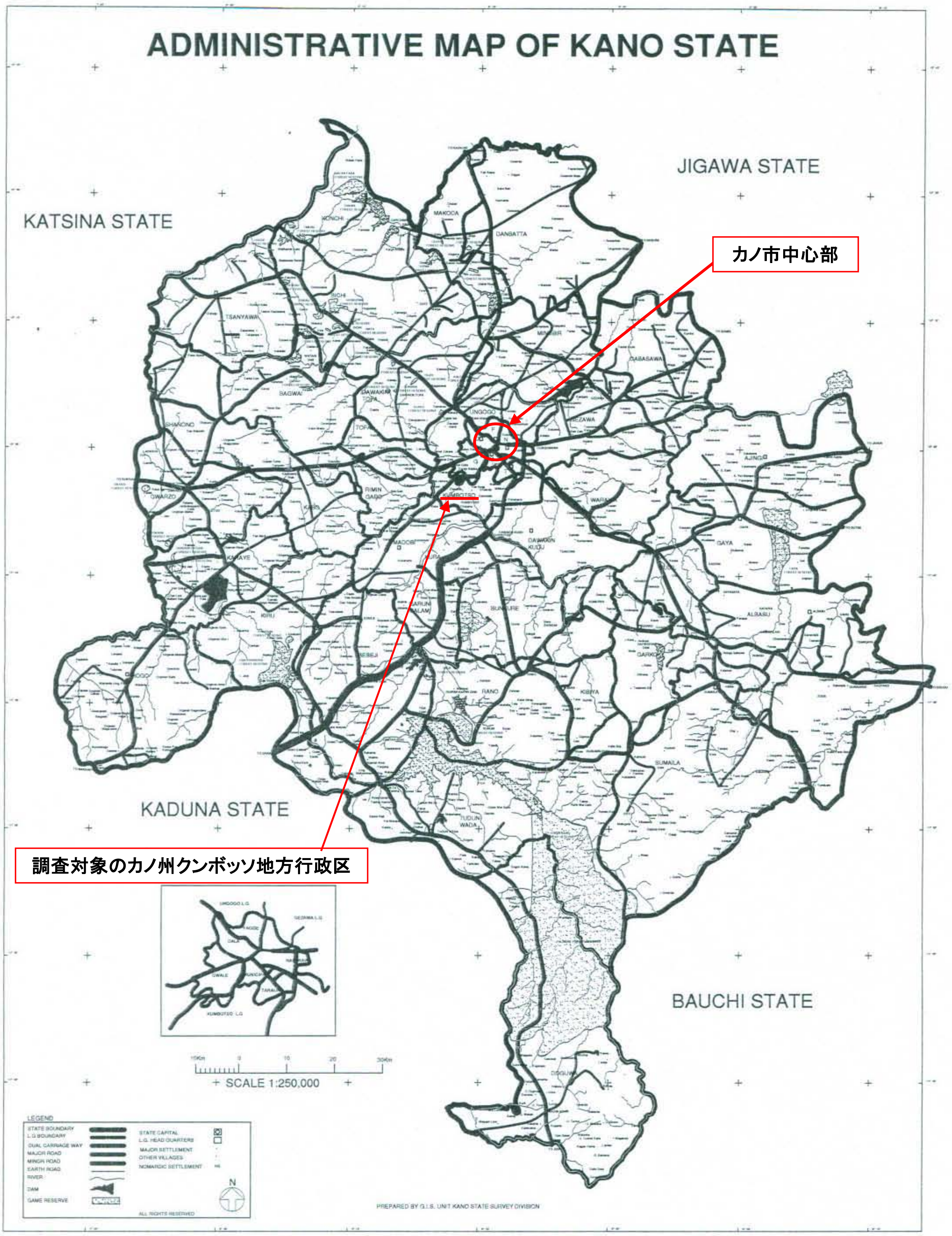
森岡清美、塩原勉、本間康平編 (1993).　新社会学辞典, 有斐閣

山森 亮 (2004). “センとジェンダー：構築的普遍主義へ.” *アマルティア・センの世界ー経済学と開発研究の架橋*. 絵所秀紀、山崎幸治, 晃洋書房

パール ジャン (1994). *マネー＆マリッジ　貨幣をめぐる制度と家族*, 室住,御船,木村訳,ミネルヴァ書房.

パンチ K.F. (2005). *社会調査入門　量的調査と質的調査の活用*, 川合隆男訳, 慶応義塾大学出版会.

調査対象地地図1:カノ州

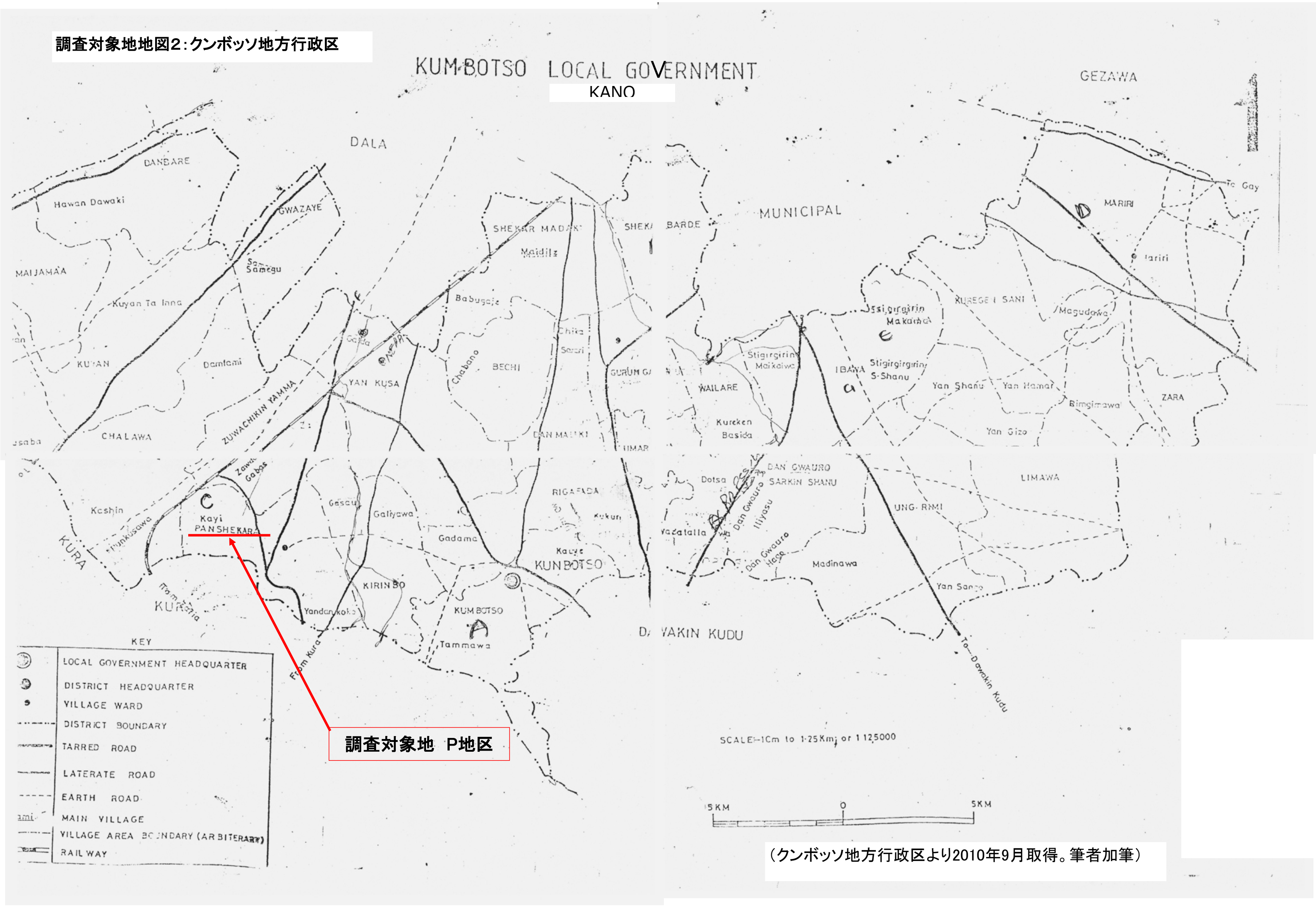

ADMINISTRATIVE MAP OF KANO STATE
KATSINA STATE
JIGAWA STATE
KADUNA STATE
BAUCHI STATE
KUNCHI
MAKODA
DANBATTA
BICHI
TSANYAWA
MINJIBIR
GABASAWA
BAGWAI
DAWAKIN TOFA
TOFA
UNGOGO
GEZAWA
SHANONO
GWARZO
RIMIN GADO
KUMBOTSO
AJINGI
WARAWA
MADOBI
DAWAKIN KUDU
GAYA
KARAYE
KIRU
GARUN MALAM
BUNKURE
ALBASU
GARKO
BEBEJI
RANO
KIBIYA
SUMAILA
TUDUN WADA
DOGUWA
UNGOGO L.G
GEZAWA L.G
DALA
FAGGE
GWALE
TARAUNI
KUMBOTSO L.G
10Km
0
10
20
30Km
SCALE 1:250,000
LEGEND
STATE BOUNDARY
L.G BOUNDARY
DUAL CARRIAGE WAY
MAJOR ROAD
MINOR ROAD
EARTH ROAD
RIVER
DAM
GAME RESERVE
STATE CAPITAL
L.G. HEAD QUARTERS
MAJOR SETTLEMENT
OTHER VILLAGES
NOMADIC SETTLEMENT
ALL RIGHTS RESERVED
N
PREPARED BY G.I.S. UNIT KANO STATE SURVEY DIVISION

カノ市中心部

調査対象のカノ州クンボッソ地方行政区

（Ministry of Land, Kano Stateより2007年2月取得。筆者加筆）

調査対象地地図２：クンボッソ地方行政区


KUMBOTSO LOCAL GOVERNMENT
KANO
GEZAWA
DALA
MUNICIPAL
DANBARE
Hawan Dawaki
GWAZAYE
MAIJAMAA
Samegu
Kuyan Ta Inna
KUYAN
Damfami
CHALAWA
ZUWACHIKIN YAMMA
YAN KUSA
SHEKAR MADAKI
Maidila
Babugaje
Chabano
BECHI
Chika
Sarari
DAN MALIKI
GURUN GA
BARDE
WAILARE
Kureken Basida
Stigirgirin Maikalwa
IBAWA
Stigirgirin Makarfa
Stigirgirin S-Shanu
KUREGE I SANI
Magudawa
Yan Shanu
Yan Hamar
Bimgimawa
ZARA
Yan Gizo
MARIRI
Jariri
To Gaya
A
B
C
D
E
Zawa Gabas
Kashin
Kayi
PANSHEKARA
KURA
Gasau
Galiyawa
Gadama
RIGAFADA
Kukuri
Kauye
KUNBOTSO
KIRINBO
Yandan koko
KUMBOTSO
Tammawa
From Kura
From Kura
Dotsa
DAN GWAURO SARKIN SHANU
Dan Gwauro Iliyasu
Dan Gwauro Hego
Yadatalla
UNG. RIMI
LIMAWA
Madinawa
Yan Sango
DAWAKIN KUDU
To Dawakin Kudu
KEY
LOCAL GOVERNMENT HEADQUARTER
DISTRICT HEADQUARTER
VILLAGE WARD
DISTRICT BOUNDARY
TARRED ROAD
LATERATE ROAD
EARTH ROAD
MAIN VILLAGE
VILLAGE AREA BOUNDARY (ARBITERARY)
RAILWAY
SCALE=1Cm to 1·25Km or 1 125000
5KM
0
5KM
調査対象地　P地区

（クンボッソ地方行政区より2010年9月取得。筆者加筆）

添付資料１　妻の調査記録

妻 1	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
自分のビジネスについて話します。夫にどんな材料が必要か、マーケットに材料を買いに行く許可について話します。 私たちはどう食料を買うか、家に何が必要か、他にも家庭のことについて話し合います。		夫と日常に話す： 妻のビジネス、材料の購入のための外出許可、食糧の購入、世帯ニーズ、家庭のこと	夫妻の話題
夫の収入用途について話します。食料や服、イスラミーヤの学費、両親への支援について話します。夫がサラリーを月末にもらったときに、そのお金をどうするか話し合います。私が夫に、何々がいる、と提案します。		夫収入用途を話し合う 月末に話す 妻が夫にニーズを提案 食糧、服、学費、親支援	夫妻の収入用途
夫が妻の意見を聞いたほうがいいです。妻は家にいるので、家のことを良く知っています。		夫は妻意見を聞くべき 妻は家のことに詳しい	夫が 1 人で物事を決定
夫が分かってくれるように説明し、Try します。自分が何をやろうとするのか、説明します。夫に同意できないのは、夫は家を塗り直したいと言いますが、私は反対しました。私達には他にしなければならないことがあります。私は夫に世帯ニーズにお金を使おうと言いました。		妻は夫に説明 Try する 夫に同意できないこと：お金の使い道	賛同できない時の対処
夫が私の母親のビジネスを支援して、お金をくれることがあります。私の両親・親戚をどう支援するかについて、もし十分に自分にお金があれば、彼らが何を必要としているか観察して、それから彼らが特に好むようなものを支援する。		夫が妻の母親を支援 妻が自分の両親・親戚を支援 自分にお金があるとき	妻の両親・親戚への支援
私が夫の親戚を支援することもあります。服やギフトを夫の母親に買います。私がお金に余裕があるときは親戚にギフトを贈ります。 夫とは、夫の両親・親戚をどうやって支援するかは話しません。私にお金がある時に支援します。		妻が夫の親・親戚支援 ギフトを贈る 夫とは話し合わない 妻自身にお金があるとき支援	夫の両親・親戚への支援
もし私が何かセレモニーに出席したいときは、そのときが来るより前に私は夫に知らせます。そして前日に、「以前話したように明日は誰々の結婚式・命名式なので出席したい」と言います。夫は政治的な集会やキャンペーンに出席することは許可しません。もし結婚式などセレモニーがあれば夫に聞きます。夫は同意してくれます。最終決定は夫がします。		妻の外出 セレモニーへの出席 事前に夫に知らせる 前日にリマインド 政治的集会はダメ 夫は同意する	妻の外出
夫にお金を貸すこともあります。夫にお金がなくてお金が必要なときです。夫は返金します。またギフトとしてお金を上げても夫は返金します。夫は女性のほうがお金が必要だからといいます。夫が私にお金を借りるのは時々です。夫はいつも借りるわけで		夫にお金を貸す 夫にお金がない時 夫は返金する ギフトであげても返金 夫は時々借りる	妻から夫に現金を貸す・あげる

はない。時々、お金が十分にないときだけ借りる		
土地や家屋は、今は何も買った事がない。もし買うときは夫と話し合うだろう	土地・家屋を未購入 夫に相談する	大きな買い物
夫が不在のときやお金がないときには私が食料を買っています。女性も経済貢献すべきです。 もちろん家事も貢献です。もし私が家事をしなければ、夫は時間がないので家が汚くなり、夫は怒るだろう。世帯へは二人とも同じように貢献している。	自分が食料を買う 女性も経済貢献すべき 家事も貢献 夫妻同様に貢献	世帯への貢献
自分で収入を得たいのは、(笑い) 自分の親戚、夫、自分自身を助けたいから。 自分自身を助けるため。自分にお金があれば夫にいつも頼まなくてもいいし、自分のお金を自分で使えるから。サッラーのときが幸せです。貧しい人もリッチな人もみんなハッピーになれるからです。理想の生活は良い教育を得ること。いろいろ学べることです。5 年後にはビジネスを拡大したい。何か学びたい。イスラミーヤを終わっていたいと思う。	自分で収入を得たい 自分を助ける 夫に頼まなくていい 自分のお金を使いたい 良い教育を得たい ビジネスを拡大したい	自己関心
私は経済活動のない女性にスキルを習ってビジネスをはじめるようにアドバイスする。私はそういう人たちは怠け者で何もしていないと思う。	経済活動のない女性は怠け者	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズを与えるのは夫の権利(義務)である。	世帯ニーズは夫の責任	世帯ニーズの担い手
それはよくありません。夫のほうが稼ぐべきです。衣食住や健康や必要なことを賄うのは夫の責任なので、夫が多く稼ぐべきです。	夫が多く稼ぐべき 世帯ニーズは夫の責任だから	妻の収入が夫の収入を上回ること
とても多くの変化があります。例えば今では自分のお金で何でも出来ます。夫にお金を頼まなくていいです。結婚式に出席するときに、みんなで同じ服を作るときに、夫に言わなくても自分でそろえられます。以前は、何でも全て夫に頼まなくてはならなかった。今では、自分のお金を使うことが出来る。	今は自分のお金で可能 夫に頼まなくていい 以前は何でも全て夫に頼んでいた	経済活動を始めてからの変化
本当に変わった。夫は今ではハッピーで、私がビジネスをしていることにハッピーでいる。家に必要なものや食料を私が買っているので、夫は私が家族を助けているので、ハッピーです。	夫も変わった 自分が食料を買うことに夫は満足	夫の変化
多くの進歩があります。以前は何もしていなかったけれど、今では自分の収入があり、好きなものを買えます	昔は自分は何もできず 今は収入 好きに買える	現在の生活状況

妻 2	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
夫とは普段、食べ物や、子どもの教育、健康、衣服について話します。		夫妻で日常に話す内容	夫妻の話題
自分の収入については話し合うときも話し合わないときもある。夫の収入の使い道は話し合う。食料、		妻収入用途の夫との話し合い:ときどき	夫・妻の収入の用途

学校の費用、健康、毎日の必要についてなど話します。野菜、スープ、食材などの毎日の必要があります。夫は私にどんな食料や日用品が必要か、どのくらいの量が必要か聞いてきます。それから私は必要な物をリスト化して彼に渡します。そして彼は必要な物を買います。また夫は私に1日N1,000を渡します。私は毎日の料理に必要な野菜や香辛料をこのお金で買い、残りは他の用事に取っておきます。18歳になる私の妹がマーケットに買いに行く。おつりは他の用にとっておく。妹が行けない時はハウスボーイが買い物に行く。	夫収入用途を話し合う 世帯ニーズに使う 夫がN1,000毎日渡す 妻が建て替え夫返金 いつも夫と話し合う 夫が妻に必要額を聞く 未婚の妹が買い物へ おつりは妻が保持 夫は妻の意見に同意	世帯ニーズへの支出
世帯ニーズは夫が出します。でも女性が貢献したほうが良い場合もあります。世帯に貢献しているのは夫です。ほとんどの必要な物は夫が買っている。	世帯ニーズ担い手 女性の貢献の良さ 夫の方が世帯に貢献	世帯ニーズへの女性の貢献 夫の貢献
料理に関して、化粧品を買うこと、服を買うことに関しては夫に聞きません。服がもし高ければ夫に聞きます。	妻が決める物事:料理、化粧品と服の購入 高額品は夫に聞く	妻が決定すること
夫に自分の意見を言ってアドバイスします。同意できないのは、例えば食料についてです。夫が普段買わない食料を買って来ようとするので、私は「それは買わないほうが言い」といいます。 夫と意見が異なる際は、夫に対して平和に、私の意見を説明して説得します。『これが私の意見で、これを提案します』、と説明します。夫にお金があることが分かるまで待ち、お金があるときに提案します。大抵は同意してくれます。	夫に妻がアドバイス 夫に同意できないこと:食料 妻は自分の意見を言う 夫を敬って平和に説明 妻は夫に提案 夫は同意	夫に賛成できない際の対応
夫と相談して、どうやって自分の両親･親戚を支援するか決める	両親・親戚への支援 夫と相談	両親・親戚への支援
もし自分に充分にお金があれば夫の両親･親戚を支援する	夫の両親・親戚へ支援 お金があるときに	両親・親戚への支援
夫は私の親戚にセレモニーの時にお金を上げたり、私を訪問してくる親戚にお金を上げたりします。	夫が妻の親戚支援 お金を上げる	夫による妻の親戚支援
結婚式はとても価値があるものなので、それに出席できるように頼む。村に住む祖父母を訪ねたいときに、私は夫に外出してもいいか尋ねます。夫は時間があれば村に一緒に行ってくれます。またはお金をくれます。夫は私が外出したいという要望をダメと言うことはほとんどありません。	結婚式への出席は重要 村の祖父母を訪問 夫は同行 夫はお金をくれる 夫は拒否しない	妻の外出
月末に、野菜を買うお金が必要になり、N700からN1,000くらい貸します。夫は返金します。夫に無償で上げることも時々あります。野菜やスープに必要な食材を買いますが、返金を求めません。時々、夫が私からお金を借りますが、夫が返金しようとしても、いいですと言います。頻繁ではなく、夫が必	妻は夫にお金を貸す 夫は返金 妻は夫に無償で渡すことも 毎日必要な食材のお金 夫の返金を断ることも	妻から夫への現金の貸与

要なときだけです。夫がいくら必要かによって違う	月末に夫は足りない	
学費や本について話します。友人、近所の人、親戚に子どもの教育についてアドバイスを聞きます。 どの学校がいいか話し合います。夫と同じ意見になります。子どもが6歳になったらいれます。	子どもの教育の話題 人からの情報・提言 夫と子どもの教育を話す	子どもの教育
家畜の購入は夫が決めます 夫と話しあう。鶏を飼っているが友達からのギフトだった。今では5匹とひよこ6匹になった。夫が良いことと思えば、私に許可する。最終決定は夫がするが、自分がすることもある。	家畜を飼うことを夫と話す 夫が良い悪いを判断 自分が決定することもある	大きな買い物
私が病院に行くときは夫と話し合います。夫は時間がなく病院へ連れて行けないが、お金をくれます。	病院へ行くか夫と話す 夫はお金を渡す	妻が病院にいくこと
私は何か良いものを見つければ、それを子どもに買っているし、そのほかにも家庭に必要なもの、箒や、コップなどを自分で買っています。女性もお金があるなら経済的に貢献すべきです。 家事は貢献だと思います。もし自分が家事をしなければ夫は食べれなくなります。	子どもに買う 家庭の必要を買う 女性も貢献すべき 家事も貢献 自分がしなければ	世帯への貢献
自分で収入を得るのは、（笑い）自分や夫、子ども、親戚の必要なものを買うため。自分自身と夫を助けるため。幸せなのは夫にお金があるときです。理想の生活はもっとアラビア語やイスラムの勉強をしたい。5年後にはビジネスをして洋裁を拡大したい。望ましい生活は、夫と一緒にいる時がいい。幸せに問題なく過ごすこと	自分・夫・子ども・親戚の必要を満たす 自分の収入で助ける 夫にお金があるといい イスラムの勉強 ビジネス拡大	自己関心
経済活動をしない女性は良くない。女性は何かしたほうがいい。それが彼女を助けることになるので	女性は経済活動すべき 自分のため	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズは夫が一人で担うべきではない。女性も助けるべき	世帯ニーズは女性も担うべき	世帯ニーズの担い手
夫の収入より妻の収入が多くても構わないと思います。女性が夫や家族を助けられるので	妻収入＞夫収入でＯＫ 女性が助ける	妻の収入が夫の収入を上回ること
今ではお金を得て、好きなことを夫に頼まなくても出来ます。友人や親戚を助けることが出来ます。	自分のお金で好きな事 夫に頼まない・助ける	経済活動開始後の変化
はい。夫はハッピーです。私が洋裁をしてお金を得て、それで夫に頼まずに好きに買っているので、そのことにハッピーです。	夫は満足 自分が夫に頼まない	夫の変化
今は幸せです。自分のビジネスをしていて、夫に頼まなくても好きなものが買えて、今のほうがいい。	今は幸せ 夫に頼まなくて良い 好きな物が買える	現在の生活状況

妻3	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
それは私の大きな問題で、とても言えない。夫は私		夫が話し合わない	夫妻の話題

と話し合おうとしないので、この話はできない（とても困っている様子。これ以上聞けない）	大きな問題 人に話せない問題	
（沈黙）食料以外のものに夫はお金を使ってしまう。夫が毎日食料を自分で買ってくる。収入の使い道を話し合うことはない。夫に、何々がないと話します。N300からN500くらいを私が助けている。	夫の収入用途 食料以外にも使用夫と収入用途を話さない 夫に食料不足を話す 自分の収入を使う	夫・妻の収入の用途
夫1人で決めず、2人がちゃんと話し合うべきだと思う。	夫妻の話し合いが必要	夫が1人で物事を決定
夫が決定するので、自分がすることはない	夫が全て決定	妻が決定すること
夫に同意できなくても何も出来ない。Tryしてみているが、、、、だめです。夫の言うことに同意するしかありません。（笑う）いつも彼の意見に従う。夫に懇願する。自分の意見を信じてくれるように丁寧に頼むが、無理です。もし私が夫の決定に不満があっても、私はただ黙っています。何もできません。何とかしたいと思いますが、出来ないと分かっています。夫の意見に同意するしかありません。	夫に同意できない時 頑張ってみる 夫に同意するしかない 夫に懇願する 夫に従う	相手の意見に賛成できない時の対処
自分の両親・親戚が私の支援が必要な時にする。	自分の両親・親戚を支援	妻の両親・親戚への支援
兄弟と話す。夫の両親・親戚を支援する必要が私にとってある時に支援する。私は夫の親戚を訪問し、挨拶をします。	夫の両親・親戚を支援 夫の親戚を訪問	夫の両親・親戚への支援
夫が私の親戚を支援したことはありません	夫は私の親戚を支援しない	夫による妻の親戚支援
夫がいいムードのときに聞きます。だいたい、外出する2日前くらいに、夫に言っていいか聞いている。先月、母親が出産したが、そこを訪問するときに相談しました。夫はいつも許可するわけではありません	外出の許可 夫が機嫌のいい時に聞く 前もって聞く 夫は許可しないことも	妻の外出
あまりないが、夫にお金がなくて自分にあればお金を貸します。夫は時々返金します。夫に無償でお金をあげたこともあります。それほど頻繁ではない。	夫にお金を貸す 無償であげる 頻繁でない 夫は返金する	妻から夫への現金の貸与
子どもはまだ小さいので話し合っていない 夫と、どうやって最も良い学校を選ぶか話しあう まだ子どもは小さい。でも、どこの学校に送ろうかと相談している。	子どもの学校選び 最も良い学校を選ぶ 夫と相談	子どもの教育
土地・家屋を買うとしたら夫と両親と決める 以前、家畜を飼っていて、売るときに夫に相談した。	土地・家屋・家畜購入 夫・両親と相談	大きな買い物
クリニックは直近くなので、夫に相談して、1人で行きます。夫は薬代をくれます	病院行きは夫に相談 夫が薬代を出す	妻が病院にいくこと
もちろん私は貢献しています。ニーズがあって、自	自分は世帯に貢献	世帯への貢献

分にお金があれば自分のお金を使っています。女性も経済貢献すべきです。もし夫が家族のためにお金を使わないと困るので。もちろん。家事をすることはアシスタンスになっている。世帯に貢献しているのは夫。夫が家のリーダーなので。	自分のお金を使う 女性も経済貢献すべき 夫が世帯にお金を使わない可能性 家事も貢献 夫の方が世帯に貢献 夫が家のリーダー	
私は自分で収入を得たい。私は夫に頼りたくない。私は自分と子どもと親戚を助けたい。幸せなのはサッラーのとき。弟や妹に会えるので。理想の生活は、（考えている、笑っている）平和で他人に必要なものを頼まなくていいこと、Self-Reliant な状態で、安全であること。5年後には、ビジネスを拡大し、自分のお店を開きたい。他人を雇ってビジネスをしたい。望ましい生活は平和に幸せに家族と暮らすこと。健康で、自分のビジネスがもっと利益をもたらすこと。	自分で収入を得たい 夫に頼りたくない 自分と子ども・親戚を助ける 他人に頼みたくない ビジネスを拡大したい 弟・妹に会いたい 健康でビジネスが順調でありたい	自己関心
経済活動のない女性は、自分のことを自分で出来ない女性だと思う	ビジネスのない女性は自立していない	経済活動をする女性への認識
もちろん、夫が世帯ニーズの責任があります。	夫に世帯ニーズ責任	世帯ニーズの担い手
妻の収入のほうが多くなることは良くない。もし妻が多く稼いでいたら妻が家をコントロールすることになるので、夫が多く稼いだほうがいい	妻収入＞夫収入はよくない。	妻の収入が夫の収入を上回ること
経済活動を始めてから、お金を得ているので問題があっても自分で解決できています。以前は何かを買うのにお金がなかったが、今では買えます。	自分のお金が出来た 自分で解決できる 今では自分で買える	経済活動を始めてからの変化
夫に変化はありません（笑い）	夫に変化なし	夫の変化
5年前よりとてもよいです。良いときと悪いときがある。良かったのは子どもが出来たことと、収入を得られるようになったことです。	5年前より暮らしが良 子どもがいる 収入を得ている	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻4</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">夫のビジネスやその日に家で起こったことについて、子どもの教育について話します。</td><td>夫のビジネス
1日の出来ごと
子どもの教育</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">（特に、考えることもなく、当然という感じだった）自分の収入の用途も夫の収入の用途も夫と一緒に話し合う。夫がサラリーをもらってきた時に、夜、一緒に座って話します。お金を 3 等分して、一つは食料、一つは教育や病院のため、残りは今、家を建てようと計画しているので、そのために使いま</td><td>二人の収入用途を一緒に話し合う
お金は3等分：食料、教育・医療、家の計画
毎月月末に夫と話し合い</td><td>夫妻の収入の用途</td></tr>
</table>

す。私たちが何が必要かによる。毎月月末に夫と話しあう。食料や日用品が不足すれば、私は自分のお金で買います。それを夫には伝えません。でも夫は私が貢献していることを知っていると思います。		
夫婦なので、夫は妻のアドバイスを聞くべきです。	夫1人で決めるべきでない	夫が1人で物事を決定
石鹸を買うときに、月末まで持たないので、夫に言わないで自分で買います。自分のお金を使います。また野菜を買うときも同様です。何を料理するかも自分で決めています。	石鹸・野菜など自分で買える、自分で決める	妻が最終決定すること
反対を感じるようなことはないので、夫の言うことに同意できます。夫に同意できなくても自分の意見をあきらめるしかない。彼に懇願して、丁寧な言い方で、何々が自分のしたいことですと説明します。	夫の意見に同意できる 自分の意見は諦める。 丁寧に説明し・懇願	相手の意見に賛成できない時の対処
夫と話し合い、私に十分にお金があるときに私の両親を支援する。	自分の両親の支援 夫と話す	妻の両親・親戚への支援
私に十分にお金があるときに支援します。私は夫の親戚に対して石鹸や服、お金を上げます。私が夫の親戚を訪問します。	夫の親戚の支援 自分が訪問する 石鹸・服・お金	夫の両親・親戚への支援
ラマダンの間、夫はマーケットで食糧を買い、私の両親にあげたり、何か困ったときにお金を上げる。	夫が自分の両親を支援 ラマダンの食料	夫から妻の親戚への支援
夫に懇願して結婚式に出席したいとか、村に住む両親を訪問したいと言います。でも、もし夫がそれはあまり重要ではないとか、頻繁すぎると思えば、夫は許可しません。私は夫がリラックスしている時に話すようにし、丁寧に話すようにしています。夫に頼んで、夫が許可すれば出席します。でも彼が許可しなければいきません。夫に話します。親戚の訪問については特に同意してくれる。重要であれば同意するが、そうでなければ同意しません	外出許可を夫に頼む 親戚訪問は許可される 頻繁すぎると許可されない 重要かどうかが問題 夫に頼むタイミングを探す	妻の外出について
夫が会社に行くときの交通費を、自分のお金で上げることがあります。夫は返金します。また、私がビジネスで利益をたくさん得たときに、お金をN500くらい無償であげます。月に1-2回、N1,000ほど	夫にお金をあげる 夫の交通費に 毎月1-2回、N1,000	妻から夫への現金の貸与/ギフト
学校が休みのときに夫が夜戻ってきて、息子に学校の本を持ってこさせて理解しているかチェックします。どうして間違えるのか、どんな問題があるかを夫と話し合います。 私たちは話し合います。収入が足りないので、毎月、子どもの学費用に貯めています。学費はターム毎ですが、一度に払えないので、少しずつ貯めています。夫が払います	子どもの勉強進捗をチェック 問題を夫と話し合う 学費の支払いが大変 学費用に貯める	子どもの教育
家畜を買う時に、私の両親と夫と話し合いました。私が羊を買い始めたとき、夫と相談しました。彼は	家畜の購入 両親と夫と相談	大きな買い物

同意しました。		
私が病院に行きたいと言うと、夫は交通費や薬代をくれます。頭痛くらいでも夫が病院に行くように言います。	病院に行くこと 交通費・薬代をくれる 夫は病院行きを勧める	妻が病院にいくこと
経済的な支援は必要ありません。夫は会社で私のビジネスの紹介をしてくれます。	夫からのビジネスへの支援は必要ない 夫は会社で紹介する	妻の経済活動への夫からの支援
私が家族にお金を与えることで、良い関係をキープできている。夫はハッピーだし、他の妻を得ようとしない。もちろん女性も経済貢献すべきです。家事は文化的に、妻の責任です。ハウスボーイもメイドもいないので、子どものことや家のことは自分の責任です。 食料や服、教育費などは夫が貢献します。子どもの世話、家事に関して自分が貢献します。	自分の収入が良い関係へ続く 夫は満足 家事は女性の責任 子どもの世話も女性	世帯への貢献
私がお金を得たいのは、小さな子どもがいて、夫がお金がないときもあるので、そのときに備えるためです。今は赤ちゃんが病気でお金がいるが、夫が払えないこともある。家族や親戚を助けるため。私の家族と両親を助けるためです。幸せなのは、お金をたくさん得たとき。貯金をし、子どもの教育に使い、それから台所用品を買う。理想の生活はいつでもお金がポケットに入っていること。好きなものを何でも買え、人に物をあげることができるから。5 年後にはビジネスを拡大して、洋裁のお店を開き、人を雇いたい。望ましい生活は、家族と両親を助け、夫と幸せに生活することです。	自分でお金を得たい 夫にお金がない時へ 自分の家族・親戚を支援したい 貯金・子どもの教育に使う ビジネスを拡大し洋裁のお店を開きたい 常にお金が手元に 家族・両親を助ける 夫と幸せに暮らしたい	自己関心
世帯ニーズは夫が出すべきです。でも妻に収入があるなら助けるべきです。	世帯ニーズは夫の責任 妻も収入で助けるべき	世帯ニーズの担い手
たくさんの変化があります。私は、以前は夫に頼っていて、いつもお金を頼んでいました。今では、自分で好きなものを何でも買えます。今は暮らしが良くなった。自分のお金を必要なときや親戚を助けるために使えるから。	以前は夫に頼っていた 今は自分で買える 自分のお金で親戚を助ける	経済活動を始めてからの変化
夫が戻ってきて、私がいつでも洋裁をしているのを見てハッピーです。私が利益を得ているので。夫は私がいくら持っているのか知りません。	夫は自分のビジネスに満足。夫は自分の収入を知らない	夫の変化
5 年前と比べて暮らしは良くなりました。生きていることに感謝します。 多くの利益を今は得ている。	5 年前より良い暮らし 多くの利益を得ている	現在の生活状況

妻 5	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
子どもの教育、健康、子ども同士の人間関係について普段から話します。彼が仕事から戻ってきて、食事をして、水を飲んで、全部することを終わったと		夫と普段話すこと： 子どもの健康、子どもの勉強の進捗	夫妻の話題

きに、私から夫に「子どもが病気なので病院に連れて行きたい。医者がよい治療をするでしょうから、どの病院に連れて行きましょうか」とか、「子どもが家に戻ってきて、学校で先生が何を言っているのか分かっていないようです。先生に何が問題なのか聞いてみましょう」という話をします。	夫に話すタイミング： 夜、食事後の休憩中、 妻から夫へ話す	
夫の収入も自分の収入も、どのように使うか夫と話し合います。月末に夫がサラリーをもらってきたら、一緒に座って話し合います。食料にN5,000、いくらを子どもの薬に、N3,000くらいを子どもの文具に、といった具合に決めて、1か月分私がキープします。残りは夫がキープします。またサラリーをもらった後に夫が私と一緒にマーケットに行き、必要なものを全部買います。そのときにお米などを買います。食費のN5,000はそれ以外のたまねぎやトマトなど、その都度必要なものです。もし月末前にN5,000が足りなくなれば、夫に伝えます。そうすると夫はお金をくれます。このときに夫にお金がなければ私のお金を出します。1ヶ月の食費はN15,000からN20,000くらいかかります。夫は食料品や他の日用品などのニーズを買っている。私は石鹸を買って助けています。	夫妻双方の収入用途を話し合う 用途ごとの予算を決定 妻が世帯ニーズ用の金額をキープ 残りは夫がキープ 夫と共にマーケットで食料・日用品を購入 月末に不足の際は夫に伝える→夫はお金をくれる 夫がお金が足りない→妻が代わりに出す 妻は夫を「助ける」	夫・妻の収入の用途
夫が1人で物事を決定すべきではありません。妻も夫にアドバイスすべきです。例えば夫がカノからラゴスに仕事で行きたいといいます。材料を買いに行きたいといいますが、もしそれが犯罪に巻き込まれないものか、危ないならやめたほうがいい、というようなアドバイスをします。	夫が1人で決定すべきでない 妻も意見を言うべき	夫が1人で物事を決定
夫に賛成できないときは夫にアドバイスします。夫が仕事から戻り食事が終わり何もかもちゃんと終わってから、「あなたの意見は、こういう理由でよくないので、変えたほうがいいと思う。」という。夫は大体同意してくれます。	夫に賛成できない際： 妻は自身の意見を言う 夕食後に夫の休憩中に話す	相手の意見に賛成できない時の対処
夫と話し合って、私が自分の両親・親戚をお金で支援します。	妻は自身の両親・親戚をお金で支援	妻の両親・親戚への支援
夫と私で夫の両親・親戚を支援します。私が夫の親戚を支援することもあります。例えば私がマーケットに行ってアクセサリーを見つけ、夫の母や妹に買います。夫の父や兄には帽子を買います。	妻は夫の両親・親戚をギフトで支援。 夫も支援	夫の両親・親戚への支援
夫が私の両親・親戚を支援もします。例えば、私の弟が試験に失敗してしまいましたが、夫がもう一度試験を受けるためのお金を払ってくれました。	夫は妻の両親・親戚を支援する	夫から妻の両親・親戚への支援
夫に頼めば、夫は私の出席･訪問を許可します。結婚式があって、夫に結婚式に行きたいといっても夫	妻が外出したいときは夫に頼む	妻の外出

が許可しないので、私が beg します。「please please I want to see my sister,」というように懇願します。そうすれば夫は同意してくれます。	夫が許可しない際は懇願する→夫は同意	
もし夫にお金がないときに、私のところに聞きにきます。例えば車を修理するとかガソリン代などです。夫は返金します。夫に返金を求めないこともあります。N1,000-N2,000 であればギフトとしてあげます。それ以上であっても私にお金があるときは返金を求めません（笑い）。ですが、夫がお金を借りるのはそんなによくあることではありません。時々夫にギフトとしてあげ、お金を貸します。	夫が現金不足 夫は妻に頼みに来る 夫の車修理代・ガソリン代 少額であれば妻は夫に返金を求めない 妻は夫に貸したりギフトであげたり	妻から夫への現金の貸与
子どもをどの学校に送るか夫と相談します。この子はイスラミーヤ、この子はモダン学校がいいかということを話します。モダン学校に行けばエンジニア、医療、会計などを勉強できるし、イスラミーヤにいけば伝道師になれるでしょう。子ども達当人がどちらに興味を持っているかで判断します。	子どもの学校選択 夫と相談 子どもにより変える 子ども自身の興味	子どもの教育
家畜を買うときは夫と話し合います。	家畜の購入を夫と相談	大きな買い物
編み機を買ってくれたのは夫です。それ以外にも、私のビジネスの材料費がなければ、よくお金をくれます。夫に頼むときは、夫が仕事から戻って食事が済み、座って、夫に「お金が欲しい。編み機があればビジネスを拡大できます。そうすると、夫は、買ってきなさい。そして買ってきたものを見せなさい」といいます。はい。編み物製品を作り終わったら、夫が私の製品を職場に持っていって人に見せてきます。	夫が妻のビジネスを支援：編み機を買う、材料費をくれる 妻が夫に支援を頼む 夕食後の夫が休憩中に 夫に購入した物を見せる 夫が妻の製品を宣伝	妻の経済活動への夫からの支援
私は世帯に貢献しています。私の父は既に亡くなっているので、私が母や弟・妹の必要なものを買っています。自分の今の家庭では夫を助けています。例えばマーケットで子どものおもちゃを自分のお金で買います。もちろん女性も世帯に貢献すべきです。私は、以前は貢献できていませんでした。	妻は世帯に貢献と自分で認識 世帯は実家も婚家も 貢献＝経済的 女性も貢献すべき	世帯への貢献
私が収入を得たいのは、自分自身や家族を助けたいからです。自分自身と私の親戚を助けるためです。幸せなのは、サッラーのときです。1 年に 1 回で毎年繰り返す、生き物のようだからです。理想の生活は、ビジネスを拡大して、編み物のビジネスを子どもや近所の人に教えることです。5 年後には衛生の勉強をもっとしたいこと。それからビジネスを拡大することです。望ましい生活は、夫と幸せに暮らすことです。	自分で収入を得たい 自分・家族・親戚を助けるために収入が必要 幸せな時：1 年に 1 度のお祭り 理想の生活：ビジネスの拡大、編み物を人に教える、勉強する、夫と幸せに暮らす	自己関心 理想の生活 幸せ
経済活動をしていない女性は、財政的なサポートが欠けているので出来ないのだと思う	ビジネス無し女性の理由：財的サポート不足	経済活動をする女性の認識

世帯ニーズは夫だけが担うのでなく、妻も家族を助けるべきだと思う。	世帯ニーズは妻も助けるべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫を上回ることは、（笑い）それは良くないと思います。私たちの文化では女性が夫よりも hard に働くのはよくないことです。	妻の収入＞夫の収入はよくない 自分達の文化	妻の収入が夫の収入を上回ること
ビジネスを始めてからの変化はあります。自分の足で立てるようになりました。 父親や夫からお金をもらわなくても、自分で好きなものを買えます。服やシューズを自分や息子に買ったり、自分の化粧品を買ったりできるようになりました。携帯電話も自分で買いました。食料は夫が買います。私は以前ハッピーではなかった。私はいつも夫に頼まなければならなかった。でも今は私は必要なものを買うことが出来ます。	妻がビジネス開始後の変化：自分で好きな物を買える、夫に頼まなくて済む、ハッピーになった	経済活動を始めてからの変化
夫の変化はたくさんあります。夫はとてもハッピーです。自分が何かすることを持っていて、欲しいものは自分と子どもに買うことが出来るので、そのことを夫は喜んでいます。	夫も変化：妻が自分で好きな物を買うことに夫はハッピー	夫の変化
5 年前はビジネスをしていなくて、家にいて座っているだけ、料理をするだけで、何の収入もありませんでした。	5 年前はビジネスなし 何もしていない、座っているだけ、収入なし	現在の生活状況

妻 6	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
夫と普段話すことは、（笑い）息子をどの学校に入れるか、子どもの健康、息子をどの病院に連れて行くか。食べ物や学校、健康、服について話します。		夫との日常の話題 息子の教育、健康、 食べ物、服	夫妻の話題
夫の収入については話し合わない。夫がいくら持っているか分からない。食料が足りなくなれば夫に、食料が足りないから、あれとこれが必要と話す。そうすると夫が用意する。または、夫の方から食料は足りているか聞いてくる。子どもが病気になれば、夫に話す。そうすると病院に行く交通費や必要なお金をくれる。夫がいない場合は自分で出すが、夫はあとで返金してくれます。もし私がビジネスで利益を得たら、石鹸や化粧水を自分で買います。		夫の収入について話し合わない 夫の収入額は不明 食料は夫が用意 食料が不足すれば夫に言う・夫が尋ねる 緊急時は妻がお金を出すが夫は返金する 自分で買う	夫・妻の収入の用途
夫はいつも自分の意見を尋ねます。たいていは私の意見を受け入れてくれる。私が賛成できないこともあります。例えば、夫が誰かにギフトをあげることについて、私が反対しても夫は自分のお金なので、自分の意見を通します。		夫は妻の意見を聞く 妻が賛成できない事 夫の収入用途は夫が決める	夫が 1 人で物事を決定する時
服は自分で決めている		妻が自分で決める事	妻が最終決定すること
夫と意見が異なれば夫に従います。妻とは常に夫に		夫と意見が異なる時	相手の意見に

従わなければならない。妻は同意しなければならない。私たちの結婚の規則として、夫に従う。従わないのは、社会や宗教に反することになる。私は夫と異なる考えを持つことはありません。問題は起こったことがない。いつでも彼が言うことに従っています。違う意見を持ちません。	妻は夫に従う 宗教・社会慣習に従い夫に同意する	賛成できない時の対処
自分の両親・親戚への支援については両親、夫、子ども達と話す。	妻の両親・親戚支援を話し合う	妻の両親・親戚への支援
夫の親が村にいるので、いつでも彼らが訪ねてくるときやセレモニーの時に支援する。私が一人で決める。私が夫の親戚を支援することもある。例えば結婚式でお金を工面して渡します。	妻が夫の両親・親戚の支援を決める。 訪問時やセレモニーで支援	夫の両親・親戚への支援
夫が私の親戚を支援することはある。私の親戚が家にやってきて何か頼みごとをする。たとえば親戚が結婚するときに、その相手のことを調べたり、病気のときに病院に連れて行きお金を払ったりする。	夫も妻の親戚を支援 親戚の結婚相手を調査/病気の時に助ける	夫から妻の両親・親戚への支援
村にいる祖父母を訪ねたり、セレモニーに出席、病気の人を訪ねたりする際は夫に相談する。時々、夫は許可しない。	妻が親戚訪問やセレモニー出席を夫に相談。許可しない時も	妻の外出
妻が夫に現金を貸すことは、もちろんある。(笑い)もし夫が不在で、そのときに食料や薪がなければ自分で買い、夫に話す。そうすると夫は返金する。もし小額のもの、N100 以下であれば返金を求めず、ギフト扱いにする。N100 以上であれば返金を求める。夫に資金を貸すことはそんなにはない。夫が不在のときだけ。	妻から夫へ現金貸与 妻が世帯ニーズ不足分を購入し、後で夫が返金 少額の際は返金求めず 夫不在時に立て替え	妻から夫への現金の貸与
子どもの教育について夫と話す。自分の年上の兄弟や、誰か教育について詳しい人にアドバイスを求める。もし息子が医者になりたかったら、誰かその経験のある人にアドバイスを求める。夫が戻ってきたときに学校の成績をチェック。ユニフォーム、学費について、どう払うかなど話し合います。	子どもの教育を夫と話す 親戚等にアドバイスを求める 学習の進捗・学費について夫と話す	子どもの教育
羊、山羊、鶏を飼っていて、それを買うときに夫と話し合いました。夫がコンパウンドの中の敷地を家畜用にくれました	家畜の購入を夫と話す 夫が家畜飼育を支援	家畜の購入
病気のときはいつでも夫は同意して交通費をくれる。夫が病院に行くように提案することもある。夫はラゴスにいて毎週戻ってくる。病院はカノ市内まで 1 人で行く。	妻が病気の際の夫の対応：交通費を与える 病院は妻一人で行く	妻が病院にいくこと
編み機のお金を出してくれたのは夫。ビジネスを開始する際に、編み機のお金と材料費を出してくれた。その後は金銭的な支援はない。WDC の卒業生支援の話を聞いて、夫に、どのように返済するか、どんな仕組みなのか説明した。夫は理解し、それな	妻のビジネスを夫が支援：編み機購入、材料費 WDC 卒業生支援 妻が夫に制度を説明	妻の経済活動への夫からの支援

ら自分が出そうといってくれた。説得するのはそんなに難しくない。	し、夫が費用を支出	
私は世帯に貢献しています。子どもが学校に行くときに少しお金を渡して、お菓子や必要なものを買えるようにする。子どもの下着やアクセサリーなど必要なものを自分で買い与えている。もちろん女性も経済貢献すべきです。家事も貢献です。家事は私の責任。	妻は世帯に貢献と認識：子どものニーズを支出している 女性も経済貢献すべき、家事も貢献	世帯への貢献
私が収入を得たいのは、（笑い）自分の問題を解決し、必要な人を助けるためです。自分と両親を助けるためです。幸せなのは、夫が十分にお金を得て、そのお金で家族に必要なものを十分に買えるとき。夫が自分のビジネスにお金を渡してくれるとき。（笑い）自分のビジネスがうまくいって製品が売れたとき。理想の生活は、自立できること。自分のお金で好きなことが出来、他の人に頼らずにすむ。自分の必要なものを買いたい。また困っている人を助けること。5 年後には、自分のビジネスを拡大して、もっとたくさん稼ぎたい。女性達にトレーニングを提供し、協同組合を作りたい。ビッグビジネスウーマンになりたいです。	収入を得たい理由：自分・両親を助けるため 夫がニーズを満たすことが自分の幸せ 自分のお金で好きなことをする、人に頼らないことが自立→理想の生活 ビジネスを拡大したい 女性にトレーニング 協同組合設立	収入を得たい理由 幸せ・理想 自己関心
経済活動をしていない女性には、何かすべきだとアドバイスする。	女性は経済活動すべき 他の女性へ提案	経済活動をする女性の認識
夫は世帯ニーズの確保を一人ですべきでない。妻もお金を家族のために入れたほうが、家族が平和でいられる	世帯ニーズは夫一人が担うべきでない 妻も経済貢献すべき	世帯ニーズの担い手
夫が外で収入を得て、家族に必要なものを与えるべき。女性が夫以上にたくさん働くのはよくない。（笑い）よくないこと。夫がたくさん働くべき。	夫が多く働き稼ぐ 妻の収入が多いのはよくない	妻の収入が夫の収入を上回ること
収入を自分で得ることが出来、そのお金で自分と子どもの服を買えるようになった。また、お金が必要な人にお金を上げることができるようになった。（親戚や、困っている人に）。経済活動がなければ大きな違いがある。今では何か必要なときも自分で買えるので、夫に頼まなくてもいい	自分で収入を得て出来たこと：好きな物を買う、必要な人にあげる、夫に頼まない 経済活動後の変化	経済活動を始めてからの変化
5 年前と比べて大きな変化がある。以前、編み物を知らなかったが、今では編み物で自分のお金を稼ぎ、自分のお金で何でも買える。家族や親戚にも貢献できる。	5 年前と比べて変化有 編み物で稼ぐ 自分のお金で貢献	現在の生活状況

妻 7	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
夫とは普段、子どもの教育や、どんな食料が必要か		夫妻の日常会話の内	夫妻の話題

と話します。	容：子ども、食料	
夫は私に収入をどう使ったらいいかアドバイスする。自分も夫に、何に使ったほうがいいという話はする。（笑い） 私が夫に、このお金を教育に、これくらいを食費に、これを健康にと提案します。サラリーをこの3つに分けます。夫が毎月マーケットで食品を買ってきます。食費にいくらかかるか私は分かりません。サラリーの残りは夫が食材のトマト、オニオン、オイルなどを毎日買ってきます。もし何がこれまでと変えたい、例えば米からヤムに変えたいときに話します。夫は私の意見を聞いてくれます。	夫妻の収入用途をお互い話し合う・提言 妻が夫に夫の収入用途を提案：教育、食費、健康 夫が市場で食料購入 妻は食費を知らない 普段の食材は夫が毎日購入 夫は食料について妻の意見を聞く	夫・妻の収入の用途
夫が全て一人で決めるのは良くありません。夫は妻に聞くべきです	夫は妻に相談すべき	夫が1人で物事を決定
料理について、夫が言うものより私が思うものがあれば、私が料理したいものを作ります。夫は同意します。冷蔵庫が欲しいときに夫に相談して、私が買いました。	妻が料理を決める 妻が冷蔵庫を購入 夫に相談	妻が最終決定すること
夫にお金がないときに私が親戚を訪問することを夫が止めます。私は、夫に、please, please, allow me to goと頼みます。親戚を長い間訪問していないと理由を説明し、そうすれば夫は同意します。私たちはお互いに理解できるように話し合います。（笑う）夫は私に良いと思った服を外で見つけて買ってくれる。私はジョークを行って笑わせ、おいしい料理を作り、彼によい決定をしてもらう。（笑い）	夫は妻の親戚訪問を反対：夫にお金が無 妻は懇願 妻は訪問理由を説明 相互理解・話し合う 夫は妻にギフト 妻は夫をもてなす 夫との良い関係構築	相手の意見に賛成できない時の対処
私の両親・親戚への支援について、夫と話し合います、そして私も貢献します。	妻が自分の両親・親戚へ支援：夫と話す	妻の両親・親戚への支援
私は自分ができることで夫の両親・親戚を支援します。私は、夫の親戚を訪問するときにお金や、食料や交通費を上げています。	妻が夫の両親・親戚へ支援：訪問の際にギフトを贈る	夫の両親・親戚への支援
夫は私の両親・親戚にラマダンのときに食料を上げます。	夫が妻の両親・親戚へ支援：断食月の食料を支援	夫から妻の両親・親戚への支援
私が外出したいときは、夫に対してよい言葉を言いながら話し始めます。特に村にいる両親に会いに行くときに夫に聞きます。夫は同意します。	妻の外出 夫に丁寧に接する 夫に両親訪問の許可を頼む：夫は同意	妻の外出
時々、夫にお金がないときにお金を渡します。食材（トマトなど）を買います。また夫がオフィスにいく交通費を出します。夫はもちろん返金します。無償であげることはありません。夫にお金がないときであればいつでも、毎月N250くらいです。	妻が夫にお金を渡す：食費・交通費 夫は返金 無償ではあげない 夫へ毎月あげている	妻から夫への現金の貸与
子どもの教育について夫と話します。どうやって学	子どもの教育を夫と	子どもの教育

費を払うか、学校での成績、進み具合をチェックします。私は子ども達に一生懸命勉強するようアドバイスします。夫と話すことは、例えば、子どもが新しいユニフォームが欲しければ夫に言います。すると夫がお金をくれます。	話す：学費の支払い、成績・進捗 妻は子どもにアドバイス、夫にニーズを言う、お金をくれる	
私が土地を買いたかったときに夫に相談しました。	土地の購入を夫に相談	大きな物の購入
私が病院に行く時は夫と話し合います。夫が薬代をくれます。	妻が病院へ行く 夫に話す：薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスを開始する資金をくれたのは夫です。最初にN2,000くれました（笑っている)。ただダイレクトに夫にお金をくれるように頼みました。はい。夫は私がアイスブロックを売るときに、客が来ていつも売り切れているので、もっと買ったほうが言い、そうすればもっと客が来るといってくれます。いまN500分を買っているので、N200分を買ったほうが言いといいます。もちろん夫に支払いはしません。	夫が妻のビジネス支援：開始資金・材料 妻は夫にお金をくれるよう頼む 夫が妻にビジネスのアドバイス	妻の経済活動への夫からの支援
私は経済的に貢献しています。夫にお金がないときにお金を出していますから。女性が経済貢献するほうが、女性にとっていいです。夫は妻が家族のニーズを満たしていることでハッピーになります。家事も貢献です。もし自分が家をきれいにしなかったら汚くなります。家の中のことは私の責任です。	妻は経済的に貢献していると認識：夫の代わりにお金を出す 女性の経済貢献を支持、夫も歓迎、家事も貢献	世帯への貢献
自分自身や家族を助けたいので自分で収入を得ます。夫にお金がないときに助けられるから。私の両親と家族を支援することもできます。いつもハッピーです。理想の生活はビジネスを拡大し、夫と平和に暮らすこと。5年後には、（笑う）何が起こるかわかりません。5年後どうなるか分からない。神様だけが知っています。望ましい生活は、私は夫にもっとお金を得て欲しい。そうすれば子ども達が一番いい学校に通うことが出来るだろう。十分な食料、家、子ども達がよく世話されることが望ましい。	自分で収入を得たい理由：自分と家族を助ける（夫、両親） 理想の生活： 自分のビジネス拡大 夫と平和に暮らす 夫がもっと稼ぐ 子どもがいい学校へ 十分な食料・ニーズ 子どもの幸せ	自己関心
経済活動のない女性は、いつも夫に頼っていて、よくありません。自分の問題を人に頼らなければ解決できない人たちです。	経済活動のない女性は良くない：人に頼っている	経済活動をする女性への認識
妻は夫の下にあります。夫が全ての責任を負っています。夫が世帯ニーズは全て担うべきです。	夫が世帯ニーズを担うべき、夫の責任	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫よりも多いことはよくないと思います。夫が全ての責任を取るべきだから。	妻の収入が夫を上回ってはいけない	妻の収入が夫を上回ること
経済活動を始めてから、もちろん変化があります。今ではお金を得て、自分のビジネスがあります。私は夫に以前は頼っていた	経済活動後の変化 自分のお金 夫に頼らない	経済活動を始めてからの変化
夫の変化は特にありません。	夫は変わらず	夫の変化

5 年前はビジネスをしていなかったので、今はビジネスをしているので違います。	5 年前との違い：自分のビジネスがある	現在の生活状況
妻 8　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
夫と普段話すのは子どものこと、夫の間に起きること、家族のこと。例えば、夫にお金がないと夫が私に言い、私が何とかします。	夫と日常話すこと：子ども、家族、夫のお金が不足すること	夫妻の話題
私の収入については話し合いません。夫の収入についてはどのように使うか話し合います。その中で、彼は私のビジネスを支援することも決めます。夫の収入は二人で話し合います。どのように収入を使うか、どれくらいを子どもに、食料に、服に使うかなど話す。もし夫が、十分にお金がなければ、私の収入を使う、というような話し合いをします。最終決定は夫です。	夫の収入用途は 2 人で話し合う 妻の収入用途は話さない 夫にお金がなければ妻の収入を使うことを話し合う	夫・妻の収入の用途
夫婦は一緒に生活しているので、夫は妻のアドバイスを聞くべきで、夫 1 人で決めるべきでないです。	夫は妻の提言を聞くべき、1 人で決めない	夫が 1 人で物事を決定
娘が子どもを産んだときに自分で決めることがあったが、夫に必要なことを話し、夫が同意していた。家のことは夫が最終決定をします。	妻が決める事：娘の子どもの事 夫に説明し同意 家の最終決定は夫	妻が最終決定すること
夫と意見が異なれば自分が同意しなければならない。気に入らなくても黙っています。しかし夫を説得しようとはします。例えば、もし夫がなにかアイデアを持ってきて、私はこっちがいいと思っていて自分のアイデアを伝えます。だけど選ぶのは夫だと夫に告げます。押し付けがましくしない。夫に同意できないのはどの食料を買うかについて。例えば夫は米が言いといい、自分はスパゲティがいいと思う。結局、自分が両方を料理することもあります。お互いにどちらかの意見を理解するように努める。意見が合わないことは新婚の頃はあったが、昔のことなので覚えていません。夫が言うことが、全て自分が思うこと。食料、教育のことなど。夫は私がハッピーであるのを見たいと思っています。	夫と意見が異なる時：妻が同意しなければならない、黙る、説得を試みる、自分の考えを伝える 同意できない内容：購入する食料、料理 夫の意見が自分の意見 相手を理解する努力	相手の意見に賛成できない時の対処
学校の費用や他のニーズを支援します。私は夫の親戚に対して、彼らが家に来たらギフトをあげたり、セレモニーの時にギフトをあげたりします。	妻が夫の親戚を支援：訪問時・セレモニーでギフト	夫の両親・親戚への支援
夫は私の親戚にサッラーのときに服をあげたり、ラマダンのときに食料を支援します。	夫が妻の親戚を支援：お祭りの服、断食月の食料	夫から妻の両親・親戚への支援
丁寧な話し方で、私は結婚式･命名式があって、出席したい、とか誰々を訪問したいと夫に頼みます。夫は同意します。	妻が外出する許可 丁寧に外出理由説明 夫は同意	妻の外出
何か問題があって、夫にお金がないとき、例えば子	妻が夫へお金を貸	妻から夫への

どもが病気だったり食料が足りなかったりしたときに、私が出します。夫は後で返金します。夫にギフトとしてお金を渡すこともあります。食料がないときなどにあげます。一緒に食べているので、私は夫に返金を要求しないこともあります。でも、お金を貸すことはそんな頻繁にはありません。1ヶ月に一回、N500ほどです。	す：子どもの病気、食料の不足 夫にお金がない時 1カ月に1回ほど 夫は後で返金 妻は返金を要求しないこともある	現金の貸与
子どもの本や文具をいつ買うか、夫にお金があれば夫が買い、なければ私が買うということを話します。アドバイスは自分や夫の親戚に尋ねる。友人や近所の人にはシリアスな相談はしません。どこが一番良い学校か夫と話し合います。本のリストを夫に見せて、この本が必要と言うと、夫はお金をくれます。	子どもの学費を夫と話す：夫にお金がなければ妻が出す 夫や親せきに学校について相談 学校の選択を相談	子どもの教育
夫が私に、家畜を買うように、そして必要なときに売れるようにとアドバイスしてくれたので、お金がある時に羊を買いました。私のお金で買いました。羊の市場に夫が行き、良い羊を選んでくれました。また女性はお金の替わりに金をアクセサリーでもっています。	夫が妻に家畜購入のアドバイス 妻は家畜を購入 夫が家畜を選ぶ	大きな買い物
夫に具合が悪いと話せば、夫が病院に行くように言います。夫は私を病院に連れて行ってくれることもあります。	妻が病院へ行く 夫が連れていく時も 夫に具合を告げる	妻が病院にいくこと
私のビジネスがうまくいかないときに、私が夫に頼めば、夫はお金を出してくれる。夫に対して平和的なマナーで、敬いつつ、ビジネスの状態が良くないことを話します。	夫が妻のビジネスを支援：お金を支援 妻が夫に丁寧に頼む	妻の経済活動への夫からの支援
私は世帯にもちろん貢献しています。私は食料を買い、子どもにお金を渡して必要なものを買っているし、薬や、他の家族に必要なものを買っている。もちろん、女性もビジネスをして貢献すべきです。家事も貢献です。家が綺麗で子どもがハッピーで料理していてみんながハッピーであって欲しいと思う	妻は世帯へ貢献と認識：家族のニーズを買っている 家事も貢献 女性も経済貢献すべき	世帯への貢献
自分で収入を得て家族を助けたい。ニーズを満たしたい。私のニーズや子ども、親戚のニーズを買えるから収入は必要です。幸せなのは、お金をたくさん得たとき。自分で得たときでも、夫の収入が多いときでも。それから、子どもを無事に産んだとき。理想の生活は、平和に死ぬこと。自分のビジネスを拡大して多くのお金を稼ぎ、いろんな人にギフトをあげること。友人、近所、親戚の人にギフトをあげること。5年後には、健康な状態で生きていたい、ビジネスを拡大したい。望ましい生活は、人を助けること。	収入を得たい理由：家族を助ける、ニーズ充足 幸せ・理想の生活：お金を得る事（自分も夫も）、人にギフトをあげる、健康、 人を助ける事	自己関心
ビジネスをしていない女性は問題だと思う（笑い）。	経済活動のない女性	経済活動をす

自分のことも夫も親戚も助けられない女性だと思う。	は問題：人も自分も助けられない	る女性への認識
夫だけで世帯ニーズを担うべきではない。私はビジネスをしているので、私も貢献すべきだと思う。	夫だけで世帯ニーズを担うべきでない 経済活動のある妻は貢献すべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が多すぎる事はよくない。夫が家族のためにお金をだすべきです。	妻の収入が多すぎてはいけない 夫が世帯に出すべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
ビジネスを始めてから多くの変化がありました。以前は、誰かが助けてくれることを待っていた。今では自分で何でも買えるし、夫が自分にお金を頼むこともあります。今は自分のことをなんとかできるし、利益を得ている。	経済活動後の変化 自分で何でも買う 夫が自分にお金を頼むこともある	経済活動を始めてからの変化
5 年前と比べて大きな変化がある。今では、お金があって、何でも好きなものを買える。	5 年前と大きな変化 自分のお金がある	現在の生活状況

妻 9　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
食料のこと、子どもの教育、ユニフォームや学費や文具をどうするか、自分たちのことについて、夫のもう一人の妻と一緒に 3 人で話し合います。夫はもう一人の妻との間に 5 人の子どもがいます。私と mate はお互いのビジネスの話もします。	夫と他妻との日常の話題：食料、子どもの教育、学費、自分達の事 3 人で話し合う	夫妻の話題
夫はサラリーではなく自営業なので、ビジネスでお金が入ったときに夫がマーケットで必要な食料を買ってきます。用途についていつも話し合うわけではない。どの食品を買うかを話します。夫は私に同意してくれます。最終決定は夫です。夫は 1 ヶ月に N20,000 くらい使います。	夫の収入用途を話すこともある 夫が食料を毎月購入	夫・妻の収入の用途
夫が一人で物事を決めるのでなく、一緒に決定するほうがよいと思います	夫 1 人で決定するのは良くない	夫が 1 人で物事を決定
例えば魚を食べたいときには夫に聞かずにただ魚を料理します。服を買いたいときには自分で買います。	妻が自分で決める事：料理、自分の服	妻が最終決定すること
ほとんど同意しています。たまに同意できないときには自分の意見をアドバイスします。食料について、何を料理するか、材料が足りない、必要だから買ってきて欲しいなどのことで同意できないことがあります。夫と意見が違えば話し合いますが、最後は夫に従います。私が街に買い物に行きたいといっても夫はだめだといって、夫自身が買い物に行きます。なにかしたいときに、まず夫に言ってみて、夫が聞いてくれそうなら話し続けるが、だめそうなら放っておきます	夫に同意できない時の対応：自分の意見をアドバイス、夫と話し合う 夫に同意できない内容：食料の購入・不足、料理について。 妻の外出への反対 夫の態度をみて自分の意見を言う	相手の意見に賛成できない時の対処

夫と話し合い、どうやって私の両親・親戚を支援するか話しあいます。	妻の両親・親戚支援を夫と話し合う	妻の両親・親戚への支援
夫の母親と話し合い、どう支援するか話しあいます。私は夫の親戚が家に来れば、ギフトをあげたり、お金をあげたりしています	夫の母親・親戚支援を夫の母親と話す ギフト・お金	夫の両親・親戚への支援
夫は私の親戚が、何か必要なときにはお金をあげています。	夫が妻の親戚支援 必要時にお金	夫から妻の両親・親戚への支援
一緒に座って話しているときに、夫に訪問･出席について頼みます。結婚式やお葬式などのセレモニーに出席したいと聞きます。私はセレモニーに出席したいので許可してくださいといいます。いつもではないが、夫は許可します。不必要なイベントには許可しません。	妻の外出許可 セレモニーや訪問 夫と話している時に頼む 夫は許可しないこともある	妻の外出
夫にお金を貸すことはもちろんあります。食料や食材や家庭に必要なものが足りないときに子どもに買いにいかせます。それから夫に買ったことを伝えて、夫が返金します。無償であげることはほとんどなく、ローンが普通です。彼が不在のときだけで、しょっちゅうではありません。夫が必要なときに N1,000 から N10,000 くらいです。	妻が夫にお金を貸す 食料やニーズの不足に妻が支出 夫は後で返金 無償であげない 夫の不在時に支出	妻から夫への現金の貸与
夫と一緒にどう良い教育を与えられるか話しあいます。どの学校へ送るか話します。パンシェカラには 100 くらい学校があるので、親戚や近所の人から評判をききます。	子どもの教育について夫と話す 親戚・近所から学校の情報を得る	子どもの教育
以前、鶏を買いました。夫に相談してから買いました。夫もお金を足してくれました。自分の両親と夫が話し合います。	妻は夫に相談して家畜を購入。両親とも話し合う。	大きな買い物
いつでも具合が悪いときは夫に病院に行っていいか聞きます。夫が病院へ連れて行ってくれます。	妻が病院に行くこと 夫が病院へ同行	妻が病院にいくこと
夫は私の製品をお店で売ってくれるし、材料が足りないと夫が足してくれます。夫に支援を頼むときは、一緒に平和に座っているときに、これが欲しい、どこを訪問したい、など、必要なことを話します（笑い）。私の製品を売って、客をつかまえてくれます。それに対して対価は払いません（笑い）。	妻の経済活動への夫の支援：製品を夫が店で販売、材料補充 夫と寛いでいるときに夫に支援を頼む	妻の経済活動への夫からの支援
今の家族だけでなく、実家に対しても必要なものを出しています。女性も経済貢献すべきです。子どもの必要なものはたくさんあるので、妻は夫を待っているだけではいけないと思います。家事も貢献です。私は家がクリーンであって欲しいし、夫を喜ばせたいので。	妻は経済貢献すべき 夫を待つのはダメ 家事も貢献 自分は家族・実家に貢献している	世帯への貢献
自分で収入を得たいのは、（笑い）自分で欲しいものが買え、問題を解決できるからです。助けが必要な	自分で収入を得たい理由：自分・家族・	自己関心

人を助けられる。自分のニーズがあり、私の家族や親戚のニーズがあるから。幸せなのは、お金をたくさん得られたとき、サッラーのとき、夫と一緒に平和にいられるとき。理想の生活は、教育をちゃんとうけること、スキルがあって、子どもがいること。5年後には、自分の人生にプログレスを見たい。ビジネスを拡大し、他のスキルも学びたい。望ましい生活は、自分のビジネスが拡大して、多くのお金を得ることが出来、夫と子どもと幸せに暮らすことです。	親戚のニーズ充足 幸せ・理想の生活：お金を多く得る、夫と平和に過ごす、教育・スキルがある、子どもがいること ビジネス拡大したい 自分の人生を進歩させたい	
妻の収入が夫より多くなることはよくない。夫がもっと稼ぐべきです。	妻の収入が夫を上回るのはよくない 夫が稼ぐべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
ビジネスを始めて、多くの変化がありました。前は自分で何も出来ずに他人の助けを待っていました。でも今では何でも自分で出来ます。以前はお金を親に頼んでいたが、今では自分が家族を助けられます。	経済活動開始後の変化：自分で何でもできる、人に頼まず家族を助ける	経済活動を始めてからの変化
夫はハッピーです。私がいつも夫に頼むことなく、これが欲しい、あれが欲しいといわず、自分で買っているので夫はハッピーです。	夫の変化：妻が夫に何でも頼まず夫はハッピー	夫の変化
5 年前と比べて多くの変化がありました。今ではすることがあるしお金があるので親戚にギフトを上げられます。以前は人に頼って待っているだけでした	5 年前と比べた変化：自分のお金がある 親戚にギフト	現在の生活状況

妻 10　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私と夫は子どもにどう躾をするか、いつも話しあいます。	夫妻が日常に話すこと：子どものこと	夫妻の話題
夫の収入については話し合いません。食料は毎月夫がマーケットで買ってきます。夫がこれらを買っている。彼が不在のときは時々私が買っている。夫がどれくらい支出しているか分かりません。夫が持ってくるもので OK です。特に話し合いません。石鹸やマギー、塩などは自分で買います。時々夫は返金しますが、夫に言わないこともあります	夫の収入用途を話し合わない 食料は夫が毎月購入 夫不在時に妻が購入 夫の購入分で問題ない、夫は妻に返金	夫・妻の収入の用途
服、食品、自分のためのものは自分で決めています。	妻が自分で決める事：服・食品	妻が最終決定すること
夫に賛成できないときは、まず Try します。彼が私の意見を聞くようにアドバイスします。彼が同意しなければ仕方ありません。自分の意見を強く通したことがないので、どのような場面で同意できないかわかりません。夫の意見に従うだけです。例えば子どもがパーティーに出席しようとしたときに夫が同意しませんでした。(笑う）夫に親切に愛情を示し丁寧な態度で、夫をハッピーにさせる。効果がありま	夫に賛成できない時の対応：夫に妻の意見を聞くよう提案してみる 夫が同意しなければ従う 夫に丁寧な態度で接する・愛情を示す	相手の意見に賛成できない時の対処

す。		
夫と相談して、私の両親・親戚が私の助けが必要であれば何を支援するのか話し合います。	妻が妻の両親・親戚支援	妻の両親・親戚への支援
夫と相談してどう支援するのか話し合います。私も夫の親戚が家に訪ねに来れば世話をするし、帰るときに夫が交通費を出せなければ私が出します。	妻が夫の親戚支援 夫と相談 訪問時に世話	夫の両親・親戚への支援
夫は私の親戚にお金や食べ物を上げます。特にサッラーのときに食べ物や服をあげます。	夫が妻の親戚支援 お祭り時に食べ物と服をあげる	夫から妻の両親・親戚への支援
夜に夫と一緒に座っておしゃべりをしているときに、外出してもいいか聞きます。それから夫は私にどこに行くのか、何故出かけるのか聞いてきます。私は少しずつ説明し、例えば、病気になっている知人を訪ねたい、結婚式に出席したいと言います。夫が私の外出する理由が妥当だと思えば、彼は許可をくれます。私は夫が機嫌よく、仕事から帰ってリラックスしている機会を見つけるようにしています。時々夫は許可してくれません。その時は、私は家にいなければいけません。	妻の外出許可 夫と寛いでいるときに頼む 外出が重要と夫が判断すると許可される 夫は許可しない時も	妻の外出
夫が私にN1,000くらいを私に貸して欲しいと頼む。このお金で夫が食料を買って、後で返金してくれる。もし夫が不在でマギーや、塩、食料や他に必要なものがあれば自分で買って、夫が戻ってきたら、何を買ったと説明する。夫が返金すると言うが、いいという。そんなに頻繁にはお金を夫に貸さない。１ヶ月に２回くらい、だがN2,000以上ではありません。	夫が妻にお金を依頼 食料を購入 夫は後で返金 夫不在時に妻が食料を買う： 妻が夫の返金を断る場合も 定期的に夫は借りる	妻から夫への現金の貸与
教育の進捗状況について話します。私は子どものニーズに必要なものを買い、夫がいるなら夫がお金を出します。教育のどの分野に子どもを勉強させるかについて、例えば、一人目は医療を勉強したがり、二人目は税を勉強したいといい、最後の子は兵士になりたいといいました。私は良い学校をチェックしていて、子ども達が質の良い教育を受けられるようにと思っている。時々夫と話し合います。学校から本のリストをもらうので、それを夫に見せて必要であることを言います。夫はお金をくれます	子どもの教育について夫と話す 子どもの進路、ニーズ、学校の選択 学校で必要な物を夫に言う：夫はお金をくれる	子どもの教育
家畜のビジネスを始めるときに夫に相談しました。夫は同意しました。両親にも相談しました。	妻は家畜のビジネスを夫・両親に相談	大きな買い物
夫が一緒に行くこともあり、そうでなければ病院に必要なお金をくれます。	妻が病院に行くこと 夫が同行・お金	妻が病院にいくこと
困ったときはまず夫がお金をくれる。時々ビジネスにお金を出してくれる。N1,000-N2,000くらいを私にくれないか、お願いします、と頼む。もし彼がNOといえば、それではいいです、という。近所の人に	妻のビジネスへの夫の支援：お金、宣伝 妻が夫にお金を依頼	妻の経済活動への夫からの支援

私のビジネスを宣伝してくれます。Rice Cake が欲しい人から先にお金を集めてきます。それに対して私が夫に支払うことはありません（笑い）。		
もちろん私は世帯に貢献しています。私は夫を待たずに自分で必要なものをちゃんと買っています。女性も経済的に貢献すべきです。家族のためにお金を費やすことはいいこと。家族が大人になったら助けてくれる。家事も貢献です。私は家がきれいで、トイレも台所も家中をきれいにしておきたい。	妻は世帯に貢献と認識：妻は自分でニーズを買う、家族のために使う 家事も貢献	世帯への貢献
自分や家族を助けるために収入が必要です。夫が全てをもたらすわけではないので、お金がないときに備えておきたい。幸せなのは、(笑い) ビジネスをしてお金をたくさん得ているとき。理想の生活は、ビジネスが拡大されてお金を得て、このお金で家を買いたい。そして家を人に貸すことで、またお金を得たい。何でも自分で出来、お金を借りることがなくてすむこと。5 年後には、自分は 50 歳になっているので、もうビジネスは終わりにして、小麦を売るだけのビジネスにして、ゆっくりしたい。望ましい生活は、ビジネスが大きくなって、山羊と鶏を飼っているので数を増やしたい。	収入を得たい理由：自分と家族を助けるため、夫に頼らない 幸せ・理想の生活：お金をたくさん得る家を購入し賃貸ビジネスをしたい、ビジネスを拡大したい	自己関心
ビジネスのない女性は問題だと思います。もし何もしていないのであれば、問題のある生活です。全ての夫が必要なものをもたらすわけではない。食べ物しか買わない夫もいます	経済活動のない女性は問題：夫が全て供給するか分からない	経済活動をする女性への認識
夫だけで世帯ニーズを担うことはありません。もし妻が何かをしているなら家族を助けるべき	夫 1 人で世帯ニーズを担うべきでない	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫より多いのは（笑い）よくない。夫がもっと稼いだほうがいいと思う。全ての責任は夫にあるから。そして妻は夫の下にあるから。	妻の収入が夫を上回るのは良くない 夫が全責任	妻の収入が夫の収入を上回ること
夫は私がビジネスをしていることにとてもハッピー。何かをしてお金を得て、夫を待つことなく好きなものを買えていることで、夫は満足している。夫が帰ってきて、私がいつもビジネスをしているので、それを見て喜ぶ。	夫は妻のビジネスにハッピー：妻が夫に頼らない、妻が自分で必要を買う	夫の変化
5 年前と比べて多くの変化があります。以前は小さな規模で Petty Trading をしていたけれど、3－4 年前から調理食品を売り出したら、もっと利益があがった。	5 年前と比べた変化：ビジネスを変えて利益があがった	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 11</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私と夫は世帯ニーズや食料について普段から話しあいます。</td><td>夫妻で日常に話すこと：世帯ニーズ</td><td>夫妻の話題</td></tr>
</table>

夫の収入の用途について、食べ物、教育、健康、について話します。月末に夫の収入が入る前に話し合います。サラリーが来たら何をどれくらい買うか話し合っておきます。	夫の収入用途を話し合う：食べ物、教育、健康に割り振る	夫・妻の収入の用途
学校で両親を集めるときに、夫の許可がなくても出席します。夫はカノにいます。また食料を買うときに、夫がお金を渡して、自分で必要なものを買う。	妻が自分で決める事：学校から呼ばれた時、食料の購入	妻が最終決定すること
夫と意見が違えば自分の意見はあきらめて夫に従います。丁寧に、夫を説得します。何々が私の理由でと説明します。夫は同意することもあれば、しないこともあります。	夫と意見が異なる際の対応：夫に従う、丁寧に説明する 夫は同意することも	相手の意見に賛成できない時の対処
私が充分にお金があるときに、自分の両親・親戚を訪問したり、また彼らのうち誰かが私を訪問する際に支援します。	妻が両親・親戚支援 訪問時に支援	妻の両親・親戚への支援
私が充分にお金があるときで、夫の親戚が訪問した際に支援します。私は夫の親戚に自分の古着や石鹸をあげます。彼らは村に住んでいます。	妻が夫の親戚支援 訪問時に自分の古着・石鹸をあげる	夫の親戚への支援
夫は私の親戚に食料やお金をくれます。	夫が妻の親戚支援 食料・お金	夫から妻の両親・親戚の支援
夫はハッピーでないと、私に訪問･出席を許可しません。夫はいつも許可するわけではない。	妻の外出 夫の機嫌が悪いと許可されない	妻の外出
私が夫にお金を貸すこともあります。家族に必要なものを買うときで、夫は返金します。以前は、夫にギフトとしてお金を上げることもありましたが、今は、他に多くのやることがあるのでギフトではあげません。夫がお金を借りるのは時々です。いくら貸しているのか分からない。	妻が夫に現金を貸す 世帯ニーズ 夫は後に返金 無償であげない 夫にいくら貸しているか分からない	妻から夫への現金の貸与
子どものユニフォームが古くなってきたので夫に新しいものを買ってもらうよう話す。私たちはどうすれば子どもに良い教育を与えられるか話しあいます。	子どものニーズ・教育について夫と話す	子どもの教育
私が家畜を買いたいときに、夫が代わりにマーケットで買ってきてくれた。今は 2 匹の山羊と、2 匹の羊がいます。	妻が家畜を購入時に夫が市場で買う	大きな買い物
私が具合が悪ければ、夫は病院への交通費や薬代をくれます。いつも同意してくれます。	妻が病院へ行くこと 夫は交通費・薬代を妻にあげる	妻が病院にいくこと
夫が私のビジネスを助けてくれたことはあります。でも長い間もらっていません。夫に資金が足りないので助けて欲しい、ビジネスに困っているのでお金があるならくれるように頼む。夫が私のビジネスを金銭以外で手伝うことはありません。彼はあまり家にいません	夫が妻の経済活動支援：お金 夫の支援はあまりない	妻の経済活動への夫からの支援

子どもの教育に必要なものや、子どもが休みのときにお金が必要であれば渡しているので私は世帯に貢献しています。女性も経済貢献すべき。家事も世帯への貢献で、自分の家の中のことで、自分の責任だからやります。	妻は世帯に貢献と認識：子どものニーズを支出している、家事も貢献 妻も経済貢献すべき	世帯への貢献
（笑い）家にはお金が必要だし、教育にお金がかかるので私は収入を得たいのです。自分のビジネスの拡大のため、私の家族や親戚を助けるため、そして他の世帯ニーズを助けるためです。幸せなのは、セレモニーなどでお金を使う機会があって、自分にお金があってギフトを買い、お金を使う機会が出来ること、それが出来ることがうれしい。理想の生活は、子どもが良い教育を受けていること。5 年後には、もっとリラックスしていたい。ビジネスはしていたいが、子どもがその頃には大きくなって助けてくれるので、他の人を雇ってビジネスを手伝わせたい。望ましい生活は、夫と子ども達と幸せに過ごしたい。自分のビジネスが拡大して、夫のビジネスも拡大して、夫が充分な食料を供給すること。子どもに質の高い教育としつけを与えられることです。	妻が収入を得たい理由：教育費が高い、自分の家族・親戚を助けるため 幸せ・理想の生活：自分にお金がある、お金を使うこと 子どもが良い教育を受ける事 夫と子どもと幸せに過ごす ビジネスの拡大 夫が世帯ニーズを供給すること	自己関心
ビジネスのない女性は問題が夫との間に起こっていると思う。夫が妻にビジネスをさせるべき。多くの女性がビジネスをしている。	経済活動のない女性は問題 夫が妻に許可すべき	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズを夫が一人で担うのは無理です。	世帯ニーズを夫 1 人で担うのは無理	世帯ニーズの担い手
夫の収入を妻が超えるのはよくありません。夫が全部家のことをするべきです。	妻の収入が夫を上回るのはよくない 夫が全てすべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
以前は子どももいなく夫の働きもあり、特に問題がありませんでした。	以前は特に問題ない	経済活動開始後の変化
夫は、私が彼の義務である家のものを買うことを代わりにやっているので、夫はハッピーです	夫は妻が世帯ニーズを支出するので満足	夫の変化
5 年前に比べてプログレスがある。家庭に必要なものを買える。子どもの必要を満たすことが出来る。	5 年前より進歩あり 自分でニーズ充足	現在の生活状況

妻 12	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子ども達にどうやってよい躾を与えられるかよく話します。		夫妻が普段話すこと：子どもの事	夫妻の話題
食料について、子どもの服について、お金をいくら取っておいて、親戚の支援にはいくら使う、セレモニーにいくらとっておくなど話します。食料や世帯のニーズ、石鹸や洗剤を買うのは夫です。夫は毎月、全て買ってきます。そして夫は他のニーズのために		夫の収入用途を話し合う：食料、子ども、親戚支援、セレモニーと割り振る 夫が毎月購入	夫・妻の収入の用途

別に私にお金を与えます。夫にお金があれば、夫が買い、夫になければ私が自分で買うこともあります。	夫は妻に別途お金を渡す	
私が決める事はありません。なんでも夫と一緒にします。	妻が決める事はない 夫と一緒に決める	妻が最終決定すること
私は夫の決定で何の問題もありません。夫が決めたことが何であれ、それに従います。お互いに何の問題もありません。	夫と意見が異なる際の対応：夫に同意 違う意見を持たない 夫の意見で問題ない	相手の意見に賛成できない時の対処
私は自分に充分にお金があるときはいつでも、両親や親戚を支援します。	妻の両親・親戚支援 妻にお金がある時	妻の両親・親戚への支援
私に充分にお金があるときは夫の両親や親戚を支援します。私は夫の親戚に対して家に訪問してくれば世話し、彼らが帰るときにはお金やギフトをあげる	妻が夫の両親・親戚支援：訪問時に世話、お金、ギフト	夫の両親・親戚への支援
夫が私の親戚を支援するのは、何か結婚式や命名式があればお金をあげています。	夫が妻の親戚を支援 セレモニーでお金	夫から妻の両親・親戚の支援
私が夫に訪問･出席を頼めば、夫は許可する。ただ時々、彼は私に許可を与えず、家にいるように言います。夫と話し合います。特に村にいる祖父母を訪ねる。夫は毎回許可するわけではありません。	妻の外出許可 夫は時々許可しない	妻の外出
食料が必要で夫にお金がなければ私が出します。夫は返金してくれます。時々、夫が私からお金を借りて返金しようとしても私が必要ないと言います。夫にお金がないときだけ、時々です。夫が充分にお金がなく、何か必要があれば、夫にお金を貸します。	妻が夫に現金を貸す 食料の充足、夫にお金がない時 夫は返金する 妻が返金を断る	妻から夫への現金の貸与
子どもの試験について、何か問題がないか、文具について本が必要ではないか夫と話します。私たちは、どうすれば良い教育を子どもに与えられるか話しあいます。夫が学費を支払います	子どもの教育を夫と話す：試験、文具や本の必要 良い教育を与える事	子どもの教育
私は夫や自分の父と、どうやって家畜などを買うか話し合います。夫と一緒に話して、私の家畜を夫が代わりに買ってきてくれます（お金は妻のお金)。夫が最終決定をします。	妻が家畜を買う 夫と妻の父と話す 夫が家畜を代わりに買ってきた	大きな買い物
私が病気になれば夫と話し合います。夫は病院代をくれます。	妻が病院へ行くこと 夫は医療費を出す	妻が病院にいくこと
夫は材料を買ってくれます。ただ夫に、私のビジネスのためにお金をくれないか頼むだけです。夫は私の製品を売ってくれます。それに対して私は支払いはしません。	妻の経済活動への夫の支援：材料購入、製品の販売 夫にお金を頼む	妻の経済活動への夫からの支援
私は世帯に貢献しています。夫にお金がないときに私が出しているのですから。女性も経済貢献すべきです。家事も貢献になります。家の中のことが全て、きれいで、整っていてほしい。	妻は世帯に貢献と認識：妻はお金を世帯に支出、家事も貢献 妻も経済貢献すべき	世帯への貢献
私が収入を得たいのは（笑い）子どもの教育にお金が必要だからです。自分自身、夫、自分の両親、親	妻が収入を得たい理由：子どもの学費、	自己関心

戚、子ども達を助けるためです。私はいつでも幸せです。夫がお金をたくさん持ってきたとき。理想の生活は、ビジネスが拡大されていること。5 年後には、自分のビジネスを拡大する。望ましい生活は、私は夫と子ども達と幸せに暮らし、私のビジネスが拡大すること。	自分、夫、両親・親戚、子どもを助ける 幸せ・理想の生活：ビジネスの拡大 夫がお金を多く得る 夫と子どもと暮らす	
ビジネスをしない女性はレージーだと思う。何のスキルもなくビジネスも出来なくて、いるだけ。	経済活動のない女性はレージー	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズは夫一人で担うべきではありません。妻も出すべき	世帯ニーズは夫 1 人で担うべきでない	世帯ニーズの担い手
妻の収入が多くなることは不可能です。妻のほうが多く稼ぐポジションにないです。それは夫にとって恥とみなされます。	妻の収入が夫を上回ることはない 夫にとって恥となる	妻の収入が夫の収入を上回ること
ビジネスを始める前の暮らしとぜんぜん違う。以前は欲しいものが買えず、いろいろなことが難しかったです。	経済活動開始後の変化：以前は自分で買えなかった	経済活動を始めてからの変化
夫は私がビジネスをしていることにハッピーです。	夫は妻のビジネスに満足	夫の変化
5 年前と比べて変化があります。今の利益のほうが 5 年前よりも多いです。	5 年前と比べて変化：利益が多くなる	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 13</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは家庭のことや、子どもの教育、子どもの躾けについて、いつも一緒に話し合います。</td><td>夫妻で日常に話すこと：子ども・家庭</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫の収入について、いくらを食料に、いくらを学校に、いくらを病院に使うなど話します。世帯ニーズを買うのは夫なので、私は夫がどれくらい支出しているか分かりません。夫はアブジャにいて週末に戻ってきたときに、何が足りていない家等話しあう。不在の時には例えば石鹸などは自分のお金で買い、夫があとで返金してくれる。家に食料が足りなくなってきたら夫に伝えます。もし夫がお金が足りないと言えば、私のお金で買います。夫はお金が入ったら返金してくれます。</td><td>夫の収入用途を話し合う：教育、医療費、世帯ニーズ
夫の世帯ニーズ支出額を妻は知らない
夫の不在時には妻が肩代わり</td><td>夫・妻の収入の用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫はアブジャにいて週末に帰ってきます。夫とは毎日電話して家のことを話します。夫が不在のため家の中の決定は妻がします。</td><td>夫は不在（週末戻る）
電話で話し合う
家の事を妻が決める</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫に賛同できないことは余りありません。例えば、他の人の例では、娘の結婚をセカンダリースクールの前にすることを妻が反対した例がありますが、私の家ではありませんでした。家のことに関して、食べ物や子どものことで意見が異なることはありません。夫婦の間で異なることはあっても滅多にありま</td><td>夫の意見と異なる際の対応：余りない・夫に従う・丁寧に説得する</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
</table>

せん。丁寧に親切に愛情を示しながら説得します。時々意見が違いますが、ただ夫に従って同意します。		
自分にお金があるときはいつでも、自分の両親・親戚を支援します	妻の両親・親戚支援 お金がある時に	妻の両親・親戚への支援
自分にお金があるときはいつでも、彼らを支援します。私は夫の親戚に対してコーラナッツ、石鹸、服、食料などをギフトとして親戚にあげます。	妻が夫の親戚支援 お金がある時 ギフトで石鹸・服・食料をあげる	夫の親戚への支援
夫は私の親戚に服をあげたり、アブジャから戻ってくるときにヤムやプランテーンを買ってくれます。	夫が妻の親戚支援 服、食料	夫から妻の両親・親戚の支援
夫に頼めば夫は許可します。時々夫に充分にお金があれば、私に交通費をくれます。夫は交通費をくれます。重要なときに許可します。	妻の外出の許可 夫が交通費をくれる 重要な用事に許可	妻の外出
夫が不在のときに家族に必要なものを買って、後で夫が返金します。夫に無償でお金を上げることはありません。夫が私にお金を借りることはあまりなく、彼にお金がないときだけです。少なくとも毎月 1 回、N2,000 くらいです。夫は私が子どもの教育や食料にお金を使っているのを知っているので、アブジャから戻ればお金をくれます。子どもはグワレの学校なので毎日交通費がかかります。夫には、ただお金が何に要ります、家族に必要など説明します。	妻が夫へ現金を貸す 夫不在時に妻が世帯ニーズを肩代わり 夫は返金 無償であげない 月に 1 回は夫に貸す 夫に必要な費用を説明する	妻から夫への現金の貸与
夫は子どもに良い教育を与えたかったので、子どものプログレスについて話し合う。私たちは子どもの良い学校をどうやって見つけるか話します。娘のセカンダリーが終わったので、その後も続けることを夫に提案し、話しました。夫は同意します。教育については夫と同じ意見です。	夫と子どもの教育を話し合う 学校の選択・進学の有無 教育について夫と同じ意見	子どもの教育
前は家畜を持っていて、そのときは夫と相談して売ることを決めた。夫は同意してくれます。	妻の家畜売却を夫に相談	大きな買い物
私が病院に行きたいときは夫と話し合います。夫はお金をくれます。薬のためにもお金をくれます。	妻が病院に行くこと 夫が医療費を出す	妻が病院にいくこと
夫がアブジャに行っているので、ビジネスから戻ってきたときに私にお金をくれます。材料を買うなど経済的な支援だけです。	妻の経済活動を夫が支援・材料費を出す	妻の経済活動への夫からの支援
私は子どもの教育だけでなく他にも家族のニーズを満たしています。女性も経済貢献すべきです。家事も貢献です。私は働いていないので（外で、オフィスで働くという意味で)、家をクリーンにし、子どもや訪問者が快適でいるようにしておくべきです。	妻は家族のニーズに支出している、家事も貢献 妻も経済貢献すべき	世帯への貢献
私が収入を欲しいのは（笑い）子どもを助けられるからです。自分のニーズと親戚のニーズのためです。幸せなのは、(笑い）子どもが試験に合格して大学に行ったとき、とてもうれしかった。他の子どもも試	妻が収入を得たい理由：子ども・自分・親戚のニーズ充足 幸せ・理想の生活	自己関心

験に受かって欲しい。試験に合格するとセカンダリーにいく費用を政府が出してくれます。理想の生活は、(すごく考えている)子どもがよりよい暮らしをすること、夫がいつもアブジャにいるが、カノにいてほしい。5 年後には、もうちょっとリラックスしたいので、仕事をしないとか、ビジネスをしていても規模を小さくしたい。子ども達も大きくなるので自分のことは自分でしてくれるから。望ましい生活は、家族みんなが健康でいるときが幸せです。	子どもの進学 子どもが良い暮らし 夫と一緒に暮らす ビジネスを縮小してゆっくり暮らす 家族の健康	
ビジネスのない女性は何かすべきとアドバイスします	経済活動のない女性は良くない	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズは女性も手伝うべきです。夫 1 人では担えません。	夫が世帯ニーズを一人で担うべきでない	世帯ニーズの担い手
妻が多く稼ぐのは良くありません。夫がより稼ぐべきです	妻の収入が夫を上回るのは良くない	妻の収入が夫を上回ること
小さい頃からビジネスをしていたので、ビジネスをしていないときがありません。子どもがいない頃は、帽子を作っていました。	小さいころからビジネスに携わる	経済活動への従事
5 年前に比べて、自分も夫も稼いでいるので、リラックスできます	5 年前より生活に困らない	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 14</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">夫と普段話すことは、夫のビジネスや家族のことで、2 人で座って話します。</td><td>夫妻で日常に話すこと:夫の仕事、家族</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫の収入の用途はもちろん話し合います。座って、いくらくらいを服に、食料に、ビジネスに、という話をします。夫は私がいくら得ているか知っています。私はいつも夫の収入を知っているわけではありませんが、夫がたくさん得たときは持ってくるのでわかります。</td><td>夫の収入用途の話し合い:服、食料、ビジネスに割り振る
夫は妻の収入を知る
妻は夫の収入を予測</td><td>夫妻の収入用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">服を自分や子ども、たまには夫にも、いいものがあれば買うが、それは自分で決めている。</td><td>妻が決める事:自分と子どもの服の購入</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫と意見が違えば夫にアドバイスして、こっちのほうがいい、ということを言います。夫が同意することもあれば、同意しないこともあります。例えば、夫がいくらか持ってきて、これを食料に使おうといいますが、私は半分に分けて、半分は子どもに使ったほうがいい、または全部子どもに使おうといいます。お互いの不理解はない。</td><td>夫と意見が異なる際の対応:妻の意見をアドバイス
意見が異なる内容:夫の収入用途
夫は同意したりしなかったり</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">私に十分お金があるときに両親・親戚を支援する</td><td>妻の両親・親戚支援
妻にお金がある時</td><td>妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私に十分お金があるときに支援する。私は、もし夫の家族が来てお金を欲しいといって、夫もお金がな</td><td>妻が夫の両親・親戚支援:訪問時にお金</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
</table>

ければ、私が出します。	夫に代わってお金をあげる	
夫は薬屋なので、健康に関することで、薬を上げたりアドバイスしたりして私の両親・親戚を支援します。	夫が妻の両親・親戚を支援：健康アドバイス・薬をあげる	夫から妻の両親・親戚への支援
夫は友達や親戚の訪問は許可する。夫に意見を言って、話し合う。夫は同意してくれる。親戚を訪問するときは、そこに１週間過ごすこともある	妻の外出への許可 妻は夫に意見を言う 夫は親戚訪問は許可	妻の外出について
アダシでお金を集めてきたときで、夫にお金がなくてビジネスが続けられないようなら、夫にお金を渡します。彼にお金が入ってきたら私に返金してくれます。無償でお金を上げることはなく、夫の親戚に対してのギフトくらいです。夫が私にお金を頼むのはしょっちゅうではありません。頼まれても私もお金がなければあげません。	妻が夫に現金を貸す 妻が講のお金がある時：夫は返金 無償であげない 夫が妻にお金を頼む 妻はお金がある時だけ夫に貸す	妻から夫への現金の貸与
何かお金があるときに、子どもの教育にお金をくれるように夫に言います。夫にお金がなければ私が出します、という話をします。夫が学費やユニフォーム、PTA、文具など全て払います。	子どもの学費を夫に請求：お金がある時 妻が負担出来る事を夫に言う	子どもの教育
土地も家畜もまだ買ったことはないが、将来買おうと話し合っています。	土地・家畜未購入 将来購入を夫と話す	大きな買い物
夫が医者なので、自分も子どもも夫が面倒を見る。自分が妊娠したときも夫のところで出産した。	妻・子どもの病気・出産：夫が医者、夫が対応する	妻が病院にいくこと
夫は私の商品の飲み物を売ってくれていました。また材料を買ってくれます。	妻の経済活動への夫の支援：製品販売・材料購入	妻の経済活動への夫からの支援
私はいつでも必要なものを買っています。私は貢献しています。女性も経済貢献すべきです。妻も助けるべきです。誰でもお金が必要なときがあるので。家事も貢献です。夫は外で働くので、自分が家の中、子ども達のことをきちんとします。夫が戻ってきたときにハッピーでいられるようにします。	妻は世帯へ貢献と認識：ニーズ充足 妻も経済貢献すべき 家事も貢献	世帯への貢献
（笑い）私が収入を得るのは、必要なものを自分で買いたいからです。ニーズのためです。幸せなのは、夫がお金をたくさん得て、家に持ってきたとき。理想の生活は、子どもが良い教育をうけること。5 年後には、ビジネスを拡大して、お米を箱で買って、売ること。飲み物売りと両方のビジネスをしたい。望ましい生活は、私の子ども達が試験に受かることです。	妻が収入を得たい理由：自分で必要な物を買いたい 幸せ・理想の生活 夫がお金を多く得る 子どもが良い教育 ビジネス拡大	自己関心
ビジネスのない女性は可哀そうだと思う。同情する。お金がなくて何も出来ない人たちだから	経済活動のない女性は可哀そう：何も出来ない人たち	経済活動をする女性への認識

夫が一人で全てを供給することはありません。無理です。一緒に住んで一緒に子どもを育てているので、一緒に助け合うべきです	世帯ニーズを夫 1 人で担うべきでない 妻と助け合うべき	世帯ニーズの担い手
夫がより稼いだほうがいい。夫が責任を持つべきで、妻は全部の責任は取れない。	妻の収入が夫を上回るのは良くない 夫が責任	妻の収入が夫の収入を上回ること
経済活動を始める以前はたくさん問題があって、夫の両親が自分たちを助けていた。今では自分で収入があって、多くの問題を解決できます。	経済活動開始後の変化：自分の収入で問題を解決できる	経済活動を始めてからの変化
夫はハッピーです。私が家族を助けているので喜びます。以前は夫が家にお金や食べ物を持ってきて、私に、「これしかないので、節約して、これで何とかするように」と言っていました。今では、彼はお金や食料を持ってくるとき、私がビジネスを始めてから一定の収入があるので、食料が足りなくなれば夫は私が補てんすると分かっています。何も言わなくなりました。私は以前よりも敬われているし、夫は私が収入を得ることを理解するとみなしてくれます	妻の経済活動開始後の夫の変化：夫の妻への態度が変わる 夫は妻の貢献に満足、妻は敬われていると認識	夫の変化
5 年前の生活と比べて今ではプログレスがあります。	5 年前より生活に進歩がある	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 15</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちはどうやって幸せに生活できるか、世帯ニーズについて家で話しあいます。</td><td>夫妻が普段話す内容：幸せに生活すること、世帯ニーズ</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫はただ必要なものを買ってきます。毎日、夫がビジネスで外出したときに必要なものを買ってきます。足りていなければ私がそういいます。夫がこれらの世帯ニーズを買っていて、彼は N1,000 を支出している。石鹸、食料、化粧品について、口頭で夫に必要なものを伝える。</td><td>夫が世帯ニーズ購入
世帯ニーズ不足を妻が夫に言う
妻は必要なものを夫に言う</td><td>世帯ニーズの購入</td></tr>
<tr><td colspan="2">何を調理するか、化粧品や服を自分のお金で買うことは自分で決めます。</td><td>妻が決める事：料理、自分の化粧品・服</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">自分の意見は諦めて夫に従います。家のこと夫と自分の個人的なことで（言いたがらない）、同意できないことがありました。私は自分の意見は諦めて夫に同意するようにしています。以前に夫と理解しあえないこと、違う意見をもつことがあったら、それについてまず謝る。</td><td>夫に賛成できない際の対応：従う
同意できない内容：外出を夫が反対
妻の意見に反対
過去の出来事を謝る</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">私に十分にお金があるときに両親・親戚を支援する</td><td>妻の両親・親戚支援
妻にお金がある時</td><td>妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私に十分にお金があるときに支援する。私は夫の両親・親戚に食べ物をあげます。</td><td>妻が夫の両親・親戚支援：食べ物</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
</table>

夫は私の両親・親戚に食べ物を上げます。お金があるときです。	夫が妻の両親・親戚支援：食べ物	夫から妻の両親・親戚への支援
私と夫でおしゃべりしているときに、外出したいと夫に頼む。夫が同意すれば結婚式に出席します。夫はいつも同意し、時々はお金をくれます。夫が私に外出の許可をくれないときは、私は 2, 3 日待ちます。それからもう一度聞きます。私は何故外出するのか丁寧に説明します。そうすれば最後には夫は同意してくれ外出の許可をくれます。	妻の外出許可 夫と寛ぎ中に頼む 夫はいつも同意 ダメなら後日再挑戦 丁寧に説明	妻の外出
夫にお金がなくて必要なときには貸します。夫は返金します。夫に無償でお金を上げることもありますが、頻繁ではありません。時々夫は私から借ります。N500 とか N200 くらいです。	妻が夫に現金を貸す 夫は返金 無償であげることも	妻から夫への現金の貸与
夫が子どもの勉強を見るようにいうので、私は子ども達の本をチェックして、子ども達に授業の様子や成績を聞く。学費、文具、ユニフォームやバッグなど必要なものについても夫と話します	勉強進捗を確認 教育の進み具合や学費を夫と話す	子どもの教育
自分が 2 匹の山羊を持っているが、これを買うときに話し合った。夫と両親と話します。	妻の家畜購入を夫と両親と話し合う	大きな買い物
私が病院に行きたいと言えば、交通費と薬代をくれます	妻が病院に行くこと 夫はお金をわたす	妻が病院にいくこと
私のビジネスへの経済的支援はありません。お客を探してくれます。それに対して支払いはしません。	妻の経済活動への夫からの支援：客探し	妻の経済活動への夫の支援
私は夫にお金がないときに出していますから世帯に貢献しています。女性も経済的に貢献するべきです。家事も貢献です。子どもの世話、家のことをするのは自分の責任です。	妻は世帯に貢献と認識：夫に代わってお金を支出、家事も貢献、妻の貢献すべき	世帯への貢献
（笑い）自分のものを買えるし、よりレスペクトされるから自分で収入が必要です。自分自身、両親、親戚、夫、夫の両親・親戚、子ども達や他の人々を助けるためです。幸せなのは、自分でお金を得たとき。理想の生活は、（笑って、考えている）農業のビジネスを拡大し、アワラを拡大すること。5 年後には、もっと利益を得たい。望ましい生活は、家族と幸せに暮らすこと。	妻が収入を得たい理由：自分・家族ニーズ充足、尊敬を得る 幸せ・理想の生活： 自分でお金を得る ビジネス拡大 家族と幸せに暮らす	自己関心
ビジネスのない女性は良くない。ビジネスをすべき（Business is something)	経済活動のない女性は良くない	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズを担うのは夫の義務です。でも妻も助けるべきです。	世帯ニーズは夫の義務、妻も助けるべき	世帯ニーズの担い手
いいえ、妻の収入が多くてはいけない。夫が稼ぐべきです。夫が家をコントロールし、世話すべきだから。	妻の収入が夫より多いのはよくない 夫が家を管理・世話	妻の収入が夫の収入を上回ること
経済活動を始めて、今のほうが、お金があって、生	経済活動開始後の変	経済活動を始

活を楽しんでいる。以前はお金がなかった	化：今はお金がある、生活を楽しむ	めてからの変化
結婚したときに既に私はビジネスをしていた。夫は私のビジネスにハッピーです。	妻は以前から経済活動有、夫は満足	夫の変化
5 年前はもっとアワラの利益があったが、今は多くの人がアワラをやっているので利益が減った。	5 年前より利益が減った	現在の生活状況

妻 16	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは夫のビジネスについて話します。食料、服、健康について夫といつも話します。		夫妻で普段話す内容：夫の仕事、食料、服、健康	夫妻の話題
夫のビジネスは毎日のことなので、毎日、家で夫がこれだけ得たという。いつも話し合って、どの金額で何を買おうか話します。食料は夫がお金を取っていて、月末にまとめて買ってきます。私も自分のビジネスのお金で他の食料を買っています。夫がいくら稼いでいるかは知らないが、夫が持ってくるお金で家族のニーズに十分です。		夫は収入を妻に言う 夫の収入用途を話し合う 夫が食料を購入 妻も自分の収入で食料を購入 夫の収入で十分	夫妻の収入用途
食料を買うときは夫に聞きません		妻が決める事：食料の購入	妻が最終決定すること
一緒に話し合って、どちらの意見をとるか考えます。最終的には夫の意見に同意します。争うことは出来ません。同意できないのは子どもの教育について、夫も私も子どもにもっと勉強するように励ましています。夫の考えに従う。自分の意見はおいておく。もし私が友達を訪問したいときに、夫は許可しないことがある。そのときはほうっておく。丁寧に夫に説明する。これこれが理由ですと丁寧に言う。夫は同意する。		夫に同意できない時の対応：一緒に話し合う、最終的に夫に従う 同意できない内容：子どもの教育、妻の外出 外出を許可しない時：一時放置、後で丁寧に説明	相手の意見に賛成できない時の対処
私は夫と話し合って、夫のアドバイスを得て、私の両親・親戚が支援が必要なときに支援する。		妻の両親・親戚支援 夫と話し合う	妻の両親・親戚への支援
私は夫の両親・親戚に経済的な支援はしていませんが、夫の両親と一緒に住んでいるので、家事を代行しています。お皿を洗ったり、洗濯をしています。		妻が夫の両親・親戚へ支援：同居のため家事・洗濯を代行	夫の両親・親戚への支援
夫は私の両親・親戚にお金をあげます。		夫が妻の両親・親戚支援：お金をあげる	夫から妻の両親・親戚の支援
私が外出したいときは、夫が仕事から戻ってきたときに頼む。だが、夫は週末に私が外出することを嫌がる。夫は許可します。結婚式や何かヘルプが必要なときは夫がお金をくれます。		妻の外出許可 夫が帰宅して頼む 週末は許可されない 夫はお金をくれる	妻の外出
夫が不在のときに家のニーズを私が買います。夫は返金します。夫にお金を無償で上げることはありま		妻が夫に現金を貸す 夫不在時に妻が世帯	妻から夫への現金の貸与

せん。家族に必要なものを買ってきて夫に返金を求めないことはあります。頻繁ではありません。時々夫は私から借ります。N500 とか N200 くらいです。	ニーズ購入：夫は返金、返金を求めないこともある 妻は無償であげない	
1 人目の子どもはセカンダリーを終わってカノのマーケットでビジネスをしている。2 人目はセカンダリーを終えて結婚。3 人目はセカンダリーがもうすぐ終わるので、私も夫も大学に行くように励ましている。私と夫は話しあいます。学費を払うときに子どもが多いので夫が払いきれなければ、私も出します。子どもは８人。小さい子が２人います。全員を大学まで送りたい。	子どもの教育・進路 夫と子どもの教育について話し合う 学費の支払い 妻も学費支払い補助	子どもの教育
私が家畜を買うときに夫がお金を足してくれ餌代も出してくれました。売るときは客を探してくれた。	妻の家畜購入を夫が支援：餌代、売却先	大きな買い物
私が病気の時は夫に言います。夫は、時々は病院に連れて行ってくれます。薬のお金もくれます。病気のときは必ず病院に行きます。	妻は病気と夫に言う 夫が病院に同行 夫が薬代をくれる	妻が病院にいくこと
夫がビジネスを始める資金をくれました。単に座って過ごすのは嫌なので、ビジネスをしたいからお金が欲しいと頼みました。夫は客を探してくれます。夫は肉をマーケットで売っているのでオイルが必要な客に紹介します。それに対して私は支払いません。	妻の経済活動への夫の支援：開始資金、客探し	妻の経済活動への夫からの支援
私はビジネスをして家族に貢献しています。女性も経済貢献すべきです。家事も貢献です。これが自分の責任だから。全てちゃんとする。ハウスボーイやメイドがいないので、自分できちんとやります。	妻は世帯に貢献と認識：自分の収入で貢献、家事も貢献 妻も経済貢献すべき	世帯への貢献
家族のニーズがあるから私は収入を得ています。子どもや自分の生活を助けるためです。いつもハッピーです。何の問題もありません。理想の生活は、（考えている）子どもが良い教育を受けて、自分を助けてくれること。5 年後には、ビジネスを拡大して、みんなにビジネスを知られたい。望ましい生活は、夫の家に座って、自分のビジネスをすること。	妻が収入を得る理由：自分と子どものニーズ充足 理想の生活： 子どもが良い教育を得て助けになる ビジネス拡大	自己関心
ビジネスのない女性の生活は良くない。問題があると思う。だけど、夫が全ての必要を賄えるなら問題ない。	経済活動のない女性は良くない 夫が供給する際は良	経済活動をする女性への認識
夫が一人で世帯ニーズを供給するのは無理です。女性も夫を助けるべき。そうすれば平和だし生活がプログレスする	世帯ニーズを夫 1 人で担うのは無理 女性も助けるべき	世帯ニーズの担い手
妻が夫よりも、もっと稼いでもいいと思うが、それは家族のニーズに使うべきです。	妻が多く稼いでも良 世帯ニーズに使うべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
夫は、以前はお金があったので問題なかった。お金に困り始めたので私がビジネスを始めた。	妻が経済活動を開始した理由：夫にお金	経済活動を始めた理由

	がなくなった	
夫は私のビジネスに対してハッピーです。ニーズが家族にあるときに誰も夫を待っていなくていいし、夫に頼みに行かなくても私が問題を解決しているので。	妻の経済活動後の夫の変化：妻が世帯ニーズを充足し夫は満足	夫の変化
5 年前は夫が経済的な問題を抱えていた。今は大丈夫。平和に暮らしている。	5 年前より今の暮らしは良い	現在の生活状況

妻 17　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私はどうやってよい生活が送れるか、いつも夫と話しあいます。	夫と普段話す内容：良い生活を送ること	夫妻の話題
食料について、話します。お米をどうするか、石鹸やポマードなど日用品や、砂糖、ミレット私や子どもの靴、マギー、オイル、塩など、服にいくらをかけるか相談します。お米やヤムは夫がマーケットに買いに行き、小さいものは子どもを送って買います。	夫が主食料を購入 他は子どもを使いに 食料や日用品の購入を夫と妻が話し合う	夫妻の収入用途
ビジネスのアイテムが売り終わって、次の商品を買いに行くときは、夫から事前に、許可を取らなくていいと言われているので、そのまま買いに行きます。	妻が決める事：妻の経済活動の商品購入のための外出	妻の最終決定
夫と意見が違えば、お互いの意見を話します。私も自分の意見を言います。アドバイスします同意できないようなことはほとんどありません。違う意見を持つことはほとんどない。ほとんどないが、何か新しいことを知らせる必要があれば、夫が良いムードのときに言います。	夫と意見が異なる際の対応：妻も意見を言う、ほぼ同意 違う意見をほとんど持たない 夫の機嫌をみて言う	相手の意見に賛成できない時の対処
私に十分にお金があるとき、私が家族を助けたいとき、夫と話しあいます。	妻の両親・親戚支援 夫と話し合う	妻の両親・親戚への支援
彼らが私の支援が必要なとき、時々私が十分にお金があれば支援します。私は夫の親戚に対して、自分が売っている製品をギフトにあげます。彼らが訪問してきたときに、交通費をあげ、訪問を歓迎する、とてもハッピーであることを示します。	妻が夫の親戚支援：自分の商品をギフト 訪問時に交通費をあげる、世話する	夫の親戚への支援
夫は私の親戚に食料をあげたり、親戚が訪問してきたときは、どうすれば彼らをハッピーに出来るか考え、夕食をどうするかとか、帰るときには交通費を渡し、ギフトをあげます。	夫が妻の親戚支援：食料をあげる 訪問時に交通費、ギフト	夫から妻の両親・親戚への支援
私は夫にセレモニーや訪問について知らせる。でも夫がハッピーでないようなときには頼まない。何故なら彼は同意しないだろうから。また子ども達が帰ってきたときも頼まない。夫はいつも同意するが、食事の用意を先に終わらせないといけない。	妻の外出許可 事前に妻が知らせる 夫の機嫌を見て頼む	妻の外出
夫にお金を貸すことはなくて、ギフトであげます。返金も求めません。いつもではない。夫は十分に稼	妻が夫に現金を無償であげる	妻から夫への現金の貸与

いでいるので。夫の収入で世帯ニーズは十分です。	夫収入は十分ある	
夫と一緒に子どもの教育について話します。夫が学費を払うので、私がイスラミーヤのほうを、ペンや鉛筆を買いましょうという話をします。私たちは良い学校について話しあう。十分なセキュリティーのある学校で、質の良い教育を与えるところ。文具、ユニフォームなど必要なものは夫が出しています。	子どもの教育を夫と話す：学費の支払い、学校の選択 夫が学費を支出 妻も学費を支援	子どもの教育
鶏を飼っているが、それを買うときに夫に相談。夫は同意しました。	妻が家畜を購入時に夫に相談	大きな買い物
私が具合が悪いと言うと、夫は一緒に病院に行ってくれます。	妻が具合が悪い時 夫が病院に同行	妻が病院にいくこと
私のビジネスの材料を買うためのお金で、夫がビジネスの開始資金をくれた。彼にお金があるときに、助けてくれるように、いくらくらい必要と頼みます。夫は客を見つけてくれます。	妻の経済活動への夫の支援：開始資金、客探し	妻の経済活動への夫からの支援
私は世帯に貢献しています。家族や子どものニーズに使い、家族がハッピーでいられます。女性も経済的に貢献すべきです。家事も貢献です。自分の責任なので。ハウスメードがいないので、自分でします。	妻は世帯に貢献していると認識：収入を家族に、家事も貢献、女性も経済貢献	世帯への貢献
夫・子どもを助けるため。親戚や両親を助けるために私は収入を得たいと思います。幸せなのは、コーランを読んでいるとき、予想以上に収入を得たとき。理想の生活は、子どもと夫と一緒にいて、みんながハッピーなとき。5 年後には、もっとビジネスが発展していてほしい。家族だけでなく近所の人や、困った人を助けられるようでありたい。望ましい生活は、自分のビジネスを楽しんでいる。夫、子ども、近所の人と平和に暮らすこと。	妻が収入を得たい理由：夫・子ども・両親を支援する 幸せ・理想の生活 コーランを読む 収入を多く得る 子どもと夫と一緒に ビジネスの拡大 他人を助けられる	自己関心
ビジネスのない女性は問題だと思う。誰かが何かをしてくれるのを待っているだけ。夫が供給していても、自分も小さなビジネスをして自分を忙しくしたほうがいい。なにかニーズがあるときに備えたほうがいい	経済活動のない女性は良くない：人を頼るだけ 自分ですることを持つ、ニーズに備える	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫の義務ではあるが、夫は退職するまで全て出してくれていた。今は自分が助けている。	世帯ニーズ供給は夫の義務	世帯ニーズの担い手
もし妻が多く稼ぐなら、夫を助けるべきで、家族ニーズに使うべき。そうであれば平和にいられる（笑う)。	妻が多く稼いでも良 夫を助けるべき 世帯ニーズに使う	妻の収入が夫の収入を上回ること
夫は全てのニーズを出してくれたので何の問題もなかった。でも自分でビジネスをしたかったので、今は夫を助けられる。	妻が経済活動開始した理由：自分で経済活動をしたかった	経済活動を始めた理由
何も変わらない	夫は何も変わらない	夫の変化
今は 5 年前よりも収入が多い。幸せに家族と暮らしています	5 年前より暮らしが良い	現在の生活状況

妻 18	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
	夫の収入用途は話し合いません。夫は月末に食料を買ってきます。	夫の収入用途を話し合わない	夫妻の収入用途
	何を料理するか、どんな服を買うかは自分で決めます。	妻が決める事： 料理・自分の服	妻が最終決定すること
	夫と意見が異なれば、いつも夫の意見に同意していた。反対するのは宗教に沿わない。お互いに理解するように努めます。夫が分からない場合は「ごめんなさい、これが私の言いたいことです。だから、これを提案しています」と伝えます。もし何か過去にあったら、まず謝ります。自分が過去にした過ちをまず夫に謝ります。それから膝を曲げて体を低くし、私の考えを説明させてくれるよう懇願します。全ては夫の寛容さ次第です。それから丁寧に自分の意見を伝えます。結婚式への出席が頻繁だと、夫がダメといいます。少しは家にいるようにといわれます。	夫と意見が異なる際の対応：夫に同意、反論は宗教に反する 過去の出来事を謝る 丁寧に自分の意見を言う 夫の寛容さ次第で決まる	相手の意見に賛成できない時の対処
	自分で、両親・親戚をいつでも支援します。	妻の両親・親戚支援	妻の両親・親戚への支援
	私は夫の親戚を支援するお金がありません。	妻は夫の親戚を支援できない・お金なし	夫の両親・親戚への支援
	夫は私の親戚を支援することはありません。	夫は妻の親戚を支援しない	夫から妻の両親・親戚の支援
	私が外出許可を頼むと、夫は許可することもしないこともあります。頻繁に訪問したりセレモニーに行くのは OK しません。	妻の外出許可 夫は時々許可 頻繁はダメ	妻の外出
	お金がないので夫にお金を貸せません。	夫にお金を貸さない（お金がない）	妻から夫への現金の貸与
	学校に行く時間になったら N5 くらいをあげて学校に行かせます。子どもが自分のところに来て、新しい本やユニフォームなど、PTA とか必要なものをいうので、私がそれを夫のところに行って頼みます。	子どもの学費を夫に頼む	子どもの教育
	土地を買う計画を立てていて、夫とその話をします。今の家は貸家なので土地を買って家を建てようと話しています。私のお金ではありません。	土地を買う計画を夫と話す	大きな買い物
	私が具合が悪いと、夫は病院までの交通費をくれます。そして処方箋をもって薬を買ってきてくれます。	妻が具合悪い時 夫が病院へ同行 夫が薬を買う	妻が病院に行くこと
	ビジネスをしたいと思うが、ミシンがないし、父も夫もお金がないので買えない。調理食品を売るビジネスや Petty Trading も開始するだけの資金が自分にも夫にもない。夫は、お金が出来たらサポートすると約束してくれて、家で何もしないで座っているよりも何か始めたほうがいいといいますが、まだお金はくれません。	妻が経済活動を開始しない理由：機材無し、お金なし、夫も父も支援しない	妻が経済活動をしない理由

私は世帯に経済的に貢献していませんが、家事も貢献です。家の中のことは自分のすべきことです。夫と子どもの世話は自分の責任です。	妻は世帯に経済貢献していないと認識、家事では貢献と認識	世帯への貢献
私は自分で収入を得てみたい。もしお金があれば幸せ。健康であること。理想の生活は、ビッグビジネスウーマンになること。両親を助けたい。5 年後には、ビジネスをしてお金を得て両親と子どもの面倒を見たい。望ましい生活は、家族と平和に暮らしたい。家族がハッピーな状況であることを見ていたい	妻が収入を得たい理由：お金＝幸せ 理想の生活：ビジネスで成功、両親・子どもを助ける 家族と平和に暮らす	自己関心
ビジネスをしている女性を見ると幸せに思う。ビジネスをしている女性の心が平和で、友達と話していて幸せに見える。	経済活動をする女性がうらやましい、幸せそう	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは、もし妻がお金があるなら貢献すべき、ないなら夫が全部だすべきです。	世帯ニーズの担い手は夫、妻にお金があれば助けるべき	世帯ニーズの担い手
5 年前のほうが良かった。夫がお金をくれて週に N100 くらいはあった。石鹸を買い、子どもの面倒をみれた	5 年前の方が暮らしが良かった：夫がお金をくれていた	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 19</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">夫とは普段、私たちや子どものことを話しあう</td><td>夫と普段話すこと：子ども・自分達の事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫の収入の使い道を夫と話し合います。座って一緒に話します。食料や学校のユニフォーム、服を買うことを話します。夫がマーケットに行き買ってきます。自分で選ぼうとは思いません。夫が選んできたもので自分には OK です。</td><td>夫の収入用途を話し合う：食料、学費、服への振り分け
夫がニーズを購入
夫が選んで問題ない</td><td>夫妻の収入用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">何を料理するか、服を買うことについては自分で決める。</td><td>妻が決める事：料理、自分の服</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫の意見に同意します。夫と意見が違うときは夫の意見に従います。夫に理解してもらうためには、丁寧な言い方で懇願する。何々が私のやりたいことと説明する。</td><td>夫と意見が異なる際の対応」夫に同意する、夫に丁寧に頼む
夫に説明する</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">自分にお金があって、私の両親・親戚に支援の必要があれば支援する。</td><td>妻の両親・親戚へ支援：お金</td><td>妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">お金があるときに支援する。私は夫の親戚に対してコーラナッツや石鹸を夫の両親に買ってあげます。</td><td>妻が夫の親戚を支援：お金がある時</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫は私の親戚にいくらかのお金を上げたり、何か素敵なものを見つけたら買ってあげます。</td><td>夫が妻の親戚を支援：お金、何か良いものを見つけた時</td><td>夫から妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">外出したいときは、夫にお金がありそうな時に聞きます。夫と話し合います。夫は許可するときもしないときもあります。</td><td>妻の外出許可
夫は許可したりしなかったり</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は夫に毎月 N1,500 くらい貸します。</td><td>妻が夫に現金を貸す</td><td>妻から夫への</td></tr>
</table>

	毎月貸す	現金の貸与
学校の費用を払い、本のリストを見たり、どの本を買うかを話します。私たちは、子ども達がもっとよい教育を受けるように、どうすべきか話し合います。そうすれば子ども達が私たちの将来を助けてくれるだろう。話し合います。夫は私の意見に同意します。	子どもの学費、本、学校の選択を夫と話し合う。	子どもの教育
まだ土地がないが、この家は貸家なので、土地を買おうと夫と話し合っている。	土地を買おうと夫と話し合う	大きな買い物
私が病気の時は夫に話します。夫は病院への交通費をくれます。処方箋をもらって夫に見せると、夫が薬を買ってきます	病気を夫に言う 夫は交通費をくれる 夫は薬を買う	妻が病院にいくこと
ビジネスをしたいと思ったが、資金がなくてミシンを買えず始められない。調理食品を売るビジネスも資金がない。夫のサラリーは十分ではなくて、家族のニーズを満たしていない。WDC卒業後は注文があってWDCに来て縫っていたが、ここ3年くらいは何の注文もない。鶏を飼おうと思っている。WDCで洋裁を習ったが、ミシンを買うお金がないのでできない。夫に鶏のビジネスを始めたいといったら、夫は良いアイデアだといったが、何もくれない。	経済活動を開始しない理由：資金不足、夫の給料は十分でない、洋裁の注文がこない、	経済活動を開始しない理由
子どもに小額のお金を上げて、鉛筆やノートN30くらいをあげている。私は世帯に貢献しています。近所の人や友人がギフトとしてお金をくれるので、それを使っている。女性も世帯に経済貢献すべきです。家事も貢献です。それは自分の責任です。	妻は世帯に貢献していると認識：子どもに少額をあげている、家事も貢献	世帯への貢献
私は自分と子どもを助けるため、自分で収入を得たいです。お金がたくさんあり、親や家族を訪問すること。理想の生活は、ビッグビジネスウーマンになり、家族を助けたい。貧しい人を助けたい。5年後には、ビジネスウーマンとして、ミシンを買ってお店を開きたい。望ましい生活は、お金があって、家族が健康であること	妻が自分で収入を得たい理由：お金があり夫や家族を訪問すること 理想の生活：貧しい人を助ける、お店を開きたい	自己関心
ビジネスをしていない女性は夫から尊敬されないし、アドバイスをしても、「お前は何もしていないのだから何も言うな」と受け入れてもらえない。ビジネスをしていればお金を家族に上げているので、夫に尊敬され、アドバイスも受け入れられる。	経済活動のない女性は夫から尊敬されない 何もしていないとみなされる	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫の責任です。夫が全ての責任を取るべきだから	世帯ニーズは夫の責任	世帯ニーズの担い手
実際に妻のほうが多く得ている夫婦もいる。特に問題はない。	妻が多く得ても問題ない	妻の収入が夫を上回ること
5年前より大きな変化があった。5年前は洋裁を知らなかったが今ではできる	5年前は洋裁を知らず、今はできる	現在の生活状況

妻 20	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
	私たちは毎日の出来事について、どうやって子ども達を良い教育を与え、躾をするか話している	夫妻で普段話す内容：毎日の出来事、子どもの事	夫妻の話題
	夫がサラリーを月末にもらってきたときに、座って、例えば、N5,000 を食料に、N2,000 を薬に、N2,000 を学校の費用にと配分し、残りは夫がとっておくことにします。お金は夫がキープし、必要なものをマーケットで買ってきます。	夫の収入用途を話し合う：食料、医療、学費と振り分ける 夫が残りをキープ 夫がニーズを購入	夫・妻の収入の用途
	何か夫が知らない料理があっても自分で決めて作ります。子どもを学校に送るとき、育児に関しては夫を待たずに自分で決めます	妻が決める事： 料理・育児	妻が最終決定すること
	夫と意見が違うときは、どちらの意見が重要であるか２人で話して、どっちがよいか考えます。夫の意見がよければ従います。夫に理解してもらうためには、夫が同意しないとき、少しずつ話して、どうして重要なのか説明し、提案する理由をいいます。	夫と意見が異なる際の対応：2 人で話し合う、夫に少しずつ説明、提案理由を説明	相手の意見に賛成できない時の対処
	必要なときはいつでも私は自分の両親・親戚を支援している	妻の両親・親戚支援 必要な時に	妻の両親・親戚への支援
	私は特にサッラーやラマダンに夫の親戚を支援している。私はお金がないので何もできません。	妻が夫の親戚支援：お祭りと断食月に	夫の両親・親戚への支援
	夫は私の両親に食料を買ったり、小額のお金をくれますが、いつもではありません。	夫が妻の両親を支援：食料・お金	夫から妻の両親・親戚への支援
	結婚式や命名式のときは、夫に外出していいか頼む。何日か前に伝える。夫はお金やギフトで私を助けてくれることもある。夫はいつも許可します。私は夫に村にいる両親に会いに行きたいと話します。夫は大抵同意してくれます。時々、夫はお金やギフトを両親に持って行くようにと渡してくれます。	妻の外出許可 事前に用件を伝える 夫はお金・ギフト 夫はいつも許可	妻の外出
	夫は私からお金を借りない	夫は妻にお金を借りない	妻から夫への現金の貸与
	夫がオフィスから戻ってきて週末に、話します。例えば夫が「息子のノートをチェックしたか？何か宿題はないのか？」と聞きます。そして、息子に持ってくるように言います。もし学校で配られた本のリストがあれば、持ってこさせ、マーケットで買います。私たちはどうやって子ども達の教育を向上させられるか話します。夫は私の意見に同意します。	子どもの教育について夫妻で話し合う 勉強の進捗、購入する必要のあるもの	子どもの教育
	今は夫が相続した家に住んでいる。将来は土地を買おうと話ています。	夫妻で土地を買う話をする	大きな買い物
	夫に病院に行きたいと言えば、夫はいつも一緒に病院に行きます。	妻が病院へ行くこと 夫は同行	妻が病院にいくこと
	ビジネスを始めたいが資金がない。ミシンが買えな	妻が経済活動を始め	経済活動を開

い。父親も夫にもお金がないので。調理食品を売るビジネスをしたいが、食品を売り歩く大きな子どもがいない。夫は、自分がスキルがあるのにビジネスをしていないことを悲しんでいる。でも夫にはミシンを買うお金がないので助けられない	ない理由：機材が飼えない、夫も父もお金がない、子どもが小さい 夫は不満	始しない理由
私は貢献していません。女性も経済貢献すべきです。妻もお金を持っていれば貢献すべきです。家事も貢献です。家の中のことは自分の責任です。	妻は世帯に貢献していないと認識・家事も貢献、女性も経済貢献すべき	世帯への貢献
もちろん、お金を得たい。何か自分が欲しいものを自分で買いたい。自分自身と両親と、夫を助けるため自分で収入を得たい。幸せなのは、お金がたくさんあって、両親を訪ねて、両親が健康であること。理想の生活は、ビッグビジネスウーマンになり、お店を開き、ミシンを置いて、人を雇い、利益を得ること。5 年後には、平和に何の問題もなく過ごしたい。自分で問題を解決でき、他の誰をも煩わせたくない。望ましい生活は、夫と平和に暮らし、ケンカや不理解がなく、私が必要なものは何でも夫が十分に与えてくれること	妻が収入を得たい理由：自分で買いたい 両親・夫を助けたい お店を開きたい 問題なく暮らす 人を煩わせない ケンカがない 世帯ニーズを受けとる	自己関心
ビジネスのある女性は自分や両親や夫の責任を取れる女性だと思う	経済活動のある女性は自分で責任をとる	経済活動をする女性の認識
夫が家族のリーダーなので、夫が一人で世帯ニーズを担うべきです。もし自分にお金があれば助けたいが私はお金がありません。	夫が 1 人で世帯ニーズを担うべき 助けたいがお金無し	世帯ニーズの担い手
妻が夫より収入が多いと、夫が妻が自分よりも大きい人だと見るし、夫がリーダーなのでよくない。	妻の収入が上回るのはよくない	妻の収入が夫を上回ること
5 年前と違いがある。5 年前は洋裁のスキルがなかった	5 年前より今の方がスキルを知っている	現在の生活状況

妻 21	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
夫と良く話すことは、食品、服、家の問題、親や親戚にあげるギフトについて話します。		夫妻で日常に話すこと：世帯ニーズ、親戚支援、家の事	夫妻の話題
夫の収入の使い道について、話します。夫が食品などを買ってきます。夫は私に毎日の野菜やぺぺなど必要なものを買うように、10 日ごとに N2,000 ずつ渡します。夫はトイレの石鹸３個と洗濯用に２個を買う。服について、食料について、ラマダンで何の食品を使うかなど話します。		夫の収入用途を話し合う：夫が主食品を購入、毎日の食材の費用を夫が妻に現金で渡す	夫・妻の収入の用途
洗濯やアイロンは自分で決めます		妻が決める事：洗濯	妻が最終決定すること
夫と意見が異なれば自分の意見を言うが、夫が OK		夫と意見が異なる際	相手の意見に

しなければ、夫の意見に従います。自分の意見をあきらめ、夫に従う。夫に理解してもらうためには、夫に懇願して、丁寧な言い方で、何々が必要、何々したいと説得します。夫と意見が違えば自分の意見を諦め夫に従います。	の対応：妻は自分の意見を言う、ダメなら従う 夫に丁寧に懇願する	賛成できない時の対処
私が両親・親戚に会う時にはいつでも、命名式、結婚式、ラマダン、サッラーのときなど支援する。	妻両親・親戚へ支援 セレモニー、断食、祭りの時に支援	妻の両親・親戚への支援
私は私の両親と同じ額を支援する。私は夫の両親・親戚を尋ねるときに、石鹸や洗剤をギフトに持っていきます。	妻が夫の両親・親戚へ支援：妻両親と同じ額、訪問時ギフト	夫の両親・親戚への支援
夫は私の両親・親戚に、ラマダンのときに食料、サッラーのときに服をあげます。	夫が妻の両親・親戚を支援：断食の食料、お祭りの服	夫から妻の両親・親戚への支援
私は夫に、どこどこの場所に行きたい、結婚式･命名式に出席したいという。夫は許可する。夫は許可することもしないこともあります。	妻の外出許可 夫は許可したりしなかったり	妻の外出
私にもしお金があり、夫にお金がないときには貸しますが、夫は返金することもあればしないこともあります。頻繁ではありません。N1,000 くらいです。	妻が夫に現金を貸す 夫は返金したりしなかったり	妻から夫への現金の貸与
子どもはまだ小さいですが、今後の学費、ユニフォーム、文具について話します。	子どもの学費・必要な物を夫と話す	子どもの教育
まだ買っていないが、土地を買うことを話し合っています。また私は家畜のビジネスをしたいので、それも話しているがお金がない。	夫と土地の購入を話し合う、妻の家畜購入を夫と話す	大きな買い物
私が具合が悪いと、病院への交通費をくれます。それほど重症でなければ近くの小さなクリニックへ、ひどければ町の病院にいきます	妻が病気の際の対応 夫は交通費をくれる	妻が病院にいくこと
ビジネスをしようと試したことはない。資金がないので出来ません。夫はハッピーではありません。夫は私のビジネスのためにお金を得ようとしてくれています。	妻が経済活動を開始しない理由：試みていない、資金がない 夫は不満	経済活動を開始しない理由
私は何もしていないのでお金がありません。貢献できていません。女性も経済貢献すべきです。家事も貢献になっています。家事は重要な貢献です。	妻は世帯に貢献していないと認識：お金がない、家事も貢献 妻は経済貢献すべき	世帯への貢献
自分で収入を得たい。夫にいつもお金を頼まなくていい。Self-reliant になりたい。夫、子ども、親戚を助けるためにも収入が欲しい。幸せなのは、サッラーのときにお金をもらったり、ギフトをもらうとき。理想の生活は、教育を受け、自分のビジネスがあって、Self-reliant であること。5 年後には、ビジネスをしていたい。両親や親戚を助けたい	妻が自分で収入を得たい理由：夫に頼まないように、家族を助ける 幸せ・理想の生活 お金・ギフトを得る ビジネスをしたい 両親・親戚を支援	自己関心

ビジネスをする女性に、とても興味があります。自分の好きなことをして、誰にも頼らない女性だと思います	経済活動をする女性は良い：人に頼っていない	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫一人で担うべきでなく、妻がビジネスで収入があるなら助けるべきです。	世帯ニーズは夫一人で担うべきでない	世帯ニーズの担い手
妻の収入の方が多いことも良いことだと思います。女性が教育を受けていて、良い仕事をしていれば何の問題もありません。	妻の収入が多くても良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前と比べて今は幸せです。結婚して、子どもがいて、スキルを学べたから。	5 年前より暮らしが良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 22</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは私たちの進歩について、子ども達の生活について普段から話し合います。</td><td>夫妻で日常に話すこと：生活、子ども</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">どのようにサラリーを使うか、食料に、子どもに、野菜や石鹸、洗剤等毎日のニーズにいくら必要か、別にどれくらいとっておこうか、などはなします。夫が主食(米、ミレット、メイズ）を買ってきます。他の野菜（たまねぎ、トマト、ぺぺ）や中身の材料など小さいものは子どもが買いに行きます。夫がお金を持っていて、毎日夫が妻にいくらか渡します。そのお金で子どもに買いにいかせます。</td><td>夫の収入用途を話し合う：食料、子ども、日用品と割り振る
夫が主食品を購入
毎日の食材は子どものお使い
夫が毎日現金を渡す</td><td>夫・妻の収入の用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの移動を制限しています。子どもがストリートでふらふらしないよう、私が決めて移動を制限します。</td><td>妻が決める事：子どもの移動を制限</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫と意見が違えば、夫に自分の意見をアドバイスします。だめなら夫の意見に同意します。子どもの教育のことで、例えばタームの最後に、学校の費用を夫が全部一度に払おうとしないけれど、私は一度に払うようにアドバイスしました。また夫が教育費を払っていなかった時は、私はすぐに払うようにアドバイスしました。夫と意見が違うときは、私たちは話し合って、私の意見が重要だと思えば、私はこだわります。もし夫が彼の意見を持ってきて、それがよければ同意するし、だめであれば、説得します。バランスをとるようにしています。夫に理解してもらうためには、夫に短く説明して、その重要性を言います。丁寧に懇願します。</td><td>夫と意見が異なる際の対応：妻は夫に意見を言う、ダメなら同意、説得も試みる
意見が異なる内容：子どもの教育、費用の支払い
夫に丁寧に説明・懇願</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">私がお金があるときに両親・親戚支援を夫と話す。</td><td>妻の両親・親戚支援
夫と話す</td><td>妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">必要があって、私にお金があるときに夫の両親・親戚を支援する。</td><td>妻が夫両親・親戚を支援</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫は私の両親・親戚にお金、食料、服を上げます</td><td>夫が妻両親・親戚支</td><td>夫から妻の両</td></tr>
</table>

	援：お金、食料、服	親・親戚の支援
私が外出したいときは、夫がハッピーなときに許可してくれるように頼む。時々許可したり、しなかったりします。その重要さによります	妻の外出許可 夫の機嫌を見て頼む 許可したりしなかったり	妻の外出について
もし私にお金があるときであれば、夫にあげます。親戚が私にお金をくれることがあるので、子どもを産んだときのお祝いに周りの人がギフトやお金をくれたので、それをとっていて、家に必要なものを買っています。夫にはギフトとしてあげるので返金は求めません。1ヶ月に N1,500 くらいです。	妻が夫に現金をあげる：妻は得たお金を取っている 夫にギフトで上げる	妻から夫への現金の貸与
学校の本、費用、どの学校に入れるか、どの学校が他よりもいいか、お金を貯金して学校のためにとっておこう、こういう本が必要と妻が夫に言うと、夫が買ってくる、など。子どもの教育について話す。子ども達は私立の学校にいる。学期の終わりに、次の学費をどう払うかについて話します。	学費、必要な物、学校の選択を夫と話す 夫妻で子どもの教育について話す 学費の支払い	子どもの教育
今は夫が相続した家に住んでいる。将来は土地を買おうと話しています。	土地の購入を夫と話す	大きな買い物
私が病院へ行きたいと言えば、夫は交通費と薬代をくれます	妻が病院にいくこと 夫は薬代・交通費	妻が病院にいくこと
ビジネスを始めようとしたが資金がないので出来ない。以前は乾燥オクラなど食材を売るビジネスをしたが、資金がなくて続かない。夫は私がスキルを学んだことにとてもハッピーで、私のビジネスのためにお金を得ようとしています。でもビジネスを始められないので心配しています。	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない 夫はお金を援助しようとする	経済活動を開始しない理由
（笑っている）お金がないときは何も出来ていません。私は貢献できていませんが、女性も経済貢献すべきです。もし妻が収入があるなら貢献すべき。家族も夫もハッピーだと思います。家事も貢献になります。をきれいにしたり、子どもの躾は私の責任です。	妻は世帯に貢献していないと認識 妻も経済貢献すべき 家事も貢献	世帯への貢献
自分で収入を得て、夫の負担を減らしたい。幸せなのは、(考えている）夫がお金を得たとき。理想の生活は、ビジネスをしていたら理想的。5 年後には、ビジネスをしていたいです。刺繍の機械を中古であれば N30,000 くらいなので、それを買いたい。望ましい生活は、もし私の家族が健康で、私がお金があればいい。	妻が自分で収入を得たい理由：夫の負担を減らす 幸せ・理想の生活 夫がお金を得る事 ビジネスをしたい 家族が健康	自己関心
ビジネスのある女性たちの生活がとても変わったのを見ています。夫に頼らず、自分のこと、子どもに欲しいものを買っている女性です。	経済活動のある女性は良い：夫に頼っていない	経済活動をする女性への認識
妻も夫を助け、世帯ニーズを担うべき	夫一人で世帯ニーズ	世帯ニーズの

	を担うべきでない	担い手
笑っている）夫が多く稼いだほうがいいです。（考えている）夫が食料、教育、家族のことに責任があるから。	夫の収入が上回る方が良い 夫に責任がある	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前と比べて今の生活はよくありません。子どもがたくさんいるので大変。以前は、そんなに子どももいなくて楽しかった。	5 年前の方が暮らしが良かった：今は子どもが多い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 23</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">シャリーアが認めたことについて夫と普段話す</td><td>夫妻で普段話すこと：シャリーアが認めたことについて</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫がサラリーを持ってきて私に見せます。そのお金で、まず、他の人から夫や私が借りたお金を返す分を分けます。それからお金を 3 つに分けます。一つは食料用で、だいたい毎月 N30,000 かかります。それから教育の費用です。2 人の子どもが私立に通っていて、一人 N3,000 が 3 ヶ月ごとに必要です。残りは日常に必要なもののためのお金で、これを夫と私と 2 つに分けて、それぞれがキープしています。私がキープするのは毎月 N5,000 です。文具などはこの中から出します。食料は夫が毎月買いに行きます。夫の収入は知りませんが、夫が持ってくるもので十分です。夫がキープしているお金から薬のお金を出します。家は夫ので家賃はかかりません。</td><td>夫は給料を見せる
夫収入の用途を話し合う：借金、学費、食料に割り振る
残金を夫妻で分けてキープ
夫が主食料を購入
夫が買うもので十分</td><td>夫・妻の収入の用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">化粧品、服、何を料理するかは自分で決めます</td><td>妻が決める事：化粧品、服、料理</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫と意見が違えば自分の意見を言います。もし夫が同意すれば OK ですし、だめなら私が同意します。同意できないことは今朝もありました。夫は今日のお昼をお米と豆が言いといいましたが、私はジョロフライスにしたいといいました。夫は OK しました。夫と意見が違うときは、謝ります。もし私が近所を訪問したいといって、夫が同意しなければ、まず謝って、後でまた話します。夫に理解してもらうためには、おいしい料理を作り、よい服を着て夫の関心を引いて、同意を求めます。夫は同意してくれます。</td><td>夫と意見が異なる際の対応：妻は自分の意見を言う、ダメなら従う
同意できない内容：料理、妻の外出
夫を説得：過去の出来事を謝る、丁寧に接する</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">ニーズがあって、自分に手段があればいつでも両親・親戚を支援する。</td><td>妻の両親・親戚支援</td><td>妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">ニーズがあって、自分に手段があればいつでも夫の両親・親戚を支援する。私は夫が私にくれるお金の中からコーラナッツやソープを買っています。</td><td>妻が夫の両親・親戚を支援：夫にもらうお金からギフト購入</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫は自分のいとこなので、親戚は同じです。夫はお</td><td>夫は妻親戚にお金食</td><td>夫から妻の両</td></tr>
</table>

金や食料を上げます。	料をあげる	親・親戚への支援
私が出掛けたいときは、夫がよいムードのときに話します。もし夫が私の話す理由に満足しないならば、出かけません。村にいる両親を訪ねることなど。夫は時々許可したり、しなかったりです。	妻の外出への許可 夫の機嫌が良い時に話す、夫は許可したりしなかったり	妻の外出
夫にお金がないときは、夫が私に預けているお金を渡しますが、そのお金は夫が不在のときなど必要なものを買うためのお金なので、夫は返金します。また、子どもを産んだときにギフトとしてお金を人々からもらっているので、そのお金を夫が必要なときに無償であげたこともあります。頻繁ではありません。	夫から預かっているお金を夫に渡す 人からもらったお金を貯めている 夫は後に返金 無償であげることも	妻から夫への現金の貸与
どこの学校に行くか、学費について、本や文具について話す。5 人の子どもがセカンダリー、一人は大学にいる。一人はセカンダリーを終わって結婚した。この 5 人をどこの大学に送るか話す。学校に関することは何でも話します。	夫と子どもの教育を話す：子どもの学校選択、学費、学校に必要な物	子どもの教育
今は何も持っていないが、土地を買おうという計画を話し合っている。	土地を買うことを夫と話す	大きな買い物
私が具合が悪いと夫は病院への交通費と薬代をくれます	妻が病院へ行くこと 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスを開始したいとは思ったが、資金がない。夫は私がビジネスをすることに同意しています。編物や、服を売るビジネスをしたい。調理食を売るのはいやで、朝早く起きないといけないし、子どもがたくさんいるので、小さい子にいつも注意していないといけないので、調理食を作るのは難しい。ビジネスは始めたいと思っていて、布地を売るビジネスをしたい。また WDC で編物を学んだので、それもしたい。夫や家族を助けたいので、自分も収入を得て貢献したい。でも、資金がないので始められない（笑っている)。夫は何も言いません。夫は助けようとしてくれるが、サラリーは食料に使ってしまい不足。	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない、子どもがたくさん・小さい 夫は同意するが資金はくれない 編み物のスキルをいかしたい 収入を得て家族を助けたい 夫の収入は食費に使ってしまう	経済活動を開始できない理由
私は少ししか出していないので、、貢献していないと思う。女性も経済貢献すべきです。でも家事も貢献になります。食料や子どもの世話は私の責任です。	妻は世帯に貢献していないと認識、家事も貢献 女性も貢献すべき	世帯への貢献
私は自分で収入を得たいです。もちろん。夫を助けることが出来るし、子どもの教育にお金がかかるから。毎日のニーズのためです。幸せなのは、(笑う) お金があるとき。夫がお金をたくさんくれたとき。理想の生活は、夫や家族を経済的に助けられること。	妻は自分で収入を得たい理由：夫・子どものニーズのため 幸せ・理想の生活 お金があること	自己関心

お金があれば全ての問題は解決される。5年後には、ビジネスをしていたい。問題を解決したい。月末になる前に夫のサラリーを使いきってしまうので、自分のお金が欲しい。望ましい生活は、コーランの指示と教えに従い預言者が言ったことに従う。	家族を助けられる ビジネスをしたい 自分のお金が欲しい	
ビジネスをする女性にとても興味があります。夫を待たずに好きなものを買えている人たちだと思います。	経済活動をする女性はいい：自分で好きな物を買える	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫が全てすべきです。だが、妻にお金があるなら助けるべきです	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻が多く稼ぐことは全く問題ありません。もし女性が教育レベルが高かったり、ビジネスをしたりしていればお金を得ていて当然です。	妻が多く稼いでも良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前より色々なものが高くなってきて5年前のほうが生活を楽しめてよかった。今ではニーズも増えた	5年前の方が生活が良かった。 ニーズが増えた	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 24</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">夫の収入用途は（考えている）いいえ。夫が食料を毎月買ってきます。私は必要なものを夫に言います。食費にいくらかかるのか知りません。野菜やオイルは毎日、夫が私にお金を渡すので子どもを買いに生かせています。夫はいつも大量に食料を買うので、足りないことはありません</td><td>夫の収入用途は話し合わない
夫が食料を毎月購入
妻は必要な物を夫に言う
食料は十分にある</td><td>夫妻の収入用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">自分で決める事はありません。夫の指示に従います</td><td>妻が決める事はない</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">いつも夫の意見を受け入れます。同意できないことはありません。夫と意見が異なるときは、謝ります。それから何故、自分がこう思うのか、重要性を説明します。たとえば、箒が必要で、箒を買って欲しいときに、箒がないと家を掃除できないと説明します。懇願します。夫は分かってくれます。</td><td>夫と意見が異なる際の対応：謝る。自分の意見を説明
夫の意見に同意</td><td>相手の意見に賛成できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は夫の両親・親戚に時々、セレモニーなどでお金を上げます。お金は自分の兄や父がくれたものをとっています。</td><td>妻が夫の両親・親戚を支援
お金をあげる</td><td>夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫は私の親戚・両親にマーケットで食糧を買ってあげます。</td><td>夫が妻の両親・親戚を支援：食料</td><td>夫から妻の両親・親戚の支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫の許可が要るので、外出するときは話し合います。何か家族にあったら訪問するので。両親はパンシェカラに住んでいます。1ヶ月に1回くらい訪問します。頻繁な訪問は夫が許可しません</td><td>妻の外出許可
両親を訪問する
頻繁だと夫は許可しない</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫は私に頼まないので、夫にお金を貸すことはありません</td><td>夫にお金を貸さない
夫は妻に頼まない</td><td>妻から夫への現金の貸与</td></tr>
</table>

いつも夫は私に聞きに着ます。子どもをいつ学校に送るべきか、夫がいるときは夫が学校の宿題をチェックします。夫が不在のときは、私に、子どもの宿題をみるようにいいます。文具やPTAについて話します。PTAを払わないと子どもが家に帰されてしまうので、夫に払うように言います。夫は払います。	子どもの教育について夫が妻に聞く 学校の進捗、学費、必要な物 妻が夫に払うよう言う	子どもの教育
夫が家畜を買うときに話し合った。	夫の家畜購入を夫と話す	大きな買い物
病気の時は話します。夫は交通費と薬代をくれます。子どもが急に病気になったときは、夫に電話して自分で子どもを病院に連れて行きます。	妻が病気になること 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
始めたいと思っていますが、資金がありません。洋裁のビジネスをしたいです。調理食品を売るのは嫌です（笑う）大きな子どもがいないと、食品を売りにいけないのですが、大きな子どもがいないので。WDCで洋裁を習ったが、ミシンがないので始められない。夫はビジネスの開始資金をくれない。メイトもいるので自分だけを助けない。メイトはキャッサバの粉を売っている。ビジネスを始める資金は自分の母親が支援してくれた。両親はパンシェカラにいるので。夫は私のビジネスを助けようとはしません。	妻が経済活動を開始できない理由：資金がない、手伝える大きな子どもがいない 洋裁のスキルを活かせない：ミシンがない 夫は資金を助けない 他妻はビジネス有	経済活動を開始できない理由
お金がないので世帯に貢献できません。。女性も経済貢献すべきです。もしお金があるなら。家事も貢献です。の責任です。メイト（他の妻）がいるので、２日間交代で家事をします。夫が買ってくる食品は１箇所にキープしてあり、そこから家事の当番のときに使います。オイルや野菜は別々に持っています。ポットなど台所用品も各人の所有ですが、一緒に使っています。料理は全員分を作ります。	妻は世帯に貢献していないと認識 妻も経済貢献すべき 家事も貢献：他妻と交代で家事	世帯への貢献
もちろん稼ぎたいです（笑い）。親戚がたくさんいるので、親戚や、友人、近所の人にギフトを上げないといけないのだけど、お金が必要になります。こういう問題を自分で解決したい。ギフトと自分の服やくつを買う必要があります。幸せなのは、夫がお金をたくさん得たとき。そうすれば私にお金をくれます。理想の生活は、（笑っている）ビジネスウーマンになりたい。5年後には、ビジネスをして、お店を持ちたい。仕立て屋をして、ミシンをおきたい。	妻が収入を得たい理由：親戚・友人にギフトをあげる、自分の服を買う 幸せ・理想の生活 夫がお金を得たとき ビジネスをはじめる お店を持ちたい	自己関心
ビジネスをする女性はハッピーだと思います。自分で問題を解決できていると思う。	経済活動有の女性は良い：自分で問題解決	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫だけで担うべきでなく、妻がサポートすべきです	世帯ニーズは夫1人で担うべきでない	世帯ニーズの担い手
妻の収入の方が多いことは良くないと思います（笑	妻の収入が上回るの	妻の収入が夫

い）夫が家のマスターだから	は良くない	の収入を上回ること
5 年前はもっと問題がたくさんあって、家を借りていた。今は夫が所有する家です。今では大丈夫になりました	5 年前よりも暮らしが良くなった	現在の生活状況

妻 25	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちはどうやって家族の食料を確保するか、子ども達をどう育てていくか、いつも話しあう		夫妻の日常会話：食料確保・子ども教育	夫妻の話題
いつも私が夫の意見を同意します。同意できないことはありません。夫と意見が違うときは、自分の意見を諦め、夫に従う。夫に理解してもらうためには、少しずつ問題を説明し、夫を説得する		夫と意見が異なる際の対応：自分の意見は諦め夫に従う 少しずつ説明・説得	夫妻の収入用途
子どものことについて、何が必要であるか、親戚が来て支援を頼んだとき、夫が不在の時は自分で決める。		妻が自分で決める：夫不在時の親戚支援	妻が最終決定すること
夫と違う意見の時は、いつも私が夫の意見を同意します。同意できないことはありません。夫と意見が違うときは、自分の意見を諦め、夫に従う。夫に理解してもらうためには、少しずつ問題を説明し、夫を説得する		夫と意見が異なる際の対応：妻が夫に同意・従う 少しずつ説明し説得	相手の意見に賛成できない時の対処
私に十分にお金があるとき、時々は両親・親戚の支援を夫や子ども達と話しあう。		妻の両親・親戚支援 夫・子どもと話す	妻の両親・親戚への支援
誰とも話し合わないが、時々夫の両親・親戚を支援している。私はサッラーの間に彼らを訪問したり、彼らがうちに来るので、石鹸やアクセサリーをギフトにあげます。		妻が夫の両親・親戚を支援：訪問時にギフトをあげる 誰とも話し合わない	夫の両親・親戚への支援
時々、夫は私の両親に挨拶に行き、石鹸をギフトにあげます。ラマダンの間には夫は食料をあげます。		夫が妻の両親を支援 石鹸、断食の食料	夫から妻の両親・親戚の支援
私が夫に頼めば、夫は私の外出を許可する。私は夫がハッピーなときに頼む。もし週末であれば、夫は許可しない。夫は許可することもしないこともあります。		妻の外出の許可 夫の機嫌を見て頼む 夫は許可したりしなかったり	妻の外出
夫にお金がないときに。私は両親や友人からもらったお金をキープしています。夫は返金します。無償であげることはありません（笑う）。夫にお金を貸すことは頻繁ではありません。N500 くらいです。		妻が夫に現金を貸す 夫は後に返金 無償で挙げない	妻から夫への現金の貸与
私はいつも夫に、学費をちゃんと間に合わせて支払うように、子どもに本を買うように提案しています。夫は同意します。私たちは父親と話し合って、どうやって良い教育を与えられるか話しあう。新学期が始まるときに学費、文具について買えるか話し合います。できなければ少しずつ買っていきます。		子どもの教育について夫と話す 学費の支払い・良い教育について父親に聞く	子どもの教育

羊 1 頭、山羊 1 匹を飼っていますが、これを買うときも夫に相談しました。	妻が家畜を買う際に夫に相談	大きな買い物
私が病気の時は、夫は交通費と薬代をくれます	妻が病院に行くこと 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
編物のビジネスを始めたいが、編み機がない。材料を買うお金もないので手編みも出来ない。調理食品を売ったり Petty Trading はやりたくない。これも資金がないと出来ない。夫はビジネスを始めるお金を助けない。お金がないので。夫は feeling bad です。私が編物を出来るのにビジネスがないので。	妻が経済活動を開始できない理由・機材・材料資金がない 夫は支援しない 夫は不満	経済活動を開始できない理由
私は少し世帯に貢献しています。自分にお金があればします。1 週間に N50 以下です。もちろん女性も経済貢献すべきです。家事も貢献です。それは私の責任です。	妻は世帯への貢献認識がある。家事も貢献、女性も貢献すべき	世帯への貢献
私は自分で収入を得たい。もちろんお金を稼ぎたい。両親や自分を助けたい。私自身と子どもを助けるためです。幸せなのは、もしお金をたくさん得られたら幸せ。理想の生活は、ビジネスを始めることです。お金が得られたら、それで編み機を買います。娘がいるので娘に教えます。利益で服を買いたい。それから台所用品を買いたい。5 年後には、ビジネスをして、編み機を買って、お店をつくります。望ましい生活は、家族や友達と幸せに生活したい。健康に過ごして、子どもに良い教育を与えたい。子どもを助けたい。家に十分に食料があること。	妻が自分で収入を得たい理由：自分と両親・子どもを助ける 幸せ・理想の生活： 経済活動を始める事 娘に編み物を教える お店を作る 家族・友達と暮らす 健康に過ごす 世帯ニーズ充足 子どもに良い教育	自己関心
ビジネスをする女性はいつも輝いていて、夫や子どもの面倒を見ている	経済活動のある女性を肯定：夫・子どもを助けている	経済活動をする女性への認識
夫が家のマスターなので世帯ニーズを一人で担うべきです。	夫が世帯ニーズを一人で担うべき	世帯ニーズの担い手
妻が夫よりも多く稼ぐことは（笑っている）よくありません。家族は夫の下にあります	妻の収入が夫を上回るのは良くない 夫がマスター	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前はスキルがなかったので、今のほうがいい	5 年前より今の暮らしが良い・スキル有	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 26</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは家のことを話したり、子どものことを、いつも話す。家のニーズは何かなどを話しあう</td><td>夫妻で日常に話すこと：家・子どもの事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫がマーケットで食料を買います。私は 1 ヶ月にいくらかかるのか分かりません。夫とは話し合いません。お米は大きいのを 1 バッグ、スパゲッティーは 1 カートン、グランドナッツオイルが 1 ガロン、パ</td><td>夫の収入用途を話し合わない
夫が主食料を購入
食料が不足すれば、</td><td>夫の収入の用途</td></tr>
</table>

ームオイルも１ガロン、マギーを 1 パック、砂糖を４ボールです。トマトやオニオンなどは毎日夫が買ってきます。夫が食料を買い足さなければ、私はライスと豆だけで料理します。	ある材料だけで料理	
何を料理するかは自分で決めます。夫が指定しても違う料理にすることもあります	妻が決める事：料理	妻が最終決定すること
夫と違う意見の時は、私はいつも夫に同意します。夫に賛成出来ないことはありません。夫と意見が違うときは、自分の意見を諦め、夫に従う。夫に理解してもらうためには、夫に、「これ好き？」と聞いてみて、反応を見る。夫が好きだといえば、これが私の意見ですという	夫と意見が異なる際の対応：夫に同意、自分の意見は諦める 夫の反応を見て自分の意見を説明	相手の意見に賛成できない時の対処
私は夫と話し合います。夫に十分にお金がある時は、彼は私にお金をくれて、両親を助けるようにします。	妻の両親支援 夫と話し合う	妻の両親・親戚への支援
夫は私にお金をくれて、夫の親戚を支援するようにします。私は夫の両親はなくなっているので、親戚に石鹸や服を上げます	妻が夫の親戚を支援 夫がお金をくれる 石鹸や服をあげる	夫の両親・親戚への支援
夫はラマダンのときに私の両親・親戚に食料を上げます	夫が妻の両親・親戚支援、断食の食料	夫から妻の両親・親戚の支援
私が外出したいときは夫に頼みます。もしそれがとても重要な場所であれば、夫は許可します。夫はいつも同意します	妻の外出許可 重要なら夫は許可	妻の外出
もしお金があれば。両親からお金をもらったときにとっているので。夫は返金します。夫に無償であげることはありません。そんなお金はありません。夫にお金を貸すのはしょっちゅうではありません。もし夫が十分にお金がないときは、私から借ります。	妻が夫に現金を貸す 夫は返金する 無償であげない 頻繁でない	妻から夫への現金の貸与
いつも夫といるときに話します。夫はいつも、どうやってお金を得られるか、お金を得たら公立から私立に移したい、そうすればもっといい知識を得れるだろうと話します。私たちは、夫と一緒に子どもの教育について、アラビック教育と西欧教育の両方について話し合います。子どものユニフォーム、文具、について話し合っています	子どもの教育について夫と話す 学校の選択・学費の支払い	子どもの教育
今は家を間借りしているので、土地を買おうと夫と話し合っています	土地を買うことを夫と話し合う	大きな買い物
私が病院に行きたいと言えば、夫は交通費と薬代をくれます。なければ自分で出し、夫は後で返金します	妻が病院に行くこと 夫が交通費・薬代 自分で出し夫が返金	妻が病院にいくこと
ビジネスを開始したいが資金がないので始められない。洋裁を習ったので洋裁をしたい。WDC で学んだ洋裁をしたいが、夫の事故で、ミシンを売ってしまった。夫は、いつも私がただ座っていてビジネスをしていないのでハッピーではありません	妻が経済活動を始めない理由：資金がない、夫の事故でミシンを売った	経済活動を開始しない理由

私は少し貢献しています。N50 以下であれば貢献します。女性も経済貢献すべきです。もしお金があるならば。家事も貢献です。	妻は世帯に貢献していると認識、家事も貢献、女性も経済貢献すべき	世帯への貢献
自分の問題を解決したいので自分で収入を得たい。服を買いたい。病気のときや夫がいないときに子どもを病院に連れていけるように、学費を払うときもお金がなくても自分が払えるようにしたい。自分自身と子ども達、夫、夫の親戚や私の両親、親戚、また貧しい人を助けるためです。幸せなのは、夫と平和に暮らしているとき。けんかをすることなく。理想の生活は、ビジネスをしたい。5 年後には、ビジネスをして、ミシンを買いたい。お店を開いて仕立て屋をする。大きな子どもに店番をさせる。望ましい生活は健康に幸せに暮らしたい。私は家族が幸せで健康であるところを見たい。私は、ビジネスを出来たら幸せだと思う。家族や親戚と幸せに暮らしたい。	妻が自分で収入を得たい理由：服を買う、子どもに必要な費用を自分で出す、人を助けたい 幸せ・理想の生活 夫と平和に暮らす ビジネスをする 仕立て屋を始める 健康で暮らす	自己関心
ビジネスをする女性はハッピーに感じます。いつも人を助けている人たちだと思う。夫が自分に同意してくれなくても、自分のお金で何とかできます	経済活動のある女性はいい：夫が反対しても自分で解決	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズの担い手は夫です。しかし、もし妻にお金があるなら助けたほうがいい。	世帯ニーズは夫が担うべき、妻にお金があれば助けるべき	世帯ニーズの担い手
夫が全ての家族の責任を負うべきです。時々、妻のほうが稼ぐ人もいますが、よくないです	妻より夫が稼ぐべき 夫が全ての責任	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前は夫はもっと利益があったのですが、今はあまりありません	5 年前の方が利益があった	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 27</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちはイスラームの結婚生活について、どうやって生活を向上させるか話す</td><td>夫と普段話す内容：イスラーム結婚生活</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">食料や、日用品、親戚・親をどう助けるか、この 3 つが毎月の主要な支出なので、いくら必要など話します。服は毎月買うわけではないです。夫がマーケットで買ってきます。毎日必要なもの、野菜や食材のお金は夫が渡すので、近所の子どもを送って、買ってこさせています。</td><td>夫と収入用途を話し合う：食料、日用品、親戚支援に割り振る
夫が主食品を購入</td><td>夫・妻の収入の用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">掃除、料理、子どもの世話は自分で決めています</td><td>妻が決める事：相似、料理、育児</td><td>妻が最終決定すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫と意見が異なれば、夫にアドバイスします。もし夫が同意しなければ夫に同意します。夫が母親に服</td><td>夫と意見が異なる際の対応：妻が夫に同</td><td>相手の意見に賛成できない</td></tr>
</table>

を上げたいというので、私は父親や叔母にもあげたほうがいいとアドバイスしました。夫に分かってもらうために、夫に丁寧に話し(sweet talk)、何を自分がしたいのか少しずつ話します。夫は同意します。	意、妻は夫にアドバイス 夫に丁寧に話し少しずつ説明	時の対処
私は夫の両親・親戚を尋ねるときにギフトを持っていきます	妻が夫の両親・親戚を支援：ギフト	夫の両親・親戚への支援
夫はサッラーのときだけ私の両親・親戚にお金を上げます	夫が妻の両親・親戚を支援：断食でお金	夫から妻の両親・親戚の支援
外出するときは夫に出かける予定を伝え、ほとんどのとき、夫は許可してくれる	妻の外出の許可 夫はほぼ許可	妻の外出について
結婚したときに夫にお金をもらいキープしていたので、そのお金を貸すことはあります。夫は返金します。ギフトであげることもありますが、しょっちゅうではありません。お金がないので。1 ヶ月に 3 回くらいです。	妻が夫に現金を貸す 夫は返金 ギフトであげることもある 1 カ月に 3 回程度	妻から夫への現金の貸与
まだ 1 人の娘は小さいが、どこのナーサリーがいいかと話しています	子どもの教育を夫と話し合う	子どもの教育
まだ何も持っていないが、貸家に住んでいるので、夫と土地を買う計画を話し合っている。	土地を買うことを夫と話す	大きな買い物
私が具合が悪いと言えば、夫がいるときは一緒に行ってくれます。夫は他の町に勤務しているので、病院へは 1 人で行きます。夫が家にいるときは一緒に病院に行ってくれます。夫の許可は電話で聞きます。交通費として緊急時のお金をわけて夫がもっています。子どもが病気のときも同様です。	妻が病院に行くこと 夫が同行 夫の許可は電話で 夫が交通費と緊急の費用を分けて確保	妻が病院にいくこと
この地域にまだ新しくて誰も知らないので、ビジネスを始めるのは難しい。お客を見つけられない。洋裁ができるけど、お客を見つけられない。始めたいが資金がない。夫は資金をくれると約束しているがまだくれない。女性の服地やビーズを売りたい。女性はそういうものが好きなので。夫は私に、家で座っていないで何かしたほうがいいといいます。	妻が経済活動を開始できない理由：新参者で周りの人を知らない 夫は資金をくれる約束だがくれない	経済活動を開始できない理由
私は何もしていないので貢献していません。女性はもちろん、夫を助けるべきです。家事も貢献になります。自分の責任なので、家がきれいであるようにしています。	妻は世帯に貢献していないと認識、家事も貢献 妻も経済貢献すべき	世帯への貢献
もちろん自分で収入を得たい。夫や子どもを助けたいので。幸せなのは、夫が一緒にいること。いつも他のところにトラベルしているので。理想の生活は、もっと勉強したい。子どもを多く欲しい。５年後には、勉強して、子どもがたくさんいて、ビジネスをしていたい。望ましい生活は、夫と平和に暮らすこと。	妻が自分で収入を得たい理由：夫・子どもを助けたい 幸せ・理想の生活 勉強する 子どもを多くもつ ビジネスを開始	自己関心
ビジネスをしている女性に興味がある	経済活動のある女性	経済活動をす

	に関心	る女性の認識
世帯ニーズの供給は夫の責任だと思うが、妻がお金があれば出すべき	世帯ニーズ供給は夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻の方が収入が多くても問題ありません。いいと思います。女性はいろんなビジネスで稼いだり、サラリーをもらっているので、特に問題だと思いません。	妻の収入が多くても問題ない	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前と比べて大きな変化がある。5年前はまだ結婚していなく、子どももいなかった。今のほうがいい	5年前より今の暮らしがいい	現在の生活状況

妻28	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは世帯ニーズ、子どもの健康や服について、いつも話しあいます。		夫妻が日常に話す内容：世帯ニーズ、子どものこと	夫妻の話題
家計簿をつけています。毎月夫がサラリーをもらってくると、2人でこの家計簿をみて、いくら他の人から借りているからいくら返さなければいけないとか、いくらを日用品、ポマードや歯磨き粉とか、毎日の食材にどれくらいとっておこうとか話します。家計簿は、つけていたほうが簡単なので2人で考えました。これがあれば誰にお金をいくら借りているか忘れずにいられます。石鹸や化粧品など、自分が使うものは夫に話します。主食料については、夫が両親、兄と話し自分は加わらない		家計簿をつける 夫の収入用途を一緒に話す：借金、日用品、食料に割り振る 主食料は義両親・兄と夫が話す	夫・妻の収入の用途
夫の親戚が訪問して支援を頼みに来たとき、夫の意見を聞かずに、お金やギフトをあげます。		妻が決める事：夫の親戚訪問時の支援	妻が最終決定すること
いつも一緒に座って話し合っています。何が2人にとって利益があるか、夫はいつも自分の意見を聞いてくるので、私は、夫の意見に同意できなければ、私は、こう思う、と話します。例えば、1人目の子どもを夫は私立の学校に入れたかったのですが、私は公立に入れようと、お金がないので。夫は反対して結局私立に送りましたが、1年後に、結局お金がないので公立に移しました。夫と意見が違うときは、時々、自分の意見を諦めます。それから夫の母親（同居）にいいます。すると義母が夫に言ってくれます。義母が自分の見方をしてくれます。夫に分かってもらうために、（笑い）冷たいジュースに氷を入れて夫に差し出します。それから、「Please let me go」と懇願します		2人で一緒に話す 夫は妻の意見を聞く 妻が夫に同意できない時の対処：妻は自分の意見を話す 諦める事もある 同居の義母に相談 義母が妻の見方をする 夫に丁寧に接し懇願	相手の意見に賛成できない時の対処
私の両親・親戚に支援が必要で、私に十分にお金があれば支援します。		妻の両親・親戚への支援	妻の両親・親戚への支援
私は同居しているので彼らの家事を手伝っている。もしお金が十分にあれば支援する。私は夫の両親・		夫の両親・親戚への支援：経済的は無理	夫の両親・親戚への支援

親戚に支援できません。お金がないので。	家事を手伝う	
夫は私の両親・親戚にギフトを上げます。姉が子どもを産んだときとか、親にギフトを上げます	夫が妻の両親・親戚を支援：ギフト	夫から妻の両親・親戚の支援
夫の機嫌が悪そうな時には、私は夫に許可を求めません。夫が同意しないことが明らかだからです。私はセレモニーに出席したり親戚を尋ねたりする事を諦め、次の機会を待ちます。子ども達が周りにいるときも私は夫に許可を求めません。夕食の支度が終わっていない時もそうです。夫が許可しないことは分かっているので。夫は重要であれば許可します。重要かどうかがポイントです。	妻の外出の許可 夫の機嫌を見て頼む 夫が重要と思えば許可する	妻の外出
もしお金があればあげます。子どもと私が親戚を訪問すると、親戚がギフトとして子どもにお金を上げます。これを回収してキープしています。夫にお金が必要なときに渡します。夫は返金します。自分たち2人で話し合って、先月は何に費やしたか、誰から借りたかをみて、夫がお金に余裕があれば私は返金を求めますが、余裕がなければ返金を求めません。自分にお金があって夫にお金が必要であればお金を無償で上げます。そんなにしょっちゅうではありません。夫がお金が必要なときに貸します。	妻が夫に現金を貸す 妻が親戚にもらうお金をキープしている 夫は返金する 返金を求めないこともある	妻から夫への現金の貸与
どのタイプの学校に子どもを送るか、私立のナーサリーに最初は入れていたが、お金がないので公立の小学校に入れた。どのエリアの勉強に、たとえば医学か、女の子なら看護か、などを話し合う。私たちはどうやって子どものために質の良い学校を探せるか話します。学費、ユニフォーム、文具について話す。	子どもの教育について夫と話す：学校の選択、学費の支払い	子どもの教育
所有していないが、夫が土地を買う計画をしていて、それを話し合っている	土地を買う話を夫とする	大きな買い物
私が病院に行きたいと言えば、夫は一緒に行きます	妻が病院にいくこと 夫が同行	妻が病院にいくこと
以前は子ども服を売っていたが、商品を受け取った人がお金を払わないので、続かなくなった。また乾燥食品を売るビジネスもしたが、人々はうちに来て商品を持っていくが、お金を払わない。ビジネスの開始資金としてN500を夫がくれました。義母が洋裁を教えてくれ、義母のミシンを使っています。少しずつ始めます。	妻が経済活動をしない理由：以前の失敗、夫が開始資金をくれた、義母がミシン有 これから始める	経済活動を開始しない理由
自分はお金がないので世帯に貢献していません。女性はお金があるなら世帯に貢献すべきです。家事も貢献になります。自分の責任なので、訪問者があるときに快適でいられるようにいつもきれいにする。	妻は世帯に貢献していないと認識 女性も貢献すべき 家事は貢献	世帯への貢献
自分で収入を得て、自分や夫の必要なものを買いた	妻が収入を得たい理	自己関心

い。時々夫のお金が足りなくて、誰か近所の人や親戚からお金を借りなければいけないことがある。幸せなのは、目が覚めて、健康でいて、食べ物が十分にあって、他の人にお金を借りなくてすむこと。理想の生活は、お金が十分にあって、家具や服や、全てがきれいであること。5 年後には、夫がお金をたくさん得て、家を買って、自分もお金を得てビジネスをして、親戚にギフトを上げ、子どものニーズを満たしたい。望ましい生活は、夫や親戚と平和に暮らすこと。ビジネスがうまくいくこと。	由：自分と夫のニーズ充足、人にお金を借りたくない 幸せ・理想の生活 健康で食べ物がある 人にお金を借りない お金をたくさん得る ビジネスをする 親戚にギフト 夫・親戚と平和に	
ビジネスのある女性になりたい。人にお金を貸したり、友人・親戚にギフトを上げたり、子どものニーズを満たしている女性だと思う。	経済活動のある女性はよい：ニーズを満たしている	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫だけではなく、女性も貢献すべきです。	世帯ニーズは夫 1 人で担うべきでない	世帯ニーズの担い手
夫がより稼ぐべきです。もし夫がお金があれば家族のために費やしますが、妻がお金があってもお金を隠して、ほかの事に使ってしまうから	夫の収入が妻を上回るべき：妻はお金を家族に使わない	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前は夫が働いていなくて、夫の両親と一緒に暮らし、夫の両親が食べ物をくれていた。今も一緒のコンパウンドだが、分かれていて、自分が好きなものを料理できるのでいい	5 年前より今の生活が良い：以前は夫の両親に助けられていた	現在の生活状況

妻 29　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちはどうやって子どもの教育のために良い学校を探せばいいか、また他の家庭内の出来事を話します。	夫妻の日常に話す事：子ども・家庭	夫妻の話題
どんな食品を買うか話します。1 ヶ月の食費は N10,000 以上はかかっています。	食料について夫と話す	夫・妻の収入の用途
料理、服、化粧品は自分で決める	妻が自分で決定：料理・服・化粧品	妻が最終決定すること
夫が買ってきたものに対して、これを買っていない、これを買ったほうがいいなどアドバイスします。夫と意見が違うときは、自分の意見はあきらめて夫に従う。夫に分かってもらうためには、夫に懇願する。夫は了解してくれる	夫の買い物にアドバイス 夫と意見が異なる際の対応：自分の意見を諦める、懇願する	相手の意見に賛成できない時の対処
夫と話し合い、私が充分にお金があればいつでも両親･親戚を支援する。	妻の両親・親戚支援 夫と話し合う	妻の両親・親戚への支援
自分に充分お金があれば彼らを支援する。私は夫の母親にギフトでお金を上げます。	妻が夫の母親を支援 ギフトでお金	夫の母親を支援
夫は私の両親・親戚に服をあげます	夫が妻の両親・親戚を支援：服を上げる	夫から妻の両親・親戚へ支援
外出するときは夫に頼めば夫は許可してくれる。た	妻の外出の許可	妻の外出につ

だ、もし夜であれば夫は許可しない。	夜は許可されない	いて
私にお金があるときには夫にお金を貸したり無償で上げます。貸したときは夫は返金します。夫がお金を借りるのはしょっちゅうではありません。親戚や友人からお金をもらった時に私はお金を貯めます。	妻が夫に現金を貸す 無償で上げる事も有 夫は返金する	妻から夫への現金の貸与
子どもはまだ小さい。私たちはどうやって子どもにとって良い学校を見つけられるか話しあう。1 歳の息子だけがこの家にいる。後 2 人はビチにいる自分の両親のところ。両親が小さい子どもと一緒にいたがるので、母乳が終わった時点で子どもを両親へあげた。2−3 ヶ月ごとに会いに行く	子どもの学校について夫と話す	子どもの教育
この家を買うときに夫と話し合った	家の購入を夫と話した	大きな買い物
妊娠中の研修でクリニックに 4 週間ごとに行きますが、夫は交通費と薬代をくれます。	妻が病院へ行くこと 夫は交通費・薬代をくれる	妻が病院にいくこと
お金がないので開始できない。鉤針編みは出来る。始めるお金がない。WDC で洋裁か編物を学んで、そのビジネスをしたい。資金がないので何も始められません。夫は、何かビジネスをすることを進めていて、お金をくれると約束しています。	妻が経済活動を開始しない理由：開始資金がない 洋裁・編み物スキルがある	経済活動を開始しない理由
自分はいつも貢献しているのではありません。女性は、夫が収入があっても妻も子どものために収入を持つべきです。家事も貢献です。自分の責任です。夫と子どもの世話は自分がすること。	妻は世帯への貢献認識は低い、女性も収入を持つべき、家事も貢献	世帯への貢献
もちろん（笑っている）生活にお金が要るので収入を得たいです。。子どもや自分のためにお金が欲しい。私自身と自分の家族、親戚を助けるためです。幸せなのは、（笑っている）夫にお金があるとき。理想の生活は、お金があって、ビジネスをしている。5 年後には、お金があって、ビジネスをしている。望ましい生活は、夫と子どもと幸せに生活すること。夫が幸せであれば私も幸せ。私の家族が健康であること。	妻が収入を得たい理由：子ども・自分のニーズ、親戚支援 幸せ・理想の生活 お金があること ビジネスがあること 夫・子どもと幸せに生活すること	自己関心
ビジネスのある女性はプログレスしていると思う	経済活動のある女性はいい	経済活動をする女性の認識
夫が全て世帯ニーズを出すべきだが、もし妻にお金があるなら貢献するのはいいことです。	夫が世帯ニーズ全てに責任	世帯ニーズの担い手
夫がより稼ぐべきです。夫が家をコントロールし、家族を養うべきだから。	夫の収入が上回るべき、夫が家をコントロール	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前は夫に仕事が合って収入があったので問題なかった。生活を楽しんでいた。今は夫に仕事がないので問題	5 年前の方が良かった：今は夫に仕事なし	現在の生活状況

妻 30	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子どものことについて話す。最近では子ども達は従順でなく敬うこともしなくなったので、どうすれば私たちの家ではこの問題に取り組めるか話す。		夫妻で日常に話す内容：子どもの事	夫妻の話題
ただ夫がやってきて、何が必要か聞きます。毎週聞きます。夫は、いくらいくらのお金があるから、どうするか、と聞いてきます。私がいうものを買ってきます。夫が全て世帯のために買っているので。夫がいくら使っているのか知る必要がない。石鹸や食料が終わったら夫に言います。		夫が妻にニーズを聞く、夫が必要な物を買ってくる 不足したら妻は夫に言う	夫妻の収入用途
服を買うときは自分で決めます		妻が決める事：服を買うこと	妻が最終決定すること
自分の意見を言います。夫が同意しなければ自分は同意します。例えば、夫が食品を買うときに、まだ家にあるものが残っているのなら買わないほうがいいといいますが、私は、それはだめで、まだ残っているうちに買い足したほうがいい、いつお金がなくなるか分からないから、食べ物を買ってキープしたいといいます。夫と意見が違うときは、時々は、自分の意見をあきらめます。もし両方の意見が重要であれば、どちらがいいか話します。夫に分かってもらうためには、夫に丁寧に懇願します。		夫と同意できない時の対応：妻は意見を言う、諦める、夫と話し合う、丁寧に懇願する 夫と同意できない内容：夫の収入用途	相手の意見に賛成できない時の対処
誰からもアドバイスをもらうことはない。私が出来るときはいつでも私が両親・親戚を支援する。		妻の両親・親戚支援 誰にも相談しない	妻の両親・親戚への支援
私は誰からもアドバイスをもらわず、私に出来るときに支援している。私は夫の両親・親戚にギフトやお金を上げます。特に弟がまだ学校に行っているので、家に来たときにお金を上げます。自分にお金がなければ夫にお金をもらいます		妻が夫の両親・親戚支援、誰にも相談しない	夫の両親・親戚への支援
夫は私の親戚・両親にラマダンのときやお金がたくさんあるときにお金を上げます		夫が妻両親・親戚を支援：お金をあげる	夫から妻の両親・親戚へ支援
夫に出かけていいか聞きます。親戚の訪問や結婚式です。夫は許可することもしないこともあります		妻の外出許可 夫は許可したりしなかったり	妻の外出
自分にはお金がないので夫は頼みに来ません。夫はお金をたくさん得ているので。お金を貸すことはないが、あげることはある。		妻は夫にお金を貸さない、夫は頼まない	妻から夫への現金の貸与
私たちはどうすれば子どもたちが良い教育を得られるか話し合いますが、子どもはまだ小さい。		子どもの教育を夫と話し合う	子どもの教育
夫のお金で土地を買うことを相談している		夫の土地購入を話す	大きな買い物
私が病気の時は、夫は病院に行くようにと交通費と		妻が病院に行く	妻が病院にい

薬代をくれます。	夫が交通費・薬代	くこと
（笑う）鈎針はできる。もう 1 度やりたいと思っているが、ビジネスを開始できない理由は特に説明できない。以前は子どもがいなかったし、夫は全て必要なものをくれる。今は赤ちゃんがいるので、これから必要になると思うのでビジネスを始めたい。布を売りたいと思うが資金がない。夫は、夫に十分なお金が出来たら支援するといっている。	妻が経済活動を開始しない理由：説明できない、これから始めたい、資金がない	経済活動を開始しない理由
家族は少ないので買う物もないし、必要なものは夫がもってきます。自分は貢献していません。もし妻がお金があり、ニーズがあるなら夫を待たないで買うことが出来るから、妻も経済貢献すべきです。家事も貢献です。汚いところに住むのは良くないので、いつもきれいにします。	妻は世帯に貢献していないと認識 ニーズは夫が満たす 妻も貢献すべき 家事も貢献	世帯への貢献
誰でも毎日の必要にお金を欲しいと思う。私も自分で収入を得たい。幸せなのは、（考えている）サッラーのとき。大きな日で、いっぱい人がやってきて、いろんな人に会えるから。理想の生活は、（考えている）もっと勉強すること。何かビジネスを学びたい。５年後には、学校に行き、ビジネスをしたい。望ましい生活は、私は両親や夫と近くにいたい。私は夫や子どもと一緒にいることが好き。	妻が収入を得たいと思う理由：毎日の必要のため 幸せ・理想の生活：お祭りで人に会う ビジネスを学ぶ 両親・夫・子どもと一緒にいる事	自己関心
ビジネスをする女性に興味があるし、そういう女性を見るとハッピーになる	経済活動をする女性に関心あり	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズを夫が一人で担うことは良くない。家族が多いと夫の負担が大きいので、妻も貢献したほうがいい	世帯ニーズを夫一人で担うべきでない 妻も貢献すべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫を上回ってはいけない。夫がもっと稼ぐべきだから。夫が家族を世話すべきです	妻の収入が上回るのは良くない	妻の収入が夫を上回ること
5 年前より、結婚して赤ちゃんが出来たので、今のほうが幸せ	5 年前より今が幸せ	現在の生活状況

<table>
<tr><th>妻 31</th><th>妻の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは、とても重要なことや、結婚生活に有益なことについて、世帯に平和をもたらすことについて、家族のプログレスや子どもの教育、健康について、子どもや親戚、両親の支援について話す。</td><td>夫妻で普段話す内容：自分達の生活、子ども、健康、両親・親戚への支援</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫のサラリーがそんなにないので、座って二人で話し、メイズ、お米をお金があるときに買ってキープしておく。スープの材料（トマト、オニオン、オイル）は毎日夫が買ってくる。フリーザーがないので保存できないので。メイズやお米は月に 1 回月末に夫が買いに行きます。家は夫が所有しているので払</td><td>夫の収入用途を 2 人で話し合う
お金のある時に主食を購入しキープ
食費以外に少し妻がキープする</td><td>夫・妻の収入の用途</td></tr>
</table>

わなくて言い。全てのサラリーを食品にしているわけではなく、少し別にとっていて、私がキープしています。使う時は夫に聞いて許可を取って使います。食費には月にN7,000からN 8,000かかります。		
家事に関しては夫の指示をまたない。皿洗いなど、夫に、ああしろ、こうしろといわれる前に自分でする。自分の責任だから。	妻が決める事：家事	妻が最終決定すること
夫と意見が違えば、いつも夫に同意します。同意できないときはありません。夫と意見が違うときは、自分の意見をあきらめて夫に従う。夫に分かってもらうには、自分のベストを尽くして、夫に提案の重要性を話します。おいしい料理を作ったり、ジュースを持ってきたりします。それでも夫と意見が違うときは、自分の意見を諦めて夫に従い夫に謝ります。	夫と異なる意見の際の対応：夫に同意する、諦めて従う 夫に丁寧に接し、理由を説明する	相手の意見に賛成できない時の対処
支援が必要な人からの意見を聞きます。何故なら彼らの選択、私の両親が何を必要としているかを知ることが必要だから。私は夫や両親と話し合い、適切な時期に支援します。	妻の両親への支援 両親、夫と相談	妻の両親への支援
夫の両親・親戚への支援については、私は良いアドバイス、重要なアドバイスをくれる人と話します。ニーズがあるときに支援します。私は少しだけですが、夫の両親と一緒に住んでいるので、夫の母が洗濯、掃除、皿洗いをしているときに代わりにします。	夫の両親・親戚支援 アドバイスをくれる人に相談 義母の家事を代行	夫の両親・親戚への支援
何か問題があれば、夫は私の両親・親戚にお金を上げます。	夫が妻の両親・親戚を支援：お金	夫から妻の両親・親戚の支援
外出するときは夫に許可を求め、夫が私の話を聞く用意があるときに出席してよいか頼みます。いつもではないが許可します。夫が許可しないのは、不必要は訪問や近所へ出かけること。1週間に1－2回くらいは許可してくれる。毎日はだめ。	妻の外出の許可 夫の機嫌を見て頼む 夫は許可したりしなかったり 頻繁な外出はダメ	妻の外出
夫にどれくらい貸しているか覚えていない。夫はお金をもらったら返金する。	夫に妻が現金を貸す 夫は後で返金	妻から夫への現金の貸与
私は子どもの教育について夫や、夫の親戚、私の親戚、私よりも教育について詳しい人たちと話し合います。子どもが出来たら、アラビックか西欧学校か、どちらに送ろうかと話している。	子どもの教育を夫と話す：教育に詳しい人に相談	子どもの教育
何も持っていないが、土地を買うことを話している。家は相続である。	土地を買うことを夫と話す	大きな買い物
病院に行きたいときは、夫に話せば、夫は交通費と薬代をくれます。	妻が病院に行くこと 夫が交通費・薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスをしたいと思うが、お金がない。編物も洋裁も出来るので、そのビジネスをしたい。多くの女性がやっているので関心があります。近所の女性から家で習っています。夫と夫の母親が同意しないの	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない 編み物・洋裁できる	経済活動を開始できない理由

で、WDCに通えません。夫は外で他の男にみられることをよしとしません。夫は何かすることを探すべきといいます。私がまだ学んでいるところと言うと、夫はミシンを買うと約束している。	夫・義母がWDC通学を反対 夫はミシン購入約束	
自分は貢献しています。N50以下であれば。夫がお金があるときに私にギフトでくれるので、それをとっています。女性も経済貢献すべきです。もし家族に貢献すれば、夫は妻をもっと愛するようになる。家事も貢献です。自分がやらなければ家は汚くなるし、訪問者も不快だから	妻は世帯へ貢献と認識：夫にもらったお金をとっている 妻も経済貢献すべき 家事も貢献	世帯への貢献
自分で収入を得たい。（笑う）他の人に頼らないで自分の問題を解決したい。服やシューズ、アクセサリー化粧品を買いたい。両親を助けたいので。自分自身、夫、両親、彼の両親、子ども達、私と彼の親戚や他の貧しい人を助けるためです。幸せなのは、（笑う）夫がたくさんお金を得たとき。自分が何の問題もなく過ごせる、健康なとき。理想の生活は、ビジネスをしたい。5年後には、ビッグビジネスウーマンになりたい。5年後には子どもが3人くらいになっていてお金が必要だと思うので。望ましい生活は、夫、夫の両親、親戚と平和に暮らすこと。	妻が収入を得たい理由：他者に頼りたくない、好きな物を買いたい、両親・他者を助けたい 幸せ・理想の生活：夫がお金を多く得る 健康である ビジネスをする 子どもが増える 平和に暮らす	自己関心
ビジネスをしていない女性と違いがあると思う。いつもお金を手に持っていて、いろんな人を助けられる。ビジネスをしていないと、いつも誰かに頼まないといけない。	経済活動をする女性はいい：人に頼まなくていい	経済活動をする女性への認識
夫が全て家族に責任を持つべき。世帯ニーズは夫の責任です。しかし、もし妻がお金があるなら助けたほうがいい。	世帯ニーズは夫が担うべき、妻にお金があれば助ける	世帯ニーズの担い手
妻の収入の方が多いことは良くない。夫が稼ぐべき。夫が家族に責任があるから	妻の収入が上回るのは良くない 夫が全ての責任	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前は結婚していなかった。今は結婚していて、今の生活のほうがいい。	5年前より今がいい	現在の生活状況

妻32	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子どものことについて、家庭のことについて、どんなニーズがあるか、食料や他のニーズについて夫と普段から話しあう。		夫妻が日常に話す事：子ども、家庭、食料やニーズ	夫妻の話題
夫がサラリーをもらってくると一緒に座って話をします。夫は私のアドバイスを聞きます。私は、この食料を買ったほうが言い、あれが言い、というアドバイスをします。もしお金がなくなっても食料が家にある状態にします。私は夫にお金が入ればすぐに		夫の収入用途を話し合う：食料の購入 家に食料がある状態を保つ 夫と他妻3人で一緒	夫妻の収入用途

食料を買った方がいいとアドバイスします。そうすれば、夫に十分にお金がないときでも、家に食べるものがあります。夫は毎月1回、ミレット、オイル、メイズ、豆、米を買ってきます。食材のトマト等は毎日夫がお金を私に渡すので、子どもに買いにいかせます。また健康について、誰かが病気であれば夫に病院に連れて行くようにいいます。この話し合いは夫と妻3人で一緒にします。食材は倉庫に入れてあり、鍵は夫がもっています。自分が料理の番のときに夫に鍵をもらい、必要な分をとるようにしています。食費にいくらかかるのか分かりません。夫が持ってくるもので十分です。夫が買ってきたものが足りなくなったら言います。夫は同意します。	に話し合う 食料が不足したら夫に言う	
服や料理をすることについては自分で決めます	妻が決める事：料理、服	妻が最終決定すること
夫と意見が違えば、いつも夫が言うことに同意します。同意できないことはありません。夫と意見が違うときは、違う意見を持ったことがありません。いつもお互いに理解するよう話し合います。夫とはいつも同じ意見です。	夫と意見が異なる際の対応：夫に同意、違う意見を持たない、お互い話し合う	相手の意見に賛成できない時の対処
夫と子ども達と話し合い、私にお金があるときに両親・親戚を支援します	妻の両親・親戚支援 夫・子どもと話す	妻の両親・親戚への支援
夫と子ども達と話し合い、私にお金があるときに夫の両親・親戚を支援します。私は命名式や結婚式でお金をギフトであげます。	妻が夫の両親・親戚を支援 お金をギフトで	夫の両親・親戚への支援
もし両親・親戚が病気で、病院に連れて行って処方箋をもらって、夫は処方箋を見せるようにいい、薬を買うお金をくれます。サッラーのときに服をギフトで挙げます。	夫が妻の両親・親戚を支援 薬代、お祭りの服	夫から妻の両親・親戚への支援
家族や友達を訪問や、どこかへ出かける必要があるときは夫に頼みます。夫は許可します。	妻の外出の許可 夫に頼むと許可する	妻の外出
夫にお金を貸すことはありません。お金がないので。	妻が夫にお金を貸さない：お金がない	妻から夫への現金の貸与
私はいつも夫にアドバイスして、学校の費用を期限内に支払うように、本を買うように、文房具を買ってとっておくように伝えています。学費ユニフォーム、文具について話します。娘は高校の最後の年、もう一人は小学校の4年生で、彼女たちが進学に適するかどうかで、上の学校に入れるか決めます。	学費の支払い、学校に必要な物、進学について夫と話す。 妻が夫にアドバイス	子どもの教育
土地や家畜など、資金がないので買う予定がなく、話していません	土地や家畜購入の話し合いはしない	大きな買い物
私が病院に行きたいと言えば、夫は交通費と薬代をくれます。	妻が病院に行く 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスをしたいと思う。トマトやオイル、マギー、	妻が経済活動を開始	経済活動を開

たまねぎなど食材を売るビジネスをしたいが、資金がない。夫はビジネスを始める助けをくれない。1人の妻はローカルジュースを売るビジネスをしているが、一緒にビジネスをすることは彼女が同意しない。小さな子どもがいるので、家にいて子どもの面倒を見ながらできることしかない。	しない理由：資金がない、夫が助けない 小さな子どもがいる 他妻はビジネス有	始できない理由
私はビジネスをしていないので貢献していません。女性は、もしお金があるなら貢献すべきです。家事も貢献です。自分の責任なので家をきれいにしています。	妻は世帯に貢献していないと認識：ビジネスがないから 家事も貢献	世帯への貢献
もちろん自分で収入を得たい。自分と子どもの必要なもの、服、ソープ、洗剤を買ったり、親戚を助けたりしたい。夫は何でも供給するが、自分の好きなものを買いたいので。自分と家族、親戚を助けるため。子どもや他の貧しい人たちを支援するためです。幸せなのは、（笑い）お金を得たとき。理想の生活は、ビジネスをすること。5年後には、ビッグビジネスウーマン。洋裁や編物を習いたい。望ましい生活は、健康に暮らし、家族と幸せに暮らしたい。	妻が収入を得たい理由：自分と子どものニーズ充足、親戚や他者を助ける 幸せ・理想の生活：お金を得る事 ビジネスをすること 家族と幸せに暮らす	自己関心
ビジネスをする女性は、いつも利益を得ていて、親戚を助けている	経済活動有の女性はいい：親戚を助ける	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズは夫が出すべきです。でも夫がお金がなくて、妻にお金があるなら、妻が助けたほうがいい	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が上回ることは良くない。夫が家のマスターだから	妻の収入が上回るのはよくない	妻の収入が夫を上回ること
5 年前と何も変わりがない。今も以前もビジネスがない	5年前と変わらない	現在の生活状況

妻33	妻の回答	定性的コーディング	コード集約
子どもの教育について夫とよく話す		夫妻で普段話す事：子どもの教育	夫妻の話題
夫が食料を月に回買ってきます。私はいくら食費にかかるか知りません。米は半バッグ、スパゲティを5個、豆を2ボール、マギーが 1 パック、グランドナッツオイルが3ボトル、メイズが10ボール、ミレットが2ボール、砂糖が1ボールです。トマトやたまねぎは夫が毎日買ってきます。夫が医療費や交通費などを出していて、毎回必要なときに頼みます。服は1年に2回、1度に3着くらい買います。		夫が毎月食料購入 妻は食費額知らない 夫が医療費・交通費を支出：妻は必要時に夫に頼む	夫・妻の収入の用途
子どもが病気のときで夫が戻ってくるのを待たずに、自分で病院につれていく。服を買うときは自分で決める。もし自分の家族に何か緊急なことがあれば、夫を待たずに出かけている。		妻が決める事：子どもが病気の際の対応、何か緊急時	妻が最終決定すること

夫と意見が違っても、いつも夫の意見に同意します。それはコーランに従ったことです。同意できないことはありません。夫と意見が違うときは、1回目に、彼が分からなければ、夫が穏やかになるまで待って、少しおいておき、夫が機嫌がいいときに、少しずつ説明します。夫に分かってもらうには、何かしたいことがあれば、4－5日前に夫に言います。今日何をしたいといってもだめなので、早めに話して許可をもらいます。そして重要性を説明します。夫が反対するのは、不必要な訪問です。友達に会いに行く、だけではだめで、その外出は何が目的なのか、説明できないといけません。	夫と意見が異なる際の対応：夫に同意 夫の機嫌を見て対応 外出の目的を丁寧に説明	相手の意見に賛成できない時の対処
両親・親戚を支援したいがお金がなくて出来ない	妻の両親・親戚支援は出来ない：お金無	妻の両親・親戚への支援
支援したいがお金がなくて出来ない。私は夫の両親・親戚を訪問するときにソープをギフトにもって行きます。	妻が夫の両親・親戚支援 訪問時にギフト	夫の両親・親戚への支援
夫はお金をそんなに得ていないので、私の両親・親戚を助けてはいません。夫は自分の両親・親戚は支援しています。	夫が妻の両親・親戚支援はしない：お金無し	夫から妻の両親・親戚への支援
外出するときは夫に頼むが、夫は時々OKしたり、しなかったり。毎日どこかへ外出したいというのは認めてもらえない。今日は誰に会いに、明日はマーケットになどはだめです。	妻の外出の許可 夫は許可したりしなかったり 頻繁な外出はダメ	妻の外出
もしお金があれば。私は親戚からお金をもらってキープしています。夫は返金します。無償であげることはありません（笑う）。普段はお金がないので貸せません。	妻が夫に現金を貸す 夫は返金、無償であげない、妻もお金がなく貸せない	妻から夫への現金の貸与
いつも子どもが学校から戻って、夜に、夫は私に子どものバッグをとってきて、学校で習ったことを見せるようにいいます。また学校が本のリストを渡すので、私が夫にこの本を買うようにいいます。子どもにとってどの学校がよいか話しあう。どれくらい子どもが学校で進歩があるか、別にレッスンが必要か。学費、文具、ユニフォームをどう支払うかなど話しあう。	子どもの学校の進捗を夫と確認 学校選択・学費・必要な物を夫と話し合う	子どもの教育
今はお金がない。土地も家も所有していないが、将来土地を買う計画を話し合っている。	土地を買う計画を夫と話す	大きな買い物
私が具合が悪いと、夫は病院への交通費と薬代をくれます。	妻が病院に行くこと 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスをしたいと思うが、資金がない。WDCに来てサンダル製作や洋裁を学びたい。調理食品の販売やPetty Tradingも資金がいるし、周りの人は家で自宅用の食料を作っているし、食料を売る大きな子ど	妻が経済活動を開始しない理由・資金がない、販売する大きな子どもがいない	経済活動を開始できない理由

もがいないので、このビジネスは出来ない。夫はビジネスを開始する支援はない。お金がない。	WDC で学びたい 夫は助けない	
お金がないので貢献していません。女性はお金があるなら貢献すべきです。でも家事も貢献です。家事は私の責任です。	妻は世帯に貢献していないと認識 家事も貢献 女性も貢献すべき	世帯への貢献
自分で収入を得て、子どもと夫を助けたい。何かニーズがあるときに自分がお金を出したい。両親と子どもを助けるために収入が必要です。幸せなのは、もし、お金がたくさんあれば幸せ。理想の生活は、ビジネスをスタートしたい。そうすれば多くの利益を得て、服を買いたい。夫にお金を頼みたくない。5年後には、ビジネスウーマンになりたい。もし生きていたら。望ましい生活は、私は夫や子どもと幸せに過ごしているので今の生活を楽しんでいる。一つ問題なのは私は何のスキルもないので出来ないこと。	妻が収入を得たい理由：子ども・夫・両親を助けたい 幸せ・理想の生活：お金がたくさんある ビジネスがある 夫にお金を頼まない 夫と子どもと過ごす	自己関心
ビジネスのある女性は、いつも夫にお金を頼まないで自分で問題を解決している	経済活動有の女性はいい：夫に頼まない	経済活動をする女性の認識
妻がビジネスをしていないなら夫が全ての世帯ニーズを出すべき。妻がビジネスをしているなら妻も助けるべきです。	夫が世帯ニーズを担うべき、妻がビジネスあれば助けるべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫より多いことは良くない。夫が妻より稼がないのはだめ。夫が全ての家族のニーズに責任があるから	妻の収入が夫を上回るのは良くない 夫が全ての責任あり	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前と比べて生活に違いはある。以前、赤ちゃんを 2 人産んで、どちらも死んでしまった。今は別の子を産んで、元気でいるので、今がいい	5 年前より今の生活がいい	現在の生活状況

妻 34　妻の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子どものこと、食料について、時々はビジネスについて話し合います。私は他の女性達のようにビジネスを始めたいと夫に話しているのです。	夫妻で日常に話す内容：子ども、食料、ビジネス	夫妻の話題
夫がお金があるときにマーケットで食料を買ってきます。夫は私にニーズを聞くことはありません。夫が買ってくる食糧で十分です。病気のときは病院にいき処方箋をもらって夫に渡します。夫がマーケットで薬を買ってきます。夫はサッラーのときだけ服を買ってきます。自分で選んでいません。1 月に食費がいくらかかるのか分かりません。	夫は妻にニーズを聞かないで決める 夫が食料を購入 夫が購入するもので十分 薬も夫が買う お祭り時に服を買う	夫妻の収入用途
何を料理するか、服を選ぶこと、小さな家の中のことは自分で決めます。夫は反対しません	妻が決める事：料理、服、家の中のこと	妻が最終決定すること
夫と意見が異なれば、いつも夫に同意します。同意	夫と意見が異なる際	相手の意見に

できないときはありません。夫と意見が違うときは、自分の意見をあきらめて夫に従う。夫に分かってもらうには、自分のベストを尽くして、夫に提案の重要性を話します。おいしい料理を作ったり、ジュースを持ってきたりします。夫と意見が違うときは、夫に謝る。夫に分かってもらうには、夫に懇願します。夫は同意してくれます。	の対応：いつも夫に同意、諦めて従う、提案の重要性を説明、夫に丁寧に接し懇願する	賛成できない時の対処
私は夫とどうやって両親を支援するか話し合います。私はラマダンのときやサッラー、命名式や結婚式のときに、また誰かが病気のときに支援します。	妻の両親を支援 夫と話し合う 断食、祭り、セレモニー、病気の際に	妻の両親への支援
子ども達と話し合います。ラマダン、サッラー、セレモニーの時に夫の親戚を支援します。私もお金がないのでサポートできません。	妻が夫の親戚を支援 子どもと話し合う 妻もお金がない	夫の親戚への支援
お金がないので、夫は私の両親を支援することも、夫の親戚もサポートできません。	夫は妻の両親・夫の親戚もサポートできない	夫から妻の両親・親戚への支援
私は結婚式に出席したいとき、夫に許可を求めます。夫はいつも許可しないのですが、時々は許可してくれます。私は膝を曲げて体を低くして夫に懇願したり、おいしい料理や冷たいジュースを出したりして夫に頼みます。私は夫の許可を得るために頑張ります。でも全ては夫の決断次第です。夫は重要かどうか見て、重要でないと許可しません。	妻の外出の許可 夫は時々は許可 夫は重要でないと許可しない	妻の外出
夫にお金を貸すことはありません。お金がないので。私は夫にお金を貸しません。ただ、マギーや塩などを買うのに自分のお金を使います	妻が夫に現金を貸さない、お金がない 食材を妻が肩代わり	妻から夫への現金の貸与
子どもが学校から戻って、夜に夫が私に子どもの学校のかばんを持ってくるように言うので、夫に渡します。そして一緒にエクササイズブックをチェックします。夫は私に本を子どもに読んであげるように、そうすれば試験に合格するからといいます。私たちは教育について、どうすれば質の良い教育を与えられるか話し合います。文具、ユニフォーム、学費、お菓子などお金について話します。夫が支払ったり、私が洗濯で得たお金で払ったりします。	夫と子どもの勉強具合をチェック 夫は妻に子どもの勉強を見るよう言う 良い教育、学費の支払いについて夫と話し合う	子どもの教育
この家を夫が買うときは、夫と話し合いました。私が何か家畜や土地を買うなら夫と両親と話し合います。	家・家畜・土地を買うときは夫と両親と話し合う	大きな買い物
私が病院に行きたいと言えば、夫は交通費と薬代をくれます。	妻が病院に行くこと 夫は交通費・薬代	妻が病院にいくこと
ビジネスをしたいが資金がないので始められない。グランドナッツオイルを売りたい。それから WDC にきて洋裁を習いたい。調理食品を売るのもお金が	妻が経済活動を開始しない理由：資金不足、夫もお金がない	経済活動を開始できない理由

必要。夫に頼んだが、夫もお金がない。夫はお金をたくさん得たら、くれるという。WDC で洋裁を習いたい。入学許可があれば、夫は同意しているので習いに行きたい。十分な資金がないので、ビジネスが出来ない。一度始めたら、ちゃんと続けたい。夫は、家で座っていないで何かやったらどうかといわれている。しかし夫は支援しない	WDC で洋裁を学びたい、	
夫がいないときに私が両親からもらったお金で時々、マギーや塩を買ってスープを作りますが、私が出しています。私も世帯に貢献しています。女性はお金があるなら貢献すべきです。家事も貢献になります。家事は自分の責任です。	妻は世帯に貢献と認識：食材を支出 家事も貢献 女性もお金があれば貢献すべき	世帯への貢献
自分で収入を得たい。いろんな問題があって、夫にお金を頼まないといけない。両親を助けたくともお金がない。自分と子ども、親戚、両親、夫やコミュニティの貧しい人を助けたいのでお金を得たい。幸せなのは、もし自分がお金をたくさん得たら、夫がたくさんお金を得たらハッピー。理想の生活は、ビジネスをしたい。5 年後には、ビジネスをしたい。望ましい生活は、私は子ども達が良い教育を受けて、自分がビジネスをしていきたい。何故なら、女性センターを訪問して、他の女性達がスキルを学び、色々なことをしているのを見ました。だから他の女性達のようにスキルを学びたい。	妻が収入を得たい理由：夫にお金を頼まないように、自分と他者を助ける 幸せ・理想の生活：お金を多く得ること ビジネスをする 子どもが良い教育	自己関心
ビジネスのある女性はいいと思います。	経済活動のある女性はいい	経済活動をする女性の認識
世帯ニーズは夫 1 人で担うべきではありません。妻にお金があるなら助けるべき。家族のニーズと責任を夫と妻で分けられる。	世帯ニーズは夫 1 人で担うべきでない 妻も助けるべき	世帯ニーズの担い手
夫が稼ぐべきです。妻の収入が多いのは良くない。全ての家族は夫の下にあります	夫が多く稼ぐべき	妻の収入が夫を上回ること
5 年前と比べて違いはない	5 年前と変わらず	現在の生活状況

添付資料 2　夫の調査記録

夫 1　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは食料や他の世帯ニーズをどう買うか、いつも話しあう。そうすれば私たちは幸せに生活できる。	夫妻が日常に話す内容：世帯ニーズの購入	夫妻の話題
世帯に何が必要かを話し合っている。食料については妻に何を買ったほうが良いのか聞いている。	世帯ニーズ・食料について夫妻で話し合う 妻にニーズを聞く	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻は 1 ヶ月に N3,000 くらい得ている。妻は収入を家族を助けるため、また自分のニーズに使っている。	夫は妻の収入額を把握 妻の収入用途	妻の収入額と用途
私に十分にお金があれば妻の両親･親戚を支援する。私は妻の親戚にギフトをあげます。	夫が妻の両親・親戚支援：ギフト	夫→妻の両親・親戚への支援
私は自分の両親･親戚を支援するが、その額は私がどれくらい稼ぐかによる。十分に稼げば沢山支援する。	夫が夫の両親・親戚支援、	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚にギフトを上げ、家事を手伝います	妻が夫の親戚支援 ギフト、家事手伝い	妻→夫の両親・親戚への支援
私は妻がセレモニーに出席することを許可し、交通費をあげる。しかし政治的な場所へ出かけることは許可しない。	夫は妻の外出を許可 交通費をあげる 政治集会はダメ	妻の外出
妻にお金を借りることはあり、返金する。妻は私にギフトで渡そうとするが、私は受け取らない。なぜなら、私が妻に与える側だから。私がいくらか必要なときに、時々妻から借りる。お金を得たときに妻に返金する	夫が妻にお金を借りる 返金する 妻は無償で渡そうとする	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスに客を連れてきてくれた	妻が夫のビジネス支援：客を連れてくる	妻→夫のビジネス支援
もちろん妻のビジネスを支援します。妻にミシンをあげました	夫が妻のビジネス支援：ミシン購入	夫→妻のビジネス支援
子どもはまだいない	子どもなし	子どもなし
土地や家畜を買うときは、私の両親と妻と話しあう	土地・家畜購入：妻と両親と話す	土地・家屋・家畜の購入
私の妻は貢献している。妻は貢献したほうが良い。家族を助けるのは良いこと。	妻は世帯に貢献している 良いこと	妻の世帯への貢献
幸せなのはサッラーのとき。5 年後にはプログレスしていて、健康でありたい	幸せ：お祭り、将来のプログレス、健康でいたい	自己関心
ビジネスをしていない女性はまずスキルを学ぶべき	経済活動のない女性はダメ：スキルを学ぶべき	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズ供給は夫の義務なので、夫が全ての世帯ニーズを持ってくるべき	世帯ニーズの担い手は夫	世帯ニーズの担い手
夫がより稼いだほうが良い。世帯の責任は夫次	夫の収入が多いことが良	妻の収入が夫の収

第だから	い：夫に責任がある	入を上回ること
WDC について校長から聞いた。妻にスキルを学ばせるために通わせた。妻は私が、お金がない時に助けてくれる。妻は私を助けて世帯ニーズを出している。	校長が WDC を説明 妻を WDC へ通学させる 妻はお金を得るようになり夫を助ける	経済活動を始めてからの妻の変化
5 年前と比べて今は私はプログレスがある	5 年前よりも進歩	現在の生活状況

夫 2	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは毎日の出来事について話す		毎日の出来事を妻と話す	夫妻の話題
私のサラリーをどう使うか、特に食料に関しては、妻が誰よりもよく家のニーズを知っているので、妻と話し合います。少量について、妻に何が必要か聞きます		夫の収入用途を妻と話し合う：食料・世帯ニーズ 妻が家のニーズを理解	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻は 1 ヶ月に N1,000 くらい得ている。妻は収入で私や彼女自身の服を買っている。世帯のために月に N800 くらい使っている。		妻の収入額を把握 妻の収入用途は服、世帯ニーズ	妻の収入額と用途
妻に賛成できないのは妻の外出についてです。通常、私は妻が不用意に出かけることは許可しません		妻に賛同できないこと：外出、不用意な外出は許可しない	賛同できない時の対処
私は妻の親戚を助けます。食料をラマダンの間にあげます		夫が妻の親戚を支援 断食の食料	夫→妻の両親・親戚への支援
妻は私の親戚を助けます。掃除や洗濯を代わりにしています。		妻が夫の親戚を支援 家事を代行	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が親戚を訪問するときは、もし忙しくなければ一緒に行きます。私が忙しければ妻は一人で行きます。		妻の親戚訪問に夫が同行	妻の外出
必要があればいつでも私は妻にお金を借りる。毎月返金します。		夫は妻にお金を借りる 夫は後で返金	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスを手伝いません		妻は夫のビジネスを支援しない	妻→夫のビジネス支援
私は妻のビジネスを拡大するために N10,000 あげました。私の支援は経済的なことだけです。		夫は妻のビジネス支援：お金をあげる	夫→妻のビジネス支援
子どもの教育について妻と話し合います。子どもの学校を変えたほうがいいのか、子どもが勉強に必要な本はどれか。自分の両親と妻と話し合う。		子どもの教育について妻と話し合う：学校の選択、必要な物	子どもの教育
自分の両親と妻と土地･家畜の購入について話します。		土地・家畜の購入を妻と両親と話す	大きな買い物
私の妻は貢献している。時々妻はマギーやお菓子などを買っているので。女性も世帯に貢献すべき。特に夫にお金がない時に、夫が誰か他の人からお金を借りる代わりに、妻からお金を借		妻は世帯に貢献している：食材を支出している 女性も貢献すべき 他人からお金を借りずに	妻の世帯への貢献

りることが出来る	妻から借りたほうがいい	
幸せなのは、妻が子どもを健康に産んだこと。5年後には、自分の仕事で昇進し、成功したい。望ましい生活は、自分のビジネスの拡大。	幸せなこと：妻の出産 自分のビジネスを成功させたい	自己関心
ビジネスをしていない女性は尊厳がない	ビジネスをしない女性はダメ	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは、もちろん、それは夫の責任です	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が私より多くても、私はそれでハッピーです。	妻の収入が上回っても良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
WDCは女性が洋裁や編物のスキルを学ぶところ。妻がビジネスをして、多くの変化がある。妻は時々私を金銭的に助けてくれる	妻が経済活動開始後に多くの変化：経済的に夫を助けられる	経済活動を始めてからの妻の変化
私はいつも妻のビジネスにハッピー。	夫は妻のビジネスに満足	妻のビジネスへの夫の感想
5年前は、ビジネスで利益を得ていなかった。今は以前よりも利益がある。以前は家を借りていたが、今は自分の家を持ち住んでいる。	5年前より今の生活が良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫3</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻と私たちの毎日の生活に関すること全てを話し合っている</td><td>妻と日常に話す事：毎日の生活について</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの教育や他のことについて、妻とは話し合います。食料については何をどう買おうか話します。もし私に十分なお金があれば、私は家に必要なものを十分に買う。もし十分にお金がなければ、少しずつ買う。</td><td>夫の収入用途を妻と話す：子ども、食料の費用どのくらい購入するかは夫の収入次第</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻の収入は分からない。なぜなら時々、人々は期日どおりに支払っていないので。妻は収入を世帯ニーズや親戚に使っている。私は妻が世帯ニーズにどのくらい使っているか分からない。なぜならわれわれは計算していないので。妻はベストをつくしている。</td><td>夫は妻の収入を知らない
妻は収入を世帯ニーズに使う</td><td>妻の収入額と用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は自分の両親・親戚同様に彼らを支援する。彼らはみな同じ。私は妻の両親・親戚を色々なことで助けます。</td><td>夫は妻の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は自分の両親・親戚が支援が必要なときにいろいろな方法で支援する。</td><td>夫は自分の両親・親戚を支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻も私の両親・親戚を色々なことで助けます</td><td>妻が夫の両親・親戚を支援</td><td>妻→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいと言ってきたら、私はどれくらい重要かをみて、訪問が重要であれば、許可するし、それほど重要でなければ、他の日にする</td><td>妻の外出許可依頼
重要であれば許可
重要でなければ許可しな</td><td>妻の外出</td></tr>
</table>

ように言う。	い	
私は妻に借りて、後で返しています。妻が、利益があるときは無償でくれます。 必要があれば借りる。返金します。	夫は妻に現金を借りる 夫は後で返金 妻は無償でくれることも	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスにアドバイスをくれます。	妻は夫のビジネスを支援：アドバイス	妻→夫のビジネス支援
私は妻のビジネスを支援していますが、いくらかは計算していません。お金以外ではお客をみつけます	夫は妻のビジネスを支援：お金、客探し	夫→妻のビジネス支援
私たちは、どの学校が子ども達に質の高い教育を与えるだろうかと話します。	子どもの教育を話し合う：学校の選択	子どもの教育
土地や家畜を買うことがあれば、両親と妻に相談する	土地・家畜の購入は妻と両親と相談	大きな買い物
妻はベストを尽くしている。妻が夫を金銭的に助けるのは良いこと。なぜなら、そうすることで妻は夫への同情を示せるだろう。	妻の世帯への貢献を認識 妻が夫をお金で助けるのはいいこと	妻の世帯への貢献
幸せなのは、妻が沢山稼いで、家族を助けてくれるとき。5年後には自分のビジネスが大きくなっていて欲しい。私は豊かで平和な暮らしを送りたい	幸せな時：妻が多く稼ぐ 妻が家族を助ける 自分のビジネス拡大	自己関心
ビジネスをしていない女性にはスキルを学ぶようにアドバイスする。そうすればその女性はビジネスが出来るだろう。	ビジネスのない女性は学ぶべき	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズを与えるのは夫の責任です。でも、もし妻が助けようとするのなら、それは良いことです。	世帯ニーズは夫の責任 妻が助けるのも良いこと	世帯ニーズの担い手
妻が多く稼ごうがかまわない。しかしもし妻が良い妻ならば、夫よりも多くは稼がないだろう	妻が多く稼いでも良い 良い妻は多く稼がない	妻の収入が夫の収入を上回ること
私はWDCのオープニングセレモニーに出席した。WDCはスキルを学ぶところでわれわれを助けてくれる。ビジネスを始めてから妻に変化がある。妻はお金で家族を助けている	経済活動開始後の妻の変化：お金で家族を助ける	経済活動を始めてからの妻の変化
私にとっても変化がある。私が何か供給できなくても、妻が私に頼むことなく買っているだろう。	夫にも変化：妻が世帯ニーズを買うと期待できる	夫の変化
5年前と比べて、沢山変化がある。それは良い変化だ。	5年前よりも今が良い	現在の生活状況

夫4	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
家の必要なものについて、家族のニーズをどう満たすかについて、妻といつも話す		夫妻の日常の話す事：家族のニーズ充足	夫妻の話題
1ヶ月にN20,000以上は世帯ニーズに使う		夫は毎月世帯ニーズに費やす	夫の収入の用途・世帯ニーズ

私に十分にお金があるときに妻の両親・親戚を支援する	夫が妻の両親・親戚を支援：お金	夫→妻の両親・親戚への支援
私に十分にお金があるときに自分の両親・親戚を支援する	夫は自分の両親・親戚を支援：お金	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したければ、妻に許可を与えている	妻の外出許可 妻に許可する	妻の外出
月に 1 回か 2 回。N1,000 くらい借ります。お金を得たときに妻に返金する	夫が妻にお金を借りる 毎月 1~2 回	妻から現金を借りる
子どもが良い教育を受けて欲しいので、質の良い学校に子どもを送ることを妻と話す	子どもの教育を妻と話す	子どもの教育
土地や家屋等を買うことがあれば、私の両親と妻と話しあう	土地や家屋の購入は妻と両親と話す	大きな買い物
望ましい生活は、家族や貧しい人を助けることが出来るようお金を得たい	望ましい生活：家族や他者を助ける	自己関心

夫 5　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは自分たちの生活と子どものことを話す	夫妻の日常の話し：生活と子ども	夫妻の話題
私たちは世帯のことについて話し合う。食料については、どんな食料を買うか、話し合う。私が食糧を買い、妻は石鹸や洗剤を買っている。私は世帯ニーズに N20,000 くらい毎月使っている。食料を買っている。世帯ニーズとは食料、服など。	世帯ニーズの購入を夫妻で話し合う 夫が食料を購入 妻は石鹸洗剤を購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻は 1 ヶ月に N6,000 くらい得ている。妻はお金を家族を助けるためにつかっている。妻は世帯ニーズに N4,000 くらい使っている	夫は妻の収入を把握 妻の収入用途は世帯ニーズ	妻の収入額と用途
どんなときでも意見が異なれば話し合います	妻と意見が異なれば話し合う	賛同できない時の対処
私は妻の親戚を助けている。お金を渡す。	夫は妻の親戚支援：お金	夫→妻の両親・親戚への支援
自分に充分にお金があれば自分の両親・親戚を支援する	夫は自分の両親・親戚支援：お金	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚を助けていて、何でも彼女が出来る方法で助けている	妻が夫の親戚支援	妻→夫の両親・親戚への支援
もし妻が親戚や友達を訪問したいと頼めば、許可する。妻に許可を与えている	妻の外出許可依頼 夫は許可を与える	妻の外出
私にお金がないときは、妻にお金を借ります。N2,000 くらい。妻に返金するときもあれば、彼女が返金は言いということもある。彼女が意図するときはいつでも、妻は私にギフトとしてお金を渡す。	夫は妻に現金を借りる 夫は返金 妻が返金を断ることも	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスにアドバイスをくれます	妻が夫のビジネス支援：	妻→夫のビジネス

	アドバイス	支援
私たちは子どもの教育について話しあう	夫妻で子どもの教育を話す	子どもの教育
何か大きなもの、土地や家畜を買うのであれば、妻と話し合います	土地や家畜の購入を話し合う	大きな買い物
私の妻は子どもの本やおもちゃを買うことで貢献している。女性も世帯に経済貢献すべき。そうすれば私を助けることになる	妻は世帯に貢献していると認識：子どもニーズ充足 女性も貢献すべき	妻の世帯への貢献
幸せなのは、サッラーのとき。5 年後の暮らしは、よい意思しだい。望ましい生活は、私たちは妻と良い生活を送っている	幸せなこと：お祭りの時 妻と良い生活を贈る	自己関心
世帯ニーズの充足は夫の役割だが、実際には夫だけでなく、妻も収入を得て家族を助けたほうがいい	世帯ニーズは夫が担うべき 妻も助けたほうがいい	世帯ニーズの担い手
私は妻が夫よりも稼ぐことは良いと思わない	妻が夫より稼ぐのは良くない	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻を WDC に通わせたのはスキルを学ばせ、自立して世帯ニーズやセレモニー等のニーズを自分で賄えるようにするため。妻がビジネスを始めてから、improvement があった。	妻が経済活動開始後に、進歩がある	経済活動を始めてからの妻の変化
たとえ私が十分に食料を買うお金がなくても、妻が私たちに食料を与えてくれているから	夫が資金不足でも妻が食料を買う	経済活動のメリット
improvement が私たちにあったので、5 年前と比べて私の生活は変わった	5 年前より今の生活がいい	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 6</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは自分たちのプログレスや子どもの成績について話す</td><td>夫妻で話す事：自分達・子どもの事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私と妻は私の収入を、どう使うか話し合います。私は世帯のために食料に月に N39,000、子どもの教育に N30,000 を使っている。世帯ニーズとは食料、住居、医療、教育、衣料のこと。</td><td>夫の収入用途を話し合う：食料、教育</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">何か問題が起これば妻の両親･親戚を支援する</td><td>夫が妻の両親・親戚支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私の両親・親戚が私の支援が必要で、私に十分お金があれば</td><td>夫が自分の両親・親戚支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻も私の両親･親戚に結婚式や命名式で彼らが妻を訪ねてくれば支援します</td><td>妻が夫の両親・親戚支援
訪問時に</td><td>妻→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいと言えば、妻に許可を与えます。時々は交通費を上げます。問題なければ許可する</td><td>妻の外出許可
夫が問題ないと思えば許可する、交通費をあげる</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻にお金を借りることはあります。外出しよう</td><td>夫が妻に現金を借りる</td><td>妻から現金を借り</td></tr>
</table>

とするときにお金がない時にお金を借りますが、後で返金します。妻がギフトでお金をくれることはあります。N50 以上でなければくれます。	夫は後に返金 妻が無償でくれることも	る
私の妻は私のビジネスにアドバイスをくれます。	妻が夫のビジネス支援：アドバイス	妻→夫のビジネス支援
妻のビジネスを資金的に支援することはあります。妻が必要なお金をあげます。お金以外の手伝いはしません。	夫が妻のビジネス支援：お金をあげる	夫→妻のビジネス支援
子どもの教育についてどんな問題があるか、子どものニーズは何か、どんな本、テキスト、ノートが必要かなど妻と話し合う	子どもの教育を妻と話す：問題、必要な物	子どもの教育
何か家畜など大きな買い物をするときは、妻と両親と話し合います。	家畜など大きな買い物：妻・両親と話す	大きな買い物
妻は朝食を支出して助けている。 私の妻は世帯に経済的に貢献している。女性も世帯に貢献すべき。もし夫にお金がない時に妻が助けられる	夫は妻が経済的に世帯に貢献と認識：朝食代 女性も貢献すべき 夫にお金がない時のため	妻の世帯への貢献
幸せなのは、仕事から戻ってきて、家族が幸せであること。5 年後には、生活が良くなっていてほしい。望ましい生活は、イスラーム式の生活が最も良い	幸せな生活： 家族が幸せ 生活が良くなっていること	自己関心
ビジネスをしていない女性はプログレスがない	経済活動のない女性はよくない	経済活動をする女性への認識
世帯に必要な物は、夫が全ての責任を取るべきです。	世帯ニーズは夫の責任	世帯ニーズの担い手
私は妻の収入が夫より多いことに賛成できない	妻の収入が上回るのは良くない	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻は私に頼まずに自分で自分のことをするようになった。妻は識字とビジネスを学びたかったので WDC に通わせた。	妻の経済活動開始後の変化：夫に頼まない、自立	経済活動を始めてからの妻の変化
妻がビジネスを始めて私にも、とても多くの変化があった	夫にも変化	夫の変化
5 年前に比べて違いがある。多くの変化があった	5 年前より多くの変化	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 7</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは生活、健康、食料、服についてどう確保するか話す</td><td>夫妻の話題：生活、健康、食料の確保</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">通常妻と一緒に、どのようにお金を使うか計画を立てます。食料については、月末までどのくらい食料がいるか計画を立てます。妻は私がサラリーを得たときにどうお金を費やすかアド</td><td>夫の収入用途を妻と話す
必要な食料の量を計画
妻が夫にアドバイス</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
</table>

バイスします。世帯ニーズのために 1 ヶ月に N50,000 は使っている。料理は 1 日 3 回。洗剤、石鹸、子どもと妻の服、薬、米、メイズ、パン、油など。世帯ニーズとは家族に食料、服、家、学費、薬を与えること		
妻は 1 ヶ月に N10,000 以上は得ている。妻はその収入を子どものために使っている。妻は世帯のために N5,000 は使っている。	夫は妻の収入を把握 妻の収入用途は子どものため	妻の収入額と用途
2 人の意見が異なれば、いつも同意できるまで話します	夫妻で意見が異なる際：同意しようと話し合う	賛同できない時の対処
必要があれば妻の親戚を支援する。親戚が私たちを訪ねにきたときに、交通費を上げます。	夫が妻の親戚支援 訪問時に交通費	夫→妻の親戚への支援
毎日必要があれば自分の母親を助けている。	夫が自分の母親支援	夫→夫の親の支援
妻はお金があるときに、石鹸や洗剤、油、時々は服を親戚に買ってあげています。	妻が夫の親戚支援 日用品を上げる	妻→夫の親戚への支援
妻が外出したいと言えば、妻に許可をあたえます	妻の外出許可 許可している	妻の外出
私は N 3,500 くらい妻から借ります。そしてサラリーをもらってから妻に返金します。妻に無償でお金をもらうことはありません。1 カ月に 3－4 回借りる。1 ヶ月に N1,800 から N2,400 くらい。自分がサラリーを月末に得たら、妻に返金する	夫が妻から現金を借りる 夫は後で返金 妻は無償ではくれない 毎月 3-4 回借りている	妻から現金を借りる
私は妻に N10,000 以上はローンで貸しています。また妻のビジネスにアドバイスを与えます	夫が妻のビジネス支援：お金を貸す、アドバイス	夫→妻のビジネス支援
子どもの学校の進捗について妻と話します	子どもの教育を話し合う	子どもの教育
家畜や土地を買うとしたら妻と相談します。	家畜や土地の購入を妻と話す	大きな買い物
私の妻は経済的に世帯に貢献している。女性は経済的に貢献すべきと思います。なぜなら、夫の収入は全て世帯のために使われるから	夫は妻が世帯に貢献していると認識 女性も貢献すべき	妻の世帯への貢献
幸せなのは、サラリーを得たとき。5 年後には、良い家族でいたいと思う。良い家を持ち、子ども達が良い教育を受けて欲しい	幸せな生活：お金を得る、良い家、子どもの良い教育	自己関心
ビジネスをしていない女性の夫は、妻にアドバイスを与えて、ビジネスをするようにすべきだと思う。	ビジネスのない女性は夫に問題：夫にアドバイス必要	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズを家族に与える事は、イスラームに従って、それは夫のすべきことです	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
もし女性が得たお金が女性の improvement に使われ、ビジネスを続けるために使われるなら、妻の収入の方が夫よりも多くても構わない。	妻の収入が夫を上まっても良い 妻はビジネスや生活の向上にお金を使うべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
私は妻が成長するために WDC に通わせた。妻	妻が経済活動開始後の変	経済活動を始めて

が WDC に通ってから、ビジネスを始めるようになってから、とても大きな変化が彼女にあった。妻は石鹸や学費などを払うことで私を助けるようになった。	化：学費や日用品を支出し夫を助けている	からの妻の変化
5 年前より今の生活はよくなった	5 年前より暮らしは良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 8</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちはどのように私の収入を使うか話し合います。食料や、学費をどう払うか話します。私は月末まで十分なほどの食料を沢山買う。私は毎月 N10,000 くらい世帯ニーズに使います。世帯ニーズは食料、服、教育です。</td><td>夫の収入用途を妻と話し合う：食料、学費、他の世帯ニーズに割り振る</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻は 1 ヶ月に N500 くらい稼いでいると思います。収入は子どもの教育や食費です。</td><td>夫は妻の収入を把握
妻の収入用途は世帯用</td><td>妻の収入額と用途</td></tr>
<tr><td colspan="2">私にお金があれば支援する。私は妻の両親・親戚に服や、食料、お金を上げます。</td><td>夫は妻の両親・親戚支援
服、食料、お金</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私にお金があれば両親・親戚を支援する</td><td>夫が夫の両親・親戚支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻は私の両親・親戚に子どもの教育や他の家事、お皿を洗うなどの支援をします。</td><td>妻が夫の両親・親戚支援
家事代行</td><td>妻→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私にお金が十分になく、何か問題があったときに借ります。妻は私にお金があろうとなかろうと、よくお金を無償でくれます。いくら借りているかは、私のニーズによる。金額は分からない。返金する。</td><td>夫が妻に現金を借りる
妻は無償でお金をくれる
夫は返金する</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">少なくとも N500 は妻のビジネスを支援しています。私が十分にお金があるときです。</td><td>夫が妻のビジネス支援：お金</td><td>夫→妻のビジネス支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもに、どうすれば質の高い教育を与えられるか、子ども達のモラルについて、どう育てるべきか、教育について話します。私は最も良い学校について友人と話す。</td><td>子どもの教育を夫と話す：子どものモラル、教育、学校の選択</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">もし土地を買うとしたら、私の父、妻、時々は子ども達と話し合うと思う。</td><td>土地を買うときは父、妻、子どもと話す</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻は特に食材を買うことで助けています。妻は世帯に貢献すべきですが、私にとってはたいしたことはありません。</td><td>夫は妻が世帯に貢献すると認識：食材を夫に代わって買う
妻も世帯に貢献すべき</td><td>妻の世帯への貢献</td></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は、どんな問題でも解決して、自由であること</td><td>望ましい生活：
何でも解決、自由</td><td>自己関心</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビジネスをしていない女性はやってみるべきだし、ビジネスを始めてみるべきです。</td><td>経済活動のない女性は、やってみるべき</td><td>経済活動をする女性への認識</td></tr>
<tr><td colspan="2">それは夫の責任で、夫が世帯ニーズを賄うべきです</td><td>世帯ニーズは夫の責任</td><td>世帯ニーズの担い手</td></tr>
</table>

妻の収入が夫を上回ると、時々、それは妻が夫を敬わなくなることにつながる。	妻の収入が上回るのは良くない：妻が夫を敬わなくなる	妻の収入が夫の収入を上回ること
なぜなら私は妻にスキルを学んで欲しかった。妻に多くの変化があります。食料を賄えるようになり、私にお金を頼まなくなりました。	経済活動開始後の妻の変化：お金があり、食料を世帯に入れる	経済活動を始めてからの妻の変化
私にも変化があります。	夫も変化	夫の変化
5年前と比べて多くの変化があります。私のビジネスは以前より良くなり、家族にも多くの変化があります。	5年前と比べ、今の生活が良い。	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 9</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">優先用途は、一番目は食料、2番目は服、3番目は家の補修。世帯ニーズには1ヶ月にN20,000を使う</td><td>夫の収入用途：食品、服、家の補修</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻の両親・親戚を毎月支援している</td><td>夫が妻の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">毎月や、2週間に1度など、時々、親戚を支援している</td><td>夫が夫の親戚支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいときは、私は妻に許可を与えるが、時間通りに戻ってくるようにいう</td><td>妻の外出許可
妻は時間を守ること</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">時々、N100からN10,000まで借りる。私にお金が入ったら返金する</td><td>夫が妻に現金を借りる
夫は後で返金</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">どうすればよい教育を子どもに与えられるか、妻と話しあう</td><td>子どもの教育を妻と話し合う</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">土地を買うとしたら、両親と妻と話し合うだろう</td><td>土地の購入は妻と両親と話す</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は家族と幸せに暮らすこと</td><td>望ましい生活：家族と幸せに暮らす</td><td>自己関心</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>夫 10</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは毎日の出来事や家族のことを話しあう。</td><td>夫妻で普段話す事：毎日の出来事、家族の事</td><td>夫妻で日常に話す内容</td></tr>
<tr><td colspan="2">私と妻はまず、どんな食料が必要か話し合い、それから他の家族ニーズについて話し合う。食料についてはどんな食料が必要か話し合う。私は世帯ニーズの全て、食料などを買っていて、N15,000は支出している。私は世帯ニーズに1ヶ月にN20,000くらい使っている。世帯ニーズとは食料、服、家、健康に関する費用</td><td>食料・ニーズについて妻と話し合う
夫が世帯ニーズを支出</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻の1ヶ月の収入は知っている。（金額には触れず）。妻は収入を家族を助けるために使っていて、1ヶ月に世帯ニーズにN2,000くらい使</td><td>夫は妻の収入を把握
妻の収入用途は世帯のため</td><td>妻の収入額と用途</td></tr>
</table>

っている。		
私は出来るだけ支援している。私は妻の親戚に食料や服をあげる。	夫は妻の親戚を支援：食料、服	夫→妻の両親・親戚への支援
私は自分に出来るだけ自分の両親･親戚を支援している。彼らが私の支援が必要なときに	夫は自分の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚が訪問してきたときに支援している。	妻が夫の親戚を支援	妻→夫の親戚への支援
妻が外出したいときは､交通費をあげて許可する。それからギフトを買うお金を渡す。私は妻が両親や親戚を訪問することを許可している	妻の外出の許可 夫は交通費・ギフト代を渡す	妻の外出
もちろん、私にお金がないときは妻に借りるし、返金する。もちろん、子どものニーズや学費などを妻が無償でだすことがある。もちろん私は妻から借りる。N2,000 から N3,000 くらい。私に給料が入れば、妻に返金する。	夫は妻に現金を貸す 夫は後で返金 妻が無償でだすことも	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスを助けている	妻は夫のビジネスを支援	妻→夫のビジネス支援
妻のビジネスを財政的に支援したことはある（金額には触れず)。妻のビジネスを手伝ったことはある	夫は妻のビジネスを支援	夫→妻のビジネス支援
私と妻は子どもの本や他の教育に関することを話し合う。私たちは良い学校を探している。	子どもの教育について妻と話す・学校の選択	子どもの教育
土地を買うとしたら､私の両親と妻と話しあうだろう	土地の購入は妻や両親と話す	大きな買い物
私の妻はもちろん世帯を助けている。女性も経済的貢献をすべきです。妻が経済的貢献をすることで、妻と夫の関係は向上する。	夫は妻が世帯に貢献していると認識 女性も貢献すべき 夫との関係を良好にする	妻の世帯への貢献
幸せなのは、家族が平和に暮らしていること。５年後には、ビジネスを拡大して、生活にプログレスがあってほしい。望ましい生活は、私は健康に暮らしたい。自分と家族みんなが、そして十分な食料が家にある状態	幸せな生活： 家族が平和に暮らす ビジネス拡大 十分に食料がある、健康	自己関心
ビジネスをしていない女性はビジネスをして自立したほうがよい。	経済活動をする女性を肯定的に見る	経済活動をする女性への認識
夫が世帯ニーズを出すべきです。夫が家族の責任だから。He is the master of family	夫が世帯ニーズを担う	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫より多いのはいいことだと思う。そうすれば妻は家族を助けることが出来る	妻の収入が上回って良い 妻が家族を助けられる	妻の収入が夫の収入を上回ること
変化があります。食料を買うことを助けたり、両親を助けています。	妻が経済活動を開始後に変化有、家族を助ける	経済活動を始めてからの妻の変化
もちろん変化があります	夫にも変化有	夫の変化
5年前と比べて､いろいろな improvement があった	5 年前より生活が良くなった	現在の生活状況

夫 11	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子どもの教育や世帯ニーズ、食料について、いつも話しあう		夫妻の日常に話す事：子どもの教育、世帯ニーズ	夫妻の話題
妻と私はどのように食料を買うか、子どもの教育費をどうやって払うか、子どもの本をどうやって払うかについて話し合う。メイズ、米、豆、ミレットをどうやって買うか話し合います。自分がいくら支出しているのか分からない。毎週石鹸や洗剤を買っているので。世帯ニーズに1ヶ月にN20,000使っている。食糧、石鹸、子どもの教育、医療に使う。世帯ニーズとは食料、衣料、飲物、教育、医療、住居		世帯ニーズを妻と話す 食料、教育への割り振り 夫は支出額を把握しない	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻はビジネスから利益を得ている（金額に触れていない）妻は収入で、彼女の両親、子ども、親戚を助けている。妻は収入を得ると子どものために費やしている		夫は妻が収入を得ていると把握 妻の収入用途は世帯のために使われると把握	妻の収入額と用途
私はセレモニーの時に妻の両親・親戚を支援し、または妻が彼らを訪問するときに支援する		夫が妻の両親・親戚支援 セレモニー、訪問時	夫→妻の両親・親戚への支援
自分に充分なお金があるときはいつでも、また私が両親・親戚を訪問するときに支援する		夫が両親・親戚支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻の外出には許可を与えます。でも私に十分にお金がないときは、妻に親戚を訪問するのは私がお金を得るまで待つようにアドバイスします。妻が必要ならどこへでも許可する		妻の外出への許可 夫にお金がない時はダメ 妻が必要な場所はＯＫ	妻の外出
妻にお金を借りることはあります。私がお金がないときです。私は返金します。また妻が無償でくれることもあります。私にお金がなくて、妻からお金を借りようとすると、妻が、時々は返さなくて言いといってくれます。私は妻にお金を借りているが、実際にいくら借りているかは言わない（分からない？）。自分にお金が出れば妻に返金する。また妻の資金が少なくなれば妻にお金を上げている		夫が妻に現金を借りる 夫にお金がない時 夫は後に返金 妻が無償でくれる事も	妻から現金を借りる
妻が私のビジネスを手伝うこともあります。彼女の近所の人を通して宣伝してくれます		妻が夫のビジネス支援：宣伝	妻→夫のビジネス支援
妻のビジネスを経済的に支援することはあります。いくらかは数えていません。時々、私はマーケットに行ったときに、妻のビジネスを友達を通して宣伝します。		夫が妻のビジネス支援：お金、宣伝	夫→妻のビジネス支援
私と妻は、子どもの教育費をどうやって払うか話し合う。私たちはどうやって子どもに良い教育を与えられるか話しあう		子どもの教育を妻と話す：学費の捻出、良い教育	子どもの教育

土地や家畜を買うときは、私の妻と話しあうと思う。	土地や家畜の購入を妻と話す	大きな買い物
私の妻は経済的に世帯に貢献している。何故なら、私が帰宅するといつも、妻は何かをしていて、家族に何か買うために働いている。女性が経済的に貢献するのは良いことだと思う。そうすれば、女性は夫を助けられ、夫も幸せになる	夫は妻が経済的に世帯に貢献と認識：妻はいつも働く 女性の貢献は良いこと 夫を助けることができる	妻の世帯への貢献
幸せなのは、お金を得たとき。望ましい生活は、私の家族と幸せに暮らすこと	幸せな生活：お金を得る 家族と幸せに暮らす	自己関心
ビジネスをしていない女性はビジネスを始めるべき。	女性もビジネスをすべき	経済活動をする女性への認識
夫が家族の面倒を見る責任があるので、夫が世帯に必要な物を買うべきです。	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻が夫より多く収入を得るのは女性にとって良いことではない。	妻の収入が夫を上回るのは良くない	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻がビジネスを始めて、自分のお金で何とかするようになり、私にお金を頼むことが減った	妻が経済活動開始後の変化：夫に頼まず自立	経済活動を始めてからの妻の変化
妻がビジネスを始めて私にも変化がある		夫の変化
5 年前より生活に進歩がある	5 年前より生活が良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 12</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは普段、家庭のこと、子どもの教育や躾について話す</td><td>夫妻の日常の話題：家庭のこと、子どもの事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は食料、石鹸、洗剤、他の家族に必要なものを買っている。私はこれら全てを月に一度買っている。私は世帯ニーズと教育費に毎月N10,000 支出している</td><td>夫が世帯ニーズ毎月購入</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻の両親･親戚をいつでも助ける</td><td>夫が妻の両親・親戚支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私の両親と親戚をいつでも、彼らが私の支援が必要であれば助ける</td><td>夫が自分の両親・親戚支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が家族や友達を訪問したいならば許可する。</td><td>妻の外出を許可する</td><td>妻の外出について</td></tr>
<tr><td colspan="2">私に充分お金がなければ妻から借りる。妻からお金を借りれば、お金を得たときに返金する</td><td>夫が妻に現金を借りる
夫は後で返金する</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは子どもの教育について、どうやって質の良い教育を与えられるか話しあう</td><td>子どもの教育を妻と話し合う</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">もし私が家や土地･家畜を買うなら、買う前に妻と子どもと話しあう</td><td>家・土地・家畜を購入する際は妻・子どもと話す</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は、私の家族や親戚と幸せに暮らし、皆が一緒に暮らすこと</td><td>望ましい生活：
家族と幸せに暮らす</td><td>自己関心</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>夫 13</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは家庭のこと、子どもの教育や躾につい</td><td>夫妻が日常に話す事：家</td><td>夫妻の話題</td></tr>
</table>

て普段話し合う	庭のこと、子どもの教育	
私は食料、洗剤や石鹸など必要なものを毎月買っています	夫が世帯ニーズを毎月購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ
私に機会があるときはいつでも妻の両親･親戚を支援する	夫が妻の両親・親戚を支援	夫→妻の両親・親戚への支援
私に機会があるときはいつでも私の両親･親戚を支援する	夫が夫の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が両親や親戚を訪問する許可を与え、時々は妻に交通費を与える	妻の外出を許可 妻に交通費を渡す事も	妻の外出
妻に毎月、N3,000 から N5,000 くらい借りる。毎月、妻に返金する	夫が妻に現金を毎月借りる、後に返金	妻から現金を借りる
私たちは子ども達に良い学校をどうやって見つけられるか話しあう	子どもの教育を妻と話し合う：学校選択	子どもの教育
土地や家畜を買うときは、私が買う前に妻と子どもと話しあう	土地・家畜購入を妻・子どもと話し合う	大きな買い物
望ましい生活は、自分が健康で、家に充分に食料があるとき	望ましい生活：健康、食料の充足	自己関心

夫 14　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
妻とは普段、私のビジネスについて話す	夫妻で日常に話す事：夫のビジネス	夫妻の話題
私がお金を得たときに必要なものを買っているので、いくらかは分からない	夫が世帯ニーズを購入 お金を得るごとに購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ
私にお金があるときに妻の両親･親戚を支援する	夫が妻の両親・親戚支援	夫→妻の両親・親戚への支援
私にお金があるときに自分の両親･親戚を支援する	夫が夫の両親・親戚支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、私は妻に許可を与えるし、もし私にお金があれば、妻に渡す。	妻に外出を許可する お金を渡す事もある	妻の外出
私がお金が必要なとき、妻に借りる。お金を得たときに返金する	夫が妻に現金を借りる 夫は後で返金	妻から現金を借りる
私たちは子どもの教育について話しあう	子どもの教育を妻と話す	子どもの教育
今の生活に満足している	夫は生活に満足	自己関心

夫 15　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
どうすればよい状態で生活できるか、世帯ニーズをちゃんと供給できるかについて妻と話す	夫妻で普段話す事：生活のこと、世帯ニーズ充足	夫妻の話題
私の収入をどのように使うか、妻と話します。私が全ての食料を買っていて、14 日分に十分なほど買っている。他に、石鹸、洗剤も N500 くらい買っている。私は世帯ニーズに 1 ヶ月 N15,000 を食料、教育、医療に使っている。	夫の収入用途を妻と話し合う 夫が食料を月に 2 回購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ

1ヶ月にN3,000くらい稼いでいる。妻はアダシのメンバーなので、収入を家族のために使っている。N500は家族のために使っている。	夫は妻の収入を把握 妻は収入を世帯のために使っている	妻の収入額と用途
自分に十分にお金がなく妻にあげられないとき妻と意見が分かれます。妻と話し合います。	妻と意見が異なる際の対応：妻と話し合う 対立の内容：夫が妻にお金をあげれない	賛同できない時の対処
私は服やその他、妻の両親・親戚が必要なものを支援している。食料や衣類をあげます。	夫が妻の両親・親戚支援：食料・衣類	夫→妻の両親・親戚への支援
私は食料や石鹸、洗剤で自分の両親・親戚を支援している。ラマダンやサッラーの時にも支援	夫が自分の両親・親戚支援：食料、日用品	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚にギフトを上げます。	妻が夫の親戚支援 ギフトを上げる	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が親戚を訪問したければ、許可します。何故なら、それは良いことなので。親せきを訪問することに関しては妻に許可を与えている	妻の外出を許可：親戚訪問を許可	妻の外出
妻に資金を借りることはあります。私にお金がないときです。返金します。妻に無償でもらうこともあります。1ヶ月に1回、N200-N500くらい借りている。私がお金を得たときに妻に返金している	夫が妻に現金を借りる 夫は後で返金 妻が無償で渡す事も 1カ月に1回程度借りる	妻から現金を借りる
妻が私のビジネスを手伝うこともあり、アドバイスをくれたり幸運を祈ってくれます	妻が夫のビジネス支援：手伝い、アドバイス	妻→夫のビジネス支援
妻のビジネスを資金で支援したことはあります。また客探しを手伝うこともあります	夫が妻のビジネス支援：お金、客探し	夫→妻のビジネス支援
子ども達が学校での成績・様子がどうか話します。私たちは子どもの本をチェックして、彼らの理解度を見ている。それから学校がよいかどうかも見ている。	子どもの教育を妻と話す：成績、理解度、学校の良しあし	子どもの教育
土地や家畜を買うときには、私の両親、妻、友達に相談すると思う。	土地・家屋の購入は両親・妻・友達に相談	大きな買い物
妻はもちろん世帯に経済的に貢献している。女性が世帯に経済的貢献をするのは良いこと。何故なら、夫がいつも十分にお金があるとは限らないので。	夫は妻が世帯に経済貢献と認識 女性の経済貢献は良い 夫のお金に頼れない場合	妻の世帯への貢献
幸せなのは、みんなが食べているときに幸せだと思う。5年後には、自分のビジネスを向上させ、自分の生活がよりよくなって欲しい。家族と幸せに健康で暮らすこと	幸せな生活： 食料がある ビジネスの拡大 家族と健康に暮らす	自己関心
ビジネスをしていない女性には、私はビジネスをするようにアドバイスする。なぜなら、それは彼女自身と子どもを助け、また夫を助けることにもなるから。	経済活動のない女性はすべき：女性自身、子ども、夫を助けられる	経済活動をする女性への認識
それは夫の責任なので、世帯ニーズは夫が担う	世帯ニーズは夫が担うべ	世帯ニーズの担い

べきです。	き	手
妻の収入が多くても問題ない。何故ならそれは神からの贈り物だから	妻の収入が夫を上回っても良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻はビジネスを始めて、以前より幸せになり、残りの家族も同様に幸せになった	妻が経済活動開始後の変化：妻も家族も幸せ	経済活動を始めてからの妻の変化
妻がビジネスを開始して家族に変化があり、私たちの生活スタイルが変わった	家族も生活スタイルに変化	夫・家族の変化
5 年前と比べて多くの変化があった	5 年前より変化がある	現在の生活状況

夫 16	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちは子どもの躾や教育について普段から話す		夫妻が日常に話す事：子どもの教育	夫妻の話題
食料や日用品に N7,000 くらい使う。私の収入の使い道は妻と話し合う。私は世帯ニーズに N15,000 くらい使っている。世帯ニーズとは食料、衣料、医療、教育		夫の収入用途を妻と話す 世帯ニーズは夫が購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻は 1 ヶ月に N5,000 くらい得ている。世帯ニーズや子どもの教育に使っている。N4,000 くらい世帯のために使っている。		夫は妻の収入を把握 妻は収入を世帯のために使う	妻の収入額と用途
特に妻と同意できないときはない		妻といつも同意	賛同できない時の対処
私にお金があるときに支援する。私が妻の親戚を支援することもある。お金をあげている		夫が妻の親戚支援 お金をあげる	夫→妻の親戚への支援
私にお金があるときに自分の親戚を支援する		夫が自分の親戚支援	夫→夫の親戚への支援
妻が私の親戚を支援することもある。妻はお金をあげている		妻が夫の親戚支援 お金を上げる	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したければ、妻に許可を与えるが、妻は長く滞在するべきではない		妻の外出を許可する 長い滞在はダメ	妻の外出
私は月末に妻からお金を借りるが返金している。妻が私に無償でお金をくれることはないが、妻は世帯のためにお金を使う。月に 1 回、N1,000、N500 くらい借りる。		夫は妻から現金を借りる 月末にお金が足りない 夫は後で返金 妻は無償でくれない	妻から現金を借りる
妻が私のビジネスを手伝うこともある。		妻が夫のビジネス支援	妻→夫のビジネス支援
妻のビジネスを資金で支援したことはあり、N15,000 から N20,000 くらいあげた。またお客を紹介した。		夫が妻のビジネス支援：お金、客探し	夫→妻のビジネス支援
どうやって子どもに質の良い教育を与えられるか妻と話し合う。		子どもの教育を妻と話し合う	子どもの教育
土地や家畜を買うとしたら、私の両親と妻と話し合うだろう。		土地・家畜の購入は両親・妻と話しあう	大きな買い物
私の妻はもちろん経済的に貢献している。女性		夫は妻が世帯に経済的に	妻の世帯への貢献

も経済的に貢献すべきで、そうすれば世帯ニーズが満たされる。	貢献と認識 女性も貢献すべき	
幸せなのは、家族と一緒にいるとき。5年後には、家族がよりよい生活を送っていてほしい。妻と子どもと一緒に生活することが望みです。	幸せな生活： 家族と一緒にいる よりよい生活を送る	自己関心
ビジネスをしていない女性はスキルを学びに行くべき。	経済活動のない女性はすべき、スキルを学ぶべき	経済活動をする女性への認識
妻がビジネスを始めて、私を助けるようになった	妻の経済活動開始後の変化：夫を助ける	経済活動を始めてからの妻の変化
5年前より暮らしがよくなった	5年前より暮らしが良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫17</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは家族の必要や健康、世帯ニーズについて、よく話しあう</td><td>夫妻の日常の話題：世帯ニーズ、健康</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は20ボールのお米、マギー、塩、油、それから石鹸や20ボールの洗剤を買っている。1ヶ月にN20,000費やす</td><td>夫が世帯ニーズを購入
毎月購入</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻の両親･親戚が必要なものを支援している</td><td>夫は妻の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は自分の両親･親戚を食料やお金で支援している</td><td>夫は自分の両親・親戚を支援：食料、お金</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいと言えば、妻と話し合う</td><td>妻が外出許可を頼む
妻と話し合う</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻からお金を借りない</td><td>夫は妻にお金を頼まない</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">私たちはどの学校が子どもにとってよいか話しあう</td><td>子どもの教育を妻と話す</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">土地を買うとしたら、私の両親、子ども、妻と話し合う。</td><td>土地の購入は妻、両親、子どもと話す</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">家族と健康で幸せに暮らすことに関心があります。</td><td>関心事：家族の幸せ</td><td>自己関心</td></tr>
<tr><td colspan="2">ほとんどの女性のビジネスは問題ない。スキルを学ぶとか洋裁がよい。子どもが外で物売りをするのは望まないので、家に人が来て買うようなビジネスが望ましい。そのため洋裁や編物のほうがよい。ビジネスのない女性は問題を抱えると思う。子どもが多ければ、子どもにお金が必要。</td><td>女性のビジネスの種類：
子どもの販売はダメ
家に人が来るビジネス
洋裁・編み物が良い
女性は経済活動すべき
子どもにお金が必要</td><td>経済活動をする女性への認識</td></tr>
<tr><td colspan="2">夫が1人で世帯ニーズを担うことは不可能です。妻もビジネスをしているので助けるべき。</td><td>夫が世帯ニーズを1人で担うべきでない
妻も助けるべき</td><td>世帯ニーズの担い手</td></tr>
<tr><td colspan="2">もし夫を好きならば、妻は夫がいくらもらっているか調べないで自分のお金で何とかする。妻</td><td>妻の収入が夫を上回るのは良くない：妻が夫を敬</td><td>妻の収入が夫の収入を上回ること</td></tr>
</table>

のほうが収入があると問題があって、平和になるよりも不理解につながる。妻は「私はあなたを必要としない」と言いだし、離婚を求めるようになる。しかし、もし神が自分より妻にお金をもたらすなら仕方がない	わなくなる、離婚を求めるようになる	

<table>
<tr><th>夫 18</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">ほとんどの場合、私たちは食料や子どものニーズ、服について話し合う。</td><td>夫妻の日常の話題：食料、子どもニーズ、服</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">その月に私がいくらもっているかによる。しかし N20,000 以下ということはない。だがその月次第である。世帯ニーズとは食料、服、子どもの教育、家の修繕、家具、交通費</td><td>夫が世帯ニーズを購入
世帯ニーズ支出額は月により違う</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻が私の意見を理解しているかどうか見ようとします。そうすれば私たちは一つの意見を持つことが出来ます。時には私は妻の意見に同意します。時々、私が家族ニーズのための十分なお金がなくて問題を抱えることがあります。でも、生活そのものが問題です。でも私はそんなに問題はないし、私たちは自分たちの問題を解決できます。誰か他の人に問題を知らせることなく、問題を解決する方法をとる。</td><td>夫は妻の理解を観察
夫が妻に同意することも
夫にお金が足りなく問題になることも
夫は他人に問題を知らせる事を良く思わない</td><td>賛同できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">もし親戚が助けを求めてきたら、私は彼らを助けます。私の両親や親戚に対して助けます。例えば子どもの教育や服、交通費、健康のことです</td><td>夫は妻・自分の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">月末になると妻からお金を借ります。その後返金します。しかし、多くの場合は理由があります。時々、妻は私にお金をギフトとしてくれます。ですが状況によります。食料が足らないとき、子どもの学費や何かが起こったときに妻はお金があれば助けてくれます</td><td>夫は月末に妻からお金を借りる：後に返済
妻は無償でくれる事も
食料・子どもの費用は妻が助けてくれる</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">時々妻は女性の材料や他のニーズを売ることで私のビジネスを助けてくれます</td><td>妻が夫のビジネス支援</td><td>妻→夫のビジネス支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは子どもの教育について、どうすれば教育が向上するか、どう育てるか、質のよい教育を与えるにはどうすべきか話します</td><td>子どもの教育を妻と話し合う：良い教育を求める</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">もちろん私は妻にビジネスをして世帯に貢献して欲しい。そのために妻が女性センターでスキルを学ぶことを奨励した。妻はできるだけのことはしている。でも経済的に貢献することは妻の責任ではない。だけど妻は経済的に貢献しようと意図しているので、私はありがたく思っ</td><td>夫は妻に経済活動をしてほしい
妻は経済貢献しようとする
夫は妻の経済貢献は義務でないと認識</td><td>妻の世帯への貢献</td></tr>
</table>

ている。だが妻の義務ではない。時々、妻は十分お金があれば、私を助けている。女性が経済的に貢献することは必要。一人の人が全てのことを出来ないから。全ての責任を一人で負えないから。妻が経済貢献をすることは夫婦間によりお互いの理解をもたらすだろう。	妻の経済貢献は必要 夫妻の関係にプラス	
幸せなのは、十分な食料があり、他のものも家に十分にあって、家族が健康で、みんながちゃんと食べ、自分に十分にお金があること。5年後には全ての家族ニーズが満たされていて、子ども達が質のよい教育と健康を得て交通費がある状態になりたいです。	幸せな生活： 食糧が十分にある 自分にお金がある 子どもの良い教育 健康	自己関心
ビジネスをしている女性は収入源がある。時にはビジネスをする女性達は夫よりも多く得ている。もし資金が十分にあるならば。ビジネスをしていない女性は自分の必要なもの全てを得ていないだろう。夫や親戚からの支援だけでは女性がニーズの全ては得られない。ビジネスをしていなければ時々退屈するだろう。	経済活動をする女性を良いと捉える 経済活動のある女性は夫より多く得る	経済活動をする女性への認識
それは夫の責任です。結婚に際し、夫は全ての妻のニーズを供給すると約束しています。ただ、女性は助けています。でも現実には夫の責任です。そうすれば家族に幸せをもたらします	世帯ニーズの担い手は夫	世帯ニーズの担い手
時々、妻が多く稼ぐときは不理解が生じるだろう。だが、妻と夫の間に理解があるなら、家族はハッピーだし生活を楽しめるだろう	妻より夫が稼ぐことは問題もある：夫妻間の関係が良好なら大丈夫	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻はビジネスを始められない。資金がないので。毎日の活動にお金が必要なので、少しの資金があっても十分ではないから	妻が経済活動開始できない理由：資金不足 お金が必要で貯まらない	妻が経済活動を開始しない理由
実際、生活は今ではよくなった。5年前より今のほうが十分に収入がある	5年前より暮らしが良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 19</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは子ども達のことを話す。どうすれば子ども達が幸せに生活できるかについて話す</td><td>夫妻の日常の話す内容：子どもの事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは収入をどのように割り振るか、毎日の活動に対してどう計画を立てるか話す。食料については、月末まで持たせるために、何を買えばよいか話し合います。私は1ヶ月にN20,000くらい使っている。学費、食料、健康、その他、家族の基本的なニーズに使う。世帯ニーズは健康、教育、食料など</td><td>夫の収入用途を話し合う
食料を月末まで充足</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は月末に、妻が必要とするものを供与しま</td><td>夫は毎月妻のニーズ充足</td><td>賛同できない時の</td></tr>
</table>

す。または月の初めです。または私が予算を決める前です。2人の意見が異なったり、妻が理解できない要望を持ってきたりしたら、まずは妻の両親に知らせます。そして妻の両親から妻に話してもらいます。	夫に解決できない問題への対処：妻の両親に知らせる	対処
もし私に十分にお金があれば、または何かセレモニーが妻の親戚の家であるときに支援する。私は妻の親戚を助けます。結婚式などのときに必要があれば助けます。	夫が妻の親戚支援 セレモニーの際に支援	夫→妻の両親・親戚への支援
私は月末に自分の両親・親戚を支援する	夫が自分の両親・親戚支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻も何かセレモニーの時に私の親戚を支援します	妻が夫の親戚支援	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、妻に許可を与えるが、毎回ではない。	妻に外出を許可する 毎回は許可しない	妻の外出
いいえ、私は妻からお金を借りません。でも私が不在のときに、何か問題があれば妻は自分のお金を使っていて、私は家に帰ってから返金しています。妻が私にギフトでお金をくれることはあります。妻が親戚を訪問してお金をもらったときに私にその中からいくらかくれます。	夫は妻からお金を借りない 夫不在時に妻が妻のお金で世帯に使う：夫は後で返金、妻がお金を無償でくれることもある	妻から現金を借りる
どうすれば子ども達が質のよい教育を得られるか、どんな教育が子どもの利益か話し合う。	子どもの教育を妻と話す：良い教育は何か	子どもの教育
土地や家畜を買うときは、私の両親と妻と話し合う	土地・家畜の購入は妻と両親と話し合う	大きな買い物
もちろん私は妻にビジネスをして欲しい。もし手段があるならば。どれくらい世帯に貢献できるかは妻がどれくらいお金を持っているかによる。私の妻は世帯をよく助けている。女性は家族の生活がよくなるように助けるべき。	夫は妻に経済活動を望む 夫は妻に世帯に貢献してほしい 女性も助けるべき	妻の世帯への貢献
幸せなのは、妻と一緒にリラックスしているとき。お金が十分にあるとき。望ましい生活は、私にお金があって家族が健康であること	幸せな生活： 妻と暮らす、お金がある 家族の健康	自己関心
女性がビジネスをすることはよい。ビジネスをしていない女性をかわいそうに思う	女性の経済活動は良い	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズを担うのは夫の責任です。でももし妻が助けたいというのであれば、私はありがたいと思います。何の問題もありません	世帯ニーズは夫の責任 妻が夫を助けるのは歓迎	世帯ニーズの担い手
私の意見としては、妻の収入が夫を上回ることは好ましくない	妻の収入が夫を上回るのは良くない	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前より生活は良くなった	5年前より良い暮らし	現在の生活状況

夫 20　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私は妻に毎日の出来事を全て話す	夫妻の日常の話：毎日の出来事	夫妻の話題
私の収入の優先用途は一番が子どもの教育、2 番が食料、3 番が健康。1 ヶ月に N18,000 を支出	夫収入の用途：子どもの学費、食料、健康	夫の収入の用途・世帯ニーズ
サラリーをもらったときにいつでも妻の両親・親戚を支援する	夫が妻の両親・親戚を支援	夫→妻の両親・親戚への支援
自分の両親・親戚を月末に支援する	夫が自分の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、私は妻が必要なサポートを全て与える	妻に外出のサポートを上げる	妻の外出について
妻からお金を借りない	夫は妻からお金を借りない	妻から現金を借りる
土地や家畜を購入するときは私の両親に相談するだろう	土地・家畜の購入は両親に相談	大きな買い物
望ましい生活は、みなが平和に暮らすことを見ること	望ましい生活：皆が平和に暮らす	自己関心

夫 21 は該当個所への回答なし

夫 22　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
妻と話し合います。妻は食料や子どもの教育についてアドバイスをくれます。食料についてはどんなものを買うか話し合います。私は自分の収入の全てを食料、健康、学費に費やしている。1 ヶ月に N10,000 を支出する。	夫は妻と話し合う：食料、子どもの教育 妻は夫にアドバイス	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻が、あれが必要、これが必要とリクエストしてくるが、私は相手にしません。月末にサラリーをもらうまで、妻の要求には同意しません	夫は妻の要求に同意しない：お金がない時	賛同できない時の対処
もし私にお金があれば妻の両親・親戚を支援します。私はお金や薬を上げます	夫が妻の両親・親戚を支援：お金、薬	夫→妻の両親・親戚への支援
私は月末に私の両親・親戚を支援します	夫が自分の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の両親・親戚にお金を上げます	妻が夫の両親・親戚支援：お金	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が親戚を訪問したいと言えば、妻にお金を上げ、何かギフトとしてあげるように言う。セレモニーに出席したいと言えば、妻に許可します	妻の外出を許可する 親戚訪問にお金を上げる	妻の外出
月末に借ります。月末に妻にお金があればもらいます。少なくとも N1,500 を借ります。月末に妻に返金します。	夫は妻から現金を借りる 夫は後で返済	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスを、お金で助けてくれます	妻が夫のビジネス支援：お金で助ける	妻→夫のビジネス支援

私たちは子どもをきちんと教育したい。そうすれば子ども達は自立できよい生活を送れるので。私たちはよい教育について話し合います	子どもの教育を妻と話し合う：良い教育を与える方法	子どもの教育
土地や家畜を買うときは私の両親と妻に相談すると思う。	土地・家畜の購入を両親・妻に相談	大きな買い物
私は妻に助けてもらいたい。いくらでも可能な額で構わない。私の妻は経済的に貢献している。女性が貢献するのは良いことなので、必要がある	夫は妻に経済的に助けて欲しい、夫は妻が経済貢献していると認識 女性の経済貢献は良い	妻の世帯への貢献
幸せなのは、自分と家族が健康であるとき。5年後には、ビジネスによって生活がプログレスしていてほしい。望ましい生活は、私にお金があって、家族が健康であること	幸せな生活：健康、生活の向上、お金があること	自己関心
女性がビジネスをするのは良いこと。そうすればニーズを解決できる。女性はスキルを学びビジネスをしたほうがいい	女性は経済活動でニーズを充足すべき	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズの供給は夫と妻の両方ですべきです	世帯ニーズは夫妻で担うべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が多くても問題ないが、妻は世帯ニーズを助けるべきである。	妻の収入が夫を上回っても良い：妻は世帯ニーズを助けるべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前は自分はビジネスがなく、今はある	夫は5年前は経済活動をしていなかった	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 23</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">いつも私たちの生活をどう向上させるか、どう計画をするか、宗教に従って考え妻と話し合う</td><td>夫妻で日常に話す事：
生活の向上</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは私の収入をどのように使うか話し合います。食料・日用品は私たちのニーズに基づいて私が買う。私がどのくらい得るかによる。収入は家族の毎日必要なものに費やしている。優先用途は1番が食料、2番が子どもの教育、3番が健康。1ヶ月の世帯ニーズ支出はN45,000。収入との差を埋めるのに友達に支援を頼む。友人は自分の状況を知っているので返金の必要がない。</td><td>夫の収入用途を妻と話し合う：世帯ニーズの割り振りを話し合う
夫が世帯ニーズ購入
夫は収入の不足分を友達にもらう</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が自分勝手な意見を持ってきたときに同意しない。私は彼女にアドバイスする。忍耐をもって、話し、しばらく後になって解決する良い方法を見つける</td><td>妻に同意しないこと：自分勝手な意見
対処の方法：忍耐、後で話す、アドバイス</td><td>賛同できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">ニーズがあるときに、直接支援する。私が妻の両親・親戚を支援することもあります。いろんな方法で、彼らが望む方法で支援します</td><td>夫が妻の両親・親戚支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
</table>

ニーズがあるときに、自分の両親・親戚を直接支援する	夫が自分の両親・親戚支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が私の親戚を支援することもあります。いろんな方法で、彼らが望む方法で支援します	妻が夫の親戚を支援	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、もし訪問が重要なら許可します。その訪問がどれくらい重要かチェックする	妻に外出を許可する 外出が重要な場合に許可する	妻の外出
もし必要があれば妻から借ります。返金します。時々は、妻はギフトでくれます。借りることはあるが、どのくらい借りているか推計できない。お金が入れば直に返金する	夫が妻から現金を借りる 夫は後に返金 妻が無償でくれる事も	妻から現金を借りる
どうやってよい教育を得るのか話し合います。私はどの学校がよいか妻と話し合います。	子どもの教育を妻と話す 学校の選択	子どもの教育
もちろん妻にビジネスをして欲しい。いくらでも妻が供与できるだけでいい。妻は貢献しようととても努力している。女性が世帯に貢献することはよい。なぜなら人間は誰でも助けを必要とするから	夫は妻の経済貢献を望む 女性が経済貢献するのは良いこと	妻の世帯への貢献
幸せなのは、家族が幸せなこと。5 年後には、生活のいろんなことができるようでありたい。望ましい生活は、私が社会の人々に利益になるような何かをすると、とてもハッピーに感じる	幸せな生活： 家族が幸せ 社会へ貢献できる	自己関心
ビジネスをする女性はいいと思う。ビジネスをしていない女性は教育される必要がある。	夫は女性の経済活動を肯定：女性は教育が必要	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズは夫が 1 人で担うのでなく、妻も助けるべき	世帯ニーズは夫 1 人で担うべきでない：妻も支援	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫を上回っても何の問題もない	妻の収入が夫を上回って良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
資金がないため、妻は経済活動を始められない	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない	妻が経済活動を開始しない理由
5 年前より今の方が暮らしが良い	5 年前より暮らしが良い	現在の生活状況

夫 24	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
もし私にお金が十分にあれば、どのようにお金を使うか妻と話し合う。子どもの教育や他の必要について。食料については、どんな食料を買うのか、どんなニーズがあるのか話し合います。1 ヶ月に N15,000 を食費に使っている。またスープの材料としてトマト、オニオン、マギー、などを 1 ヶ月に N12,000 ほど使っている。世帯ニーズは食料、服、薬、学費		夫の収入用途を妻と話す：教育、食料、他ニーズへの割り振り 夫妻はニーズを話し合う 夫が毎月の世帯ニーズを購入	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻が何か提案したり私と異なる考えを持ってきたりしたら、私はその意見が自分にとって良		夫は妻の意見を吟味 妻に同意することもある	賛同できない時の対処

いかどうか考えます。もし良い意見であれば同意するし、良くなければ同意しません。解決できないような問題はありません。	妻の意見が良くない場合は同意しない 2 人で解決できる	
私は私の支援が必要なときには妻の両親・親戚を助けている。	夫が妻の両親・親戚支援	夫→妻の両親・親戚への支援
妻も必要があれば助けている	妻が夫の両親・親戚支援	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、交通費をあげて、妻に許可します	夫は妻の外出を許可 妻に交通費をあげる	妻の外出
妻にお金を借りる事はありません	夫は妻にお金を借りない	妻から現金を借りる
妻は私の仕事のユニフォームを洗ってくれる	妻が夫の仕事を支援：ユニフォームを洗う	妻→夫のビジネス支援
どうすれば子ども達が良い教育を得られるのか妻と話し合います。	子どもの教育を妻と話す	子どもの教育
私は妻にビジネスをして欲しい。そうすれば妻は妻の収入で自分の問題を解決できる。妻はお金があるときには助けている。女性が経済貢献をするのはいい事で、夫にお金がなくても妻は助けることが出来るので。	夫は妻の経済活動を望む 妻が妻の収入で自分のニーズを充足できる 女性の経済貢献は良い：夫にお金がない時に支援	妻の世帯への貢献
幸せなのは、お金を沢山得たとき、そして平和な状態でいられるとき。5 年後には、自分の生活が良くなってほしい。	幸せな生活： お金を得る事 平和でいる事	自己関心
ビジネスをする女性は夫を助けていると思う。ビジネスをしていたほうがいい。自立できる	経済活動をする女性を肯定：夫を助けている	経済活動をする女性への認識
夫が家長なので夫が 1 人で世帯ニーズを供給すべきです。夫にお金がない場合は別です	世帯ニーズは夫が担うべき：夫にお金がない時は例外	世帯ニーズの担い手
もし妻が夫を敬わなくなることがなければ、妻の収入が夫より上回っても問題ない	妻の収入が上回って良い 妻が夫を敬う限りは	妻の収入が夫の収入を上回ること
5 年前より今の方が暮らしがいい	5 年前より暮らしが良い	現在の生活状況

夫 25	夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちはどうやって家族のニーズを供給するか、どうやって十分な食料を買うか、私たちの健康について話しあう。		夫妻が日常に話す事：世帯ニーズの充足、健康	夫妻の話題
食料については話し合います。食料の質について話します。どれが長持ちするか、そうすれば食料が足りなくなることが防げるので。私と妻はどう食料や必要なものを買うか話しあう。私は月に N10,000 くらい支出している		夫妻で食料について話す 食料の不足を防ぐように	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻の頼みを聞き入れられないのは、妻が経済的な問題を持ってきて、私にお金がないとき。解		夫が妻に同意しないこと：夫にお金がない時の	賛同できない時の対処

決できないときは、私の兄弟や親友にアドバイスを求めます。	要求 兄弟・親友に相談する	
私は妻の両親も支援する。彼らが必要なもので支援し、時々は毎月支援する。もし必要があれば支援します。	夫が妻の親戚支援	夫→妻の両親への支援
私は自分の両親･親戚が必要なもので彼らを支援する。私に十分にお金があって、時々は毎月、彼らを支援する。	夫が自分の両親・親戚支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、何の問題もなければ妻に許可する。もし重要な場所、例えば妻が両親の家に行くのであれば妻に許可する。だが、妻が重要でない所に行くことは許可しない	夫は妻の外出を許可する 基準は重要かどうか 重要でなければ許可しない	妻の外出
はい。もし必要があれば、お金を借ります。金額は、妻がいくら与えられるかによります。私は、金額は言わないで、妻にお金が必要だといいます。私は返金します。もし妻にお金があり、必要があれば妻は無償でお金をくれます。いつもではない。時々、N500くらい。妻に返金するし、時々は彼女にギフトとしてお金をあげる	夫は妻に現金を借りる 妻は無償でくれる事も 夫は後に返金 夫は時々妻にお金をあげる	妻から現金を借りる
妻が私の仕事を助ける事もある。経済的に助けてたり、祈ってくれます	妻が夫の仕事支援： お金、お祈り	妻→夫のビジネス支援
子どもの教育について、どうすればよい教育が得られるか話し合う。私は子どもを送る良い学校をいつも探している。そうすれば子ども達は質の良い教育を得られる	子どもの教育を妻と話す 学校の選択	子どもの教育
土地や家畜を買う場合は、私の両親と妻、兄弟や友達と話しあう。	土地・家畜の購入を両親、妻、兄弟、友達に相談	大きな買い物
私は妻にビジネスをして欲しい。そうすれば家族を助けられるので。1日にN100以上くらい助けてくれればいい。妻は世帯に貢献している。女性が世帯に経済的に貢献することは良い。そうすれば、世帯ニーズの問題を減らすことが出来る	夫は妻の経済活動を望む 夫は妻に経済的に助けて欲しい 夫は妻が世帯に貢献と認識 女性の経済活動を肯定	妻の世帯への貢献
幸せなのは、自分にお金があり、何の問題もないとき。5年後には、自分の生活が良くなっていてプログレスがあってほしい。望ましい生活は、幸せに健康で生活すること。世帯ニーズが供給されていること。私は子ども達が良く教育を受け、健康であって欲しいと思う	幸せな生活：お金があること、生活が良くなる、健康、世帯ニーズの充足、子どもの教育・健康の確保	自己関心
家族や親戚を助けられるので女性がビジネスをすることは好ましい。女性が家にいて何もせずビジネスをしないのはよくない	女性の経済活動は良い 女性が家族を助けられる	経済活動をする女性への認識
夫が家長ですから夫が一人で世帯ニーズを担うべきです。	世帯ニーズは夫が担うべき：夫が家長	世帯ニーズの担い手

夫と妻の間に理解があれば、妻の収入が多くなっても何の問題もない。妻が夫を敬わなくなることがなければ問題ない	妻の収入が上回っても良い：妻が夫を敬うこと	妻の収入が夫の収入を上回ること
資金がないため妻は経済活動を始められない	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない	妻が経済活動を開始しない理由
5 年前より今の方が暮らしが良い	5 年前より暮らしが良い	現在の生活状況

夫 26　夫の回答	定性的コーディング	コード集約
私たちの生活をどう計画して管理していくか普段妻と話しあっている	夫妻の日常の話し：自分達の生活	夫妻の話題
妻と収入の用途について話し合います。生活に関することは話し合わなければいけないので。食料については、どうやってやり繰りするか話します。1 ヶ月に N20,000 くらいを世帯ニーズに使っています。食料、服、健康、子どものニーズ、学費です。世帯のニーズとは、家族が良い状況であり、毎日をみなが楽しみ、何でも供給されていることです	夫の収入用途を妻と話す 生活の事を話し合うべき 食料や他の世帯ニーズのやり繰り	夫の収入の用途・世帯ニーズ
妻が意見を言って、それが良いものでなければ、同意しません。そのような時は妻と話しても解決にならないので、話し合いません。私がよくない状況のときは、妻と話し合いません。	妻の意見が悪いと反対 夫の状況が悪いときは妻と話し合わない	賛同できない時の対処
神が機会をくれればいつでも。私は妻の親戚に食料や困ったときのアドバイスをあげている。	夫が妻の親戚を支援 食料、アドバイス	夫→妻の親戚への支援
神が機会をくれればいつでも両親・親戚を支援	夫が自分の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚を助けているが、それは妻しだいで、妻が何をしたいかによる	妻が夫の親戚支援	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、妻に交通費を上げて、気をつけるように言います。妻に、何かお土産として持っていくものがあるか聞く。なければ、妻にお金を渡し、何か買うようにいい、許可する。	妻に外出を許可する 妻に交通費をあげる 妻にギフト代をあげる	妻の外出
妻からお金を借りることはありますが、返金します。自分にお金がないときには妻は無償でくれます。はい。いつでも必要なときには借ります。すぐに返金する。	夫が妻から現金を借りる 夫は後で返金 妻が無償でくれる事も	妻から現金を借りる
妻はいつも助けてくれる。お金をくれたので、私はそのお金でビジネスの材料を買った	妻が夫のビジネス支援：お金をくれた	妻→夫のビジネス支援
子どもの教育について、いつも話しています。どうすれば他の人とよいコミュニケーション・関係作りが出来るか、このために教育を受けなければいけないと思います。私は子ども達	子どもの教育を妻と話す：子どもの社会性、学校選択	子どもの教育

が政府の学校に行ってほしい		
土地や家畜を買うことがあれば、妻と話し合うだろう	土地・家畜の購入は妻と話す	大きな買い物
私は妻にビジネスをして世帯に貢献して欲しい。N500 くらい貢献してくれればいい。私の妻は世帯に貢献している。トライしている。経済的に出なくとも、そんな助けになっていないものの頑張っている。女性が世帯に貢献するのは良いことで、そうすれば夫が負担から開放される。婚姻関係をよく保ち、平和に暮らすために、女性が助けたほうがいい	夫は妻の経済活動を望む 妻の世帯への貢献を望む 妻は少し貢献 女性の経済貢献を肯定 夫の負担を減らし夫妻関係を良好にする	妻の世帯への貢献
幸せなのは、家に戻ったときに家族がハッピーで、健康であること。みなが大丈夫であるのを見ること。5 年後には、ビジネスによって生活がプログレスしていてほしい。望ましい生活は、健康で平和に家族と過ごすこと	幸せな生活：家族が幸せ、健康 ビジネス拡大	自己関心
女性がビジネスをすることで、女性自身の利益になり、女性が自立できる。ビジネスをしていない女性にはアドバイスしたい。スキルを学び、進歩するようにアドバイスしたい。	女性が経済活動に従事することは良い	経済活動をする女性への認識
夫が一人でニーズを担う必要はなく、妻も助けるべきです。	世帯ニーズは夫 1 人ではなく、妻も助けるべき	世帯ニーズの担い手
夫にとっては妻の収入が多くても問題ない。ケンカがなくハッピーに暮らせるのであれば良い。妻にお金があれば子どもを助けられる	妻の収入が上回っても良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
妻は WDC に通ってスキルを得たが、ビジネスを開始する資金がない。機材も材料も買えないのでビジネスを始められない	妻が経済活動を開始しない理由：資金がない	妻が経済活動を開始しない理由
5 年前に比べれば今の生活は大丈夫	5 年前より暮らしは良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 27</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私は世帯に関することや、どうやって家を所有しようかなどを妻といつも話している</td><td>夫妻の日常の話し：家族のこと、家の所有</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻に、何が必要かを聞きます。そして妻にお金を渡して、その必要なものを買うように言います。食料については、どのように何を買うか話します。世帯ニーズは食料、飲物、服で、1 ヶ月に N16,000 かかる</td><td>夫は妻にニーズを聞く
夫は妻にニーズの購入代金を渡す</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が沢山のお金を頼んできたら、同意しません。食料や子どもの学費など。夫婦で解決できない問題は、ありません。</td><td>妻に同意しない：妻が多くのお金を欲すること</td><td>賛同できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">彼らのニーズによる。また何かセレモニーがあれば妻の両親・親戚を支援する</td><td>夫が妻の両親・親戚支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
</table>

毎月月末になると、私は両親・親戚を訪ね、自分に出来ることを支援する	夫が自分の両親・親戚支援：月末に訪問	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の両親･親戚に対して何か問題があれば支援します。	妻が夫の両親・親戚支援	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいと言えば、妻に行っても良いといいます。私はその外出がどれだけ重要かチェックする	妻の外出を許可する 外出の重要度を夫が決める・チェック	妻の外出
妻からお金を借りることはあり、月末に返金します。また私に問題があるときに妻から無償でお金をもらったこともあります。1ヶ月に3回くらい借りる。月末に給料をもらって返金する	夫が妻から現金を借りる 夫は月末に返金 妻が無償でくれる事も	妻から現金を借りる
妻と一緒に、子どもの学校が子ども達にとっていいかどうか話します。私は子ども達が学校の習ったことを理解しているか、もし理解できていなければ対策をとる。	子どもの教育を妻と話す 学校の選択・授業の理解具合	子どもの教育
土地や家屋を買うことについて、私の両親と親戚と話す	土地・家屋の購入を両親・親戚に相談	大きな買い物
妻にもビジネスをして欲しい。N100で十分。私の妻は家庭に貢献している。女性が家族を経済的に助けるのはいいことです。例えば子どもの学校での昼食に必要です。	夫は妻の経済活動を望む 夫は妻の経済的貢献を望む、女性の経済貢献は良いこと	妻の世帯への貢献
幸せなのは、 多くのお金を得たとき。5年後には、5年後には自分の生活がプログレスしていてほしい。望ましい生活は、イスラームの暮らしを家族とすること	幸せな生活： 多くのお金を得る 生活の向上	自己関心
ビジネスをしている女性は両親、夫、子ども達を助けることができます。ビジネスをしていない女性はビジネスをしたほうが良いと思う。	経済活動をする女性を肯定：家族を助けられる	経済活動をする女性への認識
世帯ニーズの充足は、結婚の役割として夫がすべきこと。夫に何か問題があるならば別である	世帯ニーズは夫が担うべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が上回ると、夫と妻の間に尊敬しない気持ちをもたらすだろう。もし女性がよく理解できないなら。	妻の収入が夫を上回るのは良くない 妻が夫を敬わなくなる	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前より今のほうがプログレスがあります	5年前より暮らしが良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫28</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは毎日の活動をどう解決するか話す</td><td>夫妻の日常の話：毎日の活動</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻に必要なものを聞きます。どんなニーズがあるのか、必要なもののリストを作り、そしてお金がどれだけあるかを見て、優先的なものを買います。貯金をする必要もあるし、家のことや服も必要です。世帯のニーズのために自分の収</td><td>夫は妻にニーズを聞く
夫の収入用途を妻と話す：割り振りを話す</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
</table>

入は1ヶ月にN10,000からN15,000くらい費やしている。世帯のニーズとは、食料、服、健康、教育である。		
妻が必要ない外出を要求したり、頻繁に親戚を訪問したいと言い出したりすれば妻に同意できません。またイスラームに反することを言えば同意しません。私の能力を超える要求をしてきても反対します。このような場合、イスラームの学者に相談します。また私の母親が同居しているので、母親にも相談します。	妻の不必要な訪問を反対 イスラームに反する事を反対、能力以上の要求 夫婦で解決できない：イスラーム学者に聞く、同居の母に聞く	賛同できない時の対処
私にお金があるときに支援する。私が妻の親戚を手伝うこともある。何日か前に妻の父親が問題があり、目が見えなくなったので、病院に連れて行き薬を買った。そのお金も上げた	夫が妻の親戚を支援	夫→妻の両親・親戚への支援
私にお金があるときに自分の両親･親戚支援する	夫が自分の両親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の母に何か問題があれば財政的にもそれ以外でも手伝っている。	妻が夫の両親・親戚を支援	妻→夫の両親・親戚への支援
時々、妻にお金があれば。もちろん返金する。妻にお金があれば無償でもらったこともある。	夫は妻から現金を借りる 夫は後で返金 妻が無償でくれる事も	妻から現金を借りる
子どもを私立に入れたが、財政問題で公立にいれなおした。公立の学校はちゃんと教えていないし、マテリアルも教え方も悪い。私立のほうがいい。私たちは子ども達が良い教育を得られるように、学校を探している	子どもの教育を妻と話す：学校の選択	子どもの教育
土地も家屋も所有していない	所有無	所有無
自分の妻にはビジネスをして欲しいし、イスラームの教えでも奨励されている。妻がN5,000くらい毎月家に貢献してくれればいい。これ以下であれば、あまり問題の解決には役立たない。今は自分が学生をしているのでお金がない。妻が助けてくれるとうれしい。お金がないので子どもを私立から公立学校に入れた。妻が支援する方法はたくさんある。	夫は妻の経済活動を望む イスラームも女性の経済活動を奨励 妻に世帯に経済貢献してほしい 夫自身は学生でお金がない	妻の世帯への貢献
幸せなのは、（考えている）妻と良い関係を保てること。何も問題がなく平和を壊すようなことが起こらないこと。学校にいるとき、人から離れていて平和を感じる。5年後には、well-advance でありたい。教育を受け、収入が増えていて、全ての問題を解決していたい	幸せな生活： 妻と良い関係を持つ 教育を得る 収入が多い	自己関心
女性がビジネスをするのはとても大切だと思う。妻がビジネスをすれば夫の負担が減り、夫や両親を助けられる。もし妻が何もすることが	夫は女性の経済活動を肯定：夫の負担を減らす、親を助ける、女性自身の	経済活動をする女性への認識

なければ、そして子どもがいて親戚も助けられなければ、誰も助けてくれない。だから、私は女性にビジネスをするように進めたい。ビジネスをしていない女性の状況は良くない。何か欲しくても夫に頼むしかないが、夫はくれないかもしれない。妻は誰かに頼まないといけない。もし家族に何かあってもお金がないと助けられない。夫にお金がないと、親戚に何かあっても助けられない。	自立 経済活動のない女性は夫や他人に頼っている 人に頼まないといけない	
イスラームでは夫が世帯ニーズを担うようにと言われている。十分に供与できないなら結婚してはいけない。多くの夫はお金を持っている。両親や親戚が助けることもある	世帯ニーズを夫が担う イスラームの教えに夜 出来ないなら結婚しない	世帯ニーズの担い手
妻が多く稼ぐのはいいこと。だが正直なところ、またイスラームの教えでは、妻は夫よりも稼ぐべきではない。夫が家をコントロールしなければならない。もし夫が教育レベルが低ければ、妻がどうやってお金を稼いでいるか調べようとする。妻が夫を裏切るかもしれないので。妻が教育をきちんと受けていれば、お金を多く稼いでも自分の権利が何か分かり、夫に従い夫のアドバイスを得なければならないことが分かっているので問題ない。また夫が教育レベルが高いことも必要。	妻が多く稼いでも良い イスラームでは妻は夫より稼ぐのはよくない 夫が家をコントロール 夫妻とも教育があれば問題が起こらない 妻は夫に従うべき	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前は今より稼いでいなかったし、教育も知識もなかった。妻との関係も今のほうがよい	5年前より暮らしが良い 夫妻の関係も良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫29</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は、良い状況で生活すること、世帯に必要なものが全てあること</td><td>望ましい生活：世帯ニーズの充足</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">私はお金が充分にあるときに妻の両親と親戚を支援している</td><td>夫が妻の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私はお金が充分にあるときに両親と親戚を支援している</td><td>夫が自分の両親・親戚を支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいと言えば、妻に許可を与える。妻が結婚式で他の女性から話を聞いてきて、新しいアクセサリーが欲しいと言いだすので、頻繁には出席させない</td><td>妻の外出を許可する
妻の外出を制限する理由：他の女性の物を欲しがる</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻と子どもの学校について話し合う。子どもを学校に送る前に、良い学校を探している。私は子ども達に良い教育を与えたい</td><td>子どもの教育を妻と話し合う：学校の選択</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">土地も家屋も家畜も所有していない</td><td>土地・家屋・家畜所有無</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は、良い状況で生活すること、世</td><td>望ましい生活：世帯ニー</td><td>自己関心</td></tr>
</table>

帯に必要なものが全てあること。	ズ充足	

<table>
<tr><th>夫 30</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは子どもの教育や、躾をどうするか、いつも話しあう</td><td>夫妻の日常の話題：子どもの教育</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻は私が世帯にいくら使おうが気にしていない。食料に関しては、食材がなくなったときに、私は妻に何が必要なのか聞きます。</td><td>夫は妻が夫の収入用途に無関心と認識
夫は妻にニーズを聞く</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">2 人で意見が分かれる時、夫婦で解決できない問題は、私の年長者に知らせます</td><td>夫婦で解決できない場合
年長者に相談する</td><td>賛同できない時の対処</td></tr>
<tr><td colspan="2">お金が充分にあるときは彼らを支援する。私は妻の両親・親戚に食料やお金を上げます。</td><td>夫が妻の両親。親戚を支援：食料、お金</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">もし両親を支援したいときは、いつ、どのように支援するか誰にも尋ねる必要はない</td><td>夫が自分の両親を支援
自分で決める</td><td>夫→夫の両親の支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私の妻は私の両親・親戚に、妻がお金があるときは学費や他のもので助けています。</td><td>妻が夫の両親。親戚支援</td><td>妻→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいなら、許可して、交通費をあげます。もし重要なら許可するし、そうでなければ許可しない</td><td>妻の外出を許可する
交通費を上げる
重要なら許可する</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻からお金を借ります。月末になって給料が支払われていないときです。妻には返金します。私に十分にお金がないときは、妻は私に無償でくれます。</td><td>夫が妻から現金を借りる
月末に借りる
妻に後で返金
妻は無償でくれることも</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの教育は大事なので、妻と話し合います。
どう良い教育を子ども達に与えられるか話す。</td><td>子どもの教育を妻と話す</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">土地も家屋も家畜も所有していない。もし買うのであれば、そのときは誰からのアドバイスも受けずに、自分で決めて買う</td><td>土地・家屋・家畜の所有無。購入するなら自分で決める</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻がビジネスをしてくれることが彼女にとって大切だと思う。そうすればそのビジネスで家族を助けることが出来る。私は家族に必要なものを買っているし、家族のニーズにお金を与えています。妻にいくら世帯に入れて欲しいかは、神が彼女に与えたものであれば何でもハッピーです。妻が支払ってくれることは何でもハッピーで、何も彼女にいうことはありません。妻はいつも家族のために助けています。妻は夫ばかりでなく家族を助けるべきです。</td><td>夫は妻の経済活動を望む
妻が世帯を助けられるようになる</td><td>妻の世帯への貢献</td></tr>
<tr><td colspan="2">幸せなのは、メッカのモスクを訪問すること。望ましい生活は、両親と共に育ち、結婚して、両親と共に幸せに生活すること</td><td>幸せな生活：
礼拝、両親と幸せに生活</td><td>自己関心</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビジネスを女性がすることはとても重要で、私</td><td>女性の経済活動を肯定</td><td>経済活動をする女</td></tr>
</table>

は妻がビジネスをして、彼女自身をいつでも助けられるようになってほしい。ビジネスをしていない女性に対しては、夫にビジネスをする許可を与えるようアドバイスします。ビジネスをすることは大切です。	女性が自立できる 夫が妻の経済活動を許可すべき	性への認識
夫は世帯に必要なもの全てを与えることになっている。それが夫の責任。	世帯ニーズは夫が担う 夫の責任	世帯ニーズの担い手
私は男なので、妻が自分よりも稼いでいることはハッピーではない。嫉妬することはない。	妻の収入が上回るのはよくない	妻の収入が夫の収入を上回ること
今は 5 年前よりもずいぶんよい	今の暮らしが良い	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫 31</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻の意見を聞く。私たちの生活に関することや世帯のことについて話す</td><td>夫妻の日常の話題：世帯のこと、生活の事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私はできるときに妻の両親。親戚を支援する</td><td>夫が妻の両親・親戚支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は自分の両親･親戚の必要に合わせて支援している</td><td>夫が自分の両親・親戚を支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したければ、妻に許可を与えている</td><td>妻の外出を許可する</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻にお金を借りるが、何回借りているかは覚えていない。私のサラリーが遅れているときなどに特に借りる。私は返金します。時々、十分にお金があるときは、借りた額に足して、多めにあげます</td><td>夫は妻に現金を借りる
何度も借りている
夫は後で返金する
少し多めに返金する</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は私の家族と妻と子どもの教育について話し合う。何故なら私は自分の家族がよりよい教育を受けて欲しいので</td><td>子どもの教育を話す
よりよい教育を与えたい</td><td>子どもの教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は土地や家屋を買うときには、私の両親、兄、年長者や私の妻と話し合う</td><td>土地・家屋の購入は両親、兄、年長者、妻に相談</td><td>大きな買い物</td></tr>
<tr><td colspan="2">望ましい生活は、妻と平和に暮らすこと。妻と私の親戚、両親の間も平和であること。私は今の状況を楽しんでいる。</td><td>望む生活：平和に妻と暮らす</td><td>自己関心</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>夫 32</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは家庭のこと、食料や他の世帯ニーズをどうやって買うか話しあう</td><td>夫妻の日常の話題：食料。世帯ニーズの充足</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">毎月 N35,000 くらいを食料、服、医療費、教育につかっている。これが世帯ニーズ。食べ物は大目、メイズ、ミレット、スパゲッティなど</td><td>夫が世帯ニーズ供給</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が、どこか友人を訪問したいというが、私は不必要などんな訪問にも同意しない。昨日も妻が WDC に来るのを最初は許可しなかった。インストラクターに本当にインタビューがある</td><td>夫は妻の不必要な外出を許可しない
夫は妻の外出予定を疑う
夫が良いと思えば妻は外</td><td>賛同できない時の対処</td></tr>
</table>

のか確認して、本当なのが分かったので許可した。何か妻と意見が分かれ、2人で解決できない問題は、年上の親戚のところに行ってアドバイスをもらう。妻は時々、親戚のところへ問題を話しに行き、アドバイスをもらっている	出できる	
私は彼らが私の支援が必要なときに、妻の両親や親戚を助けている。例えば結婚式、命名式、セレモニー、サッラーの時などに。私は時々妻の親戚にお金を上げている。	夫が妻の両親・親戚支援 セレモニー、お祭りでお金をあげる	夫→妻の両親・親戚への支援
十分にお金があるときに自分の親戚支援している	夫が自分の親・親戚を支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚に時々石鹸をあげている。また私の母親に代わって洗濯をしている	妻が夫の親・親戚を支援 妻が夫の母の家事代行	妻→夫の両親・親戚への支援
妻が外出したいなら許可する。明日も妻がザリアに一人で親戚をたずねに行く。時々は一緒に行く。訪問が本当であるなら、いつでも許可する。もし妻が私に頼んだら、許可する	妻の外出を許可する 妻の外出の信ぴょう性	妻の外出について
妻からお金を借りることはあるし、もちろん返金する。無償でもらったことはない。妻は子どもにはお金を上げる。	夫が妻から現金を借りる 夫は返金 妻は無償でくれない	妻から現金を借りる
妻は私が畑に行くときは、朝早く起きてきて料理してくれる。水をすぐに用意してくれる	妻が夫の仕事を支援	妻が夫の仕事を支援
妻と一緒に、どうやって学費を払うか、どの本を子どもに買うか話す。妻と学費の払い方を話すと、妻は、親しい友人のところでお金を借りるようアドバイスする。お金が入ったら返金するからと借りたほうがいい。家族と一緒に、学校を訪問し学校のシステムを評価し話しあう。	妻と子どもの教育を話す：学費の支払い、学校の評価	子どもの教育
もし土地や家畜を買うなら、妻と子ども達と相談するだろう	土地・家畜の購入は妻と子どもに相談	大きな買い物
もちろん妻に世帯に貢献して欲しい。今は妻は何も貢献していない。1か月に妻がN3,000くらい世帯に入れてくれるとうれしい。妻は私がいないときに自分で野菜、油を買っている。	妻の経済的貢献を望む 妻は夫不在時に食料を買うお金を出している	妻の世帯への貢献
幸せなのは、家族と平和に暮らすこと。何も問題がないこと。お金が手元にあること。5年後には、妻にビジネスをしていて欲しい。自分が年をとってきたので。コミュニティが問題なくあってほしい。望ましい生活は、私は健康で家族や親戚と幸せに過ごしたい	幸せな生活： 何も問題がない お金がある 妻はビジネスをしている コミュニティに問題無 健康で暮らす	自己関心
いつも夫や両親を助けようとしている女性だと思う。女性がビジネスをしていないと、いつも夫が全てを持ってこないといけない。ビジネスをするのは女性にとっていいことで、夫や両	夫は経済活動のある女性を良しとする 夫が全てを担えない	経済活動をする女性への認識

親を助けられる		
世帯ニーズの充足は夫だけでは担えない。女性も助けたほうがいい。夫の負担は多すぎる	世帯ニーズは夫だけで担えない、妻も助けるべき	世帯ニーズの担い手
妻の収入が夫を上回ることは良くない。夫が全ての責任があるので	妻の収入が上回るべきでない	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前は強かったのでいろんなことが出来たが、今は年をとってきた。昔の方が良い	5年前の方が良かった	現在の生活状況

<table>
<tr><th>夫33</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは毎日の必要について話しあう</td><td>夫妻の日常の話：ニーズ</td><td>夫妻の話題</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は月にN20,000を世帯ニーズに使う。食料、医療、衣料、住居</td><td>夫が世帯ニーズを購入</td><td>夫の収入の用途・世帯ニーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻の両親・親戚が私の支援が必要で、私が十分にお金があるときに支援する</td><td>夫が妻の両親・親戚を支援</td><td>夫→妻の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">私にお金があるときに両親・親戚を支援します。</td><td>夫が自分の両親・親戚を支援</td><td>夫→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻は出来るだけ私の両親・親戚を支援する。</td><td>妻が夫の両親・親戚を支援</td><td>妻→夫の両親・親戚への支援</td></tr>
<tr><td colspan="2">妻が外出したいときは、私は妻に許可を与える。時々はお金を渡して助けてあげる</td><td>妻の外出を許可する
お金を渡す事もある</td><td>妻の外出</td></tr>
<tr><td colspan="2">はい。時々私は妻にお金を借ります。そして返金します。もし妻が、私にお金がないことを知れば、私にお金をギフトとしてくれ、または妻は家族のために食材を買います。毎月少なくともN1,000は借りる。借りた金額を返金する</td><td>夫が妻から現金を借りる
夫は後で返金する
妻は無償でくれる事も
妻は食材を買うことも</td><td>妻から現金を借りる</td></tr>
<tr><td colspan="2">私は妻にビジネスをして欲しい。彼女は助けている。妻の経済的貢献はいくらでも彼女が出来るだけでよい。</td><td>夫は妻の経済活動を望む
妻に経済的に貢献してほしい</td><td>妻の世帯への貢献</td></tr>
<tr><td colspan="2">幸せなのは、毎日、私は幸せだと感じている。５年後には、良い暮らしであって欲しい</td><td>幸せな生活：
よりよい暮らし</td><td>自己関心</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビジネスをしている女性はいいと思う。なぜなら、彼女たちは夫を助けているので。ビジネスをしていない女性はやってみるべきだ。そしてスキルを学び、自分と家族を助けるべき。女性はお金があるなら助けるべきだと思う。</td><td>夫は女性の経済活動を肯定：夫を助けている</td><td>経済活動をする女性への認識</td></tr>
<tr><td colspan="2">世帯ニーズを与えるのは夫の責任</td><td>世帯ニーズは夫の責任</td><td>世帯ニーズ担い手</td></tr>
<tr><td colspan="2">5年前に比べて生活はとても高くなった</td><td>5年前より物価が高い</td><td>現在の生活状況</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>夫34</th><th>夫の回答</th><th>定性的コーディング</th><th>コード集約</th></tr>
<tr><td colspan="2">私たちは、世帯のことや子どものことについて普段話しあう</td><td>夫妻で日常に話す事：世帯の事、子どもの事</td><td>夫妻の話題</td></tr>
</table>

実際の金額を伝えることは出来ないが、私は自分の収入を食料に費やしている。世帯ニーズとは食料、衣料、教育、医療、住居のこと	夫の収入は食料に費やす	夫の収入の用途・世帯ニーズ
夫婦で解決できない問題は、友達にアドバイスを求め、どうやって問題を解決するか聞く。私は仕事場で問題に面している。	夫妻で解決できない事：友人のアドバイス	賛同できない時の対処
もし妻が彼らを訪問するなら、そのときに妻にお金をもっていかせる。またラマダンやサッラーの時にも支援する。私は妻の親戚に何かニーズがあったり誰か病気になれば支援します。	夫が妻の親戚を支援 訪問時にお金 ニーズがある時に支援	夫→妻の両親・親戚への支援
私は毎月月末とラマダン、サッラーの時に自分の両親・親戚を支援している	夫が自分の両親・親戚を毎月支援	夫→夫の両親・親戚への支援
妻は私の親戚に何かニーズがあれば、例えば誰かが出産するときや私たちを訪問してきたときに支援します。	妻が夫の親戚を支援 ニーズがある時に	妻→夫の両親・親戚への支援
私は妻が外出したいといえば妻に許可を与えて、時々は交通費を上げます。妻がセレモニーに出席するときは妻に許可を与える。だが、それほど重要でない場所へは許可しない	妻が外出許可を頼む 夫は許可し交通費を渡す 重要でなければ許可しない	妻の外出
自分にお金がない時に、N100やN200を妻に借ります。妻に無償でお金をもらうことはありません。妻はビジネスをしていないので。	夫が妻に現金を借りる 妻は無償ではくれない	妻から現金を借りる
妻は私のビジネスに自分の友人を客として紹介して助けてくれます。	妻が夫のビジネスを支援：客を紹介	妻→夫のビジネス支援
子ども達がどのように質の高い教育を得て成功できるだろうかと妻と話し合う。私たちは子どもの教育について話し合い、どうやって質の良い教育を与えられるか話す	子どもの教育を妻と話す：学校選択	子どもの教育
土地や家屋、家畜を買うときには、両親、妻、友達と相談する	土地・家畜・家屋の購入は妻・両親に相談	大きな買い物
私は妻にビジネスをして欲しい。そうすれば彼女は私を助けて世帯に必要なものを手に入れられる。妻には彼女が出来るだけの金額を得て欲しい。今のところ私の妻はビジネスがないので世帯に経済貢献していない。	妻は世帯に貢献していないと夫は認識 夫は妻に経済活動をしてほしい	妻の世帯への貢献
幸せなのは、家で家族と一緒にいて、家族みんなが健康であるとき。5年後には、自分の生活が進んでいて欲しい。望ましい生活は、私は家族が幸せであり健康であることを望む	幸せな生活： 家族が健康で暮らす	自己関心
世帯ニーズを与えるのは夫の責任	世帯ニーズの担い手は夫	世帯ニーズ担い手
妻が夫よりも収入が多いことはいいことだ	妻が夫より収入が多くても良い	妻の収入が夫の収入を上回ること
5年前と比べて、今はとても成功している	5年前より暮らしは良い	現在の生活状況

添付資料 3　キーインフォーマントの調査記録

KI1-KI2

イスラミーヤについて	3 種類ある。 (1)Quranic school for children 女の子と男の子と別のセッション。昔からある古いシステムで、コーランの知識を学ぶ。コーランの読み方、書き方。屋外や部屋にゴザをひいただけのようなところ。一箇所に 100－300 人くらい集まる。5 年間。午前と午後と両方ある。 (2)Quranic school for adult male (1)を卒業したあとに 3－4 年間。コーランの解釈、イスラームの知識を学ぶ。 (3)modern way of quranic school　（イスラミーヤ） 　女性用と男性用とある。教室型で机、いす、黒板がある。90－100 年くらい前から導入された新しいシステム。英語、数学、アラビア語も学ぶ。若者も年配者も学べるが、違うセッションがある。コーラン、ハディースを学ぶ。コーランの解釈、結婚について、相続についてなど。また水の飲み方、食べ方、眠り方、立ち居振る舞い、挨拶の仕方など正しいマナーについても学ぶ。 (3)は制限なし。アラビックスクールは上記の(1)、(2)をさす。アラビア語の読み方、書き方。ハウサ語のアラビア語表記。どんな女性もイスラミーヤに通える。イスラミーヤは 5 年間だが、それ以上通うことも可能。ただ女性は 1 年半おきに子どもを生み、子どもの世話に忙しく時間がない。
女性の農業従事	年配の女性の中には農業をする人もいる。女性の責任は家事なので、力が要ること、戸外ですることは女性は携わらない。
食事	働いている男性は朝早く 7 時頃に出かけるので、朝食、昼食は外で食べる。朝早く夫が出かけない場合でも、朝食は周りから買うことが多い。マサ、モイモイ、クヌなど。朝は忙しいので作らない。お昼は、夫が家にいなければ妻はお昼を作らない。作る必要を感じない。通常、夕食のみ家で作る。夕食は夫も一緒に食べる。朝食が費用がかかる。
ギフト交換	友達、親戚、近所の人など、頻繁にギフト交換をする。子どもが産まれたとき、結婚、何かお祝い事があるときに、そのお祝いの気持ちを表すためにギフトをあげる。毎週くらい、なんらかのギフトの機会がある。サッラーのときも。男性の場合は、人の家を訪ねるより、外で人と会うので、外で食事を一緒にしたり、飲んだりするときに誰かが全部をおごるようなことがある。
女性の隔離	村落部では、多くの女性が家にいる。1 年半ごとに子どもが生まれるので子どもの世話で忙しい。昔は今のようにセレモニーの機会もあまりなく、親戚を訪ねるくらいしか出かける機会がなかった。今では、街では、多くの女性が kullen zuci を好む。
女性の経済活動が拡大しない理由	(1)経済的なもの。(2)女性は制限がある。伝統的、宗教的な制限のため、家にいることが期待される。
婚資について	娘の結婚のための Kayan Daki (部屋の中のもの）を揃えるのは夫がメイン。妻や親戚、友達も貢献することが期待される。これのために、ずっと貯金することはなく、それほどの負担ではない。

離婚について	離婚はよくある。経済的な問題。貧困のため、教育レベルの低さのため、何か小さなことで喧嘩になる。カノは人口が多く、いろいろなところから人がやってくる。違う文化を持つ人たちが知り合う。よく相手を理解せずに結婚し、相手の親戚・親とうまくいかないこともある。 女性が家のボスのように振舞うことは男性から好ましく思われない。家は男性に属しているので、女性が塗り替えたり修繕すること＝女性が所有しているように感じられ、夫が好まない。また他の妻が一緒に住んでいることもあるので、一人の妻が家の修繕をすることはない。お金を出すことはあるかもしれないが、通常、家の修繕はお金がすごくかかるので、女性が出せる金額ではない。
再婚について	女性にとっては再婚は簡単ではない。男性は若い女性の方を好む。また、一度離婚すると、人々は何があったのかと不審に思い、女性が忍耐がないのではないか、どんな問題があるのかと、疑う。男性にとっては再婚は難しくない。金銭的な問題だけ。
女性が収入を得る必要	たとえ夫が稼いでいても、女性は自分の収入が必要。自分の親戚を助ける必要がある。また、もしものときに備える。生活は保障されていないので、夫がお金がないときがあるかもしれないから。
夫が裕福な場合の妻の経済活動	自分の親戚を助けるために稼ぐ。また、リッチだとそれだけ責任が増える。お金があるのに周りの人を助けないとジェラシーを向けられる。親戚を助ける必要があり、リッチでもお金は更に必要になる。
男性の給与水準	勤めて 2－3 年の人のサラリーは、セカンダリー卒業で N8,000。Diploma（ポリテクニック、カレッジなど 2－3 年）で、N17,000。大学卒業で N20,000。州によって異なる。カノ州の場合地方自治体も州政府も給料体系は同じ。会社により違う。ゲザワの靴工場の場合、12 時間勤務で N17,000。仕事はハード。朝 7 時から夜 7 時まで勤務
教育費	公立の学校は小学校は男女ともに無料。セカンダリーは女子は無料。男子は 1 タームに N600

KI3

P 地区の状況	パンシェカラで生まれた。父親が転勤になりカノ市内に移った。結婚して夫と一緒にパンシェカラに戻ってきた。夫は公務員。パンシェカラは以前は小さな町で、男性しか住めないようなところだった。女性がいると何でも見られているような感じだった。今ではちゃんとした街になり、多くの活動が行われている。クリニックや病院がコミュニティ内にある。多くの女性は教育を求めるようになり、男性も、女性がビジネスすることを許可するようになって来た。
P 地区の過去 10 年間	以前は、夫は妻が外出することを許可していなかった。女の子は学校へ行かないで、わずかな女の子だけが学校へ行けた。女性が自由に外出することはなく、女性は家で、専業主婦としていた。女性はマーケットにも学校にも行っていなかった。そのため 6 年前に WDC を作ったときに大きな批判があった。女性が従わなくなる、家にいなくなり義務を果たさなくなるという批判だった。始めの頃は、自分が歩いていると人々が指を指して「あの女が WDC をしている、女性をそそのかしている」といわれた。

結婚・離婚・再婚	10年前くらいは9歳から11歳くらいで結婚してVVFの問題になっていた。今では18歳から20歳くらいで結婚している。既婚女性に隔離の慣習があるため学業を終えるまで結婚を控えようとしたり、婚姻契約で学業を終えることに同意させたりする。離婚は普通にある。ヒズバのコミュニティー（黒い服装の）は半分くらいは離婚している。責任感がなく、子どもが多すぎで、男子を好むため。無知である。再婚することは難しくない。以前は結婚後に夫の両親と一緒に住んでいたが、うまく暮らしていくのは難しく、これが離婚につながっていた。全ての行動が姑に見られてしまうので。今は別に住むことが多い。複数の妻がいる男性もいるが、そのような男性は心に平和を持てない。 P 地区の男性で家事を手伝っていると周囲から『妻をコントロールできない』と蔑視される。
女性の隔離	以前はもし外出するなら暗いうちに外出していた。今では、夫に聞く必要はあるが外出できる。
女性・家族が抱える問題	健康の問題、予防接種の問題がある。男性の中には子どもに予防接種をさせない人がいる。病院のお金を払いたがらない人もいる。政府の病院は無料だが薬は買わないといけない。私立の病院は、登録カードに N200, コンサルテーションにN200かかる。パンシェカラの女性が抱えている問題は、ビジネスの資金が足りないこと。スキルがあってもビジネスをする場がない。家が小さすぎる。外にお店があっても、そこに行けないので、お店が開けない。夫が許可しないので。家庭内暴力はあまりない。
女性の経済活動	女性は1ヶ月にN20,000からN30,000は必要。男性が全てを供給しているわけではない。女性は計画立てて収入を使っていて、食料や学費を出して助けている。またセレモニーや自分のビジネスにもお金を使う。
女性が収入を得る理由	夫の無理解･無知がある。子どもの学費がなくて、夫は子どもに、母親に頼むように言うなど。男性が稼いでいても女性も収入を得るべき。女性が得ているものは女性のものとなる。
女性が収入を得て夫の変化	妻が自分の収入があれば、夫は妻の意見を聞く。単に家にいて何もしていないと夫は妻の言うことを聞いてくれない。例えば家族の会議で、一番若い息子が遅れてきても、その息子がお金を稼いでいれば、みんな息子の到着を待つ。
夫の収入用途	食料、服、家賃、健康。
親戚支援	どのくらい女性がお金を得ているかによる。多くの両親は働いていないので、何も出来ない。毎月支援する人もいれば、月に2回くらいあげる人もいる。お金があるのに、親戚や知人から助けて欲しいと言われて断ることは難しい。
ギフト交換	セレモニーのときやサッラー、結婚式、命名式、また病人に対して、息子の割礼のときなど、出産があったときにギフトをあげる。どのくらいかは関係性による。どれくらい仲がよいか、近い間柄か。
WDC	WDCは6カ月間、毎日午前中に授業があり、入学の際に夫や父親などの許可を必要とする。

KI4

P 地区の状況	パンシェカラは 10 以上の地区に分かれています。私は結婚してパンシェカラに来ました。パンシェカラはマーケットが多く、人々は物を買いに来たり、売りに来たりします。人々は平和に暮らしていて農業や商売をしています。
P 地区の過去 10 年間	今は 10 年前の 3 倍くらいの人が住んでいます。発展しました。商業も、マーケットも農業もです。以前は WDC はありませんでした。女性の経済活動は 10 年前は今のように活発ではなく、多くの女性はお金がありませんでした。また女の子はほとんど学校に行かず、両親が出したがりませんでした。以前は入院の出来る病院が 1 つ、クリニックが 1 つしかありませんでしたが、今では 3 つくらい病院があります。今では女性の生活は楽になりました。
結婚・離婚・再婚	両親の中にはセカンダリー（15-16 歳）まで終わらせようとする人が多く、中にはディプロマ・大学まで（22-23 歳）望む人もいます。多くの両親は結婚させようとしますが、女の子は更なる教育を望みます。平均的な結婚年齢を過ぎても結婚へのプレッシャーはありません。離婚はそんなに普通ではありません。小さなミステーク、双方の誤解が原因です。再婚することは男性にとっても女性にとっても難しくありません。結婚して夫の両親や家族と暮らすことはよくあります。コンパウンドの中に新たに自分たちの家をたてます。男性も女性も、例えば偶然マーケットや買い物で誰かに出会ったり、親戚の間柄だったり、学校やオフィスで知り合う。夫が新しい妻を取ろうとすることが問題です。多くの女性はこれが嫌です。同じコンパウンドに住み台所を共有しなければなりません。家事は交代でするので協同ではしません。妻が複数いると、夫の持ってくるものが半分になります。
離婚の原因	(1)夫への従順さの欠如。(2)夫以外の男性との関係、 (3)　夫や夫の家族、親戚への尊敬の欠如
独身への認識	女性が独身でいても再婚は時間の問題だと捉えられる。悪いこととは見られない。離婚した女性、寡婦、独身の女性がいるが、どうせ直に結婚するので、時間の問題としかみられない。50 歳でも再婚する。大きな子どもがいても再婚する。自分が望んで独身でいない限り、結婚を望んでくる人はいくらでもいる。男性はすぐに再婚する
複数の妻帯について	パンシェカラの町では、複数の妻がいる男性は、とても重要な人々として見られる。何故なら、彼らは一人以上の妻をもっているので。もし平和に暮らしているならば、人々は彼を敬い尊厳をもってみる。
女性の隔離	kullen zuci のほうが普通です。人々はこの 2 つの言葉を知っています。夫がどちらを好むか、それに従います。妻は伝統に従って、他の男性に挨拶しない、話をしないなどを守ることが大切です。昔と比べて違いがあります。昔は多くの夫は外出を許可しなかった。両親を訪問するのを許可しない人もいて、朝 5 時に出かけて夜になって戻ってこないといけませんでした。見られないようにするためです。変化があるのは、今では人々は教育を受けていて、啓発されていて、妻や子どもを教育させたほうがいいと思うようになったことが影響していると思います。
女性・家族が抱える問題	家族の問題はそんなにありません。多くの家族は平和に暮らしています。夫にお金がなくても妻にお金があるので食料や健康の問題を解決しています。女性の抱えている問題はいろいろです。健康に関しては病気になるとビジネスが出来ないし、離婚や夫が死ぬと生活に困ります。子どもが 10 人くらい

	いて寡婦になると大変です。どうやって生活するか、親戚がいても親戚も全ては助けられないので困ります。離婚すると夫が子どもを引き取ります。赤ちゃんは妻が引き取りますが、3歳になると夫のほうへ連れて行かれます。家庭内暴力は起こりません。宗教で夫が妻を殴ることは禁止されています。そんなことがあれば、妻は逃げることが出来ます
女性の経済活動	90%くらいの女性が経済活動に携わっています。みな違った活動をしていて、調理食品を売ったり、グランドナッツオイル、マカロニを作ったり様々です。ニーズは家族の人数によって異なります。N10,000で1ヶ月もつ人もいれば10日間で使う人もいます。5人子どものいる世帯で女性は月にN15,000くらい必要です。夫が供給する食料以外の、トマトやオニオンにかかる費用です。多くの女性は自分や子どものニーズ、夫や親戚を助けるためにお金を使います。夫にお金がない時に薬や食料を買います。夫は返金しますが、夫にお金がなければ、女性達は夫に、返金しなくて言いといいます。多くの女性は家族のために3度の食事を料理することはなく、女性は自分の経済活動として調理をします。
女性が収入を得る理由	女性は親戚を助けようとします。また親戚が来て助けを求めます。娘の結婚式のようなときに、夫に頼まないで自分でギフトを買ってあげようとします。全てを夫が供給するわけではなく、友人へのギフトは夫の責任ではありません。また路上の困った人をお金があれば助けられます。また男性が十分に稼いでいても女性は自分で収入をえようとします。小さなビジネスから始めようとします。ただ、夫の中には妻のビジネスを許可しない人もいるので、その場合は妻は家にいるしかありません。
収入の多い女性への見方	社会の中で責任のある人と見られる。誰にも頼らず独立している。家族、親戚や困った人を助けるためにビジネスをしていると見られる。妻に多く稼いで欲しくない夫は少ない。妻が多く稼げばもっと家計や親戚を助けてくれると思われる。実際、多くの妻は夫がいくら持っているか知ろうとしない。夫に聞くことで喧嘩になることを避ける。夫も同様に知ろうとしない。多くの夫は妻のビジネスの開始を支援する。妻は夫を待たずに自分の収入で世帯ニーズを買える。ほとんどの夫は返金してくれる。ビジネスのない女性はただ待っているだけ
女性が収入を得て夫の変化	夫は妻が収入を持ってきても、変わらず供給します。妻が助けているのを知っているので、妻がニーズにお金を使うことで、夫がより服を妻や子どもに送ります。夫は言葉で妻に感謝します。
経済活動有/無しの妻の夫	ビジネスをしていない妻は夫に頼りきっていて、何でも供給してもらおうとする。マギーですら買えない。このような女性は夫が戻ってくるのを待つか、近所からお金を借りなければならない。ビジネスをしている女性は夫に頼らず、家にないものを買うことが出来る。夫の違いは、ビジネスのない女性はいつもリクエストし、文句を言うので、夫はそういう妻に疲れてしまい、喧嘩になる。そのため夫は平和に暮らせない。夫が教育があるなしは人による。教育を受けていても妻に働くことを許さない人もいれば、教育がないが妻にビジネスを許可する人もいる。教育のない人でも妻を理解する人もあれば、教育があってもダメな男性もいる。
男性の経済活動	パンシェカラでは、若者の間でビジネスが発展している。男性は通常、日用品や食品を売るビジネスをしている。もちろん男性も女性同様に Petty

	Trading をする。
夫の収入用途	家族のニーズ、親戚を助ける、友人へのギフト
世帯ニーズ供給について	世帯ニーズを十分に供給しない夫は無責任な男性と見られる。何故なら宗教は男性が家族を世話することを望むから。手段があるならニーズを供給すべきで、なくても何とかしなくてはいけない。夫が退職した後は、年長の息子が世帯ニーズの世話をする。
親戚支援	自分がたくさん持っていればたくさん挙げます。お金やニーズをあげます。両親に小さなニーズを上げます。お金のときもあります。親戚は広いので、よく知っている人には支援し、遠くにいてよく知らない親戚であれば、会うときだけです。毎週でも毎月でもお金があれば支援します。
ギフト交換	結婚式や命名式のときにギフト交換をします。親戚や友人、近所の人に上げます。自分がいくら持っているかによって違います。収入が多ければ、N1,000 くらい使います。例えば、ディナーセット（お皿、ボール、コップなどのセット）は N1,800 しますが、こういうものをあげます。でもお金がなければ N20-30 の箒でも構いません。
女子教育について	プログレスがある。女子教育の重要さについて人々が啓発された。教育を得るため。この世代から。10 年くらい前、女の子はほとんど学校に行かず、両親が出したがりませんでした。
P 地区の女性対象プロジェクト	良く覚えていないが、クンボッソでは何か活動があった。自分はゲザワからパンシェカラに 20 年前に来た。土日の週末クラスを小学校を借りて始め、そこから女性を集め啓発した。この活動を通して多くの女性が関心を持ち出した。そして小さなアソシエーションを作った。自分が編み機を持ち込み、みんなで貢献した。ある男性が関心を持ってくれ無料で家を提供してくれ、そこで女性センターの活動を開始できた。スキルの修得と識字を両方するようになった。自分は編み機しか知らなかったが、ビーズ手芸、鉤針編みを習い、コーランも同様に今では教えられる。各家を訪ねて、何が問題化を見ている。このコミュニティの人々は自分のことを知っているし、自分も彼らを知っている。生徒の家もわかる。何人を教えたのか覚えていない。
P 地区の女性の望む状況	ビジネスライフ。女性達の間に競争がある。自分がビジネスをしていて近所の人々がやっていないとジェラシーに繋がる。友人が WDC にいると自分も行きたがる。インストラクターはビジネスをしていない女性に WDC に来るように啓発している。夫が外出を許可しなくても家の中でできることはあると伝えている。一番人気があるビジネスは洋裁。ミシンはパンシェカラで N17,000 する。また塩、マギー、ぺペ、野菜を売るビジネスも人気がある。
妻に同意しやすい夫の特徴	責任感があり、相互の理解がある男性。いつでも妻と話し合う用意があり、考えを共有しようとする人。教育のない人でも妻を理解する人もあれば、教育があってもだめな男性もいるので、その人の性格による。経済力も関係ない。貧しい男性でも妻をサポートする人はいる。男性は子どもの世話を手伝うことはあっても、掃除や洗濯を手伝うことは珍しい。
夫と意見が異なる際の妻の対応	まず夫に問題を伝えて、問題を解決しようとする。それでだめであれば夫の両親に自分で伝える。それでもだめであれば離婚を要求する。イスラームでは妻からの離婚はない。自分の両親と夫の両親が話し合って、離婚を決める。裁判所に行くと記録が残るので、子どもにとって良くないと考え、これが嫌で裁判所に行かないこともある。子どもが 3 歳までは母親が引き取るが男の

	子は7歳になると父親側に引き取られる。女の子は母親と過ごせる。
女性がwell-beingを上げる戦略	教育をえることとビジネスをすること。またいつも家をきれいにし、料理を上手にし、夫を敬い、子どもの世話をよくし、夫に頼らないこと。これが夫を快適にし、妻のリクエストに許可を出すようになる。所得を得る年齢の息子がいることも女性の安定した生活に必要となる。女性の教育レベル、経済力、夫の両親と同居しないこと。夫の教育レベルは夫のものなので関係ない。父親がリッチでも娘が他にいるし、なくなればサポートも続かない。夫がリッチだと他の妻も持つし、子どもや親戚もいる。良い評判は、ほとんどの親戚が自分を良く思っても、何人かは嫌うかもしれないので、100%の評判は得られない。年齢差が少ないことは良いこともある。これ以外に、どのような場面でも忍耐強くあること、やさしく振舞い、ビジネスをするときもいつでもやさしくすること。これが女性が家でも親戚づきあいでもビジネスでも成功するために必要なこと。
Matsyai maceとは	もし妻が自分自身と自分の尊厳を守れるならビジネスを持つことが良い。出来ないならば、ビジネスを持たないほうが良い。

KI5

P地区の状況	平和なところです。水や電気は十分にあり、マーケット、学校もあります。生活を楽しめます
P地区の過去10年間	10年前は多くの売春婦がいました。シャリーアが導入されて、売春をしていた女性達は結婚し、今ではこの問題はなくなりました。10年前はイスラミーヤがあまりなく、WDCもなかったのですが、今ではイスラミーヤはたくさんあります。病院や私立学校もありませんでした。女性に関してはプログレスがあります。女性がスキルを学びビジネスを始めました。10年前の女性は草のうちわをつくるくらいで利益はなく、時間の無駄で、ただ座っているだけでビジネスをしていませんでした。10年前は女の子の教育は盛んではなくセカンダリーにいかず結婚していました。今では人々は子どもを大学でも行かせようとします。女子教育は、女子が自立できることが大事と人々の意識が変わり、公立・私立と多くの学校が出来ました。
結婚・離婚・再婚	平均的な結婚年齢は18歳から20歳くらいです。プレッシャーはありません。離婚はそれほど多くありません。離婚の原因は、女性がビジネスをしていなくてお金がなく、夫もお金がないとケンカになります。今ではビジネスをする女性が多くて、問題が減りました。再婚は難しくありません。結婚すると夫の両親のコンパウンドに新しい建物を建てます。これが普通です。別のところに家を建てるのは家賃が高いし、買うのはお金がかかります。また妻が夫の両親といることが望まれます。それは夫の母親の代わりに家事をすることが期待されるからです。夫の母親と一緒に住むことは多くの妻にとって問題です。もし夫が妻に何か買ってくれれば、同じことを母親が期待するからです。結婚相手の選定は、夫は、多くの場合両親を通じて、またはどこかで会って知り合います。そして男性は女性に関心を示し、女性が同意すれば、男性が求婚します。妻の場合は多くの場合、男性がその女性を見て、それから彼が自分の両親や友達を直接彼女の家に送って、求婚します。複数の妻がいることは、その妻子を養えることを意味し、責任ある人物として尊敬される。しかし、もし平和に暮らしているならば立派な人物。複数の妻がいて

	妻子を養えることを意味し、責任ある人物として尊敬される
離婚の原因	彼らは通常、夫の両親･親戚を敬わなかったり、頻繁に不必要な外出をしたり、夫の財産や食料を使い込んだりと言う理由です。
独身への認識	独身でいる人たちは、女性は通常サポートを得られます。特に寡婦の場合です。男性の場合は、あまりよく思われません。何故なら、男性は関心のある女性を知る手段があると考えられるからです
複数の妻帯について	彼らはとても敬われます。何故なら、彼らは多くの女性と子どもに責任を持ち、全ての世帯ニーズを供給するからです。
女性の隔離	いまでは zuci が普通です。以前は tsari のほうが普通でした。人々が教育を受けたので。ここ 10 年で男性の教育レベルが上がったのが原因です。
女性・家族が抱える問題	夫が新しい妻を取ろうとすることが問題です。多くの女性はこれが嫌です。ハウサ語で kishi といいます。同じコンパウンドにすんで、台所を共有しなければなりません。家事は交代でするので協同ではしません。妻が複数いると、夫の持ってくるものが半分になります。もし妻が夫を敬い、夫が嫌がることはせず、何でも同意し、家事をきちんとし、おいしい料理を作り掃除をきちんとし、子どもの面倒をちゃんとみれば、夫が新しい妻を得ることを阻止できるかもしれません。妻の収入があるかどうかは関係ありません。女性の問題として、何もすることがなく家で座って過ごすことは問題です。財政的な問題で、夫からの支援がなくてビジネスが出来ない問題です。家庭内暴力はそんなにありません。原因はレスペクトにかけるからです。夫は妻が敬うことを期待します。問題があれば友人、両親や年上の人が相談します。
女性の経済活動	とても多くの女性が経済活動に携わっています。70%くらいではないかと思います。洋裁が好まれるし利益があります。普通は洋裁をしている人は、他のビジネスもしています。女性は 1 ヶ月に N5,000 は必要です。女性は収入を自分や子どもの服、イスラミーヤの費用、塩やマギーなどの食材に充てています。女性は家で調理していることが多いですが、家族のための食事ではなく、経済活動としての料理をしています。
女性が収入を得る理由	女性はお金を得るのは、夫に収入があっても夫が不在のときや緊急のときに自分のお金を使うことが出来るようにです。子どもが病気で病院に連れていくのも自分のお金で出来ます。小さな食材や子どものお菓子や文具を買う必要があります。子どもは文具が欲しいときに夫ではなく妻に頼みます。多くの女性は夫に返金を求めません。妻の中には返金を求める人、夫の中には妻が言わなくても返金する人もいます。マギー1 個でも返金を求める妻もいます。夫が十分に稼いでいても、夫が家族ニーズを与えていても、いつも自分の親戚への支援があるし、全てのニーズを夫が出すわけではないので。でももし夫が妻の経済活動を許可しなければ何も出来ません。そういう夫もいます。妻の要望が聞き入れられるかどうかは夫の寛容さ・慈悲に依存する。
収入の多い女性への見方	社会の中でハイグレードと見られる。良い意味で。より稼いでいると、人に beg しなくていい。ビジネスをしているほうが、夫に対して要望が少ないので平和に暮らしている。結婚式に参列するときの服を自分のお金で買える。お金のない妻の場合は夫がお金を挙げたり、妻の親戚が助けたりする。結婚式のユニフォームは女性の発明。人よりいい服を着ているというジェラシーを避ける為にみんなで統一した。結婚式の服を買うのは夫の責任ではない。
女性が収入を	ある男性は態度を変える。妻がお金を家に入れることを知っているので、例

得て夫の変化	えばこれまでお米を 1 バッグ買っていたのに半量にするとか。妻が出すことを知っているので。でも多くの人はこんなことはなく、特に変わらない。
経済活動有/無しの妻の夫	沢山の違いがある。もし夫が家のニーズを与える手段が十分でなければ、女性は自分の収入を世帯ニーズに使うだろう。また彼女は夫をどこかで借金をさせることもないだろう。妻がビジネスをしている夫のほうが平和に暮らしている。ビジネスをしていない妻の夫はいつも、世帯のことを考えないといけない。あれを買わないと、これを買わないと、と。妻がビジネスをしていれば妻が助けてくれる。
男性の経済活動	この町の男性は、通常、会社で働いている。または Petty Trading で、日用品や野菜や服を売っている。農業もある。
夫の収入用途	食料、教育、健康、服、家の修繕、サッラーの費用
世帯ニーズ供給について	世帯ニーズを十分供給しない夫は尊敬されません。男性も女性も彼らの尊厳を敬わなくなります。男性が退職すればビジネスをしたり、妻や大きくなった息子も貢献する。
親戚支援	女性は両親を毎月支援しています。多くの女性はラマダンやサッラーのときにお金やものを上げます。その人がいくら持っているかで額は違います
ギフト交換	結婚式や命名式などのセレモニーでギフト交換を多くの女性がします。どれくらいその人が持っているかにより金額は違います。N500 の人もいれば、もっと小さなものをあげる人もいます。
女子教育について	私たちは女子教育という変化を得た。男性が学んでいる間に女性は取り残され苦しんでいた。両親は娘を学校へ送ります。何故なら両親は、娘には息子よりも教育が必要だと考えるからです。そして娘たちは将来は母親になり、自分たちの子どもの世話をし、躾をし、健康やほかの事の世話をする必要があるからです。女子教育は、女子が自立できることが大事と人々の意識が変わり、公立・私立と多くの学校が出来ました。
P 地区の女性の望む状況	ビジネスライフ。違う種類のビジネスをしたがる。WDC にこられない人で、インストラクターの家に習いに来る人もいる。女性は他の世界ではプログレスしている。ナイジェリアでも他の州では夫に頼っていない。夫を待っていない。友人や親戚を訪問するときに夫がお金をくれるのを待っていないで、自分のお金で出来る。女性の間では、いくつのビジネスを持つかで競争がある。洋裁が最も人気で、他の人よりもいいもの、デザインを競争している。デザインはテレビや新聞、男性が街に行ったときに新しいデザインを見つけてもらうなど。
妻に同意しやすい夫の特徴	教育のある男性。そういう男性は人の権利が何か分かっているので、妻の権利を知っている
夫と意見が異なる際の妻の対応	夫の親に話す。それでも夫が変わらず、自分が忍耐強くてもだめな場合は、離婚を求める。双方の両親が会って、娘を実家に戻すように要求する。もし、夫が変わることを了解すれば、そのまま。だが、だめな場合は、妻･夫双方の代弁者（waliyi)が書面を交わし、離婚したことになる。これは双方が合意した場合。この場合は女性が裁判所に持ち込むこともない。夫が同意しない場合にシャリーア裁判所へ行く。
女性が well-being を上げる戦略	お金。（笑い）お金があれば夫はレスペクトするし、妻の言うことに耳を傾ける。また親戚や近所の人も、その女性を依存していない、独立した人とみる。彼らはお金を借りにくる。ビジネスを始めたいので最初の資金を貸して

	くれと頼むこともある。いつまでに返金と書面で契約する。お金があると分かるのは、その外見から。新しい服、バッグ、シューズを持っていたり、家に行くと冷蔵庫があったり、いろいろ新しいものが増えている。また洋裁のビジネスであれば注文がたくさんあることが、途中の布地の多さで分かる。女性の教育レベルと強い経済力が必要。夫の教育レベルは夫のものなので関係ない。父親がリッチでも娘が他にもいるし、なくなった場合は財は分配されてしまう。夫がリッチでも次の妻をとるので関係ない。要望の多い妻であると、夫の両親･親戚に嫌われる。自分がお金と教育があれば夫の親戚に好かれる。年齢の差は、若い世代は年齢差のない結婚が増えていて、昔の世代よりも外の世界にさらされていて、お互いのことをわかりやすい。しかし年齢差が小さくてもうまくいくとは限らない。夫の両親の中には夫婦のプログレスに関心がない人もいる。しかし夫にプログレスがないと妻を非難する。また夫のお金が妻にいっているのではないかと思われる。夫の親戚･両親が妻を支援することもある。また妻が働く年齢の大きな息子を持っていることも女性に必要。
Matsyai mace とは	ビジネスをしている女性は夫、夫の親戚、彼女の親戚やコミュニティの人々から特別な尊敬を持って見られている。

KI6

P 地区の状況	パンシェカラはとてもよいところで、平和に過ごせます。マーケット、学校、病院、クリニックがあり、楽しめるところです。
P 地区の過去 10 年間	10 年前に比べて、今は発展しました。以前は WDC もなく、病院、学校も少なく、女性が活動できることが何もありませんでした。経済活動も盛んではありませんでした。スキルを学ぶこともなく、petty trading もそれほどさかんではありませんでした。犯罪は今も昔もほとんどありません。女性の状況はプログレスしました。女子教育は、女子が自立できることが大事と人々の意識が変わり、公立・私立と多くの学校が出来ました。クリニックや病院も多くなり出産は病院でします。
結婚・離婚・再婚	19 歳から 20 歳くらいが平均的です。両親がセカンダリーまでは終わらせようとするし、大学へ送ろうとする人もいるので、それまで結婚しません。プレッシャーはありません。離婚はそれほど多くはなく、離婚原因はお互いの理解のなさ、収入のなさが問題となります。再婚することは難しくありません。結婚すると夫の両親と同じコンパウンドに住みます。結婚相手は、男性は自分の妻として相応しい良い女性を探し、女性も夫に相応しい男性を探す
離婚の原因	家の中に平和が欠けていること、清潔さがないこと、子どもの面倒を良く見れていないこと、夫への尊敬にかけること、夫の規則に（rules& regulations) 従わないこと、それから、どんなに小さくてもビジネスを持っていないこと
独身への認識	独身の女性は普通、自分のビジネスに頼り、または両親が生きていれば彼らに頼る。独身の男性は、普通、レージーな男性と見られる。何故なら妻を維持できないので
複数の妻帯について	私にとっては、このような男性は心に平和を持つことはないだろう。病気だ。
女性の隔離	いまでは zuci が普通です。（この 2 つの言葉の違いは知っているよう）。以

	前はtsariが普通で、夫の中には病院にも妻が行くのを許可せず、出産も家でしていた。今は男性が教育されてきたので、変わってきた。それでも夫の中にはtsariを好む人もいる
女性・家族が抱える問題	家族に関する問題は、そんなにないと思う。ビジネスをする女性が多いので、問題を解決できていて、生活は今では楽になっています。女性が抱えている問題として、資金不足でビジネスを拡大できないことです。十分な資金がないので、お金を借りたり、材料をとりあえずもらって、お金が入ってから支払うようなことをしています。もし資金があればこういう支払い方をしなくてすみます。アダシで貯蓄をしていますが、自分の番がきてお金をもらっても、結婚式や何かセレモニーがあって、それにお金を使ってしまったり、家族のニーズに使ってしまうので、ビジネスの資金に回せません。家庭内暴力はありません。イスラームの教育があるので。以前は家庭内暴力は、いくらかありましたが、いまは教育のおかげでありません
女性の経済活動	とても多くの女性、80%くらいは何か経済活動をしていると思います。古くからあるビジネスは、グランドナッツオイル、ビーンズケーキ、コーサイ、マット織り、うちわ。今は洋裁、編物、刺繍、ビーズ、サンダル作り、生地を売ったり子ども服の販売が多いです。女性は1ヶ月にN5,000は必要です。女性は収入を子どものニーズに使います。文具やお菓子、自分の化粧品、ソープ、ポマードや塩、マギーなど小さな食材を買います。夫の中には返金する人もいますが、多くの妻は返金を求めません。女性は頼母子講で貯蓄をしていますが、自分の番に現金をもらっても、結婚式のギフトや家族のニーズに使ってしまうので、自分のビジネスの資金に回せません。
女性が収入を得る理由	もし妻がお金があれば、夫に頼まなくても自分や子どもの必要なものを買えます。夫が次の妻をとることを恐れていて、次の妻がお金を持っているかもしれないので、自分でお金を蓄えておきます。服や化粧品を買うことにも使います。夫が稼いでいても、妻は経済活動をします。
収入の多い女性への見方	そのような女性は独立していると思われる。（良い意味）まず、多すぎる妻からのリクエストがケンカをもたらします。妻が、あれが欲しい、これが欲しいということがケンカになります。もし女性がビジネスをしていれば、自分で買うことができます。自分の服や子どもの服や、夫に何かよさそうなものを見つけて買うことが出来ます。夫に頼らなくてすみます。ビジネスをしている女性のほうが平和に暮らしています。
女性が収入を得て夫の変化	変わりません。夫は妻の貢献に感謝します。返金はしない夫もいるし、妻が要らないということもあります。
経済活動有/無しの妻の夫	ビジネスをしている妻の夫は子どもの世話や妻の世話において、よくやっている。
男性の経済活動	パンシェカラの男性たちの多くが従事しているビジネスは、日用品の販売と農業。彼らは女性同様にPetty Tradingや仕立て屋、爪切りなどをしている。
夫の収入用途	食料、服、健康、教育です。夫のニーズとして、土地を買ったり、ビジネスを始めるお金、親戚への支援があります
世帯ニーズ供給について	世帯ニーズを供給しない男性はcarelessな夫であると、見られる。コミュニティーの人々は彼に尊敬を与えない。妻や成人した息子が彼の面倒を見る。ニーズも与える
親戚支援	親戚への支援もどのくらいその人が持っているかで違います。多く得ていれ

	ば多く与えます。石鹸、ポマード、服やお金を上げます。毎月あげるひともいれば 1 年に 1 回の人もいます
ギフト交換	セレモニーの時に、近所や友人、親戚にギフトをあげます。どのくらいかはその人が持っている金額によります。
女子教育について	物事は変わったのです。そのため両親は娘を学校に送るようになった。娘にも、より高い教育を与え、娘に社会の中で違う位置をもたせたい。今の世代からこの傾向はある。
P 地区の女性の望む状況	何か家の中ですることがあり、WDC に来てスキルを学んだり、ビジネスをすることです
妻に同意しやすい夫の特徴	夫と妻の間のお互いの理解が必要。お互いに理解しあっていれば、夫は妻がしていることを Positive に見ることが出来る。それから夫が妻を信頼することが必要。夫は妻やその友人を見て、よい友人を持っているか、またどんな服装をしているか、ハウサでよいとされる服装、慣習や宗教に沿った服装をしていれば、疑わない。お互いの理解が必要。夫が妻を信頼することが必要で、妻のすることに疑いを持たないこと。
夫と意見が異なる際の妻の対応	妻がハッピーでないときは、個人的には妻に何か問題があると思う。夫を好きで結婚したので、うまくやっていくべき。荷物をまとめて妻がでていくことはそんなにない。夫の親戚が好きでない場合は実家に帰ることもある。
女性が well-being を上げる戦略	平和に夫と暮らしていくこと。夫の指示に従い、家事･育児をきちんとこなすこと。女性の教育のレベルと、経済力が必要。夫の教育レベルは夫のものなので関係ない。父親がリッチであっても娘は 1 人とは限らず、また亡くなってしまうと支援してもらえない。夫がリッチでも同様。夫の収入をどう使うかは夫に権利がある。夫は他の妻を連れてくるかもしれない。夫の親戚からよい評判をもたれていても夫婦間には関係しない。年齢差も関係ない。差が小さくてもうまくいくとは限らない。夫の両親と同居しないことも関係ない。その他に、コミュニティの中に敵がいなくて、みんなが友達で好かれていること、人々の間の問題に何かアドバイスをして解決にいたり、その後に口を閉ざしておくことで、尊厳と誠実という評判を得る。尊厳（dignity:mutunci)は経済力より大事。これはお金では買えない。
Matsyai mace とは	ビジネスをしていて、夫を敬うこと

KI7

P 地区の状況	以前はパンシェカラは新しく来た人の町だった。会社や水道公社があるので、その人たちの住む場所だった。それが今では彼らが住み着き、マーケットや学校も出来、病院も出来、町になった。以前は病院が 1 つ、小学校が 1 つしかなかった。
P 地区の過去 10 年間	10 年前に比べて病院が増えました。以前は病院が十分でなくカノまで出かけていました。マーケットも同様に、カノまで出かけなくて住みます。銀行もあります。パンシェカラで大丈夫です。女性の状況は、以前は学校に行っていなくてイスラミーヤも行っていませんでした。だんだん女性が学び、スキルを得て、イスラミーヤに通うようになりました。女子教育は盛んでなかったが、今ではセカンダリーまで行かせるようになりました。

結婚・離婚・再婚	18歳から19歳くらい。プレッシャーはないです。離婚は以前は多かったが今ではそんなにありません。離婚の原因は財政的な問題で、ビジネスをしていないと、いつも妻が夫にお金を頼むことがあります。再婚は男女とも難しくありません。結婚すると夫の両親と住むことが以前は普通だったが、今ではそんなにありません。自分たちの家を借りたり、買ったりします。結婚相手の選定は、コミュニティの中で、またはオフィスで働く場合はオフィスで、または親戚の娘のなかから。妻の場合も同様です。妻の場合は多くの場合、男性がその女性を見て、それから彼が自分の両親や友達を直接彼女の家に送って、求婚します。
離婚の原因	妻に忍耐のなさとビジネスがないこと
独身への認識	女性の場合はパンシェカラの人々から支援をもらえる。男性の場合は良くない男性と見られる
複数の妻帯について	複数の妻がいるのは、良い男性とみられる。
女性の隔離	zuciが普通です。変化がありました。大きな違いがあります。以前は学校にも行かず、家の中に女性はいました。今では外に出れます。政府やイスラームの学者による mass enlightment のプログラムで、メディア、テレビ、ラジオ、ドラマなどを使って、男性に女性を外に出すようにという啓発があって、10年位前に始まり、今でもあります。
女性・家族が抱える問題	家族に関する問題は、男性が女性が外出するのを許可しないことがあることです。女性が抱える問題として、資金不足があります。N10,000からn20,000あればビジネスを拡大できます。多くの女性のビジネスは小さい規模で、拡大したくても、利益をすぐに毎日のニーズに使ってしまい貯金できません。マイクロクレジットは以前、WDCにきて、WDCの生徒以外の女性を集めてやったが、女性の中に支払わない人が出てきて問題となり、銀行は来なくなってしまった。家庭内暴力はありません。
女性の経済活動	70％くらいの女性が経済活動をしていると思います。女性は1ヶ月にN10,000くらい必要で、家事をするのにはこのくらいかかります。収入は子どものニーズ、服、食材に充てています
女性が収入を得る理由	妻が自分の収入があれが生活は良くなる。もし夫が7%だすなら妻が3%だす、夫が5%だすなら妻が5%出す、というように、分け合うことが出来る。男性が稼いでいても、女性がビジネスをしていればお金を貯蓄できる
収入の多い女性への見方	いろいろな方法でこのような女性は人を助けている。家族親戚、夫、そして毎日の必要を助けている。とてもよく尊敬される。誰にも頼らずに、夫や子どもを助けることが出来る。そういう女性は夫に頼らなくてすむ。ビジネスのない女性は夫や親戚に頼っている。
女性が収入を得て夫の変化	女性が収入を得ても夫に変化はありません。（夫が世帯ニーズを支出しなくなるという変化はない）
経済活動有/無しの妻の夫	違いがある。妻がビジネスをしていると夫は平和でいられる。もし夫がニーズが出せなくても、夫は妻が買ってくれることを知っている。妻がビジネスがないと、夫はお金を借りてこないといけない。いつも手段を探さないといけない。教育を受けている夫のほうが何が起こっているか知っているし女性のビジネスをサポートもする。
男性の経済活	男性のビジネスは、日用品を売るビジネス。男性もPetty Tradingをする。

動	
夫の収入用途	食料、教育、健康、服がほとんど
世帯ニーズ供給について	夫が世帯ニーズを供給しないことは良くない。夫の退職後は、夫と妻が出します。
親戚支援	親戚への支援額はひとそれぞれで、毎月支援する人が多いです。食料、ソープ、ポマード、お金をあげます。
ギフト交換	セレモニーやサッラーのときに、食料やお金を交換します。近所、友人、親戚に対してで、いくらくらいかは人によります
女子教育について	女子教育に関して変化があった。何故なら、女性が達成すべき余地はまだたくさんある。多くの女性が教育を受け、私たちを助けている。 変化とプログレスがあったので。10 年位前から変化があった。
P 地区の女性の望む状況	ビジネスをすること。ビジネスがあれば何かあっても自分のお金で何とかできる。ただ家に座っているだけだと、あれがない、これがない、どうしよう、誰に頼ろうとパニックになる。洋裁が一番人気があり競争がある。競争があることで、クリエイティブになり、いろんなデザインを勉強する。客はカノの町や他の村から知り合いが連れてくる。カノでは N2,000 くらいの縫い賃がかかるが、ここでは N300 くらい。また村では洋裁を出来る人がいない。自分のため、娘に良い服を作り、セレモニーで着ていく。そうすることで、他の人が、どこで作ったのか聞いてくる。そうして客を得ることが出来る。
妻に同意しやすい夫の特徴	尊敬でき、教育を受けている男性。もし妻の意見を拒否するときも、こうこうこうすべきでないなど理由を伝える。
夫と意見が異なる際の妻の対応	夫と一緒に座って話し合う。私は何々がいや、こうして欲しいと伝える。夫が変わるのであればよい。変わらないのであれば夫の両親や兄弟のところへ行く。両方の親･親戚が集まって議論し、妻と夫当人を呼んで、どうなっているのか聞く。離婚はそんなに頻繁ではない。15 年位前までは、女性がビジネスをしていなくて夫に頼り、離婚が多かった。今では女性がビジネスをすることでケンカが減った。
女性が well-being を上げる戦略	夫を敬い、従うこと。きちんとした服装をし、家事、料理をきちんとし、夫が嫌いなことを避けること。家をきれいにしておくこと。女性の教育レベル、夫がリッチであること、女性の経済力、年齢差が少ないこと、夫の両親と同居しないことは必要。夫の教育レベルは関係ない。父親には娘が他にいるし、いつも頼ると父親が疲れていく。夫がリッチだとビジネスがうまくいかない時に助けてくれる可能性がある。親戚からの評判は、これがなくても夫が助けてくれるならば問題ない。また親戚の全員が自分をサポートするとは限らない。中には自分を嫌う人も出てくる。親戚からの評判が良いものでなくても、夫が助けてくれるなら問題ない。年齢差は少ないほうが良い。これ以外にも、コミュニティの中で他の人々と平和に暮らすことが必要。常に敬うことで、何かあれば助けてくれる。
Matsyai mace に必要な事	ビジネスをすること。

KI8

P 地区の状況	パンシェカラは平和なところで犯罪もほとんどない。マーケット、病院、学校、女の子の学校、女性センター、イスラミーヤと毎日の活動がある。
P 地区の過去 10 年間	10 年前は十分に学校がなく、女性がスキルを学ぶ場もなく、女性の経済活動も少なかった。病院も 1 つしかなかった。人口も少なかった。今では人々は土地を買い家を建てている。大多数はハウサで、ヨルバ、フラニ、ジョスの人たち、カドゥナ、ザリア、ソコト、ザンファラ、カツイナの人々も住んでいる。文化は混ざっていなく、それぞれ別に住み、セレモニーなど自分たちの文化に従ってやっている。女性の状況は、10 年前は経済活動がなくスキルも学べず、夫に頼っていた。人々は女子を学校に出したがらず、プライマリーで終わるか、セカンダリーもドロップアウトして乾坤させていた。今では大学までいかせようとする。健康に関しては、以前は女性が妊娠するとメディカルチェックに行かず、伝統的な薬に頼り、問題が起こっていた。死んでしまうこともあった。今ではみな教育を受けて病院に行き検診するようになり、出産も病院でするようになった。
結婚・離婚・再婚	結婚の適齢期は 15 歳から 18 歳くらいです。プレッシャーはありません。男性は結婚適齢の人と結婚したがるので、女性は結婚適齢期で結婚しようとします。離婚は多くありません。相互の不理解や忍耐のなさが原因です。再婚は難しくありません。離婚の原因が夫がきちんと供給しないことや妻が夫の親とうまくいかなかった場合はその相手と再婚はしたがりません。結婚すると夫の両親と一緒に住むのが普通です。結婚相手の選定は、多くの場合、男性は女性の両親の許可を得て、それから娘とデートをはじめる。または男性は女性の家に直接行き、彼女と話し、お互いに理解しあうようになる。女性の側は、普通は彼女の親戚や家族の友達を通す。
離婚の原因	妻に従順さに欠け、レスペクトにかけ、また不必要な外出があること。
独身への認識	独身でいる女性は社会においてあまりよく思われない。何故ならどんな宗教においても結婚はとても重要な institution だから。男性も女性と同様です。妻がいないで暮らすことはその男性の尊厳を減らし、社会の中で男性としての地位を傷つける。
複数の妻帯について	複数の妻がいる事については、正直なところ、多くの人がこの問題に遭遇している。ほんの一握りがラッキーなだけである。そして問題はほとんどの場合、きちんとした世話が出来ていないことに関係する
女性の隔離	zuci が多いです。Tsari は今ではほとんど見ません。ここ 10 年で、すごく変わりました。大きな変化です。夫は妻をスキルや学校に活かせるようになり、外で働くことを許可する人もいます。以前はスキルやイスラミーヤもだめでした。妻がスキルを得てビジネスをすることが出来るので、これを期待しています。
女性・家族が抱える問題	家族に関する問題は経済的なこと、収入が足りないことです。夫が十分に収入がなく妻もビジネスがないと問題が起きます。夫が妻のニーズを満たせません。女性が抱える問題は、収入に基づくものが多いです。夫がきちんと供給しなく自分の収入もないと問題です。ビジネスをしていても資金が足りません。家庭内暴力はあまり多くありません。夫の中には habit として対して重要でないのに殴る人もいます。妻が従わないことが原因です。
女性の経済活	80%くらいの女性が色々な活動をしている。女性は 1 ヶ月に N15,000 から

動	N20,000 あれば安心だと思う。多くの女性は子どものニーズである本や文具、子どもを病院に連れて行く費用が必要。夫が月末になるとお金がないので、それを妻が助ける必要がある。
女性が収入を得る理由	多くの女性は自分を助け家族を助けるために収入を得ようとする。夫に 3－4 人の妻がいると夫の収入では足らなくなる。自分で収入があれば自分と子どものニーズ、親戚のニーズも助けることが出来る。夫が稼いでいても、女性は収入を得ようとする。夫がちゃんと供給するなら妻は自分のお金を貯蓄することが出来る。
収入の多い女性への見方	いろいろな方法でこのような女性は人を助けている。家族親戚、夫、そして毎日の必要を助けている。より平和に暮らしている。夫にいろいろ要望をしても、妻は自分のお金があるので夫や親戚に頼る必要がない。夫がお金をくれなくても自分で買える。夫がお金をくれるならそれは足される。外出に関してはお金があっても自分では決めれず、夫の許可が要る。
女性が収入を得て夫の変化	違いがある。女性が変われば男性も変わります。夫の中には今まで十分に食料を持ってきたが、妻が助けるために量を減らして、1 か月分でなく 15 日分だけ持ってきて、妻がどうせお金を持っているから、という人もいます。多くの夫は変わらずに供給します。
経済活動有/無しの妻の夫	多くの違いがある。妻が出席したい結婚式や命名式のときに服を買うことについて、他の小さな小さな事で、毎日の必要について、また家の中で世帯ニーズや子どもの教育に費用とかを巡ってケンカになる機会を減らすことが出来る。妻がビジネスをする夫はより平和。もしお金がなくても妻が出してくれることが分かっているし、あとで妻には返金すればいいから。妻がビジネスをしていない場合は、いつもどうやって手段を得るか苦しまなければいけないので、平和でない。
男性の経済活動	男性のビジネスは、リチャージカードを売る、仕立て屋、銀行。コーラナッツ、マンゴー、グァバを売ったりします。
夫の収入用途	家族のニーズ（食料、服、健康、教育）夫の中には自分の好きなことに使う人もいる。家族のニーズをもたらさない人もいる
世帯ニーズ供給について	世帯ニーズを供給しない夫は、夫が家をコントロールするパワーを失うことを意味し、家の中で平和がなくなり、いつもけんかになる。そのうち、家族の終わりが来ることが予想される。夫が退職した後の世帯ニーズは、多くの場合、年長の息子が父親に責任を持ちます。また息子がいない場合は母親が世話します。
親戚支援	ほとんどの女性は多くのお金を親や親戚の支援に使います。食料、服、ソープ、ポマードやお金を上げます。親が病気であれば病院に連れて行きます。
ギフト交換	サッラーのときに服を親戚に縫います。またお金を上げます。ラマダンの時には親戚に砂糖やお茶を上げます。セレモニーでは親戚、友人、近所の人にお金をギフトとしてあげます。また誰かが病気であれば、その人が必要なもの、たとえば果物を持っていきます
女子教育について	まず第一に貧困です。父親が多く得ていないのに息子一人に娘が 5 人と言うような家もある。だから彼らは娘をより高い教育に送って、将来両親の面倒を見て欲しいと願っている。このような変化は 15 年前くらいから起こった。人々は女子を学校に出したがらず、小学校で終わるか、中高等学校も中途退学で結婚させていた。今では大学まで行かせようとする。

妻に同意しやすい夫の特徴	良い夫で、いつも妻の言うことに耳を傾け、何でも妻と話したがる人。時間をとって妻の言いたいことを聞き、それをポジティブに捉える。教育のある男性のほうが理解してくれやすい。教育のある男性の方が子どもを良い学校に送ろうとし、妻が WDC へ行くことも許可している。お金のある男性はいい人も悪い人もいる。教育があってお金のない男性は、どうやって世帯を管理すればよいか、予算をどう立てればよいか分かっている。しかし教育がないとお金の使い方が分かっていない。
夫と意見が異なる際の妻の対応	夫に問題があっても、通常は妻の側からは言わない。妻の親戚が気付いて、家に来て夫の両親に言う。妻は実家に帰ることもある。YAJI と呼ばれる。まだ離婚はしていないが、話し合いが必要な段階。男性が十分に供給していなかったり、文句が多かったり、妻の努力を評価しなかったり、いつも怒鳴っていることで喧嘩になる。赤ちゃんが泣いていても平気で怒鳴る人もいる。男性の中には近所の人にはフレンドリーでも家の中では違う人もいる。
女性が well-being を上げる戦略	ビジネスをしていること。利益をどう使っていくか、通常家のためと自分のために分ける。今、パンシェカラでは女性達が土地を買うためにお金を貯め、これを競争している。N100,000、N120,000, N150,000 くらいの土地を買う。貸家に住んでいて夫が買えないので、少しずつ土地を買って、そのうち家を建てようとする。または、貸家をつくって人に貸す。土地は政府から買う場合は書類を記入し登録する。地元で買う場合はディストリクトヘッドのところへ行く。だいたい兄や息子が代弁する。夫ではない。夫は妻がお金があると思って供給するのを減らしてしまう可能性がある。土地を買っている女性達は夫に知らせていないし、夫も分からない。自分自身は N250,000 の土地を買った。アダシでお金を貯める。もし N5,000 の利益があったら、女性は N2,000 をとっておき、これには手をつけない。残りは N2,000 を世帯のニーズ用に夫にあげる。残りの N1,000 は自分で持っていて、このことは夫に言わない。子どもが何か必要なときに使う。多くの夫は女性が出かけることを嫌がるので、外出の許可に NO といわれることを避けるために、女性は夫にお金を渡す。賄賂のようなもの。夫の中には返金しない人も多い。夫に返金を求めることで喧嘩になることを恐れて、女性も言い出さないこともある。女性の教育レベル、親戚からの良い評判、強い経済力、夫の親と同居しないこと、が必要。夫の教育レベルは、教育のある男性のほうが子どもを良い学校に送ろうとすることがある。妻も同様。夫が教育があれば WDC により妻を送っている。年齢差が小さいほうが、考えを共有できる。話し合いが自由に出来る。夫の親と離れて暮らすことで、女性は望みがかないやすい。何故なら彼らが妻が何をしているか知らないし、夫が妻にお金を使っても分からない。また、両親、兄、息子が女性を助けることができる。他の州に旅行して、他のビジネスを見つけると教えてくれる。
Matsyai mace に必要な事	ビジネスをすること。何故なら、女性にとって夫に完全に頼ることは良くない。自分のニーズの世話は自分でしたほうが言い。そして彼女は家族や友人の間で、より尊敬されるようになる

KI9

P 地区の状況	平和なところで、沢山のマーケットがあります。学校や病院も公立、私立ともあります。何の問題もありません。犯罪もほとんどありません。以前はイスラム教徒とキリスト教徒の衝突がありましたが、今は解決されています
P 地区の過去 10 年間	10 年前はそんなに発展していませんでした。でも以前も問題は少なかったです。女性の状況は以前は WDC もなく、学校やスキルを学ぶ場もほとんどありませんでした。今は WDC があります。WDC にこれなくても、友達からスキルをまなぶことができます。以前はビジネスはあまりなく、グランドナッツオイルやマットを作るくらいでした。今では新しいもの、洋裁や編物があります。以前は女子を高等教育におくらなかったのが、今では大学も出そうとしています。大学はカノまでいかないとありません。クンボッツォにはカレッジがあり、WUDIL に州の大学があります。パンシェカラはセカンダリーまでしかありません。健康に関しては今は問題ありません。以前は夫の中には妻を外出させないので病院に行けず、出産を自宅でする人もいました。
結婚・離婚・再婚	17 歳から 20 歳くらいです。プレッシャーはありません。結婚は、男の子が好きな女の子ができると自分の父親に結婚したいと話します。それから男の子の両親が女の子の両親に会います。女の子の両親は自分の娘に確認して、それから合意できるか話し合います。男の子の両親が女の子の家にギフトを送ります。これは Toshi と呼ばれます。Bridewealth(Sadaki)とは別です。Bridewealth を何にするか話します。そして Lefe というギフトも渡します。Toshi と Lefe は伝統的なギフトです。それから女の子の親が男の子の両親にギフトを上げます。男の服や靴、パフュームなどをあげます。これは Gara と呼ばれます。米、メイズ、オイルなど食料を上げます。それから生地を 1 着分男の子の母親に、服生地を父親にあげます。離婚はあまりありません。双方の誤解によるものです。再婚は難しくなく、ただお互いの不理解や家族、両親が同意しないと難しいです。結婚後は伝統的に夫の両親と一緒に住みます。別に住む人もいます。
女性の隔離	Zuci が普通です。以前は男性はよく教育を受けていなかったのですが、今では Mass Enlightment で男性は女性をイスラミーヤや WDC に通わせるようになりました。
女性・家族が抱える問題	家族の問題は月末にサラリーが入る前に収入がなくなり、その月の残りを食べるものを確保することです。女性が抱える問題として夫の両親との問題があります。例えば夫の両親が結婚させようと思っていた女の子と結婚せず、他の女の子と結婚すると、両親はこの女の子が嫌なので、妻と両親がうまくいきません。夫の中には仲裁に入る人もいれば、結局離婚する人もいます。離婚になると双方の両親の問題となります。それから収入が足りないという問題もあります。家庭内暴力はほとんどありません。時々、不理解によりおこります。相手に忍耐を持てないと夫が妻を。殴ることがあります。また夫の中にはドラッグを使用している人もいます。
女性の経済活動	80％くらいの女性が何か活動をしています。洋裁、編物、ポマードつくり、ラパを売ったり、オイルを売る、ビーンズケーキを作ったり、食材を売ったりしています。1 ヶ月に N10,000 は必要です。食料は夫が買うのですが、このくらいの金額は色々なことに必要です。セレモニーの時にお金が必要で

	す。また子どものニーズである健康に関すること、食べ物、本、服を夫が不在のときに出すので。兄や息子が代弁して、女性達はお金が溜まると土地を買うことが流行っている。夫ではない。夫は妻にお金があると思って供給するのを減らしてしまう可能性がある。土地を買っている女性達は夫に知らせていないし、夫も分からない。
女性が収入を得る理由	男性の責任ですが、全ての夫が余裕があるわけではありません。全てのニーズを与えることが出来るわけではないので、妻が助ける必要があります。妻は世帯ニーズを得るために、収入が必要です。夫の中には返金する人もしない人もいます。夫が稼いでいても多くの女性は収入を得ようとします。女性の中には夫がリッチであれば収入を得ようとしない人もいます
女性が収入を得て夫の変化	夫の中には変わる人もいて、妻に、お金がないといって、自分のお金を世帯ニーズに使わない人もいます。よい変化としては妻が収入があっても供給し、妻は貯金をすることが出来ます。
夫の収入用途	食料、服、子どもの教育、健康
親戚支援	多くの女性は収入があればいつでも両親を助けます。もし親がリッチであってもN200をあげても喜ばれます。
ギフト交換	セレモニーのときとサッラーのときです。自分や夫の親戚、近所や友人にあげます。稼いでいる人は多く渡します。どれくらいお金があるか、相手との関係性によります。ギフト交換は必ず必要です。私の場合は親戚の結婚式はN5,000くらい、近所や友人に対してはN1,000くらいで生地をギフトにしたり台所用品をあげます。一般にはN200, N500, N1,000くらいです。親戚の結婚式であれば事前にいつ頃かわかるので、それに向かって貯金します。